2019年度

シ ラ バ ス

経済学部

立 教 大 学

作成日:2019 年 09 月 03 日

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学1 (Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会経済学		
担当者名 (Instructor)	森本　壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX001　経済学科　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of socioeconomics to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。この講義をつうじて経済学の古典の学び方や現代の経済問題に接近する糸口をつかむことができます。

This lecture covers the fundamentals of socioeconomics. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of socioeconomics, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of socioeconomics, such as why labor becomes a commodity, what capital is, and how a surplus is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using socioeconomics. This lecture shows the classical approach to studying economics and provides clues to addressing modern economic issues.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 社会経済学の源流①
3. 社会経済学の源流②
4. 社会経済学の源流③
5. 社会経済学の源流④
6. 社会経済学の基礎概念①
7. 社会経済学の基礎概念②
8. 社会経済学の基礎概念③
9. 社会経済学の基礎概念④
10. 社会経済学と現代経済①
11. 社会経済学と現代経済②
12. 社会経済学と現代経済③
13. 社会経済学と現代経済④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

1. 中谷俊博、2012 年、『やさしい経済学史』、日本経済評論社
2. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、筑摩書房

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学2 (Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学・マクロ経済学入門		
担当者名 (Instructor)	関口　智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX002　経済学科　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ

Learn the basics of microeconomics and macroeconomics.

授業の内容(Course Contents)

日本経済のさまざまなトピックスを取り上げる中で、ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ。その際、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な概念や枠組みを網羅しつつ、現実の日本経済が抱える様々な課題も合わせて解説する。

Various Japanese economic topics are looked at while studying the basics of microeconomics and macroeconomics. During this time the fundamental concepts and frameworks for microeconomics and macroeconomics will be covered and then expounded on by looking at the various issues facing the actual Japanese economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(1)
3. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(2)
4. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(3)
5. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(4)
6. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(1)
7. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(2)
8. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(3)
9. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(4)
10. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(1)
11. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(2)
12. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(3)
13. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業予定の内容を事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

【2019 年 8 月 27 日シラバス変更】変更理由:テキスト変更(版元品切れ)のため
(変更前の記載事項)　テキストを事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(出席)(20%)

テキスト(Textbooks)

【2019 年 8 月 5 日シラバス変更】変更理由:版元品切れのため
(変更前の記載事項)　日経ビジネス編　日本経済入門　日経 BP 社　2014　978-4-8222-7798-7

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学1 (Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会経済学		
担当者名 (Instructor)	佐藤　有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX003　経済学科　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of socioeconomics to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。この講義をつうじて経済学の古典の学び方や現代の経済問題に接近する糸口をつかむことができます。

This lecture covers the fundamentals of socioeconomics. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of socioeconomics, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of socioeconomics, such as why labor becomes a commodity, what capital is, and how a surplus is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using socioeconomics. This lecture shows the classical approach to studying economics and provides clues to addressing modern economic issues.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 社会経済学の源流①
3. 社会経済学の源流②
4. 社会経済学の源流③
5. 社会経済学の源流④
6. 社会経済学の基礎概念①
7. 社会経済学の基礎概念②
8. 社会経済学の基礎概念③
9. 社会経済学の基礎概念④
10. 社会経済学と現代経済①
11. 社会経済学と現代経済②
12. 社会経済学と現代経済③
13. 社会経済学と現代経済④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

1. 中谷俊博、2012 年、『やさしい経済学史』、日本経済評論社
2. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、筑摩書房

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学2 (Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学・マクロ経済学入門		
担当者名 (Instructor)	藤原　新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX004　経済学科　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ

Learn the basics of microeconomics and macroeconomics.

授業の内容(Course Contents)

日本経済のさまざまなトピックスを取り上げる中で、ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ。その際、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な概念や枠組みを網羅しつつ、現実の日本経済が抱える様々な課題も合わせて解説する。

Various Japanese economic topics are looked at while studying the basics of microeconomics and macroeconomics. During this time the fundamental concepts and frameworks for microeconomics and macroeconomics will be covered and then expounded on by looking at the various issues facing the actual Japanese economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(1)
3. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(2)
4. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(3)
5. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(4)
6. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(1)
7. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(2)
8. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(3)
9. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(4)
10. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(1)
11. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(2)
12. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(3)
13. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業予定の内容を事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

【2019 年 8 月 27 日シラバス変更】変更理由:テキスト変更(版元品切れ)のため
(変更前の記載事項)　テキストを事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(出席)(20%)

テキスト(Textbooks)

【2019 年 8 月 5 日シラバス変更】変更理由:版元品切れのため
(変更前の記載事項)　日経ビジネス編　日本経済入門　日経 BP 社　2014　978-4-8222-7798-7

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学1 (Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会経済学		
担当者名 (Instructor)	隅田　聡一郎(SUMIDA SOICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX005　経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of socioeconomics to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。この講義をつうじて経済学の古典の学び方や現代の経済問題に接近する糸口をつかむことができます。

This lecture covers the fundamentals of socioeconomics. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of socioeconomics, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of socioeconomics, such as why labor becomes a commodity, what capital is, and how a surplus is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using socioeconomics. This lecture shows the classical approach to studying economics and provides clues to addressing modern economic issues.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 社会経済学の源流①
3. 社会経済学の源流②
4. 社会経済学の源流③
5. 社会経済学の源流④
6. 社会経済学の基礎概念①
7. 社会経済学の基礎概念②
8. 社会経済学の基礎概念③
9. 社会経済学の基礎概念④
10. 社会経済学と現代経済①
11. 社会経済学と現代経済②
12. 社会経済学と現代経済③
13. 社会経済学と現代経済④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

1. 中谷俊博、2012 年、『やさしい経済学史』、日本経済評論社
2. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、筑摩書房

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学2 (Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学・マクロ経済学入門		
担当者名 (Instructor)	荒川　章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX006　経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ

Learn the basics of microeconomics and macroeconomics.

授業の内容(Course Contents)

日本経済のさまざまなトピックスを取り上げる中で、ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ。その際、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な概念や枠組みを網羅しつつ、現実の日本経済が抱える様々な課題も合わせて解説する。

Various Japanese economic topics are looked at while studying the basics of microeconomics and macroeconomics. During this time the fundamental concepts and frameworks for microeconomics and macroeconomics will be covered and then expounded on by looking at the various issues facing the actual Japanese economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(1)
3. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(2)
4. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(3)
5. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(4)
6. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(1)
7. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(2)
8. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(3)
9. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(4)
10. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(1)
11. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(2)
12. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(3)
13. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業予定の内容を事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

【2019 年 8 月 27 日シラバス変更】変更理由:テキスト変更(版元品切れ)のため
(変更前の記載事項)　テキストを事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(出席)(20%)

テキスト(Textbooks)

【2019 年 8 月 5 日シラバス変更】変更理由:版元品切れのため
(変更前の記載事項)　日経ビジネス編　日本経済入門　日経 BP 社　2014　978-4-8222-7798-7

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学 (Economics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学入門～社会経済学とミクロ経済学、マクロ経済学		
担当者名 (Instructor)	森本　壮亮(MORIMOTO SOUSUKE) 関口　智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX007　経済・経済政策・会計ファイナンス学科 3・4 年		

授業の目標(Course Objectives)

経済学には、いろいろな考え方があります。この講義では、社会経済学やミクロ経済学、マクロ経済学など経済理論の基本となる主たる考え方について学び、それぞれの基本を理解することを通じて経済現象を理論的かつ多様な立場から考察するための素養を身につけます。

There are various theories about economics. In this lecture students learn basic economic theory, including socioeconomics, microeconomics, and macroeconomics, so that through understanding these theories they will be able to consider economic phenomena from a theoretical and diversified perspectives.

授業の内容(Course Contents)

本講義の前半は、社会経済学の基礎を扱います。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。また、秋学期からは、日本経済のさまざまなトピックスを取り上げながら、ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学んでいきます。その際、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な概念や枠組みを網羅しつつ、現実の日本経済が抱えるさまざまな課題についてもあわせて解説します。

This lecture deals with the fundamentals of socioeconomics. After an overview of the historical development of socioeconomics, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of socioeconomics, such as why labor becomes a commodity, what capital is, and how a surplus is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using socioeconomics. During the fall semester, various Japanese economic topics are looked at while studying the basics of microeconomics and macroeconomics. During this time the fundamental concepts and frameworks for microeconomics and macroeconomics will be covered and then expounded on by looking at the various issues facing the actual Japanese economy.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会経済学について
2. 社会経済学の源流①
3. 社会経済学の源流②
4. 社会経済学の源流③
5. 社会経済学の源流④
6. 社会経済学の基礎概念①
7. 社会経済学の基礎概念②
8. 社会経済学の基礎概念③
9. 社会経済学の基礎概念④
10. 社会経済学と現代経済①
11. 社会経済学と現代経済②
12. 社会経済学と現代経済③
13. 社会経済学と現代経済④
14. まとめ
15. ミクロ経済学とマクロ経済学について
16. 【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識①
17. 【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識②
18. 【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識③
19. 【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識④
20. 【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク①
21. 【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク②
22. 【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク③
23. 【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク④

24. 【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ①
25. 【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ②
26. 【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ③
27. 【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ④
28. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキスト・参考文献を参照して授業に臨んでください。授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。
また、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

成績評価方法・基準（Evaluation）

中間テスト(35%)/最終テスト(Final Test)(40%)/小テスト, リアクションペーパー（出席）等(25%)
総合評価は春学期の評価と秋学期の評価の平均によって行われる。また、平常点のなかみ等については担当教員に確認すること。当科目の中間テスト、最終テストは各学期末の定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、受験すること。

テキスト（Textbooks）

1. 日経ビジネス編、2014、『日本経済入門』、日経 BP 社 (ISBN:978-4-8222-7798-7)
このテキストは秋学期（15 回目以降）に利用します

参考文献（Readings）

1. 中谷俊博、2012 年、『やさしい経済学史』、日本経済評論社
2. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、筑摩書房
これらの参考文献は春学期のうちに参照して下さい

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／政策分析概論 (Introduction to Policy Studies)		
担当者名 (Instructor)	遠山　恭司(TOYAMA KYOJI) 厳　成男(YAN CHENGNAN) デウィット, A. (DEWIT,ANDREW) 首藤　若菜(SHUTO WAKANA) 大山　利男(OYAMA TOSHIO) 田島　夏与(TAJIMA KAYO) 蓮見　雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EPS1510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX008		

授業の目標(Course Objectives)

政策分析の学び方にふれつつ，基本的な視点と現在の課題を把握する。経済政策学科における科目構成の全体像をつかみ，各自の研究テーマに沿う科目履修に役立てる。

Students learn how to study policy analysis while gaining an understanding of the basic perspectives and current issues. This course gives you an overview of the course structure of the Department of Economic Policy Studies so that you can register for courses that align with your research theme.

授業の内容(Course Contents)

本科目は，経済政策学科の導入科目である。経済政策関連科目を担当する専任教員が，それぞれの専門とする政策分野について，主要講義科目で学ぶべき内容を概説する。これにより，経済政策の体系や， 経済学を応用した政策分析の方法を紹介し，世界と日本が直面する現在の政策課題を明らかにする。

This is the introductory course for the Department of Economic Policy Studies. The instructors who supervise the courses related to economic policy are experts in their respective policy fields and briefly introduce the contents of the main lectures. The systematized knowledge of economic policy and methods for applying economics to policy analysis are introduced in this course to reveal the current issues that Japan and the world are confronted with.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション （遠山）
2. 経済政策 （厳）
3. 経済政策 （厳）
4. 財政政策 （デウィット）
5. 財政政策 （デウィット）
6. 労働・社会政策 （首藤）
7. 労働・社会政策 （首藤）
8. 産業と政策 （大山）
9. 産業と政策 （大山）
10. 環境・都市政策 （田島）
11. 環境・都市政策 （田島）
12. グローバル化と政策 （蓮見）
13. グローバル化と政策 （蓮見）
14. まとめ （遠山）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

主要な使用教材を教育支援システム(Blackboard)にアップするので，予習・復習に役立てること。また，授業内で指示される課題について準備を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(75%)/出席とリアクションペーパー(25%)

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは使用しない。必要に応じて講義時に資料を配付することがある。

参考文献(Readings)

それぞれの担当者が Blackboard や講義時に指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

原則として、Blackboard に授業資料等はアップされます。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX009／経済数学入門 (Introduction to Economic Mathematics)		
担当者名 (Instructor)	古川　徹也(FURUKAWA TETSUYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科1年A～G組，経済学科2～4年		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロあるいはマクロ経済学を理解するには，数学の知識が欠かせない。この講義では，その中でもとくに，初・中級レベルの経済学において用いられる基本的な数学について，学生が理解することを目標とする。

Knowledge of mathematics is indispensable for understanding micro and macroeconomics. The objective of this course is for students to understand the basic mathematics used in particular in the introductory and intermediate levels of economics.

授業の内容(Course Contents)

1)経済学と数学との関係を知るために，ミクロあるいはマクロ経済学の内容の中と，高校までに身に付けているはずの数学の知識との関係について講義する。
2)微分，偏微分が経済学においてどのように利用されるかを理解し，それが受講生の「武器」となることを目指す。

1) To learn the relationship between economics and mathematics, the relationship between micro and macroeconomics and the mathematical knowledge acquired through the high school level will be discussed.
2) Aim to understand how differential calculus and partial differentiation are used in economics and for this to become an important tool for the course attendees.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス：経済学と数学の関係のイントロダクション
2. 2 次関数と独占・寡占市場
3. 指数・対数と経済学
4. 数列と乗数モデル
5. 微分：微分の概念と計算公式
6. 微分：極大，極小と微分
7. ベクトルと予算制約
8. 多変数の微分：ラグランジュの未定乗数法
9. ラグランジュの未定乗数法の練習
10. 行列とは何か
11. 行列の計算と応用
12. 確率とその応用：条件付き確率の考え方
13. 確率とその応用：期待値と期待効用
14. 最終レポートの解説による講義の復習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

中学から高校初年次で学ぶ程度の数学の知識は前提とするので，それらを忘れてしまったという人は補っておくことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終レポート(Final Report)(10%)/随時行う小テスト(10%)
「最終レポート」「随時行う小テスト」は Blackboard を利用する

テキスト(Textbooks)

1. 尾山大輔・安田洋祐、2013、『経済学で出る数学(改訂版)』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55659-1)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

毎回の講義資料を Blackboard にアップするので，必要な部分を講義に持参すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX010／経済数学入門 (Introduction to Economic Mathematics)		
担当者名 (Instructor)	古川　徹也(FURUKAWA TETSUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科1年H～O組，経済学科2～4年		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロあるいはマクロ経済学を理解するには，数学の知識が欠かせない。この講義では，その中でもとくに，初・中級レベルの経済学において用いられる基本的な数学について，学生が理解することを目標とする。

Knowledge of mathematics is indispensable for understanding micro and macroeconomics. The objective of this course is for students to understand the basic mathematics used in particular in the introductory and intermediate levels of economics.

授業の内容(Course Contents)

1)経済学と数学との関係を知るために，ミクロあるいはマクロ経済学の内容の中と，高校までに身に付けているはずの数学の知識との関係について講義する。
2)微分，偏微分が経済学においてどのように利用されるかを理解し，それが受講生の「武器」となることを目指す。

1) To learn the relationship between economics and mathematics, the relationship between micro and macroeconomics and the mathematical knowledge acquired through the high school level will be discussed.
2) Aim to understand how differential calculus and partial differentiation are used in economics and for this to become an important tool for the course attendees.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス：経済学と数学の関係のイントロダクション
2. 2 次関数と独占・寡占市場
3. 指数・対数と経済学
4. 数列と乗数モデル
5. 微分：微分の概念と計算公式
6. 微分：極大，極小と微分
7. ベクトルと予算制約
8. 多変数の微分：ラグランジュの未定乗数法
9. ラグランジュの未定乗数法の練習
10. 行列とは何か
11. 行列の計算と応用
12. 確率とその応用：条件付き確率の考え方
13. 確率とその応用：期待値と期待効用
14. 最終レポートの解説による講義の復習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

中学から高校初年次で学ぶ程度の数学の知識は前提とするので，それらを忘れてしまったという人は補っておくことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終レポート(Final Report)(10%)/随時行う小テスト(10%)
「最終レポート」「随時行う小テスト」は Blackboard を利用する

テキスト(Textbooks)

1. 尾山大輔・安田洋祐、2013、『経済学で出る数学(改訂版)』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55659-1)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

毎回の講義資料を Blackboard にアップするので，必要な部分を講義に持参すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX011／経済数学入門 (Introduction to Economic Mathematics)		
担当者名 (Instructor)	田中　泉(TANAKA IZUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

経済学・経営学で最低限必要とされる数学の知識・考え方の基礎を身につけることで、数学の概念に関する正しいイメージを基礎として経済モデルに共通する数学的構造を直感的につかむことができるようになる。

Acquiring the mathematical concepts and basic knowledge minimally required for economics and business management allows students to intuitively grasp the mathematical structure common to economic models based on a correct image of the mathematical concepts.

授業の内容(Course Contents)

中学校卒業程度の知識(1 次関数)を出発点として，経済学・経営学で多用される数学的手法を講義する。特に高校で学んだ 1 変数関数の微分の復習から始まって、2 変数(多変数)関数の微分、極値問題、制約条件付き極値問題の基本を中心に説明し，経済学・経営学で多用される微分の概念と経済学・経営学の概念の関係を明らかにする。経済学への応用としてミクロ経済学のトピックをいくつか取り扱う。

The starting point is the mathematical knowledge acquired by junior high school graduation (linear functions) and the mathematical techniques that are frequently used in economics and business management will be discussed. In particular, instruction begins with practicing the 1-variable function differential equations learned in high school and then explains mainly the basics of 2-variable (multivariable) function differential equations, extreme value problems, and extreme value problems with constraints to reveal the differential calculus concepts often used in economics and business management and their relationship to economics and business management concepts. Microeconomics topics will also be addressed to apply the mathematics learned to economics.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 関数とは
3. 1 次関数と直線の方程式
4. 微分係数と限界の概念
5. 基本的な 1 変数関数の微分の公式
6. 合成関数・逆関数の微分
7. 1 変数関数の極大・極小問題
8. 2変数関数の偏微分
9. 全微分の概念
10. 全微分の応用
11. 2 変数関数の極大・極小問題、制約条件付き極値問題
12. 経済学・経営学における応用(短期の利潤最大化)
13. 経済学・経営学における応用(長期の利潤最大化)
14. 経済学・経営学における応用(効用最大化、費用最小化)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)
5 回以上欠席したものはD評価とする。

テキスト(Textbooks)

特に指定せず，プリントを配付する。

参考文献(Readings)

1. 尾山大輔・安田洋祐、2013、『改定版　経済学で出る数学』、日本評論社

2. 丹野忠晋、2017、『経済数学入門』、日本評論社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX012／経済数学入門 (Introduction to Economic Mathematics)		
担当者名 (Instructor)	田中　泉(TANAKA IZUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

経済学・経営学で最低限必要とされる数学の知識・考え方の基礎を身につけることで、数学の概念に関する正しいイメージを基礎として経済モデルに共通する数学的構造を直感的につかむことができるようになる。

Acquiring the mathematical concepts and basic knowledge minimally required for economics and business management allows students to intuitively grasp the mathematical structure common to economic models based on a correct image of the mathematical concepts.

授業の内容(Course Contents)

中学校卒業程度の知識(1 次関数)を出発点として，経済学・経営学で多用される数学的手法を講義する。特に高校で学んだ 1 変数関数の微分の復習から始まって、2 変数(多変数)関数の微分、極値問題、制約条件付き極値問題の基本を中心に説明し，経済学・経営学で多用される微分の概念と経済学・経営学の概念の関係を明らかにする。経済学への応用としてミクロ経済学のトピックをいくつか取り扱う。

The starting point is the mathematical knowledge acquired by junior high school graduation (linear functions) and the mathematical techniques that are frequently used in economics and business management will be discussed. In particular, instruction begins with practicing the 1-variable function differential equations learned in high school and then explains mainly the basics of 2-variable (multivariable) function differential equations, extreme value problems, and extreme value problems with constraints to reveal the differential calculus concepts often used in economics and business management and their relationship to economics and business management concepts. Microeconomics topics will also be addressed to apply the mathematics learned to economics.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 関数とは
3. 1 次関数と直線の方程式
4. 微分係数と限界の概念
5. 基本的な 1 変数関数の微分の公式
6. 合成関数・逆関数の微分
7. 1 変数関数の極大・極小問題
8. 2変数関数の偏微分
9. 全微分の概念
10. 全微分の応用
11. 2 変数関数の極大・極小問題、制約条件付き極値問題
12. 経済学・経営学における応用(短期の利潤最大化)
13. 経済学・経営学における応用(長期の利潤最大化)
14. 経済学・経営学における応用(効用最大化、費用最小化)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)
5 回以上欠席したものはD評価とする。

テキスト(Textbooks)

特に指定せず，プリントを配付する。

参考文献(Readings)

1. 尾山大輔・安田洋祐、2013、『改定版　経済学で出る数学』、日本評論社

2. 丹野忠晋、2017、『経済数学入門』、日本評論社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX013／経営学1 (Business Administration 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	株式会社を理解する		
担当者名 (Instructor)	関　智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

株式会社の仕組みや機能を理解することで，企業経営に関する基礎知識の修得と，日本の企業社会に対する分析視角を養う。

Understand the framework and functions of corporations to acquire fundamental knowledge regarding company management and develop an analytical perspective of Japanese business society.

授業の内容(Course Contents)

「財・サービスの提供機関」，「株式会社」，「大企業」，「家」，「組織」の 5 つの視点から，企業の多面性について理解を深める。株式会社の仕組みや機能について知識を深めつつ，今日の日本の株式会社をめぐる諸問題について検討を行う。

Deepen understanding of the multidimensional aspect of companies from the 5 viewpoints of institutions that provide goods and services, corporations, large companies, Kaisha, and organizations. By understanding these aspects, students also deepen understanding of the framework and function of corporations and study the issues facing Japanese corporations today.

授業計画(Course Schedule)

1. 問題の所在
2. 経営学とは何か
3. 企業の特徴・企業の分類・株式会社の特徴と仕組み
4. 「財・サービスの提供機関」としての企業(上)
5. 「財・サービスの提供機関」としての企業(下)
6. 「株式会社」としての企業(上)
7. 「株式会社」としての企業(中)
8. 「株式会社」としての企業(下)
9. 「大企業」としての企業(上)
10. 「大企業」としての企業(下)
11. 「家」としての日本企業
12. 「組織」としての企業(上)
13. 「組織」としての企業(下)
14. 結論と課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は履修登録完了後に Blackboard 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫、2018、『企業論　第 4 版』、有斐閣 (ISBN:4641221197)

参考文献(Readings)

1. ミクルスウェイト・ウールドリッジ、2006、『株式会社』、ランダムハウス講談社 (ISBN:4270001518)
2. 井原久光、2008、『テキスト経営学　第 3 版』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623051293)
3. 榊原清則、2013、『経営学入門　第 2 版　上』、日本経済新聞社 (ISBN:4532112826)
4. 榊原清則、2013、『経営学入門　第 2 版　下』、日本経済新聞社 (ISBN:4532112834)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX014／経営学2 (Business Administration 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業成長を理解する		
担当者名 (Instructor)	関　智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

成長を志向しつづけてやまない企業とその経営の実態について，日本のみならず欧米やアジアの企業ケースを事例に理解を深める。本講義では，企業成長の源泉をグローバル化とイノベーションに求め，さらには開かれた市場取引を謳うオープン化の流れについても言及することで，21 世紀の企業経営のあり方についても知識を深めることを目指している。

Case studies of companies from Europe, the US, and Asia as well as Japan will be used to deepen understanding of companies that intend to continue growing and their actual management conditions. This lecture will also discuss the globalization and innovation sought as a source of company growth as well as touch on the openness trend that promotes open market transactions to deepen the student's knowledge of how businesses are managed in the 21st century.

授業の内容(Course Contents)

企業成長に向けた具体的な取り組みとして，グローバル化の進展とイノベーションの追求に着目し，それぞれについて基礎理論，歴史的背景，そして現状把握の 3 点から検討を行う。競争戦略，多角化，PPM，M&A，戦略的提携，そして内部留保など、現代企業経営の必須キーワードへの理解とともに，オープンイノベーションやプラットフォーム戦略など，最新トピックスを加え，現代における企業成長の実態を明らかにしていく。

The course focuses on the expansion of globalization and the pursuit of innovation as specific means for achieving company growth and both of these will be studied from the three perspectives of fundamental theory, historical background, and assessment of the current situation. The state of company growth today will be looked at by gaining an understanding of mandatory topics for modern company management, including competitive strategy, diversification, PPM, M&A, strategic alliances, and internal reserves, in addition to the latest topics, such as open innovation and platform strategy.

授業計画(Course Schedule)

1. 問題の所在
2. 企業のマネジメントとは
3. 競争のための差別化
4. 競争しない競争戦略
5. 競争優位とビジネスシステム
6. 多角化と事業ポートフォリオ
7. 企業構造の再編成
8. 国際化の戦略(上)
9. 国際化の戦略(下)
10. 資本構造のマネジメント
11. 企業成長とイノベーション(上)
12. 企業成長とイノベーション(下)
13. 企業成長とプラットフォーム戦略
14. 結論と課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は履修登録完了後に Blackboard 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊丹敬之・加護野忠男、2003、『ゼミナール経営学入門　第 3 版』、日本経済新聞社 (ISBN:4532132479)
2. 秋野晶二・關智一・坂本義和・山中伸彦・井口知栄・荒井将志、2018、『グローバル化とイノベーションの経営学』、税務経理協会 (ISBN:4419065621)

参考文献（Readings）

1. 伊藤元重、2004、『はじめての経済学（下）』、日本経済新聞社 (ISBN:4532110157)
2. 井原久光、2008、『テキスト経営学　第 3 版』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623051293)
3. 安本雅典・真鍋誠司、2017、『オープン化戦略』、有斐閣 (ISBN:4641164657)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX019／経済史1 (Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	テーマで学ぶ世界経済史		
担当者名 (Instructor)	菊池　雄太(KIKUCHI YUTA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代経済の課題を経済史の観点で考察できるようになる。
基礎的な世界史の知識を経済史という専門分野に結びつける。
経済を理解するための考え方を身につける。

Contemporary economic issues will be considered from an historical viewpoint.
Basic world history is linked to the specialized area of economic history.
Acquire the concepts necessary for understanding the economy.

授業の内容(Course Contents)

現代の社会・経済を理解し分析するために，経済史を学ぶことは非常に大切です。この講義では，世界のさまざまな地域を取り上げて，グローバル経済，経済格差，移民，環境，労働，消費，文化，企業といった現代経済の重要テーマについて，経済史の視点から考察します。それぞれのテーマは別個のものではなく，それぞれが結びつき合っています。
世界史の予備知識がない人のために，世界史の基本的な流れを確認しながら，経済史の考え方を学びます。現代との関連を常に念頭に置きます。

Studying economic history is very important for understanding and analyzing the contemporary society and economy. This lecture looks at the various regions around the world to consider such important contemporary economics themes as the global economy, economic disparity, immigration, the environment, labor, consumption, culture, and companies from the perspective of economic history. Each of these themes is not isolated but rather are linked to each other.
The lecture is conducted to learn the concepts of economic history while checking the basic flow of world history for students without prior knowledge of world history. Always keep the relationship to today in mind.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 世界史の大きな流れとグローバル経済の形成 ①
3. 世界史の大きな流れとグローバル経済の形成 ②
4. 世界史の大きな流れとグローバル経済の形成 ③
5. 近現代の経済グローバル化と経済格差
6. 近現代の経済グローバル化と移民問題
7. 「豊かさ」を歴史の視点から考える
8. 環境問題の経済史
9. 経済史における人口と労働
10. 経済成長と消費の歴史
11. 経済グローバル化と文化
12. 企業の歴史
13. グローバルな企業家活動の経済史的意義
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

基礎知識の確認・整理のために高校時代に使用した世界史の教科書に目を通すと授業の理解が深まり効果的な学習ができる。
復習では配布物やノートのほか，授業ごとに挙げる文献が参考になる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/課題の考察(授業時間の中で行う講義内容の簡単なまとめ，考察)(20%)

テキスト(Textbooks)

とくに指定しない。

参考文献（Readings）

授業中に紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX020／経済史2 (Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済の発展とその特質―経済史から考える		
担当者名 (Instructor)	須永　徳武(SUNAGA NORITAKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近世から近現代の日本経済の歴史的変化を概観することを通して，日本の資本主義システムがどのように形成され，その特質は何であったかについて理解することができる。

An overview of the historical changes in the Japanese economy from the early modern period until today shows students how the Japanese capitalistic system was formed and provides and understanding of why it has certain characteristics.

授業の内容(Course Contents)

国際経済システムの歴史的変化を与件として，日本経済の発展過程を近世から近現代まで概観する。近代日本は世界史的に見ても稀有な速さで近代産業化を達成した。それを支えたものは，新たな経済制度，市場システム，企業体制などの急速な導入と定着であった。何故，近代日本はこうした新たな経済システムの急速かつ円滑な受容が可能であったのか。こうした問題について、経済史研究の論点と成果を踏まえて講義を行う。これまでみなさんが学んできた高校日本史を前提に、これから経済学部で学ぶために必要な歴史認識と基礎的知識を提供する。その意味で本講義は経済史の入門講座である。

An overview of the development process of the Japanese economy from the early modern period until today is given against the backdrop of the historical changes in the international economic system. Japan achieved modern industrialization with rare speed in the history of the world. This was supported by the rapid introduction and firm establishment of a new economic system, market system, business structure, and other elements. What made it possible for modern Japan to so quickly and smoothly accept such a new economic system? The lecture will cover this problem by looking at economic history research issues and results. Students are presumed to have a high school level of understanding of Japanese history, so this lecture will provide the historical knowledge and fundamental knowledge necessary for studying in the College of Economics. In that sense, this lecture is the introductory course for economic history.

授業計画(Course Schedule)

1. 経済の発展過程をどうとらえるか？
2. イノベーションと経済成長
3. 近世経済・社会の特質　1
4. 近世経済・社会の特質　2
5. 近世商家の経営システム　1
6. 近世商家の経営システム　2
7. 幕末開港と世界市場　1
8. 幕末開港と世界市場　2
9. 資本の形成と労働者の創出　1
10. 資本の形成と労働者の創出　2
11. 近代的金融制度の確立　1
12. 近代的金融制度の確立　2
13. 政商から財閥へ
14. 渋沢栄一と財界の形成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じ Blackboard 等で指示をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

使用しません。

参考文献（Readings）

授業中に適宜、紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業で使用する教材は Blackboard に掲出する予定です。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学1 (Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会経済学		
担当者名 (Instructor)	隅田　聡一郎(SUMIDA SOICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX021　会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

学生が社会経済学の基礎的な知識を習得することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students acquire a fundamental knowledge of socioeconomics to gain the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、社会経済学の基礎を扱います。経済学には、いろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて考察します。はじめに重商主義や古典派経済学などの社会経済学の歴史的発展について概観した後、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品になるのか、資本とは何か、剰余はどのようにして生まれるかなど社会経済学の初歩的な理論について学びます。さらに、具体的なトピックを取り上げ、社会経済学によって現実の経済問題をどのようにみることができるかについて学びます。この講義をつうじて経済学の古典の学び方や現代の経済問題に接近する糸口をつかむことができます。

This lecture covers the fundamentals of socioeconomics. There are various theories about economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. After an overview of the historical development of socioeconomics, including mercantilism and classical economics, what a commodity or a currency is will be explained followed by a study of the elementary theories of socioeconomics, such as why labor becomes a commodity, what capital is, and how a surplus is produced. Further, specific topics will be taken up to learn how actual economic problems can be viewed using socioeconomics. This lecture shows the classical approach to studying economics and provides clues to addressing modern economic issues.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 社会経済学の源流①
3. 社会経済学の源流②
4. 社会経済学の源流③
5. 社会経済学の源流④
6. 社会経済学の基礎概念①
7. 社会経済学の基礎概念②
8. 社会経済学の基礎概念③
9. 社会経済学の基礎概念④
10. 社会経済学と現代経済①
11. 社会経済学と現代経済②
12. 社会経済学と現代経済③
13. 社会経済学と現代経済④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献を参照して授業に臨んでください。また新聞をよく読み、現実の経済問題に対する関心をもつように心がけてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

1. 中谷俊博、2012 年、『やさしい経済学史』、日本経済評論社
2. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、筑摩書房

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済学2 (Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学・マクロ経済学入門		
担当者名 (Instructor)	阿部　晃大(ABE AKIHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX022　会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ

Learn the basics of microeconomics and macroeconomics.

授業の内容(Course Contents)

日本経済のさまざまなトピックスを取り上げる中で、ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ。その際、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な概念や枠組みを網羅しつつ、現実の日本経済が抱える様々な課題も合わせて解説する。

Various Japanese economic topics are looked at while studying the basics of microeconomics and macroeconomics. During this time the fundamental concepts and frameworks for microeconomics and macroeconomics will be covered and then expounded on by looking at the various issues facing the actual Japanese economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(1)
3. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(2)
4. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(3)
5. 第Ⅰ部【基礎編】経済のしくみ　経済ニュースが理解できる基本知識(4)
6. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(1)
7. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(2)
8. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(3)
9. 第Ⅱ部【理論編】経済理論入門　知っておきたいフレームワーク(4)
10. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(1)
11. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(2)
12. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(3)
13. 第Ⅲ部【実践編】経済の先行きを分析しよう ビジネスパーソン必修の分析スキルを学ぶ(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業予定の内容を事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

【2019 年 8 月 27 日シラバス変更】変更理由:テキスト変更(版元品切れ)のため
(変更前の記載事項)　テキストを事前に予習し、授業後には教員のスライド・板書などを復習し、与えられた課題を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(出席)(20%)

テキスト(Textbooks)

【2019 年 8 月 5 日シラバス変更】変更理由:版元品切れのため
(変更前の記載事項)　日経ビジネス編　日本経済入門　日経 BP 社　2014　978-4-8222-7798-7

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／外書講読・英A (Reading Foreign Economic Texts/English A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人生の為になる英文講読		
担当者名 (Instructor)	阪本　真一(SAKAMOTO SHINICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX024		

授業の目標(Course Objectives)

種々な良質な文章を読むことで，知的枠組みを広げ，コンテンポラリーな話題について論理的に思考し，英語で議論できる力を養う。
時間厳守，準備，積極的貢献，熟考の上に自分の言葉で発言できる力をつける。

Read a variety of good texts to expand your intellectual framework, logically think about contemporary topics, and develop the ability to discuss in English.
Acquire the ability to express in your own words while keeping the time limit, preparing, actively contributing, and deliberating.

授業の内容(Course Contents)

世界の一流人と四つに組んで仕事をするために重要なのは，ペラペラしゃべる事ではありません。
まず知的な文章を正確に読み，内容を自分の頭で考える，次に適切な大人の語彙を使って書ける，最後に論理的に話せるという事です。

そのために授業では，示唆に富み，人生について考えさせる，しかし魅力的で優れた英文を朗読し，翻訳します。その際，論理，文体，語彙，用法も含めてしっかり理解を深めます。その後，シチュエーションや背景となる知的枠組みを理解するための問いに対し，自分の頭で考える事を要求します。

巷で言われるような，楽をして学べる英語なんてものは存在しません。講師が自ら選んだ文章は学生の皆さんには挑戦しがい十分，かつ 今後の人生の糧になること間違いなしです。外国の知識人たちと対等で相互に尊敬される人間関係を作れるような国際人を目指し一緒に努力しましょう。

Being able to talk a lot is not important for doing work while teaming up with the first-rate people in the world.
What is important is first being able to correctly read intellectual texts, think about their contents, then use appropriate adult language to write, and finally be able to talk logically.
To be able to do that in this class there will be thought-provoking material to make you think about life and you will read aloud and translate appealing and excellent English texts. Doing this will give you a deeper understanding of logic, literary style, vocabulary, and usage. After that you will be required to think on your own about questions to have you understand the intellectual framework that is the situation or background.
There is no easy way to learn English despite what is popularly believed. The texts selected by the instructor will be sufficiently challenging for the students and will surely be useful for their lives in the future. Let's work together as you aim to become international people that can build mutually respectful human relations on an equal basis with intellectuals in foreign countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 第一週目から授業を開始します。出席は必須です。
   授業で使用するコピーは当日配布します。辞書必携。
2. Japan 1945, Images from the trunk
   米軍従軍写真家の記録からの一文。
3. The peace of righteousness
   Theodore Roosevelt の自伝からの一文。
4. "Free Fruit for Young Widows," Nathan Englander,
   短編集"What we talk about when we talk about Anne Frank"からの一文。
5. "Free Fruit for Young Widows," By Nathan Englander,
   短編集"What we talk about when we talk about Anne Frank"からの一文 。
6. "Free Fruit for Young Widows," By Nathan Englander,
   短編集"What we talk about when we talk about Anne Frank"からの一文 。
7. "The Conscience of Words" by Susan Sontag
8. "The Conscience of Words" by Susan Sontag
9. "Assume the worst about people and you get the worst" 23 things they don't tell you about capitalism by Ha-Joon Chang

10. "Assume the worst about people and you get the worst" 23 things they don't tell you about capitalism by Ha-Joon Chang
11. Speech in the Bundesstag on 8 May 1985 by President Richard von Weizsäcker
12. Speech in the Bundesstag on 8 May 1985 by President Richard von Weizsäcker
13. Speech in the Bundesstag on 8 May 1985 by President Richard von Weizsäcker
14. Speech in the Bundesstag on 8 May 1985 by President Richard von Weizsäcker

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

配布資料の読解, 翻訳, 朗読。

成績評価方法・基準(Evaluation)

予習(翻訳, 朗読), 授業中の積極参加, リアクションペーパーの提出(100%)
毎回の授業参加は原則, 単位取得のための最低限の"Must"です。語学は毎日の努力が重要, 十分な準備をして授業に参加することが求められます。他方, 試験はありません。

テキスト(Textbooks)

授業で使う文章のコピーは適宜配布。
上記に挙げたもの以外に状況によっては種々の自伝からの抜粋(Nelson Mandela, Mahatma Gandhi, Colin Powell, Bertrand Russell etc.,), HBR, Economist, WSJ 等, 新聞雑誌からの記事, 話題になったスピーチ, 本の一部抜粋, 等々。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／外書講読・英A (Reading Foreign Economic Texts/English A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	21 世紀経済入門		
担当者名 (Instructor)	太田　愛之(OOTA YOSHIYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX025		

授業の目標(Course Objectives)

最新の世界経済論入門書の訳読を通じて経済英語の基礎語彙を習得し，翻訳のスキルを高めるとともに，最新の世界経済事情に関する理解を深める。国際金融の技術的側面に精通する。

Oral translation of the latest world economic theory introductory texts will be used to help students gain the basic vocabulary of economic English, improve their translation skill, and deepen their understanding of the latest world economic situation. Students become thoroughly versed in the technical aspects of international finance.

授業の内容(Course Contents)

テキストは 2008 年のリーマン・ショックまでをカバーしているが，講義ではそれを単に訳読するだけでなく，周辺事情や最新事情も含めてアップデートすることに努める。
最終授業時には最終テストを行う。
今回はテキストの § 14.Drugs, slavary, and shady deals—The illegal economy of the 21st century を訳読する。

The text covers up to the 2008 Lehman Shock, but during the lecture students will not only orally translate these but will also strive to update the information with surrounding circumstances and latest information. There will be a final exam at the end of the course. This time students will give oral translations of §14. Drugs, slavery, and shady deals—The illegal economy of the 21st century from the text.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. a black market and a gray market
3. illegal drugs
4. the trading of human body parts
5. a dirty bomb
6. human trafficking
7. debt enslavement
8. the International Fair Trade Association
9. product certification
10. rogue traders
11. MacAfee
12. phishing
13. money laundering
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキスト中の不明な語句と事項を予め調べ，各自で訳文を作成してから講義に臨むこと。予習はインターネットが使える環境で行うことが望ましい。ネット上の情報は選別する必要があるが，本講義の予習は英和辞典だけでは到底無理である。授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて各回の授業中に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(30%)／訳読の累積評価および授業内に指示した提出物(70%)

テキスト(Textbooks)

1. Randy Charles Epping. 2009. *The 21st century economy A beginner's guide*. Vintage Books (ISBN:978-0-307-38790-5)
Amazon.co.jp に国内在庫があるので各自で購入すること。なお，電子書籍版も出されているが，ページの指示ができないので薦められない。

参考文献（Readings）

一般紙でよいので新聞の経済記事には毎日目を通すこと。そのほかは授業中に随時紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／外書講読・英A (Reading Foreign Economic Texts/English A)		
担当者名 (Instructor)	川瀬　泰史(KAWASE YASUFUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX026		

授業の目標(Course Objectives)

この授業の目標は、学生が、経済に関する英語文献の講読を通して、経済英語に親しみ、経済学の基礎的概念を理解することにある。
英語特有の発音にも慣れてもらい、学生諸君の英語の語学力向上にも寄与するように、努めたいと思う。

The objectives of the class are for students to become familiar with economics English and to understand the fundamental concepts of economics through the reading of English literature related to economics.
Students will become familiar with the characteristic pronunciation of English and the instructor will strive to help the students improve their English language ability.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、20世紀の欧米経済を対象とした英語文献をテキストにして、政府の経済政策を見ていこうと思う。
毎回出席を取り、学生自身に、朗読と翻訳を行ってもらう。

In this class English literature covering the 20th century European and US economies will be used as the text and we will also take a look at government economic policy.
Roll call will be taken for each class and each student will read aloud and give translations.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに
2. 大恐慌
3. 財政支出政策(1)
4. 財政支出政策(2)
5. 雇用創出政策(1)
6. 雇用創出政策(2)
7. 財政政策(1)
8. 財政政策(2)
9. 財政政策(3)
10. 軍事財政
11. モータリゼーション
12. 貿易政策
13. むすび
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

配布されたテキストを予習・復習して、経済英語の概念を学んでいくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業の出席状況と発表具合(60%)/最終テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／外書講読・英B (Reading Foreign Economic Texts/English B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人生の為になる英文講読		
担当者名 (Instructor)	阪本　真一(SAKAMOTO SHINICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX032		

授業の目標(Course Objectives)

種々な良質な文章を読むことで，知的枠組みを広げ，コンテンポラリーな話題について論理的に思考し，英語で議論できる力を養う。
時間厳守，準備，積極的貢献，　熟考の上に自分の言葉で発言できる力をつける。

Read a variety of good texts to expand your intellectual framework, logically think about contemporary topics, and develop the ability to discuss in English.
Acquire the ability to express in your own words while keeping the time limit, preparing, actively contributing, and deliberating.

授業の内容(Course Contents)

世界の一流人と四つに組んで仕事をするために重要なのは，ペラペラしゃべる事ではありません。
まず知的な文章を正確に読み，内容を自分の頭で考える，次に適切な大人の語彙を使って書ける，最後に論理的に話せるという事です。

そのために授業では，示唆に富み，人生について考えさせる，しかし魅力的で優れた英文を朗読し，翻訳します。その際，論理，文体，語彙，用法も含めてしっかり理解を深めます。その後，シチュエーションや背景となる知的枠組みを理解するための問いに対し，自分の頭で考える事を要求します。

巷で言われるような，楽をして学べる英語なんてものは存在しません。講師が自ら選んだ文章は，学生の皆さんには挑戦しがい十分，かつ 今後の人生の糧になること間違いなしです。外国の知識人たちと対等で相互に尊敬される人間関係を作れるような国際人を目指し一緒に努力しましょう。

Being able to talk a lot is not important for doing work while teaming up with the first-rate people in the world.
What is important is first being able to correctly read intellectual texts, think about their contents, then use appropriate adult language to write, and finally be able to talk logically.
To be able to do that in this class there will be thought-provoking material to make you think about life and you will read aloud and translate appealing and excellent English texts. Doing this will give you a deeper understanding of logic, literary style, vocabulary, and usage. After that you will be required to think on your own about questions to have you understand the intellectual framework that is the situation or background.
There is no easy way to learn English despite what is popularly believed. The texts selected by the instructor will be sufficiently challenging for the students and will surely be useful for their lives in the future. Let's work together as you aim to become international people that can build mutually respectful human relations on an equal basis with intellectuals in foreign countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 第一週目から授業を開始します。出席は必須です。
   授業で使用するコピーは当日配布します。辞書必携。
2. "Why Women Still Can't Have It All " by Anne-Marie Slaughter
3. "Why Women Still Can't Have It All" by Anne-Marie Slaughter
4. "Why Women Still Can't Have It All " by Anne-Marie Slaughter
5. "Why Women Still Can't Have It All" by Anne-Marie Slaughter
6. "Why Women Still Can't Have It All " by Anne-Marie Slaughter
7. "Letter From Birmingham Jail" by Martin Luther King, Jr.
8. "Letter From Birmingham Jail" by Martin Luther King, Jr.
9. "Letter From Birmingham Jail" by Martin Luther King, Jr.
10. "Letter From Birmingham Jail" by Martin Luther King, Jr.
11. "Letter From Birmingham Jail" by Martin Luther King, Jr.
12. "The Long Walk To Freedom," by Nelson Mandela
13. "The Long Walk To Freedom," by Nelson Mandela
14. "The Long Walk To Freedom," by Nelson Mandela

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

配布資料の読解，翻訳，朗読。

成績評価方法・基準（Evaluation）

予習（翻訳，朗読），授業中の積極参加，リアクションペーパーの提出(100%)

毎回の授業参加は原則，単位取得のための最低限の"Must"です。語学は毎日の努力が重要，十分な準備をして授業に参加することが求められます。他方，試験はありません。

テキスト（Textbooks）

授業で使う文章のコピーは適宜配布。

上記に挙げたもの以外に状況によっては種々の自伝からの抜粋（Nelson Mandela, Mahatma Gandhi, Colin Powell, Bertrand Russell etc.,），HBR，Economist, WSJ 等，新聞雑誌からの記事，話題になったスピーチ，本の一部抜粋，等々。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／外書講読・英B (Reading Foreign Economic Texts/English B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	21 世紀経済入門		
担当者名 (Instructor)	太田　愛之(OOTA YOSHIYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX033		

授業の目標(Course Objectives)

最新の世界経済論入門書の訳読を通じて経済英語の基礎語彙を習得し，翻訳のスキルを高めるとともに，最新の世界経済事情に関する理解を深める。国際金融の技術的側面に精通する。

Oral translation of the latest world economic theory introductory texts will be used to help students gain the basic vocabulary of economic English, improve their translation skill, and deepen their understanding of the latest world economic situation. Students become thoroughly versed in the technical aspects of international finance.

授業の内容(Course Contents)

テキストは 2008 年のリーマン・ショックまでをカバーしているが，講義ではそれを単に訳読するだけでなく，周辺事情や最新事情も含めてアップデートすることに努める。最終授業時には最終テストを行う。

今回はテキストの § 15. What is the best economic system for the 21st century?および § 16. Outsourcing and immigration—How have demographics transformed the world economy?を訳読する。

The text covers up to the 2008 Lehman Shock, but during the lecture students will not only orally translate these but will also strive to update the information with surrounding circumstances and latest information. There will be a final exam at the end of the course.

This time students will give oral translations of §15. What is the best economic system for the 21st century? and §16. Outsourcing and immigration—How have demographics transformed the world economy? from the text.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. capitalism and communism
3. BRICS
4. Scandinavian model
5. Agence des Participations de l'Etat
6. privatization
7. Hugo Chávez
8. population
9. Bill Gates
10. the great migrations
11. remittances
12. the Schengen agreement
13. a green card and a blue card
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキスト中の不明な語句と事項を予め調べ，各自で訳文を作成してから講義に臨むこと。予習はインターネットが使える環境で行うことが望ましい。ネット上の情報は選別する必要があるが，本講義の予習は英和辞典だけでは到底無理である。授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて各回の授業中に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(30%)/訳読の累積評価および授業内に指示した提出物(70%)

テキスト(Textbooks)

1. Randy Charles Epping. 2009. *The 21st century economy A beginner's guide*. Vintage Books (ISBN:978-0-307-38790-5)
Amazon.co.jp に国内在庫があるので各自で購入すること。なお，電子書籍版も出されているが，ページの指示ができないので薦められない。

参考文献（Readings）

一般紙でよいので新聞の経済記事には毎日目を通すこと。そのほかは授業中に随時紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／外書講読・英B (Reading Foreign Economic Texts/English B)		
担当者名 (Instructor)	川瀬　泰史(KAWASE YASUFUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX034		

授業の目標(Course Objectives)

この授業の目標は、学生が、経済に関する英語文献の講読を通して、経済英語に親しみ、
経済学の基礎的概念を理解することにある。
英語特有の発音にも慣れてもらい、学生諸君の英語の語学力向上にも寄与するように、努めたいと思う。

The objectives of the class are for students to become familiar with economics English and to understand the fundamental concepts of economics through the reading of English literature related to economics.
Students will become familiar with the characteristic pronunciation of English and the instructor will strive to help the students improve their English language ability.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、20世紀の欧米経済を対象にした英語文献をテキストにして、政府と経済界の関係を見ていこうと思う。
毎回出席をとり、学生自身に、朗読と翻訳を行ってもらう。

In this class English literature covering the 20th century European and US economies will be used as the text and we will also take a look at the relationship to government economic policy. Roll call will be taken for each class and each student will read aloud and give translations.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに
2. 序論
3. 政府の経済政策
4. 政府の産業政策(1)
5. 政府の産業政策(2)
6. 政府の労働政策(1)
7. 政府の労働政策(2)
8. 景気回復の意義(1)
9. 景気回復の意義(2)
10. 景気回復の意義(3)
11. 結論(1)
12. 結論(2)
13. むすび
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

配布されたテキストを予習・復習して、経済英語の概念を学んでいくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業の出席状況と発表具合(60%)/最終テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／会計学1 (Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX063：会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。

Acquire the fundamental knowledge for business accounting and nurture the ability to proceed to more advanced levels.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，個々の会計基準の解説ではなく，そのベースとなっている基礎概念の理解に重きを置いている。具体的には，テキストにそって，以下の諸項目について講義する。

0. 企業会計を学ぶ
1. 企業会計の役割
2. 企業会計の仕組み
3. 資本と利益の情報
4. 収益認識のルール

This lecture focuses on understanding the basic concepts that form the foundation for business accounting rather than explaining the individual accounting standards. Specifically, the following topics will be discussed based on the text.

0. Learn business accounting
1. Roles of business accounting
2. Business accounting framework
3. Capital and profit information
4. Revenue recognition rules

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
序章：企業会計を学ぶ①
2. 序章：企業会計を学ぶ②
3. 第 1 章：企業会計の役割①
4. 第 1 章：企業会計の役割②
5. 第 1 章：企業会計の役割③
6. 第 2 章：企業会計の仕組み①
7. 第 2 章：企業会計の仕組み②
8. 第 2 章：企業会計の仕組み③
9. 第 3 章：資本と利益の情報①
10. 第 3 章：資本と利益の情報②
11. 第 3 章：資本と利益の情報③
12. 第 4 章：収益認識のルール①
13. 第 4 章：収益認識のルール②
14. 第 4 章：収益認識のルール③

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記3級程度の知識を前提とするので，当該科目(「簿記」)を履修(または認定)済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/小テスト(20%)/Blackboard またはリアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門(増訂版)』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

参考文献（Readings）

1. 斎藤静樹編著、2009、『財務会計　第 6 版』、有斐閣 (ISBN:9784641163454)
2. 桜井久勝、2019、『財務会計講義　第 20 版』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／会計学2 (Accounting 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX064：会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。

Acquire the fundamental knowledge for business accounting and nurture the ability to proceed to more advanced levels.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，個々の会計基準の解説ではなく，そのベースとなっている基礎概念の理解に重きを置いている。具体的には，テキストにそって，以下の諸項目について講義する。

5. 費用の認識と配分
6. 負債の認識と測定
7. 純資産の開示と規制
8. 企業結合の会計情報

This lecture focuses on understanding the basic concepts that form the foundation for business accounting rather than explaining the individual accounting standards. Specifically, the following topics will be discussed based on the text.

5. Expense recognition and allocation
6. Liability recognition and measurement
7. Net assets disclosure and regulations
8. Business combination accounting information

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
   第 5 章：費用の認識と配分①
2. 第 5 章：費用の認識と配分②
3. 第 5 章：費用の認識と配分③
4. 第 5 章：費用の認識と配分④
5. 第 6 章：負債の認識と測定①
6. 第 6 章：負債の認識と測定②
7. 第 6 章：負債の認識と測定③
8. 第 6 章：負債の認識と測定④
9. 第 7 章：純資産の開示と規制①
10. 第 7 章：純資産の開示と規制②
11. 第 7 章：純資産の開示と規制③
12. 第 8 章：企業結合の会計情報①
13. 第 8 章：企業結合の会計情報②
14. 第 8 章：企業結合の会計情報③

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記3級程度の知識を前提とするので，当該科目(「簿記」)を履修(または認定)済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/小テスト(20%)/Blackboard またはリアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門(増訂版)』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

参考文献(Readings)

1. 斎藤静樹編著、2009、『財務会計 第 6 版』、有斐閣 (ISBN:9784641163454)
2. 桜井久勝、2019、『財務会計講義 第 20 版』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX065／会計学1 (Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科・経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。

Acquire the fundamental knowledge for business accounting and nurture the ability to proceed to more advanced levels.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，個々の会計基準の解説ではなく，そのベースとなっている基礎概念の理解に重きを置いている。具体的には，テキストにそって，以下の諸項目について講義する。

0. 企業会計を学ぶ
1. 企業会計の役割
2. 企業会計の仕組み
3. 資本と利益の情報
4. 収益認識のルール

This lecture focuses on understanding the basic concepts that form the foundation for business accounting rather than explaining the individual accounting standards. Specifically, the following topics will be discussed based on the text.

0. Learn business accounting
1. Roles of business accounting
2. Business accounting framework
3. Capital and profit information
4. Revenue recognition rules

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
序章：企業会計を学ぶ①
2. 序章：企業会計を学ぶ②
3. 第 1 章：企業会計の役割①
4. 第 1 章：企業会計の役割②
5. 第 1 章：企業会計の役割③
6. 第 2 章：企業会計の仕組み①
7. 第 2 章：企業会計の仕組み②
8. 第 2 章：企業会計の仕組み③
9. 第 3 章：資本と利益の情報①
10. 第 3 章：資本と利益の情報②
11. 第 3 章：資本と利益の情報③
12. 第 4 章：収益認識のルール①
13. 第 4 章：収益認識のルール②
14. 第 4 章：収益認識のルール③

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記3級程度の知識を前提とするので，当該科目(「簿記」)を履修(または認定)済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/小テスト(20%)/Blackboard またはリアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門(増訂版)』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

参考文献（Readings）

1. 斎藤静樹編著、2009、『財務会計　第 6 版』、有斐閣 (ISBN:9784641163454)
2. 桜井久勝、2019、『財務会計講義　第 20 版』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX066／会計学2 (Accounting 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科・経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。

Acquire the fundamental knowledge for business accounting and nurture the ability to proceed to more advanced levels.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，個々の会計基準の解説ではなく，そのベースとなっている基礎概念の理解に重きを置いている。具体的には，テキストにそって，以下の諸項目について講義する。

5. 費用の認識と配分
6. 負債の認識と測定
7. 純資産の開示と規制
8. 企業結合の会計情報

This lecture focuses on understanding the basic concepts that form the foundation for business accounting rather than explaining the individual accounting standards. Specifically, the following topics will be discussed based on the text.

5. Expense recognition and allocation
6. Liability recognition and measurement
7. Net assets disclosure and regulations
8. Business combination accounting information

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
   第 5 章:費用の認識と配分①
2. 第 5 章:費用の認識と配分②
3. 第 5 章:費用の認識と配分③
4. 第 5 章:費用の認識と配分④
5. 第 6 章:負債の認識と測定①
6. 第 6 章:負債の認識と測定②
7. 第 6 章:負債の認識と測定③
8. 第 6 章:負債の認識と測定④
9. 第 7 章:純資産の開示と規制①
10. 第 7 章:純資産の開示と規制②
11. 第 7 章:純資産の開示と規制③
12. 第 8 章:企業結合の会計情報①
13. 第 8 章:企業結合の会計情報②
14. 第 8 章:企業結合の会計情報③

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記3級程度の知識を前提とするので，当該科目(「簿記」)を履修(または認定)済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/小テスト(20%)/Blackboard またはリアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門(増訂版)』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

参考文献(Readings)

1. 斎藤静樹編著、2009、『財務会計 第 6 版』、有斐閣 (ISBN:9784641163454)
2. 桜井久勝、2019、『財務会計講義 第 20 版』、中央経済社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／会計学 (Accounting)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	会計ファイナンス学科(2015 年度以前入学者のみ)		

授業の目標(Course Objectives)

企業会計の基礎的な知識を身につけるとともに，さらに上級へ進むための力を養う。

Acquire the fundamental knowledge for business accounting and nurture the ability to proceed to more advanced levels.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，個々の会計基準の解説ではなく，そのベースとなっている基礎概念の理解に重きを置いている。具体的には，テキストにそって，以下の諸項目について講義する。

0. 企業会計を学ぶ
1. 企業会計の役割
2. 企業会計の仕組み
3. 資本と利益の情報
4. 収益認識のルール
5. 費用の認識と配分
6. 負債の認識と測定
7. 純資産の開示と規制
8. 企業結合の会計情報

This lecture focuses on understanding the basic concepts that form the foundation for business accounting rather than explaining the individual accounting standards. Specifically, the following topics will be discussed based on the text.

0. Learn business accounting
1. Roles of business accounting
2. Business accounting framework
3. Capital and profit information
4. Revenue recognition rules
5. Expense recognition and allocation
6. Liability recognition and measurement
7. Net assets disclosure and regulations
8. Business combination accounting information

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
   序章:企業会計を学ぶ①
2. 序章:企業会計を学ぶ②
3. 第 1 章:企業会計の役割①
4. 第 1 章:企業会計の役割②
5. 第 1 章:企業会計の役割③
6. 第 2 章:企業会計の仕組み①
7. 第 2 章:企業会計の仕組み②
8. 第 2 章:企業会計の仕組み③
9. 第 3 章:資本と利益の情報①
10. 第 3 章:資本と利益の情報②
11. 第 3 章:資本と利益の情報③
12. 第 4 章:収益認識のルール①
13. 第 4 章:収益認識のルール②
14. 第 4 章:収益認識のルール③
15. オリエンテーション
    第 5 章:費用の認識と配分①

16. 第 5 章:費用の認識と配分②
17. 第 5 章:費用の認識と配分③
18. 第 5 章:費用の認識と配分④
19. 第 6 章:負債の認識と測定①
20. 第 6 章:負債の認識と測定②
21. 第 6 章:負債の認識と測定③
22. 第 6 章:負債の認識と測定④
23. 第 7 章:純資産の開示と規制①
24. 第 7 章:純資産の開示と規制②
25. 第 7 章:純資産の開示と規制③
26. 第 8 章:企業結合の会計情報①
27. 第 8 章:企業結合の会計情報②
28. 第 8 章:企業結合の会計情報③

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記3級程度の知識を前提とするので，当該科目(「簿記」)を履修(または認定)済みであるか，各自で勉強しておくことが必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

中間テスト(30%)/最終テスト(Final Test)(30%)/小テスト，Blackboard またはリアクションペーパー等(40%)
総合評価は春学期の評価と秋学期の評価の平均によって行われる。また、平常点のなかみ等については担当教員に確認すること。当科目の中間テスト、最終テストは各学期末の定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、受験すること。

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門(増訂版)』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

参考文献(Readings)

1. 斎藤静樹編著、2009、『財務会計 第 6 版』、有斐閣 (ISBN:9784641163454)
2. 桜井久勝、2019、『財務会計講義 第 20 版』、中央経済社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	松田　真由美(MATSUDA MAYUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX068：会計ファイナンス学科2年次以上		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	松田　真由美(MATSUDA MAYUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX069：会計ファイナンス学科2年次以上		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	鈴木　和哉(SUZUKI KAZUYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX071　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	鈴木　和哉(SUZUKI KAZUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX072　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	諸藤　裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX073　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	諸藤　裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX074　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記 (Bookkeeping)		
担当者名 (Instructor)	松田　真由美(MATSUDA MAYUMI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX075　会計ファイナンス学科3・4年次		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り
15. 受取手形と支払手形(1)
16. 受取手形と支払手形(2)
17. 有価証券(1)
18. 有価証券(2)、固定資産（1）
19. 固定資産(2)
20. 貸倒損失と貸倒引当金
21. 資本金と引出金、収益と費用(1)
22. 収益と費用(2)
23. 伝票(1)
24. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
25. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
26. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
27. 問題演習
28. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

中間テスト(35%)/最終テスト(Final Test)(35%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。当科目の中間テスト、最終テストは各学期末の定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、受験すること。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	北井　不二男(KITAI FUJIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX076　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	北井　不二男(KITAI FUJIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX077　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	尾上　選哉(ONOE ELIYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX078　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	尾上　選哉(ONOE ELIYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX079　会計ファイナンス学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX080／ファイナンス基礎 (Business and Finance)		
担当者名 (Instructor)	長原　徹(NAGAHARA TORU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現在価値の概念を理解し、その計算ができるようになる。また、企業経営において現在価値の考え方がどのように活用されているか理解する。

Understand the concept of present value and how to calculate it. Also understand how the concept of present value is utilized in business management.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、ファイナンスにおける基本的な考え方(リターンとリスク、現在価値等)を数値例を交えて紹介するとともに、個人の資産選択行動や企業金融についての代表的な理論を解説する。また、数学や統計学の簡単な知識を復習し、ファイナンスにおいてそうした知識がどのように活用されるか等を紹介する。

This lecture introduces the fundamental concepts of finance (return, risk, present value, etc.) with some numerical examples to understand the representative theory behind individual investor choice behavior and corporate finance. Further, there will be a simple review of mathematics and statistics and how this knowledge is used in finance and other fields will be introduced.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:この授業の目的、ファイナンスの知識が経済や企業の分析にどのように活用されるかを紹介
2. 投資のリターン
3. 投資のリスク
4. 現在価値と将来価値
5. 正味現在価値ルールによる投資判断(1)概念の理解
6. 正味現在価値ルールによる投資判断(2)応用
7. 正味現在価値ルールによる投資判断(3)計算演習
8. 企業金融(1)MM 命題
9. 企業金融(2)ペッキングオーダー理論
10. 企業価値評価(1)資本コスト
11. 企業価値評価(2)加重平均資本コスト
12. デリバティブ(1)先物、オプション
13. デリバティブ(2)計算演習
14. 総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の資料および小テストを復習すること

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/小テスト(5 回実施)(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX081／社会経済学1 (Political Economy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	資本主義の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	隅田　聡一郎(SUMIDA SOICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2年次A～G組　経済政策学科2年次		

授業の目標(Course Objectives)

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。こうした学びをつうじて、現代社会がかかえる諸問題、たとえば長時間労働、不安定就労、賃金の決定、技術革新が労働者に及ぼす影響といった諸問題を考えることができます。現実は複雑です。その現実を分析する道具(理論)を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. Students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates a surplus, and the society called capitalism are discussed in order. Learning this allows students to consider the problems faced by modern society, such as the effect on labor of long working hours, unstable employment, the setting of pay, and technological innovation. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 商品論 1
3. 商品論 2
4. 商品論 3
5. 貨幣論 1
6. 貨幣論 2
7. 貨幣論 3
8. 剰余価値論 1
9. 剰余価値論 2
10. 剰余価値論 3
11. 賃金論
12. 資本蓄積論 1
13. 資本蓄積論 2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、ちくま新書

参考文献（Readings）

1. 大谷禎之介、2001 年、『社会経済学』、桜井書店

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX082／社会経済学2 (Political Economy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	資本主義の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	隅田　聡一郎(SUMIDA SOICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2年次A～G組　経済政策学科2年次		

授業の目標(Course Objectives)

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。秋学期では、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策などより現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。資本主義は巨大な生産力の発展をもたらしましたが、他方では周期的に恐慌をひきおこしてきました。こうした資本主義の様相を現代の経済問題と絡めながら考察していきます。現実は複雑です。その現実を分析する道具(理論)を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject of what is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. Capitalism has brought the development of a huge production capacity, but it has also caused periodic economic panics. These aspects of capitalism are considered in conjunction with modern economic problems. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 資本循環論
3. 資本回転論
4. 再生産論 1
5. 再生産論 2
6. 再生産論 3
7. 利潤論 1
8. 利潤論 2
9. 利潤論 3
10. 信用論 1
11. 信用論 2
12. 信用論 3
13. 信用論 4
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、ちくま新書

参考文献（Readings）

1. 大谷禎之介、2001 年、『社会経済学』、桜井書店

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX083／社会経済学1 (Political Economy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	資本主義の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	森本　壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2年次H～O組　会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。こうした学びをつうじて、現代社会がかかえる諸問題、たとえば長時間労働、不安定就労、賃金の決定、技術革新が労働者に及ぼす影響といった諸問題を考えることができます。現実は複雑です。その現実を分析する道具(理論)を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. Students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates a surplus, and the society called capitalism are discussed in order. Learning this allows students to consider the problems faced by modern society, such as the effect on labor of long working hours, unstable employment, the setting of pay, and technological innovation. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 商品論 1
3. 商品論 2
4. 商品論 3
5. 貨幣論 1
6. 貨幣論 2
7. 貨幣論 3
8. 剰余価値論 1
9. 剰余価値論 2
10. 剰余価値論 3
11. 賃金論
12. 資本蓄積論 1
13. 資本蓄積論 2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、ちくま新書

参考文献（Readings）

1. 大谷禎之介、2001 年、『社会経済学』、桜井書店

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX084／社会経済学2 (Political Economy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	資本主義の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	森本　壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2年次H～O組　会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方があります。この講義は、マルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。秋学期では、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策などより現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。資本主義は巨大な生産力の発展をもたらしましたが、他方では周期的に恐慌をひきおこしてきました。こうした資本主義の様相を現代の経済問題と絡めながら考察していきます。現実は複雑です。その現実を分析する道具(理論)を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various concepts regarding economics. In this lecture students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject of what is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. Capitalism has brought the development of a huge production capacity, but it has also caused periodic economic panics. These aspects of capitalism are considered in conjunction with modern economic problems. Reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 資本循環論
3. 資本回転論
4. 再生産論 1
5. 再生産論 2
6. 再生産論 3
7. 利潤論 1
8. 利潤論 2
9. 利潤論 3
10. 信用論 1
11. 信用論 2
12. 信用論 3
13. 信用論 4
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、ちくま新書

参考文献（Readings）

1. 大谷禎之介、2001 年、『社会経済学』、桜井書店

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済原論A (Principles of Economics A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	資本主義の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	森本　壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科(2015 年度以前入学者のみ)		

授業の目標(Course Objectives)

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方がありますが、この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。秋学期には、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策など、より現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。講義では適宜、現実の経済問題と絡めながら資本主義の様相を話しますが、現実は複雑です。その現実を分析する道具(理論)を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various ways of thinking about economics, and students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates a surplus, and the society called capitalism are discussed in order. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject what of is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. This lecture discusses the aspects of capitalism in conjunction with actual economic problems, but the reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 商品論 1
3. 商品論 2
4. 商品論 3
5. 貨幣論 1
6. 貨幣論 2
7. 貨幣論 3
8. 剰余価値論 1
9. 剰余価値論 2
10. 剰余価値論 3
11. 賃金論
12. 資本蓄積論 1
13. 資本蓄積論 2
14. ここまでのまとめ
15. 現代社会の課題と秋学期の課題との関係について
16. 資本循環論
17. 資本回転論
18. 再生産論 1
19. 再生産論 2
20. 再生産論 3

21. 利潤論 1
22. 利潤論 2
23. 利潤論 3
24. 信用論 1
25. 信用論 2
26. 信用論 3
27. 信用論 4
28. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

成績評価方法・基準（Evaluation）

中間テスト(35%)/最終テスト(Final Test)(35%)/小テスト等(30%)
総合評価は春学期の評価と秋学期の評価の平均によって行われる。また、平常点のなかみ等については担当教員に確認すること。当科目の中間テスト、最終テストは各学期末の定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、受験すること。
2019 年 4 月 10 日付変更(変更理由：誤記訂正のため)【変更前の記載内容】筆記試験 70%　平常点 30%（小テスト）

テキスト（Textbooks）

1. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、ちくま新書 (ISBN:9784480068897)

参考文献（Readings）

1. 大谷禎之介、2001 年、『社会経済学』、桜井書店

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX086／経済原論A (Principles of Economics A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	資本主義の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	森本　壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科(2015 年度以前入学者のみ)		

授業の目標(Course Objectives)

学生が資本主義を分析するための理論的な基礎を学習することで学位授与方針の学修成果に掲げる「経済現象を歴史的・理論的に考察する」能力を身につけることができる。

Students will learn the theoretical fundamentals for analyzing capitalism to acquire the ability to historically and theoretically examine the economic phenomena necessary to achieve the learning required for the degree.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、資本主義の成り立ちやその構造をわかりやすく説明します。経済学にはいろいろな考え方がありますが、この講義はマルクス経済学の立場から資本主義とは何かについて接近します。春学期では、商品あるいは貨幣とは何かといったことから解き明かし、次に労働力はなぜ商品となるのか、資本とは何か、剰余はどうして生まれるかなど資本主義という社会を理解するうえで必要な基礎的な用語を順序立てて講義します。秋学期には、資本主義を社会全体の視点から分析し、資本の再生産とは何か、利潤率の動向、銀行・信用制度の形成、そして中央銀行の金融政策など、より現実に近い資本主義の仕組みや再生産と信用制度との関係を講義します。講義では適宜、現実の経済問題と絡めながら資本主義の様相を話しますが、現実は複雑です。その現実を分析する道具(理論)を身につけ、その道具を使って現実を考えることが重要なのです。この講義はそのための考える手立てを与えます。

This lecture explains in an easy-to-understand manner the origins of capitalism and its structure. There are various ways of thinking about economics, and students consider what capitalism is from the perspective of Marxian economics in this lecture. During the spring semester what a commodity and currency are is explained, and then the basic terminology necessary for understanding why labor is a commodity, what is capital, what creates a surplus, and the society called capitalism are discussed in order. During the fall semester, in this lecture capitalism is analyzed from an overall social perspective so that the subject what of is capitalistic reproduction, the profit rate trends, formation of the banking and credit system, and the central bank financial policies, etc., can be discussed looking at the relationships among a near realistic capitalism framework, reproduction, and the credit system. This lecture discusses the aspects of capitalism in conjunction with actual economic problems, but the reality is complex. It is important to acquire the tools (theory) to analyze that reality and then use those tools to consider the reality. This lecture gives students a way to do that.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 商品論 1
3. 商品論 2
4. 商品論 3
5. 貨幣論 1
6. 貨幣論 2
7. 貨幣論 3
8. 剰余価値論 1
9. 剰余価値論 2
10. 剰余価値論 3
11. 賃金論
12. 資本蓄積論 1
13. 資本蓄積論 2
14. ここまでのまとめ
15. 現代社会の課題と秋学期の課題との関係について
16. 資本循環論
17. 資本回転論
18. 再生産論 1
19. 再生産論 2
20. 再生産論 3

21. 利潤論 1
22. 利潤論 2
23. 利潤論 3
24. 信用論 1
25. 信用論 2
26. 信用論 3
27. 信用論 4
28. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認してください。

成績評価方法・基準（Evaluation）

中間テスト(35%)/最終テスト(Final Test)(35%)/小テスト等(30%)
総合評価は春学期の評価と秋学期の評価の平均によって行われる。また、平常点のなかみ等については担当教員に確認すること。当科目の中間テスト、最終テストは各学期末の定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、受験すること。
2019 年 4 月 10 日付変更(変更理由：誤記訂正のため)【変更前の記載内容】筆記試験 70%　平常点 30%（小テスト）

テキスト（Textbooks）

1. 佐々木隆治、2016 年、『カール・マルクス』、ちくま新書 (ISBN:9784480068897)

参考文献（Readings）

1. 大谷禎之介、2001 年、『社会経済学』、桜井書店

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX087／初級ミクロ経済学1 (Introductory Microeconomics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	長原　徹(NAGAHARA TORU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次A～G組　経済政策学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

授業の内容(Course Contents)

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 市場における需要と供給の作用
3. 弾力性とその応用
4. 需要、供給、および政府の政策
5. 消費者、生産者と市場の効率性
6. 課税の費用
7. 国際貿易1
8. 国際貿易2
9. 外部性
10. 公共財と共有資源
11. 税制の設計
12. 生産の費用
13. 競争市場における企業
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後にブラックボードにアップする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

N・グレゴリー・マンキュー、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2013 年
神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX088／初級ミクロ経済学2 (Introductory Microeconomics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学の基本的な考え方とその内容を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	長原　徹(NAGAHARA TORU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次A～G組　経済政策学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

授業の内容(Course Contents)

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのか、などを分析する学問である。この授業では、独占や寡占の際に商品の価格や取引数量がどのように決定されているのかや、生産要素市場で価格や取引数量がどのように決定されるのか、などの問題を考える。その後少し進んだ話題、消費者の最適な意思決定や不確実性と情報の経済学などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how monopoly and oligopoly determine the product price and transaction volume and how prices and transaction volumes are determined in the production factors market. After that, slightly more advanced topics will be considered, such as consumer optimum decision making, uncertainty, and the economics of information.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 独占
3. 独占的競争
4. 寡占
5. 生産要素市場
6. 勤労所得と差別
7. 所得不平等と貧困
8. 消費者選択の理論1
9. 消費者選択の理論2
10. ゲーム理論入門
11. 不確実性と情報の経済学1
12. 不確実性と情報の経済学2
13. 社会的選択の理論入門
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後にブラックボードにアップする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

N・グレゴリー・マンキュー、『マンキュー経済学 Ⅰミクロ編』、東洋経済新報社、2013 年

神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX089／初級ミクロ経済学1 (Introductory Microeconomics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	西林　勝吾(NISHIBAYASHI SHOGO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次H～O組　会計ファイナンス学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

授業の内容(Course Contents)

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 市場における需要と供給の作用
3. 弾力性とその応用
4. 需要、供給、および政府の政策
5. 消費者、生産者と市場の効率性
6. 課税の費用
7. 国際貿易1
8. 国際貿易2
9. 外部性
10. 公共財と共有資源
11. 税制の設計
12. 生産の費用
13. 競争市場における企業
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後にブラックボードにアップする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

N・グレゴリー・マンキュー、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2013 年
神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX090／初級ミクロ経済学2 (Introductory Microeconomics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学の基本的な考え方とその内容を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	西林　勝吾(NISHIBAYASHI SHOGO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次H～O組　会計ファイナンス学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

授業の内容(Course Contents)

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのか、などを分析する学問である。この授業では、独占や寡占の際に商品の価格や取引数量がどのように決定されているのかや、生産要素市場で価格や取引数量がどのように決定されるのか、などの問題を考える。その後少し進んだ話題、消費者の最適な意思決定や不確実性と情報の経済学などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how monopoly and oligopoly determine the product price and transaction volume and how prices and transaction volumes are determined in the production factors market. After that, slightly more advanced topics will be considered, such as consumer optimum decision making, uncertainty, and the economics of information.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 独占
3. 独占的競争
4. 寡占
5. 生産要素市場
6. 勤労所得と差別
7. 所得不平等と貧困
8. 消費者選択の理論1
9. 消費者選択の理論2
10. ゲーム理論入門
11. 不確実性と情報の経済学1
12. 不確実性と情報の経済学2
13. 社会的選択の理論入門
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後にブラックボードにアップする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

N・グレゴリー・マンキュー、『マンキュー経済学 Ⅰミクロ編』、東洋経済新報社、2013 年

神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／経済原論B (Principles of Economics B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マクロ経済学とミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	藤原　新(FUJIWARA ARATA) 長原　徹(NAGAHARA TORU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科（2015 年度以前入学者のみ）		

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学びます。経済をミクロ視点、マクロ視点の両面から見ることの意義を理解し、具体的な問題にアプローチしてそれらを分析する力を養います。

In this lecture students learn the fundamentals of microeconomics and macroeconomics while considering a variety of economic problems that face modern society. Understand the significance of looking at the economy from both the micro and macro viewpoints and gain the ability to approach and analyze specific problems.

授業の内容(Course Contents)

この授業は、いずれも春学期に行われる「初級マクロ経済学1」「初級ミクロ経済学1」を受講します。それゆえ、1 週間に 2 度授業が行われるので注意してください。
「初級マクロ経済学1」では、マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まり、失業はなぜ生じるのか、また金融財政政策の理論的基礎はどこにあるのかといった課題について体系的に扱います。
「初級ミクロ経済学1」では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのか、またその時に消費者や生産者の厚生がどのようになるのかなどについて考えるとともに、政府の諸規制や税が経済に与える影響について学びます。

This class is taken by students who attended Introductory Macroeconomics 1 and Introductory Microeconomics 1, both held during the spring semester. In addition to that, be aware that this class is held twice a week.
In Introductory Macroeconomics 1 students gain an understanding of the meaning of macroeconomic indicators and their contents while such problems as how the GDP and other measures are determined, why unemployment occurs, and where is the theoretical basis for monetary and fiscal policy are addressed systematically.
In Introductory Microeconomics 1 students learn how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

授業計画(Course Schedule)

1. マクロ経済学：マクロ経済学と現代経済
2. マクロ経済学：経済学の歴史とマクロ経済学の形成
3. マクロ経済学：経済循環と国民経済計算①
4. マクロ経済学：経済循環と国民経済計算②
5. マクロ経済学：所得と雇用の決定理論①
6. マクロ経済学：所得と雇用の決定理論②
7. マクロ経済学：雇用と所得の決定理論③
8. マクロ経済学：雇用と所得の決定理論④
9. マクロ経済学：貨幣と金融①
10. マクロ経済学：貨幣と金融②
11. マクロ経済学：貨幣と金融③
12. マクロ経済学：IS-LM 分析①
13. マクロ経済学：IS-LM 分析②
14. マクロ経済学：IS-LM 分析と経済政策
15. ミクロ経済学：ミクロ経済学と現代経済
16. ミクロ経済学：市場における需要と供給の作用
17. ミクロ経済学：弾力性とその応用
18. ミクロ経済学：需要、供給、および政府の政策
19. ミクロ経済学：消費者、生産者と市場の効率性
20. ミクロ経済学：課税の費用
21. ミクロ経済学：国際貿易①

22. ミクロ経済学：国際貿易②
23. ミクロ経済学：外部性
24. ミクロ経済学：公共財と共有資源
25. ミクロ経済学：税制の設計
26. ミクロ経済学：生産の費用
27. ミクロ経済学：競争市場における企業
28. ミクロ経済学：まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

マクロ経済学もミクロ経済学も理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義についてテキストの当該部分を読んでおくこと、また当日の内容を十分時間をかけて復習すること。そのほか、受講の準備や進め方については、初回の授業に出席したり、各教員に確認すること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

初級マクロ経済学1　最終テスト(40%)/初級ミクロ経済学1　最終テスト(40%)/両授業のリアクションペーパーなど(20%)
当科目の最終テストは定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、最終テスト 2 回（初級マクロ経済学 1，初級ミクロ経済学 1）を受験すること。

テキスト（Textbooks）

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学（第4版）』、岩波書店 (ISBN:9784000266567)
このテキストは　初級マクロ経済学1　で利用します
初級ミクロ経済学1のテキストについては、初回授業時に指示します

参考文献（Readings）

1. N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学 I　ミクロ編』、東洋経済新報社
2. 神取道宏、2014、『ミクロ経済学の力』、日本評論社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX092／経済原論B (Principles of Economics B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マクロ経済学とミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	藤原　新(FUJIWARA ARATA) 池田　毅(IKEDA TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科（2015 年度以前入学者のみ）		

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学びます。経済をミクロ視点、マクロ視点の両面から見ることの意義を理解し、具体的な問題にアプローチしてそれらを分析する力を養います。

In this lecture students learn the fundamentals of microeconomics and macroeconomics while considering a variety of economic problems that face modern society. Understand the significance of looking at the economy from both the micro and macro viewpoints and gain the ability to approach and analyze specific problems.

授業の内容(Course Contents)

この授業は、いずれも春学期に行われる「初級マクロ経済学1」「初級ミクロ経済学1」を受講します。それゆえ、1 週間に 2 度授業が行われるので注意してください。
「初級マクロ経済学1」では、マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まり、失業はなぜ生じるのか、また金融財政政策の理論的基礎はどこにあるのかといった課題について体系的に扱います。
「初級ミクロ経済学1」では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのか、またその時に消費者や生産者の厚生がどのようになるのかなどについて考えるとともに、政府の諸規制や税が経済に与える影響について学びます。

This class is taken by students who attended Introductory Macroeconomics 1 and Introductory Microeconomics 1, both held during the spring semester. In addition to that, be aware that this class is held twice a week.
In Introductory Macroeconomics 1 students gain an understanding of the meaning of macroeconomic indicators and their contents while such problems as how the GDP and other measures are determined, why unemployment occurs, and where is the theoretical basis for monetary and fiscal policy are addressed systematically.
In Introductory Microeconomics 1 students learn how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

授業計画(Course Schedule)

1. マクロ経済学：マクロ経済学と現代経済
2. マクロ経済学：経済学の歴史とマクロ経済学の形成
3. マクロ経済学：経済循環と国民経済計算①
4. マクロ経済学：経済循環と国民経済計算②
5. マクロ経済学：所得と雇用の決定理論①
6. マクロ経済学：所得と雇用の決定理論②
7. マクロ経済学：雇用と所得の決定理論③
8. マクロ経済学：雇用と所得の決定理論④
9. マクロ経済学：貨幣と金融①
10. マクロ経済学：貨幣と金融②
11. マクロ経済学：貨幣と金融③
12. マクロ経済学：IS-LM 分析①
13. マクロ経済学：IS-LM 分析②
14. マクロ経済学：IS-LM 分析と経済政策
15. ミクロ経済学：ミクロ経済学と現代経済
16. ミクロ経済学：市場における需要と供給の作用
17. ミクロ経済学：弾力性とその応用
18. ミクロ経済学：需要、供給、および政府の政策
19. ミクロ経済学：消費者、生産者と市場の効率性
20. ミクロ経済学：課税の費用
21. ミクロ経済学：国際貿易①

22. ミクロ経済学：国際貿易②
23. ミクロ経済学：外部性
24. ミクロ経済学：公共財と共有資源
25. ミクロ経済学：税制の設計
26. ミクロ経済学：生産の費用
27. ミクロ経済学：競争市場における企業
28. ミクロ経済学：まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

マクロ経済学もミクロ経済学も理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義についてテキストの当該部分を読んでおくこと、また当日の内容を十分時間をかけて復習すること。そのほか、受講の準備や進め方については、初回の授業に出席したり、各教員に確認すること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

初級マクロ経済学1　最終テスト(40%)/初級ミクロ経済学1　最終テスト(40%)/両授業のリアクションペーパーなど(20%)
当科目の最終テストは定期試験期間中に行う。試験方法発表掲示を確認の上、最終テスト 2 回（初級マクロ経済学 1，初級ミクロ経済学 1）を受験すること。

テキスト（Textbooks）

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学（第4版）』、岩波書店 (ISBN:9784000266567)
このテキストは　初級マクロ経済学1　で利用します
初級ミクロ経済学1のテキストについては、初回授業時に指示します

参考文献（Readings）

1. N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学 I　ミクロ編』、東洋経済新報社
2. 神取道宏、2014、『ミクロ経済学の力』、日本評論社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX093／初級マクロ経済学1 (Introductory Macroeconomics 1)		
担当者名 (Instructor)	藤原　新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次A～G組　経済政策学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

The fundamentals of macroeconomics are learned while considering a variety of economic problems that face modern society. The objective of this course is to understand the significance of looking at the economy from the macro viewpoint and to understand how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものなのかなどといった問題を体系的に扱う。

In Macroeconomics 1, students learn the basics of Keynesian macroeconomic theory. Students gain an understanding of the meaning of macroeconomic indicators and their contents while such problems as how the GDP and other measures are determined, why unemployment occurs, and where is the theoretical basis for monetary and fiscal policy are addressed systematically.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 経済学の歴史とマクロ経済学の形成
3. 経済循環と国民経済計算
4. 経済循環と国民経済計算
5. 所得と雇用の決定理論
6. 所得と雇用の決定理論
7. 所得と雇用の決定理論
8. 所得と雇用の決定理論
9. 貨幣と金融
10. 貨幣と金融
11. 貨幣と金融
12. IS-LM 分析
13. IS-LM 分析
14. IS-LM 分析と経済政策

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

マクロ経済学は理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパーなど(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学　第 4 版』、岩波書店 (ISBN:978-4000266567)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX094／初級マクロ経済学2 (Introductory Macroeconomics 2)		
担当者名 (Instructor)	藤原　新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次A～G組　経済政策学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、現代マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学 1 を基礎に、現代的なマクロ経済学の展開と論争を追い、現代のさまざまな課題にたいしてマクロ経済学がどのように応えていこうとしているのかを理解することが目標である。

The fundamentals of modern macroeconomics are learned while considering a variety of economic problems that face modern society. With a foundation in Macroeconomics 1, the objective is to pursue the developments and disputes in modern macroeconomics and to understand how macroeconomics is applied to various modern problems.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済学 1 の理解の上に立って、マクロ経済学 2 では、為替、貿易、資金の国際移動などといったオープンマクロ経済学、インフレ・デフレと失業、景気変動など現代的課題への対処、マクロ経済学の最近の展開等を扱う。また、有用でありながら取り上げられることの少ない産業連関分析についても取り上げる。

Based on the understanding gained in Macroeconomics 1, in Macroeconomics 2 recent developments in macroeconomics, such as open market economics including currency exchange, trade, and the international flow of funds, and the handling of such modern problems as inflation, deflation, unemployment, and economic fluctuations will be addressed. In addition, input-output analysis, which is useful be seldom looked at, will be addressed.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. IS-LM 分析
3. IS-LM 分析と経済政策
4. オープンエコノミーのマクロ経済学
5. オープンエコノミーのマクロ経済学
6. 失業とインフレーション
7. インフレ供給曲線
8. インフレ需要曲線とマクロ均衡
9. 新古典派マクロ経済学
10. 消費・貯蓄と投資
11. 景気変動と経済成長
12. 産業連関分析
13. 産業連関分析
14. 産業連関分析

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

マクロ経済学は理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパーなど(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学　第 4 版』、岩波書店 (ISBN:978-4000266567)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX095／初級マクロ経済学1 (Introductory Macroeconomics 1)		
担当者名 (Instructor)	二宮　健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次H～O組　会計ファイナンス学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

The fundamentals of macroeconomics are learned while considering a variety of economic problems that face modern society. The objective of this course is to understand the significance of looking at the economy from the macro viewpoint and to understand how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものなのかなどといった問題を体系的に扱う。

In Macroeconomics 1, students learn the basics of Keynesian macroeconomic theory. Students gain an understanding of the meaning of macroeconomic indicators and their contents while such problems as how the GDP and other measures are determined, why unemployment occurs, and where is the theoretical basis for monetary and fiscal policy are addressed systematically.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 経済学の歴史とマクロ経済学の形成
3. 経済循環と国民経済計算
4. 経済循環と国民経済計算
5. 所得と雇用の決定理論
6. 所得と雇用の決定理論
7. 所得と雇用の決定理論
8. 所得と雇用の決定理論
9. 貨幣と金融
10. 貨幣と金融
11. 貨幣と金融
12. IS-LM 分析
13. IS-LM 分析
14. IS-LM 分析と経済政策

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

マクロ経済学は理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパーなど(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学　第 4 版』、岩波書店 (ISBN:978-4000266567)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX096／初級マクロ経済学2 (Introductory Macroeconomics 2)		
担当者名 (Instructor)	二宮　健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年次H～O組　会計ファイナンス学科2～4年次		

授業の目標(Course Objectives)

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、現代マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学 1 を基礎に、現代的なマクロ経済学の展開と論争を追い、現代のさまざまな課題にたいしてマクロ経済学がどのように応えていこうとしているのかを理解することが目標である。

The fundamentals of modern macroeconomics are learned while considering a variety of economic problems that face modern society. With a foundation in Macroeconomics 1, the objective is to pursue the developments and disputes in modern macroeconomics and to understand how macroeconomics is applied to various modern problems.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済学 1 の理解の上に立って、マクロ経済学 2 では、為替、貿易、資金の国際移動などといったオープンマクロ経済学、インフレ・デフレと失業、景気変動など現代的課題への対処、マクロ経済学の最近の展開等を扱う。また、有用でありながら取り上げられることの少ない産業連関分析についても取り上げる。

Based on the understanding gained in Macroeconomics 1, in Macroeconomics 2 recent developments in macroeconomics, such as open market economics including currency exchange, trade, and the international flow of funds, and the handling of such modern problems as inflation, deflation, unemployment, and economic fluctuations will be addressed. In addition, input-output analysis, which is useful be seldom looked at, will be addressed.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. IS-LM 分析
3. IS-LM 分析と経済政策
4. オープンエコノミーのマクロ経済学
5. オープンエコノミーのマクロ経済学
6. 失業とインフレーション
7. インフレ供給曲線
8. インフレ需要曲線とマクロ均衡
9. 新古典派マクロ経済学
10. 消費・貯蓄と投資
11. 景気変動と経済成長
12. 産業連関分析
13. 産業連関分析
14. 産業連関分析

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

マクロ経済学は理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパーなど(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学　第 4 版』、岩波書店 (ISBN:978-4000266567)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX098／中級マクロ経済学 (Intermediate Macroeconomics)		
担当者名 (Instructor)	伊藤　宣広(ITO NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

戦後のマクロ経済学の展開は、ケインズ経済学の受容、拡張、否定という過程をたどったが、それによって現代の経済学が得たもの、失ったものについて総括する。

The post-war development of macroeconomics followed the process of accepting, expanding, and then rejecting Keynesian economics, and what has been gained and lost by modern economics from this is summarized.

授業の内容(Course Contents)

主にケインズ以後のマクロ経済学の各種モデルを解説する。これらの枠組みを用いて、財政政策や金融政策の効果および有効性について考える。
なお、基本的なケインジアン・モデル(45 度線モデルと IS-LM モデル)は学習済みという前提で講義を進めるため、受講にあたっては留意されたい。

Mainly a variety of post-Keynesian macroeconomic models will be explained. These frameworks will be used to consider the effects and effectiveness of monetary policy and fiscal policy.
This lecture proceeds with the assumption that the basic Keynesian models (45-degree line model, IS-LM model) have been studied, so please take note of that when attending this course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 開放経済(1)
3. 開放経済(2)
4. マンデル＝フレミング・モデル(1)
5. マンデル＝フレミング・モデル(2)
6. 総需要-総供給モデル(1)
7. 総需要-総供給モデル(2)
8. ソロー・モデル
9. ハロッド＝ドーマー・モデル
10. フィリップス曲線と自然失業率仮説
11. ルーカス批判と合理的期待形成仮説
12. ニュー・ケインジアン
13. リカード＝バローの等価定理
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

基礎知識の積み重ねが重要となるため、毎回、ノートやプリントの内容を復習すること。
講義では特定の教科書は使用しないが、自習用の教材を希望する受講者のために、初回講義で各種テキストを紹介する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

使用しない。(毎週プリントを配布する)

参考文献(Readings)

講義中に適宜、紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX099／初級ミクロ経済学1 (Introductory Microeconomics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ミクロ経済学の基本的な考え方とその基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	西林　勝吾(NISHIBAYASHI SHOGO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	会計ファイナンス学科(2015 年度以前入学者のみ)		

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学の基本的な考え方を理解すること、そのミクロ経済学の基本的な考え方を使って、経済の具体的な問題にアプローチし、分析できるようになること

The objective of this course is to understand the basic concepts of microeconomics and use those basic concepts to be able to approach and analyze specific economic problems.

授業の内容(Course Contents)

ミクロ経済学の入門的な内容を講義する。ミクロ経済学とは、個々の消費者や生産者がどのような経済的な意思決定を行っているのか、その結果として市場において商品の価格や取引量がどのように決まっているのかなどを分析する学問である。この授業では、市場における需要と供給の作用がどのように商品の価格や取引数量を決定しているのかや、その時に消費者や生産者の厚生がどうなるのか、また政府の様々な規制や税などは経済にどのような影響を与えているのか、などの問題を考える。

The lecture covers the introductory contents for microeconomics. Microeconomics is the field of study that examines how individual consumers and producers make their economic decisions and how the product price and transaction volumes are decided in the resulting market. In this class students consider such problems as how the supply and demand actions in the market determine the product price and transaction volume, how that affects the formation of consumers and producers, and what impact the various regulations and taxes, etc., of the government have on the economy.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 市場における需要と供給の作用
3. 弾力性とその応用
4. 需要、供給、および政府の政策
5. 消費者、生産者と市場の効率性
6. 課税の費用
7. 国際貿易1
8. 国際貿易2
9. 外部性
10. 公共財と共有資源
11. 税制の設計
12. 生産の費用
13. 競争市場における企業
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義はパワーポイントを用いて行う。パワーポイントは授業前あるいは授業後にブラックボードにアップする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

N・グレゴリー・マンキュー、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2013 年
神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014 年

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX100／初級マクロ経済学1 (Introductory Macroeconomics 1)		
担当者名 (Instructor)	二宮　健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	会計ファイナンス学科（2015 年度以前入学者のみ）		

授業の目標(Course Objectives)

現代社会を取り巻くさまざまな経済問題とかかわらせながら、マクロ経済学の基礎を学ぶ。経済をマクロの視点で見ることの意義を理解し、ケインズ的なマクロ経済学の理論に基づいて、所得や雇用がどのように決まるのかを理解できるようになることを目標とする。

The fundamentals of macroeconomics are learned while considering a variety of economic problems that face modern society. The objective of this course is to understand the significance of looking at the economy from the macro viewpoint and to understand how income and employment are determined based on Keynesian macroeconomic theory.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済学 1 では、ケインズ的なマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。マクロ経済指標の意味と内容を理解するとともに、GDP などがどのように決まるのか、失業はなぜ生じるのか、金融・財政政策の理論的基礎はどのようなものなのかなどといった問題を体系的に扱う。

In Macroeconomics 1, students learn the basics of Keynesian macroeconomic theory. Students gain an understanding of the meaning of macroeconomic indicators and their contents while such problems as how the GDP and other measures are determined, why unemployment occurs, and where is the theoretical basis for monetary and fiscal policy are addressed systematically.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 経済学の歴史とマクロ経済学の形成
3. 経済循環と国民経済計算
4. 経済循環と国民経済計算
5. 所得と雇用の決定理論
6. 所得と雇用の決定理論
7. 所得と雇用の決定理論
8. 所得と雇用の決定理論
9. 貨幣と金融
10. 貨幣と金融
11. 貨幣と金融
12. IS-LM 分析
13. IS-LM 分析
14. IS-LM 分析と経済政策

授業時間外（予習・復習等）の学習(Study Required Outside of Class)

マクロ経済学は理論を扱うため、知識の積み重ねが重要である。毎回の講義の内容を十分な時間をかけて復習し理解していなければ、次回以降の講義が理解できなくなる。予習は、テキストの該当箇所を何度も読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパーなど(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 吉川洋、2017、『マクロ経済学　第 4 版』、岩波書店 (ISBN:978-4000266567)

参考文献(Readings)

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX102／中級ミクロ経済学 (Intermediate Microeconomics)		
担当者名 (Instructor)	古川　徹也(FURUKAWA TETSUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では，初級ミクロ経済学1，2を履修したことのある学生を対象に，初級ミクロ経済学で扱えなかった内容や，同じ内容についてより深く理解することを目指す。

This lecture is for students who have already taken Introductory Microeconomics 1 and 2 and provides a deeper understanding of the topics from those courses as well as covering information not introduced in Introductory Microeconomics.

授業の内容(Course Contents)

初級ミクロ経済学ではあまり詳しく触れられないであろう一般均衡モデルや，不完全競争市場の性質を中心に講義する。外部性と公共財，独占と寡占(ゲーム理論の応用)，情報の非対称性について扱う。

This lecture focuses on the general equilibrium model and the behavior of imperfectly competitive markets, both of which may not have been discussed much in Introductory Microeconomics. Externalities, public goods, monopoly and oligopoly (game theory application), and information asymmetry are covered in this lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. 市場均衡:一般均衡モデル
2. エッジワースボックスと厚生経済学の第 1 基本定理
3. 外部性と公共財
4. 独占
5. 静学的ゲーム理論(1)利得行列とナッシュ均衡
6. 静学的ゲーム理論(2)クールノー・モデル，ベルトラン・モデル
7. 動学的ゲーム理論(1)ゲームの木と部分ゲーム完全均衡
8. 動学的ゲーム理論(2)シュタッケルベルク・モデル
9. 動学的ゲーム理論(3)繰り返しゲーム
10. 保険とモラル・ハザード(1)効率的な危険分担
11. 保険とモラル・ハザード(2)モラル・ハザードとその対策
12. 逆選択とシグナリング(1)逆選択とはなにか
13. 逆選択とシグナリング(2)労働市場のシグナリング均衡
14. 秋学期の復習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・「初級ミクロ経済学 1,2」の知識は前提とする。この部分の知識のない人は，下記の教科書の当該部分(1 章から 3 章前半)をよく読んでおくこと。
・微分・偏微分の知識を前提として講義を進める。「経済数学入門」の内容を復習しておくか，並行して身に付けること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終レポート(Final Report)(10%)/随時行う小テスト(10%)
平常点は Blackboard を通じて実施する

テキスト(Textbooks)

1. 神取道宏、2014、『ミクロ経済学の力』、日本評論社 (ISBN:453555756X)
上記のテキストを履修者全員が購入し，講義に持参していることを前提に講義を行う。

参考文献(Readings)

1. 奥野正寛、2008、『ミクロ経済学』、東京大学出版会 (ISBN:4130421271)
2. 尾山大輔・安田洋祐、2013、『改訂版　経済学で出る数学』、日本評論社 (ISBN:4535556598)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ほぼ毎回講義資料(教科書を理解するための補助資料)を Blackboard にアップする予定。それを事前に用意してから講義に出

席することが望ましい。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX105／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX105～108：経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX106／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	山田　康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX105～108：経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX107／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	尾上　選哉(ONOE ELIYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX105～108：経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX108／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	尾上　選哉(ONOE ELIYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX105～108：経済政策学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX109／経済学史1 (History of Economic Doctrines 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	古典派経済学の形成と発展		
担当者名 (Instructor)	佐藤　有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

古典派経済学の形成と発展を通じて，(1)経済学的思考の特質，(2)価値と分配の理論をめぐる論争を理解し，(3)経済学の現在を相対化するための視座を養うことを目的とする。

The purposes of this lecture are to nurture the following perspective through the formation and development of classical economics: (1)characteristics of economic thought, (2)understanding the debate regarding the theory of value and distribution, and (3)relativizing the current state of economics.

授業の内容(Course Contents)

経済学が生まれ出た文脈としての近代自然法や重商主義などから，いかにして経済学が学として自立したか，その過程の考察から始まり，アダム・スミスにおける経済学の生誕の講義で授業の最初のポイントが終了する。次いで，フランス革命論争を経たのちのデイヴィッド・リカードウによる古典派体系の完成と，リカードウ後の種々の経済学の発展を講義する中で，経済学の現在を相対化し，整理するための視座の基礎を提供する。

As the context for the birth of the science of political economy, the lecture begins with tracing the process of how political economy arose as a field of the science from modern natural law and mercantilism to the birth of the science of political economy by Adam Smith. Next will be discussed the completion of the classical economics by David Ricardo after commenting the Malthusian controversy, etc. And then, I will lecture the various developments of economics after Ricardo to provide the fundamental perspective for comparison and organization of the current state of economics.

授業計画(Course Schedule)

1. 世界市場の幕開けと重商主義
2. 近代自然法：ジョン・ロック
3. 重農主義：経済的「剰余」の思想
4. 『国富論』の経済思想(1)：アダム・スミスの思想と生涯
5. 『国富論』の経済思想(2)：価値と分配の理論
6. 『国富論』の経済思想(3)：スミスと経済的自由主義
7. トマス・R・マルサスの経済思想(1)：フランス革命とマルサス『人口論』の衝撃
8. トマス・R・マルサスの経済思想(2)：需給分析と価値と分配の理論
9. デイヴィッド・リカードウの経済思想(1)：価値と分配の古典派理論の完成
10. デイヴィッド・リカードウの経済思想(2)：経済成長，国際分業，貨幣と金融
11. デイヴィッド・リカードウの経済思想(3)：哲学的急進主義とイギリス民主主義論の発展
12. リカードウ後(1)：ジョン・S・ミルの経済思想
13. リカードウ後(2)：カール・マルクスの経済思想
14. 古典派経済学と限界主義：「古典派」と「新古典派」の違い

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

教科書に指定した文献は，授業で取り上げる主要な人物についてのたくさんの記述がある。あらかじめ読んでから授業に臨むこと。また，事前に配布する資料も熟読し，さらに指示された参考文献の関連箇所の読解を通じて理解を深めておこう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題レポート(授業中に指示)(30%)
課題レポートは授業中に指示します。3 回程度を見込んでいます。

テキスト(Textbooks)

1. 小畑二郎、2014 年、『経済学の歴史』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4-7664-2175-0)

参考文献(Readings)

1. モーリス・ドッブ、1976 年、『価値と分配の理論』、新評論 (3033-330108-3177)
2. 中矢俊博、2012 年、『やさしい経済学史』、日本経済評論社 (ISBN:9784818822160)
その他，一次文献（原典）を含む必要な参考文献は，その都度授業中に指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX110／経済学史2 (History of Economic Doctrines 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	金融思想の歴史		
担当者名 (Instructor)	佐藤　有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

18 世紀以来の金融思想の歴史を通じて，貨幣や金融についての私たちのとらえ方が，この 3 世紀の間，真正手形学説・貨幣数量説・古典派貨幣理論という 3 つの枠組みを軸として主に発展してきたことを理解する。

Through the history of monetary thought from the 18th century to today, students will gain an understanding of the three major frameworks of the real-bills doctrine, the quantity theory of money, and classical monetary theory that have developed over the last three centuries, and will also understand how our views on money and finance have continued to be influenced by their frameworks .

授業の内容(Course Contents)

経済の中でとりわけ重要な位置を占める貨幣と金融についての思想の歴史を概観する。金融上の技術や制度の洗練にもかかわらず，金融思想の歴史においては，同じ思考の枠組みが幾度となく再現し，またバブルや金融危機といった似たような災厄が幾度となく繰り返されてきた。こうした金融思想の歴史を概観することで，経済学を作り上げてきた主要な経済学者たちの群像を金融思想とのかかわりにおいて現代に至るまで跡づける。

I will lecture a historical overview of the various ideas of money and finance, the importance of which is, of course, no doubt in any economy. Despite the refinement of monetary devices and systems, the history of monetary thought shows that similar ideas based on the same frameworks have reappeared over time, and evils such as economic bubbles and financial crises have repeatedly occurred. To overview the history of monetary thought will allow students to follow to the present day the relationship between the leading economists, who created economics, and monetary thought. And they will also understand the important aspect of the history of economic thought.

授業計画(Course Schedule)

1. 金融思想史とは何か
2. 真正手形学説：ジョン・ローの金融思想
3. 貨幣数量説：デイヴィッド・ヒュームの金融思想
4. 古典派金融思想の形成：アダム・スミスの金融思想
5. 地金論争と古典派金融論(1)：ヘンリー・ソーントンの『紙券信用論』
6. 地金論争と古典派金融論(2)：デイヴィッド・リカードウの貨幣理論
7. 地金論争と古典派金融論(3)：リカードウの金融政策論と中央銀行論
8. 通貨論争：銀行主義 vs.通貨主義
9. ウォルター・バジョットの原理
10. 純粋信用経済と累積過程：クヌート・ヴィクセルの金融思想と古典派金融思想
11. 20 世紀初頭アメリカの金融思想：J. ラフリン，I. フィッシャー，ハーヴァード学派と古典派金融思想
12. ジョン・メイナード・ケインズの金融思想とその古典派金融論批判
13. ケインズ，シカゴ学派，M. フリードマン
14. まとめ：古典派金融思想の再評価に向けて

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前に配布する資料を熟読しておくこと。また指示された参考文献の関連箇所の読解を通じて理解を深めておきましょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/講義内で指示する課題レポート(30%)
講義中に指示する課題レポートは 3 回程度を予定しています。

テキスト(Textbooks)

1. 平山健二郎、2015 年、『貨幣と金融政策』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-65470-5)

参考文献（Readings）

1. 大友敏明・池田幸弘・佐藤有史（編）、2002 年、『経済思想にみる貨幣と金融』、三嶺書房 (ISBN:4882941457)
2. デビット・レイドラー、2001 年、『貨幣数量説の黄金時代』、同文舘 (ISBN:4495435817)
3. Arie Arnon. 2011 年. *Monetary Theory and Policy from Hume and Smith to Wicksell: Money, Credit, and the Economy*. Cambridge University Press (ISBN:9781107642737)
4. Yuji Sato and Susumu Takenaga (eds). 2013 年. *Ricardo on Money and Finance: A Bicentenary Reappraisal*. Routledge (ISBN:9780415814676)

その他，必要な参考文献は，一次文献（原典）を含め，授業中に指示します。私の講義の基本的主張を知るには，上記 *Ricardo on Money and Fnance* の中の私の章を参考にしてください。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

パワーポイントを使用する講義形式となるが，適宜「板書」もおこなう。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX111／景気変動論1 (Business Cycles 1)		
担当者名 (Instructor)	二宮　健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近代経済学には、大きく分けて古典派経済学とケインズ経済学という2つの学派がある。景気変動、経済成長についても、2つの学派の考え方は異なっている。本講義では、マクロ経済学の基本経済モデルである古典派モデル、ケインズ派モデル(IS-LM モデル)の理論構造を中心に講義する。景気変動、経済成長における議論を理解するためにも、二つのモデルの相違点を十分に理解することが必要不可欠であり、そのモデルを理解することが本講義の目標である。

Modern economics is divided into the two major schools of classical economics and Keynesian economics. How these two schools view economic fluctuations and economic growth also differ. This lecture will mainly discuss the theoretical structure of the classical model and the Keynesian model (IS-LM model), which are the basic economic models of macroeconomics. Sufficiently understanding the differences between these two models is indispensable for understanding the debate regarding economic fluctuations and economic growth, so the objective of this lecture is to understand these two models.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済学の基本モデルである古典派モデル、IS-LM モデル、その2つを時間的視野で統合を試みたマンキューのモデルを中心に学習する。また、サブプライム危機により注目を浴びたミンスキーの金融不安定性仮説など、発展的な内容にも言及する。

This lecture will discuss the fundamental models of macroeconomics, such as the classical model and the IS-LM model, and the Mankiw model that attempts to integrate these two models using a time horizon. Further, this lecture will discuss developing topics, such as Minsky's financial instability hypothesis, which gained attention after the subprime mortgage crisis.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(景気の変動と私たちの暮らし)
2. 我が国における景気の変動
3. ブームと恐慌(＊世界大恐慌、＊バブル経済と長期不況、＊サブプライム危機)
4. 現代の経済とマクロ経済学の考え方
5. 古典派モデル(貨幣数量説モデル)
6. 古典派モデルにおける貨幣の役割
7. ケインズ派モデル(1)(乗数理論とIS・LM モデル)
8. ケインズ派モデル(2)(IS 曲線の導出)
9. ケインズ派モデル(3)(LM 曲線の導出)
10. 財政政策、金融政策の効果
11. 長期と短期のマクロ経済モデル(1)(古典派とケインズ派の統合:マンキューの試み・総需要曲線の導出)
12. 長期と短期のマクロ経済モデル(2)(総供給曲線と総需要管理政策の効果)
13. 金融不安定性仮説と負債効果(＊フィッシャーの負債・デフレーション仮説、＊ミンスキーの金融不安定性仮説、＊負債効果)
14. 古典派経済学とケインズ経済学:再論(まとめ)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習に重点を置くことを勧める。講義を聴くだけではなく、講義中に出てくる数式の意味や、グラフの形状等がどうしてそのように描けるのかを自ら考えて理解することが重要である。数式の使用は不可避である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(95%)/レポート(5%)
平常点は講義中にレポート等を書いてもらうことにより評価する。授業の目標にもあるように、古典派モデルやケインズ派モデル等の理論構造が十分に理解できていることが重要である。詳細は初回のガイダンスで説明する。

テキスト(Textbooks)

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店
2. 中谷武他、2019、『資本主義が分かる経済学』、大月書店
テキストについては、初回ガイダンスで説明をする。説明を聞いてから購入しても良い。

参考文献（Readings）

1. 浅田統一郎、2016、『マクロ経済学基礎講義』、中央経済社
2. 藤原・家森編著、2012、『金融論入門』、中央経済社
3. マンキュー、2017、『マクロ経済学 1・2』、東洋経済新報社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎を習得していることを前提として講義する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX112／景気変動論2 (Business Cycles 2)		
担当者名 (Instructor)	二宮　健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近年、日本のバブル経済やサブプライム問題に端を発した金融危機等、金融的要因によると思われる経済の不安定性や循環が頻発している。本講義では、そのような金融危機や関連する諸議論を理解するために有用な景気循環論、経済成長論を中心に講義する。本講義では、様々な考え方を説明するが、その中には異端の考え方も含まれている。本講義では、そのような考え方も含めた多様な考え方を学習し、現実の景気変動や経済成長を考察するための基礎を習得することを主たる目標とする。

In recent years, the frequent economic instability and cycles are thought to be caused by financial factors, such as the financial crises, etc., triggered by the Japanese bubble economy and the subprime loan problem. This lecture focuses on useful business cycle theory and economic growth theory, which are useful to understand such financial crises and the related debates. The lecture will explain various concepts including heterodox concepts. The main objective of this lecture is for students to study various concepts including these to acquire the foundation necessary to consider actual economic fluctuations and economic growth.

授業の内容(Course Contents)

新古典派の考え方に基づく実体的景気循環論、新古典派成長理論、ケインズ派の考え方に基づく内生的景気循環論、ハロッド・ドーマー・モデル等、景気変動、経済成長に関する多様な考え方を説明する。

This lecture will discuss a variety of concepts relating to economic fluctuation and economic growth, such as the real business cycle theory based on neoclassical thought, neoclassical growth theory, endogenous business cycle theory based on Keynesian thought, and the Harrod-Domar Model.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 古典派モデル(貨幣数量説モデル)
3. 実体的景気循環論(1)
4. 実体的景気循環論(2)
5. ケインズ派モデル(IS-LM モデル)
6. 動学分析(IS-LM モデルの均衡点への収束)
7. 内生的景気循環論(＊カルドア・モデル、＊ミンスキー・サイクル)
8. カルドア型循環モデルと数値シミュレーション
9. 新古典派成長モデル(1)
10. 新古典派成長モデル(2)
11. ハロッド・ドーマー・モデル(1)
12. ハロッド・ドーマー・モデル(2)
13. グッドウィン・モデル
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習に重点を置くことを勧める。講義を聴くだけではなく、講義中に出てくる数式の意味や、グラフの形状等がどうしてそのように描けるのかを自ら考えて理解することが重要である。数式の使用は不可避である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(95%)/レポート(5%)
平常点は講義中にレポート等を書いてもらうことにより評価する。授業の目標にあるように、古典派モデルやケインズ派モデル等の理論構造が十分に理解できていることが重要である。詳細は初回のガイダンスで説明する。

テキスト(Textbooks)

1. 二宮健史郎、2918、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店
2. 二宮健史郎、2016、『金融恐慌のマクロ経済学』、中央経済社
3. 中谷武他、2019、『資本主義が分かる経済学(仮題)』、大月書店

テキストについては、初回ガイダンスで説明をする。説明を聞いてから購入しても良い。

参考文献（Readings）

1. 足立英之他、1998、『初級・マクロ経済学』、有斐閣
2. 三野和雄、2013、『マクロ経済学』、培風館

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

景気変動論1を受講済であることが望ましい。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX113／計量経済学1 (Econometrics 1)		
担当者名 (Instructor)	安藤　道人(ANDO MICHIHITO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

計量経済学の基礎を学び、実証分析を行う際に必要となる知識を身に着ける。計量経学1では伝統的な計量経済学の基礎を学ぶ。

Learn the basics of econometrics and acquire the knowledge necessary for conducting empirical analysis. The basics of traditional econometrics are studied in Econometrics 1.

授業の内容(Course Contents)

学部レベルの計量経済学の基礎を学ぶ。確率・統計の復習から入り、単回帰分析や多重回帰分析などの基礎事項を学んだあとに、非線形下記モデルや線形確率・ロジット・プロビットモデルの分析を学ぶ。計量経済学2で取り上げる、より現代的な分析フレームや分析手法を意識しつつ、伝統的な計量経済学の考え方の基本を身に着けることに重点を置く。授業に理解に必要な数学レベルは、テキストである田中隆一(2015)「計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ」の数学レベルであるが、適宜、必要に応じて解説する。

The basics of undergraduate-level econometrics are studied. The course begins with a review of probability and statistics and then moves to the study of basic items, such as simple linear regression analysis and multiple regression analysis, before studying non-linear regression models, linear probability, and logit/probit models. Econometrics 2 focuses on acquiring the basics of traditional econometrics while considering more modern analytical frameworks and analytical techniques. The mathematics level required to understand the course is the mathematics level of “First Steps in Econometrics: An Encouragement of Empirical Analysis,” Ryuichi Tanaka (2015), which is the text, and additional explanation will be given as necessary.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 確率・統計の復習
3. 単回帰分析の基礎:回帰係数
4. 単回帰分析の基礎:決定係数
5. 単回帰分析の基礎:推定と仮説検定1
6. 単回帰分析の基礎:推定と仮説検定2
7. 説明変数が二値変数のときの回帰分析
8. 不均一分散と均一分散
9. 多重回帰分析
10. 非線形回帰分析:多項式
11. 非線形回帰分析 2:対数変換
12. 目的変数が二値変数の場合の回帰分析:線形確率モデル
13. 目的変数が二値変数の場合の回帰分析:ロジット・プロビット
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、授業の復習を行い、授業の内容を理解した上で次の授業にのぞむようにして下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中隆一、2015、『計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ』、有斐閣 (ISBN:978-4641150287)

参考文献(Readings)

1. ストック＆ワトソン、2016、『入門計量経済学』、共立出版 (ISBN:978-4320111462)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講義は、講義ノートに沿って行います。教科書や参考書については初回授業時に説明します。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX114／計量経済学2 (Econometrics 2)		
担当者名 (Instructor)	安藤　道人(ANDO MICHIHITO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

計量経済学の基礎を学び、実証分析を行う際に必要となる知識を身に着ける。計量経済学2ではミクロ計量経済学における政策評価分析や統計的因果推論の基礎を学ぶ。

Learn the basics of econometrics and acquire the knowledge necessary for conducting empirical analysis. In Econometrics 2 students learn the fundamentals of policy evaluation analysis and statistical causal inference used in microeconometrics.

授業の内容(Course Contents)

ミクロ計量経済学における政策評価分析・統計的因果推論の基礎を学ぶ。ミクロ計量経済学における統計的因果推論や政策評価分析の基礎理論を学ぶ。計量経済学とりわけ現代的なミクロ計量経済学では、単に回帰分析を行った結果を「因果効果」と解釈するのではなく、「どのような場合に回帰分析や他の統計分析の分析結果を因果効果と解釈することができるのか」を詳細に検討することがスタンダードとなっている。

したがって、本講義では、計量経済学1で学んだ計量経済学の基礎をベースに、このような「統計的因果推論」の考え方に基づいた分析手法や分析デザインを学ぶ。また実際の論文で用いられている分析例を紹介しながら、具体的な分析の考え方や分析手順についても学ぶ。

授業の理解に必要な数学レベルは、テキストである田中隆一(2015)「計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ」に順じたものとし、適宜、必要に応じて解説する。

Students learn the fundamentals of policy evaluation analysis and statistical causal inference used in microeconometrics. Students learn the basic theory of statistical causal inference and policy evaluation analysis used in microeconometrics. In econometrics, especially modern microeconometrics, results using regression analysis are not automatically interpreted as "causal effects," and the standard is to consider in detail "in which cases can the analytical results of regression analysis and other statistical analysis be interpreted as causal effects?"
Therefore, in this lecture students learn analytical techniques and analysis design based on the concepts of this type of "statistical causal inference" based on the econometric basics studied in Econometrics 1. In addition, specific analytical concepts and analysis procedures will be studied while examples of analysis used in actual scholarly papers are introduced.
The mathematics level required to understand the course is the mathematics level of "First Steps in Econometrics: An Encouragement of Empirical Analysis," Ryuichi Tanaka (2015), which is the text, and additional explanation will be given as necessary.

授業計画(Course Schedule)

1. 因果推論・実験・疑似実験の考え方
2. 回帰分析の基礎
3. 回帰分析の応用
4. マッチング推定の基礎
5. マッチング推定の応用
6. パネルデータ分析の基礎
7. パネルデータ分析の応用
8. 差の差法の基礎
9. 差の差法の応用
10. 操作変数法の基礎
11. 操作変数法の応用
12. 回帰不連続分析の基礎
13. 回帰不連続分析の応用
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、授業の復習を行い、授業の内容を理解した上で次の授業にのぞむようにして下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中隆一、2015、『計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ』、有斐閣 (ISBN:978-4641150287)
講義ノート中心に授業を行います。教科書や参考書の扱いについては初回授業で説明します。

参考文献(Readings)

1. 伊藤 公一朗、2017、『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、光文社 (ISBN:978-4334039868)
2. 中室牧子、津川友介、2017、『「原因と結果」の経済学――――データから真実を見抜く思考法』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478039472)
3. 森田果、2014、『実証分析入門 データから「因果関係」を読み解く作法』、日本評論社 (ISBN:978-4535557932)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

計量経済学1の知識を前提とするため、計量経済学1を履修済みであることを奨励する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX120／数理経済学 (Mathematical　Economics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済分析への数学の適用		
担当者名 (Instructor)	長原　徹(NAGAHARA TORU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、経済学で使用される数学的手法を徹底的に習得することを目的とする。具体的には、制約つき最大化、最小化問題の解き方や、行列を使った産業連関分析などを紹介していくつもりである。微分や行列の計算まで中学・高校までの数学を復習しつつ、経済学のなかでそうした数学的手法がどのように活用されるかなどを紹介していく予定である。
こうした数学的手法の習得ももちろん大事だが、より重要なことはこうした手法が経済分析のなかでどのように適用されるかを理解することである。そこで、授業ではできる限り現実の経済への適用例を紹介していくつもりである。

The purpose of this lecture is to give through training in the mathematical methods used in economics. Specifically, constrained maximization, how to solve minimization problems, and industry related analysis using matrices will be introduced. Junior high school and high school mathematics, such as differential and matrix calculation, will be reviewed and how those mathematics techniques are used in economics will be introduced.
Of course, practicing these mathematical techniques is important, but more important is understanding how these techniques are applied to analyze economics. As far as possible, in this class I also want to introduce examples of applications in the real economy.

授業の内容(Course Contents)

経済学で使用される数学的手法の紹介と、問題演習による理解の深化。そして、経済分析への適用例の紹介を行っていく。

The students' understanding will be deepened by introducing the mathematical techniques used in economics and by practicing problems. Examples of application to economic analysis will also be introduced.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：数理経済学とはどのような学問か、経済分析に数学を用いることの意義は何か
2. ミクロ経済学における数学的手法の適用例
3. マクロ経済学における数学的手法の適用例
4. いろいろな関数と微分の計算(1)：関数の種類
5. いろいろな関数と微分の計算(2)：応用例
6. 積分の計算とその応用
7. 産業連関分析
8. 行列の計算と産業連関分析への応用
9. 産業連関分析の事例紹介
10. 多変数関数の微分
11. 多変数関数の極値問題とラグランジュ未定乗数法
12. 関数方程式(1)：1階の差分方程式
13. 関数方程式(2)：微分方程式と位相図
14. 講義の総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で取り組んだ問題演習や小テストを復習することが望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)／小テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

授業資料を毎回配布する。

参考文献(Readings)

1. 三土修平、1996、『初歩からの経済数学【第 2 版】』、日本評論社 (ISBN:4-535-55044-1)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX121／応用社会経済学1 (Applied Political Economy 1)		
担当者名 (Instructor)	堀内　健一(HORIUCHI KENICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

資本主義経済が生み出した現代における貨幣・金融システムのしくみとその特質を明らかにします。とくに「マネー資本主義」とも呼ばれる現代の資本主義経済を、アメリカを軸とした国際通貨体制(ドル体制)の枠組みから理解し、問題点、展望を考察します。

The frameworks and characteristics of the modern monetary and financial systems born from the capitalistic economy are explained. In particular, the international monetary system centering on the United States (dollar regime) framework will be used to understand the contemporary capitalistic economy called “bottom-line capitalism” and to consider its problems and vision.

授業の内容(Course Contents)

本講義では社会経済学で展開された資本主義的生産の一般的研究、基礎理論を前提して、現状の具体的な諸問題について理論的分析を進めていきます。データや資料等をできるだけ多く活用しながら、経済問題の根本的な解明と、経済理論の実証を試みます。

「マネー資本主義」とドル体制との関連が本講義の軸となります。現代経済ではいわゆる「カネ余り」が構造化し、グローバルなマネーゲームと結びついて、世界的な金融危機(2008 年のリーマンショック)や欧州各国の財政危機(2010 年のギリシャショック等)といった世界的な経済システムの危機を顕在化させてきました。こうした危機は条件がそろえば依然として今日でも起きうる状況です。ではなぜ、今日の世界では経済危機を招くほどの投機的な金融取引が生まれ、膨大な金融資産が恒常的に形成されるのでしょうか。それは社会経済学で取り扱われた商品・貨幣・資本・信用といった基本的範疇の変容に基づいています。つまり、中央銀行が発券する不換銀行券が一般的に流通する不換制とそれを基礎にアメリカの不換通貨ドルが国際通貨として流通していることに究極の根拠があります。その意味とメカニズムを明らかにします。

This lecture proceeds with a theoretical analysis current specific problems assuming students have an understanding of the general research and basic theory regarding the capitalistic production deployed by political economy. As much data and materials as possible will be used as students gain a fundamental understanding of economic problems and try verifying economic theory.
This lecture focuses on “bottom-line capitalism” and the US dollar regime. In the contemporary economy, the so-called “excessive liquidity” is structured and linked to the global money game and presents a risk to the global economic system, such as the global financial crisis (2008 Lehman Brothers Shock) and the fiscal crises in European countries (2010 Greece Shock, etc.). Such crises can occur today if the right conditions present themselves. So why in today’s world do speculative transactions that invite financial crises occur and how are massive financial assets constantly formed? That is based on the basic categories of products, money, capital, and credit that are dealt with by political economy. In other words, the ultimate basis for this is the non-convertible system where the non-convertible notes issued by central banks are generally in circulation and the circulation as an international currency of the American non-convertible dollar based on that system. The meaning of that in the corresponding mechanism is explained.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス・イントロダクション――ドル体制と日本経済
2. アメリカのバブル(1)家計部門の過剰消費
3. アメリカのバブル(2)住宅ブーム
4. 現代の金融システムと金融取引の特徴
5. 証券化商品の開発とリーマンショック
6. 世界金融危機とその政策的対応
7. 欧州債務危機とそのメカニズム
8. 中国の経済発展とアメリカのバブル(1)
9. 中国の経済発展とアメリカのバブル(2)
10. アメリカの対外赤字の拡大とドル残高－国際収支統計からの理解
11. アメリカを起点とした国際的資金循環
12. 国際通貨ドルと外国為替相場(対ドル円相場)
13. 金ドル交換停止と変動相場制への移行
14. まとめ――「マネー資本主義」の展開とドル体制

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回、配付する講義レジュメおよび各自のノートを利用して、復習をしてください。授業では過去に配付したプリントにも言及するのでファイリングをしていつも用意してください。現実の経済事象や経済政策について興味･関心をもってアンテナを張ってほしいと思います。たとえば、『日本経済新聞』をよく読んで下さい。質問も積極的にして下さい。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

使用しません。毎回、講義資料をプリントして配付します。

参考文献（Readings）

1. 小西一雄、2014、『資本主義の成熟と転換－現代の信用と恐慌』、桜井書店 (ISBN:978-4905261-20-9)
2. 大谷禎之介、2001、『図解 社会経済学』、桜井書店 (921190-08-9)
3. 小西一雄他、2000、『金融論』、青木書店 (ISBN:4-250-99021-4)

その他講義中に指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

社会経済学1,2 を履修していることが望ましいです。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX122／応用社会経済学2 (Applied Political Economy 2)		
担当者名 (Instructor)	堀内　健一(HORIUCHI KENICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

資本主義経済における生産力の発展と富の増大が現代においてどのように現れ、それがどのような問題を生み出すのかを明らかにします。とくに「長期停滞」と呼ばれる現代の日本経済を戦後の資本蓄積の動向と金融のありかたという枠組みから分析し、その意味、問題点、展望を考察します。

This course explains how the development of production capacity and the increase in wealth occurred in the capitalistic economy, how that appears in modern times, and what problems it generates. In particular, the contemporary Japanese economy, which has been said to be in "long-term stagnation," will be analyzed from the framework of the post-war capital accumulation trends and state of finance, and the corresponding meaning, problems, and prospects will be considered.

授業の内容(Course Contents)

本講義では社会経済学で展開された資本主義的生産の一般的研究、基礎理論を前提して、現状の具体的な諸問題について理論的分析を進めていきます。データや資料等をできるだけ多く活用しながら、経済問題の根本的な解明と、経済理論の実証を試みます。

現代日本における資本主義経済の発展は生産力を飛躍的に高め、国民生活に物的・貨幣的な豊かさを急速にもたらし、安定した福祉社会を実現しました。これは人々が勤勉であり、企業の経営戦略や政府の経済・産業政策が功を奏したからであることは疑いありません。しかし、1990 年代以降、企業の資本蓄積は停滞し、不安定雇用の増大、実質賃金の下落といった人々の労働や生活の条件悪化が構造的に現れるようになりました。長期停滞の到来です。この諸要因と歴史的意味をマルクス経済学の利潤率の傾向的低下法則と「貨幣資本の蓄積と現実資本の蓄積」という分析枠組みから明らかにします。

This lecture proceeds with a theoretical analysis current specific problems assuming students have an understanding of the general research and basic theory regarding the capitalistic production deployed by political economy. As much data and materials as possible will be used as students gain a fundamental understanding of economic problems and try verifying economic theory.
The development of a capitalistic economy in modern Japan significantly increased productivity and rapidly made the lives of its citizens materialistically and monetarily abundant and achieved a stable welfare society. There is no doubt the people were industrious and the business strategies of the companies and the government economic and industrial policies were successful. However, since the 1990's business capital accumulation has stagnated, unstable employment has increased, and a decline in real wages has created structural problems where the working and living conditions of the people have worsened. Thus the advent of long-term stagnation. These factors and their historical meaning will be examined from the analytical framework of the Marxian economics law of the tendency for the rate of profit to fall and "money capital accumulation and real capital accumulation."

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス・イントロダクション――日本の景気循環と長期停滞
2. 価値の生産と利潤の生産(資本主義的生産の基本的しくみ)
3. 資本の蓄積(貨幣資本の蓄積と現実資本の蓄積)と景気循環
4. 生産力の発展と利潤率の傾向的低下法則
5. 高度経済成長期の資本蓄積
6. 高度成長期の金融システムの特徴
7. 日本の輸出大国化とアメリカの「ドル特権」
8. 日本企業の財テクブームとバブル経済
9. バブル経済期の資本蓄積と企業金融の特徴
10. 日本における長期停滞の諸現象とその諸要因
11. 日本企業の多国籍化(生産拠点の海外移転)
12. 日本企業の内部留保増大と雇用条件の悪化
13. 日本における利子率の超低位安定と銀行資本の蓄積
14. まとめ――今日の日本経済と展望

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、配付する講義レジュメおよび各自のノートを利用して、復習をしてください。授業では過去に配付したプリントにも言及するのでファイリングをしていつも用意してください。現実の経済事象や経済政策について興味･関心をもってアンテナを張ってほしいと思います。たとえば、『日本経済新聞』をよく読んで下さい。質問も積極的にして下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業参加度(20%)

テキスト(Textbooks)

使用しません。毎回、講義資料をプリントして配付します。

参考文献(Readings)

1. 小西一雄、2014、『資本主義の成熟と転換－現代の信用と恐慌』、桜井書店 (ISBN:978-4905261-20-9)
2. 堀内健一、2015、『現代日本における銀行資本の蓄積』、唯学書房 (ISBN:978-4902225-99-0)
3. 丸山惠也他編著、2015、『経済成長の幻想―新しい経済社会に向けて―』、創成社 (ISBN:978-4-7944-3166-0)
4. 大谷禎之介、2001、『図解 社会経済学』、桜井書店 (921190-08-9)

その他講義中に指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

社会経済学1,2 を履修していることが望ましいです。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX123／経済統計学1 (Economic Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公的統計の主な枠組みと展開		
担当者名 (Instructor)	櫻本　健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

公的統計全体のフレームを鳥瞰して、統計データを扱えるようになること。

To be able to utilize statistical data by taking a bird's-eye-view of the overall framework of public statistics.

授業の内容(Course Contents)

ビッグデータの時代を迎えて、統計作成の方法が大きく変化してきている。この授業では公的統計全体を大まかにイメージできるよう独自のテキストで講義を行う。公的統計制度は、概ね全体としての外側の枠組みと、国民経済計算体系を中心とした内側のフレームの 2 種類に分かれる。授業は前後半で分かれる。授業の前半では公的統計全体の枠組みを説明する。この範囲は統計調査士資格と内容が一部重複する。授業後半では経済統計で主に用いられる分析手法から、季節調整法といったいくつかの分野での演習を行う。

As we welcome the age of big data, the methods for creating statistics are changing greatly. The lecture in this class uses its own text to give students a rough image of public statistics overall. The public statistics system can be divided into an external framework that is roughly comprehensive and an internal framework focused on the system for national accounts. The class is divided into first and second halves. During the first half of the course the overall framework of public statistics is explained. The scope of the lecture partially corresponds with the contents necessary for the qualification of Survey Statistician. The second half of the course is a seminar covering the analytical techniques and seasonal adjustment methods mainly used for economic statistics.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、統計検定、本学の統計教育の紹介
2. 公的統計制度と統計の種類
3. 国勢調査の歴史と近代統計の成立
4. 統計法、統計作成機構、統計の分類、二次的利用と罰則
5. 公的統計の範囲、統計機構、統計調査の実務
6. 日本の主な統計と概要
7. 生産・サービスの定義
8. 経済センサス・大規模統計調査、活動単位
9. 生産統計の分析、産業分類(推計分類、集計分類)
10. 公的統計の 2 次的利用制度を想定した疑似ミクロデータ分析
11. 統計ソフト SPSS によるクロス集計
12. 移動平均法、季節調整
13. e-Stat に基づくの GIS 分析 Jstat-Map
14. アンケート集計、統計・GIS 分野のソフトウェア

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で配布する『統計調査士対策コンテンツ』、『統計調査士試験得点源問題集』を予習と復習に活用する。さらに授業で課された多くの課題に対処することを求める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/提出物(40%)

テキスト(Textbooks)

立教大学社会情報教育研究センター『統計調査士対策コンテンツ』、『統計調査士試験得点源問題集』を使用する。上記立教のテキストは学内無料で提供しているため、配布予定である。必要な資料・データは、授業時に配布する。

参考文献(Readings)

社会情報教育研究センターのコンテンツも利用する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業に当たって統計学1・2を事前に履修しておくことが望ましい。授業は統計検定・統計調査士分野を網羅するように行う。授業を受けながら、統計調査士及び統計検定 3 級の資格受験をお勧めする。設備や環境に左右されることから、授業内容に多少の変更があり得る。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX124／経済統計学2 (Economic Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	体系的な加工統計と展開		
担当者名 (Instructor)	櫻本　健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

主要な経済分野の体系に沿った、解釈に無理のない統計分析を学ぶことができる。経済分析において基礎的な分析力に加えて応用力を身に付ける。

Students can learn statistical analysis for coming to reasonable conclusions in accordance with the systems of the major economic fields. In addition to gaining fundamental analytical ability, they will acquire the ability to apply it to economic analysis.

授業の内容(Course Contents)

公的統計の内側に国民経済計算を中心とした体系が位置付けられており、同体系全体を見ていくことができれば、マクロ統計全体の設計を鳥瞰することができる。国民経済計算の設計とその周辺の統計整備を通じて、マクロ経済指標の発展を学ぶ。

The system that focuses on national economic calculations is positioned as being inside of public statistics, and if an overall view of this system is possible, it will be possible to design comprehensive macro statistics with a bird's eye view. Learn through national economic calculation design and the peripheral statistical preparation how macroeconomic indicators developed.

授業計画(Course Schedule)

1. 国民経済計算体系の成立～ケインズからストーンへ
2. GDP の成り立ち、産業別付加価値、クズネッツによるプロダクト・フロー法
3. GDP と三面測度の構成経済循環、フローとストック
4. SNA で構成される勘定、マクロの主要指標の調べ方
5. 成長の要因分解(需要側)、ソロー残差に基づく成長の要因分解
6. 価格に基づく指数理論と実質化
7. 物価と実質化の応用、OECD データによる GDP 国際比較(為替レート及び PPP)
8. 政府、公的機関、民間の格付けと統計
9. 金融統計、経済予測の展開
10. 生産性統計、人間開発指標、幸福度
11. 国際収支統計(BOP)、付加価値貿易(TiVA)
12. 供給使用・投入産出(産業連関)体系
13. 経済波及効果分析(均衡産出高モデルと均衡価格モデル)
14. 授業のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時は概念の説明と PC による演習を行う。授業での内容を理解して概念を実際に計算して説明できることが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/提出物(40%)
主に提出物の内容など平常点(日常の授業態度も含む)が 40%、最終試験 60%で評価する。

テキスト(Textbooks)

1. 李潔、2018、『入門 GDP 統計と経済波及効果分析』、大学教育出版 (ISBN:4864295360)
第 7 回までの内容と投入産出分析はテキストに基づく。テキスト以外必要な資料・データは、授業時に配布する。

参考文献(Readings)

1. 作間逸雄、2002、『SNA が分かる経済統計学』、有斐閣 (ISBN:464112194X)
2. ダイアン・コイル、2015、『GDP――〈小さくて大きな数字〉の歴史』、みすず書房 (ISBN:4622079119)
3. 宮川努、2018、『生産性とは何か―日本経済の活力を問いなおす』、ちくま新書 (ISBN:9784480071897)
社会情報教育研究センターのコンテンツも一部で利用する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本授業は統計検定の統計調査士の試験範囲と一部重なるため、授業を受けつつ、ついでに 11 月に資格取得を目指すことをお勧めする。設備や環境に左右されることから、授業内容に多少の変更があり得る。この数年授業を受講して、大学院、データサイエンス系企業の研究員といた専門性が高い仕事に就く受講者が増えてきているため、それに対応して高度な知識を平易に学ぶ機会としたい。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX125／欧州経済史 (European Economic History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	どのようにしてヨーロッパ経済は成長したのか		
担当者名 (Instructor)	菊池　雄太(KIKUCHI YUTA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ヨーロッパ経済の歴史を学ぶことで現代経済システムのバックグラウンドについて理解を深める。
現在のヨーロッパ経済の特徴と，それが抱える問題を，歴史的に考察できるようになる。

Studying European economic history will deepen understanding of the background behind the contemporary economic systems.
To be able to historically consider the characters of the current European economy and the problems it faces.

授業の内容(Course Contents)

ヨーロッパは世界ではじめて近代的な，つまり現代に直接つながるような経済成長をした地域とされています。したがって，ヨーロッパの経済史を学ぶことは，現代経済の仕組み，経済成長，人びとの経済生活や豊かさなどについて深く理解することにつながります。
本講義では，近代的経済成長がなぜヨーロッパで始まったのかを，人びとや企業，国家といった経済主体の果たした役割に注目して考察します。そこから，ヨーロッパ経済の特徴が明らかになります。
時代は古代から近代までと長期的にとり，ヨーロッパ内のさまざまな地域にフォーカスすることで，幅広い知識と視野を身に着けます。

Europe is the first region in the world to undergo modern economic growth—in other words economic growth that directly links to today. Therefore, studying European economic history leads to a deep understanding of the contemporary economic framework, economic growth, and people's economic lives and abundance.
In this lecture students consider why modern economic growth started in Europe and focuses on the rules played by such economic agents as people, businesses, and national governments. That will reveal the characteristics of the European economy.
A long time span from ancient times to today will be looked at while focuses on various regions within Europe to acquire a broad knowledge and perspective.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 近代経済の起原
   フォーカス：イタリアと地中海
3. 事業組織とネットワークの拡大
   フォーカス：北ドイツ
4. ヨーロッパの異文化接触と対外進出
   フォーカス：ポルトガル
5. 植民地化のはじまり
   フォーカス：スペイン
6. 最初の近代経済
   フォーカス：オランダ
7. 中核地域と周辺地域の形成
   フォーカス：ポーランドとロシア
8. フィードバックと総合的考察
9. 経済大国の覇権争い ①
   フォーカス：イギリスとフランス
10. 経済大国の覇権争い ②
    フォーカス：イギリスとフランス
11. 工業化と資本主義の確立
    フォーカス：イギリス
12. 工業化とグローバル経済
    フォーカス：イギリスとドイツ
13. 総合的考察 ①

過去と現在からみたヨーロッパ経済

14. 総合的考察 ②
過去と現在からみたヨーロッパ経済

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

基礎知識の確認・整理のために高校時代に使用した世界史の教科書に目を通すと授業の理解が深まり効果的な学習ができる。
復習では配布物やノートのほか，授業ごとに挙げる文献が参考になる。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(80%)/課題の考察（授業時間の中で行う講義内容の簡単なまとめ，考察）(20%)

テキスト（Textbooks）

とくに指定しない。

参考文献（Readings）

授業中に提示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX126／現代ヨーロッパ経済史 (Economic History of Modern Europe)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代ヨーロッパ経済の諸課題の背景		
担当者名 (Instructor)	菊池　雄太(KIKUCHI YUTA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代ヨーロッパ経済の諸諸問題について歴史的に理解できるようになる。ヨーロッパが形成した経済の仕組みは現代世界にとってどのような意味をもつのか，そして今後どのような展望があり得るのか，問題意識をもって具体的に論じられるようになる。

To be able to understand in historical terms the various problems of the contemporary European economy. Keeping various problems in mind, the class will hold specific discussions about what meaning the economic system formed by Europe has for the modern world and what is the probably outlook for the future.

授業の内容(Course Contents)

現在のヨーロッパ経済は，さまざまな課題に直面しています。それらの課題について理解を深め，展望を得るために，19 世紀から現在に至るヨーロッパ経済の歴史を学びます。
授業の最初では，「現代」ヨーロッパ経済の形成について概観し，諸論点を整理します。その上で，イギリスとドイツを例にとり，それぞれの経済の特徴を比較検討し，地域ごとの相違や，互いにどのように関連し合っているのかを理解します。
授業の内容は現在の社会と直接的なつながりをもちます。そのため，各国経済史の講義では，最初に現状分析を行い，そこから歴史的背景に遡るというスタイルをとります。

The contemporary European economy faces various issues. Students will study European economic history from the 19th century to the present to deepen their understanding of those issues.
At the beginning of the class an overview of the formation of the “contemporary” European economy will be given and the various points at issue organized. In addition to this, the cases of UK and Germany will be taken and a comparative study of their respective characteristics done to understand the regional differences and how they mutually relate.
The class contents have a direct link with contemporary society. For that reason, during the lectures regarding the economic history of each country, at first an analysis of the current situation will be made and then the class will go back and look at the historical background.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 概観：現代ヨーロッパ経済の形成①
3. 概観：現代ヨーロッパ経済の形成②
4. 概観：現代ヨーロッパ経済の形成③
5. イギリスを中心にみた現代ヨーロッパ経済史①
6. イギリスを中心にみた現代ヨーロッパ経済史②
7. イギリスを中心にみた現代ヨーロッパ経済史③
8. イギリスを中心にみた現代ヨーロッパ経済史④
9. フィードバックまたは講義内容の補足
10. ドイツを中心にみた現代ヨーロッパ経済史①
11. ドイツを中心にみた現代ヨーロッパ経済史②
12. ドイツを中心にみた現代ヨーロッパ経済史③
13. ドイツを中心にみた現代ヨーロッパ経済史④
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習として授業計画に合わせて参考文献に目を通しておくと，授業での理解が深まり効果的な学習ができる。復習では配布物やノートのほか，授業ごとに挙げる文献が参考になる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/課題の考察(毎回の授業時間中に行う)(20%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 原輝史・工藤章（編）、1996、『現代ヨーロッパ経済史』、有斐閣
2. デレック・H・オルドクロフト、2002、『20 世紀のヨーロッパ経済』、晃洋書房
3. 田中素香、2014、『現代ヨーロッパ経済』、有斐閣

その他の関連考文献を授業中に提示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX127／日本経済史1 (Japanese Economic History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近世(江戸期)から近代(明治期)の日本経済の歩み		
担当者名 (Instructor)	岡部　桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学部の学位授与方針に掲げる「幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる，自立的な思考能力をもった人材」となるべく，300 年間の日本経済の歩みをマクロ・ミクロの双方の視点から理解し，歴史に対する複眼的な視点を身につけ，長期的な視野から経済事象を把握・理解する方法を獲得する。

As far as possible to “Be people with independent thinking ability who can respond to the changes in economic society with a broad perspective and flexible mind” as stated in the College of Economics degree granting policy, this course will provide understanding of the most recent 300-year economic history of Japan from both the micro and macro perspectives and students will acquire a multiple perspective view of history as well as the methods for grasping and understanding economic phenomena from a long-term perspective.

授業の内容(Course Contents)

1600 年前後の近世社会の成立から明治時代までの日本経済の変化を解説する。現在の日本経済は歴史的に形成されたものであり,日本経済史の学習は,現代の経済社会の成り立ちを考え,また理論経済学,経済政策，国際経済といった経済学の諸分野を理解するうえでも必要かつ有益である。日本の経済社会の仕組みを歴史的な視点から考える思考を養い，現在の我々が直面する諸問題の理解を図りたい。

The changes in Japan’s economy from the formation of early-modern society around 1600 until the Meiji Era are explained. The Japanese economy today has a historical formation, so studying Japanese economic history is necessary and useful for considering the formation of economic society and for understanding various fields of economics, such as theoretical economics, economic policy, and international economics. Students develop the ability to consider Japanese economic society from a historical perspective and to understand the problems that we face today.

授業計画(Course Schedule)

1. 日本経済史 1(近世から近代)へのアプローチ
2. 徳川時代の経済システム
3. 徳川時代経済の構造転換
4. 株仲間の経済的機能
5. 徳川時代の金融政策
6. 開放体系への接続
7. 近世の商家経営
8. 明治前期のマクロ経済
9. 殖産興業政策と在来産業
10. 新技術の導入と会社制度の定着
11. 政商と明治
12. 財閥と財界
13. 日本における企業家理念の構築
14. 近世から近代の日本経済史をどのように捉えるか？

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前に授業計画を参考に参考文献の該当部分を一読しておけば，理解がさらに深まる。また，歴史の大きな流れや知識に不安のある学生は，高等学校レベルの世界史・日本史の教科書・参考書に目を通しておくこと。その他，必要に応じて Blackboard 等により指示をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/中間レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

1. 沢井実・谷本雅之、2016、『日本経済史』、有斐閣 (ISBN:9784641164888)
2. 老川慶喜ほか、2002、『日本経済史』、税務経理協会 (ISBN:9784419040253)
3. 宮本又郎、2012、『日本経済史』（改訂新版）、放送大学教育振興会 (ISBN:9784595313639)
4. 宮本又郎、2007、『日本経営史』、有斐閣 (ISBN:9784641163003)
5. 宮本又郎ほか、2014、『1からの経営史』、碩学舎 (ISBN:9784502089008)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【授業形態】パワーポイントを使用した講義形式で，映像資料を適宜活用する。
【課題に対するフィードバック】最終授業時に，全体に対するフィードバックを行う。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX128／日本経済史2 (Japanese Economic History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代(大正・昭和期)の日本経済の発展		
担当者名 (Instructor)	岡部　桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済学部の学位授与方針に掲げる「幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる，自立的な思考能力をもった人材」となるべく，現在の日本に直接つながる経済の歴史的変化を学び，国際社会における日本の位置を再確認することによって，国際的・長期的な視野から経済事象を把握・理解する方法を獲得する。

As far as possible to “Be people with independent thinking ability who can respond to the changes in economic society with a broad perspective and flexible mind” as stated in the College of Economics degree granting policy, in this course students learn about the historical changes in the economy that are directly linked to Japan today and reconfirm the position of Japan in international society so that they can acquire the methods for grasping and understanding economic phenomena from an international and long-term perspective.

授業の内容(Course Contents)

明治後期-第 1 次世界大戦期-両大戦間期-戦時統制経済期，4 つの時代の日本経済の変化を解説する。現在「グローバル化」という言葉が広く喧伝され，あたかも世界は 1 つの価値観によって一体化された印象を受ける。しかし，歴史的にみれば，経済システムは，国家や地域によって極めて多彩・多様に展開し，今日でもその多様性は失われてはいないと思われる。本講義では経済発展の多様性・多様な経路に注目し，歴史的視点から日本経済発展の特徴を浮き彫りにしたい。

Changes in the Japanese economy during the four periods of Late Meiji Era, World War I, Interwar Period, and Wartime Regulations Period will be explained. The word “globalization” is widely used today to give the impression as if the world was one society with the same values. However, from a historical perspective, the development of economic systems differs greatly among countries and regions and this diversity remains today. This lecture focuses on the diversity and diverse paths of economic development and reveals the characteristics of Japanese economic development from a historical perspective.

授業計画(Course Schedule)

1. 日本経済史 2(大正・昭和期)へのアプローチ
2. 大隈財政と松方財政
3. 第一次世界大戦と日本経済
4. 不況下の中の成長-1920 年代の日本経済-
5. 金解禁と井上財政
6. 日本型人事労務管理と経営家族主義
7. 科学的管理法と「日本的」生産システム(1)
8. 科学的管理法と「日本的」生産システム(2)
9. 高橋財政(1)
10. 高橋財政(2)
11. 戦時経済への途
12. 戦時経済(1)
13. 戦時経済(2)
14. 日本経済史と現代経済

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前に授業計画を参考に参考文献の該当部分を一読しておけば，理解がさらに深まる。また，歴史の大きな流れや知識に不安のある学生は，高等学校レベルの世界史・日本史の教科書・参考書に目を通しておくこと。その他，必要に応じて Blackboard 等により指示をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/中間レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 沢井実・谷本雅之、2016、『日本経済史』、有斐閣 (ISBN:9784641164888)
2. 宮本又郎、2012、『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振 (ISBN:9784595313639)
3. 宮本又郎ほか、2007、『日本経営史』(新版)、有斐閣 (ISBN:9784641163003)
4. 宮本又郎ほか、2014、『1からの経営史』、碩学舎 (ISBN:9784502089008)
5. 粕谷誠、2012、『ものづくり日本経営史』、名古屋大学出版会 (ISBN:9784815807153)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【授業形態】パワーポイントを使用した講義形式で，映像資料を適宜活用する。
【課題に対するフィードバック】最終授業時に，全体に対するフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX129／アメリカ経済史 (American Economic History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アメリカ国内市場の成立		
担当者名 (Instructor)	水野　里香(MIZUNO RIKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代のアメリカ経済の基盤が形成された過程について、経済史の視点から理解する。
授業で取り上げた個別の事項について説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解することを通じて、現代の経済社会にたいする考察を深める。

Students gain an understanding from a historical perspective of the process that formed the foundation of the contemporary American economy.
In addition to students becoming able to explain the individual matters raised during the lecture, by understanding the factors behind that formation and their results and impact they will gain the ability to deeply consider contemporary economic society.

授業の内容(Course Contents)

アメリカ合衆国が植民地時代を経たのちに建国され、ヨーロッパをしのぐ国内市場を成立させた 19 世紀末までの間に焦点をあて、時系列に沿いながら、その間に起きた経済的事象を取り上げて、アメリカ経済の発展過程について解説する。

This course focuses on the United States of America from the colonial period through the founding of the country until the late 19th century when it established a domestic market that surpassed that of Europe while following a chronology to look at the economic phenomena that occurred during that time to explain the development process of the American Economy.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アメリカ発見と植民地時代
3. 独立革命
4. 新国家の成立
5. 産業革命期の経済(1)
6. 産業革命期の経済(2)
7. 南北戦争
8. 巨大企業体制の成立(1)
9. 巨大企業体制の成立(2)
10. 独占と反トラスト法
11. 金融と産業
12. 革新主義運動の展開(1)
13. 革新主義運動の展開(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回授業の終わりに次週に取り上げる内容の簡単な説明をするので、次週のテーマや対象となる年代に関して、参考文献や高校までの世界史のテキスト等によって確認(予習)しておくことが望ましい。
授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。同時に、理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考図書等を用いて復習する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(20%)/平常点(10%)

テキスト(Textbooks)

とくに使用しません。

参考文献(Readings)

1. 岡田泰男、2000、『アメリカ経済史』、慶應義塾大学出版会

2. 藤瀬浩司、2004、『新訂欧米経済史』、放送大学出版会
3. 谷口明丈・須藤功 編、2017、『現代アメリカ経済史』、有斐閣
その他の文献については、適宜授業内で必要に応じて紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性があります。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX130／現代アメリカ経済史 (Economic History of Modern America)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	海外進出と影響力の拡大		
担当者名 (Instructor)	水野　里香(MIZUNO RIKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

世界経済や国際政治の場で影響力を行使するような現代のアメリカが、いかにして形成されたのかを、経済史の視点から理解する。

授業で取り上げた個別の事項について説明できるようになることに加え、その発生要因と結果および影響について理解することを通じて、現代の経済社会にたいする考察を深める。

Understand from a historical perspective how today's America became a country that exercises influence over the world economy and international politics.
In addition to students becoming able to explain the individual matters raised during the lecture, by understanding the factors behind that formation and their results and impact they will gain the ability to deeply consider contemporary economic society.

授業の内容(Course Contents)

第1次世界大戦を経て、国際社会に加わり、そこで次第に中心的な役割を担うようになってゆくアメリカが、経済的にも政治的にも国外への関わりを深めてゆく現代までの期間に焦点をあて、その間にみられた経済的事象を中心に取り上げて、アメリカ経済の発展過程について解説する。

This course focuses on America during the period from World War I, the joining of international society, and as it gradually came to play a central role in the world until today where the country has deepened its foreign involvement both economically and politically while looking at mainly the economic phenomena that occurred during that time to explain the development process of the American Economy.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 第1次世界大戦とアメリカ
3. 世界大恐慌前夜のアメリカ経済
4. 世界大恐慌直後の対応
5. ニューディール政策
6. 第2次世界大戦とアメリカ経済(1)
7. 第2次世界大戦とアメリカ経済(2)
8. IMF・GATT 体制の構築
9. ニューフロンティア
10. 国内産業の衰退と新自由主義
11. ニューエコノミー
12. グローバリゼーションとアメリカ経済(1)
13. グローバリゼーションとアメリカ経済(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回授業の終わりに次週に取り上げる内容の簡単な説明をするので、次週のテーマや対象となる年代に関して、参考文献や高校までの世界史のテキスト等によって確認(復習)しておくことが望ましいです。

授業内で学んだ事柄を、自身の言葉で説明できるようにする。同時に、理解が不十分な箇所については、下記に掲げた参考文献等を用いて復習する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(20%)/平常点(10%)

テキスト(Textbooks)

とくに使用しません。

参考文献（Readings）

1. 岡田泰男、2000、『アメリカ経済史』、慶應義塾大学出版会
2. 藤瀬浩司、2004、『新訂欧米経済史』、放送大学出版会
3. 萩原新次郎・中本悟、2005、『現代アメリカ経済』、日本評論社
4. 中本悟・宮崎礼二、2013、『現代アメリカ経済分析』、日本評論社
5. 渡辺靖編、2014、『現代アメリカ』、新曜社
6. 谷口明丈・須藤功編、2017、『現代アメリカ経済史』、有斐閣

その他の文献については、適宜授業内で必要に応じて紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講義の進捗状況により、授業計画に変更や修正が生じる可能性があります。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX131／アジア経済史1 (Asian Economic History 1)		
担当者名 (Instructor)	湊　照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本を含む近代アジア経済の展開過程について理解し、アジア経済の多様性や、ヨーロッパおよびアメリカとの関係史を把握することを目標とする。

To gain an understanding of the development process of modern Asian economies including Japan for the purpose of grasping the diversity in the Asian economy and the history of its relationship with Europe and America.

授業の内容(Course Contents)

近代アジア経済の展開過程について、開港期から第一次世界大戦期までを中心に講義する。アジアとヨーロッパおよびアメリカとの経済関係を捉えつつ、アジア経済の展開における日本の位置づけを図っていく。なお、本授業は「アジア経済史2」の前編に位置づけられる。

This lecture mainly covers the modern Asian economy developmental process from the port opening period until World War I. The economic relationship between Asia and Europe and America is discussed while considering the positioning of Japan in the development of the Asian economy. This course is positioned as the first part of “Asian Economic History 2.”

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 19 世紀のアジア経済(1)
3. 19 世紀のアジア経済(2)
4. アヘン戦争とアジアの開港(1)
5. アヘン戦争とアジアの開港(2)
6. 日本の明治維新と清の洋務運動
7. 日本の産業革命と日清・日露戦争
8. 日本帝国と植民地(1)
9. 日本帝国と植民地(2)
10. アジア交易圏論(1)
11. アジア交易圏論(2)
12. 第一次世界大戦とアジア経済
13. 中華民国の自立への模索
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ブラックボードに掲載する資料を各自がダウンロードし、予習して出席する。
(基本的には授業中に資料を配布しません。)
ダウンロードした資料に授業中にメモを加えるなどし、授業終了後に復習する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

パワーポイントを使用して講義します。テキストについては適宜、授業中に指示します。

参考文献(Readings)

授業中に提示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業計画に変更がある場合は授業中にお知らせします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX132／アジア経済史2 (Asian Economic History 2)		
担当者名 (Instructor)	湊　照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本を含む近代アジア経済の展開過程について理解し、アジア経済の多様性や、ヨーロッパおよびアメリカとの関係史を把握することを目標とする。

To gain an understanding of the development process of modern Asian economies including Japan for the purpose of grasping the diversity in the Asian economy and the history of its relationship with Europe and America.

授業の内容(Course Contents)

近代アジア経済の展開過程について、1930 年代から 1970 年代までを中心に講義する。アジアとヨーロッパおよびアメリカとの経済関係を捉えつつ、アジア経済の展開における日本の位置づけを図っていく。なお、本授業は「アジア経済史1」の後編に位置づけられる。

This lecture mainly covers the modern Asian economy developmental process from the 1930's to the 1970's. The economic relationship between Asia and Europe and America is discussed while considering the positioning of Japan in the development of the Asian economy. This course is positioned as the second part of "Asian Economic History 1."

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 満洲事変とブロック経済化
3. 日蘭会商と日印会商
4. 中華民国の幣制改革
5. 両大戦間期の「アジア交易圏」
6. 第二次世界大戦とアジア経済
7. アジアの戦後改革と冷戦
8. 冷戦期のアジア経済
9. 開発と援助
10. 中国の社会主義化
11. アジアの輸入代替工業化
12. アジアの輸出志向工業化
13. 中国の「改革開放」
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ブラックボードに掲載する資料を各自がダウンロードし、予習して出席する。
(基本的には授業中に資料を配布しません。)
ダウンロードした資料に授業中にメモを加えるなどし、授業終了後に復習する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

授業中に指示します。

参考文献(Readings)

パワーポイントを使用して講義します。テキストについては適宜、授業中に指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業計画に変更がある場合は授業中にお知らせします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX133／社会思想史 (History of Social Thought)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヨーロッパにおける自然と社会		
担当者名 (Instructor)	板井　広明(ITAI HIROAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ギリシャから 20 世紀までのヨーロッパの社会思想史の概観を理解する。
社会とは何か、思想史とは何かについて自分なりの意見を形成できる。

This course explains an overview of the history of European social thought from the time of ancient Greece until the 20th century.
Students become able to form their own opinions regarding what is society and what is the history of thought.

授業の内容(Course Contents)

古代ギリシャから 20 世紀までの社会思想史の流れを、思想家と関連するトピックを軸にして講義する。毎回、配布するレジュメに基づいて、講義形式を基本とするが、ディスカッション形式も取り入れる予定である。

Topics related to philosophers are discussed while looking at the flow of the history of social thought from the time of ancient Greece until the 20th century. This class will have a lecture format based on the distributed curriculum, but a discussion format will also be incorporated.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに　社会とは　思想とは
2. 自然と人為、ソクラテスとプラトン
3. アリストテレス
4. 原始キリスト教思想
5. 中世から宗教改革へ　ルター、カルヴァン　ヴェーバー
6. 近代哲学：デカルトとベーコン
7. ホッブズ　ロック：社会契約と秩序
8. 平等／不平等：ルソーとマルサス
9. 情念と道徳：ヒューム　スミス
10. 功利主義：ベンサム
11. 人口と資源の制約：マルサス、ジェボンズ
12. 功利主義と定常状態論：J.S.ミル
13. 社会主義：モリス、マルクス
14. ニヒリズム：ニーチェ、ハイデガー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義後は復習をして、諸思想の理解に努めること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/ディスカッション(20%)

テキスト(Textbooks)

毎回レジュメを配布する

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX134／現代社会思想 (Modern Social Thought)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済・社会と倫理		
担当者名 (Instructor)	板井　広明(ITAI HIROAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

・経済あるいは社会と倫理の問題について基本的な概念枠組みを理解し、解説できる。
・現代における喫緊の問題について、歴史を素材にして解説できる。
・現代のグローバルな経済社会における倫理問題について、理論的な観点から自分の意見を主張することができる。

・Be able to understand and explain the basic overview framework of economic and social ethical problems.
・Be able to use history to explain the urgent problems of today.
・ Be able to assert your own opinion from a theoretical perspective regarding the ethical problems in today's global economic society.

授業の内容(Course Contents)

現代のグローバル化した世界における経済・社会の倫理的問題を、18 世紀以降の欧米の社会思想から捉え返す。とりわけ経済における市場の問題、利潤最大化を目的とする企業活動と公正や平等といった規範との衝突を軸にして、CSR、社会的企業、競争、仕事、消費、食、グローバル化に焦点を合わせながら検討する。

Review the economic and social ethical problems in today's globalized world from the social thought in Europe and the United States from the 18th century to today. In particular the consideration will focus on CSR, social enterprises, competition, work, consumption, food, and globalization in view of market problems in the economy and the conflict between enterprise activities to maximize profits and the norms of fairness and equality.

授業計画(Course Schedule)

1. 経済・社会と倫理の問題。現代世界において、なぜ／いかに倫理が問題となるのか
2. 企業の社会的責任論の起源
3. 企業の社会的責任論の現在
4. 社会的企業と利潤追求
5. 社会的企業とソーシャル・キャピタル
6. 格差問題の諸相
7. 個人の自律性・多様性と競争社会
8. 分業とアイデンティティー
9. 承認欲求と仕事
10. 消費者主権：フェアトレードとクレーマー
11. グローバルな貧困と食の問題
12. 食の倫理の諸相
13. グローバル化における国家の責任と公害
14. グローバルな民営化：戦争

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

教科書を予習・復習すること

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/ディスカッション(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐藤方宣、2009、『ビジネス倫理の論じ方』、ナカニシヤ出版 (ISBN:4779503426)

参考文献(Readings)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX137／経済政策論1 (Economic Policy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	複合危機とゆれるグローバル経済		
担当者名 (Instructor)	田中　綾一(TANAKA RYOICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

・リーマンショック以降に展開された政策対応について説明できる
・南欧危機、難民・移民危機、Brexit、トランプ政権誕生など、世界経済の不安定要因について説明できる
・世界経済の今後の方向性について、一定程度論理的・実証的に見通しを示すことができる

・Be able to explain the government policy response developed after the Lehman Brothers Shock.
・Be able to explain the global economic instability factors, such as the Southern European crisis, refugee and immigrant crisis, Brexit, and the birth of the Trump Administration.
・Be able to show logically and empirically to a certain extent the future direction of the world economy.

授業の内容(Course Contents)

以下の各項目について、実例を挙げつつ、テキストの内容に基づいて解説をおこなう
・現代の金融危機と経済危機の実情
・複合危機の過去と現在
・大恐慌と景気理論の系譜
・アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機
・EU・ユーロ圏の複合危機

Explanations will be given based on the contents of the text while looking at actual examples for the following items.
・The actual situation of modern financial crises and economic crises
・The past and present of compound crises
・The lineage of the Great Depression and economic theory
・Transfiguration in America's foreign economic policy and compound crises
・EU and Euro zone compound crises

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 現代の金融危機と経済危機(1)
3. 現代の金融危機と経済危機(2)
4. 複合危機の過去と現在(1)
5. 複合危機の過去と現在(2)
6. 大恐慌と景気理論の系譜(1)
7. 大恐慌と景気理論の系譜(2)
8. アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機(1)
9. アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機(2)
10. アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機(3)
11. EU・ユーロ圏の複合危機(1)
12. EU・ユーロ圏の複合危機(2)
13. EU・ユーロ圏の複合危機(3)
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの該当部分を読んで予習しておくこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 牧野裕・紺井博則・上川孝夫(編)、2017、『複合危機−ゆれるグローバル経済』、日本経済評論社 (ISBN:978-4-8188-2482-9)

参考文献(Readings)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人(編)、2016、『現代国際金融−構図と解明(第 3 版)』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03763-3)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX138／経済政策論2 (Economic Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	複合危機とゆれるグローバル経済		
担当者名 (Instructor)	田中　綾一(TANAKA RYOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

・リーマンショック以降に展開された政策対応について説明できる
・南欧危機、難民・移民危機、Brexit、トランプ政権誕生など、世界経済の不安定要因について説明できる
・世界経済の今後の方向性について、一定程度論理的・実証的に見通しを示すことができる

・Be able to explain the government policy response developed after the Lehman Brothers Shock.
・Be able to explain the global economic instability factors, such as the Southern European crisis, refugee and immigrant crisis, Brexit, and the birth of the Trump Administration.
・Be able to show logically and empirically to a certain extent the future direction of the world economy.

授業の内容(Course Contents)

以下の各項目について、実例を挙げつつ、テキストの内容に基づいて解説をおこなう
・日本型危機の深層と金融政策
・中国の複合危機と人民元国際化
・新興国の複合危機
・複合危機とグローバル・インバランス
・複合危機と国際経済秩序の行方

Explanations will be given based on the contents of the text while looking at actual examples for the following items.
・Underpinnings and financial policies of Japanese crises
・Chinese compound crises and internationalization of the Chinese renminbi
・Emerging country compound crises
・Compound crises and global imbalances
・Compound crises and the direction of international economic order

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 日本型危機の深層と金融政策(1)
3. 日本型危機の深層と金融政策(2)
4. 中国の複合危機と人民元国際化(1)
5. 中国の複合危機と人民元国際化(2)
6. 中国の複合危機と人民元国際化(3)
7. 新興国の複合危機(1)
8. 新興国の複合危機(2)
9. 複合危機とグローバル・インバランス(1)
10. 複合危機とグローバル・インバランス(2)
11. 複合危機とグローバル・インバランス(3)
12. 複合危機と国際経済秩序の行方(1)
13. 複合危機と国際経済秩序の行方(2)
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの該当部分を読んで予習しておくこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 牧野裕・紺井博則・上川孝夫(編)、2017、『複合危機−ゆれるグローバル経済』、日本経済評論社 (ISBN:978-4-8188-2482-9)

参考文献(Readings)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人(編)、2016、『現代国際金融−構図と解明(第 3 版)』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03763-3)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX139／経済政策論1 (Economic Policy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	複合危機とゆれるグローバル経済		
担当者名 (Instructor)	田中　綾一(TANAKA RYOICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科　会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

・リーマンショック以降に展開された政策対応について説明できる
・南欧危機、難民・移民危機、Brexit、トランプ政権誕生など、世界経済の不安定要因について説明できる
・世界経済の今後の方向性について、一定程度論理的・実証的に見通しを示すことができる

・Be able to explain the government policy response developed after the Lehman Brothers Shock.
・Be able to explain the global economic instability factors, such as the Southern European crisis, refugee and immigrant crisis, Brexit, and the birth of the Trump Administration.
・Be able to show logically and empirically to a certain extent the future direction of the world economy.

授業の内容(Course Contents)

以下の各項目について、実例を挙げつつ、テキストの内容に基づいて解説をおこなう
・現代の金融危機と経済危機の実情
・複合危機の過去と現在
・大恐慌と景気理論の系譜
・アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機
・EU・ユーロ圏の複合危機

Explanations will be given based on the contents of the text while looking at actual examples for the following items.
・The actual situation of modern financial crises and economic crises
・The past and present of compound crises
・The lineage of the Great Depression and economic theory
・Transfiguration in America's foreign economic policy and compound crises
・EU and Euro zone compound crises

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 現代の金融危機と経済危機(1)
3. 現代の金融危機と経済危機(2)
4. 複合危機の過去と現在(1)
5. 複合危機の過去と現在(2)
6. 大恐慌と景気理論の系譜(1)
7. 大恐慌と景気理論の系譜(2)
8. アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機(1)
9. アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機(2)
10. アメリカの対外経済政策の変貌と複合危機(3)
11. EU・ユーロ圏の複合危機(1)
12. EU・ユーロ圏の複合危機(2)
13. EU・ユーロ圏の複合危機(3)
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの該当部分を読んで予習しておくこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 牧野裕・紺井博則・上川孝夫(編)、2017、『複合危機−ゆれるグローバル経済』、日本経済評論社 (ISBN:978-4-8188-2482-9)

参考文献(Readings)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人(編)、2016、『現代国際金融−構図と解明(第 3 版)』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03763-3)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX140／経済政策論2 (Economic Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	複合危機とゆれるグローバル経済		
担当者名 (Instructor)	田中　綾一(TANAKA RYOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科　会計ファイナンス学科		

授業の目標(Course Objectives)

・リーマンショック以降に展開された政策対応について説明できる
・南欧危機、難民・移民危機、Brexit、トランプ政権誕生など、世界経済の不安定要因について説明できる
・世界経済の今後の方向性について、一定程度論理的・実証的に見通しを示すことができる

・Be able to explain the government policy response developed after the Lehman Brothers Shock.
・Be able to explain the global economic instability factors, such as the Southern European crisis, refugee and immigrant crisis, Brexit, and the birth of the Trump Administration.
・Be able to show logically and empirically to a certain extent the future direction of the world economy.

授業の内容(Course Contents)

以下の各項目について、実例を挙げつつ、テキストの内容に基づいて解説をおこなう
・日本型危機の深層と金融政策
・中国の複合危機と人民元国際化
・新興国の複合危機
・複合危機とグローバル・インバランス
・複合危機と国際経済秩序の行方

Explanations will be given based on the contents of the text while looking at actual examples for the following items.
・Underpinnings and financial policies of Japanese crises
・Chinese compound crises and internationalization of the Chinese renminbi
・Emerging country compound crises
・Compound crises and global imbalances
・Compound crises and the direction of international economic order

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 日本型危機の深層と金融政策(1)
3. 日本型危機の深層と金融政策(2)
4. 中国の複合危機と人民元国際化(1)
5. 中国の複合危機と人民元国際化(2)
6. 中国の複合危機と人民元国際化(3)
7. 新興国の複合危機(1)
8. 新興国の複合危機(2)
9. 複合危機とグローバル・インバランス(1)
10. 複合危機とグローバル・インバランス(2)
11. 複合危機とグローバル・インバランス(3)
12. 複合危機と国際経済秩序の行方(1)
13. 複合危機と国際経済秩序の行方(2)
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの該当部分を読んで予習しておくこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 牧野裕・紺井博則・上川孝夫(編)、2017、『複合危機−ゆれるグローバル経済』、日本経済評論社 (ISBN:978-4-8188-2482-9)

参考文献(Readings)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人(編)、2016、『現代国際金融−構図と解明(第 3 版)』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03763-3)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX141／日本経済論1 (Structure of Japanese Economy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	戦後日本経済の展開と現在		
担当者名 (Instructor)	林　采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

戦後日本経済の展開プロセスを理解し、長いスパンをもって現在に至る日本経済に対するパースペクティヴを持たせる。その中で成長メカニズムとその限界が、日本経済にとって内外的な非連続性を伴い、新しい対応が求められていることを理解する。

Understand the post-war Japanese economy development process and have a long-span perspective of the Japanese economy up to the present time. Understand that those growth mechanisms and their limitations come with internal and external discontinuity and require new responses.

授業の内容(Course Contents)

戦後日本が敗戦から経済復興のモメンタムを掴み、高度経済成長を成し遂げ、経済大国化を達成したものの、バブル経済とその崩壊によって長期不況が生じるといった日本経済の展開過程を歴史的に認識するとともに、財政問題を抱える日本型福祉の限界、東日本大震災後のエネルギー問題、東アジアの新興工業国の登場に伴う国際分業の再編にも焦点を当てて日本経済に関する構造的把握を試みる。また、13 週目には外部からゲスト講師を招き、新しい論点に関する説明をしてもらう予定である。

Attempt to grasp the structure of the Japanese economy by recognizing the historical development process of the Japanese economy, namely although post-war Japan moved from losing the war to riding the momentum of economic recovery to achieve rapid economic growth and become an economic power, the Bubble Economy and its subsequent collapse initiated a period of long-term recession while also focusing on the limitations of Japanese type welfare, which faces financial problems, the energy problem after the Great East Japan Earthquake, and the reorganization of the international division of labor accompanying the appearance of emerging industrial countries in East Asia. In addition, during the 13th week guest instructors will be invited to explain new issues.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 米占領下の戦後経済改革
3. 戦後経済復興と朝鮮戦争
4. 高度経済成長の起動・展開
5. 日本版大衆消費社会の渡来
6. オイルショックと高度経済成長の終息
7. 安定経済成長と経済大国化
8. 日米貿易摩擦と日米構造協議
9. バブル経済から長期不況へ
10. 東アジアの中での日本経済
11. ポスト 3・11 とエネルギー問題
12. 日本型福祉と NPO の役割
13. ゲスト講師による講演
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義資料・ノートは、事前にアップロードする。また、参考文献も事前に紹介する。予習して講義に参加することを期待する。講義を受講して質問がある場合やより詳しい学習内容が求められる場合はそれに関連する議論や資料紹介の機会を設ける。普段から日本経済に関する疑問や問題意識を持ち、それを理解しようとする姿勢が望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/最終レポート(Final Report)(20%)/ディスカッション技術など(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

講義資料・ノートを配布する。

参考文献（Readings）

1. 橋本寿朗、2011、『現代日本経済』、有斐閣 (ISBN:4641124434)
2. 中村隆英、1993、『日本経済』、東大出版会 (ISBN:4130420429)
3. 武田晴人、2008、『高度成長』、岩波書店 (ISBN:4004310490)
4. 石井里枝、2017、『日本経済史』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623079481)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX142／日本経済論2 (Structure of Japanese Economy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済の現況と課題		
担当者名 (Instructor)	林　采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本経済の現況と今現在直面している課題を理解すること。具体的にはマクロ経済の動向と共に、経済成長の主軸である企業投資に重点を置きながら、それに関連する金融市場や労働市場の特徴を読み取り、これらが持つグローバル経済との関連性を理解して説明できることである。

Understanding the current state of the Japanese economy and the issues it has been facing recently. Specifically, discussion will focus on the macroeconomic trends and business investment, which is the driving force of economic growth, and the objective is to be able to read the characteristics of the related financial and labor markets and to understand and explain their relationship to the global economy.

授業の内容(Course Contents)

マスコミによってよく膾炙される日本経済の課題を取上げ、経済運営の仕組みと経済主体の行動様式を説明し、日本経済の全体像を理解する。授業中 1 回は実務に関わっている方を招き、直接説明をしてもらう。また、時間を取って受講者が作成したレポートをプレゼンしたり、特定の論点について議論したりする機会を設ける。

Bring up the issues of the Japanese economy that are often reported by the mass media, explain the economic management framework and the behavior of economic entities, and understand the overall picture of the Japanese economy. Once during the class a person actually involved with this will be invited to come and explain it directly. In addition, the students will be given time to present reports they have created and an opportunity will be provided for them to discuss specific issues.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 日本経済は果たしてどこに向かうのか： マクロ経済の動向と日本資本主義の未来
3. 超一流企業はなぜ競争力を失ったのか： 超一流企業の危機と生存の生態学
4. 政府の産業政策はもはや無意味なのか： 政府と企業間関係の新しい模索
5. 金融市場は企業投資にどのような役割を果たしているのか： 金融市場と企業金融
6. 果たして規制緩和は有効であるのか： 規制緩和と公企業改革
7. 中小企業は依然として日本産業の競争力基盤であるのか： 経済危機の中の部品製造業
8. 高齢化時代の労働対策はあるのか： 高齢化社会の労働市場
9. グロ-バル経済のなかで日本は依然として経済大国であり続けるのか： 貿易と海外投資
10. 日本企業は海外進出を通じて何を得たのか： 内需不足と日本企業のグローバル経営
11. 経済成長のため、バリヤーを引き下げるべきか： 包括的経済協定の実現可能性とその展望
12. 円高は日本経済の毒か： 円高と円安の日本経済
13. 日本は今海外に差し上げ過ぎなのか： 国際協力に対する日本人の認識と実像
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義資料・ノートは、事前にアップロードする。また、参考文献も事前に紹介する。予習して講義に参加することを期待する。講義を受講して質問がある場合やより詳しい学習内容が求められる場合はそれに関連する議論や資料紹介の機会を設ける。普段から日本経済に関する疑問や問題意識を持ち、それを理解しようとする姿勢が望まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/最終レポート(Final Report)(20%)/ディスカッション技術など(10%)

テキスト(Textbooks)

なし
講義資料・ノートを配布する

参考文献（Readings）

1. 橋本寿朗、2011、『現代日本経済』、有斐閣 (ISBN:4641124434)
2. 東大社研、2005、『「失われた 10 年」を超えてⅠ』、東大出版会 (ISBN:4130302043)
3. 東大社研、2006、『「失われた 10 年」を超えてⅡ』、東大出版会 (ISBN:4130302051)
4. 宮崎勇、2013、『日本経済図説』、岩波書店 (ISBN:400431447X)
5. 岡崎哲二、2017、『経済史から考える 発展と停滞の論理』、日本経済新聞出版社 (ISBN:4532357578)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX143／公共経済学1 (Public Economics 1)		
担当者名 (Instructor)	斉藤　崇(SAITO TAKASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

公共部門の役割および市場の失敗とその是正について理解する。また経済学的な視点を身につけるだけでなく、現実経済における状況についても理解を深める。

Understand the role of the public sector, market failures, and their corrections. Also be able to deeply understand the state of the actual economy in addition to acquiring an economic perspective.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、経済社会が直面するさまざまな課題に対して、公共部門の果たすべき役割について考えていく。講義の内容は大きく4つに分かれ、（1）市場機構の効率性と市場の失敗、（2）公共財の供給、（3）外部性とその対応、（4）自然独占と料金制度、についてそれぞれ学んでいく。

This course considers the role to be played by the public sector in addressing the various issues faced by economic society. The lecture is divided into four major parts where students learn about (1) market mechanism efficiency and market failures, (2) supply of public goods, (3) externalities and dealing with them, and (4) natural monopolies and tariff systems.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 市場のはたらきと市場の失敗
3. パレート効率性
4. 厚生経済学の基本定理
5. 生産と消費の最適条件
6. 公共財の性質と最適供給
7. リンダール均衡とフリーライダー問題
8. 国際公共財の供給：地球環境問題への取り組み
9. 外部性の性質と市場均衡
10. 外部性の補正策（1）：課税と補助金
11. 外部性の補正策（2）：交渉による解決
12. 自然独占
13. 料金制度
14. 授業のまとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習や復習等については、授業内において指示する。各回のプリントを事前に配布するので、あらかじめ目を通しておくこと。分からないところがあれば、早めに担当者に質問すること。またプリントの練習問題を解くことを勧める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントカード(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。プリントを配布して、それに沿って進めていく。授業を休んだ場合は、Blackboard から資料を入手すること。

参考文献(Readings)

講義のなかで適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX144／公共経済学2 (Public Economics 2)		
担当者名 (Instructor)	斉藤　崇(SAITO TAKASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

公共部門の役割や経済社会が直面するさまざまな課題について理解する。特に税や補助金、再分配政策などについて経済学的な視点から考えることができるようになる。また現実経済における状況についても理解を深める。

Understand the role of the public sector and the various issues facing economic society. In particular, be able to consider taxes and subsidies, redistribution policies, etc., from an economic perspective. Also deepen understanding of the state of the real economy.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、経済社会が直面するさまざまな課題に対して、公共部門の果たすべき役割について考えていく。講義の内容は大きく4つに分かれ、(1)税と補助金の効果、(2)公共支出と財政問題、(3)再分配政策、(4)公共選択と地方分権、についてそれぞれ学んでいく。

This course considers the role to be played by the public sector in addressing the various issues faced by economic society. The lecture is divided into four major parts where students learn about (1) effects of taxes and subsidies, (2) public expenditures and fiscal problems, (3) redistribution policies, and (4) public choice and decentralization of authority.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 租税の転嫁と帰着
3. 消費課税の効果
4. 補助金の効果
5. 公共投資の評価
6. 費用便益分析
7. 公債発行の中立命題
8. 公的扶助と失業の罠
9. 不確実性のもとでの意思決定
10. 情報の非対称性と社会保険
11. 公的年金
12. 投票と集団の意思決定
13. 地方公共財の供給
14. 授業のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習や復習等については、授業内において指示する。各回のプリントを事前に配布するので、あらかじめ目を通しておくこと。分からないところがあれば、早めに担当者に質問すること。またプリントの練習問題を解くことを勧める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントカード(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。プリントを配布して、それに沿って進めていく。授業を休んだ場合は、Blackboard から資料を入手すること。

参考文献(Readings)

講義のなかで適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX145／財政学1 (Public Finance 1)		
担当者名 (Instructor)	茂住　政一郎(MOZUMI SEIICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

学生が財政学の基礎的な知識を身につけ、日本や諸外国の財政が直面している課題やその対策について学生自身が考え、意見を発信することができるようになること。

Students acquire fundamental knowledge of public finance and become able to think on their own and express their opinions about the issues facing the financial affairs of Japan and other countries and the corresponding policies.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，現代財政の直面する問題を出発点として、財政の必要性、財政思想の発展、予算論と日本の予算制度，財政社会学の立場から、国際比較の視点も交えつつ講義する。

This lecture will discuss the necessity of public finance, the development of public finance thought, budget theory, and the Japanese budget system from the perspective of fiscal sociology with the view of international comparisons, using the problems faced by Japanese contemporary public finance as the starting point.

授業計画(Course Schedule)

1. 本講義の問題意識
2. 今日の財政の基本問題
3. 財政(public finance)の起こり①:国家はなぜ必要か
4. 財政(public finance)の起こり②:public の出現と貨幣
5. 財政(public finance)の起こり③:public と finance のつながり
6. 財政思想の発展①
7. 財政思想の発展②
8. 財政思想の発展③
9. 日本財政の特徴
10. 予算論と日本の予算制度①
11. 予算論と日本の予算制度②
12. 租税論と日本の税制①
13. 租税論と日本の税制②
14. 財政学 1 のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

配布するレジュメや参考文献を利用して講義毎に復習されることが望ましい。また、新聞やニュースで報道される財政に関する事項について分からないことをその都度調べることも参考となるだろう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/中間レポート(20%)
ただし、中間レポート提出が筆記試験受験の要件となることに注意されたい。

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しない。配布するレジュメに沿って講義を行う。

参考文献(Readings)

1. 伊集守直・高端正幸編著、2018、『福祉財政』、ミネルヴァ書房
2. 池上岳彦、2015、『現代財政を学ぶ』、有斐閣
3. 井手英策、2011、『財政赤字の淵源』、有斐閣
4. 神野直彦、2007、『財政学〔改訂版〕』、有斐閣

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・予備知識のない学生も理解できるよう講義を進めていくので、安心して受講してほしい。

・ただし、「財政学 2」の講義内容に連なるよう講義を進めていく予定なので、本講義の内容の理解を深めるためにも、双方受講されることが望ましい。
・成績評価や試験の詳細について初回の講義において説明するので、受講を希望される学生は必ず出席すること。
・特別な事情がない限り、必ず毎回の講義に出席すること。欠席する場合は、必ず事前に教員に連絡すること。 連絡を受けた場合のみ、資料の配布等、対応する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX146／財政学2 (Public Finance 2)		
担当者名 (Instructor)	茂住　政一郎(MOZUMI SEIICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

学生が財政の基礎的な知識を身につけ、日本や諸外国の財政が直面している課題やその対策について学生自身が考え、意見を発信することができるようになること。

Students acquire fundamental knowledge of public finance and become able to think on their own and express their opinions about the issues facing the financial affairs of Japan and other countries and the corresponding policies.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，日本の国家財政が直面する問題を出発点として、公債論、財政投融資、日本における財政金融政策の展開、社会保障及び教育と財政の関係について、日本及び諸外国の制度の比較を交えつつ，財政社会学の立場から講義する。

This lecture will discuss from the perspective of fiscal sociology while comparing the systems of Japan and other countries using the problems faced by Japanese national public finance as the starting point and considering public debt theory, fiscal investment and loan programs, the development of fiscal and monetary policy in Japan, and the relations among social security, education, and public finance.

授業計画(Course Schedule)

1. 本講義の問題意識
2. 財政学 1 の復習
3. 公債と財政赤字
4. 日本の財政危機とその歴史的特質①:予算編成、公共事業、減税、財政投融資
5. 日本の財政危機とその歴史的特質②:1970-80 年代の予算編成、公共事業、税制改正
6. 日本の財政危機とその歴史的特質③:1990 年代の財政金融政策と新たな社会的ニーズ
7. 日本の財政危機とその歴史的特質④:2000 年代における日本財政の評価
8. 日本の税制の問題点と税制改正の論点
9. 財政と社会保障・教育①:日本の現状
10. 財政と社会保障・教育②:普遍主義的財政への転換
11. 日本の地方財政①:日本の地方財政の現状と政府間財政関係
12. 日本の地方財政②:地方財政と地域経済、まちづくりの関係
13. 日本財政と国際政治経済
14. 財政学 2 のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

配布するレジュメや参考文献を利用して講義毎に復習されることが望ましい。また、新聞やニュースで報道される財政に関する事項について分からないことをその都度調べることも参考となるだろう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/中間レポート(20%)
ただし、中間レポート提出が筆記試験受験の要件となることに注意されたい。

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しない。配布するレジュメに沿って講義を行う。

参考文献(Readings)

1. 伊集守直・高端正幸編著、2018、『福祉財政』、ミネルヴァ書房
2. 池上岳彦、2015、『現代財政を学ぶ』、有斐閣
3. 井手英策、2011、『財政赤字の淵源』、有斐閣
4. 神野直彦、2007、『財政学〔改訂版〕』、有斐閣

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・予備知識のない学生も理解できるよう講義を進めていくので、安心して受講してほしい。
・ただし、「財政学 1」の講義内容に連なるよう講義を進めていく予定なので、本講義の内容の理解を深めるためにも、双方受講されることが望ましい。
・成績評価や試験の詳細について初回の講義において説明するので、受講を希望される学生は必ず出席すること。
・特別な事情がない限り、必ず毎回の講義に出席すること。欠席する場合は、必ず事前に教員に連絡すること。 連絡を受けた場合のみ、資料の配布等、対応する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX147／医療経済論 (Health Economics)		
担当者名 (Instructor)	大津　唯(OHTSU YUI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の医療保障制度に関する基礎知識と、医療経済学の基礎理論を習得したうえで、医療に関わる諸問題を理解し、考察する能力を身につける。

Acquire fundamental knowledge of the Japanese medical security system and learn the basic theory of medical economics to gain the ability to understand and consider the various problems facing medical treatment.

授業の内容(Course Contents)

日本の医療保険制度と医療提供体制を概観し、日本の医療保障における課題を検討する。また、応用ミクロ経済学としての医療経済学の基礎理論を解説し、それを踏まえて日本の諸課題についての検討を深める。

An overview is given of the Japanese medical security system and medical treatment provision system to study the issues regarding medical security in Japan. Further, the basic theory of medical economics is explained as applied macroeconomics and this will be used as the basis for a deeper study of issues facing Japan.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 日本の医療保険制度(1)
3. 日本の医療保険制度(2)
4. 日本の医療提供体制(1)
5. 日本の医療提供体制(2)
6. ミクロ経済学の準備
7. 医療サービス需要の理論(1)
8. 医療サービス需要の理論(2)
9. 医療保険の経済理論(1)
10. 医療保険の経済理論(2)
11. 医療サービス供給の理論(1)
12. 医療サービス供給の理論(2)
13. 医療保障の諸課題
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/レポート(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 橋本英樹 ・泉田信行、2016、『医療経済学講義 補訂版』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130421423)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX148／福祉経済論 (Political Economy of Welfare)		
担当者名 (Instructor)	于　洋(YU YANG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では変動する経済社会に対応するために、経済と福祉の関わり、社会保険の構造と仕組み、社会福祉の類型と福祉財政を理解し、社会保障ないし社会福祉の制度における諸問題を発見・分析・評価できることを目標とする。

The objective of this class is to understand the relationship between the economy and welfare, the social security structure and system, the types of social welfare, and welfare finance in order to discover, analyze, and evaluate the problems in the social security and social welfare systems.

授業の内容(Course Contents)

この授業では社会福祉制度および社会保障制度を経済学の観点から考察する。最近話題になっている格差問題を情報の非対称性から説明し、非対称的な情報の下での政策として失業保険、年金保険、健康保険、介護保険を取り上げ、われわれの日常生活のことと関連させながら授業を進めて行きたい。

This class considers the social welfare system and social security system from an economics perspective. The class will proceed by explaining the recently hot topic of economic inequality from information asymmetry and then addresses unemployment insurance, pension insurance, health insurance, and long-term care insurance as policies under asymmetric information and then relates these to our daily lives.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(講義の目的・内容・進め方など)
   講義内容・進行方法・成績評価などを理解し、講義の全体像をつかむことができる。
2. 貧困/不平等とその計測
   貧困/不平等の計測基準や現状を理解し説明することができるようになる。
3. 格差問題と所得再分配
   格差問題の背景・現状・解決方法を理解し説明することができるようになる。
4. 情報の非対称性問題
   経済社会におけるさまざまな情報の非対称性について、理解し説明することができるようになる。
5. 非対称情報下の経済政策
   非対称情報化の政策を実際の例で理解し説明することができるようになる。
6. 失業問題と失業保険
   失業問題についての基本知識、失業保険に関する理論・仕組みなどを理解し説明することができるようになる。
7. 老後の所得保障と年金保険Ⅰ
   老後の所得保障についての理論的な解説を理解し説明することができるようになる。
8. 老後の所得保障と年金保険Ⅱ
   年金保険制度の基本的仕組みと諸問題を理解し説明することができるようになる。
9. 医療の需要と供給
   保健医療についての理論的な解説を理解し説明することができるようになる。
10. 健康保険と高齢化問題
    医療保険制度の基本的仕組みと諸問題を理解し説明することができるようになる。
11. 高齢者の急増と高齢者福祉サービス
    少子高齢化の背景と問題・高齢者のサービス保障についての理論と実践を理解し説明することができるようになる。
12. 介護保険制度のあり方
    介護保険制度の基本的な仕組みと諸問題を理解し説明することができるようになる。
13. 福祉国家の諸類型と社会保障財政
    福祉国家の類型や日本の社会保障財政の実態を理解し説明することができるようになる。
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義を受ける条件として、経済学の基礎的知識を習得していることを前提とする。
普段は、社会保障制度や雇用・労働問題に関わるニュースや新聞記事に留意してほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席と授業パフォーマンス(30%)

テキスト(Textbooks)

毎回授業用プリントを配布する。

参考文献(Readings)

1. 椋野美智子・田中耕太郎、2019、『はじめての社会保障』(第 16 版)、有斐閣
2. 土田武史編著、2015、『社会保障論』、成文堂

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業では学生とコミュニケーションを取りながら進めていく予定なので、積極的な受講態度が期待される。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／年金経済論 (Pension Economics)		
担当者名 (Instructor)	森　周子(MORI CHIKAKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX151		

授業の目標(Course Objectives)

学生が、公的年金と私的年金(企業年金・個人年金)に関する基本的な知識を身につけること、および、諸外国の年金制度との比較検討などを通じて日本の年金制度の特徴・課題・改革の方向性を理解することを目標とする。

The objective is for students to acquire a basic knowledge of the public and private pensions (corporate pensions, personal pensions) and make a comparative study of the pension systems of other countries to understand the characteristics, issues, and direction of reforms of the Japanese pension system.

授業の内容(Course Contents)

まず、日本の公的年金について、役割、老齢・遺族・障害の各年金給付の内容、財源、財政方式といった基本的な仕組みを概説した後、課題と改革の方向性について論じる。次に、企業年金と個人年金の現状・課題・改革の方向性を検討する。講義の中では適宜、諸外国の年金制度を紹介し、日本の制度との比較検討を試みる。

First of all, an overview of the basic system of the Japanese public pension covering its role; the contents of the various pension benefits for the elderly, survivors, and disabled; financial resources, and fiscal system will be given before discussing the related issues and direction of reforms. Then, the current state, issues, and direction of reforms of corporate pensions and personal pensions will be discussed. During the lecture the pensions system of other countries will be introduced as appropriate to attempt a comparative study with the Japanese system.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、年金制度の体系、公的年金の概要とその役割
2. 老齢年金①老齢年金の概要
3. 老齢年金②老齢年金の所得代替率と実際
4. 老齢年金③年金スライド
5. 障害年金
6. 遺族年金
7. 公的年金の財源調達と財政方式
8. 公的年金の財政状況
9. 公的年金の論点①無年金・低年金問題など
10. 公的年金の論点②現行制度の持続可能性について
11. 企業年金の概要
12. 企業年金の課題
13. 個人年金の概要と課題
14. 諸外国の年金制度

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義後はノートやレジュメに目を通し、学習内容の定着を図ること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/コメントカード兼出席票(10%)

テキスト(Textbooks)

使用しない。

参考文献(Readings)

講義中に随時示す。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX152／金融工学 (Financial Engineering)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	金融工学の主要な研究対象であるデリバティブについて学びます.		
担当者名 (Instructor)	伊藤有希(ITOH YUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では以下を目標とします.
・デリバティブの基本的な仕組みについて, 説明できるようになること.
・無裁定価格理論の概念に基づき, デリバティブに関連する計算が正確にできるようになること.

This lecture has the following objectives.
・Be able to explain the basic system of derivatives.
・Be able to correctly calculate the related derivatives based on the concepts of no-arbitrage pricing theory.

授業の内容(Course Contents)

本講義では金融工学の主要なトピックスである, デリバティブについて学びます. デリバティブとは, 株・債券といった基本的な金融資産から派生した金融資産のことです. 講義ではデリバティブの基本的な概念と仕組みの理解を目指します.
また, デリバティブの価格付けに必要となる無裁定価格理論について学び, 実際にデリバティブの価格を計算出来るようにします. さらに, デリバティブの利用方法やリスクについても解説します.

The main topic of this lecture is financial engineering and students will learn about derivatives. Derivatives are financial assets derived from the basic financial assets of stocks and bonds. The objective of this lecture is to understand the basic concepts and systems of derivatives.
In addition, students will also learn the concepts of no-arbitrage pricing theory that is necessary for the pricing of derivatives and also become able to actually calculate derivative prices. The derivative usage methods and risks will also be explained.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに
2. 単利と複利
3. デリバティブ 1
4. デリバティブ 2
5. 先渡と先物 1
6. 先渡と先物 2
7. オプション 1
8. オプション 2
9. オプション 3
10. オプション 4
11. その他のデリバティブ 1
12. その他のデリバティブ 2
13. リスク
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前は, 配付資料を読んできてください.
講義後は, 講義で学んだ内容の復習を行ってください.

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 木島正明, 鈴木輝好, 後藤允、2012、『ファイナンス理論入門: 金融工学へのプロローグ』、朝倉書店 (ISBN:4254290160)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX153／ポートフォリオ論 (Portforio Theory)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	複数の金融証券に投資を行う際の理論であるポートフォリオ理論について学ぶ.		
担当者名 (Instructor)	伊藤有希(ITOH YUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では以下を目標とします.
・ポートフォリオ理論の基本的な概念や仕組みを説明できる.
・ポートフォリオ理論に関する数値の計算が正確にできる.

This lecture has the following objectives.
・Be able to explain the basic concepts and structure of portfolio theory.
・Be able to calculate the values required for portfolio theory.

授業の内容(Course Contents)

現代社会では, ファイナンスは経済活動に深く関わっています. そのため, ファイナンスと無関係に生活することはできなくなっています. また, ファイナンスは企業の経営を考える上でも必要不可欠な要素となっています.
本講義ではファイナンスの大きなトピックスであるポートフォリオ理論の基本的な概念や仕組みについて学びます. ポートフォリオ理論とは, 複数の金融証券に投資を行う際に起こる現象を理論的に説明したものです.
また, ポートフォリオ理論に関連する数値が計算できるように解説します. さらにポートフォリオ理論に基づいたリスク管理についても学びます.

In contemporary society, finance is deeply related to economic activity. For this reason, it is no longer possible to live unrelated to finance. In addition, finance is also an indispensable element of company management.
In this lecture students learn the basic concepts and framework of portfolio theory, which is a major topic in finance. Portfolio theory theoretically explains the phenomena that occur when investing in multiple financial securities.
In addition, students become able to explain how to calculate the values related to portfolio theory. They will also learn risk management based on portfolio theory.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに
2. 安全資産 1
3. 安全資産 2
4. リスクとリターン 1
5. リスクとリターン 2
6. ポートフォリオ理論 1
7. ポートフォリオ理論 2
8. ポートフォリオ理論 3
9. ポートフォリオ理論 4
10. CAPM1
11. CAPM2
12. CAPM3
13. CAPM4
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前は, 配付資料を読んできてください.
講義後は, 講義で学んだ内容の復習を行ってください.

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 木島正明, 鈴木輝好, 後藤允、2012、『ファイナンス理論入門: 金融工学へのプロローグ』、朝倉書店 (ISBN:4254290160)
2. 手嶋宣之、2011、『基『本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』』、ダイヤモンド社 (ISBN:4478016305)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX160／産業経済論1 (Industrial Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	生産システムの現段階		
担当者名 (Instructor)	菊池　航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現実の企業や産業システムは，多様であり，複雑です。そして，企業や産業システムは国によって異なり，1つの国でも時期によって異なることが多いものです。産業経済論1では，複雑な企業や産業システムの現実を，経済学の視点から理解することを目標とします。特に，現在に至る企業の生産活動の歴史的変化や日本の企業システムを学びます。

Actual companies and industrial systems are diverse and complex. In addition, companies and industrial systems differ among countries and they often differ within the same country depending on the time. In Industrial Economics 1 the objective is to understand the reality of complex company and industrial systems from the perspective of economics. In particular, students will learn about the historical changes in company productive activity to date and the Japanese company system.

授業の内容(Course Contents)

財やサービスを提供する企業は，すべての業務を社内でおこなっていることは稀であり，政府，金融機関，サプライヤー，ディーラーなどと多様な関係を形成しています。1つの財やサービスが消費者に届くまでに，複雑な産業システムが構築されているのです。では，企業は，なぜ，ある業務を社内でおこなう一方で，ある業務を市場から調達するのでしょうか。そして，なぜ，産業や企業の在り方は，国によって異なるのでしょうか。本講義では，競争力・組織能力・取引費用などを鍵概念に，現実の産業・企業や経済システムを分析的に考察します。

Companies that provide goods and services rarely perform all the operations internally, so they perform diverse relationships with the government, financial institutions, suppliers, dealers, and others. A complex industrial system is built just to get one good or service to the consumer. So why does a company perform some operations internally and procure other operations from the market? And why does the form of industries and companies differ among countries? In this lecture students analytically consider the actual industrial, company, and economic systems based on such key concepts as competitiveness, organizational capability, and transaction cost.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：社会的分業と企業内分業
2. 産業経済への視点：取引コストの経済学
3. 産業経済への視点：比較経済組織
4. 産業経済への視点：組織の失敗
5. 「見えざる手」から「見える手」へ：経営者資本主義の成立
6. 「見えざる手」から「見える手」へ：経営者資本主義の発展
7. フレキシブルな大量生産：トヨタ生産方式
8. 垂直的な中間組織：日本の自動車部品取引
9. 水平的な中間組織：トヨタの委託生産
10. フレキシブルな専門化：産業集積
11. モジュール化の時代
12. EMSの台頭：アップルの生産体制
13. 「見える手」の後退？：中国製造業の垂直分裂
14. 総括：グローバル価値連鎖の統治構造

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義内容に関するスライドを Blackboard 等で公開する予定です。それを使って予習や復習をしてください。毎回の講義内容は，それ以前の講義内容とも密接につながる内容になりますので，受講前にこれまでの講義内容を復習してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/小テスト(20%)

テキスト(Textbooks)

毎回，スライドを配布します

参考文献（Readings）

1. リチャード・N. ラングロワ、2011、『消えゆく手：株式会社と資本主義のダイナミクス』、慶應義塾大学出版会
(ISBN:4766418751)
2. O.E.ウィリアムソン、1980、『市場と企業組織』、日本評論社 (ISBN:4535572798)
3. アルフレッド・D・チャンドラーJr、1993、『スケールアンドスコープ―経営力発展の国際比較』、有斐閣 (ISBN:4641066426)
4. 塩地洋・中山健一郎編、2016、『自動車委託生産・開発のマネジメント』、中央経済社 (ISBN:4502187410)
5. 名和隆央、2015、『グローバル価値連鎖の統治構造』、立教大学経済学研究会

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業は，パワーポイントを使用した講義形式で，映像資料も活用します。毎回の講義内容に関するスライドを Blackboard 等で公開する予定です。学生への質問をおこなう予定なので，積極的な受講態度を期待します。小テストについては，次回授業開始時に小テストの解説をおこないます。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX161／産業経済論2 (Industrial Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本の産業構造の変化		
担当者名 (Instructor)	菊池　航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現実の企業や産業システムは，多様であり，複雑です。そして，企業や産業システムは国によって異なり，1つの国でも時期によって異なることが多いものです。産業経済論2では，近年における産業構造の変化について，日本の事例を中心に学びます。

Actual companies and industrial systems are diverse and complex. In addition, companies and industrial systems differ among countries and they often differ within the same country depending on the time. In Industrial Economics 2, recent changes in the industrial structure will be studied focusing on examples from Japan.

授業の内容(Course Contents)

現代日本における産業構造は，第一次産業と第二次産業の割合が減少する一方，第三次産業の割合が拡大しています。また，第二次産業の中心的な存在である製造業は，生産した製品に対してサービスを付加したビジネスを行う傾向を強めています。本講義では，こうした産業構造の変化の実態について，それぞれの産業を代表する企業の経営活動に着目して解説をします。

In the industrial structure of contemporary Japan, the percentage of primary and secondary industries is declining while the percentage of tertiary industries is increasing. In addition, there is a strong trend by manufacturing companies, the core of secondary industries, to engage in businesses that add services to the products they produce. In this lecture, the state of the changes to the industrial structure is explained by looking at the business activities of companies that represent the various industries.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：産業経済論2の課題
2. 製造業のグローバル化とマザー工場制
3. 製造業の空洞化と地域経済
4. 製造業のサービス化
5. サービス経済化の進行：サービス産業の興隆
6. サービス経済化の進行：労働，イノベーション
7. オープン化の時代
8. 情報技術革新：越境 EC，ボーン・グローバル企業の登場
9. インテグリティからモジュラリティへ
10. プラットフォームビジネスの台頭
11. プラットフォームビジネスのマネジメント
12. イノベーションをめぐる競争と独占禁止法（1）
13. イノベーションをめぐる競争と独占禁止法（2）
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義内容に関するスライドを Blackboard 等で公開する予定です。それを使って予習や復習をしてください。また，毎回の講義内容は，それ以前の講義内容とも密接につながる内容になりますので，受講前にこれまでの講義内容を復習してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)／小テスト(20%)

テキスト(Textbooks)

毎回，スライドを配布します

参考文献(Readings)

1. 秋野晶二ら編、2018、『グローバル化とイノベーションの経営学』、税務経理協会 (ISBN:4419065621)
2. 森川正之、2016、『サービス立国論―成熟経済を活性化するフロンティア』、日本経済新聞出版社 (ISBN:453235692X)

3. デヴィッド・S・エヴァンス、2018、『最新プラットフォーム戦略―マッチメイカー』、朝日新聞出版 (ISBN:4023316504)
4. 小田切宏之、2016、『イノベーション時代の競争政策』、有斐閣 (ISBN:4641164967)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業は，パワーポイントを使用した講義形式で，映像資料も活用します。毎回の講義内容に関するスライドを Blackboard 等で公開する予定です。学生への質問をおこなう予定なので，積極的な受講態度を期待します。小テストについては，次回授業開始時に小テストの解説をおこないます。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX162／社会政策論1 (Social Policy & Administration 1)		
担当者名 (Instructor)	宮崎　理枝(MIYAZAKI RIE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

●社会政策の基礎的知識を習得する。具体的には，社会保障に焦点をあて，社会保障の定義と分類，成り立ち，そして諸制度（年金・公的扶助・労働保険等）の仕組みを理解する。
●日本と主要諸外国の政治・経済・社会動向と社会政策の関係を理解する。
●日本の福祉国家としての現状と将来的展望の大局を把握する。

●To acquire fundamental knowledge about social policy. Specifically, this course will focus on social security to understand the definition and classifications of social security, its origins, and the structure of the various systems (pension, public assistance, labor insurance, etc.).
●To understand the relationship between social policy and the political, economic, and social trends in Japan and other major foreign countries.
●To grasp the current situation and general future prospects of Japan as a welfare state.

授業の内容(Course Contents)

●2019 年度からの授業時間の変更に伴い、授業デザインガイド 「C：再構築型」を参考に、下記授業計画内容の基本講義と、よりアカデミックな内容の小講義、視聴覚資料の鑑賞、さらにリアクションペーパーの活用を組み合わせた授業を実施する予定である。
●上記に伴い、受講者に発言を求める場合がある。
●春学期は，社会政策（社会保障）の定義・分類等に関わる基礎理論と現金給付中心の制度を扱う。具体的には租税方式の公的扶助制度と社会保険方式の年金制度，そして労働保険を論じる。
●授業内容は，諸制度の原則と日本の現行制度の仕組みの説明を主とするが，その際に国際比較の観点や政策研究のトレンドといった多様な観点を織りまぜて論じたい。

●Due to a change in the class time starting from the 2019 academic year, as referred in “C: Restructuring Type” of the course design guide, the classes are scheduled to combine a basic lecture described in the following class plan description, a more academic short lecture, and viewing of audiovisual materials as well as the use of reaction papers.
●Accompanying the above, students may be asked to offer their responses.
●The spring semester will focus on fundamental theories concerning the definition and classification, etc., of social policy (social security) and cash benefit centered systems. Specifically, we will discuss the taxation based public assistance system, the social insurance based pension system, and labor insurance.
●The classes will primarily explain the fundamental principles of the various systems and the mechanisms of Japan’s current systems, but international comparative viewpoints, trends in policy research, and other diverse perspectives will be woven into the discussion at that time.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション（社会政策と社会保障の関係，現代の社会保障の課題，歴史概観）
2. 社会保障の類型化（租税・社会保険方式，現金・現物給付）
3. 公的扶助制度（公的扶助と生活保護制度，当該制度の原則）
4. 公的扶助制度（保護基準，仕組み　1）
5. 公的扶助制度（保護基準，仕組み　2）
6. 社会保険の理論（諸原則，被保険者，保険者保険料，保険給付のあり方）
7. 年金制度（原則・基本体系）
8. 年金制度（保険者と被保険者）
9. 年金制度（財政方式，給付水準）
10. 年金制度（その他の仕組みと制度改革）
11. 失業保険制度（原則と特徴，日本の当該制度の仕組み）
12. 失業保険制度（日本の当該制度の仕組み2）
13. 労働災害保険制度（原則と特徴，日本の当該制度の仕組み）
14. まとめ（新しい現金給付の可能性―社会手当，給付付き税額控除，BI 等）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業内及び Blackboard において適宜指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中・椋野著、『初めての社会保障』、有斐閣
田中耕太郎・椋野美智子『はじめての社会保障』(有斐閣アルマ)(本年度4月時点での最新版を入手すること)

参考文献(Readings)

1. 菅沼隆他編、2014、『多元的共生社会の構想』、現代書館 (ISBN:4768435297)
2. 土田武史編、2015、『社会保障論』、成文堂 (ISBN:4792342546)
その他、授業中に適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

●Blackboard を通じて、一般的なお知らせ、参考資料、補助的な教材資料は適宜発信・提供する。
●授業の目指すところや趣旨、進め方、試験等の重要点は初回に説明するので、受講者は必ず出席し、これらを理解してから受講すること。
●チャイルドケア・給付つき税額控除・社会保障史の講義回は適宜移動する場合があるので留意すること。
●具体的な授業形式は受講者数等に応じて適宜調整する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX163／社会政策論2 (Social Policy & Administration 2)		
担当者名 (Instructor)	宮崎　理枝(MIYAZAKI RIE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

●社会政策の基礎的知識を習得する。具体的には，社会保障に焦点をあて，社会保障の定義と分類，成り立ち，そして諸制度（年金・公的扶助・労働保険等）の仕組みを理解する。
●日本と主要諸外国の政治・経済・社会動向と社会政策の関係を理解する。
●日本の福祉国家としての現状と将来的展望の大局を把握する。

●To acquire fundamental knowledge about social policy. Specifically, this course will focus on social security to understand the definition and classifications of social security, its origins, and the structure of the various systems (pension, public assistance, labor insurance, etc.).
●To understand the relationship between social policy and the political, economic, and social trends in Japan and other major foreign countries.
●To grasp the current situation and general future prospects of Japan as a welfare state.

授業の内容(Course Contents)

●2019 年度からの授業時間の変更に伴い、授業デザインガイド 「C：再構築型」を参考に、下記授業計画内容の基本講義と、よりアカデミックな内容の小講義、視聴覚資料の鑑賞、さらにリアクションペーパーの活用を組み合わせた授業を実施する予定である。
●上記に伴い、受講者に発言を求める場合がある。
●秋学期は，現物給付中心の制度と社会保障制度，今後の展望ならびに歴史を扱う。具体的には，社会保険方式の健康保険と介護保険，そして税方式の諸現物給付を論じる。
●授業内容は，諸制度の原則と日本の現行制度の仕組みの説明を主とするが，その際に国際比較の観点や政策研究のトレンドといった多様な観点を織りまぜて論じたい。

●Due to a change in the class time starting from the 2019 academic year, as referred in “C: Restructuring Type” of the course design guide, the classes are scheduled to combine a basic lecture described in the following class plan description, a more academic short lecture, and viewing of audiovisual materials as well as the use of reaction papers.
●Accompanying the above, students may be asked to offer their responses.
●The fall semester will cover the benefit in kind based system and the social security system, as well as the future prospects and history. Specifically, we will discuss the social insurance based health insurance and nursing insurance as well as the various tax based benefits in kind.
●The classes will primarily explain the fundamental principles of the various systems and the mechanisms of Japan’s current systems, but international comparative viewpoints, trends in policy research, and other diverse perspectives will be woven into the discussion at that time.

授業計画(Course Schedule)

1. 現物給付の社会保険（現金給付とのちがい，健康保険と介護保険の原則的なちがい）
2. 健康保険制度（健康保険制度の原則）
3. 健康保険制度（健康保険制度の基本構造）
4. 健康保険制度（財政方式）
5. 健康保険制度（給付の仕組みと決定プロセス）
6. 健康保険制度（高齢者医療制度と制度改革）
7. 介護保険制度（制度創設の背景，当該制度の原則）
8. 介護保険制度（制度の基本設計と保険の仕組み）
9. 介護保険制度（財政方式と給付）
10. 介護保険制度（給付内容と制度改革）
11. 今後の社会保障の展望―ワーク・ライフバランスと社会保障制度（範疇扶助と社会参加の概念）
12. 今後の社会保障の展望―ワーク・ライフバランスと社会保障制度（税方式の現物給付−チャイルドケアを中心に）
13. 社会保障制度の歴史（諸外国の社会保障制度の成立史を中心に）
14. 社会保障制度の歴史（日本の成立史を中心に）+まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習(Study Required Outside of Class)

授業内及び Blackboard において適宜指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中・椋野著、『初めての社会保障』、有斐閣
田中耕太郎・椋野美智子『はじめての社会保障』(有斐閣アルマ)(本年度4月時点での最新版を入手すること)

参考文献(Readings)

1. 菅沼隆他編、2014、『多元的共生社会の構想』、現代書館 (ISBN:4768435297)
2. 土田武史編、2015、『社会保障論』、成文堂 (ISBN:4792342546)
その他、授業中に適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

●Blackboard を通じて、一般的なお知らせ、参考資料、補助的な教材資料は適宜発信・提供する。
●授業の目指すところや趣旨、進め方、試験等の重要点は初回に説明するので、受講者は必ず出席し、これらを理解してから受講すること。
●チャイルドケア・社会保障史等の講義回は適宜移動する場合があるので留意すること。
●具体的な授業形式は受講者数等に応じて適宜調整する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX164／租税論1 (Tax Theory and Tax Policy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	租税理論と租税政策		
担当者名 (Instructor)	関口　智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

租税理論の視点から現実の租税制度・租税政策を理解する。

To understand the actual tax systems and tax policies from the perspective of tax theory.

授業の内容(Course Contents)

本講義は租税政策上の争点を理解するための一つの視点として，租税理論を重視する。
周知のように，現実の租税制度は租税理論とは必ずしも整合的でない側面がある。とはいえ，租税理論は，租税制度を理解し，現代の租税政策上の争点を明確化するための一つの指標となる。

This lecture focuses on tax theory as one perspective for understanding the disputes regarding tax policy.
As is well known, actual tax policy is not necessarily consistent with tax theory. Having said that, tax theory is one measure for understanding tax systems and for clarifying the disputes regarding contemporary tax policy.

授業計画(Course Schedule)

1. 租税論1の対象と日本財政・租税政策の現状
2. 財政・租税構造の国際比較と財政政策
3. 財政政策：歳出政策と歳入政策
4. 租税原則論の発展と現状
5. 経済循環と租税政策
6. 租税体系と租税理論(総論)
7. 租税理論(各論1)：所得課税
8. 租税理論(各論2-1)：所得課税と消費課税
9. 租税理論(各論2-2)：所得課税と消費課税
10. 租税理論(各論3)：所得課税と消費課税
11. 資産課税の理論
12. 税率構造と租税負担
13. 課税単位と課税境界(1)
14. 課税単位と課税境界(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

提出は求めないが,毎回,予習・復習を効果的にするために課題を提示する。財政学や地方財政論等をあわせて履修すると,相乗効果がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントカードの内容(15%)/レポート課題(5%)

テキスト(Textbooks)

特定・単一のテキストは用いない。

参考文献(Readings)

1. 関口智、2015 年、『「租税の理論」『財政学を学ぶ』』、有斐閣ブックス
講義の際に適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX165／租税論2 (Tax Theory and Tax Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	租税制度・租税政策の歴史と国際比較		
担当者名 (Instructor)	関口　智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の租税制度・租税政策を国際比較と歴史の視点から理解する。

To understand the Japanese tax systems and tax policies from the perspective of international comparison and history.

授業の内容(Course Contents)

本講義は租税政策上の争点を理解するための一つの視点として，租税制度の歴史と国際比較を重視する。各国の租税制度はその国の歴史や政治的・経済的・社会的な背景を反映している。日本の租税制度の政治的・経済的・社会的背景を意識することでその形成過程を理解し,そこに国際比較を加味することで，現在の租税政策上の争点を明確化する。

This lecture focuses on the history and international comparison of tax systems as one perspective for understanding the disputes regarding tax policy. The tax system of each country reflects the historical, political, economic, and social background of that country. Students gain an understanding of the formation process of the Japanese tax system while recognizing its political, economic, and social background and then it will be compared with international systems to clarify the disputes regarding current tax policy.

授業計画(Course Schedule)

1. 租税論2の対象と租税体系論
2. 租税体系論と国際比較
3. 租税制度・租税理論の歴史（1）
4. 租税制度・租税理論の歴史（2）
5. 所得課税の仕組と論争点（1）
6. 所得課税の仕組と論争点（2）
7. 所得課税の国際比較
8. 消費課税の仕組と論争点
9. 消費課税の国際比較
10. 多様化する事業体と税制（1）
11. 多様化する事業体と税制（2）
12. 資産課税の国際比較
13. 国際租税政策（1）
14. 国際租税政策（2）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

提出は求めないが,毎回,予習・復習を効果的にするために課題を提示する。租税論1（春学期）の講義内容を理解していることが望ましく,財政学や地方財政論等とあわせて履修すると,相乗効果がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントカードの内容(15%)/レポート課題の提出(5%)

テキスト(Textbooks)

特定・単一のテキストは用いない。

参考文献(Readings)

1. 関口智、2015 年、『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130461146)

その他は,講義の際に適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX166／地方財政論1 (Local Government Finance 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	制度としての地方財政		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

地方財政の制度と機能を理解する。

Understand the local government finance system and functions.

授業の内容(Course Contents)

このコースでは日本の地方財政制度とその課題について学習する。利用する教科書について「私たちの暮らしを支える身近な存在である地方財政を，具体的な例を交えて生き生きと描き出す。地方財政の理念や制度の基本から，応用的なことまで盛り込み，体系的に学ぶことができる。です・ます調でわかりやすく書かれ，地方財政を学ぶ最初の 1 冊に最適」という評価もある。

In this course students study the Japanese local government finance system and its issues. Regarding the textbook used for this course, “It vividly portrays local government finance, which is familiar to us and supports our lives. Its contents include from the basics of local government finance philosophy and systems to actual applications to study the subject in a systematic way. It is written in an informal style for easier understanding and is the best book for learning about local government finance for the first time.”

授業計画(Course Schedule)

1. 地方財政の全体像
2. 地方財政の全体像 2
3. 日本の地方財政：知るべきこと，考えるべきこと
4. 日本の地方財政 2：知るべきこと，考えるべきこと
5. 政府間財政関係：融合型の集権的分散システムと地方財政計画
6. 政府間財政関係 2：融合型の集権的分散システムと地方財政計画
7. 経費論：お金の使い道とその意味
8. 経費論 2：お金の使い道とその意味
9. 予算論：地方自治体のお金の使い道はどのように決まるのか
10. 予算論 2：地方自治体のお金の使い道はどのように決まるのか
11. 地方自治体の収入構造：どうやって財源を調達するのか
12. 地方自治体の収入構造 2：どうやって財源を調達するのか
13. 地方税：最も重要な自主財源
14. 地方税 2：最も重要な自主財源

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 沼尾波子，池上岳彦，木村佳弘，高端正幸、2017、『地方財政を学ぶ』、有斐閣ブックス (ISBN:978-4-641-18435-0)

総務省：地方財政制度
http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei.html
総務省：地方財政の分析
http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo_chousa.html
総務省：平成 30 年版地方財政白書
http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/chihou/30data/2018data/mokuji.html

参考文献(Readings)

1. 本庄 資 / 岩元 浩一 / 関口 博久、43191、『現代地方財政論(六訂版)』、大蔵財務協会 (ISBN:978-4-7547-2519-8)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX167／地方財政論2 (Local Government Finance 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	制度としての地方財政		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

地方財政の制度と機能を理解する。

Understand the local government finance system and functions.

授業の内容(Course Contents)

このコースでは日本の地方財政制度とその課題について学習する。授業で使う教科書について「私たちの暮らしを支える身近な存在である地方財政を、具体的な例を交えて生き生きと描き出す。地方財政の理念や制度の基本から、応用的なことまで盛り込み、体系的に学ぶことができる。です・ます調でわかりやすく書かれ、地方財政を学ぶ最初の 1 冊に最適」という評価もある。

In this course students study the Japanese local government finance system and its issues. Regarding the textbook used for this course, "It vividly portrays local government finance, which is familiar to us and supports our lives. Its contents include from the basics of local government finance philosophy and systems to actual applications to study the subject in a systematic way. It is written in an informal style for easier understanding and is the best book for learning about local government finance for the first time."

授業計画(Course Schedule)

1. 地方財政の全体像
2. 地方交付税:地方財源保障のかなめ
3. 地方交付税 2:地方財源保障のかなめ
4. 国庫支出金:中央省庁による地方のコントロール
5. 国庫支出金 2:中央省庁による地方のコントロール
6. 地方債:金融を通じた財源保障
7. 地方債 2:金融を通じた財源保障
8. 地方財政の歴史的展開
9. 地方財政の歴史的展開 2
10. 持続可能な地域づくりと地方財政
11. 持続可能な地域づくりと地方財政 2
12. 対人社会サービスと地方財政
13. 地方公営企業・第三セクター等
14. 地方財政の展望

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は, 必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 沼尾波子, 池上岳彦, 木村佳弘, 高端正幸、2017、『地方財政を学ぶ』、有斐閣ブックス (ISBN:978-4-641-18435-0)
総務省:地方財政制度
http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei.html
総務省:地方財政の分析
http://www.soumu.go.jp/iken/jokyo_chousa.html
総務省:平成 30 年版地方財政白書
http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/chihou/30data/2018data/mokuji.html

参考文献(Readings)

1. 本庄 資 / 岩元 浩一 / 関口 博久、2018 年 4 月 3 日、『現代地方財政論』、大蔵財務協会 (ISBN:978-4-7547-2519-8)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX168／中小企業論1 (Small Business Problems and Studies 1)		
担当者名 (Instructor)	遠山　恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

大企業に比べて一般に情報発信の少ない中小企業の果たす役割や可能性を理解することにより、みずからのキャリアデザインと日本経済の実像を複眼的にとらえ、経済社会を自立的に考察する。

To understand the roles and possibilities of small and medium sized enterprises, which generally disseminate less information than large companies, in order to independently consider economic society and view one's own career design and the actual state of the Japanese economy from a multifaceted perspective.

授業の内容(Course Contents)

国民経済のなかで中小企業の果たす役割と可能性、 諸問題について、存在形態、産業構造、社会的分業、企業間関係、法・政策などの観点から講義を行う。授業時に行われるダイアローグ(対話)では、近くの学生同士による対話から一定時間内の仮説あるいは暫定結論の提示を求め、授業に反映する。

The lecture presents the roles played, possibilities, and issues of small and medium sized enterprises in the national economy from the perspectives of their form of existence, industry structure, social division of labor, inter-company relationships, legal and government policy, etc. The dialog held during the class will be discussion among students sitting next to each other, and after discussing the specified issue for the set time the groups will be asked to present their hypothesis or tentative conclusion and these will be reflected in the class facilitation.

授業計画(Course Schedule)

1. 中小企業のイメージと実態 その多数性と多様性
2. 中小企業基本法と存在形態
3. 中小企業のライフサイクル 長寿企業と企業成長
4. 中小企業のコーポレートガバナンス
5. 経済構造変化と中小企業 高度成長期
6. 経済構造変化と中小企業 低成長期
7. 社会的分業と中小企業 集積論とネットワーク論
8. 企業間関係と下請問題 サプライヤーシステム
9. 知的所有権と中小企業 金型産業
10. ものづくり中小企業
11. 中小企業ファイナンス
12. ベンチャービジネス
13. 中小企業政策の展開
14. 21世紀中小企業

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備・事後学習の指示は、履修登録後に Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/授業時の「対話ワーク」の成果(リアクションペーパーなど)(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 渡辺幸男ほか、2013、『21 世紀中小企業論 第 3 版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22009-6)

参考文献(Readings)

1. 植田浩史ほか、2014、『中小企業・ベンチャー企業論』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16431-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業資料等は Blackboard で提示する。毎回授業前に入手、印刷の上、持参することを勧める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX169／中小企業論2 (Small Business Problems and Studies 2)		
担当者名 (Instructor)	遠山　恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ますます進行するグローバル経済のもとで、日本の中小企業の行動や戦略を世界経済の中で位置づけて考え、地球規模における中小企業の可能性と課題についてみずからの論理を形成できるようになる。海外の中小企業の定義やとらえ方も併せて学習する。

To consider the position of the behavior and strategy of Japanese small and medium sized enterprises as the economy becomes increasingly global in order for students to be able to form their own logic regarding the possibilities and issues of small and medium sized enterprises on a global scale. Students will also study how small and medium sized companies are defined and viewed overseas.

授業の内容(Course Contents)

世界経済のなかで中小企業の果たす役割と可能性、 諸問題について、グローバルスケールで興味深いいくつかの理論、歴史、実態を題材に講義する。授業時に行われるダイアローグ(対話)では、近くの学生同士による対話から一定時間内の仮説あるいは暫定結論の提示を求め、授業に反映する。

Several theories, histories, and situations occurring on a global scale will be used as materials for considering roles, possibilities, and issues of small and medium sized companies in the global economy. The dialog held during the class will be discussion among students sitting next to each other, and after discussing the specified issue for a given period of time the groups will be asked to present their hypothesis or tentative conclusion and these will be reflected in the class facilitation.

授業計画(Course Schedule)

1. グローバル経済と中小企業 臥龍企業とは
2. 世界の中小企業 定義・政策の国際比較(米・EU・中国)
3. ファミリービジネスの世界
4. 米国シリコンバレーの諸特徴とエコシステム
5. イタリアの中小企業と 産業分水嶺
6. 中国・大衆資本主義の台頭
7. 産業クラスター 理論とシステム(米国シアトル)
8. グローバルニッチトップ企業
9. アジア大に広がる社会的分業構造
10. グローバル人材と中小企業
11. ユーザーイノベーションと中小企業
12. リバースイノベーションと中小企業
13. ソーシャルイノベーション:中小企業のソーシャルインパクト
14. グローバル経済と 21 世紀中小企業

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備・事後学習の指示は、履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/授業時の「対話ワーク」の成果(リアペなど)(10%)

テキスト(Textbooks)

とくになし。ただし、適宜、重要な論文(フリー入手可能なもの)を Blackboard に指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡辺幸男ほか、2013、『21 世紀中小企業論 第 3 版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22009-6)
2. 植田浩史ほか、2014、『中小企業・ベンチャー企業論』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16431-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業資料等は Blackboard で提示する。毎回授業前に入手、印刷の上、持参することを勧める。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX170／消費者政策論 (Consumer Policy Theory)		
担当者名 (Instructor)	尾崎　裕子(OZAKI YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

消費者問題の発生の背景と変遷，今日の消費者問題の実態を理解し，それに応じて進展してきた消費者政策を体系的に把握する。

Students will understand the background and transition of the occurrence of consumer problems and the state of consumer problems today, and systematically grasp how government consumer policies have developed in response to those problems.

授業の内容(Course Contents)

消費者トラブル・事故の各種事例等を参考にしながら，消費者問題の歴史や現状を学ぶ。また消費者を取り巻く制度・政策面の対応を理解することを通して，今後の課題を考える。さらに，消費者自身の果たすべき役割についても考えていく。

Students learn about the history and current state of consumer problems while referencing different examples of consumer trouble and accidents. In addition, students will consider future issues through understanding the response to systems and government policies that affect consumers. Moreover, the class also considers the role that consumers themselves should play.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 消費者問題とは
3. 消費者問題の変遷と政策対応
4. 新しい消費者行政の枠組み
5. 国の消費者行政
6. 消費者トラブルの実態(1)
7. 消費者トラブルの実態(2)
8. 最近の消費者政策(1)取引
9. 最近の消費者政策(2)安全
10. 最近の消費者政策(3)表示
11. 地方消費者行政の役割
12. 消費者被害の救済
13. 消費者教育
14. 消費者団体・事業者団体の役割

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

適宜，指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席・小レポート提出等(30%)

テキスト(Textbooks)

適宜，資料を配布する。

参考文献(Readings)

消費者庁『消費者白書』(各年)
国民生活センター『くらしの豆知識 2019』

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX172／環境経済学1 (Ecological Economics 1)		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬　大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

環境問題を経済学的な視点から分析することの意義を学ぶとともに，環境に関する様々な政策課題を分析するために必要な基礎的な力を身に付けることを目標とする。また，環境経済学の考え方に触れることで，論理的な思考力を養うことも目指す。

The purpose of this course is to learn the significance of analyzing environmental problems from an economic perspective and to acquire the fundamental ability required to analyze the various policy issues regarding the environment. An additional purpose is to develop the logical thinking ability of students through dealing with the concepts of ecological economics.

授業の内容(Course Contents)

環境問題はほとんどの場合，人々の経済活動が原因で発生しており，その解決のためには経済と環境の関係について理解することが必要不可欠となる。本講義では，経済学的な手法を用いて環境問題の分析を行う環境経済学を取り上げ，その一般的な理論について学んでいく。また，講義では可能な限り具体的な環境問題や環境に関する政策的課題を取り上げ，環境経済学が現実にどのように応用可能かについても紹介する。

In most cases, environmental problems are caused by the economic activities of people, so an understanding of the relationship between the economy and the environment is indispensable for solving those problems. This lecture will focus on ecological economics where economics techniques are used to analyze environmental problems and students will learn the corresponding general theory. In addition, as far as possible, the lecture will bring up specific environmental problems and political issues regarding the environment, and how ecological economics can actually be applied to these cases will also be introduced.

授業計画(Course Schedule)

1. 環境問題と経済学的分析の意義
2. 経済学的手法の復習
3. 市場の失敗と外部費用 1
4. 市場の失敗と外部費用 2
5. 交渉による問題の解決　コースの定理
6. 汚染削減行動の分析
7. 環境税・補助金政策の仕組み
8. 排出権取引制度の仕組み
9. 環境政策の選択
10. 資源管理政策 1 再生可能資源
11. 資源管理政策 2 非再生可能資源
12. 環境評価 1 ヘドニック法，CVM
13. 環境評価 2 費用便益分析
14. 環境と貿易

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ミクロ経済学の入門レベルの内容をベースとした理論を扱うので，ミクロ経済学についての学習を行うことを推奨する。ただし，講義内でもミクロ経済学の内容についての簡単な復習は行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ』、有斐閣
2. 細田衛士・横山彰、『環境経済学』、有斐閣

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX173／環境経済学2 (Ecological Economics 2)		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬　大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

具体的な環境問題を題材に，その政策的な課題を探るとともに，経済学的手法を用いてその課題を実践的に分析する手法を学ぶことを目的とする。また，政策分析に経済学的手法を用いることの意義についても考えていく。

The purpose of this course is to explore the political issues associated with specific environmental problems, and to learn practical methods for analyzing those issues using economic techniques. In addition, students will also learn the significance of using economics techniques in political analysis.

授業の内容(Course Contents)

公害問題，廃棄物問題，地球温暖化問題などの具体的な環境問題を取り上げ，その現状と課題を整理することに加え，それらの問題を経済学的な手法を用いて分析する方法について学んでいく。また，講義では経済学の理論を実際の政策に応用する際の課題についても検討する。なお，講義では限られた種類の環境問題を扱うが，本講義で学ぶ経済学的な考え方は他の環境問題にも応用可能なものである。

In this class, specific environmental problems, such as pollution, waste, and global warming, will be brought up and in addition to considering the current states and problems, students will learn methods for analyzing these problems using economics techniques. In addition, during the lecture the issues related to applying economic theory to actual government policy will be considered. The lecture will only deal with a limited variety of environmental problems, but the economic concepts learned in this lecture can be applied to the broader environmental issues.

授業計画(Course Schedule)

1. 環境政策の目標と経済学的分析の意義
2. 経済学的な考え方の復習
3. 公共財としての環境
4. 公害に学ぶ環境政策 1 イタイイタイ病
5. 公害に学ぶ環境政策 2 熊本水俣病・新潟水俣病
6. 公害に学ぶ環境政策 3 四日市ぜんそく
7. 公害問題の経済学的分析
8. 廃棄物管理政策の現状
9. 廃棄物問題の経済学的分析
10. 不適正処理問題の経済学的分析
11. 地球温暖化問題と地球環境政策
12. 地球温暖化問題の経済学的分析
13. 環境問題と責任制度
14. 環境法の経済学的分析

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ミクロ経済の入門レベルの知識をベースとした理論を扱うので，ミクロ経済学の復習を行うことを推奨する。ただし，講義内でも簡単なミクロ経済学の内容の復習を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは使用せず必要に応じて資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 細田衛士、『環境経済学』、ミネルヴァ書房

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX175／流通経済論 (Marketing and Distribution)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	流通の基礎理論と地域商業		
担当者名 (Instructor)	大熊　省三(OKUMA SHOZO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

学生が近い将来、社会人としてビジネスの現場の最前線で活躍できるように、「流通経済論」の本質と将来動向を、明確に説明できるような社会人になってもらうことを目標とする。

The objective of this course is for students, who in the near future will participate on the frontlines of business as working members of society, to be able to clearly explain the essence and future trends of "Marketing and Distribution."

授業の内容(Course Contents)

流通経済が用いる学術用語に慣れ、学問的体系と内容が説明できるようになる。
経済専門誌等から、流通経済論上のテーマを選び出し、時事的に論じられるようにする。
学生が興味ある地域商業を選んで、その活性化事業を分析できるようにする。

Students will become accustomed to the academic terms used for marketing and distribution theory and be able to explain the corresponding academic system and contents.
Marketing and distribution themes will be selected from economics journals and discussed as current events.
Students will become able to select a regional commerce they are interested in and analyze a corresponding revitalization project.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション(流通経済論とは何か、講義の進め方、評価方法の説明)
2. 流通とは(消費者･生産者と流通･商業)
3. 百貨店と総合スーパー
4. 食品スーパーと CVS
5. ディスカウント･ストアと SPA
6. 商店街と郊外型大型ショッピングセンター
7. 流通構造
8. 地域商業の実態
9. 地域商業活性化事業①(北海道、東北)
10. 地域商業活性化事業②(関東、中部)
11. 地域商業活性化事業③(関西、九州))
12. コンパクトシティーについて
13. 商業集積の存続メカニズム
14. 生産と流通

授業時間外(予習･復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

学生が、教科書、シラバスの内容についてプレゼンテーションをする。
学生のプレゼンテーションを聞いて内容を理解し、質問ができるように事前勉強をしてくる。

成績評価方法･基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業参加意欲、出席状況、課題提出、プレゼンテーション(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 石原武政、竹村正明、2009、『1 からの流通論』、中央経済社 (97845022662508)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX176／流通政策論 (Marketing and Distribution Policy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地域流通の再生（TMO からコンパクトシティ、結果検証）		
担当者名 (Instructor)	大熊　省三(OKUMA SHOZO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

学生が近い将来、社会人としてビジネスの現場の最前線で活躍できるように、「流通政策論」の本質と将来動向を、明確に説明できるような社会人になってもらうことを目的とする。

The objective of this course is for students, who in the near future will participate on the frontlines of business as working members of society, to be able to clearly explain the essence and future trends of “Marketing and Distribution Policy.”

授業の内容(Course Contents)

流通政策が用いる学術用語に慣れ、学問的体系と内容が説明できるようになる。
経済専門誌等から、流通政策論上のテーマを選び出し、時事的に論じられるようにする。
学生が興味ある地域商業を選んで、その活性化事業を分析できるようにする。

Students will become accustomed to the academic terms used for marketing and distribution policy and be able to explain the corresponding academic system and contents.
Marketing and distribution policy themes will be selected from economics journals and discussed as current events.
Students will become able to select a regional commerce they are interested in and analyze a corresponding revitalization project.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション（流通政策論とは何か、講義の進め方、評価方法の説明）
2. 流通政策とは(取引慣行)
3. 流通系列化
4. ロジスティックス
5. 商業者の行動
6. 商業集積のメカニズム
7. 生産と流通
8. 独占禁止法、景品表示法を事例から考える
9. 独占禁止法と景品表示法①（独占禁止法事例）
10. 独占禁止法と景品表示法②（景品表示法事例）
11. まちづくり三法の意義
12. TMO からコンパクトシティー
13. コンパクトシティ事例発表
14. 商業集積の存続メカニズム

授業時間外（予習・復習等）の学習(Study Required Outside of Class)

学生が、教科書、シラバスの内容についてプレゼンテーションをする。
学生のプレゼンテーションを聞いて内容を理解し、質問ができるように事前勉強をしてくる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業参加意欲、出席状況、課題提出、プレゼンテーション(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 石原武政、竹村正明、2009、『1 からの流通論』、中央経済社 (97845022662508)

参考文献(Readings)

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX177／労働経済論1 (Labor Economics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本の雇用システムを理解する		
担当者名 (Instructor)	首藤　若菜(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

労働経済に関する学問的基礎知識を習得し，日本の雇用システムを理論的かつ構造的に把握する能力を養う。

Students will learn the fundamental academic knowledge regarding labor economics and develop the ability to logically and structurally grasp the Japanese employment system.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，歴史，制度と政策，国際比較の三つの観点を重視しながら，労働経済について体系的に論じる。この三つの観点から雇用関係を概括的に捉えた上で，日本的雇用システムの特徴と変容を軸に据え，労働市場，雇用と失業，賃金，キャリア形成， 労働時間，労働組合を個別に分析していく。

This lecture focuses on the three perspectives of history, system and policies, and international comparison while systematically discussing labor economics. After gaining a general understanding of employment relations from these three perspectives, the labor market, employment and unemployment, wages, career formation, working hours, and labor unions will be individually analyzed while focusing on the characteristics and transformation of the Japanese employment system.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション：労働経済論を学ぶ意義を考える。
2. 「働く」とは何か？：人はなぜ働くのか。ベーシック・インカム論とアクティベーション政策。
3. 雇用関係と制度①：企業の役割、労働組合の役割、政府の役割。
4. 雇用関係と制度②：「使用者」とは誰か。「労働者」とは誰か。
5. 日本の雇用システムと海外の雇用システム：日本の雇用の特徴と、それが形成されてきた過程。
6. 労働災害と労働力商品：労働力商品の特殊性。
7. 雇用と失業①：失業の実態と失業に関わる法律と制度。
8. 雇用と失業②：解雇規制をどう考えるか。
9. 雇用と失業③：失業に関わる労働経済学の理論。
10. 賃金①：日本の昇進と賃金の特徴。
11. 賃金②：賃金はどのように決まるのか。賃金格差はなぜ生まれるのか。
12. 賃金③：賃金制度の内実。低金銀問題。
13. 労働時間①：長時間労働問題。なぜ日本人の労働時間は長いのか。
14. 労働時間②：労働時間の歴史と制度。労働時間は短くなってきたか。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義のなかで適宜指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/リアクションペーパー(10%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。

参考文献(Readings)

講義のなかで，参考文献を適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

パワーポイントを使用した講義形式で，映像資料や現物資料なども適宜活用する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX178／労働経済論2 (Labor Economics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の労働問題を考える		
担当者名 (Instructor)	首藤　若菜(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の労働経済の現状を認識し，学問的な方法に基づいて多面的に分析する能力を身につける。

To acquire knowledge of the current state of Japanese labor economics and the ability to conduct a multifaceted analysis based on academic methods.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，労働経済論1で習得した労働に関わる理論、歴史、制度などの知識を前提に、労働をめぐる現代的な課題を具体的に取り上げ、検討していく。最初に、社会経済構造と労働政策・制度の変化について考察したうえで，雇用形態の多様化，女性労働，若年者・高齢者雇用など，現代日本の労働経済に関する重要な論点を，統計データや実態調査にも言及しながら論じていく。

This lecture will address and consider contemporary labor issues based on the knowledge of labor theory, history, systems, etc., learned in Labor Economics 1. First, the social economic structure and changes to labor policy and systems will be considered and then the important points in contention regarding contemporary Japanese labor economics, such as diversification of the employment patterns, female labor, and employment of youth and the elderly, etc., will be discussed while also making mention of statistical data and fact-finding surveys.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション：非正規雇用はなぜ増えてきたのか？非正規雇用はなぜ社会問題となってきたのか？
2. 社会経済構造の変化；かつての日本の雇用のあり方と、今の日本の雇用のあり方には、どのような違いがあり、いかなる共通点があるか。
3. 雇用形態の多様化①：派遣労働を考える。派遣労働の課題はどこにあるのか。
4. 雇用形態の多様化②：パートタイム労働を考える。最大規模の非正規労働者の働き方はどのようなものか。
5. 雇用形態の多様化③：契約社員、有期雇用を考える。
6. 女性労働①：雇用均等に関する政策と制度の変遷。
7. 女性労働②：女性は差別されているか？経済学の理論に基づく検証。
8. 女性労働③：男女の格差は縮小してきたのか？そのための道筋を描けるか。
9. 少子化とワーク・ライフ・バランス：なぜ少子化が進むのか。少子化対策は、どこまで有効なのか？
10. 若年雇用①：若年の非正規雇用労働者、正規雇用労働者の実態。
11. 若年雇用②：日本の若年雇用の特徴。労働政策における若者の位置づけの国際比較。
12. グローバル化と労働①：海外の労働者は、私たちの労働とどう関係しているのか？
13. グローバル化と労働②：グローバル企業の海外雇用の実態。
14. グローバル化と労働③：国際労働基準と国際労働運動。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義のなかで指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/リアクションペーパー(10%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。

参考文献(Readings)

講義のなかで，参考文献を適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

パワーポイントを使用した講義形式で，映像資料や現物資料なども適宜活用する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／社会開発論 (Social Development)		
担当者名 (Instructor)	石井　優子(ISHII YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX179		

授業の目標(Course Objectives)

経済開発だけでは改善できなかった開発課題を把握するとともに、これらの開発課題に対して、社会開発がどのような分析手法を提示しているのかを理解する。

To grasp the development issues that cannot be improved through economic development alone while also understanding which analytical techniques are presented by social development regarding these development issues.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、発展途上国の経済成長に主眼を置いた既存の経済開発に対して、途上国の人々の生活および社会を改善するための新たな分析手法として誕生した社会開発について、その理論的潮流を考察した上で、実際の発展途上国が直面している主要な諸課題を取り扱う。その際、より具体的な事例を紹介し、学生の理解を深めたいと考える。

This lecture will discuss the main issues actually facing developing nations while considering the theoretical trends of social development, which arose as a new analytical technique for improving the lives of people and the society in developing nations, in relation to existing economic development, which focuses on the economic growth of developing nations. This will be done while also introducing specific examples to deepen student understanding.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 社会開発とは
3. 「開発」の潮流と社会開発の系譜①
4. 「開発」の潮流と社会開発の系譜②
5. 開発諸課題と社会開発①
6. 開発諸課題と社会開発②
7. 開発諸課題と社会開発③
8. 開発諸課題と社会開発④
9. 参加型開発と外部者の関わり①
10. 参加型開発と外部者の関わり②
11. 参加型開発と外部者の関わり③
12. 参加型開発と外部者の関わり④
13. 社会開発の課題と展望
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特に指定せず、必要に応じて指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席、小テスト、リアクションペーパー(30%)
毎回、授業の理解度を確認する小テストもしくはリアクションペーパーの提出がある。

テキスト(Textbooks)

毎回配布する資料に沿って講義を進める。

参考文献(Readings)

特に指定せず、必要に応じて紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX182／農業経済論 (Agricultural Economics)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

農業の現状と課題について基礎的知識を身につけるとともに，食料需給や農産物貿易等の「農」と「食」をめぐる社会経済問題を経済学的視点から理解する。

The object of this course is to acquire basic knowledge of the current state of agriculture and food issues from an economics approach, such as food supply and demand theory, trade of agricultural products, production and farm management.

授業の内容(Course Contents)

食料の需給問題とそれをふまえた農産物貿易の理論や農産物市場の特質について,また農業に特徴的な生産要素である土地と労働について,また食品産業の発展と食品安全をめぐる諸課題について講義する。

This course discusses trade theory and the characteristics of the agricultural products market, production theory and actual farm management, the development of the food industry and food safety efforts.

授業計画(Course Schedule)

1. 農業経済の課題
2. 世界の農業と食料問題
3. 農産物貿易の経済理論と農業保護（1）
4. 農産物貿易の経済理論と農業保護（2）
5. 食料の需要と供給（1）
6. 食料の需要と供給（2）
7. 経済発展と日本農業
8. 日本農業の担い手
9. 日本農業と農地
10. 農業と資源保全
11. 農業と環境保全
12. 日本農業と農産物流通
13. フードシステムと食品安全（1）
14. フードシステムと食品安全（2）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Blackboard で事前に講義内容を確認すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 荏開津典生・鈴木宣弘、2015、『農業経済学 第 4 版』、岩波書店 (ISBN:978-4000289177)

参考文献(Readings)

1. 生源寺眞一、2011、『日本農業の真実』、筑摩書房 (ISBN:978-4480066084)
2. 田代洋一、2012、『農業・食料問題入門』、大月書店 (ISBN:978-4272140602)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

食料・農業・農村白書
(http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h29/index.html)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX183／農業政策論 (Agricultural Policy)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

農業政策の対象範囲は,食料生産・需給政策にくわえて,今日では資源・環境保全政策,地域振興政策，食品安全政策など多岐におよぶ。現代の農業政策の概要と課題について国際的視野から理解する。

The object of this course is to overview and understand the current agricultural policy from regional and global perspective, including food production and supply chain policies, resource and environmental protection policies, local development policies, and food safety policies.

授業の内容(Course Contents)

農政改革の柱である農業政策，資源・環境保全や条件不利地域等の農村振興政策，さらに農産物貿易と食料安全保障，食品安全・規格基準等に関する政策・諸制度について講義する。

This course discusses agricultural policy, which is the pillars of agricultural policy reforms: rural developmen, resource and environmental conservation, global trade and food security, food safety and standards.

授業計画(Course Schedule)

1. 現代の農政改革の課題
2. 貿易政策と食料安全保障
3. 農産物貿易と国境措置
4. 日本農業と資源保全政策（1）
5. 日本農業と資源保全政策（2）
6. 農業の多面的機能と地域社会
7. 農業と環境保全（1）
8. 農業と環境保全（2）
9. 米国の農業政策（1）
10. 米国の農業政策（2）
11. EU の共通農業政策（1）
12. EU の共通農業政策（2）
13. 食品安全政策と国際化（1）
14. 食品安全政策と国際化（2）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Blackboard で事前に講義内容を確認すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 生源寺眞一、2011、『日本農業の真実』、筑摩書房 (ISBN:978-4480066084)
2. 田代洋一、2012、『農業・食料問題入門』、大月書店 (ISBN:978-4272140602)
3. 荘林幹太郎ほか、2012、『世界の農業環境政策』、農林統計協会 (ISBN:978-4541037985)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

食料・農業・農村白書
(http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h29/index.html)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX184／都市政策論1 (Urban and Regional Policy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市と地域の経済学		
担当者名 (Instructor)	田島　夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

都市経済学の理論を用いて都市の成り立ちを理解するとともに、現実の都市をとりまく複雑な問題を把握し、各種の都市政策が及ぼす効果を理解することを目標とする。

The objective of this course is to use urban economic theory to understand the origins of cities while grasping the complex problems that face actual cities and understanding the effects of urban policies.

授業の内容(Course Contents)

我々が消費者として生活するとともに仕事などを通じて生産活動に従事する「都市」は、距離や方向を持つ空間として現実の社会に目に見える形で存在している。この授業では経済主体どうしが互いに近接することによる地域的な「集積」である都市が持つ意味を、経済学の理論に基づいて解説する。また、人やモノの移動にかかる費用や集積することによる効用が、企業や家計の立地選択を通じてどのように都市空間の形成に寄与しているのかを理解し、様々な都市政策が私たちの生活に与える影響を考察できるようになることを目指す。

"Cities," where various consumers live while also participating in production activities as work, are space that has distance and direction and thus are of a form that can be seen by actual society. From this class students will understand based on economic theory the meaning of cities, which form a geographical "concentration" as economic agents mutually approach each other. In addition, the object of this course for students is to understand how the cost of transporting people and things and the merit of agglomeration contribute to the formation of urban spaces through the location selections of companies and households as well as to be able to consider how the various urban policies impact our daily lives.

授業計画(Course Schedule)

1. なぜ都市が存在するのか(1)　規模の経済・集積の経済
2. なぜ都市が存在するのか(2)　輸送・移動費用と立地
3. なぜ都市が存在するのか(3)　人材の集積の利益と生産性
4. 都市空間構造の分析(1)　経済学における都市「空間」の考え方
5. 都市空間構造の分析(2)　通勤費用と住宅立地
6. 都市空間構造の分析(3)　住宅の供給
7. 都市空間構造の分析(4)　人口の分布と移動
8. 都市空間構造の分析(5)　都市間移住と競争
9. 都市空間モデルの拡張(1)　都市圏内の所得格差
10. 都市空間モデルの拡張(2)　さまざまな交通機関、都心と副都心
11. スプロールと都市計画(1)都市における市場の失敗
12. スプロールと都市計画(2)土地利用規制
13. 混雑の経済学(1)道路渋滞と満員電車
14. 混雑の経済学(2)混雑解消の経済的手法

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・ミクロ経済学の基本的事項を習得していることが望ましいが、授業内で基礎から解説する。
・リアクション・ペーパーは課題を事前に課し、次回授業までに解答を考えてくることを求めることがある。
・復習として演習問題を課し、筆記試験の範囲に含める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業内で課すリアクション・ペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

1. Brueckner, Jan K.. 2011. *Lectures on Urban Economics*. The MIT Press (ISBN:978-0-262-01636-0)
参考文献の Brueckner(2011)が実質的なテキストであるが、日本語の資料を必要に応じて配布するので購入する必要はない。

参考文献（Readings）

1. バージニア・リー・バートン、1954、『ちいさいおうち』、岩波書店 (ISBN:978-4001151060)
2. エドワード・グレイザー著、山形浩生訳、2012、『都市は人類最高の発明である』、NTT 出版 (ISBN:978-4-7571-4279-4)
3. 佐藤泰裕、2014、『都市・地域経済学への招待状 』、有斐閣 (ISBN:978-4641150096)
4. 黒田達朗・田渕隆俊・中村良平、2008、『都市と地域の経済学［新版］』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-18371-1)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX185／都市政策論2 (Urban and Regional Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市政策の分析と評価		
担当者名 (Instructor)	田島　夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現実の都市が直面する課題と制度・政策を経済学の考え方を用いて分析・評価し、よりよい都市環境・都市社会をつくるための政策や行動を自ら考えることができるようになることを目標とする。

The objective of this course is to become able to think on one's own about the policies and actions for creating a better urban environment and urban society by analyzing and evaluating the issues faced by real cities and their systems and policies using economic concepts.

授業の内容(Course Contents)

「都市政策論 1」で学ぶ都市のメカニズムの理解の上に立ち、現実の都市問題を理解し分析する。前半では住宅の市場と国内・海外の住宅政策の考え方と違いを学ぶ。後半では特に住環境と生活の質に関わる諸問題を理解し、具体的な制度・政策についても学ぶ。これらの題材について、統計データを用いた政策評価の考え方も紹介する。

Actual urban problems will be understood and analyzed based on the understanding of the urban mechanisms learned in Urban and Regional Policy 1. During the first half of the course students will learn about the housing market and the differences in the concepts between the Japanese and foreign housing policies. During the second half of the course, students will gain an understanding in particular of the problems relating to the housing environment and the quality of life and will also learn about specific systems and policies. The subject material will introduce policy evaluation concepts using statistical data.

授業計画(Course Schedule)

1. 住宅の市場(1)　都市家計と住宅の需要
2. 住宅の市場(2)　持ち家か？賃貸か？
3. 住宅の市場(3)　経済政策と家計の住宅選択行動
4. 住宅政策(1)　住宅取得補助、家賃規制、公的住宅供給
5. 住宅政策(2)　空き家はなぜ生まれるのか、なぜ問題か
6. 住宅政策(3)　区分所有法とマンション
7. 地域公共財(1)　地域公共財と公共サービス
8. 地域公共財(2)　「足による投票」と居住地選択
9. 都市環境汚染と環境規制(1)
10. 都市環境汚染と環境規制(2)
11. 地域の安全(1)　自然災害と都市、防災・減災対策
12. 地域の安全(2)　犯罪の経済分析
13. 都市環境の質を測る(1)　環境評価の方法(ヘドニック価格法、CVM)
14. 都市生活の質を測る(2)　生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)と政策

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・ミクロ経済学の基礎的事項と、「都市政策論 1」の内容を理解していることが望ましい。
・リアクションペーパーやグループディスカッション等の課題を事前に課し、次回の授業までに準備してくることを求めることがある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業内で課すリアクション・ペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

特定のテキストは用いず、授業内で必要に応じて配布する。

参考文献(Readings)

1. Brueckner, Jan K.. 2011. *Lectures on Urban Economics*. The MIT Press (ISBN:978-0-262-01636-0)

2. 米山秀隆、2015、『限界マンション―次に来る空き家問題』、日本経済新聞社 (ISBN:978-4532356712)
3. エンリコ・モレッティ著、池村千秋訳、2014、『年収は「住むところ」で決まる―雇用とイノベーションの都市経済学』、プレジデント社 (ISBN:978-4833420822)
4. スティーブン・レヴィット、スティーブン・ダブナー著、望月衛訳、2007、『ヤバい経済学 [増補改訂版]』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492313787)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX186／比較公共政策論1 (Comparative Public Policy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	比較的観点からみた「国土強靱化」		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代比較公共政策を政治経済として理解する。

To understand contemporary comparative public policy as political economy.

授業の内容(Course Contents)

比較公共政策論の授業においては，民間(企業，個人など)部門では対応できない公的な課題に対し，公共(中央・地方政府など)部門が計画・実行する政策の目的や政策決定の過程，決定に関わるステークホルダーなどを政治経済学的な視点から分析する。現在の環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し，制度化されつつある緩和策及び適応策も検討する。

In this class on Comparative Public Policy, public problems that cannot be dealt with by the private sector (companies, individuals, etc.) are analyzed from a political economic perspective by looking at the public sector's (central and local governments, etc.) planning and execution objectives, policy setting process, and the stakeholders involved in decision making. A comparative analysis will be made of the measures taken by the public sectors in advanced nations using the current environmental and energy crises as a background and the mitigation measures and adaptation measure that are being systematized will also be considered.

授業計画(Course Schedule)

1. 政治経済学と比較公共政策論とは何か？
2. 環境・エネルギー危機：緩和策及び適応策
3. 「国土強靱化」とは何か？
4. 「防災環境都市」とは何か？
5. 「超スマート社会」とは何か？
6. 国の取り組み／総務省，経済産業省，国土交通省，環境省
7. 自治体の取り組み／静岡県
8. 公的機関の取り組み／NEDO
9. 先進企業の取り組み：ソフトバンク
10. 先進企業の取り組み：明電舎
11. 自治体の取り組み／東京都
12. 自治体の取り組み／神奈川県
13. 自治体の取り組み／埼玉県
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 柏木孝夫、2018、『超スマートエネルギー社会5．0』、エネルギーフォーラム (ISBN:978-4-88555-494-0)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

国土強靱化

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/
ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/resilience/
レジリエンスジャパン推進協議会
http://www.resilience-jp.biz

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX187／比較公共政策論2 (Comparative Public Policy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	比較的観点からみた「国土強靱化」		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代比較公共政策を政治経済として理解する。

To understand contemporary comparative public policy as political economy.

授業の内容(Course Contents)

比較公共政策論 2 の授業においては，民間(企業，個人など)部門では対応できない公的な課題に対し，公共(中央・地方政府など)部門が計画・実行する政策の目的や政策決定の過程，決定に関わるステークホルダーなどを政治経済学的な視点から分析する。現在の環境・エネルギー危機を背景に諸先進国の公共部門による対策を比較分析し，制度化されつつある緩和策及び適応策も検討する。

In this class on Comparative Public Policy 2, public problems that cannot be dealt with by the private sector (companies, individuals, etc.) are analyzed from a political economic perspective by looking at the public sector's (central and local governments, etc.) planning and execution objectives, policy setting process, and the stakeholders involved in decision making. A comparative analysis will be made of the measures taken by the public sectors in advanced nations using the current environmental and energy crises as a background and the mitigation measures and adaptation measure that are being systematized will also be considered.

授業計画(Course Schedule)

1. エネルギー危機:緩和策及び適応策
2. コンパクトシティ・プラス・ネットワーク
3. コンパクトシティ・プラス・ネットワーク2
4. 災害に強いスマートシティ
5. 災害に強いスマートシティ2
6. ネットワークとして熱供給システム
7. ネットワークとして熱供給システム2
8. ネットワークとダム再生ビジョン
9. ネットワークとダム再生ビジョン2
10. 超スマート社会と ICT・IoT
11. 超スマート社会と ICT・IoT2
12. 新エネルギーとして注目されている水素エネルギー
13. 新エネルギーとして注目されている水素エネルギー2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 柏木孝夫、2018、『超スマートエネルギー社会 5.0』、エネルギーフォーラム (ISBN:978-4-88555-494-0)

コンパクト・プラス・ネットワークのモデル都市

http://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000039.html

協会誌「熱供給」

http://www.jdhc.or.jp/publications/

ダム再生ビジョン

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo05_hh_000029.html

東京都「3 つのシティ」の実現に向けた政策の強化(平成 30 年度)
http://www.seisakukikaku.metro.tokyo.jp/actionplan_for_2020/kyouka/kyouka0.pdf
第 2 次エコタウンえどがわ推進計画
https://www.city.edogawa.tokyo.jp/goikentoiawase/comment/koubo/eco_town.files/eco_town.pdf

参考文献(Readings)

1. 波形克彦　小林勇治、2016、『地方創生とエネルギーミックス』、同友館 (ISBN:978-4496052187)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

国土強靱化
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/
ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/resilience/
レジリエンスジャパン推進協議会
http://www.resilience-jp.biz

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX190／国際経済論 (International Economy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際経済を見る目		
担当者名 (Instructor)	蓮見　雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX190:1 年　BX192:2～4 年		

授業の目標(Course Objectives)

経済活動のグローバル化を多面的に理解する手がかりとして、様々な認識方法を学ぶ。

To learn a variety of recognition methods as a means for gaining a multifaceted understanding of the globalization of economic activities.

授業の内容(Course Contents)

今日、世界の各国、各地域の経済は、国境を越える財、サービス、資本、人の移動を通じて相互依存関係を深めている。本講義では、グローバル化する経済活動を理解するために、(1)国際経済論の基礎を学び、(2)世界各地、各種の基礎的なデータへのアクセス方法を確認し、(3)世界経済を支えている WTO、IMF、G7、G20 等の役割、及び国家の経済政策への影響に関する基礎知識を習得し、(4)最後に、日々刻々と変化する世界経済について独力で考えるための手がかりとして、国際経済に関する諸説を概説する。なお、受講者の理解度と講義の進捗状況に応じて、講義の順番を入れ替えることがある。

Today, the economies of countries and regions around the world are deepening their mutually dependent relationships through the movement of goods, services, capital, and people across national borders. In order to understand the globalization of economic activities, in this lecture students will be given an outline of international economics as a means for (1) learning the fundamentals of international economic theory, (2) checking the methods for accessing basic data of various types for various regions around the world, (3) acquiring a basic knowledge of the roles and impact on national economic policy of the WTO, IMF, G7, and G20, etc., which support the global economy, and (4) being able to independently consider the constantly changing global economy. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. グローバルな相互依存と国際分業の利益・課題
3. 比較生産費説と貿易の利益
4. 比較優位と貿易
5. 要素賦存と貿易
6. 国際収支表から見えるもの
7. 為替レートの決定と購買力平価説
8. 通商ガバナンスと国際機構:マーケットアクセスからルールへ
9. 世界各国、各地域の経済データを調べてみよう(レポート課題あり)
10. 国際資本移動－間接投資と直接投資が国家や地域に与える影響
11. 企業内貿易
12. 通商ガバナンスと国際機構:マーケットアクセスからルールへ
13. 地域経済統合
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義資料は、ブラックボードで配布するので、各自で印刷して目を通してから授業に参加すること。
復習:講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。
進んだ学習:第 9 回の授業で詳しく紹介するが、国際機構(WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD 等)の資料は無料でダウンロードして読めるものがたくさんある。世界各地の経済問題について、自分で調べてみよう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/レポート課題(26%)/出席および授業参加度(14%)
第 9 回の講義に関連したレポートを課し、ブラックボードで提出してもらう予定。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 高橋 信弘、2015、『国際経済学入門-グローバル化と日本経済 改訂第 2 版』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4779509230)
2. 阿部 清司, 石戸 光、2008、『相互依存のグローバル経済学』、明石書店 (ISBN:978-4750328898)
3. ダニ・ロドリック、2013、『グローバリゼーション・パラドクス: 世界経済の未来を決める三つの道』、白水社 (ISBN:978-4560082768)
4. 石川城太他、2013、『国際経済学をつかむ 第 2 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641177192)
5. 友原章典、2014、『国際経済学へのいざない 第 2 版』、日本評論社 (ISBN:978-4535557963)
6. Alan Cafruny, Leila Talani, Gonzalo Pozo Martin. 2016. *The Palgrave Handbook of Critical International Political Economy*. Palgrave Macmillan (ISBN:978-1137500175)
7. Thijs Van de Graaf, Benjamin K. Sovacool, Arunabha Ghosh, Florian Kern, Michael T. Klare. 2016. *The Palgrave Handbook of Critical International Political Economy of Energy*. Palgrave Macmillan (ISBN:978-1137556301)
蓮見雄「グローバル経済ガバナンス問題と国際機構・EU―「市場との対話」と「市民社会との対話」の両立は可能か―」『慶應法学』第 5 号、2006 年。
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/image.php/AA1203413X-20060515-0155.pdf?file_id=14544

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX191／世界経済論 (International Economics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界－国家－地域の関連を複眼的に見る		
担当者名 (Instructor)	蓮見　雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX191:1 年　BX193:2～4 年		

授業の目標(Course Objectives)

経済活動のグローバル化と不均質な世界経済を理解する力を養う。

To develop the ability to understand the globalization of economic activities and the heterogeneous global economy.

授業の内容(Course Contents)

今日、たとえ一国一地域のローカルな問題であっても、世界経済との関係を抜きに理解することは難しい。また国家の経済政策や社会政策も、経済活動のグローバル化への適応を迫られ、変容し始めている。本講義では、ヨーロッパに焦点を定めつつ、国境を越えた都市・地域間ネットワーク形成という視点を織り込みながら、世界経済の変化とグローバル経済ガバナンスの可能性について講義する。なお、受講生の理解度や講義の進捗状況による講義の順序を調整する場合がある。

Today, even if a problem is local to one country or region, it is difficult to understand it without considering its relationship to the global economy. Further, the economic and social policies of nations are being forced to address the globalization of economic activities and are beginning to be transformed accordingly. This lecture focuses on Europe and incorporates the perspective of forming a network among cities and regions that extends beyond national boarders while discussing the changes in the global economy and the possibility of global economic governance. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

授業計画(Course Schedule)

1. 不均質な世界とグローバル・シフト
2. 資本移動とグローバル生産ネットワーク
3. グローバル生産ネットワークと国家の役割の変化
4. グローバル経済ガバナンスの模索
5. メガリージョンの時代:TPP、TTIP、RCEP、日 EU・EPA 等
6. グローバル経済下における二つのトリレンマ
7. 欧州連合(EU)にみるリージョナル経済ガバナンス
8. 国際分業におけるヨーロッパの諸国と諸地域
9. 経済統合のツールボックスとしての EU
10. グローバルな人の移動とヨーロッパ
11. グローバル・ネットワークにおける都市
12. 金融資本主義の時代とユーロ
13. エネルギーは「武器」か「商品」か、それとも「呪い」か？
14. 社会問題のグローバル化、持続可能性(sustainability)、説明責任(accountability):多国籍企業と市民社会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義資料は、ブラックボードで配布するので、各自で印刷して目を通してから授業に参加すること。
復習:講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

参考文献として、特に P. Dicken, Global Shift, 7th edition(Guilford Pr., 2015)推奨する.深く学びたい学生は、同文献を参照すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(86%)/出席および授業参加度(14%)

テキスト(Textbooks)

なお、次の文献をテキストとして使用する予定である。
著者名:K. ペイン・G. ハム編、蓮見雄・細矢浩志・高﨑春華訳
書籍名:グローバル化の中で変わりゆく都市・地域間関係(仮)

出版社：明石書店
出版年：2019 年年 9 月刊行予定である。刊行が間に合わない場合は、テキストなしとする。

参考文献（Readings）

1. P. Dicken. 2015. *Global Shift, 7th edition*. Guilford Pr. (ISBN:978-1462519552)
2. リチャード・ボールドウィン、2018、『世界経済－大いなる収斂－IT がもたらす新次元のグローバリゼーション』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532357634)
3. ジョン・ジェラルド・ラギー、2014、『正しいビジネス――世界が取り組む「多国籍企業と人権」の課題』、岩波書店 (ISBN:978-4000259767)
4. 杉本 侃編、2016、『北東アジアのエネルギー安全保障 東を目指すロシアと日本の将来』、日本評論社 (ISBN:978-4535558472)
5. 蓮見雄編、2009、『拡大する EU とバルト経済圏の胎動』、昭和堂 (ISBN:978-4812208687)
6. 高橋信弘、2018、『グローバル化の光と影－日本の経済と働き方はどう変わったのか』、晃洋書房 (ISBN:978-4771031203)
7. OECD、2017、『地図でみる世界の地域格差 OECD地域指標 都市集中と地域発展の国際比較 2016年版』、明石書店 (9.784750344881E12)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

世界経済評論 IMPACT http://www.world-economic-review.jp/impact/

蓮見雄「グローバル経済ガバナンス問題と国際機構・EU―「市場との対話」と「市民社会との対話」の両立は可能か―」『慶應法学』第 5 号、2006 年。
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/image.php/AA1203413X-20060515-0155.pdf?file_id=14544

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX192／国際経済論 (International Economy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際経済を見る目		
担当者名 (Instructor)	蓮見　雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX190:1 年　BX192:2～4 年		

授業の目標(Course Objectives)

経済活動のグローバル化を多面的に理解する手がかりとして、様々な認識方法を学ぶ。

To learn a variety of recognition methods as a means for gaining a multifaceted understanding of the globalization of economic activities.

授業の内容(Course Contents)

今日、世界の各国、各地域の経済は、国境を越える財、サービス、資本、人の移動を通じて相互依存関係を深めている。本講義では、グローバル化する経済活動を理解するために、(1)国際経済論の基礎を学び、(2)世界各地、各種の基礎的なデータへのアクセス方法を確認し、(3)世界経済を支えている WTO、IMF、G7、G20 等の役割、及び国家の経済政策への影響に関する基礎知識を習得し、(4)最後に、日々刻々と変化する世界経済について独力で考えるための手がかりとして、国際経済に関する諸説を概説する。なお、受講者の理解度と講義の進捗状況に応じて、講義の順番を入れ替えることがある。

Today, the economies of countries and regions around the world are deepening their mutually dependent relationships through the movement of goods, services, capital, and people across national borders. In order to understand the globalization of economic activities, in this lecture students will be given an outline of international economics as a means for (1) learning the fundamentals of international economic theory, (2) checking the methods for accessing basic data of various types for various regions around the world, (3) acquiring a basic knowledge of the roles and impact on national economic policy of the WTO, IMF, G7, and G20, etc., which support the global economy, and (4) being able to independently consider the constantly changing global economy. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. グローバルな相互依存と国際分業の利益・課題
3. 比較生産費説と貿易の利益
4. 比較優位と貿易
5. 要素賦存と貿易
6. 国際収支表から見えるもの
7. 為替レートの決定と購買力平価説
8. 通商ガバナンスと国際機構:マーケットアクセスからルールへ
9. 世界各国、各地域の経済データを調べてみよう(レポート課題あり)
10. 国際資本移動－間接投資と直接投資が国家や地域に与える影響
11. 企業内貿易
12. 通商ガバナンスと国際機構:マーケットアクセスからルールへ
13. 地域経済統合
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義資料は、ブラックボードで配布するので、各自で印刷して目を通してから授業に参加すること。
復習:講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。
進んだ学習:第 9 回の授業で詳しく紹介するが、国際機構(WTO、IMF、世界銀行、OECD、UNCTAD、IEA、ILO、EU、EBRD 等)の資料は無料でダウンロードして読めるものがたくさんある。世界各地の経済問題について、自分で調べてみよう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/レポート課題(26%)/出席および授業参加度(14%)
第 9 回の講義に関連したレポートを課し、ブラックボードで提出してもらう予定。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 高橋 信弘、2015、『国際経済学入門-グローバル化と日本経済 改訂第 2 版』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4779509230)
2. 阿部 清司, 石戸 光、2008、『相互依存のグローバル経済学』、明石書店 (ISBN:978-4750328898)
3. ダニ・ロドリック、2013、『グローバリゼーション・パラドクス: 世界経済の未来を決める三つの道』、白水社 (ISBN:978-4560082768)
4. 石川城太他、2013、『国際経済学をつかむ 第 2 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641177192)
5. 友原章典、2014、『国際経済学へのいざない 第 2 版』、日本評論社 (ISBN:978-4535557963)
6. Alan Cafruny, Leila Talani, Gonzalo Pozo Martin. 2016. *The Palgrave Handbook of Critical International Political Economy*. Palgrave Macmillan (ISBN:978-1137500175)
7. Thijs Van de Graaf, Benjamin K. Sovacool, Arunabha Ghosh, Florian Kern, Michael T. Klare. 2016. *The Palgrave Handbook of Critical International Political Economy of Energy*. Palgrave Macmillan (ISBN:978-1137556301)
蓮見雄「グローバル経済ガバナンス問題と国際機構・EU―「市場との対話」と「市民社会との対話」の両立は可能か―」『慶應法学』第 5 号、2006 年。
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/image.php/AA1203413X-20060515-0155.pdf?file_id=14544

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX193／世界経済論 (International Economics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界－国家－地域の関連を複眼的に見る		
担当者名 (Instructor)	蓮見　雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX191:1 年　BX193:2～4 年		

授業の目標(Course Objectives)

経済活動のグローバル化と不均質な世界経済を理解する力を養う。

To develop the ability to understand the globalization of economic activities and the heterogeneous global economy.

授業の内容(Course Contents)

今日、たとえ一国一地域のローカルな問題であっても、世界経済との関係を抜きに理解することは難しい。また国家の経済政策や社会政策も、経済活動のグローバル化への適応を迫られ、変容し始めている。本講義では、ヨーロッパに焦点を定めつつ、国境を越えた都市・地域間ネットワーク形成という視点を織り込みながら、世界経済の変化とグローバル経済ガバナンスの可能性について講義する。なお、受講生の理解度や講義の進捗状況による講義の順序を調整する場合がある。

Today, even if a problem is local to one country or region, it is difficult to understand it without considering its relationship to the global economy. Further, the economic and social policies of nations are being forced to address the globalization of economic activities and are beginning to be transformed accordingly. This lecture focuses on Europe and incorporates the perspective of forming a network among cities and regions that extends beyond national boarders while discussing the changes in the global economy and the possibility of global economic governance. The order in which subject matter is presented in the lecture may be changed depending on the level of understanding of the students and the way the lecture is progressing.

授業計画(Course Schedule)

1. 不均質な世界とグローバル・シフト
2. 資本移動とグローバル生産ネットワーク
3. グローバル生産ネットワークと国家の役割の変化
4. グローバル経済ガバナンスの模索
5. メガリージョンの時代:TPP、TTIP、RCEP、日 EU・EPA 等
6. グローバル経済下における二つのトリレンマ
7. 欧州連合(EU)にみるリージョナル経済ガバナンス
8. 国際分業におけるヨーロッパの諸国と諸地域
9. 経済統合のツールボックスとしての EU
10. グローバルな人の移動とヨーロッパ
11. グローバル・ネットワークにおける都市
12. 金融資本主義の時代とユーロ
13. エネルギーは「武器」か「商品」か、それとも「呪い」か？
14. 社会問題のグローバル化、持続可能性(sustainability)、説明責任(accountability):多国籍企業と市民社会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義資料は、ブラックボードで配布するので、各自で印刷して目を通してから授業に参加すること。
復習:講義資料と授業時に紹介する参考資料で復習すること。

参考文献として、特に P. Dicken, Global Shift, 7th edition(Guilford Pr., 2015)推奨する.深く学びたい学生は、同文献を参照すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(86%)/出席および授業参加度(14%)

テキスト(Textbooks)

なお、次の文献をテキストとして使用する予定である。
著者名:K. ペイン・G. ハム編、蓮見雄・細矢浩志・高﨑春華訳
書籍名:グローバル化の中で変わりゆく都市・地域間関係(仮)

出版社：明石書店
出版年：2019 年年 9 月刊行予定である。刊行が間に合わない場合は、テキストなしとする。

参考文献（Readings）

1. P. Dicken. 2015. *Global Shift, 7th edition*. Guilford Pr. (ISBN:978-1462519552)
2. リチャード・ボールドウィン、2018、『世界経済－大いなる収斂－IT がもたらす新次元のグローバリゼーション』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532357634)
3. ジョン・ジェラルド・ラギー、2014、『正しいビジネス――世界が取り組む「多国籍企業と人権」の課題』、岩波書店 (ISBN:978-4000259767)
4. 杉本 侃編、2016、『北東アジアのエネルギー安全保障 東を目指すロシアと日本の将来』、日本評論社 (ISBN:978-4535558472)
5. 蓮見雄編、2009、『拡大する EU とバルト経済圏の胎動』、昭和堂 (ISBN:978-4812208687)
6. 高橋信弘、2018、『グローバル化の光と影－日本の経済と働き方はどう変わったのか』、晃洋書房 (ISBN:978-4771031203)
7. OECD、2017、『地図でみる世界の地域格差 OECD地域指標 都市集中と地域発展の国際比較 2016年版』、明石書店 (9.784750344881E12)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

世界経済評論 IMPACT http://www.world-economic-review.jp/impact/

蓮見雄「グローバル経済ガバナンス問題と国際機構・EU―「市場との対話」と「市民社会との対話」の両立は可能か―」『慶應法学』第 5 号、2006 年。
http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/image.php/AA1203413X-20060515-0155.pdf?file_id=14544

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX194／EU経済論 (Structure of EU Economy)		
担当者名 (Instructor)	漆畑　春彦(URUSHIBATA HARUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、欧州連合(EU)の経済に係る歴史・現状・将来展望について、具体的な事実や統計資料等を通じて考察する。特にEU の経済・金融状況、通貨統合を、1970 年代から 2000 年代の世界経済の報告制を踏まえながら理解することを目標とする。

This lecture presents the history, current state, and future prospects of the economy of the European Union (EU) using specific facts and statistical materials among other materials. The objective of the course in particular is to understand economy, financial situation, and monetary union of the EU while looking at the global economic reporting system from the 1970's to the 2000's.

授業の内容(Course Contents)

第 2 次世界大戦後、経済統合を基盤に復興・発展をとげた欧州であるが、2000 年代には、経済統合特有の要因から生じる諸問題が顕在化している。そのことを意識しながら、地域・経済統合の背景、経済・通商・農業・通貨といった政策、近年の世界金融危機と欧州債務危機への発展、EU 経済の今後の展望などを、統計資料に基づきできる限り具体的かつ実証的に検討する。EU 経済全体を概観した後、さらに後半には、欧州の主要各国に関する経済状況や課題などについて検討する。

After World War II, Europe recovered and developed on the foundation of economic union, but in the 2000's many problems caused by factors intrinsic to economic union have become apparent. Keeping this in mind, specific and empirical consideration based on statistical materials will be made of the following subjects as much as possible: the background of regional and economic union; the policies relating to the economy and trade, agriculture, and currencies; recent global financial crises and their development into the European Debt Crisis, and; future prospects for the EU economy. After outlining the overall EU economy, during the second half of the course the economic conditions and issues faced by the major countries in Europe will be considered.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義の概要
2. EU の政治・非政治機関と立法
3. 関税同盟と単一市場、シェンゲン協定
4. EU の農業政策
5. 通貨協力・通貨統合の概要
6. 通貨協力・通貨統合とその諸問題
7. EU の経済政策、経済の構造的不均衡
8. EU の産業、産業政策
9. EU の金融システム、金融危機以降の金融制度改革
10. ドイツ経済システムの特徴
11. フランス・イタリア経済システムの特徴
12. 英国・北欧経済システムの特徴
13. 中東欧の経済システムの特徴
14. .地域統合と EU の展望

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治、2016、『現代ヨーロッパ経済第 5 版』、有斐閣アルマ

参考文献(Readings)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX195／地域経済統合論 (Theory of Regional Economic Integration)		
担当者名 (Instructor)	漆畑　春彦(URUSHIBATA HARUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、「ベラ・バラッサの地域統合論」など地域経済統合に関する理論を共有した上で、欧州、北米・南米、アジア・環太平洋地域で展開される地域経済統合、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)に象徴される大規模な自由貿易協定について、その背景とともに主要な論点を学習する。これにより、履修者の国際経済、国際貿易、開発経済、地域経済統合や経済グローバル化に関する理解を深めることを目標とする。

In this lecture theories regarding regional economic integration, such as the Theory of Economic Integration of Bela Balassa, will be shared and students will learn the background and main issues regarding the regional economic integration that has occurred in Europe, North America and South America, and the Asia-Pacific region as well as large free trade agreements such as that symbolized by the Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreement (TPP). The objective of this study is to deepen the students' understanding of international economics, international trade, development economics, regional economic integration, and economic globalization.

授業の内容(Course Contents)

1995 年の世界貿易機関(WTO)の設立以降、全世界で貿易自由化への取組みが進められている。一方、それを先取りする形で、特定国・地域間で自由貿易協定(FTA)を結び、国家間や域内貿易を自由化する動きが顕在化している。この地域経済統合は 1980 年代に始まり 1990 年代に加速した。本講義では、欧州(EU)、北米(NAFTA)、南米(南米共同市場)、アジア・環太平洋(AFTA、ANZCER)地域において展開される主要な地域経済統合の背景・経緯、内容、効果、現状と展望を、詳細な統計資料を通じて検討する。

Activities to achieve free trade have progressed around the world since the establishment of the World Trade Organization (WTO) in 1995. It has become apparent, however, that prior to this there were moves to liberalize trade between nations and within specific regions using free trade agreements (FTA) between nations or within regions. This regional economic integration began in the 1980's and accelerated in the 1990's. This lecture uses detailed statistical materials to consider the background, history, contents, effects, current state, and prospects of the major regional economic integration that has been deployed in Europe (EU), North America (NAFTA), South America (Common Market of the South), and the Asia-Pacific Region (AFTA, ANZCER).

授業計画(Course Schedule)

1. 講義の概要、ベラ・バラッサの地域統合論について
2. 欧州地域の経済統合:EU(1)　関税同盟・シェンゲン協定
3. 欧州地域の経済統合:EU(2)　産業・経済・農業政策
4. 欧州地域の経済統合:EU(3)　通貨統合とその問題点
5. 北米地域の経済統合:NAFTA(1)　概要とメキシコ経済への影響
6. 北米地域の経済統合:NAFTA(2)　カナダ農業への影響(ケーススタディ)
7. アジア地域の経済統合:ASEAN/AEC(1)　概要と歴史
8. アジア地域の経済統合:ASEAN/AEC(2)　AEC の展望
9. 南米地域の経済統合:南米共同市場
10. 環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)　(1)　概要と影響
11. 環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)　(2)　EU との比較から見た特徴
12. 各地域経済統合と評価・相関性
13. 地域統合と地域主義
14. わが国経済と地域経済統合の展望

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 上田隆子・中村民雄ほか、2010、『地域統合とグローバル秩序』、信山社

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX198／開発経済学 (Development Economics)		
担当者名 (Instructor)	石井　優子(ISHII YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

開発経済学の理論的潮流を理解した上で、グローバル経済下の途上国の発展メカニズムと諸課題を把握する。

With an understanding of the theological currents in development economics students will get a grasp of the development mechanisms and issues of developing nations within the global economy.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、途上国の貧困問題、経済停滞、経済開発に関する分析手法である開発経済学の理論的潮流を考察した上で、グローバリゼーションの進展する世界経済の中で、途上国の経済発展に重要な貿易と投資に着目し、経済発展のメカニズムと諸課題について解説を行う。

This lecture will first consider the theoretical currents of development economics, such is a method for analyzing the poverty problem, economic stagnation, and economic development of developing nations and then will focus on trade and investment, which are important for the economic development of developing nations, and explain the economic development mechanisms and issues within the global economy that is being expanded by globalization.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 開発経済学の誕生とその背景
3. 開発経済学の系譜①
4. 開発経済学の系譜②
5. 開発経済学の系譜③
6. 開発経済学の系譜④
7. 開発経済学の系譜⑤
8. 貿易と経済開発①
9. 貿易と経済開発②
10. 直接投資と経済開発①
11. 直接投資と経済開発②
12. 経済開発と政府の役割
13. 経済開発の課題と持続可能な開発
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特に指定せず、必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト、リアクションペーパー、出席(30%)
毎回、授業の理解度を確認する小テストもしくはリアクションペーパーの提出がある。

テキスト(Textbooks)

毎回配布する資料にそって講義を進める。

参考文献(Readings)

1. 郭洋春、『開発経済学』、法律文化社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX199／アジア経済論 (Structure of Asian Economy)		
担当者名 (Instructor)	石井　優子(ISHII YUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

躍進するアジア経済について、発展メカニズム、グローバリゼーション下での新しい動き、課題を概観することで、アジア経済のダイナミズムを把握するとともに、アジア域内及び我が国とアジアとの相互関係を理解する。

In regards to the booming Asia economy, to grasp the Asian economic dynamism and understand the mutual relationships within Asia and between Japan and Asia through an overview of development mechanisms, new movements under globalization, and related issues.

授業の内容(Course Contents)

東アジアの奇跡と称される経済発展を経験したアジア経済は、昨今世界経済においてますますその存在感を増している。本講義では、その発展メカニズムと新しい動き概観することとする。とりわけ、アジアの一員である我が国とアジアの相互関係という視点から講義を試みる。

The Asian economy, which experienced economic development that is called the East Asian Miracle, continues to increase its presence within the global economy. This lecture will overview those development mechanisms and new movements. In particular this lecture will be conducted from the perspective of the mutual relationship between Asia and Japan, which is one of the Asian countries.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. アジアの経済成長とそのメカニズム①
3. アジアの経済成長とそのメカニズム②
4. アジアの経済成長とそのメカニズム③
5. アジアの経済成長とそのメカニズム④
6. アジアの経済成長とそのメカニズム⑤
7. アジア経済のグローバル化とアジア化①
8. アジア経済のグローバル化とアジア化②
9. アジア経済のグローバル化とアジア化③
10. アジア経済のグローバル化とアジア化④
11. アジア経済の課題①
12. アジア経済の課題②
13. アジア経済の課題③
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト、リアクションペーパー、出席(30%)
毎回、授業の理解度を確認する小テストもしくはリアクションペーパーの提出がある。

テキスト(Textbooks)

毎回配布する資料に沿って講義を進める。

参考文献(Readings)

特に指定せず、必要に応じて指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX200／アメリカ経済論 (Structure of American Economy)		
担当者名 (Instructor)	山縣　宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

アメリカ経済の発展プロセスをふまえた上で，世界に大きな影響を与え続けている現代アメリカ経済の構造とその変化の内実を理解する。

Building on the development process of the American economy, students will understand the contemporary American economic structure, which continues to have a major impact on the world, and what is behind the changes to it.

授業の内容(Course Contents)

グローバリゼーションを主導し推進してきたのはアメリカであり，アメリカ経済はグローバリゼーションの中で絶えず新しい姿に変化してきた。この講義では現代アメリカ経済がいかなる構造変化を遂げてきたのか，その内実を明らかにする。

America has been the leader and promotor of globalization and the American economy has ceaselessly changed its shape within that globalization. This lecture shows how the contemporary American economy has undergone structural changes and the background behind those changes.

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンスーアメリカ経済論を学ぶ意義
2. ニューディールから戦時経済へーアメリカ版「大きな政府」の成立
3. 戦後アメリカ経済の展開ー持続的成長期のアメリカ経済
4. 戦後企業体制ーパックスアメリカーナの構造（1）
5. 「大きな政府」とIMF・ガット体制ーパックスアメリカ-ナの構造（2）
6. 戦後アメリカ経済の動揺ーアメリカ型大量生産体制の優位性喪失
7. レーガノミクスー経済再生の試み
8. 企業体制と産業の再編ー柔軟な生産体制への移行
9. 「ニューエコノミー」の基本構造ーアメリカ経済復活の光と影
10. 1990 年代アメリカ産業の動態ー金融肥大化とサービス化
11. 21 世紀アメリカ経済の構造ー住宅ブームの影で
12. アメリカ発金融危機ーリーマンショックへ
13. オバマ政権期・トランプ政権期のアメリカ経済
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

独自作成の教材を配布。

参考文献(Readings)

1. 河村哲二、2003 年、『現代アメリカ経済』、有斐閣 (ISBN:978-4641121706)
2. 藤木剛康(編著)、2012 年、『アメリカ政治経済論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623062102)
3. 河音琢郎・藤木剛康(編著)、2016 年、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

受講者のやむを得ざる理由による欠席に対応するため，講義終了後，Blackboard に教材等を掲載予定。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX201／アメリカ経済政策論 (American Economic Policy)		
担当者名 (Instructor)	山縣　宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

アメリカ経済政策の基本構造を学んだ上で，転換プロセスをダイナミックに理解する。

Building on the basic structure of American economic policy, students will understand the dynamism of the transformation process.

授業の内容(Course Contents)

本講義では経済政策論の基本体系を踏まえた上で，アメリカ経済論で追跡した経済構造の転換と関連づけながら，アメリカ経済政策のしくみおよびそのダイナミックな転換プロセスに迫る。21 世紀のアメリカ経済政策のダイナミズムについて，共和党保守派と民主党リベラル派の激しい党派対立に着目し論じる。

This lecture looks at the basic system of economic policy theory and links this to the economic structural transformation that followed by Structure of American Economy while considering the American economic policy framework and its dynamic transformation process. In considering the dynamism of 21st century American economic policy, the discussion will focus on the fierce political conflict between the Conservative Republican Party and the Liberal Democratic Party.

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 財政政策の理論と論争－財政支出拡大・減税・財政赤字をめぐる論争
3. 戦後アメリカ財政政策の展開－持続的成長期の財政政策
4. 現代アメリカ財政政策の検証－1970 年代以降の財政政策
5. 金融政策の理論と論争－信用創造・金融政策の基本構造・論争
6. 戦後アメリカ金融政策の展開－持続的成長期の金融政策
7. 現代アメリカ金融政策の検証－1970 年代以降の財政政策
8. 対外経済政策－アメリカ型通商政策の解明
9. 経済政策各論－産業政策
10. 経済政策各論－農業政策
11. 経済政策各論－環境政策
12. 経済政策各論－住宅政策
13. G.W.ブッシュ政権・オバマ政権・トランプ政権の経済政策
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)
毎回，講義の最後にリアクションペーパの提出を求めるが，成績評価とは関係ない。

テキスト(Textbooks)

独自作成の教材を配布。

参考文献(Readings)

1. 藤木剛康、2012、『アメリカ政治経済論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623062102)
2. 河音琢郎・藤木剛康、2008、『G・W・ブッシュ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623052295)
3. 河音琢郎・藤木剛康、2016、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)

参考文献で詳細情報未定のものは，講義時に正確な情報を周知する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

Blackboard 参照。受講者のやむを得ざる理由による欠席に対応するために，講義終了後，教材等を掲載予定。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX202／国際貿易論 (International Trade)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	貿易論のモデル世界と現実世界の相違の探求		
担当者名 (Instructor)	関　良基(SEKI YOSHIKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

基本的な貿易理論と現実世界の貿易を比較しつつ、貿易理論を批判的に学ぶ。

To comparatively study trade theory by comparing basic trade theory with actual world trade.

授業の内容(Course Contents)

リカード・モデルやヘクシャー＝オリーン・モデルなど貿易論の基本的なモデルを学ぶとともに、経済学のモデルと現実世界との乖離を確認する。現実世界が理論通りにはならない理由は何故なのかを探求する。理論と現実とを比較し、失業、貿易摩擦など自由貿易が引き起こしてきた諸問題の原因を理解する。最新の貿易理論として、塩沢由典による多数国多数財の貿易理論の基礎も学ぶ。

Students will study basic models of trade theory, such as the Ricardian Model and Heckscher-Ohlin Model, to check the divergence between economic models and the real world. Students will search for why the real world does not work according to theory. Students will compare theory and reality to understand the causes of problems that arise from free trade, such as unemployment and trade friction. For the latest trade theory, students will also study the Many Country, Many Commodity trade theory of Yoshinori Shiozawa.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. リカードの比較生産費説(1)
3. リカードの比較生産費説(2)
4. 収穫逓増の貿易モデル　ーグレーアム再考
5. モデルと現実　ーイギリスの産業革命と自由貿易
6. ラウル・プレビッシュの一次産品交易条件悪化論
7. 歴史の中に見る保護貿易と自由貿易
8. 新古典派の余剰分析と関税政策
9. 自由貿易と環境問題
10. ヘクシャー・オリーンの貿易モデル(1)
11. ヘクシャー・オリーンの貿易モデル(2)
12. サミュエルソンの要素価格均等化定理
13. 塩沢由典の貿易理論(1)
14. 塩沢由典の貿易理論(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

教材は Blackboard に事前にアップするので予習して下さい。授業の復習もかねて、ときおり課題も出します。しかしながら真に身に付く学習とは、授業で興味をもった内容について、授業で紹介した文献等を読むなどして、自分自身で探求を深めていくことです。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. P・クルーグマン、M・オブズフェルド、2010 年、『クルーグマンの国際経済学　理論と政策(上)』、ピアソン
2. ダグラス・アーウィン、1999 年、『自由貿易理論史』、文眞堂
3. 塩沢由典、2014 年、『リカード貿易問題の最終解決』、岩波書店

4. 関 良基、2012 年、『自由貿易神話解体新書』、花伝社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX203／国際経済政策論 (International Economic Policy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル資本主義システムの発生・崩壊と今後の世界		
担当者名 (Instructor)	関　良基(SEKI YOSHIKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

資本主義の歴史を学び、現在のグローバル化が行き詰った原因を学ぶ。今後の世界経済システムが進むべき方向性を探求する。

To learn the history of capitalism and the factors that link it to today's globalization. To search for the direction the global economic system should take in the future.

授業の内容(Course Contents)

大航海時代に遡って資本主義の歴史を学ぶ。帝国主義・植民地主義が何故発生したのか、第二次大戦先後に成立したブレトンウッズ体制はどのように成立し、何故崩壊したのか。そして現代の新自由主義的なグローバル化は世界をどう変え、何故行き詰ったのか。パリ協定の発効を受けて、今後の世界が進むべき、脱化石燃料化の途を展望する。

To learn the history of capitalism going back to the Age of Exploration. Why did imperialism and colonialism occur and how did the Bretton Woods System that was created after World War II form and collapse? Further, how did the current neoliberal globalization change the world and why has it stalled? With the Paris Agreement going into effect, look at the direction the world should take in the future and how to eliminate the use of fossil fuels.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 大航海時代の第一次グローバル化
3. ウォーラーステインの世界システム論とフランクのリオリエント
4. イギリスの産業革命と第二次グローバル化
5. 帝国主義の諸理論　—自由貿易帝国主義論
6. 日本はなぜ植民地にならなかったのか？
7. アメリカの保護主義政策
8. 大恐慌、第二次大戦と第二次グローバリズムの終焉
9. ブレトンウッズ体制
10. 新自由主義は何故始まり、広まったのか？
11. GATTからWTOへ
12. 新自由主義とは何か？
13. 新自由主義的グローバル化の行き詰まり
14. 持続可能な国際経済の再構築

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の資料を事前に Blackboard にアップしておきます。ときおり授業の復習をかねて課題を出します。本当に人生の糧になる学習は、授業で興味を持った事柄に関連し、授業中に紹介した文献等を各自読み、自分自身でさらに深く探求することです。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. ハジュン・チャン、2009 年、『はしごを外せ』、日本評論社
2. ジョセフ・スティグリッツ、2002 年、『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』、徳間書店
3. ナオミ・クライン、2011 年、『ショック・ドクトリン(上・下)』、岩波書店
4. ダグラス・ノース他、1994 年、『西欧世界の勃興』、ミネルヴァ書房

5. アンドレ・G・フランク、2000 年、『リオリエント』、藤原書店
6. 川勝平太、1991 年、『日本文明と近代西洋』、NHK ブックス
7. ダニ・ロドリック、2014 年、『グローバリゼーション・パラドクス』、白水社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX204／国際政治経済学 (International Political Economy)		
担当者名 (Instructor)	磯谷　玲(ISOYA AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では，現代の国際社会・経済において議論されている問題とその相互の関連性について理解を深めることを目標とする。

The objective of this lecture is to search for understanding of the problems being debated about contemporary international society and the economy and their mutual relationship.

授業の内容(Course Contents)

グローバリゼーションが進行するもとで，現代社会が直面している問題は多岐にわたると同時に，ますます相互に密接に関連したものとなっている。この授業では，映像資料等を用い，規制緩和の功罪や企業の社会的責任という側面から，現代国際社会・経済が直面する問題を検討していきたい。

As globalization progresses, the problems facing contemporary society are diversifying while at the same time they are becoming increasingly mutually related. In this lecture students will consider the problems faced by contemporary international society and the economy from the perspective of the pros and cons of deregulation and the social responsibilities of companies using video and other materials.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入
2. 多国籍企業と食糧生産
3. 世界食糧危機
4. 食糧問題とファンド
5. 食料生産と補助金
6. 食糧生産と科学・技術
7. 自動車危機
8. 「企業の社会的責任」と流通
9. 金融危機(1)
10. 金融危機(2)
11. EU と経済危機
12. 医療・保険に関わる問題(1)
13. 医療・保険に関わる問題(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習については履修登録完了後にブラックボードにて必要に応じて行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(61%)/レポート(39%)

テキスト(Textbooks)

使用しない。

参考文献(Readings)

1. 石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟、2010、『現代世界経済をとらえる　Ver.5』、東洋経済
2. 井上博、他(訳)、2012、『多国籍企業と国際生産』、同文館出版

その他，適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX207／中国経済論 (Structure of Chinese Economy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の経済発展と制度変化 (Economic Development and Institutional Changes in China)		
担当者名 (Instructor)	厳　成男(YAN CHENGNAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

中国における経済発展と制度変化の歴史、実態、および両者の間の相互関係を考察し、激変する中国の社会経済システムのさまざまな側面について理解することを通じて、中国の経済成長が世界全体や日本経済に及ぼす影響について正しく認識することができる。

Students will be able to correctly understand the effect of Chinese economic growth on the Japanese economy and the world by considering the history, conditions, and mutual relationship between China's economic development and the institutional changes and by understanding the various aspects of the rapidly changing China's socioeconomic system.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、世界第二位の経済大国であり、日本の最大貿易パートナーである中国における経済発展のメカニズムと制度改革について社会経済学(Political Economy)の視点に基づいて講義する。具体的に、高度経済成長から中成長に転換しつつある中国の社会経済システムが直面しているさまざまな問題―市場競争、体制転換、経済成長、所得分配、対外関係、雇用・労働、環境、格差など―を取り上げ、その発生メカニズム、実態、変容、およびインパクトについて講義する。

This lecture will discuss from the perspective of political economy the economic development mechanisms and institutional reforms in China, which is the second largest economy in the world and Japan's largest trading partner. Specifically, the various problems faced by the Chinese socioeconomic system as it transitions from high to moderate economic growth, such as market competition, regime changes, economic growth, income distribution, international relationships, employment and labor, the environment, and economic disparity, will be looked at and their occurrence mechanisms, conditions, transformations, and impact will be discussed.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス―中国経済を正しく理解するために
2. 中国の経済地理
3. 中国の政治と行政システム
4. 中国の社会主義市場経済システム
5. 中国の企業システム
6. 中国の金融システム
7. 中国の雇用システム
8. 経済成長の軌跡と仕組み
9. 高度経済成長の終焉と内需主導型成長への転換
10. 技術変化と産業構造の高度化
11. 中国経済成長のグローバルインパクト
12. 経済成長果実の分配
13. 中所得国の罠と体制移行の罠
14. 中国の社会主義市場経済システムは如何に調整されているか

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日常的に日本経済新聞を読み、中国経済に関するニュースに関心をもち、問題意識をもって授業に参加することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/平時の授業中に行うリアクションペーパー(8 回)(40%)

テキスト(Textbooks)

テキストは、特に指定しない。下記の参考文献に基づき講義内容を構成し、講義ごとに Blackboard を通じてレジュメを配布する。

参考文献(Readings)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之、2016、『中国経済学入門』、名古屋大学出版会
3. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房
4. 宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹、2010、『入門 社会経済学（第 2 版）』、ナカニシヤ出版
5. 関志雄、2015、『中国 「新常態」の経済』、日本経済新聞出版社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

秋学期に開講する『中国経済政策論』講義とあわせて受講することをお勧めする。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX208／中国経済政策論 (Chinese Economic Policy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代中国の経済政策 (Economic Policy in Contemporary China)		
担当者名 (Instructor)	厳　成男(YAN CHENGNAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3510	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

中国の高い経済成長と社会変容を支える経済政策を考察し、グローバル化の深化に伴い複雑化する社会経済の諸問題に中国政府が如何に対応しているかを把握することを通じて、市場(経済)と国家(政治)の間の関係の多様性、および中国の特殊性を正しく理解することができる。

To correctly understand the diversity of the relationship between the market (economy) and the state (politics) and China's peculiarities by considering the economic policies that have supported China's high economic growth and social transformation and grasping the response the Chinese government has taken for the socioeconomic problems that are becoming increasingly complex with globalization.

授業の内容(Course Contents)

経済政策論の基礎的知識を概括しつつ、中国の社会経済発展に関わる諸政策について、その内容、背景、影響、および課題を社会経済学(Political Economy)の視点から詳細に講義する。特に、経済成長と安定化、ワーク・ライフバランス、ならびに社会的公正を巡る政策の実態と課題について、日本などの先進国の事例と比較しながら解説する。

An overview of basic economic policy theory will be given and then the contents, background, impact, and issues of the policies regarding China's socioeconomic development will be discussed in detail from a political economy perspective. In particular, the actual conditions and issues of policies for economic growth and stability, work-life balance, and social fairness will be explained through comparisons with Japan and other advanced countries.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション―中国の経済成長と経済政策
2. 改革開放政策と「先富論」
3. 産業政策:自動車産業の発展を中心に
4. 技術革新政策:高速鉄道の技術進歩を中心に
5. 財政政策
6. 金融政策
7. 地域開発政策
8. 資源・エネルギー、および環境政策
9. 労働市場政策
10. 社会福祉政策
11. 教育政策
12. 国家主導の災害復興政策
13. 新しい対外開発政策
14. 新常態下での経済政策の調整

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日常的に日本経済新聞を読み、中国経済に関するニュースに関心をもち、問題意識をもって授業に参加することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/平時の授業中に行うリアクションペーパー(8 回)(40%)

テキスト(Textbooks)

テキストは、特に指定しない。下記の参考文献に基づき講義内容を構成し、講義ごとに Blackboard を通じてレジュメを配布する。

参考文献(Readings)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房

3. 肖敏捷、2017、『中国　新たな経済大革命』、日本経済新聞出版社
4. 王文亮、2009、『社会政策で読み解く現代中国』、ミネルヴァ書房
5. 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男、2011、『現代の経済政策（第 4 版）』、有斐閣ブック

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

春学期に開講する『中国経済論』講義とあわせて受講することをお勧めする。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX211／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	北井　不二男(KITAI FUJIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX211～216：経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX212／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	北井　不二男(KITAI FUJIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX211～216：経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX213／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	井上　清香(INOUE SAYAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX211～216：経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX214／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	井上　清香(INOUE SAYAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX211～216：経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産（1）
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX215／簿記1 (Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	北井　不二男(KITAI FUJIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX211～216：経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表の有用性、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as the utility of the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：簿記の意義と仕組み(1)
2. 簿記の意義と仕組み(2)
3. 簿記上の取引と仕訳
4. 転記
5. 決算の意義と手続き(1)
6. 決算の意義と手続き(2)
7. 決算の意義と手続き(3)
8. 決算の意義と手続き(4)
9. 予備日(期中の取引、決算の手続きの復習など)
10. 現金と預金
11. 繰越商品・仕入・売上(1)
12. 繰越商品・仕入・売上(2)、売掛金と買掛金(1)
13. 売掛金と買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
14. その他の債権と債務(2)、振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、授業内に行うミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(4 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX216／簿記2 (Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	北井　不二男(KITAI FUJIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX211～216:経済学科		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な簿記の仕組み・役割を理解することを目標とする。

The objective is to understand the basic bookkeeping framework and role.

授業の内容(Course Contents)

複式簿記とは、複雑な企業の取引を、数少ない取引要素で分類・整理・記録することにより、企業内外の関係者にとって有用な会計情報を提供することを可能にするシステムである。本授業では、複式簿記の基本的な仕組みを学ぶとともに、財務諸表はどのように有用か、近年のトピック等について、適宜講義する。授業内でも学生が問題演習に取り組む機会を設ける。

Double-entry bookkeeping is a system that classifies, organizes, and records complex business transactions using a limited number of transaction elements to provide useful accounting information to related parties inside and outside the business. In this class students learn the basic framework for double-entry bookkeeping as well as how to use the financial statements and discuss recent topics and other issues as appropriate. The class also gives students the opportunity to do problem exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. 受取手形と支払手形(1)
2. 受取手形と支払手形(2)
3. 有価証券(1)
4. 有価証券(2)、固定資産(1)
5. 固定資産(2)
6. 貸倒損失と貸倒引当金
7. 資本金と引出金、収益と費用(1)
8. 収益と費用(2)
9. 伝票(1)
10. 伝票(2)、財務諸表(1)決算と決算手続
11. 財務諸表(2)試算表の作成、棚卸表の作成と決算整理事項
12. 財務諸表(3)精算表の作成、財務諸表の作成
13. 問題演習
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記は、授業を一方的に聞いただけでは身につかない。授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後は、次の週の授業までに、テキスト・ワークブック等の問題を繰り返し解いて体に染み込ませること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/出席票、授業への積極的参加、ミニテスト、課題の提出(30%)
以上の評価方法・基準を基本とするが、詳細は担当教員からのアナウンスで確認のこと。

テキスト(Textbooks)

開講時(9 月)に各担当者が指示する。

参考文献(Readings)

1. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記講義 3 級商業簿記平成 30 年度版』、中央経済社
2. 渡部裕亘・片山覚・北村敬子、2018、『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』、中央経済社

会計の理論的知識や財務諸表分析を学ぶ入門書等は、各担当教員から適宜紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計関連科目を履修するための先修科目として位置づけられている。
簿記検定・税理士・公認会計士等の受験も積極的に目指しましょう。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX222／金融論1 (Money and Banking 1)		
担当者名 (Instructor)	山村　延郎(YAMAMURA NOBUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講生は、この科目において、次の目標を達成するため、各自の学びにはげみます。

1. 貨幣･資本･信用などの基本的な概念を説明できるようになること、
2. 一つの事象を金融の基本理論で分析できるようになること、
3. 各論的な金融事情について例示を説明できるようになること。

In this course students are encouraged to study on their own to achieve the following objectives.

1. To be able to explain the basic concepts of money, capital, and credit.
2. To be able to analyze a phenomenon using basic financial theory.
3. To be able to explain examples of the various theoretical financial situations.

授業の内容(Course Contents)

受講生は、以下の項目を修めるため、毎週平均6時間の学修を行います。
そのうち 2 時間は、教師が主催する講義において、通説と実体とその批判を聴き、学び方を獲得していきます。

1. 貨幣･銀行･中央銀行、財政と金融、金融危機
2. 金融ビジネス、企業･家計に対する金融の役割、金融市場と金融資産
3. 貨幣論･産業資本･商業資本･利子生み資本

Students will study for an average of 6 hours per week to learn the following topics.
Of this, 2 hours will be a lecture lead by the instructor through which students will acquire how to learn by listening to explanations and real situations and criticisms of them.

1. Money, banks, and central banks; fiscal policy and finance, financial crises
2. Financial business, role of finance for businesses and households, financial markets and financial assets
3. Theory of money, industrial capital, commercial capital, interest-bearing capital

授業計画(Course Schedule)

1. ･貨幣論
   大学の単位制度を貨幣論の体系ですべて解き明かします。
   高校の金融知識と大学の学則の単位制度を確認しておいてください。
2. 金融知識の取得方法及び教育方法を伝授します。
   このころから金融小説を一つ選び、読破･レポートを準備してください。
3. Excursion: 憲法の信託原理、日本国の経済原則
   連休前に憲法の基本原理を復習しつつ信託･投資信託の概念を理解します。
   日本国憲法の日本語版･英語版にアクセスできるようにしてください。
4. 金融機関と銀行業
   このころから、教科書を読み、単語を調べ、内容をまとめ、章末問題を解いてください。
5. 企業･家計と金融
6. 金融市場と金融資産
7. 管理通貨制と中央銀行
8. 前半のまとめをし、オンライン又は教室でテストを行います。
9. 景気変動と金融危機
10. 現代の金融業
11. 国債膨張下の財政と金融
12. ･産業資本論: 資本の運動、資本の回転　、オンラインでテストを実施します。
    資本の生産力について、フロー又は損益計算書の観点から確認します。
13. ･資本の類型: 商業資本･貨幣取引資本･利子生み資本
    商事会社の金融的側面、フィンテック企業の勃興、機関投資家について確認します。
14. 後半のまとめをします。
    受講生が少ないときは、期末試験期間でなくこの回に筆記試験が実施されることがあります。

授業時間外(予習･復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外学修は、
　教科書等の精読に30時間、授業の回想による復習に10時間、関連事項の図書･雑誌又はサイトのブラウジングに10時間かけるほか、
　学友との日常的な対話、家庭及び事業所での貨幣･金融に関する考察、金融機関や博物館･専門図書館等の訪問を10時間程度行うこととします。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(50%)/教科書課題、授業・文献・訪問レポート等(30%)/中間テスト・後半テスト(20%)
筆記試験、平常点の各項目のすべてに合格するまでは成績評価をしない。評価方法の具体的内容については初回講義で説明する。

テキスト（Textbooks）

1. 川波洋一･上川孝夫、2016、『現代金融論（新版）』、有斐閣 (ISBN:9784641184336)
教科書は、基本的に自修課題として利用してもらいますが、教室で輪読を行うこともあります。
その場合は BB で連絡します。

参考文献（Readings）

1. 増田壽男･沢田幸治家、2007、『現代経済と経済学（新版）』、有斐閣 (ISBN:9784921190088)
2. 大谷禎之介、2001、『社会経済学』、桜井書店 (ISBN:9784921190088)
これらは発展した学修をするための参考書です。大学院を受験する際に利用するとよいでしょう。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

次の履修モデルのパーツとして挙げられています。
　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・経済理論を深く学ぶ、数量分析を中心に学ぶ、
　会計ファイナンス学科・・・・・会計を中心に学ぶ、ファイナンスを中心に学ぶ

なお、この科目では数理分析そのものではなくアナリストが備えるべきコモンセンスが説かれます。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX223／金融論2 (Money and Banking 2)		
担当者名 (Instructor)	山村　延郎(YAMAMURA NOBUO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講生は、この科目において、次の目標を達成するため、各自の学びにはげみます。

1. 金融の基本的な概念を、とくにグローバル化・情報化に即して説明できるようになること、
2. 貨幣･金融制度について体系的･網羅的に描写できるようになること、
3. 各論的な金融事情について例示を説明できるようになること。

In this course students are encouraged to study on their own to achieve the following objectives.

1. To be able to explain the basic concepts of finance in particularly in line with globalization and informatization.
2. To be able to give a systematic and comprehensive explanation of the monetary and financial system.
3. To be able to explain examples of the various theoretical financial situations.

授業の内容(Course Contents)

受講生は、以下の項目を修めるため、毎週平均6時間の学修を行います。
そのうち 2 時間は、教師が主催する講義において、通説と実体とその批判を聴き、学び方を獲得していきます。

1. 日本における金融政策、金融規制、地域金融の状況
2. グローバル化・情報技術革新による金融ビジネスの変化、
3. 日本および主要国の金融制度、住宅金融

Students will study for an average of 6 hours per week to learn the following topics.
Of this, 2 hours will be a lecture lead by the instructor through which students will acquire how to learn by listening to explanations and real situations and criticisms of them.

1. The current state of financial policies, financial regulations, and regional finance in Japan.
2. Changes in the financial business due to globalization and information technology innovation.
3. The financial systems and housing finance in Japan and major countries.

授業計画(Course Schedule)

1. クレジットシステム: 単位制度の確認と信用制度の概観
   大学の単位(クレジット)を貨幣・信用論で解釈してみます。学則を読んでおいてください。
2. 金融知識の取得方法及び教育方法を伝授します。
   このころから金融小説を一つ選び、読破・レポートを準備してください。
3. 金融政策の新展開
   このころから、教科書を読み、単語を調べ、内容をまとめ、章末問題を解いてください。
4. 金融規制と金融制度改革
5. 地域金融
6. Excursion: 信託の基本理念と日本国憲法の原理
   文化の日にちなみ憲法の基本原理を復習しつつ信託・投資信託の概念を理解します。
   日本国憲法の日本語版・英語版にアクセスできるようにしてください。
7. 前半のまとめをし、オンライン又は教室でテストを行います。
8. 情報革新の影響
9. 金融業の変貌
10. ・日本の金融システム
11. ・主要国の金融システム: アメリカの金融システム。
    ここまでが終わったら、オンラインでテストを実施します。
12. ・国際金融史: 金融恐慌の歴史
13. ・国際金融史: サブプライムローン危機
14. ・後半のまとめをします。
    受講生が少ないときは、期末試験期間でなくこの回に筆記試験が実施されることがあります。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外学修は、
教科書等の精読に30時間、授業の回想による復習に10時間、関連事項の図書･雑誌又はサイトのブラウジングに10時間か

けるほか、
　学友との日常的な対話、家庭及び事業所での貨幣･金融に関する考察、金融機関や博物館･専門図書館等の訪問を10時間程度行うこととします。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(50%)/教科書課題、授業・文献・訪問レポート等(30%)/中間テスト・後半テスト(20%)
筆記試験、平常点の各項目のすべてに合格するまでは成績評価をしない。評価方法の具体的内容については初回講義で説明する。

テキスト（Textbooks）

1. 川波洋一･上川孝夫、2016、『現代金融論（新版）』、有斐閣 (ISBN:9784641184336)
教科書は、基本的に自修課題として利用してもらいますが、教室で輪読を行うこともあります。
その場合は BB で指示を出すので確認してください。

参考文献（Readings）

1. 増田壽男･沢田幸治家、2007、『現代経済と経済学（新版）』、有斐閣 (ISBN:9784921190088)
2. 大谷禎之介、2001、『社会経済学』、桜井書店 (ISBN:9784921190088)
3. ニ―アル・ファーガソン、2015、『マネーの進化史』、早川書房 (ISBN:978-4150504489)
これらは発展した学修をするための参考書です。大学院を受験する際に利用するとよいでしょう。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

次の履修モデルのパーツとして挙げられています。
　経済学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・経済理論を学ぶ、数量分析を学ぶ、
　会計ファイナンス学科・・・・・・・・・・・・・会計を中心に学ぶ、ファイナンスを中心に学ぶ

なお、この科目では数理分析そのものではなくアナリストが備えるべきコモンセンスが説かれます。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX226／証券経済論 (Economic Theory of Securities)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の証券経済システムの基本的な知識を学んでいく		
担当者名 (Instructor)	三谷　進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、現代経済における証券システムの機能と役割を理解するための必要な知識を習得しながら、証券市場を通じた資金仲介メカニズムの拡大が、金融機関や経済構造にどのような影響を与えているのかということについて考える力を養成する。

In this lecture students will gain the knowledge required to understand the roles and functions of the securities system in the contemporary economy to develop the ability to think about the influence the expansion of the financial intermediation mechanism through the securities market has on financial institutions and the economic structure.

授業の内容(Course Contents)

現代の経済システムの下では、「金融の証券化」と呼ばれる現象が進展しており、従来の銀行業を通じた資金仲介システムから、証券市場を通じた資金仲介システムへの転換が進んできている。本講義では、このような「市場型経済システム」の構造を明らかにしながら、それが金融システムや経済構造全体にどのような影響を与えてきたのかということについて理論的・実証的な検討を行い、今後の証券システムのあり方について考えていく。

The phenomena called “financial securitization” is expanding under the contemporary economic system which is transitioning from the financial intermediation system through the conventional banking system to a financial intermediation system through the securities market. This lecture will reveal the structure of the “market type economic system” and theoretically and empirically consider the effects of this system on the financial system and overall economic structure and to think about how the securities system should be in the future.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに―講義のガイダンス―
2. 「金融の証券化」とは何か
3. 証券化のメカニズム
4. 証券化商品の累積と金融市場の変化
5. 証券市場の拡大と資金仲介システム
6. 間接金融と直接金融のあり方
7. 市場型間接金融システムと投資信託
8. 前半の講義のまとめと小テスト
9. ファンド資本主義の展開と証券市場 (1)
10. ファンド資本主義の展開と証券市場 (2)
11. 証券市場の監督体制と金融規制のあり方
12. 管理通貨制度下における証券市場の構造
13. 証券業のグローバル化と資産運用業の展開
14. 講義全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の際に必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントカード兼出席票(10%)/授業内に行う小テスト(10%)

テキスト(Textbooks)

レジュメや資料等を授業の際に配布する。

参考文献(Readings)

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX227／証券市場論 (Capital Markets)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の証券市場の基本的な機能と役割を学んでいく		
担当者名 (Instructor)	三谷　進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、現代の証券市場を理解するための必要な知識を習得し、現在、急速に進行している証券市場の肥大化現象がなぜ発生し、それが今後、どのように展開していくのかということについて考える力を養成していく。

In this lecture students will acquire the knowledge necessary to understand the contemporary securities market and develop the ability to think about why the hypertrophic phenomenon of the currently rapidly growing securities market is occurring and how this will develop in the future.

授業の内容(Course Contents)

1980 年代以降、金融のグローバル化、IT 化の進展を受けて、証券市場の機能と役割が大きく変化してきている。この講義では、現代の証券市場の基本的な構造を理解しながら、それが歴史的にどのような変化を遂げ、証券業や銀行業のあり方にどのような影響を与えてきたのかということについて考えていく。特に、管理通貨制度の下で、証券市場で売買される国債や株式等の金融資産の累積現象が進展しており、それが、なぜ、どのようにして生じてきているのかということについて理解を深めていく。

The roles and functions of the securities market have been greatly changing since the 1980's due to the globalization of and increased use of information technology in finance. In this lecture students will gain an understanding of the basic structure of the contemporary securities market while considering the historical changes to the market and what impact this has had on the securities industry and banking industry. In particular, the cumulative phenomenon of financial assets, such as government bonds and stocks, which are traded on financial markets, has expanded under the managed currency system and students will gain a deeper understanding of why and how this came to be.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに―講義のガイダンス―
2. 有価証券とは何か
3. 株式会社の歴史的な展開
4. 株式会社の特徴と株主の権利
5. 証券の流通と証券取引所の変遷(1)
6. 証券の流通と証券取引所の変遷(2)
7. 証券市場における証券価格の形成(1)
8. 証券市場における証券価格の形成(2)
9. 前半の講義のまとめと小テスト
10. 証券市場における証券業の機能と役割
11. 証券会社の経営のあり方
12. デリバティブの機能と役割
13. 金融資産の累積と証券市場のあり方
14. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の際に必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントカード兼出席票(10%)/小テスト(10%)

テキスト(Textbooks)

レジュメや資料等を授業の際に配布する。

参考文献(Readings)

参考文献については、授業の際に、適宜、指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX228／外国為替論 (Foreign Exchange)		
担当者名 (Instructor)	小西　宏美(KONISHI HIROMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

貿易や外国投資の際に、国際間でどのように決済(支払い)が行われているのか、外国為替と国際決済の仕組みについて理解することを目標とする。

The objective of this course is to understand how settlements (payments) are made among countries for trade and foreign investment and the foreign exchange and international settlement systems.

授業の内容(Course Contents)

国が異なれば通貨も異なるために、国境を越えた経済取引では外国為替取引(異なる通貨の売買)が発生する。今や私たちの身の回りは、iPhone からTシャツに至るまで外国で生産されたものであふれているが、これらは企業のグローバルな生産ネットワークとそれを支える外国為替、国際金融によって成り立っている。本講義では、外国為替の仕組み、外国為替取引とそれに伴う問題点などについて講義する。

Since the currency is different for different countries, foreign exchange transactions (trading in different currencies) occur when financial transactions are made across national boundaries. Today, we are surrounded by items from iPhones to T-shirts that are produced in foreign countries and this is made possible by the global production networks of companies and the foreign exchange and international finance that support them. This lecture will discuss the foreign exchange system, foreign exchange transactions, and the problems that accompany them.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション　～貿易、投資と外国為替取引～
2. 国内決済と国際決済　1
   外国為替手形
3. 国内決済と国際決済　2
   預金決済、コルレス銀行
4. 国内決済と国際決済　3
   CLS銀行
5. 多国籍企業内国際決済　1
   多国籍企業内貿易と企業内国際決済
6. 多国籍企業内国際決済2
   プーリング、GCMS
7. 外国為替相場　1
   固定相場制、変動相場制
8. 外国為替相場　2
   購買力平価説、金利平価説
9. 外国為替相場　3
   相場変動とリスク管理
10. 国際収支　1
    居住者、非居住者
11. 国際収支　2
    IS バランス
12. 国際収支　3
    日米中の国際収支
13. 国際収支　4
    通貨別国際収支と円の国際化
14. 外国為替と国際決済

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業開始前にテキストの該当ページを読んで予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業内に指示した提出物(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人、2016、『現代国際金融(第3版) 構図と解明』、法律文化社 (ISBN:4589037637)

参考文献(Readings)

1. 小西宏美、2017、『グローバル資金管理と直接投資』、日本経済評論社 (ISBN:4818824534)
2. 星野智樹、2018、『「ドル化」政策の検証』、文眞堂 (ISBN:4830949813)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業では学生への質問も行うので、積極的な受講態度が期待される。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX229／国際金融論 (International Banking)		
担当者名 (Instructor)	小西　宏美(KONISHI HIROMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

第2次世界大戦以降、ドルが世界の基軸通貨として機能してきた。このようなドルを中心とした体制(ドル体制)について理解し、説明できるようになることを目標とする。

The dollar has functioned as the key currency for the world since The World War II. The objective of this course is to be able to understand and explain the dollar regime (the system that centers on the dollar).

授業の内容(Course Contents)

国際決済を基礎とした国際金融の基本、ドル体制の枠組み、ドル体制の歴史などについて講義する。またドル体制がもたらす問題(通貨危機や金融危機)について考察する。

The basics of international finance as well as the framework and history of the dollar regime, which are the foundation of international payments, are discussed. The problems brought by the dollar regime (currency crises and financial crises) are also considered.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
   ～貿易と投資、国際決済と国際金融～
2. 貿易、投資とドル体制
3. 外国為替取引と為替媒介通貨
4. 為替介入とドル体制
5. 基軸通貨ドルとドル体制
6. ドル体制を支えるアメリカの金融市場1
   国債、デリバティブ
7. ドル体制を支えるアメリカの金融市場2
   ヘッジファンド、GCMS
8. ドル体制とユーロ体制
9. ドル体制と日本
10. ドル体制と中国
11. アメリカの経常収支赤字とドル体制
12. 通貨危機、金融危機
13. 国際政治と国際金融
14. ドル体制の行く末と日本

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業開始前にテキストの該当ページを読んで予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業内で指示した提出物(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 奥田宏司・代田純・櫻井公人、2016、『現代国際金融(第3版) 構図と解明』、法律文化社 (ISBN:4589037637)

参考文献(Readings)

1. 小西宏美、2017、『グローバル資金管理と直接投資』、日本経済評論社 (ISBN:4818824534)
2. 星野智樹、2018、『「ドル化」政策の検証』、文眞堂 (ISBN:4830949813)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業では学生への質問も行うので、積極的な受講態度が期待される。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX230／金融史 (Financial History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本における金融システムの近現代史		
担当者名 (Instructor)	齊藤　直(SAITO NAO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の金融システムについて歴史的な視点から理解する。

For students to be able to understand the Japanese financial system from a historical perspective.

授業の内容(Course Contents)

本講義は，明治期から近年までの金融システムについて学ぶことを通じて，今日の金融システムがどのような歴史的経緯により形成されたのかを理解することを課題とする。ただし，半期(週 1 コマ)の講義で，扱うことができる内容は限られるため，戦後を中心に据え，戦前については簡潔に扱う。

The objective of this lecture is to be able to study the Japanese financial system from the Meiji Era up to the present to understand the historical background behind the formation of today's financial system. However, the material that can be addressed in the lecture during a half semester (1 class a week) is limited, the discussion will focus on the post-war period and only briefly touch on the prewar period.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 明治期における金融システムの創設
3. 戦間期における金融システム不安
4. 戦時経済統制と金融システム
5. 戦後改革の影響
6. 高度成長期の金融システム(1)
7. 高度成長期の金融システム(2)
8. 1970 年代における資金循環構造の変化
9. 金融自由化と企業・銀行関係
10. バブルの発生と崩壊
11. 不良債権問題の発生と長期化
12. 金融ビッグバンと業界再編
13. 近年の金融システム
14. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の内容に連続性があるので，講義レジュメを用いてよく復習したうえで，次回の講義に出席すること。
関心を持った点については，紹介する参考文献等を用いて学ぶことを推奨する。
日本経済史，経営史などの科目と併せて履修することで，理解がさらに深まるであろう。
必須ではないが，金融論の基礎を事前に学んでいると，理解がさらに深まるであろう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし(講義レジュメを配布する)

参考文献(Readings)

1. 星岳雄 他、2006、『日本金融システム進化論』、日本経済新聞社 (ISBN:4532133173)
2. 玉置紀夫、1994、『日本金融史』、有斐閣 (ISBN:4641182221)
3. 橋本寿朗 他、2011、『現代日本経済 第 3 版』、有斐閣 (ISBN:4641124434)
4. 箭内昇、2002、『メガバンクの誤算』、中央公論新社 (ISBN:4121016513)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX232／金融機関論 (Financial Institutions)		
担当者名 (Instructor)	山村　延郎(YAMAMURA NOBUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講生は、この科目において、次の目標を達成するため、各自の学びにはげみます。

1. 各金融機関、各金融業務について基本的な説明ができること。
2. 金融手法を用いた国・地方・企業・家計の基本的な問題解決を提示できること。
3. 金融機関を貨幣取引資本または利子生み資本と信用制度の結合体として解析できること。

In this course students are encouraged to study on their own to achieve the following objectives.

1. To be able to give a basic explanation of the various financial institutions and the financial operations.
2. To be able to present basic solutions for national and local governments, business, and households using financial techniques.
3. To be able to understand financial institutions as a composite of money-dealing capital or interest bearing capital and the credit system.

授業の内容(Course Contents)

受講生は、以下の項目を修めるため、毎週平均6時間の学修を行います。
そのうち 2 時間は、教師が主催する講義において、通説と実体とその批判を聴き、学び方を獲得していきます。

1. 銀行・信金・信組等の預金取扱い金融機関、金融業者、資金移動業者、
2. 金融商品取引業者、各種取引所、 保険業者・共済業者、並びに 各種代理店業。

Students will study for an average of 6 hours per week to learn the following topics.
Of this, 2 hours will be a lecture lead by the instructor through which students will acquire how to learn by listening to explanations and real situations and criticisms of them.

1. Financial institutions that handle deposits, such as banks, credit unions, and credit associations; financiers, and funds transfer service providers.
2. Securities finance companies, the various types of exchanges, insurance provides and mutual-aid providers as well as the various types of agency businesses.

授業計画(Course Schedule)

1. 金融機関のシステムを大学システムと比較する
2. さまざまな金融業態 / 日本の金融システム
3. Excursion: 信託の基本理念と日本国憲法の原理
4. 銀行の貸方取引 (為替取引・発券業務・預金業務) / 金融機関と銀行業
5. 銀行の借方取引 (手形割引・産業金融・消費者金融) / 企業・家計と金融
6. 金融商品・取引所・取引業者 / 金融市場と金融資産
7. 銀行代理店・証券保険仲介業・貸金業ならびに不動産取引
8. 前半のまとめをしオンラインで又は授業内で中間テストをします。
9. 金融機関の自己資本比率規制 / 金融規制と金融制度改革
10. 地域金融機関とリレーシップバンキング
11. FinTech / 情報革新の影響
    ここまでが終わったら、オンラインでテストを実施します。
12. 金融の総合化・グローバル化 / 金融業の変貌とグローバル展開
13. 少子高齢化・グローバル化の中の金融機関の役割と金融経済教育
14. 後半のまとめをします。
    受講生が少ないときは、期末試験期間でなくこの回に筆記試験が実施されることがあります。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外学修は、
教科書等の精読に30時間、授業の回想による復習に10時間、関連事項の図書・雑誌又はサイトのブラウジングに10時間かけるほか、
学友との日常的な対話、家庭及び事業所での貨幣・金融に関する考察、金融機関や博物館・専門図書館等の訪問を10時間程度行うこととします。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/教科書課題、授業・文献・特別レポート等(30%)/中間テスト・後半テスト(20%)
筆記試験、平常点の各項目のすべてに合格するまでは成績評価をしない。評価方法の具体的内容については初回講義で説明する。

テキスト(Textbooks)

1. 川波洋一・上川孝夫、2016、『現代金融論(新版)』、有斐閣 (ISBN:9784641184336)
2. 松田岳、2015、『金融機関論・政策論講義ノート』、三恵社 (ISBN:9784864873451)

教科書は、基本的に自修課題として利用してもらいますが、教室で輪読を行うこともあります。
その場合は BB で連絡します。

参考文献(Readings)

1. みずほ総合研究所、2017、『国際金融規制と銀行経営』、中央経済社 (ISBN:978-4502234019)
2. 佐藤隆文、2010、『金融行政の座標軸』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492654354)
3. 谷守正行、2007、『銀行管理会計』、専修大学出版局 (ISBN:978-4881251850)
4. 坂本孝司・加藤恵一郎、2017、『中小企業金融における会計の役割』、中央経済社 (ISBN:978-4502230417)
5. 佐藤規夫、2017、『銀行法』、きんざい (ISBN:978-4322132250)

これらは発展した学修をするための参考書です。大学院を受験する際に利用するとよいでしょう。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

次の履修モデルのパーツとして挙げられています。
経済政策学科・・・・・・・・・・政府の役割を総合的に学ぶ、グローバル化時代の政策課題を学ぶ、
会計ファイナンス学科・・・・会計を中心に学ぶ、

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX233／金融政策論 (Financial Policy)		
担当者名 (Instructor)	山村　延郎(YAMAMURA NOBUO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講生は、この科目において、次の目標を達成するため、各自の学びにはげみます。

1. 日銀および金融庁の役割と限界を説明できること。
2. 政府の経済政策、国際協調との関連のなかで、金融政策・金融行政を説明できること。
3. 金融危機の予防のため、提示された金融ビジネスについて検討すべき部分を指摘できること。

In this course students are encouraged to study on their own to achieve the following objectives.

1. To be able to explain the roles and limitations of the Bank of Japan and the Financial Services Agency.
2. To be able to explain financial policy and financial administration as they relate to government economic policy and international cooperation.
3. To be able to indicate which areas of presented financial businesses should be considered to prevent financial crises.

授業の内容(Course Contents)

受講生は、以下の項目を修めるため、毎週平均6時間の学修を行います。
そのうち 2 時間は、教師が主催する講義において、通説と実体とその批判を聴き、学び方を獲得していきます。

1. 前半は、中央銀行論(狭義の金融政策論)、財政と金融の関係
2. 後半は、金融監督と金融危機管理

Students will study for an average of 6 hours per week to learn the following topics.
Of this, 2 hours will be a lecture lead by the instructor through which students will acquire how to learn by listening to explanations and real situations and criticisms of them.

1. During the first half, central bank theory (narrow definition of financial policy theory), relationship between fiscal administration and finance.
2. During the second half, financial regulation and financial crises management.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 硬貨・紙幣・銀行券 / 貨幣と金融
3. 管理通貨制と中央銀行
4. 金融政策の新展開
5. 日本および主要国の金融システム
6. Excursion: 日本国憲法の原理と金融システム
7. 前半のまとめをし、オンラインで又は授業内で中間テストをします。
8. バブルの発生と金融危機 / 景気変動と金融危機
9. 預金者の保護と金融秩序の維持 / 金融規制と金融制度改革
10. 詐欺防止・対テロ政策・安全保障と金融 / グローバル化・情報革新の影響
11. 「素晴らしき哉、人生!」と地域金融政策
    ここまでが終わったら、オンラインでテストを実施します。
12. 「素晴らしき哉、人生!」と S&L 危機・リーマンショック
13. 金融行政の転換と金融規制の展開
14. 後半のまとめをします。
    受講生が少ないときは、期末試験期間でなくこの回に筆記試験が実施されることがあります。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外学修は、
教科書等の精読に30時間、授業の回想による復習に10時間、関連事項の図書・雑誌又はサイトのブラウジングに10時間かけるほか、
学友との日常的な対話、家庭及び事業所での貨幣・金融に関する考察、金融機関や博物館・専門図書館等の訪問を10時間程度行うこととします。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/教科書課題、授業・特別レポート等(30%)/中間テスト・後半テスト(20%)
筆記試験、平常点の各項目のすべてに合格するまでは成績評価をしない。評価方法の具体的内容については初回講義で説明する。

テキスト(Textbooks)

1. 川波洋一・上川孝夫、2016、『現代金融論(新版)』、有斐閣 (ISBN:9784641184336)
2. 松田岳、2015、『金融機関論・政策論講義ノート』、三恵社 (ISBN:9784864873451)

教科書は、基本的に自修課題として利用してもらいますが、教室で輪読を行うこともあります。
その場合は BB で連絡します。

参考文献(Readings)

1. 早川英男、2016、『金融政策の「誤解」』、慶応義塾大学出版会 (ISBN:978-4766423563)
2. 岩村充、2016、『中央銀行が終わる日　ビットコインと通貨の未来』、新潮選書 (ISBN:978-4106037825)
3. 唐鎌大輔、2017、『ECB 欧州中央銀行　組織・戦略から銀行監督まで』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492654828)
4. 牛島仁、2016、『日米欧金融規制監督の発展と調和』、中央大学出版部 (ISBN:978-4805708095)

これらは発展した学修をするための参考書です。大学院を受験する際に利用するとよいでしょう。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

次の履修モデルのパーツとして挙げられています。
　経済学科・・・・・・・数量分析を中心に学ぶ、
　経済政策学科・・・政府の役割を総合的に学ぶ、グローバル化時代の政策課題を学ぶ

なお、この科目では数理分析そのものではなくアナリストが備えるべきコモンセンスが説かれます。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX234／コーポレート・ファイナンス1 (Corporate Finance 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業財務の基礎的な考え方を学びます.		
担当者名 (Instructor)	紺野　由希子(KONNO YUKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業財務の基本的な考え方を理解し，分かりやすく内容を説明できるようになることが本講義の目標です．また，プロジェクトの価値やリスクといった数値を具体的に計算出来るようになることも本講義の目標です．

The objective of this course is to gain a basic understanding of corporate finance and become able to explain its contents in an easy-to-understand way. Another objective of the course is to become able to specifically calculate a project value and risk.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，企業財務の基本的な考え方を学びます．企業は財・サービスを提供し，収益を獲得するための事業展開を行っていますが，その背後で企業は活動を円滑に遂行するために財務活動を行っています．財務活動とは企業がどのような手段でどれだけのお金を調達し，獲得した収益のうちどれだけを投資に回したり配当したりするかなどの活動のことで，企業経営にはお金に関するさまざまな意思決定が行われています．これらのお金にかかわる意思決定問題を扱う学問分野が企業財務です．

In this lecture students learn the basic concepts of corporate finance. Companies develop businesses to provide goods and services in return for profit, and behind this are the financial activities that are conducted to smoothly perform the company operations. Company management makes a variety of decisions regarding money through financial activities, which means how (and how much) money to procure, and how (and how much) acquired funds to reinvest or distribute. Corporate finance is the academic field of study that deals with decision making problems regarding money.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 株式会社と財務
3. キャッシュフロー評価
4. 投資プロジェクト
5. ポートフォリオ理論
6. 資本コストと企業価値
7. 資本構成
8. 株式の価格
9. 株式発行
10. 社債発行
11. 資金調達の戦略
12. 配当政策
13. 自社株買戻/M&A
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前に，事前に配布する資料を読んできてください．
講義後は，講義で学んだ内容の復習を行ってください．

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 榊原茂樹，岡田克彦、2012、『1 からのファイナンス』、碩学舎 (ISBN:9784502697104)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義の内容は，ビジネスパーソンとして必須の内容となっています．また，証券アナリストや会計士を目指す学生にとっても必須の内容となっています．将来的なキャリアに役立てるためにも，企業財務の基本的な考え方を身につけましょう．

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX235／コーポレート・ファイナンス2 (Corporate Finance 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業財務の発展的な考え方を学びます.		
担当者名 (Instructor)	紺野　由希子(KONNO YUKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業財務に関する発展的なトピックスについて，概念やフレームワークを理解し，分かりやすく内容を説明できるようになることが本講義の目標です．また，企業財務の枠組み・概念を用いて企業の抱える財務的な問題を分析することができるようになることも本講義の目標です．

The objective of this lecture is to become able to understand the concepts and frameworks of developmental topics related to corporate finance and be able to explain them in an easy-to-understand manner. Another objective of the lecture is to become able to analyze the financial problems faced by companies using the frameworks and concepts of corporate finance.

授業の内容(Course Contents)

本講義では，コーポレート・ファイナンス1で学んだ企業財務の基本的な概念や考え方を発展させ，企業が財務的な意思決定を行う際に問題となるトピックスについて学びます．さらに，企業の経営者の立場からどのような財務的な行動を取ることが適切であるかについて考えます．
※本講義は「コーポレート・ファイナンス 1」の内容を理解していることを前提に進めます．

In this lecture the basic concepts and outline of corporate finance studied in Corporate Finance 1 are developed to study the problems and topics that arise during financial decision making by companies. What is the appropriate way to view financial behavior from the perspective of company management will also be considered.
*This lecture is taught on the premise that the students understand the contents of Corporate Finance 1.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 企業の資金需要と資金調達
3. 財務諸表とキャッシュフロー
4. 借入金1
5. 借入金2
6. 社債1
7. 社債2
8. 株式
9. アセットファイナンス/ベンチャー・ファイナンス
10. ファイナンスの新潮流1
11. ファイナンスの新潮流2
12. リスクマネジメント1
13. リスクマネジメント2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義前に，事前に指定したテキストの該当箇所を読んできてください．
講義後は，講義で学んだ内容の復習を行ってください．

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 中島真志、2015、『入門　企業金融論』、東洋経済新報社 (ISBN:9784492654682)
2. 榊原茂樹、岡田克彦、2012、『1 からのファイナンス』、碩学舎 (ISBN:9784502697104)

参考文献(Readings)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義の内容は，ビジネスパーソンとして必須の内容となっています．また，証券アナリストや会計士を目指す学生にとっても必須の内容となっています．将来的なキャリアに役立てるためにも，企業財務の基本的な考え方を身につけましょう．

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX236／保険論 (Insurance)		
担当者名 (Instructor)	岡田　太(OKADA FUTOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3610	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

リスク、経済、法律、歴史など多面的なアプローチから保険の基礎を理解することで、現代社会における多様な保険問題について関心を持ち、それらを分析し考察する力を身につける。

Through understanding the fundamentals of insurance from a multifaceted approach that includes risk, the economy, law, and history, etc.,
to acquire interest in the various insurance problems in contemporary society and to acquire the ability to analyze and consider those problems.

授業の内容(Course Contents)

授業は 3 つのパートで構成される。(1)経済学をベースに保険の基礎理論を学ぶ、(2)リスクを保険に仕組むデザインを学ぶ、(3)日本と世界の保険市場を学ぶ。

授業の応用・発展として、多くのトピックスを提供し、必要に応じて少人数で検討するアクティブ・ラーニングを行う。たとえば、「なぜ離婚保険は存在しないのか」(第 4 回)、「独身の生命保険料は既婚者よりも高くすべきか」(第 5 回)

授業の後半ではグループを作り、グループでレポートを作成し、最終授業時に発表・討論を行う。

This class consists of three parts. (1) Study the fundamental theory of insurance based on economics, (2) Study designs that incorporate risk into insurance, and (3) Study the insurance markets in Japan and the world.
Active learning will be conducted during the application and progress of the class by providing many topics that will be considered in small groups as necessary. For example, “Why doesn’t divorce insurance exist?” (No. 4) and “Should the life insurance premiums for single people be higher than for married people?” (No. 5).
During the second half of the class the students will be divided into groups that will create group reports for which presentations and discussions will be held during the final class.

授業計画(Course Schedule)

1. リスクとはなにか、保険の存在意義
2. 保険の仕組みと機能、経済効果
3. 保険の経済学①期待効用理論と行動経済学
4. 保険の経済学②逆選択とモラルハザード
5. リスク細分型保険をめぐる問題
6. 保険制度のデザイン①保険契約の基礎
7. 保険制度のデザイン②すまいのリスクと保険
8. 保険制度のデザイン③くるまのリスクと保険
9. 保険制度のデザイン④ヒトのリスクと保険
10. 保険制度のデザイン⑤保険における公私の役割分担
    グループ編成
11. 保険をめぐるイノベーション(ビッグデータ、AI、インシュアテック)
12. 日本の保険市場-150 年の軌跡
    グループワークの計画書提出
13. 世界の保険市場
14. グループによる課題発表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・テキストの該当する章を熟読し、キーワードの意味を理解する
・章末の練習問題を解く(解答・解説は有斐閣のウェブサイトに公開されている)
・保険に関するニュースやトピックスを読む

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/最終レポート(Final Report)(30%)/課題レポートや授業内の小レポート(20%)
最終レポートは、グループで作成するレポートとする

テキスト（Textbooks）

1. 下和田功他、2014 年、『初めて学ぶリスクと保険（第4版）』、有斐閣 （ISBN:978-4-641-18420-6）

参考文献（Readings）

テキストの各章末に記載されているウェブサイトと参考文献リストを参照のこと

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・パワーポイントを使用した講義形式で、スライド資料の配布は Blackboard を使用する。
・必要に応じてアクティブ・ラーニングを取り入れ、演習を行う。
・グループ・ワークを通じて、レポートの作成、発表・討議を行う。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX237／経営分析論1 (Business Analysis 1)		
担当者名 (Instructor)	田村　八十一(TAMURA YASOKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では，財務諸表やその他の情報などを活用して，企業の実態を分析するための考え方・視点，基礎的な指標の活用方法などを養うことをねらいとする。

The aim of this lecture is to learn how to use basic indicators as well as the concepts and perspectives for analyzing the state of a company using financial statements and other information.

授業の内容(Course Contents)

経済，産業，企業を取り巻く状況は，企業の「再構築」の中で近年大きく変化している。このような状況を踏まえながら，現代企業の現実の活動を把握するには，どうすればよいだろうか？　巨大化した企業の実態と進む方向は，私たちや社会にとって正しいあり方へと向っているのだろうか？　このような視点を踏まえながら講義を行っていく。

The circumstances faced by the economy, industry, and companies has been changing greatly in recent years as companies "restructure." What should be done to grasp the actual activities of contemporary companies under these circumstances? Are giant companies and the direction they are taking the correct form and direction for us and society? The lecture will be conducted with these perspectives in mind.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営分析論について: 現代ビッグビジネスと財務諸表分析の射程
2. 現代資本主義と経営分析
3. 現代産業と経営分析
4. 現代企業と経営分析
5. 分析方法のフレームワーク:分析のためのデータ解説
6. 分析方法のフレームワーク:実数分析と比率分析，タイムシリーズ分析とクロスセクション分析，会計政策と会計情報の特質
7. 連結・個別財務諸表分析と非財務情報，個別資本の基礎分析
8. 財務諸表の構造分析
9. 成長性分析
10. 収益性分析
11. 安全性分析
12. 資金分析
13. 総合分析
14. その他(まとめなど)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1．授業時間外の研究として，事前・事後に該当する箇所のテキスト及び参考文献を読んで授業に出席すること。
2．2社の企業を選んで各講義で習得した内容を適用してケース分析を行うこと。
上記の詳細な点及びその他の点については，別途必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 企業分析研究会、2018 年、『現代日本の企業分析』、新日本出版社

参考文献(Readings)

1. 大橋英五、2005、『経営分析』、大月書店
(1)『日本のビッグ・ビジネス』(全 24 巻)大月書店。
(2)『日本のビッグ・インダストリー』(全 8 巻)大月書店。
(3)丸山惠也編著(2012)『現代日本の多国籍企業』新日本出版社。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

なお，プリントや資料などを授業において随時配付するので欠席しないように留意すること。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX238／経営分析論2 (Business Analysis 2)		
担当者名 (Instructor)	田村　八十一(TAMURA YASOKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は，企業の実態を分析する応用的な力(例えば，多国籍化・多角化する企業を分析するための考え方や視点，労務の問題や企業の社会的責任(CSR)を踏まえた分析方法など)を養うことをねらいとする。

The aim of this lecture is for students to gain the applicable ability to analyze the state of companies (For example, the concepts and perspectives for analyzing multinational and diversified companies, methods for analyzing labor problems and corporate social responsibility (CSR), etc.).

授業の内容(Course Contents)

近年のグローバル化は，企業や産業のあり方を変化させている。一般株主や債権者のみならず，従業員や下請企業のステークホルダーも必然的に大きな影響を受ける。グローバル化する企業の実態をどのように分析し，考えていくかという視点を踏まえながら講義を進める。

The globalization of recent years is changing the form of companies and industries. This inevitably impacts such stakeholders as employees and subcontractors in addition to general stockholders and bondholders. The lecture is conducting from the perspective of how to analyze and consider the state of global companies.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営分析論のアプローチについて
2. 生産性分析
3. 損益分岐点分析
4. 内部留保分析(1)
5. 内部留保分析(2)
6. 企業のリストラクチャリングと経営分析
7. 企業集団(企業グループ)と連結財務諸表分析
8. 企業の多国籍化・多角化・M&A&D とセグメント分析(1)
9. 企業の多国籍化・多角化・M&A&D とセグメント分析(2)
10. キャッシュフロー分析(1)
11. キャッシュフロー分析(2)
12. 新指標の特質と問題点
13. 従業員の状況と労務分析:CSR の視点から
14. その他(まとめなど)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 授業時間外の研究として，事前・事後に該当する箇所のテキスト及び参考文献を読んで授業に出席すること。
2. 2社の企業を選んで各講義で習得した内容を適用してケース分析を行うこと。

上記の詳細な点及びその他の点については、別途必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 企業分析研究会、2018 年、『現代日本の企業分析』、新日本出版社

参考文献(Readings)

1. 大橋英五、2005 年、『経営分析』、大月書店
(1)『日本のビッグ・ビジネス』<全 24 巻>(大月書店)
(2)『日本のビッグ・インダストリー』<全 8 巻>(大月書店)
(3)丸山恵也編著(2012)『現代日本の多国籍企業』新日本出版社。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

なお、プリントや資料などを授業において随時配付するので欠席しないように留意すること。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX239／財務会計論1 (Financial Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	米谷　健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業会計はビジネスに必須のコミュニケーション・ツールであり、しばしばビジネスの言語と表現される。企業会計をビジネスの言語として使いこなすためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解するとともに、それがどのような情報を提供しているのかを適切に理解する必要がある。この授業では、財務諸表を作成するために必要な基礎的な知識・技術を習得し、財務諸表によって提供される会計数値の情報内容を適切に理解することを目標とする。

Business accounting is an indispensable communication tool of business and is often expressed as business terminology. To use business accounting as a business language it is necessary to understand the rules that guide the creation of the financial statements and to appropriately understand the information they provide. The objective of this class is for students to acquire the basic knowledge and skills necessary to prepare financial statements and to appropriately understand the contents of the accounting numerical information they provide.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、財務会計の全体像を把握するために、日本の会計制度を概観したうえで、損益計算書及び貸借対照表の基本様式を中心に解説する。また、財務諸表を作成するうえで必要となる基礎的な会計処理を説明するとともに、その背後にある考え方を考察する。

In this class an overview of the Japanese accounting system will be given and then the explanation will focus on the basic format of the profit and loss statement and balance sheet in order for students to get an overall picture of financial accounting. In addition, the basic accounting process necessary to create financial statements is explained and the concepts behind them are considered.

授業計画(Course Schedule)

1. 会計の機能と目的(利害調整機能、情報提供機能)
2. 会計制度の法体系(会社法と金融商品取引法、企業会計原則、GAAP、国際財務報告基準)
3. ディスクロージャー制度(法定開示、自発的開示、決算短信、業績予想)
4. 損益計算書の基本様式
5. 収益及び費用の認識・測定(1)(発生主義、実現、対応)
6. 収益及び費用の認識・測定(2)(キャッシュ・フロー計算書、包括利益計算書)
7. 貸借対照表の基本様式
8. 流動資産(現金預金、売上債権、有価証券、棚卸資産)
9. 固定資産(1)(有形固定資産、減価償却)
10. 固定資産(2)(減損、無形固定資産、投資その他の資産)
11. 繰延資産(株式交付費、社債発行費等、創立費、開業費、開発費)
12. 負債(仕入債務、借入金、社債、引当金)
13. 純資産(1)(払込資本、剰余金)
14. 純資産(2)(自己株式、株主資本等変動計算書)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の授業内容に応じたテキストの該当箇所を予習すること。また、授業で説明した内容を正確に理解できるまで復習し、課題等があればそれに取り組むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内に行う小テスト(30%)/リアクションペーパー(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤邦雄、2018、『新・現代会計入門(第 3 版)』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13480-8)

参考文献(Readings)

1. 桜井久勝、2018、『財務会計講義　第 19 版』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-26641-6)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

各回の授業内容については、授業の進捗等によって変更の可能性がある。また、各回の授業内容に関する資料を配布する場合がある。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX240／財務会計論2 (Financial Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	米谷　健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業会計はビジネスに必須のコミュニケーション・ツールであり、しばしばビジネスの言語と表現される。企業会計をビジネスの言語として使いこなすためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解するとともに、それがどのような情報を提供しているのかを適切に理解する必要がある。この授業では、「財務会計 1」で取り扱わなかった財務会計の基礎的な知識・技術を習得し、財務諸表によって提供される会計数値の情報内容を適切に理解することを目標とする。

Business accounting is an indispensable communication tool of business and is often expressed as business terminology. To use business accounting as a business language it is necessary to understand the rules that guide the creation of the financial statements and to appropriately understand the information they provide. The objective of this class is for students to learn the basic knowledge and technology of financial accounting covered in Financial Accounting 1 and to appropriately understand the contents of the accounting numerical information provided by the financial statements.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、「財務会計 1」で習得した財務会計の基礎知識を前提として、より発展的な内容を含む会計処理を取り扱う。具体的には、金融商品会計、リース会計、退職給付会計、税効果会計、企業結合会計、連結会計、外貨換算会計を取りあげ、それらの基本的な会計処理を解説する。また、財務指標にもとづく分析手法についても解説し、財務諸表を適切に分析する眼を養う。

This class will cover accounting processes, including constructive contents, based on the fundamental financial accounting knowledge that was learned in Financial Accounting 1. Specifically, accounting for financial products, leases, retirement benefits, tax effect, business combinations, consolidation, and foreign currency conversion will be covered and the corresponding basic accounting processing explained. The analysis techniques using financial indicators will also be explained to give students an eye for appropriately analyzing financial statements.

授業計画(Course Schedule)

1. 金融商品会計(1)
2. 金融商品会計(2)
3. リース会計
4. 退職給付会計
5. 資産除去債務
6. 税効果会計
7. 企業結合会計(1)
8. 企業結合会計(2)
9. 連結会計(1)
10. 連結会計(2)
11. 連結会計(3)
12. 外貨換算会計
13. 財務諸表分析(1)
14. 財務諸表分析(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の授業内容に応じたテキストの該当箇所を予習すること。また、授業で説明した内容を正確に理解できるまで復習し、課題等があればそれに取り組むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/授業内に行う小テスト(30%)/リアクションペーパー(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤邦雄、2018、『新・現代会計入門(第 3 版)』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13480-8)

参考文献(Readings)

1. 桜井久勝、2018、『財務会計講義　第 19 版』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-26641-6)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

各回の授業内容については、授業の進捗等によって変更の可能性がある。また、各回の授業内容に関する資料を配布する場合がある。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX241／管理会計論1 (Management Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	諸藤　裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

適切な戦略や利益計画の策定、また、それらの効果的な達成のために有用な会計手法について理解する。企業をとりまく環境の変化などにより適した会計手法がどのように変化してきたのかを学ぶ。

To understand appropriate strategy and profit planning measures and the accounting methods that are useful for effectively achieving those plans. To learn how accounting methods change to match that changes in the environment surrounding companies.

授業の内容(Course Contents)

経営管理者の意思決定や業績管理に役立つ会計手法について、その計算構造の確認とともに、その手法の生成の歴史的背景、果たすべき機能とそれを実現するための要件、手法が有する問題点、人間心理への影響などの論点についても説明を行う。

We discuss useful accounting methods for business managers for decision making and performance management and we also check the calculation structure. Furthermore, we explain the historical background the formation of these methods, the function they should serve, the requirements for realizing those functions, problems with the methods, and their impact on human psychology.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 短期利益計画のための管理会計(1)CVP 分析
3. 短期利益計画のための管理会計(2)固定費への留意
4. 短期利益計画のための管理会計(3)複数製品を生産・販売する場合
5. 予算管理(1)予算の役立ちと編成方法
6. 予算管理(2)予算を使ったコントロール
7. 中間テスト
8. 予算管理(3)予算の人間行動への影響／中期経営計画のための管理会計(1)
9. 中期経営計画のための管理会計(2)バランスト・スコアカード：戦略策定・実行のためのマネジメント・システム
10. 標準原価管理(伝統的な原価管理技法)(1)生成の背景とプロセス
11. 標準原価管理(2)標準原価管理のプロセス(続き)
12. 標準原価管理(3)標準原価管理は現在も有効か？
13. 原価改善(1)原価を低減するための原価管理技法
14. 原価改善(2)原価を低減するための原価管理技法

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習時に取り組む課題や復習問題は各自解いておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/中間テスト(30%)/出席、課題への取り組み(20%)
宿題を解いてきていない場合は、出席とカウントしない。私語は減点の対象とする。

テキスト(Textbooks)

開講時に指定。

参考文献(Readings)

1. 岡本清、2000、『原価計算　六訂版』、国元書房
2. 岡本清・廣本敏郎編著、2019、『検定簿記講義 2 級工業簿記』、中央経済社
その他、各回の授業において指示。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

講義する順序を一部変更する場合がある。授業中に問題演習の答え・意見の発言を求めることがある。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX242／管理会計論2 (Management Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	諸藤　裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業が適切な意思決定を行い、管理者・従業員を適切に動機づけるために有用な会計手法についての知識を習得する。適切な管理会計システムの設計・利用について、計算問題・設例等をもとに自身で考える機会を設ける。

To acquire knowledge of useful accounting methods used by businesses to make proper decisions and to appropriately motivate managers and employees. To provide opportunities for students to think on their own about the calculation problems and examples regarding the design and use of proper managerial accounting systems.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、経営管理者の意思決定や業績管理に役立つ会計手法について、その手法の計算プロセスの説明を行うとともに、その手法の生成の歴史的背景、果たすべき機能とそれを実現するための要件、手法が有する問題点、人間行動への影響などの論点についても説明を行う。

We discuss useful accounting methods for business managers for decision making and performance management and we also check the calculation structure. Furthermore, we explain the historical background the formation of these methods, the function they should serve, the requirements for realizing those functions, problems with the methods, and their impact on human psychology.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション・分権的組織の管理会計(1)権限移譲の必要性と様々な分権的組織
2. 分権的組織の管理会計(2)事業部業績評価の2つの目的と評価尺度、本社費・共通費の配賦
3. 分権的組織の管理会計(3)振替価格の設定、社内資本金制度など
4. 分権的組織の管理会計(4)ミニ・プロフィットセンター
5. ABC/ABM/ABB(1)(生成の背景と技法習得・ABC の有用性の理解)
6. 中間テスト
7. ABC/ABM/ABB(2)(ABM・ABB のプロセス習得)
8. ABC/ABM/ABB(3)・業務的意思決定のための会計(1)(差額原価の概念など)
9. 業務的意思決定のための会計(2)(典型的な問題の習得)
10. 設備投資のための会計(1)(貨幣の時間価値など)
11. 設備投資のための会計(2)(各技法の計算方法習得と各技法の長所・短所)
12. 設備投資のための会計(3)(各技法の計算方法習得と各技法の長所・短所)
13. 原価企画(1)生産開始前の原価低減・利益管理のプロセス
14. 原価企画(2)原価企画を機能させるための仕組み・活動のグローバル化

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習時に取り組む課題や復習問題は、各自解いておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/出席・課題への取り組み(20%)/中間テスト(30%)
宿題を解いてきていない場合は、出席とカウントしない。私語は減点の対象とする。

テキスト(Textbooks)

開講時に指定。

参考文献(Readings)

1. 岡本清、2000、『原価計算　六訂版』、国元書房
2. 谷武幸、2013、『エッセンシャル管理会計(第 3 版)』、中央経済社
3. 諸藤裕美、2013、『自律的組織の管理会計　原価企画の進化』、中央経済社

その他、授業において適宜指定。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業計画の順番を一部変更する可能性がある。
学生による宿題、問題演習の発表を行うことがある。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX244／環境会計論 (Environmental Accounting)		
担当者名 (Instructor)	松田　真由美(MATSUDA MAYUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

環境会計の成立、現状、今後の展開および企業が実際に行っている環境情報開示の現状について理解を深めます。

To deepen understanding of the formation, current state, and future development of environmental accounting as well as the current state of environmental information disclosures actually made by companies.

授業の内容(Course Contents)

「社会的責任」の重要性が高まり、2010 年には ISO26000 として国際標準化されました。既に企業による環境への取り組みは積極的に行われており、環境活動もその一領域として認識されています。また、そのような活動を行う企業へ ESG 投資・社会的責任投資などが積極的に行われています。

このような国際的な機運の高まりを背景に、日本でも 1990 年代より「環境会計」を導入しながら、環境保全活動を貨幣的および物量的に認識して情報を開示してきています。しかし、環境会計の概念は一義的なものではありません。そこで、本講義ではさまざまな側面から環境会計をみてゆきます。

The importance of social responsibility is increasing and in 2010, ISO26000 was made an international standard. Companies are already actively taking measures for the environment and environmental activities are recognized as being part of those measures. Further, ESG investment and social responsibility investment, etc., are actively being made to companies engaged in those activities.

With the increasing international momentum, Japan also introduced “environmental accounting” in the 1990’s and began disclosing information by recognizing environmental protection activities in monetary and quantitative terms. However, environmental accounting concepts are not unambiguous. Therefore, in this lecture environmental accounting will be looked at from various angles.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 地球環境と企業活動
3. ISO14000・26000 シリーズ
4. 地球温暖化とエネルギー政策
5. 環境会計の理論的視点と実務的視点
6. 企業による環境情報開示
7. 環境省の環境報告、環境会計ガイドライン
8. 環境報告書を読む(1)
9. 環境報告書を読む(2)
10. 排出量取引
11. 環境汚染とその原状回復
12. マテリアルフローコスト会計
13. ドイツ、イギリス、アメリカ等の動向
14. 国際統合報告フレームワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

企業のウェブ上の環境情報(社会的責任情報)を読み、関心を持つようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/平常点(30%)

テキスト(Textbooks)

そのつどプリントを配布します。

参考文献(Readings)

随時紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX245／非営利会計論 (Accounting for Non-Profit Organizations)		
担当者名 (Instructor)	鷹野　宏行(TAKANO HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

非営利法人の数と規模の拡大を前提に，企業会計と非営利会計との根本的相違を理解する。

To understand the fundamental differences between business accounting and nonprofit accounting on the premise that the number and size of nonprofits are expanding.

授業の内容(Course Contents)

組織体における資産と負債の差額は，資本と呼ばれたり，純資産と呼ばれたり，または正味財産と呼ばれることもある。組織体には，その差額の増殖を積極的に行い，かつ，元手の拠出者に配当という形で還元することを目的とする営利企業と，その差額の増殖を心がけるが，元手の拠出者には原則として還元しない非営利組織体とがある。本講義では，後者の非営利組織体における会計について明らかにする。

The difference between assets and liabilities in an organization is called capital, net assets, or net worth. Organizations can be separated into the following two types: for-profit companies, which actively strive to increase that difference and their purposes are providing a return in the form of dividends to their source contributors, and; nonprofit organizations, that strive to increase that difference but in principle do not provide a return to their source contributors. This lecture will cover the accounting for the latter; the nonprofit organizations.

授業計画(Course Schedule)

1. 非営利組織体とは
2. 非営利組織体の種類
3. 非営利組織体のアカウンタビリティ
4. 非営利組織体会計の特徴
5. 企業会計と非営利会計の相違
6. 公益法人会計基準の特徴(1)
7. 公益法人会計基準の特徴(2)
8. NPO 法人会計基準の特徴(1)
9. NPO 法人会計基準の特徴(2)
10. 独立行政法人会計基準の特徴
11. 学校法人会計基準の特徴
12. 社会福祉法人会計基準の特徴
13. 協同組合会計基準の特徴(1)
14. 協同組合会計基準の特徴(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

簿記，財務会計論を先行履修していることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

毎回，資料を配布する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX246／会計史1 (History of Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	複式簿記の生成と発展		
担当者名 (Instructor)	岡嶋　慶(OKAJIMA KEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代企業会計に至る会計の歴史的発展過程を分析・検討することを通じて，現代の企業会計の本質をより深くより適切に理解し，その将来的道筋を洞察する能力を身につけることができる。

To deeply and properly understand the essence of contemporary business accounting through analysis and consideration of the historical development process of accounting up to contemporary business accounting and to acquire the ability to gain insights on the future path of business accounting.

授業の内容(Course Contents)

本講義は，企業活動の計数的表現過程である会計が，その担い手である企業を取り巻く環境に対応しながら発展してきた事実を踏まえて，その企業を取り巻く社会的，経済的，法的及び人的環境の変化と会計の進化との因果関係を理解することを主眼として進められる。会計史1では，まず，複式簿記生成に至る準備期として，複式簿記が生成される以前の段階から考察を始める。ついで，複式簿記の生成期として，中世ルネサンス期において生成されたとされる複式簿記が登場する歴史的基盤を，社会，経済，文化，人物といった多面的な要素を取り上げながら，考察する。さらに，その後，複式簿記の普及・改良期として，こうした複式簿記の原型が様々な地域の企業に受け入れられていく過程と新たな企業環境の変化や社会的要求に順応していく過程を考察する。

Accounting is the process of numerically expressing business activities and it has developed in response to the environment surrounding businesses, which are the users of accounting, so this lecture will be conducted focusing on understanding the cause and effect relationship between the evolution of accounting and the changes to the social, economic, legal, and human environments surrounding companies. History of Accounting 1 begins by considering the stage prior to the formation of double-entry bookkeeping as the preparatory period leading to the formation of double-entry accounting. Next, the class will consider the formative period of double-entry accounting by looking at the various different elements, such as society, economy, culture, and people that formed the historical foundation for the advent of double-entry accounting that formed during the medieval renaissance period. Finally, the period of increasing use and improvement of double-entry bookkeeping will be considered by looking at the process of how the prototype of double-entry accounting was accepted by companies in various regions and how it has been adapted to meet changes in the business environment and social requirements.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：会計史を学ぶ意義
2. 会計史の対象と方法
3. 会計の起源：複式簿記前史
4. 複式簿記「起源論」
5. ヴェネツィア式簿記とパチョーリ(1)：『スムマ』以前
6. ヴェネツィア式簿記とパチョーリ(2)：『スムマ』の史的意義
7. ヴェネツィア式簿記の伝播とその背景
8. ネーデルラントにおける発展：イムピンとステヴィン
9. 期間損益計算の成立
10. フランスにおける展開と商事王令
11. イギリスにおける発展
12. 貸借対照表・損益計算書の形成
13. 日本の伝統簿記
14. 洋式簿記の導入

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

会計史の理解には簿記および会計の基本的知識が必須とされるので，毎回受講前に予めその単元で扱われる基礎的な会計知識を確認しておく必要がある。また，授業は，その歴史的背景の考察を踏まえながら，凝縮された内容で展開されていくので，毎回しっかり復習をして次回の授業に備えるようにしなければ，十分な歴史理解には結びつかない。なお，とくに重要な単元での予

習・復習の指示は授業内で行なう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/受講態度(リアクション・ペーパーを含む)・小レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 友岡　賛、2018、『会計の歴史〔改訂版〕』、税務経理協会 (ISBN:4-419-06508-7)
毎回，プリントを配布します(上記テキストは，購入しなくて構いません)。

参考文献(Readings)

1. 中野常男・清水泰洋(編著)、2014、『近代会計史入門』、同文舘出版 (ISBN:4-495-20091-6)
2. 千葉準一・中野常男(責任編集))、2012、『会計と会計学の歴史』、中央経済社 (4-502-4499-1)
3. 平林喜博(編著)、2005、『近代会計成立史』、同文舘出版 (ISBN:4-495-18301-X)
4. リトルトン／片野一郎訳、1978、『会計発達史〔増補版〕』、同文舘出版 (ISBN:4-495-11786-6)
5. 茂木虎雄、1969、『近代会計成立史論』、未來社 (ISBN:4-624-32035-2)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX247／会計史2 (History of Accounting 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代会計制度の成立		
担当者名 (Instructor)	岡嶋　慶(OKAJIMA KEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代企業会計に至る会計の歴史的発展過程を分析・検討することを通じて，現代の企業会計の本質をより深くより適切に理解し，その将来的道筋を洞察する能力を身につけることができる。

To deeply and properly understand the essence of contemporary business accounting through analysis and consideration of the historical development process of accounting up to contemporary business accounting and to acquire the ability to gain insights on the future path of business accounting.

授業の内容(Course Contents)

本講義は，企業活動の計数的表現過程である会計が，その担い手である企業を取り巻く環境に対応しながら発展してきた事実を前提として，その企業を取り巻く社会的，経済的，法的及び人的環境の変化と会計の進化との因果関係を理解することを主眼として進められる。会計史2では，近代会計の生成・発展期として，近代産業社会の成熟に伴う複式簿記確立の実態，そこに確立された「近代会計制度」，近代会計を形成する会計実務と会計理論について，様々な角度から考察する。さらに，現代会計の生成期として，工業化や企業規模の拡大，企業活動の複雑化が会計に及ぼした影響について考察・分析する。

Accounting is the process of numerically expressing business activities and it has developed in response to the environment surrounding businesses, which are the users of accounting, so this lecture will be conducted focusing on understanding the cause and effect relationship between the evolution of accounting and the changes to the social, economic, legal, and human environments surrounding companies. In History of Accounting 2, the formational and developmental period of contemporary accounting will be covered by considering from various angles the establishment of double-entry bookkeeping accompanying the maturation of contemporary industrial society, the “contemporary accounting system” established thereby, and the accounting operations and accounting theory for comprise contemporary accounting. Finally, to cover the formative period of contemporary accounting the class will consider and analyze the influences which industrialization and the increase in company size as well as complication of business activities have had on accounting.

授業計画(Course Schedule)

1. 近代会計の成立環境(1)：株式会社の生成と発展
2. 近代会計の成立環境(2)：近代会社法の生成
3. 産業革命と複式簿記の確立
4. 固定資産会計の生成(1)：鉄道会社と複会計システム
5. 固定資産会計の生成(2)：減価償却
6. 近代会計制度の成立環境
7. 会計プロフェッションの登場
8. 会計プロフェッショナルによる監査の成立
9. 証券市場の発達と近代会計制度の展開
10. 近代会計学の成立(1)：資本主理論と企業主体理論
11. 近代会計学の成立(2)：取得原価主義会計
12. 工業化と巨大株式会社会計
13. 企業集団の形成と連結財務諸表
14. 工業化と管理会計

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

会計史の理解には簿記および会計の基本的知識が必須とされるので，毎回受講前に予めその単元で扱われる基礎的な会計知識を確認しておく必要がある。また，授業は，その歴史的背景の考察を踏まえながら，凝縮された内容で展開されていくので，毎回しっかり復習をして次回の授業に備えるようにしなければ，十分な歴史理解には結びつかない。なお，とくに重要な単元での予習・復習の指示は授業内で行なう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/受講態度(リアクション・ペーパーを含む)・小レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 友岡　賛、2018、『会計の歴史〔改訂版〕』、税務経理協会 (ISBN:4-419-06508-7)
毎回，プリントを配布します(上記テキストは，購入しなくて構いません)。

参考文献(Readings)

1. 中野常男・清水泰洋(編著)、2014、『近代会計史入門』、同文舘出版 (ISBN:4-495-20091-6)
2. 千葉準一・中野常男(責任編集)、2012、『会計と会計学の歴史』、中央経済社 (ISBN:4-502-44990-1)
3. 平林喜博(編著)、2005、『近代会計成立史』、同文舘出版 (ISBN:4-495-18301-X)
4. リトルトン／片野一郎訳、1978、『会計発達史〔増補版〕』、同文舘出版 (ISBN:4-495-11786-6)
5. 茂木虎雄、1969、『近代会計成立史論』、未來社 (ISBN:4-624-32035-2)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX248／会計情報論1 (Electronic Data Processing Systems 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会計データモデルの基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	坂上　学(SAKAUE MANABU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

会計情報システムの設計・開発は、一定のデータベース管理システム(DBMS)を前提として進められるが、その際に鍵となるのが会計データモデルである。本講義では、REA 会計モデルに代表される会計データモデル論がこれまでどのように展開してきたかを概観し、会計データモデルの基礎を理解することを目標としている。

The design and development of accounting information systems proceeds on the premise of a fixed database management system (DBMS) and what is key at this time is the accounting data model. This lecture gives an overview of the development of accounting data model theory as represented by the REA accounting model with the objective of having students understand the fundamentals of accounting data models.

授業の内容(Course Contents)

会計データモデル研究は、Sorter の事象アプローチをきっかけとして、主としてデータベース理論の一領域であるデータモデル論の展開とともに進展してきたといえる。具体的には、階層モデル、網モデル、関係モデル、実体関連モデル、オブジェクト指向モデルなどのモデルの提唱されてきたが、これらのデータモデルが会計領域にどのように応用されてきたかについて学習する。

Accounting data model research has advanced together with the development of data model theory, which is part of database theory that was triggered by the Sorter Events Approach. Specifically, such models as the hierarchical model, network model, relational model, entity relationship model, and object oriented model have been advocated, and students learn how these data models have been applied to the field of accounting.

授業計画(Course Schedule)

1. 本講義の概要と進め方
2. 事象理論の形成
3. 事象理論研究の展開
4. データモデリングの基本と ANSI/X3/SPARC の 3 層スキーマ
5. 階層モデルおよび網モデルによる会計データモデル論の展開
6. 関係モデルによる会計データモデル論の展開(1)－データベースの構造－
7. 関係モデルによる会計データモデル論の展開(2)－データベースの一貫性－
8. 関係モデルによる会計データモデル論の展開(3)－データ操作言語－
9. オブジェクト指向モデルによる会計データモデルの展開
10. REA 会計モデル(1)－実体関連モデルの基礎－
11. REA 会計モデル(2)－抽象化手法の応用－
12. 会計事象の体系化とオントロジー
13. REA 会計モデルのオントロジー分析
14. 本講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/ミニテスト(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 坂上学、2016、『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社 (ISBN:4502182710)

参考文献(Readings)

1. 増永良文、2003、『リレーショナルデータベース入門－データモデル・SQL・管理システム〔新訂版〕』、サイエンス社 (ISBN:4781910246)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

ホームページ：http://www.sakauelab.org/

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX249／会計情報論2 (Electronic Data Processing Systems 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	電子開示システムと XBRL の基礎を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	坂上　学(SAKAUE MANABU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、電子開示システムの仕組みと、財務情報を記述する際に用いられる拡張可能な事業報告言語 XBRL の基礎知識を習得することを目標としている。

The objective of this lecture is to acquire basic knowledge of electronic disclosure system frameworks and of the extensible business reporting language (XBRL) that is used when describing financial information.

授業の内容(Course Contents)

今日においては、アメリカ SEC による EDGAR や日本の金融庁による EDINET などの電子開示システムを通じて、財務会計情報が自由に入手できるようになり、高度な会計情報の利用が可能となっているが、ここに至るまでの技術的な展開を踏まえながら電子開示システムの歴史を概観し、財務会計情報を記述するために開発されたコンピュータ言語である XBRL の基本について学習する。

Today, financial accounting information can be freely obtained via electronic disclosure systems, such as EDGAR of the US SEC or EDINET of the Japanese Financial Services Agency, making it possible to use advanced accounting information, so in this course students will be given an overview of the history of electronic disclosure systems, including the technological developments to date, and will also learn the basics of XBRL, which is a computer language developed to write financial accounting information.

授業計画(Course Schedule)

1. 本講義の概要と進め方
2. 電子開示システムの始動と SGML
3. EDINET システムの概要と HTML
4. 事業報告言語 XBRL と 3 つの基礎概念
5. XBRL タクソノミの基礎
6. EDINET タクソノミの構造
7. XBRL インスタンスの基礎
8. EDINET の XBRL インスタンス
9. ディメンションの基本
10. ディメンションによる未集約情報の記述
11. XBRL GL の基礎
12. XBRL GL データと財務報告との連携－SRCD－
13. SRCD による事象会計報告システムの実現可能性
14. 本講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/ミニテスト(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 坂上学、2016、『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社 (ISBN:4502182710)

参考文献(Readings)

1. 坂上学、2011、『新版 会計人のための XBRL 入門』、同文舘 (ISBN:4495189328)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ホームページ：http://www.sakauelab.org/

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX250／会計監査論1 (Auditing 1)		
担当者名 (Instructor)	前山政之(MAEYAMA NOBUYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

・財務諸表監査の基本概念を他にも応用して他者に説明できること。
・内部統制のフレームワークを理解して実際の事例に適用できること。

・To be able to apply the basic concepts of financial statement audits to other areas and to explain them to other people.
・To be able to understand the internal control framework and apply it to actual examples.

授業の内容(Course Contents)

この授業は、経済社会のインフラとも言える公認会計士監査について、「法律や基準で決められているから」といった法制度に依拠した説明ではなく、理屈として「なぜそのような職能が存在して実務が行われているか」を説明する。具体的な論点としては、監査は企業社会においてなぜ必要とされるのか、監査の類型にはどのようなものがあるのか、監査はどのように実施されるのか、監査と密接な関連がある内部統制の概念的な枠組みにはどのようなものがあるか、などがある。

In this class the explanation of the certified public accounting audit, which is said to be the infrastructure of an economic society, will be given not from the standpoint of the legal system "because it is required by the law and standards," but rather from the standpoint of the reasons "why this occupation exists and performs the work it does." Specific points that will be covered are why audits are required in a corporate society, what type of audits are there, how audits are performed, and what kind of conceptual frameworks are there for internal control, which is closely related to audits.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 監査とは何か
3. 監査はなぜ必要か
4. 不正と財務諸表監査①
5. 不正と財務諸表監査②
6. 監査人に必要な属性:プロフェッションとしての公認会計士
7. 監査人に必要な属性:監査人の独立性①
8. 監査人に必要な属性:監査人の独立性②
9. 監査人に必要な属性:監査人の独立性③
10. 監査人に必要な属性:正当な注意と職業的懐疑心
11. 内部統制①
12. 内部統制②
13. 内部統制③
14. ケースディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・講義スライドなど講義資料は事前に授業支援システムにアップロードするので、あらかじめ読んでおくこと。
・授業内容に関連する課題があらかじめ提示されていることがある。
・ケースディスカッションなどの際はあらかじめ資料を読んで理解するだけでなく、自分の分析を行い、自分の考えを発言できるように準備しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/出席及びクイズ・小テスト(30%)/レポート(10%)/ケースディスカッションの発言(10%)
上記の基準はあくまで目安であり、授業の状況によって修正もあり得る。

テキスト(Textbooks)

1. 鳥羽至英ほか、2015、『財務諸表監査』、国元書房 (ISBN:9784765805636)
教科書は指定しない。こちらで資料を用意する。

参考文献(Readings)

1. トレッドウェイ委員会組織委員会、1996、『内部統制の統合的枠組み』、白桃書房 (ISBN:9784561461043)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

金融庁 http://www.fsa.go.jp/ 日本公認会計士協会 http://www.hp.jicpa.or.jp/

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX251／会計監査論2 (Auditing 2)		
担当者名 (Instructor)	前山政之(MAEYAMA NOBUYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

・監査の実施に関わる基本概念を監査の具体的場面に適用して他者に説明できる。
・監査基準を監査の問題事例に適用して問題点を分析して他者に説明できる。
・監査報告書とその他の情報を組み合わせて企業を分析して他者に説明できる。

・To be able to apply the basic concepts for conducting an audit to specific auditing situations and to explain them to other people.
・To be able to apply auditing standards to example auditing problems, analyze the problems, and explain them to other people.
・To be able to combine audit reports and other information to analyze a company and explain the analysis to other people.

授業の内容(Course Contents)

この授業の目的は、
(1)監査の実施に関わる基本概念を説明することと、
(2)監査論(会計監査論Ⅰ)で説明した監査の理論的な捉え方が、現実の法制度においてどのように反映されているかを説明することである。したがって、金融商品取引法、公認会計士法、会社法、監査基準といった制度の面から監査を説明する。

The objective of this class is to:
(1) Explain the basic concepts for conducting an audit, and
(2) Explain how the auditing theory covered in auditing theory (Auditing 1) is reflected in the actual legal system. Therefore, auditing will be explained from the perspective of such systems as the Financial Instruments and Exchange Act, Certified Public Accountants Act, Companies Act, and auditing standards.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、監査の実施:監査プロセス
2. 監査の実施:監査証拠①
3. 監査の実施:監査証拠②
4. 監査の実施:監査リスク・アプローチ
5. 監査規制と公認会計士監査:公認会計士法
6. 監査規制と公認会計士監査:金融商品取引法
7. 監査規制:監査基準①
8. 監査規制:監査基準②
9. 監査の失敗と監査人の責任
10. 監査基準と監査報告:監査報告書の構造
11. 監査基準と監査報告:監査意見の類型と意見不表明
12. 監査基準と監査報告:継続企業評価と公認会計士監査
13. 金融商品取引法監査制度:内部統制監査制度と四半期レビュー制度
14. 会社法監査制度

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・講義スライドなど講義資料は、事前に授業支援してむにアップロードするので、各自読んでおくこと。
・講義に関連する課題があらかじめ提示されていることもある。
・ケースディスカッション(グループワーク含む)においては、配布されたケースを事前に読んで分析を行い自分の意見を発言できるように準備しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/出席およびクイズ(30%)/レポート(20%)
上記の基準はあくまで目安であり、授業の状況によって修正もあり得る。

テキスト(Textbooks)

1. 鳥羽至英ほか、2015、『財務諸表監査』、国元書房 (ISBN:9784765805636)

教科書は指示しない。必要な資料はこちらで用意する。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

金融庁 http://www.fsa.go.jp/　日本公認会計士協会 http://www.hp.jicpa.or.jp/

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX252／会計政策論 (Accounting Policy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業会計基準設定過程の研究		
担当者名 (Instructor)	尾上　選哉(ONOE ELIYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この科目は、経済社会におけるインフラとして役割を果たしている会計基準の設定がどのような枠組みのもとで行われているか、また会計基準の設定が企業や社会にどのような影響を及ぼしたか、また及ぼしうるかを理解することを目標とします。

The objective of this course is for students to understand what kind of framework such things as the setting of accounting standards, serving as the infrastructure of an economic society, are set and the effect the setting of accounting standards has or may have on companies and society.

授業の内容(Course Contents)

会計政策論では、テキストを用いながら、会計規制としての会計基準の設定の枠組み、またその設定プロセス等について解説を行います。特に、今回はアメリにおける会計規制を中心に取り扱い、講義形式ではありますが、受講生による発表や討議などを取り入れながら、授業を進める予定です。

In Accounting Policy the text will be used to explain the frame for setting the accounting standards as accounting regulations as well as the process for how they are set. This time, the focus in particular will be on the accounting regulations used in the United States, and although a lecture format will be used, the class will be facilitated by also incorporating student presentations and discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 会計政策とは
3. 会計基準の設定機関
4. 証券二法の制定過程
5. SEC 創設期における会計規制の方向性
6. 1933 年証券法の制定までの自主的会計規制
7. 会計プロフェッションによる自主規制体制の確立
8. 米国の石油・ガス会計
9. 金融規制と会計規制の相克
10. 英国における PFI 会計
11. 国際的な PFI 会計基準の設定と承認
12. グローバルな会計規制の枠組みとその変化
13. グローバルな会計規制へのわが国の対応
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義においては予習が必須となります。講義予定のテキスト箇所を読み、わからない用語等については辞書や参考文献、インターネットなどを用いて調べておくことが必要になります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/リアクションペーパー(10%)/授業内での発表(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 大石桂一、2015、『会計規制の研究』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-48060-7)

参考文献(Readings)

1. 大石桂一、2000、『アメリカ会計規制論』、白桃書房 (ISBN:4-561-36081-6)
2. 杉本徳栄、2009、『アメリカ SEC の会計政策』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-29450-1)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

■第1回目の授業において授業方針等について説明しますので、受講予定者は必ず出席してください。
■受講者人数によっては、グループに分け、グループの中で毎回の発表者・司会者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを1章ずつ読み進めていくことを予定しています。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX254／原価計算論1 (Cost Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	原価の構成要素と原価の集計方法		
担当者名 (Instructor)	高野　学(TAKANO MANABU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業は、原価の構成要素を知り、受注製品の原価の集計方法を身につけることを目標とします。これらは、経済学部の学位授与方針の4「経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる」ための有効な道具となります。また、原価の構成要素を学習することにより、身近にみられる企業のビジネス・モデルを分析する力も身につき、経済学部の学位授与方針の2「経済現象を歴史的・理論的に考察することができる」ようになります。

The objective is this class is to learn the components of cost and how to calculate the cost of ordered products. These are effective tools for "being able to conduct data analysis and information processing related to the economy, accounting, and economic policy," which is the No. 4 requirement for receiving a degree from the College of Economics. In addition, learning the components of cost will enable students to analyze the business models of companies they see around them and "be able to historically and theoretically consider economic phenomena," which is the No. 2 requirement for receiving a degree from the College of Economics.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、まず原価計算の意義と目的、原価の要件といった原価計算の基礎的事項についてみていきます。次に原価の構成要素である材料費、労務費、経費について解説を行い、最終的にオーダーメイドの製品(受注製品)の原価集計方法である個別原価計算についてみていきます。また、紳士服量販店、LCC の事例といった身近な企業のビジネス・モデルについても原価計算の視点から考えていきます。各回、レジュメを配布するとともに、演習問題とその解答も配布します。

In this class students learn the significance and purpose of cost calculation and then the fundamental matters of cost calculation, which are cost requirements. Next, an explanation will be given of materials costs, labor costs, and expenses, which are cost components, and in conclusion individual cost calculation, which is a method for calculating the cost of order-made products (ordered products) will be covered. The class will also consider familiar company business models, such as men's clothing mass retailers and LCC from the perspective of cost calculation. Each time a resume will be distributed together with practice problems and their answers.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:原価計算とは
2. 原価計算の意義と目的(1):原価計算の必要性、原価計算が対象とする業種
3. 原価計算の意義と目的(2):原価計算の 5 つの目的、「原価計算基準」の制定
4. 原価の要件と基礎概念:原価の 4 つの要件、原価の分類
5. 材料費の計算方法(1):材料費の分類、材料消費量の計算
6. 材料費の計算方法(2):材料消費単価の計算、予定価格法
7. 労務費の計算方法:労務費の分類、労務費の計算
8. 経費の計算方法:経費の分類、経費の計算
9. 原価計算の視点から考える(1):紳士服量販店の事例
10. 原価計算の視点から考える(2):LCC の事例
11. 単純個別原価計算:単純個別原価計算の計算手続き、製造間接費の配賦計算
12. 部門別個別原価計算(1):原価部門とは、製造間接費の第1次集計
13. 部門別個別原価計算(2):製造間接費の第2次集計(直接配賦法、相互配賦法)
14. 部門別個別原価計算(3):製造部門費の実際配賦、予定配賦

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で行った項目についての演習問題・解答を配布しますので、授業後は必ずその演習問題を解き、復習を行ってください。解き方がわからない場合は、授業後に質問してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト（Textbooks）

各回、レジュメを配布します。また、練習問題と解答についても配布します。

参考文献（Readings）

1. 西村明・小野博則・大下丈平、2010、『ベーシック原価計算』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-22790-5)
2. 清水孝、2012、『原価計算』、税務経理協会 (ISBN:978-4-419-05833-3)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・授業は板書による講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。
・原価計算論2も併せて履修すると、原価計算論を体系的に学習できます。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX255／原価計算論2 (Cost Accounting 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経営者のための原価計算		
担当者名 (Instructor)	高野　学(TAKANO MANABU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業は、大量生産を行う企業における原価計算、そして原価管理、利益管理に役立てるための理論・技法を身につけることを目標とします。これらは、経済学部の学位授与方針の4「経済・経済政策・会計に関するデータ分析・情報処理を行うことができる」ための有効な道具となります。また、利益管理に関する理論を学習することにより、身近にみられる企業のビジネス・モデルを分析する力も身につき、経済学部の学位授与方針の2「経済現象を歴史的・理論的に考察することができる」ようになります。

The objective of this class is for students to learn cost calculation for businesses conducting mass production as well as the theory and techniques that will be useful in cost and profit management. These are effective tools for "being able to conduct data analysis and information processing related to the economy, accounting, and economic policy," which is the No. 4 requirement for receiving a degree from the College of Economics. In addition, learning the theory for profit management will enable students to analyze the business models of companies they see around them and "be able to historically and theoretically consider economic phenomena," which is the No. 2 requirement for receiving a degree from the College of Economics.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、まず大量生産製品の原価を集計する総合原価計算について取り上げます。続いて、原価低減を実現するための標準原価計算、利益計画に役立つ直接原価計算・CVP 分析について学習します。また、マクドナルドや航空運賃の事例といった身近にみられる企業のビジネス・モデルについても、原価計算の視点から考えていきます。授業は講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。

In this class, first process costing for calculating the cost of mass-produced products will be covered. Then, students will learn standard costing for achieving cost reduction and also direct costing and CVP analysis, which are useful for profit planning. The class will also consider familiar company business models, such as McDonald's and air fare, from the perspective of cost calculation. The class will be conducted in lecture style, and after the explanation the students will solve practice problems to help them retain the knowledge.

授業計画(Course Schedule)

1. 総合原価計算(1):総合原価計算とは、単純総合原価計算の計算手続き
2. 総合原価計算(2):月初仕掛品がある場合の計算方法(先入先出法、平均法)
3. 総合原価計算(3):仕損・減損が生じる総合原価計算の計算方法
4. 総合原価計算(4):組別総合原価計算の計算方法、等級別総合原価計算とは
5. 総合原価計算(5):等級別総合原価計算、工程別総合原価計算の計算方法
6. 標準原価計算(1):標準原価計算とは、原価標準の設定、標準原価の計算
7. 標準原価計算(2):直接材料費、直接労務費の差異分析
8. 標準原価計算(3):製造間接費の差異分析
9. 直接原価計算(1):直接原価計算とは、短期利益計画と直接原価計算
10. 直接原価計算(2):直接原価計算による損益計算書の作成、固定費調整
11. 原価計算の視点から考える(1):マクドナルドの事例
12. 原価計算の視点から考える(2):航空運賃の事例
13. CVP 分析(1):CVP 分析とは、損益分岐点売上高の求め方
14. CVP 分析(2):安全余裕率、原価の固変分解

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で行った項目についての演習問題・解答を配布しますので、授業後は必ずその演習問題を解き、復習を行ってください。解き方がわからない場合は、授業後に質問してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト（Textbooks）

各回、レジュメを配布します。また、練習問題と解答についても配布します。

参考文献（Readings）

1. 西村明・小野博則・大下丈平、2010、『ベーシック原価計算』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-22790-5)
2. 清水孝、2012、『原価計算』、税務経理協会 (ISBN:978-4-419-05833-3)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・授業は板書による講義形式で行い、説明の後に練習問題を解き、知識の定着を図ります。
・原価計算論1の内容をベースに授業を進めていきます。

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX256／国際会計論1 (International Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	倉田　幸路(KURATA KOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

これからますます重要となる国際会計について講義します。国際会計を巡る現在の状況、国際会計基準(IFRS)における概念フレームワーク、および日本との比較を理解することを目標とします。

In this class the increasingly important topic of international accounting will be discussed. Students will understand the current state of international accounting, the concept framework of International Financial Reporting Standards (IFRS), and a comparison with the accounting standards of Japan.

授業の内容(Course Contents)

講義形式により、国際会計類型化論、国際会計基準審議会(IASB)やその他の国際機関の概要、EU における国際会計基準受け入れへのプロセス、IASB と日本の概念フレームワークについて講義します。

This class will be in lecture format and will touch on: international accounting standardization; overview of International Accounting Standards Board (IASB) and other international institutions; adoption process of international accounting standards in EU; and Japan's conceptual framework.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス　国際会計とは
2. 1　国際会計類型化論1
   なぜ各国の会計基準は異なるのか
3. 1　国際会計類型化論2
   どのように各国の会計は類型化されるか
4. 2　国際会計基準審議会(IASB)等の国際機関の概要1
   IASB の概要
5. 2　国際会計基準審議会(IASB)等の国際機関の概要2
   EU 等の概要
6. 3　EU 会計制度と国際会計基準1
   EU の会計基準調和化の歩み1
7. 3　EU 会計制度と国際会計基準2
   EU の会計基準調和化の歩み2
8. 3　EU 会計制度と国際会計基準3
   会社法の簡素化1
9. 3　EU 会計制度と国際会計基準4
   会社法の簡素化2
10. 4　概念フレームワーク1
    IASB の概念フレームワーク1
11. 4　概念フレームワーク2
    IASB の概念フレームワーク2
12. 4　概念フレームワーク3
    IASB の概念フレームワーク3
13. 4　概念フレームワーク4
    日本の概念フレームワーク1
14. 4　概念フレームワーク5
    日本の概念フレームワーク2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必ず指定したテキスト、参考書等を事前に講読し、また復習してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 秋葉賢一、2016 年、『エッセンシャル IFRS 第 5 版』、中央経済社 （ISBN:978-4-502-21361-8）

参考文献（Readings）

1. 森川八洲男、2015 年、『国際会計論』、白桃書房 （ISBN:978-4-561-35208-2）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX257／国際会計論2 (International Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	倉田　幸路(KURATA KOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

具体的な国際会計基準(IFRS)の内容と特徴を理解し、他の基準(日本基準、米国基準)との相違を理解することを目標とします。

Specifically, students will understand characteristics and details of the International Financial Reporting Standards (IFRS). Students will also understand its differences from other standards (Japan and US).

授業の内容(Course Contents)

IFRS の内容と特徴について、IFRS の考え方とその背景、IFRS における財務諸表、IFRS による営業活動の会計、IFRS による固定資産の会計、IFRS による金融商品の会計、IFRS による組織再編の会計、IFRS による持分投資の会計について講義します。

This class covers the IFRS details and characteristics, in particular the IFRS concepts and background and financial statements, accounting for business activities, fixed-asset accounting, financial product accounting, organization restructuring accounting, and equity investment accounting under the IFRS.

授業計画(Course Schedule)

1. 1 IFRS の考え方とその背景1
   企業価値評価モデルによる考察
2. 1 IFRS の考え方とその背景2
   資産・負債アプローチと包括利益
3. 2 IFRS による財務諸表
   財務諸表の表示
4. 3 IFRS による営業活動の会計1
   棚卸資産と収益の認識
5. 3 IFRS による営業活動の会計2
   新しい収益認識基準と引当金
6. 3 IFRS による営業活動の会計3
   退職給付とストックオプション
7. 4 IFRS による固定資産の会計 1
   有形固定資産
8. 4 IFRS による固定資産の会計2
   無形固定資産と固定資産の減損
9. 4 IFRS による固定資産の会計3
   リースと投資不動産
10. 5 IFRS による金融商品の会計1
    金融商品と金融負債の認識と測定
11. 5 IFRS による金融商品の会計2
    ヘッジ、認識の中止と公正価値測定
12. 6 IFRS による組織再編の会計
    企業結合の会計処理とのれんの認識・測定
13. 7 IFRS による持分投資の会計
    子会社、関連会社、共同支配会社に対する持分投資
14. 8 IFRS に関する今後の議論
    連単分離等

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業に関連するテキスト、参考書等の該当箇所を事前に講読し、また復習してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 秋葉賢一、2016 年、『エッセンシャル IFRS 第 5 版』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-21361-8)

参考文献(Readings)

1. 森川八洲男、2015 年、『国際会計論』、白桃書房 (ISBN:978-4-561-35208-2)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX258／税務会計論 (Tax Accounting)		
担当者名 (Instructor)	尾上　選哉(ONOE ELIYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

税務会計の理論および所得金額の計算構造を理解します。

To understand tax accounting theory and the income amount calculation structure.

授業の内容(Course Contents)

税務会計は，企業会計における企業利益を前提とし，法人税法に基づいて，法人税の課税標準である所得金額を算定するための会計である。講義では，　主として企業会計における企業利益と法人税の所得金額との差異の内容及びその原因について解明する。また，企業会計の動向に伴って生ずる問題点についても言及する。
法人税法の改正動向についても解説する。

Tax accounting is accounting that calculates the income amount that will be the tax standard for the corporation tax based on the Corporation Tax Act for the calculation of business profit by business accounting. The lecture explains the details and reasons for the difference between business profit as calculated by business accounting and the corporation tax income amount. In addition, the problems that occur accompanying the trends in business accounting will also be mentioned.
The Corporation Tax Act revision trends will also be explained.

授業計画(Course Schedule)

1. 総論(税務会計の意義)
2. 総論(所得金額の計算に関する基本規定)
3. 総論(所得金額の計算構造)
4. 総論(「別段の定め」の根底にある考え方その1)
5. 総論(「別段の定め」の根底にある考え方その2)
6. 総論(まとめ)課題
7. 各論(益金に関する諸問題(受取配当等益金不算入制度その1)
8. 各論(益金に関する諸問題(受取配当等益金不算入制度その2)
9. 各論(益金に関する諸問題(受取配当等益金不算入制度その3)
10. 各論(益金に関する諸問題(時価移転，圧縮記帳・課税の繰延べ)
11. 各論(損金に関する諸問題(役員給与の損金算入制限))
12. 各論(損金に関する諸問題(寄附金の損金算入制限))
13. 各論(損金に関する諸問題(交際費等の損金算入制限))
14. 総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習よりも，むしろ，復習に取り組んでいただきたい。
特に，専門用語について確認されたい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/課題及び宿題の提出(35%)/リアクションペーパー(5%)

テキスト(Textbooks)

1. 坂本雅士、2018、『現代税務会計論』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-26351-4)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX262／上級簿記1 (Advanced Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	高橋　浩二(TAKAHASHI KOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

中級簿記を学習した学生を対象に、その復習をするとともに次のステップを目指した簿記の内容を学んでいきます。会計学で学ぶような理論の理解なども上級簿記では必要になってきます。

This class is for students who have studied intermediate bookkeeping with the objective of practicing what they have learned and aiming for the next step. Understanding the theory learned in accounting is also required for advanced bookkeeping.

授業の内容(Course Contents)

本講義では中級簿記に引き続き、株式会社に関する簿記を学習しますが、中級簿記では学習してこなかった論点なども多数出てきます。日商簿記 1 級の論点に踏み込んでいきますので、単純な仕訳だけでなく理論的な理解も必要となります。また実務で実際に行われている処理なども含めて学習してきます。テキストは「合格テキスト　日商簿記 1 級　商業簿記・会計学」シリーズのⅡを使用します。

In this lecture, students learning bookkeeping for corporations continuing from intermediate bookkeeping, and many of the points not brought up in intermediate accounting are covered. The points from the JCCI Bookkeeping Grade 1 examination are covered, so the theory in addition to simple journal entries must be understood. Students will also learn the processing that is actually performed during real operations. The “Pass the Exam Text: JCCI Bookkeeping Grade 1—Commercial Bookkeeping & Accounting” Series Ⅱ will be used as the text.

授業計画(Course Schedule)

1. 株式会社の財務諸表(1)
2. 株式会社の財務諸表(2)
3. 棚卸資産の基礎
4. 税金・税効果会計(税効果の対象となる税金計算の概略)
5. 税金・税効果会計(2)
6. 金銭債権・貸倒引当金(1)　現在割引価値の考え方
7. 金銭債権・貸倒引当金(2)
8. 有価証券(1)
9. 有価証券(2)
10. 有価証券(3)
11. 外貨換算会計
12. デリバティブ取引(デリバティブの基礎、為替予約)
13. デリバティブ取引(その他)
14. 春学期まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までに学習した内容を確実に行えるようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)
単位修得には 70%以上の出席を要する。出席だけ取りに来て途中退出する者、また授業開始後、40 分すぎての入室も出席とはみなさない。

テキスト(Textbooks)

1. TAC株式会社、『合格テキスト日商簿記 1 級　商業簿記・会計学Ⅱ』、TAC出版

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX263／上級簿記2 (Advanced Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	高橋　浩二(TAKAHASHI KOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

中級簿記を学習した学生を対象に、その復習をするとともに次のステップを目指した簿記の内容を学んでいきます。会計学で学ぶような理論の理解なども上級簿記では必要になってきます。

This class is for students who have studied intermediate bookkeeping with the objective of practicing what they have learned and aiming for the next step. Understanding the theory learned in accounting is also required for advanced bookkeeping.

授業の内容(Course Contents)

本講義では中級簿記に引き続き、株式会社に関する簿記を学習しますが、中級簿記では学習してこなかった論点なども多数出てきます。日商簿記 1 級の論点に踏み込んでいきますので、単純な仕訳だけでなく理論的な理解も必要となります。また実務で実際に行われている処理なども含めて学習してきます。テキストは「合格テキスト　日商簿記 1 級　商業簿記・会計学」シリーズのⅡ及びレジュメを使用します。

In this lecture, students learning bookkeeping for corporations continuing from intermediate bookkeeping, and many of the points not brought up in intermediate accounting are covered. The points from the JCCI Bookkeeping Grade 1 examination are covered, so the theory in addition to simple journal entries must be understood. Students will also learn the processing that is actually performed during real operations. The “Pass the Exam Text: JCCI Bookkeeping Grade 1—Commercial Bookkeeping & Accounting” Series Ⅱ will be used as the text.

授業計画(Course Schedule)

1. 有形固定資産(1)　減価償却等
2. 有形固定資産(2)　減価償却等・現在割引価値
3. 有形固定資産(3)　減損会計
4. リース資産(1)
5. リース資産(2)
6. 引当金
7. 退職給付債務(1)
8. 退職給付会計(2)
9. 退職給付会計(2)
10. 連結会計(1)　個別財務諸表と連結財務諸表、連結の範囲
11. 連結会計(2)　連結の基本的な考え方・資本連結
12. 連結会計(3)　内部取引の消去と債権債務消去
13. 連結会計(4)　未実現利益の消去
14. 秋学期まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義で習った内容を次の講義までに十分理解できるようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)
単位修得には 70%以上の出席を要する。出席だけ取りに来て途中退席する者、授業開始後、40 分すぎて入室した者は出席とみなさない。

テキスト(Textbooks)

1. TAC株式会社、『合格テキスト　日商簿記 1 級　Ⅱ』、TAC出版

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX267／現代経済論 (Modern Economy)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	衰退の本質―「失われた 30 年」から脱出する道		
担当者名 (Instructor)	金子　勝(KANEKO MASARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

通説にとらわれずに、日本経済を全体的に見る視点を持ち、個々の問題の関連性を追求し、問題を解決するために何をどうすべきかを考える能力を養う。

To develop the ability to holistically view the Japanese economy, to look for the relationships among the individual problems, and to think about how to solve those problems without being bound by prevailing thought.

授業の内容(Course Contents)

バブル崩壊以降、日本経済は長期衰退過程にある。それは世界経済の大転換期と重なっている。金融、エネルギー、社会保障などの分野をあげて、今がどのような意味で歴史的大転換期であるかを明らかにし、日本経済が直面する問題を克服する政策を提示したい。

The Japanese economy has been in a long-term decline since the burst of the Bubble Economy. This has overlapped with the turning point in the global economy. What meaning the historical turning points have today will be shown for such fields as finance, energy, and social insurance, and policies for overcoming the problems faced by the Japanese economy will be presented.

授業計画(Course Schedule)

1. 非線形的変化と経済の周期性―シュンペーターの見方を手がかりにして
2. 1997 年を境に衰退が始まった―GDP, 財政赤字、賃金、雇用、家族と人口、そして産業
3. 資本主義の変質ー1980年代以降のバブル循環とグローバリゼーション
4. バブル崩壊と不良債権処理―手術と処方箋
5. 1990 年代の「第 3 の道」からナショナリズムとポピュリズムへ
6. 「失われた 30年」のメカニズム―バブル崩壊から小泉「構造改革」へ
7. アベノミクスの危険性
8. 原発事故と無責任体制―不良債権化した原発と東芝の経営危機
9. 電力改革のあり方を問い直す―エネルギー転換と地域分散ネットワーク型経済システム
10. 社会保障危機の背後にあるもの―少子高齢化、雇用と家族の解体
11. 医療と介護―インセンティブの罠
12. 新しい福祉の考え方―多様性、普遍主義、当事者主権そして分権化
13. 農業と地域再生について―日欧EPAおよびTPP11と農業政策
14. 長期衰退を食い止めるには何が必要か

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

その時々のテーマに関して参考図書をあげるので、読んで欲しい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/授業参加度(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 金子勝・児玉龍彦、2016、『日本病　長期衰退のダイナミズム』、岩波新書 (ISBN:978-4-00-431583-4)
2. 金子勝、2019、『衰退の本質(仮題)』、岩波新書

参考文献(Readings)

1. 金子勝、2013、『原発は火力より高い』、岩波ブックレット (ISBN:978-4-00-270880-5)
2. 金子勝、2015、『資本主義の克服 「共有論」で社会を変える』、集英社新書 (ISBN:978-4-08-720777-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／現代経済演習1 ((Seminar in) Modern Economy 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	考える能力を養うために		
担当者名 (Instructor)	金子　勝(KANEKO MASARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX268		

授業の目標(Course Objectives)

本を読み方、人と議論する作法、物事を考える時の思考法を身につけられる演習にしたい。知識が足りなくても、あまり本を読まなくても、できるだけ基本的な所から楽しくやっていきたい。

The objective of the class is to be an exercise for learning how to read books, learning the manner for holding discussions with people, and acquiring thinking methods for considering things. In addition, to focus on the basic things even if students lack sufficient knowledge and do not read books much.

授業の内容(Course Contents)

いま現代経済や現代社会で問題になっているテーマを自由に取り上げ、ごく初歩的な疑問から出発して、何をどう考えるか，少しでも思考能力が身につくように、みんなで本を選び、読みます。できれば、自由にテーマを決めて、みんなで考え話し合う機会を設けたいと思います。肩肘はらず、恥ずかしがらず、頭を柔らかくして、やりたい。

Themes that are problems for the contemporary economy and contemporary society will be freely addressed and students will be asked to select and read books to be able to acquire even a little thinking ability starting with very rudimentary questions to learn what and how to think. If possible, themes will be freely set and students will be given the opportunity to discuss them with each other. It is hoped that students will be able to be themselves and unabashed while opening their minds.

授業計画(Course Schedule)

1. まず自己紹介と演習の運営方法について話し合い、テキスト 1 冊目を決める
2. テキスト 1 の内容の把握と話し合い 1 回目
3. テキスト 1 の内容の把握と話し合い 2 回目
4. テキスト 1 の内容の把握と話し合い 3 回目
5. テキスト 1 の内容の把握と話し合い 4 回目
6. テキスト 1 の内容の把握と話し合い 5 回目
7. まとめの話し合い
8. テキスト 2 の内容の把握と話し合い 1 回目
9. テキスト 2 の内容の把握と話し合い 2 回目
10. テキスト 2 の内容の把握と話し合い 3 回目
11. テキスト 2 の内容の把握と話し合い 4 回目
12. テキスト 2 の内容の把握と話し合い 5 回目
13. 自由テーマの話し合い
14. 自由テーマの話し合い

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストを決めたら読んでくる。断りなしに欠席しないだけで十分です。

成績評価方法・基準(Evaluation)

小レポート(30%)/演習参加度(70%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／現代経済演習2 ((Seminar in) Modern Economy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	話をする能力を養うために		
担当者名 (Instructor)	金子　勝(KANEKO MASARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX269		

授業の目標(Course Objectives)

本を読み方、人と議論する作法、物事を考える時の思考法を身につけられる演習にしたい。後期は物事を考え、人に対して話しができることを目指す。知識の不足を補いながら、人の意見をよく聞いて、話し合う楽しさを感じられるようにしたい。

The objective of the class is to be an exercise for learning how to read books, learning the manner for holding discussions with people, and acquiring thinking methods for considering things. The objective for the second half is to be able to talk with other people. It is hoped students will supplement the knowledge they lack while listening carefully to others and experiencing the pleasure of mutual conversation.

授業の内容(Course Contents)

いま現代経済や現代社会で問題になっているテーマを自由に取り上げ、少しでも考える能力が身につくように、参考になる文献を読んだ上で、みんなで考え、自由に話し合う機会を設けたいと思います。肩肘はらず、恥ずかしがらず、頭を柔らかくして、やりたい。

Themes that are problems in the contemporary economy and society are freely brought up and for students to improve their thinking ability even a little they will read the reference literature and be given opportunities to think and freely talk together. It is hoped that students will be able to be themselves and unabashed while opening their minds.

授業計画(Course Schedule)

1. 取り上げるテーマを選び、参考文献を選び、議論の留意点を確認します。
2. 参考文献をめぐって論点の整理を行いながら、読み合わせをします。
3. 参考文献に基づいて3～5回ほど話し合いをします。
4. 参考文献に基づく話し合い2回目
5. 参考文献に基づく話し合い3回目
6. 参考文献に基づく話し合い4回目
7. 参考文献に基づく話し合い5回目
8. 自由テーマ1の話し合い1回目
9. 自由テーマ1の話し合い2回目
10. 自由テーマ1の話し合い3回目
11. 自由テーマ2の話し合い1回目
12. 自由テーマ2の話し合い2回目
13. 自由テーマ2の話し合い3回目
14. まとめの話し合い

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストを決めたら読んでくる。断りなしに欠席しないだけで十分です。

成績評価方法・基準(Evaluation)

小レポート(30%)/演習参加度(70%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX270／経営史1 (Business History 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近世から現代に至るまでの経営システムの変遷		
担当者名 (Instructor)	粟倉　大輔(AWAKURA DAISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

欧米を中心とした企業や経営システムがどのように発生し、それが現代に至るまでどのような歴史的変化をみせてきたのかを学ぶことを通じて、今日の世界経済が抱える様々な問題について考察する力を養うことを目標とする。

The objective of this course is for students to nurture the ability to think about the various problems faced by today's global economy by looking at how the business and management systems in mainly Europe and the United States developed and the historical changes that have occurred to them to date.

授業の内容(Course Contents)

近世から現代に至るまでの各時期において、経済覇権を築き上げた国々に特徴的な企業経営の発展のあり方を分析する。最初に、経済覇権をもたらした機軸商品＝戦略商品の歴史的変遷を概観する。続いて具体的な経営システムの変遷を、産業革命期(イギリス)、大企業の時代(アメリカ)、大競争時代(日本をはじめとする各国)、という3つの時期区分でたどっていく。

The characteristic way that business management developed in countries that built economic supremacy from the early modern period until today will be analyzed. First, an overview of the historical transition in the pivotal products, meaning strategic products, that brought economic supremacy will be given. Next, the transition in specific management systems will be looked at separately for the three different periods of the Industrial Revolution (UK), large company age (United States), and era of mega-competition (Japan and other countries).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 戦略商品と経済覇権の変遷①:パックス・ブリタニカの時代
3. 戦略商品と経済覇権の変遷②:パックス・アメリカーナからエレクトロニクス革命へ
4. 会社の誕生①:工場と会社の誕生
5. 会社の誕生②:技術革新と市場
6. 会社の誕生③:株式会社の発生
7. ビッグ・ビジネスの成立①:ビッグ・ビジネスとは？
8. ビッグ・ビジネスの成立②:企業家の精神と戦略
9. ビッグ・ビジネスの成立③:「組織」の時代
10. 大競争時代①:国際競争の構造
11. 大競争時代②:日本的経営と日本的生産システム
12. 大競争時代③:研究開発競争
13. 大競争時代④:サブプライム危機とその影響
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストおよび授業内で提示する参考文献等を読み、講義内容の予習・復習を欠かさないこと。内容は時系列で展開していくので、授業前の復習は特に重要と考えてもらいたい。詳細は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 安部悦生、2010、『経営学入門シリーズ　経営史(第2版)』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-11218-9)

参考文献(Readings)

適宜、授業中に紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講義形式はパワーポイントを使用するが、より細かい説明のために板書も行う。スライドでは、画像資料や現物資料などより理解度が深まるようなものも取り入れる。また、最終授業の際には、全体に対するフィードバックも行う。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX271／経営史2 (Business History 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近世から現代に至る日本の経営システムを支えた企業および経営者		
担当者名 (Instructor)	粟倉　大輔(AWAKURA DAISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「日本的経営」や「日本的経営システム」と呼ばれるものが、如何なる歴史的過程を経て形成されてきたのかを理解できるようにすること。また、「経営史1」で主に取りあげたイギリス・アメリカの企業経営との比較をしながら、その類似点や相違点について考察する力を養うこと。

To understand the historical process behind the formation of what is called “Japanese management” and “Japanese management systems.” In addition, students will nurture their thinking ability by considering the similarities and differences between Japanese management and UK and US business management studied in Business History 1.

授業の内容(Course Contents)

近世から現代に至るまでの日本の経営システムがどのように形成されてきたのかを、それぞれの時期の経済状況などを踏まえつつ、当時の主要な産業や企業、およびそこで活躍した経営者などにスポットを当てながら講義を行う。企業の勃興・成長・衰退ならびに経営者の判断などの具体的な事例、すなわちケース・スタディを通じて、企業の経営システムの変遷について論じていく。

This lecture will discuss how the Japanese management system formed from early modern times to the present and the economic circumstances during each period while also highlighting major industries, companies, and managers that played significant roles. The transition in business management systems will be discussed by looking at specific examples, in other words case studies, to examine how companies start up, grow, and decline and the decisions of their managers.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 近世の経営
3. 工業化の担い手
4. 近代産業経営の成立
5. 政商から財閥へ
6. 都市化と動力革命
7. 新興財閥と重化学工業化
8. 技術革新と市場開拓
9. 流通のイノベーション
10. 自動車産業の発展
11. コンテンツ産業とその行く末
12. 総合商社の変貌
13. 戦争と経営者
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で提示する参考文献等に目を通しておくとともに、講義内容の予習・復習を欠かさないこと。内容は時系列で展開していくので、授業前の復習は特に重要と考えてもらいたい。詳細は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは、特に使用しない。

参考文献(Readings)

1. 加藤健太・大石直樹、2013、『ケースに学ぶ日本の企業』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-18408-4)

2. 宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著、2014、『1 からの経営史』、碩学社 (ISBN:978-4-502-08900-8)
3. 橘川武郎・平野創・板垣暁編著、2014、『日本の企業と産業』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22035-5)
4. 由井常彦、2015、『講話　歴史が語る「日本の経営」』、PHP 研究所 (ISBN:978-4-569-82837-4)
5. 橘川武郎、2018、『ゼロからわかる日本経営史』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-11400-8)
その他、適宜授業内で提示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講義形式はパワーポイントを使用するが、より細かい説明のために板書も行う。スライドでは、画像資料や現物資料などより理解度が深まるようなものも取り入れる。また、最終授業の際には、全体に対するフィードバックも行う。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX272／現代企業論1 (Japanese Enterprise System 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イノベーションの経済学		
担当者名 (Instructor)	関　智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

伝統的な新古典派経済学において企業は長くブラックボックスとして扱われてきた。完全競争市場におけるプレイヤーとして最小費用・最大利益を実現し続ける完璧なマシーンとして存在してきたわけである。しかし，今日では市場の失敗と同じく企業の組織内部にも非効率性が存在するとした企業観が，むしろ積極的に経済学の議論へと回帰しつつある。本講義ではこうした企業をめぐる経済学の新たな動きに着目しつつ，こうした議論をイノベーションや企業家精神の議論とも融合することで現代企業を理解するための理論的なフレームワークの提示を試みる。すなわち，現代企業を読み解く経済学的視点の醸成こそ本講義の目標にほかならない。

In traditional neoclassical economics, companies were handled as a black box for a long time. That is because in a perfectly competitive market the players exist as perfect machines that continue to realize maximum profits at minimum expense. Today however, just as in the case of market failures, the view of companies that there are inefficiencies inside a business organization is again becoming a focal point for economic debate and in a more active way than previously. This lecture will focus on this new movements in economics regrading companies and will present a theoretical platform for understanding contemporary companies by combining this discussion with a discussion of innovation and entrepreneurial spirit. In other words, the objective of this lecture is to nurture an economics perspective for interpreting contemporary companies.

授業の内容(Course Contents)

イノベーションという言葉は現代企業の必須ワードでもある。イノベーションに成功することこそ企業としての成功を意味すると一般には解されているからである。ではイノベーションを何であり，またその成功とはどのように把握されるのかと問われれば，答えに窮するのが現状であろう。本講義では近年の経済学における企業理論について解説し，まずは企業に対する経済学的な分析視角について理解を深める。その上で現代企業におけるイノベーションや企業家精神なるものを経済学のフレームワークを通して理解してもらうことを目指している。それは曖昧なイノベーションの概念を明確かつ客観的な理論体系を通じて理解することにほかならない。

Innovation is an indispensable word for contemporary companies. This is because it is generally believed that to succeed, a company must be successful at innovation. So today people are searching for answers to what is innovation and how can you be successful at it. This lecture explains the recent economics business theories to deepen student understanding the economic analytical perspective for companies. An additional aim is to use an economics framework to understand innovation in contemporary companies and the entrepreneurial spirit. This is only possible by clarifying the vague innovation concepts and the corresponding objective theoretical system.

授業計画(Course Schedule)

1. 問題の所在
2. 研究開発
3. シュンペーター
4. 全要素生産性
5. 生産関数
6. 新古典派企業
7. イノベーション
8. シュンペーター仮説
9. 企業家精神
10. X-非効率性
11. 企業行動仮説
12. 組織慣性
13. 内部非効率性
14. 結論と課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は履修登録完了後に Blackboard 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 關智一、2017、『イノベーションと内部非効率性』、白桃書房 (ISBN:4561267026)

参考文献(Readings)

1. 青木昌彦・伊丹敬之、1985、『企業の経済学』、岩波書店 (ISBN:4000043250)
2. 池本正純、2005、『企業家とはなにか』、八千代出版 (ISBN:4842913414)
3. ボーモル、2010、『自由市場とイノベーション』、勁草書房 (ISBN:4326503421)
4. 宮川努、2018、『生産性とは何か』、筑摩書房 (ISBN:448007189X)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX273／現代企業論2 (Japanese Enterprise System 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	直接投資と日本企業		
担当者名 (Instructor)	関　智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本企業による直接投資の実態とその理論的解釈について，最新の研究成果やデータ分析結果をもとに検討する。また，日本経済と直接投資の関係性についても取り上げ，日本企業による直接投資の進展が日本経済の産業構造に与えるインパクトについても検討を行う。

Building on the latest research output and data analysis results, we consider the state of direct investment in Japanese companies and the corresponding theoretical interpretation. In addition, the relationship between the Japanese economy and direct investment will be addressed and the impact that advancement of direct investment in Japanese companies has on the industrial structure of the Japanese economy will be considered.

授業の内容(Course Contents)

直接投資の進展とともに，産業空洞化や雇用喪失がそのコストとして指摘される一方，そのベネフィットについて語られる機会は少ない。本講義では，日本企業による対外直接投資について，多面的な角度からその実態を明らかにしていく。とくに，現在の日本製造業による東アジアへの直接投資の進展について，企業戦略としての東アジアネットワークの形成と，その進展の中で取り残され，また構造変革を求められる日本の国内経済の現況と課題についても考察する。

Although it has been indicated that the advancement of direct investment has come with costs, such as the hollowing out of industry and job loss, there are few opportunities to talk about its benefits. This lecture will reveal the current state of foreign direct investment in Japanese companies from a variety of perspectives. In particular, in regards to the current advancement of direct investment in East Asia by Japanese manufacturers, this lecture also considers the formation by Japanese companies of East Asian networks as a business strategy, as well as the current issues and situation of the domestic economy in Japan, which has been left behind by this advancement, and the calls for structural reforms.

授業計画(Course Schedule)

1. 問題の所在
2. 加速する日本企業の海外進出
3. 直接投資とは何か(上)
4. 直接投資とは何か(下)
5. データで見る直接投資(上)
6. データで見る直接投資(下)
7. 直接投資の拡大(上)
8. 直接投資の拡大(下)
9. 直接投資と産業空洞化(上)
10. 直接投資と産業空洞化(中)
11. 直接投資と産業空洞化(下)
12. 直接投資のベネフィット
13. 対日直接投資の影響
14. 直接投資と日本経済の課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は履修登録完了後に Blackboard 上にて履修者に対して行う。各自確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 清田耕造、2015、『拡大する直接投資と日本企業』、エヌティティ出版 (ISBN:4757123191)

参考文献（Readings）

1. 戸堂康之、2008、『技術伝播と経済成長』、勁草書房 (ISBN:432654600X)
2. 深尾京司、2012、『「失われた 20 年」と日本経済』、日本経済新聞出版社 (ISBN:4532134110)
3. NHK 取材班、2013、『メイド・イン・ジャパン 逆襲のシナリオ』、宝島社 (ISBN:4800207355)
4. 元橋一之、2014、『日はまた高く 産業競争力の再生』、日本経済新聞出版社 (ISBN:4532355907)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX274／コーポレートガバナンス論1 (Corporate Governance 1)		
担当者名 (Instructor)	鈴木　健嗣(SUZUKI KATSUSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

コーポレートガバナンスとは、経営者や従業員によるモラルハザードを未然に防ぎ、長期的な企業価値を最大化するための仕組みである。なぜ、企業はコーポレートガバナンスに取り組まなければならないのか？どのように取り組むのか？コーポレートガバナンスの取り組みは企業のステイクホルダー(株主、経営者、従業員、顧客、地域社会、その他)にどのような影響を及ぼすのか？こうした疑問に対し、自ら答えを導き出せるようになることが本授業の目的である。企業のコーポレートガバナンスを理解することは企業・組織・経営の在り方を理解することと関係する。いわば企業の根幹の議論といえる。近年、コーポレートガバナンスが新聞紙上に出ない日は無い。企業の所有的立場の者、経営者、被雇用者、投資家にとって、コーポレートガバナンスは必要不可欠な議論と言っても過言ではない。

Corporate governance is a system for preventing moral hazards by managers and employees and for maximizing long-term business value. The objective of this course is to lead students in coming up with their own answers to the questions of: Why must companies implement corporate governance? How do they do it? and What impact does implementing corporate governance have on the company's stakeholders (stock holders, managers, employees, customers, local community, etc.)? Understanding business corporate governance is related to understanding the way that businesses, organization, and management work. This can be said to be a discussion of the so-called business fundamentals. In recent years there has not been a day when corporate governance was not covered in the newspapers. It is not an exaggeration to say that corporate governance is an indispensable discussion for company owners, managers, employees, and investors.

授業の内容(Course Contents)

はじめに企業の所有者である株主にとっての企業価値とは何かを説明する。次に、経営者のモラルハザードを防ぐための手段としての、経営者の報酬をいかに設定するべきか、また取締役会をいかに組成すべきかについて議論する。最後に、監査法人・証券会社・アナリストなどの関係者によるガバナンスを説明する。

First, the business value to shareholders, who are the owners of the company, will be explained. Next, how manager remuneration should be set and how the board of directors should be formed as a means to prevent the moral hazards of managers will be discussed. And finally, governance by such related persons as auditing firms, securities companies, and analysts, etc., will be explained.

授業計画(Course Schedule)

1. コーポレートガバナンス 1 の課題
2. 投資の意思決定(1)
3. 投資の意思決定(2)
4. 投資の意思決定(3)
5. 資本コスト(1)
6. 資本コスト(2)
7. 企業価値(1)
8. 企業価値(2)
9. 経営者報酬とガバナンス(1)
10. 経営者報酬とガバナンス(2)
11. 取締役会を通じたガバナンス(1)
12. 取締役会を通じたガバナンス(2)
13. 監査法人・証券会社・アナリストによるガバナンス
14. コーポレートガバナンス 1 のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業でおこなったことの復習をしましょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業態度、授業参加度、出席兼コメントペーパー(30%)

テキスト（Textbooks）

授業中に説明します

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX275／コーポレートガバナンス論2 (Corporate Governance 2)		
担当者名 (Instructor)	鈴木　健嗣(SUZUKI KATSUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

コーポレートガバナンスとは、経営者や従業員によるモラルハザードを未然に防ぎ、長期的な企業価値を最大化するための仕組みである。なぜ、企業はコーポレートガバナンスに取り組まなければならないのか？どのように取り組むのか？コーポレートガバナンスの取り組みは企業のステイクホルダー(株主、経営者、従業員、顧客、地域社会、その他)にどのような影響を及ぼすのか？こうした疑問に対し、自ら答えを導き出せるようになることが本授業の目的である。企業のコーポレートガバナンスを理解することは企業・組織・経営の在り方を理解することと関係する。いわば企業の根幹の議論といえる。近年、コーポレートガバナンスが新聞紙上に出ない日は無い。企業の所有的立場の者、経営者、被雇用者、投資家にとって、コーポレートガバナンスは必要不可欠な議論と言っても過言ではない。

Corporate governance is a system for preventing moral hazards by managers and employees and for maximizing long-term business value. The objective of this course is to lead students in coming up with their own answers to the questions of: Why must companies implement corporate governance? How do they do it? and What impact does implementing corporate governance have on the company's stakeholders (stock holders, managers, employees, customers, local community, etc.)? Understanding business corporate governance is related to understanding the way that businesses, organization, and management work. This can be said to be a discussion of the so-called business fundamentals. In recent years there has not been a day when corporate governance was not covered in the newspapers. It is not an exaggeration to say that corporate governance is an indispensable discussion for company owners, managers, employees, and investors.

授業の内容(Course Contents)

はじめにコーポレートガバナンスが企業のコーポレートファイナンス行動(現金保有、資金調達、ペイアウト)に及ぼす影響を議論する。次に、コーポレートガバナンスに関わる主体別の議論を行っていく。

First the impact of corporate governance on corporate governance activities (cash holding, funding, payout) will be discussed. Next, the respective subjects of corporate governance will be discussed separately.

授業計画(Course Schedule)

1. コーポレートガバナンス2の課題
2. 現金保有とコーポレートガバナンス
3. 資金調達とガバナンス(1)
4. 資金調達とガバナンス(2)
5. ペイアウト政策とガバナンス(1)
6. ペイアウト政策とガバナンス(2)
7. ファミリー企業のガバナンス
8. 金融機関とガバナンス
9. 経営者選択とガバナンス
10. 企業文化とガバナンス
11. 従業員とガバナンス
12. Shareholder 主義と Stakeholder 主義(1)
13. Shareholder 主義と Stakeholder 主義(2)
14. コーポレートガバナンス 2 のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の復習をしましょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業態度、授業参加度、出席兼コメントペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX278／マーケティング論1 (Marketing 1)		
担当者名 (Instructor)	兼村　栄哲(KANEMURA EITETSU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング論における基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し，マーケティング現象について自分なりに論理的に説明することができる。

For students to become able to correctly understand the basic terms, concepts, ideas, etc., of marketing theory and to be able to theoretically explain marketing phenomena in their own words.

授業の内容(Course Contents)

「マーケティング論1」および秋学期に開講する「マーケティング論2」では，とくに消費財メーカーの視点に立脚し，マーケティング論における基礎的な用語・概念・理論などを，具体例をまじえつつ，わかりやすく説明していく。

この「マーケティング論1」では，マーケティングの概要，マーケティング・コンセプト，企業経営におけるマーケティングの役割，マーケティング管理過程，マーケティング・リサーチ，製品政策の 6 つの領域を取り扱う。

In Marketing 1 and in Marketing 2, which is held in the fall semester, the fundamental terms, concepts, and ideas, etc., of marketing theory will be explained from the perspective of consumer goods manufacturers in an easy-to-understand manner using specific examples.

This class, Marketing 1, will cover the six areas of an overview of marketing, marketing concepts, the role of marketing in business administration, the marketing management process, marketing research, and product policies.

授業計画(Course Schedule)

1. マーケティングとは(その1)　－ニーズと欲求，商品の階層性，マーケティング・マイオピア，産業，ニーズ・欲求と需要の関係－
2. マーケティングとは(その2)　－財とサービスの違い－
3. マーケティング・コンセプト(その1)　－消費者志向－
4. マーケティング・コンセプト(その2)　－利潤志向，統合性－
5. 企業経営におけるマーケティングの役割
6. マーケティング管理過程(その1)　－マーケティング管理，市場機会の分析－
7. マーケティング管理過程(その2)　－標的市場の設定・ポジショニング，マーケティング目標の設定，マーケティング計画の策定，マーケティング組織の編成，マーケティング計画の実施，マーケティング統制－
8. マーケティング・リサーチ(その1)　－データと情報，データの種類，第一次データの収集法－
9. マーケティング・リサーチ(その2)　－全数調査と標本調査－
10. 製品政策(その1)　－マーケティング論における「製品」，製品の構造・構成要素－
11. 製品政策(その2)　－ブランドの起源・役割・構成要素－
12. 製品政策(その3)　－ブランドの分類，新製品の意義・普及過程，新製品の開発過程－
13. 製品政策(その4)　－製品ライフ・サイクル－
14. 製品政策(その5)　－製品ミックス－

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

①とくに専門用語に留意しつつ，事前に配布する印刷物を予習しておくこと。
②各授業の最後に指定する内容について，復習すること。
③日頃から，日本経済新聞，日経産業新聞，日経 MJ(流通新聞)などの新聞や「週刊ダイヤモンド」「週刊東洋経済」「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり，「クローズアップ現代+」「日経スペシャル　ガイアの夜明け」「日経スペシャル　カンブリア宮殿」「WBS(ワールドビジネスサテライト)」を観たりするなどして，マーケティングに関心をもつこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/中間テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

配布する印刷物に基づいて，授業を進めていく。

参考文献(Readings)

1. フィリップ・コトラー, ゲイリー・アームストロング(著), 恩藏直人(監修), 月谷真紀(訳)、2014 年、『コトラーのマーケティング入門』〔第 4 版〕、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06617-1)
2. フィリップ・コトラー, ゲイリー・アームストロング, 恩藏直人(著)、2014 年、『マーケティング原理』、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06622-5)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX279／マーケティング論2 (Marketing 2)		
担当者名 (Instructor)	兼村　栄哲(KANEMURA EITETSU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング論における基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し，マーケティング現象について自分なりに論理的に説明することができる。

For students to become able to correctly understand the basic terms, concepts, ideas, etc., of marketing theory and to be able to theoretically explain marketing phenomena in their own words.

授業の内容(Course Contents)

「マーケティング論2」は，春学期に開講した「マーケティング論1」に引き続く内容であり，とくに消費財メーカーの視点に立脚し，マーケティング論における基礎的な用語・概念・理論などを，具体例をまじえつつ，わかりやすく説明していく。
この「マーケティング論2」では，価格政策，プロモーション政策，経路政策の 3 つの領域を取り扱う。

In Marketing 2, which follows Marketing 1 held during the spring semester, the fundamental terms, concepts, and ideas, etc., of marketing theory will be explained from the perspective of consumer goods manufacturers in an easy-to-understand manner using specific examples.
Marketing 2 covers the three areas of pricing policy, promotion policy, and channel policy.

授業計画(Course Schedule)

1. 価格政策(その1) －価格の意義－
2. 価格政策(その2) －価格の種類－
3. 価格政策(その3) －価格政策の領域－
4. 価格政策(その4) －価格設定の方法① 費用重視型の価格設定－
5. 価格政策(その5) －価格設定の方法② 需要重視型および競争重視型の価格設定－
6. 価格政策(その6) －新製品導入時における価格政策，価格管理の方法－
7. プロモーション政策(その1) －情報伝達過程，広告活動－
8. プロモーション政策(その2) －人的販売活動－
9. プロモーション政策(その3) －販売促進活動－
10. プロモーション政策(その4) －パブリシティ活動－
11. 経路政策(その1) －商的流通経路と物的流通経路－
12. 経路政策(その2) －主要な流通機関－
13. 経路政策(その3) －商的流通にかかわる活動－
14. 経路政策(その4) －販売経路の設定と管理－

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

①とくに専門用語に留意しつつ，事前に配布する印刷物を予習しておくこと。
②各授業の最後に指定する内容について，復習すること。
③日頃から，日本経済新聞，日経産業新聞，日経 MJ(流通新聞)などの新聞や「週刊ダイヤモンド」「週刊東洋経済」「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり，「クローズアップ現代+」「日経スペシャル　ガイアの夜明け」「日経スペシャル　カンブリア宮殿」「WBS(ワールドビジネスサテライト)」を観たりするなどして，マーケティングに関心をもつこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/中間テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

配布する印刷物に基づいて，授業を進めていく。

参考文献(Readings)

1. フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング(著)，恩藏直人(監修)，月谷真紀(訳)、2014 年、『コトラーのマーケティング入門』〔第 4 版〕、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06617-1)
2. フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人(著)、2014 年、『マーケティング原理』、丸善出版 (ISBN:978-4-

621-06622-5)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	廣川　佳子(HIROKAWA KEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX281　経済学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	廣川　佳子(HIROKAWA KEIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX282　経済学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	櫻本　健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX283　経済学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	櫻本　健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX284　経済学科1年次　登録クラスは履修登録状況画面で確認すること。		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬　大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX285　経済政策学科1年次		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬　大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX286　経済政策学科1年次		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	田島　夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX287　会計ファイナンス学科1年次		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	田島　夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX287　会計ファイナンス学科1年次		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX291／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	廣川　佳子(HIROKAWA KEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年A～G組		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX292／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	廣川　佳子(HIROKAWA KEIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～4年A～G組		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX293／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	櫻本　健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～年 H～O 組		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX294／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	櫻本　健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済学科2～年 H～O 組		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX295／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬　大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科2～4年		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX296／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬　大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	経済政策学科2～4年		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX297／統計学1 (Statistics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済における記述統計学		
担当者名 (Instructor)	田島　夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	会計ファイナンス学科2～4年		

授業の目標(Course Objectives)

授業で学んだ指標について、実際のデータを当てはめて自力で計算できるようにする。

For students to become able to use actual data to calculate the indicators learned in class.

授業の内容(Course Contents)

平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。

Descriptive statistics, such as average, variance, factor decomposition basics, and interest calculation, will be comprehensively studied and students will become able to do the calculations for the content covered in this class.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計データの基礎知識(変数の尺度、時系列・横断面の違い、グラフの種類・読み方、e-Stat・公的統計)
2. 中心の特性値(平均の種類と計算、メジアン、モード)
3. 前期比増減率、平均成長率
4. ばらつきの特性値(平均偏差、分散、標準偏差、偏差値)
5. 度数分布(度数分布表、ヒストグラム、四分位範囲)
6. ローレンツ曲線とジニ係数(横断面データの集め方、不平等度の測り方)
7. データ分析とクロス集計(相関関係と因果関係の違い)
8. 散布図・共分散
9. 相関係数
10. 時系列データ(時系列データの集め方、構成比、寄与度、寄与率、平均成長率)
11. 指数に関する演習(調和平均、指数算式)
12. 変動係数物価と実質化
13. 金利計算
14. 金利計算の応用

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

独自教材に基づく。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は社会調査士認定 C 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX298／統計学2 (Statistics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	推測統計学入門		
担当者名 (Instructor)	田島　夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1310	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	会計ファイナンス学科2～4年		

授業の目標(Course Objectives)

母集団と標本の関係や、正規分布とカイ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら最終的に正規分布などを仮定して仮説検定、回帰分析を行えるようにする。

To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions about the normal distribution, etc., and perform regression analysis.

授業の内容(Course Contents)

推測推測統計学の要点を網羅的に学ぶ。母集団と標本の関係や、正規分布とχ二乗分布、t 分布の関係を理解しながら正規分布などを仮定して信頼区間の推定や仮説検定を行えるようにする。最終的に回帰分析を行い、分析結果の解釈と仮説検定をできるようにする。

Students comprehensively learn the points of inferential statistics. To be able to understand the relationship between the population and its sample, and the relationship between the normal distribution, chi-squared distribution, and t distribution so that by the end of the course students will be able to conduct hypothesis testing of assumptions and confidence interval for the normal distribution, etc. Finally, students will become able to perform regression analysis, interpret the distribution results, and conduct hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. 確率の概念
2. 確率分布(離散的確率分布、正規分布他)
3. 正規分布と標準化
4. 標準正規分布表と演習
5. 不偏推定量と標本分布
6. 大数の法則と中心極限定理
7. 信頼区間の推定(t 分布、母分散未知小標本の場合を中心に)
8. カイ 2 乗分布、母分散の区間推定
9. F 分布
10. 仮説検定の基本
11. 仮説検定の応用(有意水準、検出力)
12. 2 群の平均の差の検定
13. 回帰分析(分析事例、結果の読み方)
14. 回帰分析の注意点

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業外の時間で、実際に授業で出された問題を計算して解き方を復習する必要がある。また授業で課題・レポートを課された場合、期限までに提出すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/提出物(課題・レポート)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 栗原伸一、2011、『入門統計学』、オーム社 (ISBN:4274068552)
2. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:9784274220807)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この科目は社会調査士認定 D 科目に指定されている。授業に関連して社会情報教育研究センター
(https://csi.rikkyo.ac.jp/statistics_certificate/Home.aspx)にて統計検定の資格取得も可能である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX301／憲法1 (Constitutional Law 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	基本的人権		
担当者名 (Instructor)	大石　和彦(OOISHI KAZUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本国憲法第3章所定の基本的人権に関する諸規定の規範的意味内容を理解すること。

To understand the normative meaning of the provisions regarding basic human rights specified in Chapter III of the Constitution of Japan.

授業の内容(Course Contents)

日本国憲法第3章所定の人権条項につき，その歴史的背景，起草者意図，判例等を参照したり，諸外国との比較にも目配りしつつ，概論的講義を行う。

In this course a general lecture will be given regarding the human rights clauses in Chapter III of the Constitution of Japan while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 人権総論1
2. 人権総論2
3. 包括的基本権
4. 平等権
5. 精神的自由権1
6. 精神的自由権2
7. 精神的自由権3
8. 経済的自由権1
9. 経済的自由権2
10. 人身の自由
11. 国務請求権
12. 社会権
13. 参政権
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

折に触れ，下掲テキスト及び参考文献の対応箇所を読むと，さらに学習効果が高まるであろう。予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何といっても授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。憲法は、それぞれの国の社会を動かす基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 初宿正典他編著、2018、『目で見る憲法(第 5 版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22735-4)

参考文献(Readings)

1. 芦部信喜・高橋和之補、2015、『憲法(第六版)』、岩波書店
2. 渋谷秀樹・赤坂正浩、2016、『憲法 1 人権(第 6 版)』(有斐閣アルマ)、有斐閣 (ISBN:978-4-641-220676)

立教大学図書館には憲法関係の蔵書も豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。それらを利用できる資格と時間がある今、それらを利用しないというのは、実にもったいないことである。そのうち当代我が国におけ

る代表的な憲法テキストで、国家試験受験者に最も読まれてきたものが上掲1、より読みやすいが内容的に水準が高いものとしては2がある。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX302／憲法2 (Constitutional Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	統治機構		
担当者名 (Instructor)	大石　和彦(OOISHI KAZUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本国憲法のうち，いわゆる「三権」を中心とする部分につき理解する。

To understand the parts of the Japanese Constitution covering the so-called “Three Powers.”

授業の内容(Course Contents)

日本国憲法のうち，いわゆる「三権」を中心とする部分につき，その歴史的背景，起草者意図，判例等を参照したり，諸外国との比較にも目配りしつつ，概論的講義を行う。

In this course a general lecture will be given the parts of the Japanese Constitution covering the so-called “Three Powers” while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 憲法とは何か？
2. 国会1
3. 国会2
4. 国会3
5. 国会4
6. 国会5
7. 内閣1
8. 内閣2
9. 内閣3
10. 裁判所1
11. 裁判所2
12. 裁判所3
13. 地方自治
14. 平和主義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

折に触れ，下掲テキスト及び参考文献の対応箇所を読むと，さらに学習効果が高まるであろう。予習しなくても理解できるよう授業を行うので、予習よりは復習に注力いただきたいが、まずは何といっても授業に集中いただき、ノートをとっていただくことが肝要である。憲法は、それぞれの国の社会を動かす基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 初宿正典・他　編著、2018、『目で見る憲法(第 5 版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22735-4)

参考文献(Readings)

1. 芦部信喜・高橋和之補訂、2015、『憲法(第六版)』、岩波書店
2. 渋谷秀樹・赤坂正浩、2016、『憲法2 統治(第6版)』(有斐閣アルマ)、有斐閣 (ISBN:978-4641220683)

立教大学図書館には憲法関係の蔵書が豊富にあるので、そうした書籍にも触れていただくと、より学習効果が高まるであろう。それらを利用できる資格と時間がある今、それらを利用しないというのは、実にもったいないことである。そのうち当代我が国における代表的な憲法テキストで、国家試験受験者に最も読まれてきたものが上掲1、より読みやすいが内容的に水準が高いものとし

ては2がある。
なお、法律書は最新版を用いることが肝要である。上掲はいずれもシラバス執筆時点での最新版をあげたが、今後最新版が出た場合は授業席上注意喚起する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX303／民法1 (Civil Law 1)		
担当者名 (Instructor)	伊室　亜希子(IMURO AKIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

民法1では、民法の基本的な知識、考え方を理解することを目標とする。民法は、市民間の財産・家族のルールを規定している。私法の一般法として、商法など他の法律を学ぶ基礎ともなるものである。民法を学ぶことを通じて、実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的思考力を習得する。具体的には、民法の構造を把握し、契約、債務不履行、無効・取消といった基本的な法律用語を理解する。

The objective of Civil Law 1 is to understand the basic knowledge and concepts of civil law. Civil law prescribes the rules for dealing with property and family issues among citizens. This is the general law of private law and provides the foundation for studying other fields of law including commercial law. Studying civil law makes it possible to avoid contractual trouble that occurs during transactions and economic activities in real society and gives students the basic legal thinking ability for dealing with such issues. Specifically, to understand the structure of civil law and understand the basic legal terms of contract, debt default, invalid, and cancellation.

授業の内容(Course Contents)

実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的思考力を習得するという観点から、財産法と家族法を概観する。財産法では、契約(不動産売買契約)を主に取り上げるが、成年後見制度や代理、登記制度にも言及する。家族法では、離婚や相続について基本的な話をする。レジュメに沿って講義をする。判例や身近なニュースも随時取り上げる。民法1は民法の基本、民法2は特別法も含めた民法の応用という位置づけである。

An overview of property law and family law is presented from the perspective of acquiring the basic legal thinking ability necessary to avoid and deal with contractual trouble that occurs during transactions and economic activities in real society. For property law the class mainly covers contracts (real estate sales agreements), but also discusses the adult guardianship system and the agency and registration systems. For family law the class discusses the basics of divorce and inheritance. The discussion will follow the course outline. Legal precedents and familiar news will be looked at from time to time. Civil Law 1 covers the basics of civil law while Civil Law 2 discusses the application of civil law including special laws.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス／民法の沿革、構成、意義と役割
2. 民法の基本原則、契約の成立、登記
3. 契約の有効性(意思表示、無効、取消)
4. 契約の主体(権利能力、意思能力、行為能力)、成年後見制度
5. 賃貸借契約、消費貸借契約
6. 債務不履行
7. 裁判のしくみ
8. 代理
9. 物権(所有権、地上権)、抵当権、不動産登記のしくみ
10. 家族法1(親族)
11. 家族法2(婚姻、離婚)
12. 家族法3(相続その1)法定相続
13. 家族法4(相続その2)遺言
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/リアクションペーパー(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

1. 今尾真他編、2014、『フレッシャーズのための民事法入門』、成文堂 （ISBN:9784792326616）
2. 君塚正臣編、2016、『高校から大学への法学（第2版）』、法律文化社 （ISBN:9784589037404）
3. 米倉明、2018、『プレップ民法（第5版）』、弘文堂 （ISBN:9784335313271）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

毎回レジュメを配布する。レジュメは授業終了後 Blackboard にアップする。出席も確認する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX304／民法2 (Civil Law 2)		
担当者名 (Instructor)	伊室　亜希子(IMURO AKIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

民法の財産法の基礎知識を習得し、その基礎知識をもとに、具体的な法律問題について、考察する力を身につける。法的なものの考え方の基本を学ぶ。民法を学ぶことを通じて、実社会における取引や経済生活から生じる契約上のトラブルを防止したり、それに対処するための基本的な法的思考力を習得する。

To acquire fundamental knowledge of the property law area of civil law and the ability to consider specific legal problems based on that fundamental knowledge. Learn the basics of legal thinking. Studying civil law makes it possible to avoid contractual trouble that occurs during transactions and economic activities in real society and gives students the basic legal thinking ability for dealing with such issues.

授業の内容(Course Contents)

不動産売買契約、交通事故等を例にして、民法の契約、所有権、不法行為の基礎知識を講義する。その後は、それらの応用問題として、消費者トラブルやインターネットトラブル、医療過誤等の問題を幅広く取り扱う。民法に加え、消費者法や製造物責任法などの特別法にも話は及ぶことになる。実際に社会で生じている問題を、民法と特別法がどのように処理しているのかを考える内容とする。

This course presents the fundamental knowledge of contracts, property rights, torts within the civil law using real estate sales agreements, traffic accidents, etc., as examples. Then, to look at applied problems the discussion is broadened to such problems as consumer trouble, Internet trouble, medical malpractice, etc. In addition to civil law, such special laws as consumer law and product liability law will also be discussed. The class content will be to consider how the problems that occur in real society are handled by the civil law and special laws.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス／契約の基礎
2. 不動産取引(不動産の売買、対抗要件と登記)
3. 債務不履行
4. 不法行為
5. 特殊の不法行為、製造物責任
6. 消費者問題(未成年者と高齢者の消費者契約)
7. 特別法による消費者保護(クーリング・オフ、クレジットカード取引)
8. 金融商品取引(適合性の原則)、信託
9. 医療契約・医師の責任と説明義務
10. インターネットトラブル(通販、インターネット上で中傷された場合)
11. 近隣トラブル(隣人訴訟、相隣関係)
12. マンションと法
13. 不動産担保権
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/リアクションペーパー(10%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 君塚正臣編、2016、『高校から大学への法学(第2版)』、法律文化社 (ISBN:9784589037404)
2. 米倉明、2018、『プレップ民法(第5版)』、弘文堂 (ISBN:9784335313271)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

毎回レジュメを配布する。レジュメは授業終了後 Blackboard にアップする。出席状況は確認する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX305／企業法1 (Corporation Law 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会社制度の意義と株式会社の運営		
担当者名 (Instructor)	土田　亮(TSUCHIDA RYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

会社制度の基本と株式会社の運営および事業経営に関する制度を理解し、他人に説明出来るようにする

To understand and be able to explain to other people the basics of the company system, corporation administration, and business management systems.

授業の内容(Course Contents)

今日の経済における重要なプレイヤーである会社という制度について、株式会社を中心に概観する。企業法1では、いわゆる総論的な部分と設立、および会社の運営に関する事項を中心に学修する。

Companies are important players in today's economy, so in this class an overview will be given of the company system focusing on corporations. In Corporation Law 1 students will focus their study on the so-called general sections, and matters concerning company establishment and operation.

授業計画(Course Schedule)

1. ビジネスと会社の関係
2. 会社法の基礎概念とステイクホルダー
3. 株式会社の基本
4. 株式会社の設立(1)〔設立手続き〕
5. 株式会社の設立(2)〔設立関与者の責任〕
6. 株式会社の意思決定―株主総会(1)〔招集〕
7. 株式会社の意思決定―株主総会(2)〔運営〕
8. 株式会社の意思決定―株主総会(3)〔決議〕
9. 株式会社の意思決定―取締役会(1)〔取締役と取締役会〕
10. 株式会社の意思決定―取締役解(2)〔運営と決議〕
11. 株式会社の業務の執行(1)〔代表取締役の意義と権限〕
12. 株式会社の業務の執行(2)〔権限の逸脱〕
13. 株式会社の業務執行の監督(1)〔内部的監督〕
14. 株式会社の業務の監督(2)〔監査機構と外部的監督〕

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予備知識のない科目であるので、どちらかといえば復習に力を入れるとよい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。講義前にレジュメをアップロードするので、各自プリントアウトをして持参して下さい。

参考文献(Readings)

1. 伊藤＝大杉＝田中＝松井、『会社法(LEGAL QUEST)第 4 版』、有斐閣
2. 田中亘、『会社法(第 2 版)』、東京大学出版会
3. 江頭憲治郎、『株式会社法(第 7 版)』、有斐閣
4. 岩原ほか、『会社法判例百選(第 3 版)』、有斐閣

六法は必ずしも持参しなくて良いが、あると便利である(レジュメには条文の番号が記載されている)。購入するのであればコンパクトなもので十分である。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会社法は平成 17 年に制定されたが、平成 26 年に改正され、現在再度の改正作業が進行中である。参考文献の購入や情報の収集に際しては、最新の物であるかどうかをよく確認する必要がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX306／企業法2 (Corporation Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	株式会社における財産の保全と調達		
担当者名 (Instructor)	土田　亮(TSUCHIDA RYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

株式会社の資金調達や計算といった財務的な側面について理解し、他者に説明出来るようになる。

To understand the financial aspects of corporation financing and calculation and be able to explain them to other people.

授業の内容(Course Contents)

春学期に引き続き株式会社について学修する。秋学期は主に株式会社の財産的な側面について注目するが、内容は報酬の与え方、役員等の責任などの広範囲にわたる。また、会社の基礎的な変更といった項目についても学修する。

Study will continue in the spring semester where students will learn about corporations. The fall semester focused on the financial aspects of corporations, but this class will expand the discussion to how to give remuneration, the responsibilities of officers and others, etc. Students will also study company fundamental changes.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営者の責任(1)〔役員等の会社に対する権利と義務〕
2. 経営者の責任(2)〔役員等の会社に対する責任〕
3. 経営者の責任(3)〔代表訴訟／役員等の第三者に対する責任〕
4. 株式(1)〔株式の意義〕
5. 株式(2)〔株式の譲渡方法〕
6. 株式(3)〔自己株式の取得〕
7. 株式(4)〔出資単位の調整〕
8. 株式(5)〔募集株式の発行等〕
9. 株式以外の資金調達方法〔新株予約権、社債〕
10. 株式会社の計算
11. 株式会社の基礎的変更(1)〔事業譲渡、組織変更〕
12. 株式会社の基礎的変更(2)〔合併、会社分割、株式交換〕
13. 会社支配とグループ経営
14. 全体のまとめと株式会社制度の将来

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予備知識のない科目であるので、どちらかといえば復習に力を入れるとよい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。講義前にレジュメをアップロードするので、各自プリントアウトをして持参して下さい。

参考文献(Readings)

1. 伊藤＝大杉＝田中＝松井＝、『会社法(LEGAL QUEST)第 4 版』、有斐閣
2. 田中亘、『会社法(第 2 版)』、東京大学出版会
3. 江頭憲治郎、『株式会社法(第 7 版)』、有斐閣
4. 岩原ほか、『会社法判例百選(第 3 版)』、有斐閣

六法は必ずしも持参しなくて良いが、あると便利である。購入するならコンパクトなサイズのもので十分である。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会社法は平成 17 年に制定されたが、平成 26 年に改正され、現在再度の改正作業が行われている。参考文献の購入や情報の収集に際しては、最新の物であるかどうかをよく確認する必要がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX307／労働法 (Labor Law)		
担当者名 (Instructor)	神吉　知郁子(KANKI CHIKAKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

労働法の体系を理解し，労働者に保障されている権利を正しく知るとともに，複雑な労働問題について，法の原理原則から自分なりの解決策を考える力を鍛える。

The objectives of this course are to understand the structure of Labor Law, properly know the rights which are guaranteed to laborers as well as to develop the ability to think of your own solutions to complex labor problems based on legal rules and principles.

授業の内容(Course Contents)

労働法とは，「労働」を規律する法の総称である。その分類にはいくつかの方法があるが，契約関係に着目すると，ひとりひとりの労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係法」と，労働者の集団（労働組合）と使用者との関係を規律する「集団的労使関係法」との2つに大別される。本講義では，まず，労働法の体系や法源に関するグランドデザインを説明したのち，労働の現場で直面するであろう問題を切り口に，個別的労働関係法を解説する。現在では個別的関係がメインと捉えられがちであるが，その後に集団的労使関係法を学ぶことで，交渉力の不均衡を補うための仕組みが今なお重要な意義をもつことを知ってほしい。この2本の柱に絡めながら，契約関係の外側にある，労働市場の入口・出口に関する規制や，紛争解決の実効性確保のための仕組みについても取り上げる。

Labor Law is the generic name for the laws which regulate ″labor.″ There are several ways to classify labor laws, but they can be largely divided into two groups. Focusing on contractual relationships, there are the ″Acts Pertaining to Individual Labor Relations″, which regulate the relationship between individual laborers and the employer, and the ″Acts Pertaining to Collective Labor Relations″, which regulate the relationship between a group of laborers (labor union) and the employer. The lectures will first explain the structure of Labor Law and the legal source of the grand design before going on to describe the Acts Pertaining to Individual Labor Relations on problems which are likely to be directly confronted in the workplace. Currently, there is a tendency to mainly get caught up in individual relationships, but in this course we would like students to know that a mechanism to compensate for the imbalance in bargaining power has an even greater significance now by subsequently studying the Acts Pertaining to Collective Labor Relations. While combining these two pillars, this course will cover the regulations concerning the entrances and exits of the labor market which exist outside of contractual relationships and the mechanisms for ensuring the effectiveness of dispute resolutions.

授業計画(Course Schedule)

1. 労働法総論1　市民法原則の原則とその修正
2. 労働法総論2　集団的自由と集団的保護
3. 日本型雇用システムと判例法理
4. 社会の変化と労働法
5. 労働法の法体系
6. 労働法における当事者性
7. 労働法の法源と労働契約
8. 就業規則と労働条件の設定・変更
9. 採用・採用内定・試用
10. 人事異動・配置転換・企業組織変動
11. 懲戒処分
12. 解雇その他の雇用終了
13. 雇用平等とハラスメント1
14. 雇用平等とハラスメント2
15. 賃金1
16. 賃金2
17. 労働時間1
18. 労働時間2
19. 労働者の安全と健康
20. 休暇・休業とワークライフバランス
21. 労働組合

22. 団体交渉
23. 労働協約
24. 団体行動と不当労働行為
25. 労働市場法1
26. 労働市場法2
27. 労働紛争解決システム1
28. 労働紛争解決システム2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

基礎から講義するが，労働法が民法の特別法である以上，債権や不法行為の基礎知識がなければ理解しにくい部分がある。既習でない場合は，並行して民法を学習することが必要である。
授業には六法を持参し，適宜参照すること。また，普段から意識して労働関係の報道に接し，法的問題について考える習慣をつけることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)
講義中に意見を述べる等の貢献をした場合は，回数や内容に応じて加点する。

テキスト(Textbooks)

1. 水町勇一郎、2018、『労働法(第 7 版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641243095)
講義開始までに版が改訂された場合には，最新版を使用する。

参考文献(Readings)

1. 村中孝史・荒木尚志編、2016、『労働法判例百選(第 9 版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-11531-6)
講義中に指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX308／政治学 (Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の政治や外交の生き生きとした姿を学ぼう		
担当者名 (Instructor)	薬師寺　克行(YAKUSHIJI KATSUYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業は戦後の日本政治、日本外交のうち、特に激動の激しかった 1989 年以降を詳しく学ぶことを目標とします。この四半世紀余り、日本政治は「自民党単独政権」→「非自民連立政権」→「自民党政権」→「民主党政権」→「自民党政権」と目まぐるしく移り変わりました。この間の動きを「生きた教材」として、克明に分析し構造的に理解することを目的とします。

The objective of this course is to learn in detail about postwar Japanese politics and Japanese foreign policy, particularly the turbulent period since 1989. Over a little more than a quarter of a century, Japanese politics has rapidly transitioned from the "one-party government of the Liberal Democratic Party" to the "non-LDP coalition government", "LDP government", "Democratic Party government", and the "LDP government." Recent trends will be used as "living course materials" to carefully analyze and structurally understand these changes.

授業の内容(Course Contents)

この授業は講義形式です。日本政治・外交の動きを政権ごとに、あるいはテーマごとに紹介していきます。中心は 90 年代以降ですが、戦後から 80 年代までの自民党単独政権時代についても紹介します。

1993 年に自民党単独政権が終わり連立政権時代に入って以降、政権は短期間でめまぐるしく交代する時代が続きました。この間、政治の中心に登場し、消えていった政党や政治家は数えきれません。各政党や政治家たちが何を目指し、どのような権力闘争を行ったのか。表に出ていない人間模様も含め、できるだけ生き生きと紹介したいと思います。また冷戦崩壊など国際社会の変動を反映し日本政治も日本社会も激変しました。社会保障政策をはじめとする内政、さらには外交、安全保障政策を含め主要政策の変貌に加え、政策決定システムも構造的に分析します。

この授業では毎回、冒頭の数分間、直近の大きな時事問題について学生に質問したり解説をしますので、日々のニュースに触れるようしてください。

また毎年、秋に政治家の方をゲストに招きし、お話をしていただいています。2014 年は福田康夫元首相、2015 年は民主党の細野豪志政調会長、2016 年は自民党の石破茂元幹事長、2017 年は公明党の太田明宏元代表、2018 年は野田聖子・元総務大臣に来ていただきました。2019 年度も、ゲストを招く予定です。

The classes will consist of a lecture format. Trends in Japanese politics and foreign policy will be introduced according to each administration or topic. The focus will be on the 1990s and subsequent years, but the one-party government of the Liberal Democratic Party from the postwar until the 1980s will also be introduced.

After the one-party government of the Liberal Democratic Party ended in 1993 and the country entered the coalition government era, Japan has continued to experience an era of short-lived governments that rapidly alternate. During this time period, a countless number of political parties and politicians appeared and disappeared from the political center. What were the goals of each of the political parties and politicians and what kinds of power struggles did they engage in? The classes will introduce Japanese politics in a lively manner as possible, including the behind-the-scenes human relationships. Moreover, the discussions will reflect changes in international society such as the end of the Cold War and the sudden changes in Japanese politics and society. In addition to the changes in major policies starting with social security policy in internal affairs and then foreign diplomacy and national security policy, we will also structurally analyze the policy decision-making system.

During the first few minutes of each class, students will be asked about recent major topics, so be sure to pay attention to the daily news.

In addition, politicians are invited as guests to speak every year during the fall. Past guests include Former Prime Minister of Japan Yasuo Fukuda in 2014, Chairman of the Policy Affairs Research Council Goshi Hosono from the Democratic Party of Japan in 2015, Former Secretary-General of the Liberal Democratic Party Shigeru Ishiba in 2016, Former Representative of the Komeito Party Akihiro Ota in 2017, and Former Minister of Internal Affairs and Communications Seiko Noda in 2018. Guests are also scheduled to be invited during the 2019 academic year.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション「日本政治の今――安倍政権は何を目指しているのか」
2. 日本の再軍備を嫌った吉田内閣と「55 年体制」のスタート
3. 学生がこぞってデモに参加した時代――岸首相と安保改定問題
4. 利益誘導政治を確立した田中角栄首相と派閥全盛時代

5. リクルート事件――自民党は腐敗によって自滅していった
6. 冷戦終焉、バブル経済崩壊、天皇崩御――歴史を変える出来事が集中した 1989 年
7. 不発に終わった政治改革の試み（海部、宮沢政権）
8. 新しい政治の動き―自民党分裂と新党ブーム（日本新党、新生党、新党さきがけ）
9. 非自民連立政権の誕生―細川連立政権誕生
10. 自壊した非自民連立政権（細川、羽田政権）
11. 実現した政治改革と小選挙区制導入の意味
12. 小沢一郎という政治家の意味
13. 権力維持にこだわる自民党のしたたかさ（村山政権）
14. 古い体質を脱皮できなかった自民党（橋本、小渕、森政権）
15. 小泉首相は自民党を延命させた－小泉構造改革
16. 高い内閣支持率を維持した小泉首相－小泉流統治手法
17. 新進党の崩壊と民主党の躍進
18. 民主党のマニフェスト作成と統治システム改革案
19. ポスト小泉時代の自民党政権の失敗と挫折（安倍、福田、麻生政権）
20. 躍進する民主党と政権交代実現
21. 普天間飛行場問題の混乱――鳩山政権の失敗
22. 民主党のマニフェストと現実政治とのギャップ
23. 民主党政権の挫折と自民党政権の復活（菅、野田政権）
24. 変貌する日本の外交・安全保障政策 1
25. 変貌する日本の外交・安全保障政策 2
26. 自民党の復活と第 2 次安倍内閣
27. 自公連立はなぜ、長続きするのか
28. 世界で揺らぎ始めた民主主義システムの行方

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

この授業はレジュメなどは用意しません。受講生は指定したテキストをあらかじめ読んで、概要を頭に入れてきてください。また、
日常的に新聞やテレビに接して直近の政治の動きを踏まえたうえで出席することを求めます。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパーやレポートなど(30%)
リアクションペーパーやレポートなどの提出を複数回、求めます。

テキスト（Textbooks）

1. 薬師寺克行、2014、『現代日本政治史』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-14909-0)

参考文献（Readings）

1. 薬師寺克行、2012、『証言　民主党政権』、講談社
2. 北岡伸一、2008、『自民党-政権党の 38 年』、中公文庫
3. 五百旗頭真編、2014、『戦後日本外交史』、有斐閣アルマ

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX311／経済法1 (Economic Law 1)		
担当者名 (Instructor)	早川　雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

独占禁止法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying the Antimonopoly Act.

授業の内容(Course Contents)

独占禁止法の規制のうち、市場支配力の形成・維持・強化が問題となる類型を中心に解説する。
独占禁止法の目的、基礎概念について説明したのち、企業結合規制、不当な取引制限の規制、私的独占の規制、事業者団体の規制の順に、解説する。

The classes will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on patterns of market power creation, maintenance, and strengthening which become problematic.
After explaining the purpose and basic concept of the Antimonopoly Act, we will cover cartel regulations, regulations concerning restrictions on unfair transactions, private monopoly regulations, and trade association regulations in that order.

授業計画(Course Schedule)

1. 独占禁止法の全体像
2. 独占禁止法の目的、基礎概念
3. 企業結合規制(1)企業結合規制の概要、一般集中の規制、結合関係の認定
4. 企業結合規制(2)一定の取引分野の画定
5. 企業結合規制(3)競争の実質的制限の意義、水平型企業結合
6. 企業結合規制(4)垂直型・混合型企業結合、問題解消措置、事前届出制度
7. 不当な取引制限の規制(1)規制の概要、「事業者」と「他の事業者」要件
8. 不当な取引制限の規制(2)行為要件
9. 不当な取引制限の規制(3)反競争効果要件(ハードコアカルテル、非ハードコアカルテル)
10. 不当な取引制限の規制(4)エンフォースメント
11. 私的独占規制(1)規制の概要、排除型私的独占
12. 私的独占規制(2)支配型私的独占、反競争効果要件
13. 事業者団体の規制
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。
また、独占禁止法は、民法(特に契約法)や会社法、行政法など他の実定法科目の知識を前提知識としているので、並行して学習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣、2019 予定、『条文から学ぶ独占禁止法(第 2 版)』、有斐閣

参考文献(Readings)

1. 川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子、2014、『ベーシック経済法(第 4 版)』、有斐閣 (ISBN:9784641220201)
2. 金井貴嗣ほか編、2017、『経済法判例・審決百選(第 2 版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115347)
3. 泉水文雄、2018、『経済法入門』、有斐閣 (ISBN:9784641243125)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

講義レジュメを blackboard で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX312／経済法2 (Economic Law 2)		
担当者名 (Instructor)	早川　雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

独占禁止法と景品表示法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法と景品表示法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act and the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying these two acts.

授業の内容(Course Contents)

独占禁止法の規制のうち、不公正な取引方法の規制を中心に解説する。
不公正な取引方法の総論として「公正競争阻害性」概念について解説したのち、各論的な行為類型である再販売価格の拘束、不当廉売、優越的地位の濫用といった様々な行為類型を取り上げる。関連する規制として景品表示法の規制も取り上げる予定である。

This course will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on unfair trade practices.
As a general introduction to unfair trade practices, the classes will explain the concept of "inhibition of fair competition" before covering various theoretical behavior patterns such as resale price restrictions, dumping, and the abuse of a dominant bargaining position. The course is also scheduled to cover regulations in the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations as a related set of regulations.

授業計画(Course Schedule)

1. 不公正な取引方法の規制の全体像
2. 不公正な取引方法総論：公正競争阻害性
3. 不公正な取引方法各論：再販売価格の拘束
4. 不公正な取引方法各論：その他の拘束条件付取引
5. 不公正な取引方法各論：排他条件付取引
6. 不公正な取引方法各論：不当廉売
7. 不公正な取引方法各論：取引拒絶規制
8. 不公正な取引方法各論：差別対価等
9. 不公正な取引方法各論：取引強制（抱き合わせ販売）、不当な顧客誘引
10. 景品表示法の規制（1）不当表示規制
11. 景品表示法の規制（2）景品規制、景品表示法のエンフォースメント
12. 不公正な取引方法各論：優越的地位の濫用
13. 不公正な取引方法各論：取引妨害
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。
また、独占禁止法と景品表示法は、民法（特に契約法）や会社法、行政法など他の実定法科目の知識を前提知識としているので、並行して学習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣、2019 予定、『条文から学ぶ独占禁止法（第 2 版）』、有斐閣
消費者庁「事例でわかる景品表示法」
http://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/fair_labeling/pdf/fair_labeling_160801_0001.pdf

参考文献(Readings)

1. 川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子、2014、『ベーシック経済法（第 4 版）』、有斐閣 (ISBN:9784641220201)
2. 金井貴嗣ほか編、2017、『経済法判例・審決百選（第 2 版）』、有斐閣 (ISBN:9784641115347)
3. 泉水文雄、2018、『経済法入門』、有斐閣 (ISBN:9784641243125)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講義レジュメを blackboard で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／課題解決演習B (Seminar on Task Solutions B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	チームで協働し、成果を出すために考え抜き、自ら行動する力を高める課題解決型学習(Project-Based Learning)		
担当者名 (Instructor)	翁　理香(OKINA AYAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX317		

授業の目標(Course Objectives)

協力企業から提示される課題に取り組みながら、実社会で起きている問題を、専門科目として学ぶ経済学等の学問領域と結びつけて考えられるようになることを目標としています。また、協力企業・業界が果たす社会的役割を理解し、「考え方の違う者同士が協働して成果を出す力＝チームで課題解決する力」を高めることも目標としています。建設的なコミュニケーション力の向上・チーム運営力を養うことも目標としています。

To objective of this course is to address the issues presented by cooperating companies while students become able to link the problems that occur in real society to economics and other academic fields that are studied as special subjects. Another objective of the course is for students to understand the social roles played by cooperating companies and industries and to improve their problem solving ability as a team, meaning the ability to produce results when people with different ideas collaborate. And to foster students' skills for constructive communication and team management is another objective of this class.

授業の内容(Course Contents)

協力企業から提示される課題の解決策を、企業・顧客視点で検討し、最終提案するという課題解決型学習の授業です。
課題は、協力企業が事業として実際に取り組んでいる具体的事案を元に提示されます。そのため、授業を通じて業界・職業・業務の一端を理解することができ，将来の進路選択にも役立てられる知識習得も行います。少人数のチーム単位で各種ワークに取り組み、最終発表を行います。

Project based learning is used for this class in which students consider solutions for issues presented by cooperating companies from the company and customer perspectives and make a final proposal.
The issues are presented based on specific cases the cooperating companies are actually facing in their business. This makes it possible to understand about the industry, occupation, and operations through the class to provide students with knowledge that is useful for selecting a career path in the future. The students will engage in the work in small teams and give a final presentation.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業のガイダンス、チームビルディング、ジェネリックスキル自己チェック、ディスカッションスキル実践
2. 【協力企業 A】からの課題提示　※企業オフィスでの実施を予定
3. 各チームでのワーク①
4. 中間発表とフィードバック
5. 各チームでのワーク②
6. 各チームでのワーク③
7. 協力企業 A への最終発表　※企業オフィスでの実施を予定
8. 【協力企業 B】からの課題提示
9. 各チームでのワーク④
10. 中間発表とフィードバック
11. 各チームでのワーク⑤
12. 各チームでのワーク⑥
13. 協力企業 B への最終発表
14. 振り返り、ジェネリックスキル他己評価、目標設定と宣言

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

提示課題解決のための提案作成・ワークシート／発表資料作成などについては、以下を必須事項とします。
・個人／チームとして必要な事前準備(情報収集・整理、議論)と事後学習(不足情報収集・整理、議論、資料修正など)を行うこと
・チームメンバー全員が役割を担うこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/出席および授業への参加・貢献度(50%)/チームによる最終発表の内容(30%)
※通常の授業に加え、企業オフィスでの課題提示・最終発表の実施を予定しています。この回への参加は必須である。(日程等の詳細は、6 月末までに経済学部掲示板にて告知予定。履修希望者は必ず確認してください。) ※3 回欠席で D 評価。原則全回出席を義務付けます。遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なします。

テキスト(Textbooks)

授業の中で必要に応じて指示します。

参考文献(Readings)

授業の中で必要に応じて指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・履修定員 30 名
※本科目は提出されたレポート(課題)に基づき履修者を決定します。選考方法については 6 月末までに経済学部掲示板にて告知します。履修予定者は必ず確認してください。
・2, 3 年生を主たる履修対象とします。
・協力予定企業:株式会社 Plan・Do・See、第一生命保険株式会社
・下記, 経済学部キャリア教育サイト「STORY」の情報発信に目を配ってください。
http://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/
※本科目は 2015 年度までの「企画講座C」に該当します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／インターンシップ (Business Internship)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	就業体験を通じた〈学び〉の再確認		
担当者名 (Instructor)	遠山　恭司(TOYAMA KYOJI) 翁　理香(OKINA AYAKA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX319		

授業の目標(Course Objectives)

就業体験を通じて企業活動の現場を体感し，大学での「学び」の意義を再確認するとともに、自分自身のこれからのキャリアや生き方について具体的に考えていくことができるようにしていきます。

Experiencing business activities firsthand through work experience opportunities gives students the opportunity to fully realize the significance of what they learn in the university while also providing them the opportunity to think specifically about their future careers and the way they want to live.
Through business activities at companies, this course gives students the opportunity to fully realize the significance of what they should learn in the university, while also provide them the opportunity to think specifically about their future careers and the way they want to live.

授業の内容(Course Contents)

春学期はインターンシップに参加する前提として，インターンシップの目的，参加の心構え，ビジネスマナー講習などを中心に，事前準備学習を行います。インターンシップは原則として夏季休業中(8 月中旬～9 月上旬)に2週間(10 日間)の予定で行いますので，受講希望者は夏季休業中の予定を調整できるようにしておいて下さい。秋学期では，インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を行い，それぞれが就業体験を通じて得たものを定着させていきます。また，授業の最後には体験報告をレポートにまとめ，インターンシップ報告書を作成します。なお，インターンシップの派遣先は，立教経済人クラブ等の協力の下，本学が独自に確保する企業への派遣が中心となります。

During the spring semester students study to prepare for participation in a business internship by learning about the purpose of business internships, participation mindset, and business manners. In principle, internships will be conducted for 2 weeks (10 days) during the summer vacation (Mid-August to the end of September), so students wishing to do internships should adjust their plans during summer break accordingly.
During the fall semester, the students will make reporst and presentations to share the knowledge and experience they gained from their internships with all the other students and to help solidify what they gained from the work experience. In addition, at the end of the semester the experience reports will be compiled into an internship report. Most of the internships will be conducted at companies independently arranged by the faculty with the cooperation of Rikkyo Club of Executives & Professionals and others.

授業計画(Course Schedule)

1. インターンシップの目的と意義
2. 自己紹介と自己アピール
3. 輪読・ディスカッション(1)
4. 輪読・ディスカッション(2)
5. 社会人(OB・OG)に聞く仕事の実際
6. インターンシップの心構え
7. ビジネスマナー講習(1)
8. ビジネスマナー講習(2)
9. ビジネスマナー講習(3)
10. キャリアセンター職員に聞く「就活」の実際
11. 昨年度受講生に聞くインターンシップ体験
12. インターンシップ派遣企業の紹介
13. マッチング(1)
14. マッチング(2)
15. インターンシップの体験報告(1)
16. インターンシップの体験報告(2)
17. インターンシップの体験報告(3)
18. インターンシップの体験報告(4)
19. インターンシップの体験報告(5)

20. インターンシップの体験報告（6）
21. インターンシップ体験を基礎にしたディスカッション（1）
22. 外部企業講師による講話（1）
23. インターンシップ体験を基礎にしたディスカッション（2）
24. 外部企業講師による講話（2）
25. インターンシップ報告書の作成（1）
26. インターンシップ報告書の作成（2）
27. インターンシップ報告書の作成（3）
28. インターンシップ報告書の作成（4）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

本講の受講希望者は，4 月 1 日（月）14 時 00 分～14 時 30 分の授業ガイダンス（場所：学部 HP 等で確認）に参加して、これまでの授業内容や受講生の様子を資料等で確認してもらいたいと思います。また、この授業の特性から本科目はレポートによる受講者の選抜を行います。レポートの課題は「インターンシップを受講する意図と将来の希望」について、1200 字程度でまとめたものを、4 月 1 日（月）～4 日（木）17 時の申込期間に、教務事務センターのレポートボックスに提出して下さい。履修許可者の発表は 4 月 6 日（土）に行い、4 月 10 日(水)から授業を行います。

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席，受講態度，報告発表，報告書作成等(100%)
出席，受講態度，報告発表，報告書作成，その他を授業の目的に照らして総合的に評価する。

テキスト（Textbooks）

特に指定はありませんが，授業時のディスカッションの素材として，書籍の購入を求めることがあります。

参考文献（Readings）

なし

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は、インターンシップや学外活動等の実践的な学びを中心に構成する授業である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／Short-term Study Abroad Program in Economics (CAN)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	6単位(6 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX9053	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX320		

授業の目標(Course Objectives)

海外の経済と文化を理解するとともに，国際的な場で活躍するために必要な下記のスキルを身につける。
1．経済・経営について英語で議論する能力
2．北米・環太平洋地域の経済・経営に関する知識
3．多文化社会に関する知識および適応する能力，行動力

To acquire the following skills necessary for understanding overseas economies and cultures and performing in international arenas.
1. The ability to discuss the economy and management in English.
2. Knowledge of the economies and management in North America and the Pacific Rim.
3. Knowledge of multicultural societies and the ability to adapt to them and take action within them.

授業の内容(Course Contents)

日本(本学)において北米地域の経済・経営・文化等に関する事前研修を行った後，カナダ・アルバータ大学にて英会話研修，経営大学院のビジネスプレゼンテーション演習および経済・経営に関する講義を英語で受講する。また現地での企業見学，学生との交流等を行う。

After conducting preparatory study of North American economies, management, and cultures, etc., while in Japan (this university), students will study English conversation at the University of Alberta in Canada, practice giving business presentations for the Alberta School of Business, and attend economics and business management related classes in English. Students will also take tours of local companies and engage in cultural exchanges with local students.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 基礎知識の習得(1) 基本文献の速読トレーニング
3. 基礎知識の習得(2) ディスカッション
4. 基礎知識の習得(3) カナダの経済・文化
5. 英語能力判定テスト
6. プレゼンテーションの基本スキル
7. ビジネス・プロジェクトに関するイントロダクション
8. ビジネスにおける文化的相違：カナダと日本の比較
9. 効果的な交渉術
10. 経済および会社組織のガバナンスシステム：カナダと日本の比較
11. マーケティングおよび小売業マネジメント
12. ヒューマン・リソース・マネジメント
13. 資源ビジネスとエネルギー政策
14. ビジネスプロジェクトのプレゼンテーション／まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Blackboard にて随時指示するので，確認のうえ準備学習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前研修の参加状況(10%)/海外研修時の成績(50%)/ビジネスプロジェクト(プレゼンテーション)(20%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト(Textbooks)

授業の際に指示する。

参考文献(Readings)

授業の際に指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／企画講座５ (Endowed Lecture 5)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キャリア・ワークショップ／問題解決のためのケース・スタディ		
担当者名 (Instructor)	宇野　健司(UNO KENJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	２単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX321		

授業の目標(Course Objectives)

学生が授業を通じて、
(1)自分の将来のキャリアについて考えること
(2)ディスカッション・スキルを身に付けること
(3)講師・クラスメイトから刺激を受け、意識を高め、自発的に行動できるようになること

Through this class students will:
(1) Think about their future careers
(2) Acquire discussion skills
(3) Be stimulated by the instructor and classmates and become able to increase own awareness and take action proactively

授業の内容(Course Contents)

通称「宇野ゼミ」(定員30人)。大手シンクタンク(調査研究機関)の現役社員によるMBA(ビジネススクール)形式のディスカッション授業です。企業の組織論・経営戦略論、個人のキャリア形成など実践的なテーマを取り上げます。

ディスカッションを通じ、「明るくフレンドリーな態度、発言し易い雰囲気を大事にする」「自分の意見を堂々と表明する」「他人の意見を尊重し、誠意を持って傾聴する」「批評・批判でなく、前向きな意見交換を行う」「柔軟かつ適切に議論をまとめる」など、社会人になってからも必要なコミュニケーション・スキルを身に付けられるように、丁寧に指導します。

また講師の体験談(就職活動、転職、海外大学院MBA留学、専門スキル習得など)をもとに、「将来のキャリアをどう築いて行けば良いのか？」などについても、実務家教員として現実的なアドバイスをします。

(双方向でのディスカッション授業の性質上、例年、講師・クラスメイトがとても親密になり、授業外でも友好的なコミュニティーとして、卒業後も存続しています。)

This is nicknamed the “Uno Seminar” (Capacity 30 people). This class offers MBA (business school) type discussions by current employees of major think tanks (investigation and research organizations). Practical themes will be covered, such as company organizational theory, management strategy theory, and personal career development.
Discussions are used to give detailed guidance on the communication skills that are also necessary as an employee, such as “Having a cheerful, friendly attitude and valuing an environment where it is easy to speak up,” “Boldly expressing your opinions,” “Valuing the opinions of others and listening with sincerity,” “Exchanging positive opinions rather than judging and criticizing,” and “Flexibly and appropriately facilitating the discussion.”
Realistic advice from a practitioner instructor will also be given, such as “How should you build your future career?,” based on the experience of the lecturer (job searching activities, changing jobs, study aboard in an overseas university graduate MBA program, acquiring specialized skills, etc.).
(This class features interactive discussions with the instructor, which normally brings students closer to the instructor and their classmates and also creates a friendly community outside the classroom, which continues even after graduation.)

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション　＆　模擬ディスカッション(1)
2. 模擬ディスカッション(2)
3. ケース①　ディスカッション　＆　フィードバック
4. ケース②　ディスカッション　＆　フィードバック
5. ケース③　ディスカッション　＆　フィードバック
6. キャリアの話(1)　体験談　＆　ディスカッション
7. ケース④　ディスカッション　＆　フィードバック
8. ケース⑤　ディスカッション　＆　フィードバック
9. ケース⑥　ディスカッション　＆　フィードバック
10. キャリアの話(2)　体験談　＆　ディスカッション

11. ケース⑦ ディスカッション & フィードバック
12. ケース⑧ ディスカッション & フィードバック
13. ケース⑨ ディスカッション & フィードバック
14. ケース⑩ ディスカッション & フィードバック

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(100%)
毎回のクラス出席・参加で成績をつけます。テスト、レポート等はありません。

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

慶応ビジネススクールのケース教材（実際の事例を説明した短い文章）を配布します。授業では、そのケース教材をもとに、まずは少人数グループで話し合った上で、クラス全体で意見交換をします。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

講師の紹介サイト：
https://www.dir.co.jp/professionals/researcher/unok.html

講師のメールアドレス：
kenji.uno@dir.co.jp

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX322／企画講座4 (Endowed Lecture 4)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代社会と会計		
担当者名 (Instructor)	内野　一樹(UCHINO KAZUKI) 福山　倫基(FUKUYAMA TOMOKI) 石川　恵子(ISHIKAWA KEIKO) 北井　不二男(KITAI FUJIO) 松田　真由美(MATSUDA MAYUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

会計が、企業を取り巻く利害関係者の間で行われ、人と人との関係が背後に横たわっているという意味ですぐれて社会的な行為であることを理解する。

To understand that accounting is an excellent social activity that is conducted between the stakeholders of a company and that forms the background for the relationship between people.

授業の内容(Course Contents)

現代社会の諸相にアカウンタビリティ(会計報告責任)を切り口にしてアプローチする。そこでは、就活、非正規雇用、ブラック企業等の山積する社会的な問題を題材として、会計は誰のために行うのか、会計に何ができるのか(できないのか)を、受講者と一緒に検討する。また、授業の進行に応じて、ビジネス・ゲーム(ボードゲーム)を行う。「社会に開かれた会計学」を各論的に展開したい。

Accounting is an approach for providing accountability (accounting reporting responsibility) in various aspects of contemporary society. Here, the lecturer will consider together with the students who accounting is done for and what accounting can do (or cannot do) using such social problems as job searching, non-regular employment, and employee exploiting companies as subjects. In addition, business games (board games) will be used as the class progresses. What is "Accounting that is open to society" will be theoretically developed during the class.

授業計画(Course Schedule)

1. 就活と会計情報のディスクロージャー
2. 揺れ動く会計観
3. 資産負債アプローチ:貸借対照表
4. 資産負債アプローチ:金融債権
5. 資産負債アプローチ:安全性の分析
6. 収益費用観:損益計算書
7. 収益費用観:売上原価
8. 収益費用観:収益性の分析
9. 地方自治体の会計:新公会計基準の導入
10. 地方自治体の監査:監査委員制度と内部統制の導入
11. CSR 会計(企業の社会的責任会計):企業市民権
12. CSR 会計(企業の社会的責任会計):環境会計報告書
13. CSR 会計(企業の社会的責任会計):ホワイト企業と社会貢献支出
14. 振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

一話完結型(Omnibus)で授業を進めるので、テキスト・配布資料の該当部分を予め一読しておいてほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

コメントカード兼出席票の内容(100%)

テキスト(Textbooks)

できるだけ新しいテキストを採用する予定である。担当教員が開講時(9 月の初回)に指示する。

参考文献(Readings)

1. 熊谷重勝・内野一樹、2011、『社会化の会計：すべての働く人のために』、創成社 (ISBN:978-4-7944-1428-1)
2. 石川恵子、2017、『地方自治体の内部統制：少子高齢化と新たなリスクへの対応』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-24381-3)
授業の中で随時紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX327／経済地理学1 (Economic Geography 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	立地論　農業立地　工業立地　商業立地　オフィス立地		
担当者名 (Instructor)	藤本　典嗣(FUJIMOTO NORITSUGU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 経済地理学の概要を理解し、立地論に基づき地域・都市の成立・形成・成長のメカニズムを説明できるようになること。
2. 経済地理学に関わる専門用語を、日本語・英語でも理解できる水準となること。

1. To gain a conceptual understanding of economic geography and be able to explain the establishment, formation, and growth mechanisms of regions and cities based on location theory.
2. To reach the level where the technical terms used for economic geography can be understood in both Japanese and English.

授業の内容(Course Contents)

なぜ、特定地域に、農業者、商業者、工場、オフィスなどの主体(事業所)が立地して、地域・都市が成長していくのか、立地論の理解により、立地要因を明らかにしていきます。タイムリーな話題として、東日本大震災など災害が、立地に与える影響についても、補足的に説明します。

The location factors will be revealed by understanding location theory, which addresses why farmers, merchants, factories, offices, and other facilities locate in certain areas and how regions and cities grow. As a timely topic, a supplemental explanation of the impact on location of disasters, such as the Great East Japan Earthquake.

授業計画(Course Schedule)

1. 経済地理学の概要
2. 経済地理学における立地論
3. 農業立地論ーチューネン
4. 工業立地論ーヴェーバー
5. 中心地理論ークリスタラー
6. オフィス立地論ープレッド
7. 集積の理論
8. 空間経済学
9. 現代工業の立地調整
10. グローバリゼーションと多国籍企業の立地
11. 商業立地の変容と中心市街地衰退
12. 少子高齢化社会と福祉サービス立地
13. 東日本大震災と企業立地
14. 国土計画の変遷

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定されたテキストは、事前に講読しておくことが望ましい。普段から、自分が住んでいる地域に、どのような、工場・デパート・ショッピングセンター・オフィスが立地しているのか、なぜ、その地域なのかを、興味をもつことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/授業内テスト(20%)/最終レポート(Final Report)(30%)
出席も重視するので、出席をすること。

テキスト(Textbooks)

1. 松原宏編著、2015、『現代の立地論』、古今書院 (ISBN:4772231498)

参考文献(Readings)

授業でその都度、紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

事業所立地の具体的データは、以下の経済センサスを各自で調べるとよい。
http://www.stat.go.jp/data/e-census/index.htm

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX328／経済地理学2 (Economic Geography 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市システム論　中枢管理機能		
担当者名 (Instructor)	藤本　典嗣(FUJIMOTO NORITSUGU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済地理学では、都市の成長をどのように捉えているのか、また、都市の成長・衰退は、何によって起こるのかを理解でき、説明できる水準になること。

To be able to understand and explain how economic geography is used to view the growth of cities and what causes cities to grow and decline.

授業の内容(Course Contents)

経済地理学1において学んだ立地論をもとに、一定の「人口・産業が一定区域内に高密度で集在」し、「周辺地域から人・モノ・カネ・情報が向かって集まる中心性を持つ地点」として都市を捉えていきます。その上で、なぜ、特定地域に人口・産業が集まり、都市が形成されていくのか、そのメカニズムについて、経済地理学の分析手法、なかでも、都市システム論を用いながら明らかにしていきます。

Based on the location theory learned in Economic Geography 1, this course will look at cities as “a place where a set number of people and industries are densely concentrated within a set area” and as a “point with centralizing function that draws in people, goods, money, and information from surrounding areas.” Further, economic geography analysis techniques, in particular city system theory, will be used to examine why populations and industries gather in specific regions, how cities form, and their mechanisms.

授業計画(Course Schedule)

1. 経済地理学における都市研究
2. 都市化について
3. 都市研究のアプローチ
4. 構造分析からみる都市立地
5. 都市経済の特徴
6. 中枢管理機能の立地
7. 行政システムとオフィス立地1ー国土レベル
8. 行政システムとオフィス立地2ー地方ブロックレベル
9. 行政システムとオフィス立地3ー県土レベル
10. 素材型産業における工場・オフィスの立地
11. 建設業における工場・オフィスの立地
12. 交通と地域
13. 空間政策−国土計画・グランドデザイン
14. 地域政策・地域計画

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定されたテキストは、授業前に講読しておくことが望ましい。また、各章の章末に課題があるので、授業前に考えておくことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/授業内テスト(25%)/最終レポート(Final Report)(25%)
出席も重視するので、授業には出席すること。

テキスト(Textbooks)

1. 藤本典嗣、2017、『都市地理学』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-22741-7)

参考文献(Readings)

授業でその都度、紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX329／地方自治論 (Local Government)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	2 つの自律性のはざまで		
担当者名 (Instructor)	青木　栄一(AOKI EIICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

・地方自治論に関する基本的な事項を身につけることを目標とする。
・地方自治や地方分権に関する理論的な説明ができる。
・地方自治に関してどのような先行研究があり、実際の地方自治はどのようなものなのかがわかる。
・そのことを通じて社会人として求められる情報探索力などを身につけることも目標とする。

・To learn the fundamental matters relating to Local Autonomy.
・To be able to provide a theoretical explanation of local government and decentralization.
・To understand what prior research about local government exists and the actual nature of local government.
・To acquire through that process the ability to search for information which is required as a member of society.

授業の内容(Course Contents)

・政治学、ヒューマンサービス論の観点から地方自治論を講義する。
・地方自治に関する理論的研究や実際の機能を説明することで、日本の地方自治の特徴を明らかにすることを目的にしている。

・The lectures will discuss Local Autonomy from the perspectives of Political Science and human service theory.
・The purpose of the lectures is to clarify the characteristics of Japanese local government by explaining the theoretical research and actual functions of local governments.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(授業の進め方・注意事項、授業時間外の学習の仕方、地方自治論の射程)
2. 首長
3. 議会
4. 地方公務員
5. 住民による統制
6. 条例制定
7. 地方自治体の組織編成
8. 地方自治体の権能と大都市制度
9. 地方税財政と予算
10. 中央政府と地方政府
11. 学校教育
12. 子育て行政
13. 高齢者福祉
14. まとめ(地方自治論の学習から得られること、今後の展望)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・本授業を深く理解したい場合には、文部科学省令「大学設置基準」(第 21 条)の規定に基づいた授業時間外(予習・復習等)の学習を行うことを強く推奨する(1回あたり4時間程度)。
・そのための課題として、参考文献を読む、参考資料を入手する、指示されたアクティビティを行うといったことが求められる。
・具体的な指示は、Blackboard 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)
テキストに基づいて出題する。

テキスト(Textbooks)

1. 北村亘・青木栄一・平野淳一、2017、『地方自治論―2 つの自律性のはざまで』、有斐閣 (ISBN:4641150486)

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。
・授業の進度によっては、ゲストスピーカーをお招きすることがある。
・授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が求められる。
・資料の配布、課題（リアクションペーパー等）の提出などに Blackboard 等を使用する。
・アクティブラーニングを取り入れる予定である。
・＝学習環境の維持のため私語（含 SNS）等に対して注意喚起、警告、退出等の措置をとることがある＝

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX330／企画講座1 (Endowed Lecture 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	未来についてあらゆる面から考える		
担当者名 (Instructor)	大野　和基(OHNO KAZUMOTO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

人工知能を含むテクノロジー、資本主義、民主主義、国際情勢の変化について、学生が将来起こる可能性があることについてあらゆる面から深く批判的思考ができるようにする。

For students to be able to deeply and critically think about what might happen in the future regarding technology, including artificial intelligence, capitalism, democracy, and changes in international affairs.

授業の内容(Course Contents)

翌週のテーマに関する資料(拙著、論評、自分が書いた記事・インタビュー、新聞記事など)を渡し、1週間後に共通認識として事実確認、共有知識を確認をしてから、積極的な議論を行う。結論を出すのではなく、多角的な議論をする。

The materials for the next week's theme (books, articles, and interviews by the lecturer, and reviews and newspaper articles) will be handed out and then one week later a checking of the facts and common knowledge will be conducted to make sure all students have a common understanding and then the materials will be actively discussed. The objective is not to reach a conclusion, but rather to discuss the materials from a variety of angles.

授業計画(Course Schedule)

1. AI(人工知能)はいかに社会、仕事、将来、生き方を変えるか。AI が人類の存亡に与えるリスク
2. 資本主義は最善のシステムか
3. 労働に対する考え方、働き方
4. 世界的に広がる格差について。ベーシックインカムに対する見方
5. 世界の潮流になっているキャッシュレスのプラス面とマイナス面
6. SNS が社会、個人、人間関係に与えるマイナス面
7. 北朝鮮の完全非核化は可能か。金正恩とは何者か
8. 遺伝子編集、遺伝子改変で何が可能か。それが生命観に与える影響
9. 民主主義とは何か？　日本は民主主義国家ではない？
10. ドナルド・トランプは最悪の大統領か。それとも歴史の流れを変えている偉大な大統領か
11. 少子化の解決策はあるか。フランスの成功例を参考にする
12. 日々あふれるニュースに惑わされないためには。フェークニュースについて
13. 言論の自由について。世界における報道の自由度ランキング(2018 年度)で、日本は 67 位。ちなみにアメリカは 45 位。トップはノルウェー
14. 生殖補助医療で出現する新しい家族の形式(提供精子、提供卵子など)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

与えられた資料は必ず読みこむこと。英語の資料も含まれる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/7 コマ目が終わったときにレポート提出(40%)/授業中の発言の量(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 大野和基、2018、『未来を読む』、PHP (ISBN:978-4-569-84106-9)
私が取材したインタビュー記事、新聞記事など

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録・抽選登録／情報処理入門1 (An Introduction to Information Processing(1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済系のための情報活用 1		
担当者名 (Instructor)	経済学部教員が担当		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	1年次は自動登録(BX331～341) 2～4年次は抽選登録(BX353)		

授業の目標(Course Objectives)

授業の目標は，パソコンを利用した実習により，文書作成とデータ処理の方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn how to create documents and process data.

授業の内容(Course Contents)

テキストに沿いながら，実習を進めていく。多くの経済データに触れ，その有効活用を目指す。文書作成ソフト WORD を使った文書の作成，表計算ソフトを使ったデータ処理，グラフ作成，PowerPoint の操作について学ぶ。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and be able to use it effectively. Students will learn to use Word as the word processing software to create documents, spreadsheet software to process data and create graphs, and how to operate PowerPoint.

授業計画(Course Schedule)

1. Office の基礎と情報検索
2. Word の基本を学ぶ
3. Excel の基本を学ぶ
4. PowerPoint の基本を学ぶ
5. 図書館講習会
6. 企業の財務比率を比較する
7. 説明文書を作成するーWord の基本の応用と活用
8. 家計消費の統計分析(寄与度分解)
9. プレゼンテーションーPowerPoint の応用と活用
10. 国民所得の統計分析(度数分布とヒストグラム)
11. 賃金・貯蓄データの解析(平均と分散・標準偏差)
12. 金利シミュレーションの理解
13. 価格変動の測定
14. 春学期のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。授業開始後，Blackboard 上のセルフラーニングコンテンツ「Infoss 情報倫理」テストに合格することが必要となる。また単位取得には，授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/各回の課題(50%)
4 回以上の欠席は原則として不合格。

テキスト(Textbooks)

1. 菊地進・岩崎俊夫編著、2013、『経済系のための情報活用 1 Office2013 対応』、実教出版 (ISBN:978-4-407-33233-9)
2. 菊地進・岩崎俊夫編著、2015、『経済系のための情報活用 2 Office2013 対応』、実教出版 (ISBN:978-4-407-33628-3)

参考文献(Readings)

1. 『政府統計の総合窓口』、e-Stat

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録・抽選登録／情報処理入門2 (An Introduction to Information Processing(2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済系のための情報活用 2		
担当者名 (Instructor)	経済学部教員が担当		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1040	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	1年次は自動登録(BX342～352) 2～4年次は抽選登録(BX354)		

授業の目標(Course Objectives)

授業の目標は，パソコンを利用した実習により，経済・財務・会計データを分析する方法を学ぶことである。

The objective of the class is to practice using a personal computer to learn the methods for analyzing economic, financial, and accounting data.

授業の内容(Course Contents)

テキストに沿いながら，実習を進めていく。多くの経済データに触れ，その有効活用の方法を学ぶ。各分野で活用されている種々の分析方法を，原データを使って理解することを内容とする。この学習を通じて，統計的な数量分析の力を身に着ける。

The practice will proceed following the textbook. The aim is to experience a wide range of economic data and learn how to use it effectively. In this course students will use raw data to understand the various analytical methods used in various fields. Through this study students will acquire the ability to perform statistical quantitative analysis.

授業計画(Course Schedule)

1. 外国為替レート変化の分析
2. 地域の経済指標を比較する
3. 季節性のあるデータを扱う
4. 経済と環境指標の関係を測定する
5. 不平等度を測定する
6. 経済成長の要因を分解する
7. 消費の変動を要因分解する
8. 人口データを分析する
9. 企業動向調査の結果を分析する
10. 損益分岐点を算出する
11. 債券価値の変動を捉える
12. 財政・社会保障を体系的に学ぶ
13. 金融投資のリターンとリスク
14. 秋学期のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

情報処理入門 1 の内容を復習しておくことが大事である。テキストは事前に読んでくることを前提に授業を進める。単位取得には授業時に課されたレポート・課題の提出が必要となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/各回の課題(50%)
4 回以上の欠席は原則として不合格。

テキスト(Textbooks)

1. 菊地進・岩崎俊夫編著、2013、『経済系のための情報活用1　Office2013 対応』、実教出版 (ISBN:978-4-407-33233-9)
2. 菊地進・岩崎俊夫編著、2015、『経済系のための情報活用 2　Office2013 対応』、実教出版 (ISBN:978-4-407-33628-3)

参考文献(Readings)

1. 『政府統計の総合窓口』、e-Stat

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

2019 年度 1 年次入学者で，春学期科目の情報処理入門を履修した者は自動登録される。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済情報処理A (Data Processing for Economics A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済統計と情報処理の基礎		
担当者名 (Instructor)	蟹澤啓輔(KANISAWA KEISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECO2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX362		

授業の目標(Course Objectives)

経済統計の基礎知識の理解と基礎的な情報処理を伴う分析ができるようになること。

The objective of this course is to understand the basic knowledge of economic statistics and be able to conduct an analysis in accordance with fundamental data processing.

授業の内容(Course Contents)

基本的な経済統計について説明するとともに、エクセルや統計ソフトなどを用いて経済統計を使った情報処理に関する演習を行う。経済統計データの収集から、データの加工とエクセルや統計ソフトへのデータの取り込み及び分析、分析結果の評価する一連のプロセスについて演習を行う。

In this course basic economic statistics will be explained and Excel and statistical software will be used to learn how to conduct data processing using economic statistics. In this course students practice the process of gathering economic statistical data, processing the data, entering it into Excel and statistical software for analysis, and evaluating the analysis results.

授業計画(Course Schedule)

1. 日本の主な経済統計(基礎)
2. インターネットにおける情報収集
3. 分析ツール(エクセル)の基本的な操作演習
4. 図やグラフを用いた分析
5. 時系列データとクロスセクションデータ
6. パネルデータ
7. 統計分析の基礎的演習①(基本統計量)
8. 統計分析の基礎的演習②(仮説検定)
9. 計量分析の基礎①
10. 計量分析の基礎②
11. 分析ツール(アプリケーション)の基本的な操作演習
12. 回帰分析
13. 重回帰分析
14. 演習(レポート)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義で取り扱う予定の経済統計についてインターネットや参考分析を基に予習する。
復習:講義で取り扱った経済統計に関連するニュースをインターネットで閲覧する。また、講義で取り扱ったデータを用いて講義とは別の分析を行ってみる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/演習課題(40%)

テキスト(Textbooks)

なし(レジュメを配布する)

参考文献(Readings)

1. 長島直樹・石田実・李振、2017、『R で統計を学ぼう！文系のためのデータ分析入門』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-24411-7)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

レジュメは大学の WEB サイトを通じて配布する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済情報処理A (Data Processing for Economics A)		
担当者名 (Instructor)	藤野　裕(FUJINO YUTAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECO2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX363		

授業の目標(Course Objectives)

経済社会の実態を正確に捉えるためには統計の利用が欠かせない。公的統計の利用を通して、基本的な統計データ分析を理解し、現実の経済社会を統計的に捉える方法を身につける。

Using statistics is indispensable for correctly viewing the state of economic society. The objective of this course is to understand basic statistical data analysis by using public statistics and to be able to use methods for statistically viewing the real economic society.

授業の内容(Course Contents)

公的統計に関する基礎知識を解説する。それを理解したうえで、EXCEL を利用した演習を行う。
データを加工・整理する基本的な方法からはじめ、実際の統計を利用して、分析の方法、その結果の見方について学ぶ。

In this course the fundamental knowledge regarding public statistics will be explained. Based on this understanding the students will practice using Excel.
In this class students begin with learning the basic methods for data processing and organization and then will use actual statistics to learn the analysis methods and how to view the results.

授業計画(Course Schedule)

1. 基本的な EXCEL 操作の確認
2. データの加工と整理
3. ピボットテーブルの利用
4. 統計の利用と入手方法
5. さまざまな指標の利用
6. 所得分布の分析
7. 企業の経済活動に関する統計分析
8. 金融統計に関する分析
9. 景気に関する統計分析
10. 将来人口推計～推計方法
11. 将来人口推計～自治体の将来
12. 貿易統計に関する分析
13. 国際機関の統計利用
14. 実践演習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

EXCEL の基本的操作を確認する。授業で取り扱う公的統計にアクセスしてみる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題提出(30%)

テキスト(Textbooks)

レジュメを配布する。

参考文献(Readings)

適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済情報処理B (Data Processing for Economics B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済統計と情報処理の応用		
担当者名 (Instructor)	蟹澤啓輔(KANISAWA KEISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECO2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX365		

授業の目標(Course Objectives)

経済統計の基礎知識の理解と応用的な情報処理を伴う分析ができるようになること。

The objective of this course is to understand the basic knowledge of economic statistics and be able to conduct an analysis in accordance with applied data processing.

授業の内容(Course Contents)

政府が公表している基本的な経済統計について説明するとともに、エクセルや統計ソフトなどを用いて経済統計を使った分析演習を行う。政府の HP からデータのダウンロードすることから、データの加工とエクセルや統計ソフトへのデータの取り込み及び分析、分析結果の評価する一連のプロセスについて演習を行う。

In this course the basics of economic statistics published by the government will be explained and Excel and statistical software will be used to practice analysis using economic statistics. In this course students will practice the process of downloading data from government websites, processing the data, entering it into Excel and statistical software for analysis, and evaluating the analysis results.

授業計画(Course Schedule)

1. 日本の主な経済統計(応用)
2. 国民経済計算(GDP)統計について
3. 財政統計①(歳出)について
4. 財政統計②(歳入)について
5. 金融統計について
6. 所得統計について
7. 消費統計について
8. 企業統計について
9. 貿易統計について
10. 物価や為替統計について
11. 労働統計について
12. 人口統計について
13. 教育統計について
14. 演習(レポート)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義で取り扱う予定の経済統計についてインターネットや参考分析を基に予習する。
復習:講義で取り扱った経済統計に関連するニュースをインターネットで閲覧する。また、講義で取り扱ったデータを用いて講義とは別の分析を行ってみる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/演習課題(40%)

テキスト(Textbooks)

なし(レジュメを配布する)

参考文献(Readings)

1. 長島直樹・石田実・李振、2017、『R で統計を学ぼう！文系のためのデータ分析入門』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-24411-7)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

レジュメは大学の WEB サイトを通じて配布する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済情報処理B (Data Processing for Economics B)		
担当者名 (Instructor)	田浦　元(TAURA GEN) 2019 年 6 月 15 日変更(変更理由:担当者変更のため) 【変更前の記載内容】藤野裕		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECO2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX366		

授業の目標(Course Objectives)

情報処理、統計分析は経済を理解するために必要不可欠である。さまざまな統計の利用を通して、経済理論の実践的な統計分析を理解し、経済社会に対する確かな洞察力を身につける。

Data processing and statistical analysis are indispensable for understanding the economy. This objective of this course is for students to understand practical statistical analysis of economy theory by using various statistics and for them to acquire accurate insight regarding economic society.

授業の内容(Course Contents)

EXCEL を利用して、統計の基本的分析を理解し、経済波及効果分析や経済モデルのシミュレーションのような応用的な分析方法を学ぶ。分析を行う上で必要となるデータを総務省統計局などの公官庁のホームページから入手する際に必要となるデータを探す手法を身につけることから講義を行う。さらに、入手したデータを利用した分析方法を実践することで分析手法を身につけるだけではなく、分析結果の社会的・経済学的意義の考察を行う。また、分析結果をレポート、論文もしくはプレゼンテーションなどで利用できる表やグラフを作成するスキルを身につける。
履修者においては、授業開始前にパソコンへログインし、ブラックボード上で配布をしている講義毎のレジュメおよびエクセルの資料をダウンロードすること。また、配布資料および講義を踏まえて講義毎の課題の提出を行う。

Students will use Excel to understand statistical basic analysis and will learn applied analytical methods, such as economic ripple effect analysis and economic model simulation. During this lecture students will learn how to search for and obtain the data required for analysis from government websites, such as that of the Statistics Bureau of the Ministry of Internal Affairs and Communications. Further, not only will students learn analytical methods by applying them to the data they have obtained, but also consider the social and economic significance of the analysis results. Students will also learn the skills for creating tables and graphs that can be used in reports, papers, and presentations of analysis results.
Before starting class, students will log in to a personal computer and download the assignment and Excel materials for that class as written on the Blackboard. In addition, exercises will be submitted for each class based on the distributed materials and the lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計の基本知識
2. データの整理
3. データベースの利用
4. 回帰分析
5. 統計的推測
6. 公的統計の利用～GDP 統計
7. 計量経済分析
8. 産業連関分析
9. 経済波及効果分析
10. ミクロ経済分析
11. マクロ経済分析
12. シミュレーションとは
13. シミュレーションの応用
14. 実践演習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

EXCEL の基本的操作を確認する。必要に応じて授業内で指示した分析方法を調べ分析結果の考察を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題提出(30%)

テキスト（Textbooks）

レジュメを配布する。

参考文献（Readings）

適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／政策情報処理A (Data Processing for Policy A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	人口・世帯に関する公的統計データや空間データを GIS で活用する技能の習得。		
担当者名 (Instructor)	小西　純(KONISHI JUN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EPS2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX371		

授業の目標(Course Objectives)

政策の妥当性を客観的・科学的に評価するための基礎技能として GIS を使用した情報処理技術を習得します。
統計データ，空間データを使用した客観的な状況把握，分析結果の解釈，結果発信手法について，一連のプロセスを繰り返し経験することにより学習します。

To learn data processing techniques using GIS as a fundamental skill for objectively and scientifically evaluating the adequacy of government policy.
Students will learn by repeatedly experiencing the process of objectively assessing the situation using statistical data and spatial data, interpreting the analysis results, and using various methods to present the results.

授業の内容(Course Contents)

データを使用して客観的な状況把握，分析結果の解釈，結果発信手法の基礎知識・技能を習得することが本授業の目的です。
1．GIS 技能の習得
経済・政策課題の多くは，「空間」に関連しています。例えば，医療，環境，交通，福祉，防災などの政策課題は，都市・地域の空間構造と関わるものも多く，GIS と経済あるいは政策にかかわる文献数は増加傾向にあります。本授業では経済・政策分野でよく使われる機能，知識について学習します。
2．オープンデータの活用
公的統計データ，空間データがオープンデータとして利用できます。これらのデータの入手・活用方法ついて学びます。
3．統計データ活用場面における行動プロセス
統計データを主体的に活用できるようになるためには，統計データ活用の中で統計データの探索，分析，評価，発信に至る一連の行動プロセスを経験することが重要です。この行動プロセスを示した基準を示し，授業においてデータ活用を行いながら活用場面におけるメタ認知能力の向上を図ります。

The objective of this class is to acquire the basic knowledge and skills for objectively assessing the situation using data, interpreting the analysis results, and methods for presenting the results.
1. Acquire GIS skills
Many economic and policy issues are related to “space.” For example, such policy issues as medical treatment, the environment, traffic, welfare, and disaster response are often related to the spatial structure of cities and regions, and the number of papers addressing the relationship of GIS to economics and policy is on an increasing trend. In this class students will learn the functions and knowledge often used in the fields of economics and government policy.
2. Utilization of open data
Students will be able to use public statistical data and spatial data as open data. They will also learn how to obtain and utilize this data.
3. Behavioral process in statistical data utilization situations
Experiencing the behavioral process of statistical data utilization from searching for, analyzing, evaluating, and presenting statistical data is important for being able to proactively utilize statistical data. In this class the standard for this behavioral process is presented and students increase their metacognition ability in utilization situations while utilizing data.

授業計画(Course Schedule)

1. GIS①GIS と経済・政策分析、人口データ利用①人口総数の動向と地域別分布傾向
   行動プロセス①課題を認識する(基礎)
2. GIS②空間データの選択・入手方法、人口データ利用②年齢別人口の構造と動向
   行動プロセス②情報探索を計画する(基礎)
3. GIS③ArcGIS の基礎、人口データ利用③配偶関係別人口の構造と動向
   行動プロセス③情報を入手する(基礎)
4. GIS④空間参照と座標系、人口データ利用④外国人人口の構造と動向
   行動プロセス④情報を分析・評価し、整理・管理する(基礎)
5. GIS⑤空間データの選択・検索、人口データ利用⑤一般世帯数の動向と地域別分布傾向
   行動プロセス⑤情報を批判的に検討し知識を再構造化する(基礎)

6. GIS⑥空間データの加工、人口データ利用⑥世帯人員別世帯数の構造と動向
   行動プロセス⑥情報を活用・発信し、プロセスを省察する（基礎）
7. 小テスト、1～6 回授業のフィードバック
8. GIS⑦テーブルデータの操作・演算・結合、人口データ利用⑦人口総数の統計地図
   行動プロセス①課題を認識する（実践）
9. GIS⑧空間データの活用：国土数値情報、人口データ利用⑧年齢別人口の統計地図
   行動プロセス②情報探索を計画する（実践）
10. GIS⑨空間データの活用：e-Stat 国勢調査、人口データ利用⑨配偶関係別人口の統計地図
    行動プロセス③情報を入手する（実践）
11. GIS⑩空間データの活用：e-Stat 経済センサス、人口データ利用⑩外国人人口の統計地図
    行動プロセス④情報を分析・評価し、整理・管理する（実践）
12. GIS⑪ジオコーディング、人口データ利用⑪世帯数の統計地図
    行動プロセス⑤情報を批判的に検討し知識を再構造化する（実践）
13. GIS⑫レイアウトと地図の作成、人口データ利用⑫世帯人員別世帯数の統計地図
    行動プロセス⑥情報を活用・発信し、プロセスを省察する（実践）
14. 小テスト、8～13 回授業のフィードバック

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行います。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(15%)/授業内に指示した提出物(15%)
4 回以上の欠席は原則として不合格とする。

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 川端瑞貴、2018、『経済・政策分析のための GIS 入門①基礎』、古今書院 (ISBN:9784772231886)
2. 浅見泰司,矢野桂司,貞広幸雄,湯田ミノリ編、2015、『地理情報科学』、古今書院 (ISBN:9784772252867)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

PC を使用した実習を主に行います。
資料の配布、課題の提出などに Blackboard を使用します。
Blackboard を通じて、課題に対する講評を行います。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／政策情報処理B (Data Processing for Policy B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	事業所に関する公的統計データや空間データを GIS, EXCEL で活用する技能の習得。		
担当者名 (Instructor)	小西　純(KONISHI JUN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EPS2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX372		

授業の目標(Course Objectives)

政策の妥当性を客観的・科学的に評価するための基礎技能として GIS, EXCEL を使用した情報処理技術を習得します。
統計データ, 空間データを使用した客観的な状況把握, 分析結果の解釈, 結果発信手法について, 一連のプロセスを繰り返し経験することにより学習します。

To learn data processing techniques using GIS and Excel as a fundamental skill for objectively and scientifically evaluating the adequacy of government policy.
Students will learn by repeatedly experiencing the process of objectively assessing the situation using statistical data and spatial data, interpreting the analysis results, and using various methods to present the results.

授業の内容(Course Contents)

データを使用して客観的な状況把握, 分析結果の解釈, 結果発信手法の基礎知識・技能を習得することが本授業の目的です。
1. GIS 技能の習得
経済・政策課題の多くは,「空間」に関連しています。事業所データを地図化することで, 産業集積の状況を把握することができます。GIS と経済あるいは政策にかかわる文献数は増加傾向にあります。本授業では経済・政策分野でよく使われる機能, 知識について学習します。
2. オープンデータの活用
公的統計データ, 空間データがオープンデータとして利用できます。これらのデータの入手・活用方法ついて学びます。
3. 統計データ活用場面における行動プロセス
統計データを主体的に活用できるようになるためには, 統計データ活用の中で統計データの探索, 分析, 評価, 発信に至る一連の行動プロセスを経験することが重要です。この行動プロセスを示した基準を示し, 授業においてデータ活用を行いながら活用場面におけるメタ認知能力の向上を図ります。

The objective of this class is to acquire the basic knowledge and skills for objectively assessing the situation using data, interpreting the analysis results, and methods for presenting the results.
1. Acquire GIS skills
Many economic and policy issues are related to “space.” Mapping business facility data makes it possible to assess the state of industrial agglomeration. The quantity of literature addressing GIS and the economy or government policy is on an increasing trend. In this class students will learn the functions and knowledge often used in the fields of economics and government policy.
2. Utilization of open data
Students will be able to use public statistical data and spatial data as open data. They will also learn how to obtain and utilize this data.
3. Behavioral process in statistical data utilization situations
Experiencing the behavioral process of statistical data utilization from searching for, analyzing, evaluating, and presenting statistical data is important for being able to proactively utilize statistical data. In this class the standard for this behavioral process is presented and students increase their metacognition ability in utilization situations while utilizing data.

授業計画(Course Schedule)

1. GIS①GIS と経済・政策分析、事業所データ利用①事業所数の動向と地域別分布傾向
   行動プロセス①課題を認識する(基礎)
2. GIS②空間データの選択・入手方法、事業所データ利用②産業分類別事業所数の構造と動向
   行動プロセス②情報探索を計画する(基礎)
3. GIS③ArcGIS の基礎、事業所データ利用③産業分類別従業者数の構造と動向
   行動プロセス③情報を入手する(基礎)
4. GIS④空間参照と座標系、事業所データ利用④従業上の地位別従業者数の構造と動向
   行動プロセス④情報を分析・評価し、整理・管理する(基礎)
5. GIS⑤空間データの選択・検索、事業所データ利用⑤従業者規模別の構造と動向
   行動プロセス⑤情報を批判的に検討し知識を再構造化する(基礎)
6. GIS⑥空間データの加工、事業所データ利用⑥異動状況の構造と動向

行動プロセス⑥情報を活用・発信し、プロセスを省察する（基礎）
7. 小テスト、1～6 回授業のフィードバック
8. GIS⑦テーブルデータの操作・演算・結合、事業所データ利用⑦事業所数の統計地図
行動プロセス①課題を認識する（実践）
9. GIS⑧空間データの活用：国土数値情報、事業所データ利用⑧産業分類別事業所数の統計地図
行動プロセス②情報探索を計画する（実践）
10. GIS⑨空間データの活用：e-Stat 国勢調査、事業所データ利用⑨産業分類別従業者数の統計地図、行動プロセス③情報を入手する（実践）
11. GIS⑩空間データの活用：e-Stat 経済センサス、事業所データ利用⑩従業上の地位別従業者数の統計地図
行動プロセス④情報を分析・評価し、整理・管理する（実践）
12. GIS⑪ジオコーディング、事業所データ利用⑪従業者規模別の統計地図
行動プロセス⑤情報を批判的に検討し知識を再構造化する（実践）
13. GIS⑫レイアウトと地図の作成、事業所データ利用⑫異動状況の統計地図
行動プロセス⑥情報を活用・発信し、プロセスを省察する（実践）
14. 小テスト、8～13 回授業のフィードバック

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に Blackboard 上で履修者に対して行います。

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(15%)/授業内に指示した提出物(15%)
4 回以上の欠席は原則として不合格とする。

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 川端瑞貴、2018、『経済・政策分析のための GIS 入門①基礎』、古今書院 (ISBN:9784772231886)
2. 浅見泰司,矢野桂司,貞広幸雄,湯田ミノリ編、2015、『地理情報科学』、古今書院 (ISBN:9784772252867)
3. 松原宏、2018、『産業集積地域の構造変化と立地政策』、東京大学出版会 (ISBN:9784130461221)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

PC を使用した実習を主に行います。
資料の配布、課題の提出などに Blackboard を使用します。
Blackboard を通じて、課題に対する講評を行います。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／財務情報処理A (Data Processing for Business Administration A)		
担当者名 (Instructor)	藤野　裕(FUJINO YUTAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EAF2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX391		

授業の目標(Course Objectives)

基本的な統計分析や公的統計の利用を通して、企業活動に伴う統計の見方を理解し、統計データの整理・基本的な分析ができるようになる。

For students to be able to understand how to view statistics about business activity, to organize statistical data, and conduct basic analyses through the use of basic statistical analysis and public statistics.

授業の内容(Course Contents)

演習を通して、EXCEL の基本的な操作を確認し、企業活動に関する統計の見方を解説してその分析方法を学ぶ。
販売に関する分析を事例に基本的なデータ処理を学習する。そして、企業を取り巻く環境を理解するために公的統計を利用しながら統計分析方法をについて学ぶ。

Through practice the students' basic operation of Excel will be checked, how to view statistics regarding business activity explained, and analytical methods learned.
Students will learn basic data process using case studies of analysis regarding sales. Students will also learn statistical analysis methods utilizing public statistics to understand the environment surrounding businesses.

授業計画(Course Schedule)

1. 基本的知識の確認
2. データの整理
3. 売上動向の分析
4. 商品管理に関する分析
5. 販売効率の分析
6. 商品需要の分析
7. 相関と回帰分析
8. 統計的推測
9. 資産価格変動の分析
10. 家計支出と企業の投資活動
11. 就業構造と賃金
12. 景気に関する統計
13. 貿易に関する統計
14. 実践演習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

EXCEL の基本的操作を確認する。授業で取り扱う公的統計にアクセスしてみる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題提出(30%)

テキスト(Textbooks)

レジュメを配布する。

参考文献(Readings)

適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／財務情報処理B (Data Processing for Business Administration B)		
担当者名 (Instructor)	田浦　元(TAURA GEN) 2019 年 6 月 15 日変更(変更理由:担当者変更のため) 【変更前の記載内容】藤野裕		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EAF2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX392		

授業の目標(Course Objectives)

企業の財務情報に関するデータ分析を理解し、ビジネスに役立つ実践的な統計分析ができるようになる。

To understand data analysis related to company financial information and be able to conduct practical statistical analysis that is useful for business.

授業の内容(Course Contents)

EXCEL を利用して、データの整理・加工の仕方を理解し、ビジネスに関する統計分析の方法を学ぶ。基本的なデータ処理、分析方法を確認し、企画、財務に関する分析について学習する。分析を行う上で必要となる会計データは EDINET などから財務諸表を入手し加工を行う。その際に必要となる手法を身につけることから講義を行う。さらに、入手したデータを利用した分析方法を実践することで分析手法を身につけるだけではなく、分析結果の社会的・経済学的意義の考察を行う。また、分析結果をレポート、論文もしくはプレゼンテーションなどで利用できる表やグラフを作成するスキルを身につける。
履修者においては、授業開始前にパソコンへログインし、ブラックボード上で配布をしている講義毎のレジュメおよびエクセルの資料をダウンロードすること。また、配布資料および講義を踏まえて講義毎の課題の提出を行う。

Students will understand how to organize and process data using Excel and business related statistical analysis methods. They will also check the basic data processing and analysis methods and learn analysis for planning and finance. The accounting data required for conducting the analysis will be obtained from financial statements from EDINET and other sources and then processed. The lecture will proceed after students learn the techniques for doing this. Further, not only will students learn analytical methods by applying them to the data they have obtained, but also consider the social and economic significance of the analysis results. Students will also learn the skills for creating tables and graphs that can be used in reports, papers, and presentations of analysis results.
Before starting class, students will log in to a personal computer and download the assignment and Excel materials for that class as written on the Blackboard. In addition, exercises will be submitted for each class based on the distributed materials and the lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. 統計分析の基礎知識
2. データの加工と整理
3. 目標値の探索
4. 販売計画を考える
5. 回帰分析
6. 売上予測
7. 資源配分の検討
8. 製品の差別化
9. 在庫の管理
10. 損益分岐点分析
11. 費用分析
12. 貸借対照表分析
13. 投資判断
14. 実践演習

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

EXCEL の基本的操作を確認する。必要に応じて授業内で指示した分析方法を調べたり、分析結果の考察を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/課題提出(30%)

テキスト（Textbooks）

レジュメを配布する。

参考文献（Readings）

適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX393／企画講座2 (Endowed Lecture 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	税金の無駄遣いをチェックする会計検査院の仕組みと動向／会計検査院の検査結果から見る平成の31年間の行財政の変化		
担当者名 (Instructor)	佐々木　規人(SASAKI NORIHITO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本国憲法第90条の規定に基づき国の財政監督機関として設置されている会計検査院については、学校法人森友学園に関する検査結果の報告等で、その名前を知ったという方もいるかもしれませんが、学生の皆さんは、国の省庁などを検査する機関であることや、年に1度、国会に検査の結果を報告することを知らない方も多いと思います。平成の時代の行財政の様々な分野に関する会計検査院の会計検査の結果等を紹介するなどして、会計検査院が国の決算を検査するという制度を理解してもらい、税金の使い途をチェックすることの重要性について認識してもらうのと共に、検査の対象となった行財政の変化についても、その概要を把握してもらうことを本講義の目的としたいと考えています。

The Board of Audit of Japan was established as a fiscal supervisory authority based on the provisions of Article 90 of the Constitution of Japan, and some people may know of it from the report of the audit results for Morimoto Gakuen, but there are many students who do not know it is an institution that audits government agencies and reports the audit results to the Diet once a year. The objective of this lecture is for students to understand the system under which the Board of Audit of Japan audits the country's finances by introducing the results of accounting audits by the board for public finance in a variety of fields during the Heisei Era, to recognize the importance of checking how tax funds are used, and to get an overview of changes to public finance, which is the subject of the audits.

授業の内容(Course Contents)

会計検査院が国の決算の検査を行うという日本の制度について、理解してもらうために、会計検査の目的、観点・方法、特徴等について、テキストに沿って説明するのに加えて、具体的な検査の内容について、理解してもらうために、その検査の前提となった国の行財政の制度の概要について、説明した上で、具体的な検査結果の報告事例を取り上げて、国の行財政の変化等についても解説したいと考えています。

To have students understand Japan's system under which the country's finances are audited by the Board of Audit of Japan, an explanation of the purpose, perspective, methods, and characteristics of the board is given following the textbook and, further, to have them understand the contents of specific audits an overview of the country's public finance and the premise they will be audited is explained before example reports of specific audit results are looked at and the changes to the country's public finance explained.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション、会計検査の概要1：講義の進め方や授業計画などの本講義の概要等の紹介、会計検査はどのような観点から行われて、どのような成果を上げてきたのか（会計検査の観点）、実際の検査結果の報告事例の概要の紹介。
2. 会計検査の概要2：なぜ多角的な観点から会計検査を行う必要があるのか（会計検査の目的）。民間企業で行われる会計監査等とはどのように異なるのか（会計検査の特徴）。
3. 会計検査の概要3：会計検査院とは、どのような官庁なのか（会計検査の主体）。国の行政機関等の中でどのように位置づけられているのか。会計検査を行う範囲はどこまでなのか（会計検査の客体）。
4. 会計検査のサイクル1：会計検査はどのような手順・方法によりいつどこで実施されるのか（会計検査の計画、実施）。
5. 会計検査のサイクル2：会計検査の結果はどのような手順により取りまとめられて、いつ、誰に報告されるのか（会計検査の結果の報告）。
6. 会計検査のサイクル3、中間テスト：検査結果に基づく指摘に対する改善の実効性はどのような方法により確保されるのか（会計検査の検査結果のフォローアップ）。中間テストを実施。
7. 行政分野別の検査結果の事例解説1：公共調達の計画、設計、積算、入札・契約、監督・検査、支払の段階での会計検査の動向は、どのような状況か。
8. 行政分野別の検査結果の事例解説2：社会保障、公共事業の分野での会計検査の動向は、どのような状況か。
9. 行政分野別の検査結果の事例解説3：社会保障、国の財政状況の分野での会計検査の動向は、どのような状況か。
10. 行政分野別の検査結果の事例解説4：教育及び科学技術、防衛の分野での会計検査の動向は、どのような状況か。
11. 行政分野別の検査結果の事例解説5：農林水産、経済協力（ODA）の分野での会計検査の動向は、どのような状況か。
12. 12　行政分野別の検査結果の事例解説6：環境及びエネルギー、中小企業の分野での会計検査の動向は、どのような状況か。
13. 行政分野別の検査結果の事例解説7：情報通信（IT）、租税、震災復興等の分野での会計検査の動向は、どのような状況

か。
14. まとめ、最終テスト：会計検査によりどのような効果が生じるのか（会計検査の効果）。最終テストを実施。

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回事前に指定するテキストの章や事前に Blackboard に掲載する資料（授業当日に紙でも配付します。）等を適宜参照し、概要を把握しておくこと（各授業共通）

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)／最終レポート(Final Report)(40%)／中間テスト(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 会計検査制度研究会、42064、『会計検査制度ー会計検査院の役割と仕組み』、（株）中央経済社 (ISBN:978-4-502-12701-4)
テキスト以外に、毎回必要に応じて資料を配布します。

参考文献（Readings）

1. 会計検査院事務総長官房総務課渉外広報室、２０１９年３月（予定）、『会計検査のあらまし（平成30年会計検査院年報）』
2. 会計検査院事務総長官房総務課渉外広報室、２０１９年１月（予定）、『パンフレット会計検査院（平成３１年版）』
3. 平野善昭、42795、『会計検査からみた行政の課題ー会計検査のしくみと各行政分野に対する会計検査の動向』、全国会計職員協会 (ISBN:978-4-915391-58-3)
4. 芳賀昭彦、42614、『公共調達と会計検査』、経済調査会 (ISBN:978-4-86374-203-1)
参考文献No１、No2は、最新版を会計検査院ホームページ
（http//www.jbaudit.go.jp/pr/print/index.html）からダウンロードすることができます。
参考文献No３、No４は、大学の図書館に所蔵されています。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業は講義形式とし、資料の配付、最終リポートの提出等に Blackboard を使用します。
授業での検査結果の報告事例の解説に当たっては、「会計検査のあらまし」に掲載されている要約文を資料として配付しますが、検査報告に掲記されている詳細な全文を読んでみたいと思った場合は「会計検査院ホームページ（http//report.jbaudit.go.jp/）」を参照してください。
最終リポートについては、中間テストを実施した後に課題を Blackboard に掲載します。第７回以降の授業の内容を参考に作成し、最終テストを実施した後の指定期日までに提出してください。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／課題解決演習A (Seminar on Task Solutions A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	産業の多様性や関係性を理解する産学連携型 Project-Based Learning(初級編:1～3学年を主対象とする)。		
担当者名 (Instructor)	厳　成男(YAN CHENGNAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX394		

授業の目標(Course Objectives)

協力企業による講義やグループディスカッションを通じて、産業の多様性や関係性について学び、社会・経済の全体構造について理解を深めることを目的とする。問題の背景を踏まえて自分の意見を述べるなど、論理的に物事を考え、発言する力を高めること、さらに議論を円滑に進めるスキル(ファシリテーション)も修得する。

The objective of this course is to use lectures by people from cooperating companies and discussions for students to learn about the diversity and relationships of industries understand the overall structure of society and the economy. Students will improve their ability to think about things logically and speak up, including giving their own opinions based on the background of the problem and also acquire the skill (facilitation) for holding smooth discussions.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、キャリア教育科目の基礎編(主に 1・2 年生を想定)に該当し、原則として業界ごとに各 3 回の授業で構成される。対象業界としては、保険・メーカー・流通・サービス業および行政機関を予定している。本科目は講義に加えて、グループワーク・ディスカッションなどを通じて提示された課題に対し具体的に解決策を考察する、産学連携型 Project-Based Learning である。提示された課題に関し、自ら考え、議論し、チームとして成果を上げることが重要であり、主体的かつ積極的な参加・貢献が求められる。

This subject is the foundation for the career education subject (mainly for first and second year students) and in principle the class will be held 3 time for each industry. The subject industries are planned to be insurance, manufacturing, distribution, service, and administrative organizations. For this subject, in addition to the lecture, project-based learning through industrial and academic cooperation will be used so that students can consider specific solutions for problems presented through group work and discussion. It is important for students to think on their own about, discuss, and produce team results regarding the presented issues and proactive and engaged participation and contribution are required of all students.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス・チームビルディング
2. 【協力企業 A】による講義および課題提示
3. グループワーク
4. 【協力企業 A】の課題に関する成果発表・総括
5. 【協力企業 B】による講義および課題提示
6. グループワーク
7. 【協力企業 B】の課題に関する成果発表・総括
8. 【協力企業 C】による講義および課題提示
9. グループワーク
10. 【協力企業 C】の課題に関する成果発表・総括
11. 【協力企業 D】による講義および課題提示
12. グループワーク
13. 【協力企業 D】の課題に関する成果発表・総括
14. 全体的な総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

協力企業の提示課題に関し、個人・チームとして事前準備(情報収集・整理)が必須となる。授業時間外での主体的・積極的な学習・作業は不可欠である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加・貢献度(70%)/学習の振り返りシート(30%)
原則として全回出席すること。出席率が 80%未満の者は D 評価とする。なお、遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なすので注意すること。

テキスト（Textbooks）

授業の中で必要に応じて指示する。

参考文献（Readings）

その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

●協力企業(予定)：三井住友海上火災保険、日立製作所、エー・ピーカンパニー、IDOM 等。なお、協力企業の都合により、会社変更や順番・構成の変更があり得る。
●下記、経済学部キャリア教育サイト「STORY」（ http://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/）の情報発信に目を配ること。
●本科目は、2015 年度までの「企画講座 G」に該当する。すでに同科目を履修済みのものは履修できないので注意すること。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX396／中級簿記1 (Intermediate Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	小野　正芳(ONO MASAYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。
目安として簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.
That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

授業の内容(Course Contents)

中級簿記1では、株式会社が行う取引の中でも、商品売買、代金決済、固定資産、引当金の計上、有価証券の処理といった一般的な取引について学習し、それらの取引を題材に利益計算・財産計算を行います。

In Intermediate Bookkeeping 1, of the transactions performed by a corporation, students will learn how to record such general transactions as product sales, payment settlement, fixed assets, recording allowances, and how to treat marketable securities as well as profit and property calculations using these transactions as the subject matter.

授業計画(Course Schedule)

1. 会計の目的と簿記:財務諸表の作成と簿記の要素
2. 商品売買の処理(1) 売上原価と売上総利益の計算
3. 商品売買の処理(2) 在庫管理
4. 商品売買と金銭債権・債務(1) 手形の裏書・割引・不渡り
5. 商品売買と金銭債権・債務(2) 電子的記録
6. 有価証券の処理(1) 売買目的有価証券
7. 有価証券の処理(2) 満期保有目的債券
8. 有価証券の処理(3) その他の有価証券
9. 引当金(1) 引当金の仕組み
10. 引当金(2) 各種引当金の処理
11. 有形固定資産の処理(1) 減価償却
12. 有形固定資産の処理(2) 売却・除却・廃棄
13. 無形固定資産の処理
14. 圧縮記帳

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までに学習した処理を確実に行えるよう、かつその処理がなされる理由も説明できるように復習して下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/中間テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記教本』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34450-9)
2. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記問題演習』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34451-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX397／中級簿記2 (Intermediate Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	小野　正芳(ONO MASAYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。
目安として簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.
That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

授業の内容(Course Contents)

中級簿記2では、中級簿記1の内容を前提として、株式会社が行う処理の中でも、資金調達に関する処理、純資産に関する処理といった少し高度な取引について学習し、それらの処理を題材に利益計算・財産計算を行うとともに、本支店会計や簡単な連結会計といった応用的な内容を扱います。

In Intermediate Bookkeeping 2, building on what was learned in Intermediate Bookkeeping 1, of the processing performed by corporations, students will learn more advanced transactions, such as how to treat funding and net assets, as well as profit and property calculations this processing as the subject matter in addition to how to handle such applications as branch accounting and simple consolidated accounting.

授業計画(Course Schedule)

1. 純資産の処理(1) 純資産の項目と株式の発行による資金調達
2. 純資産の処理(2) 利益計上と剰余金の配当
3. 純資産の処理(3) 会社の合併
4. リース会計(1) リースの開始
5. リース会計(2) リース料の支払い
6. 外貨換算会計
7. 収益と費用の計上
8. 税効果会計
9. 決算と財務諸表
10. 本支店会計(1) 本支店間の取引
11. 本支店会計(2) 本支店合併財務諸表の作成
12. 連結会計(1) 連結の意義と基本的な考え方
13. 連結会計(2) 支配獲得時の資本連結
14. 連結会計(3) 連結 1 年目の処理

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までに学習した処理を確実に行えるよう、かつその処理がなされる理由も説明できるように復習して下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/小テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記教本』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34450-9)
2. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記問題演習』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34451-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX398／中級簿記1 (Intermediate Bookkeeping 1)		
担当者名 (Instructor)	小野　正芳(ONO MASAYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。
目安として簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.
That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

授業の内容(Course Contents)

中級簿記1では、株式会社が行う取引の中でも、商品売買、代金決済、固定資産、引当金の計上、有価証券の処理といった一般的な取引について学習し、それらの取引を題材に利益計算・財産計算を行います。

In Intermediate Bookkeeping 1, of the transactions performed by a corporation, students will learn how to record such general transactions as product sales, payment settlement, fixed assets, recording allowances, and how to treat marketable securities as well as profit and property calculations using these transactions as the subject matter.

授業計画(Course Schedule)

1. 会計の目的と簿記:財務諸表の作成と簿記の要素
2. 商品売買の処理(1) 売上原価と売上総利益の計算
3. 商品売買の処理(2) 在庫管理
4. 商品売買と金銭債権・債務(1) 手形の裏書・割引・不渡り
5. 商品売買と金銭債権・債務(2) 電子的記録
6. 有価証券の処理(1) 売買目的有価証券
7. 有価証券の処理(2) 満期保有目的債券
8. 有価証券の処理(3) その他の有価証券
9. 引当金(1) 引当金の仕組み
10. 引当金(2) 各種引当金の処理
11. 有形固定資産の処理(1) 減価償却
12. 有形固定資産の処理(2) 売却・除却・廃棄
13. 無形固定資産の処理
14. 圧縮記帳

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までに学習した処理を確実に行えるよう、かつその処理がなされる理由も説明できるように復習して下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/中間テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記教本』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34450-9)
2. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記問題演習』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34451-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX399／中級簿記2 (Intermediate Bookkeeping 2)		
担当者名 (Instructor)	小野　正芳(ONO MASAYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

株式会社が行うべき一連の基本的会計処理をできるようになることを目標とします。
目安として簿記 2 級以上の知識を使いこなせるようになることを目標とします。

The objective of this course is to be able to perform the basic accounting processing that should be conducted by a corporation.
That includes as a guideline being able to use knowledge at least at the level of JCCI Bookkeeping Grade 2.

授業の内容(Course Contents)

中級簿記2では、中級簿記1の内容を前提として、株式会社が行う処理の中でも、資金調達に関する処理、純資産に関する処理といった少し高度な取引について学習し、それらの処理を題材に利益計算・財産計算を行うとともに、本支店会計や簡単な連結会計といった応用的な内容を扱います。

In Intermediate Bookkeeping 2, building on what was learned in Intermediate Bookkeeping 1, of the processing performed by corporations, students will learn more advanced transactions, such as how to treat funding and net assets, as well as profit and property calculations this processing as the subject matter in addition to how to handle such applications as branch accounting and simple consolidated accounting.

授業計画(Course Schedule)

1. 純資産の処理(1) 純資産の項目と株式の発行による資金調達
2. 純資産の処理(2) 利益計上と剰余金の配当
3. 純資産の処理(3) 会社の合併
4. リース会計(1) リースの開始
5. リース会計(2) リース料の支払い
6. 外貨換算会計
7. 収益と費用の計上
8. 税効果会計
9. 決算と財務諸表
10. 本支店会計(1) 本支店間の取引
11. 本支店会計(2) 本支店合併財務諸表の作成
12. 連結会計(1) 連結の意義と基本的な考え方
13. 連結会計(2) 支配獲得時の資本連結
14. 連結会計(3) 連結 1 年目の処理

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までに学習した処理を確実に行えるよう、かつその処理がなされる理由も説明できるように復習して下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/小テスト(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記教本』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34450-9)
2. 蛭川幹夫編著、2019、『日商簿記ゼミ 2 級商業簿記問題演習』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34451-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項（Notice）

本科目は簿記1・2を学修済みであることを前提とした科目である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／基礎ゼミナール1 (Pro-Seminar1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アカデミックスキルを修得する		
担当者名 (Instructor)	経済学部教員が担当		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX400～414, 501～518		

授業の目標(Course Objectives)

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得する。

To learn the basic academic skills required for studies in the university.

授業の内容(Course Contents)

文献を調べる・読む、レポートを作成する(引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む)、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを学び、修得する。

The students will study and acquire such basic academic skills for studies in the university as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to write reference citations), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション、自己紹介など
2. 教員による輪読書のレジュメ・プレゼンテーション見本の提示
3. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(1)
4. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(2)
5. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(3)
6. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(4)
7. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(5)
8. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(6)
9. 文献輪読・ディスカッション・ディベート(7)
10. "Master of Writing"を学ぶ
11. レポート第1次草稿報告(1)
12. レポート第1次草稿報告(2)
13. レポート第1次草稿報告(3)
14. レポート第1次草稿報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

輪読のレジュメ作成、レポート作成のための文献調査などを行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

輪読の準備・発表内容およびディスカッションへの参加度(60%)/レポート第1次報告(40%)

テキスト(Textbooks)

初回のゼミナールにて教員より指定がある。

参考文献(Readings)

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Writing"を使用する(教員より配布予定)。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール(単年度) (One-year Term Seminars)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済地理からみる都市・地域		
担当者名 (Instructor)	藤本　典嗣(FUJIMOTO NORITSUGU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

なぜその都市・地域に、特定のオフィス・工場・商業施設が立地するのか、経済地理学の一分野である立地論の観点から解き明かしていきます。そのことを踏まえて、地域の差異の要因を説明できるようになる能力を身につけることを目標とします。

The lecture explains from the perspective of location theory, one of the fields in economic geography, why specific offices, factories, and commercial facilities are located in cities and regions. Building on this, students will acquire skills to explain the factors in differences among regions.

授業の内容(Course Contents)

都市・地域によって立地する主体(オフィス・工場・百貨店などの商業施設)が違うのは、理由があります。その理由は、立地論における「立地要因(立地因子)」により、経済的な理由から説明ができます。ある地域で成立する商業施設(デパート、アウトレットモールなど)が、別の地域では立地しないのは、立地要因により説明できます。なぜ、地域により立地する施設に違いが出るのか、体系的に理解し、説明できるプレゼンテーション能力を、身につけていきます。

There are reasons why facilities (offices, factories, department stores and other commercial facilities) are located in different cities and regions. Students will be able to explain these reasons using economic reasons from the “location factors (location causes)” covered in location theory. Students will be able to explain using location factors why commercial facilities (department stores, outlet malls, etc.) are established in some areas and not in others. They will also be able to systematically understand why there are differences between the areas where facilities are established and be able to give a presentation explaining this.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに―経済地理学の概要説明
2. 経済学と地理学の関係1―経済の視点
3. 経済学と地理学の関係2―地理の視点
4. 地域経済に対する視点1―立地論
5. 地域経済に対する視点2―地方財政・行政・社会学
6. 立地論とはどのようなものか1―商業立地
7. 立地論とはどのようなものか2―工業立地論
8. 立地論とはどのようなものか3―オフィス立地
9. 地域経済の捉え方1―国民経済計算
10. 地域経済の捉え方2―県民経済計算
11. 地域経済の捉え方3―総生産における県民と県内の違い
12. 地域経済の捉え方4―行政区域と地域経済の関係
13. プレゼンテーション1―効果的な表現方法
14. プレゼンテーション2―説得力と口頭発表
15. 地域経済政策1―地域政策がなぜ必要か
16. 地域経済政策2―政策の決定過程
17. 地域経済政策3―政策策定過程と立地論
18. 地域経済政策4―中央政府による政策
19. 地域経済政策5―地方政府による政策
20. 諸外国における地域経済政策1―アジア近隣諸国
21. 諸外国における地域経済政策2―ヨーロッパ諸国
22. 諸外国における地域経済政策3―北米諸国
23. 諸外国における地域経済政策4―発展途上国
24. 諸外国における地域経済政策5―日本の政策との対比
25. プレゼンテーション1―レポート作成
26. プレゼンテーション2―パワーポイント作成
27. プレゼンテーション3―論文としてのとりまとめ

28. 総括ー最終発表の評価

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業で指定するテキストは、事前に読んでおくことが望ましい。また、授業終了後は、内容について、ノート・メモをもとに、課題点を考える時間が必要である。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(20%)/プレゼンテーション(20%)/平常点(40%)

テキスト（Textbooks）

最初の授業で。参加者の問題意識に応じて、決定する。

参考文献（Readings）

1. 山田 浩之 (著), 徳岡 一幸 (著)、2018、『地域経済学入門 第 3 版 (有斐閣コンパクト)』、有斐閣 (ISBN:978-4641165229)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール(単年度) (One-year Term Seminars)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済・社会の構造変化と租税制度		
担当者名 (Instructor)	神尾　篤史(KAMIO ATSUSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

統計データを用いて日本の経済状況を分析し、理解するとともに、それに基づき租税制度の枠組みを研究し、成果を発表・議論し、レポートや論文を作成する能力を養う。

To be able to analyze and understand the state of the Japanese economy using statistical data and based on this to research the tax system framework, present and discuss the results and create reports and write papers.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミでは、少子高齢化やグローバル化の進展などにより、構造が大きく変化している日本経済・社会の状況を分析し、法人税、所得税など租税制度(国際租税を含む)の枠組みについて研究していきます。

春学期には経済統計を活用して、日本経済・社会の状況を分析します。また、租税制度に関連する基礎文献を輪読し、基礎知識の獲得と同時に、現時点で考えられる論点を明確にします。

秋学期にはこの論点についてグループで検討します。主たる研究分野は受講生の希望に応じて決定しますが、グループ毎に一つのテーマを取り上げ、研究報告を行い、レポートをまとめます。

In this seminar students will analyze the state of the Japanese economy and society, the structure of which is greatly changing due to an increase low birth rate, aging of the population, and globalization and also research the frameworks of the tax systems (including international taxation) such as corporate tax, income tax, and other taxes.
During the spring semester students will analyze the state of the Japanese economy and society using economic statistics. In addition, they will take turns reading basic literature related to the tax system to acquire basic knowledge while at the same time clarifying the points that can be considered at the current time.
During the fall semester students will discuss these points in groups. The main research fields will be set according to the wishes of the students, and each group will select a theme, create a research report, and give a report.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 日本経済の見方(1)経済統計の活用の仕方
3. 日本経済の見方(2)少子高齢化、働き方改革など
4. 日本経済の見方(3)グローバル化、格差など
5. 文献輪読(1)日本の財政と租税制度
6. 文献輪読(2)日本の財政と租税制度
7. 文献輪読(3)所得税
8. 文献輪読(4)所得税
9. 文献輪読(5)所得税
10. 文献輪読(6)法人税
11. 文献輪読(7)法人税
12. 文献輪読(8)法人税
13. 文献輪読(9)国際租税
14. 春学期のまとめと研究テーマの議論
15. 研究テーマと研究計画の議論
16. 研究計画の議論
17. グループ研究報告(1)
18. グループ研究報告(2)
19. グループ研究報告(3)
20. グループ研究報告(4)
21. グループ研究報告(5)
22. グループ研究報告(6)

23. グループ研究報告（7）
24. グループ研究報告（8）
25. グループ研究報告（9）
26. 最終発表会
27. 最終発表会
28. 全体の振り返りとまとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

春学期は指定テキストを事前に読むこと。発表担当者は資料の作成などを行うこと。

秋学期はグループ研究で必要な調査・研究・資料作成に加え、レポート執筆を行うこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

輪読・グループワーク(60%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト（Textbooks）

1. 坂本雅士　編、2018、『現代税務会計論』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-26351-4)
2. 谷口勢津夫 他著、2017、『基礎から学べる租税法』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-35700-8)
3. 増井良啓 著、2018、『租税法入門 第2版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22753-8)

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール(単年度) (One-year Term Seminars)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経営戦略とヒューマン・リソース － 経営者・就業者それぞれの視点からみた「企業」の研究		
担当者名 (Instructor)	海上　泰生(UNAKAMI YASUO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経済主体として生産活動を行う「企業」という存在、あるいは、就業者の働く場として採用・雇用・育成を行う「企業」という存在。本ゼミナールでは、経営者側と就業者側の双方向から多面的に企業の実態を研究し、その経済活動の本質について理解を深め、文献輪読、実在する具体的企業の研究、成果発表、議論の経験を経て、学究的能力を身につける。

The existence of “businesses” that conduct production activities as economic entities and the existence of “businesses” that serve as a place for employees to work by hiring them, employing them, and training them. In this seminar, students will research actual business conditions from multiple perspectives from both the management and employee points of view, deepen their understanding of the essence of those economic activities, take turns reading reference material, and acquire academic ability through the experience of conducting research on specific businesses and presenting and discussing their results.

授業の内容(Course Contents)

企業の事業活動のために必要な経営資源としては、いわゆる「ヒト(人材)」「モノ(設備・商品)」「カネ(資金)」「情報(知的財産)」の4つが挙げられる。経営者は、経営戦略に従ってこうした資源を効果的に活かす必要があり、とくに「ヒト」は、単なる労働力(ワーク・フォース)としてではなく、ヒューマン・リソース(人財)として最重要視され、活躍することが期待されている。このことは、すなわち就業者にとっても、自らの能力を最大限に発揮でき、働きやすい職場を備えている企業こそ、強く優れた企業であるといえる。

本ゼミナールでは、こうした観点から、企業の経営戦略と経営資源について、まず学び、文献輪読、報告、議論を通して理解を深める。その際、例えば、資金の獲得のために金融という仕組みがあり、情報の獲得にはIT技術の利用などがあるなど、各人の関心の広がりにも対応する。

こうして経営者目線で考察した結果を踏まえ、併せて、ヒューマン・リソースとして自らが働くことを想定して、就業者の視点から見た企業との関わり、特に近時の「働き方改革」などの議論を含め、雇用の場となる企業の姿について、改めて理解を深める。

各人の研究テーマは、以上のようなアプローチから設定する。全体を通して、研究・議論・レポートは、少人数グループを単位とし、成果発表は、各担当分を個人単位で行う。全体人数にもよるが、期間中2回程度、全員での企業フィールドワークを予定している。

There are said to be four management resources “people (labor), things (equipment, products), money (funds), and information (intellectual property)” that are required for the business activities of companies. Managers must effectively utilize these resources in accordance with the management strategy and people in particular are not just labor (workforce) but are a human resource and are viewed as being the most important resource and are expected to perform well. This means that companies that provide a workplace that is easy to work in and where employees can maximize their abilities are strong, excellent companies.

In this seminar, students will learn about a company’s management strategy and management resources from this perspective and deepen their understanding by taking turns reading reference materials and by giving and discussing reports. When doing this the lecturer will also strive to expand each person’s interest such as the framework called financing through which businesses procure funds or using IT technology to acquire information.

Based on the results from considering these things from the viewpoint of a manager, students will envision themselves working as a human resource and their relationship with the company from an employee’s perspective to further deepen their understanding of the form of a business as a place of employment including discussing the recent “working style revolution.” The above approach will be taken for each person’s research theme. Overall, the students will be divided into small groups to conduct their research, discussions, and reports and the results presentations will be conducted by each person presenting the part they are in charge of. Although it depends on the total number of people, the lecturer plans to have all students conduct company fieldwork twice during the course period.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 基調講義「産業と企業」
3. 文献輪読・報告・ディスカッション

4. 文献輪読・報告・ディスカッション
5. 文献輪読・報告・ディスカッション
6. 文献輪読・報告・ディスカッション
7. 文献輪読・報告・ディスカッション
8. 文献輪読・報告・ディスカッション
9. 文献輪読・報告・ディスカッション
10. 文献輪読・報告・ディスカッション
11. 文献輪読・報告・ディスカッション
12. 研究計画・構想・担当業種決定
13. 研究計画・構想・分担・ディスカッション
14. 企業フィールドワークに向けての業界研究・論点整理・ガイダンス
15. 企業フィールドワーク
16. ゲストスピーカーとのディスカッション
17. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
18. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
19. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
20. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
21. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
22. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
23. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
24. グループ研究・個人担当分研究・経過報告・ディスカッション
25. 最終プレゼンテーション
26. 最終プレゼンテーション
27. 最終プレゼンテーション
28. 全体総括、レポート提出

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

輪読対象文献については、あらかじめ精読し、自分なりの問題意識をもって臨むこと。グループ研究に際しては、十分な事前準備をもって、自分の担当分野はもちろん担当以外の分野についても積極的に臨むこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

参加意欲(20%)/ディスカッションでの貢献度(40%)/プレゼンテーションおよび最終レポート(40%)

テキスト（Textbooks）

適宜、指定する。

参考文献（Readings）

1. 網倉久永・新宅純二郎、2011、『経営戦略入門』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN:978-4-532-13403-7)
2. 小池和男、2005、『仕事の経済学』、東洋経済新報社 (ISBN:ISBN:978-4-492-26072-2)
3. 日本政策金融公庫、2015、『働く場としての中小企業の魅力』、日本政策金融公庫 (ISSN:ISBN:1883-5937)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール(単年度) (One-year Term Seminars)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル社会における国際機関の機能と開発援助の役割		
担当者名 (Instructor)	浜名　弘明(HAMANA HIROAKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

担当教員は、外務省、JICA での勤務経験を経て、外資系コンサルティングファームに勤務している。JICA 在勤時は国連、OECD、パリクラブ等の国際機関でのルール設計を担当した。そうした経験を元に本ゼミナールでは特に開発援助という切り口から国際機関の機能と開発援助の役割を検討することで、国際経済学や国際政治経済学といった社会科学の理論を理解するとともに、ロジカルな分析と報告ができる能力を身に着けることを目標とする。特に将来、国際機関をはじめとした国際社会で勤務したい学生や外資系コンサルティングファームでの分析手法を学ぶことに意欲的な学生を歓迎する。

The lecturer in charge has worked in the Ministry of Foreign Affairs of Japan and JICA and currently works for a foreign consulting firm. While working at JICA the lecturer was in charge of designing rules for such international organizations as the United Nations, OECD, and the Paris Club. Based on this experience, the objective of this seminar is to use development assistance in particular as an opening for students to consider the function of international organizations and the role of development assistance and to understand such social science theory as international economics and international political economy while also acquiring the ability to conduct logical analysis and give logical reports. Students that in the future want to work in international organizations and other areas of international society or that want to learn the analytical methods of foreign consulting firms in particular are welcome.

授業の内容(Course Contents)

授業では国際政治学、国際政治経済学等の文献を輪読し、国際機関の統計情報の抽出方法や資料の作成方法、ディスカッション方法について学ぶ。その後、ディスカッションやグループワークを経てグループワークでのレポートと個人での研究レポートを作成していく。

During this class students will take turns reading literature on international politics, international political economy, and other subjects and learn the methods for extracting the statistical information of international organizations, creating materials, and holding discussions. Later, after holding discussions and group work, reports as groups and research reports as individuals will be created.

授業計画(Course Schedule)

1. (1)春学期ガイダンス:学習のめあてとスケジュールの説明
2. (2)輪読およびディスカッション
3. (3)輪読およびディスカッション
4. (4)輪読およびディスカッション
5. (5)輪読およびディスカッション
6. (6)輪読およびディスカッション
7. (7)レポートのアイデア出しとグループ決め
8. (8)グループでのディスカッション(レポートの構想打合せ)
9. (9)グループでのディスカッション(レポートの構想打合せ)
10. (10)グループでのディスカッション(レポートの構想打合せ)
11. (11)グループ間でお互いに進捗の報告会
12. (12)グループでのディスカッション(レポートの構想打合せ)
13. (13)グループでのディスカッション(レポートの構想打合せ)
14. (14)グループでのディスカッション(レポートの構想打合せ)
15. (15)秋学期ガイダンス:グループでのレポート執筆にあたっての注意
16. (16)レポートの作成、ディスカッション
17. (17)　レポートの作成、ディスカッション
18. (18)レポートの作成、ディスカッション
19. (19)レポートの作成、ディスカッション
20. (20)中間報告会
21. (21)レポートの作成、ディスカッション
22. (22)　レポートの作成、ディスカッション

23. (23)レポートの作成、ディスカッション
24. (24)レポートの作成、ディスカッション
25. (25)グループワーク最終発表会
26. (26)グループワーク最終発表会
27. (27)グループワーク最終発表会
28. (28)全体の振りかえりとまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

教科書の輪読とグループでのレポート作成、個人でのレポート作成を行うため、報告資料の作成、ディスカッション、レポートの執筆のための自己学習が必要となる。積極的に学ぶ学生を歓迎する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(40%)/口頭報告及びディスカッションへの参加(20%)/中間レポート(20%)/最終レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 浜名弘明、2017、『持続可能な開発目標(SDGs)と開発資金』、文眞堂 (ISBN:978-4-8309-4953-1)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール(単年度) (One-year Term Seminars)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	東アジアの歴史と経済		
担当者名 (Instructor)	竹内　祐介(TAKEUCHI YUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本ゼミナールでは、東アジアの約 200 年間の軌跡を捉えることを通じて、現代アジア経済を理解することを狙いとします。歴史・現代経済いずれの関心からでも参加してもらえるよう、ゼミを運営していきます。

The objective of this seminar is for students to understand the contemporary Asian economy by following the course of East Asia during the last 200 years. This seminar is conducted for participants who are interested in either history or the contemporary economy.

授業の内容(Course Contents)

テキストの輪読と、それにもとづく研究を進めてもらいます。(参加人数にしたがって、個人単位で研究を進めるかグループ単位で研究を進めるかを決めます。)
春学期は輪読を中心に、研究テーマをみつけてもらいます(夏休み中に研究テーマに関するレポートを執筆・提出してもらいます)。
秋学期は、実際に研究を進めていってもらい、最後にはその成果を報告してもらいます。

Students will take turns reading the text and proceed with research accordingly. (Whether the research is conducted as an individual or as a group will be decided based on the number of participants.)
During the spring semester students will look for a research theme mainly from the readings (During the summer vacation students will write and submit a report on the research theme.).
During the fall semester the students will actually proceed with their research and report their results at the end of the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 輪読と討論(1)
3. 輪読と討論(2)
4. 輪読と討論(3)
5. 輪読と討論(4)
6. 輪読と討論(5)
7. 輪読と討論(6)
8. 輪読と討論(7)
9. 輪読と討論(8)
10. 輪読と討論(9)
11. 輪読と討論(10)
12. 輪読と討論(11)
13. 輪読と討論(12)
14. 輪読と討論(13)
15. 研究テーマの発表(1)
16. 研究テーマの発表(2)
17. 輪読と討論(14)
18. 輪読と討論(15)
19. 輪読と討論(16)
20. 研究進捗状況の報告(1)
21. 研究進捗状況の報告(2)
22. 輪読と討論(17)
23. 輪読と討論(18)
24. 輪読と討論(19)
25. 研究成果の発表(1)
26. 研究成果の発表(2)
27. 研究成果の発表(3)

28. 総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

輪読および研究報告の準備をしてもらいます。

成績評価方法・基準（Evaluation）

輪読報告・討論(40%)/研究テーマ発表(15%)/研究進捗状況報告(15%)/研究成果報告(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 和田春樹ほか、2014、『東アジア近現代通史（上）』、岩波書店 (ISBN:9784000291439)
2. 和田春樹ほか、2014、『東アジア近現代通史（下）』、岩波書店 (ISBN:9784000291446)
3. 遠藤環ほか、2018、『現代アジア経済論』、有斐閣 (ISBN:9784641184428)

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／基礎ゼミナール2 (Pro-Seminar2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アカデミックスキルを修得・発展させる		
担当者名 (Instructor)	経済学部教員が担当		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX1020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX520～543, 545～553		

授業の目標(Course Objectives)

大学生活における基本的なアカデミックスキルを修得・発展させる。

To acquire and develop the basic academic skills required for university life.

授業の内容(Course Contents)

「基礎ゼミナール1」において修得した文献を調べる・読む、レポートを作成する(引用の仕方、注の付け方、参考文献の書き方を含む)、プレゼンテーションを行う、ディスカッション・ディベートを行う、アクティヴ・ラーニング型授業に参加する、などの大学生活における基本的なアカデミックスキルを活かしてレポートを完成させるとともに、その能力をさらに発展させる。

The students will utilize such basic academic skills for university life as searching and reading reference materials, creating reports (including how to reference, how to add footnotes, and how to cite references), giving presentations, discussing and debating, and participating in class using the active learning model that were learned in Pro-Seminar 1 to complete their reports and further develop these abilities.

授業計画(Course Schedule)

1. レポート第2次草稿報告(1)
2. レポート第2次草稿報告(2)
3. レポート第2次草稿報告(3)
4. レポート第2次草稿報告(4)
5. "Master of Presentation"を理解してプレゼンの準備を行う
6. レポート最終版をプレゼンテーション(1)
7. レポート最終版をプレゼンテーション(2)
8. レポート最終版をプレゼンテーション(3)
9. レポート最終版をプレゼンテーション(4)
10. グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ(1)
11. グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ(2)
12. グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ(3)
13. グループワーク、アクティブラーニングを学ぶ(4)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

レポート作成のための文献調査、グループワークおよびアクティヴラーニングのための事前準備を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート最終報告(60%)/レポート以外の課題への取り組み態度とその成果(40%)

テキスト(Textbooks)

教員より指示する

参考文献(Readings)

立教大学大学教育開発・支援センター作成の"Master of Presentation"を使用する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／課題解決演習C (Seminar on Task Solutions C)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	チームで協働し、深く考え抜く力と人に伝える力を身につける課題解決型学習(Project-Based Learning)		
担当者名 (Instructor)	翁　理香(OKINA AYAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX555		

授業の目標(Course Objectives)

協力企業から提示された課題に取り組みながら、実社会で起きている問題を、専門科目として学ぶ経済学等の学問領域と結びつけて考えられるようになることを目標としています。また、協力企業・業界が果たす社会的役割を理解し、「チームで協働し、深く考え抜く力(本質理解)と人に伝える力(プレゼンテーション能力・説得力)を身につけることも目標とします。

The objective of this course is to address the issues presented by cooperating companies while students become able to link the problems that occur in real society to economics and other academic fields that are studied as special subjects. A further objective of the course is for students to understand the social roles to be played by cooperating companies and industries and to acquire the ability to collaborate as a team, think deeply (essential understanding), and communicate with others (presentation ability, convincing ability).

授業の内容(Course Contents)

本科目は、航空業界を牽引している日本航空株式会社と連携をしながら、これからの社会に必要とされる様々な課題について考える授業です。提示された解決すべき課題(テーマ)に対し、チームに分かれて調査と議論を行い、検討結果についてパワーポイントを活用してプレゼンテーションを行います。少人数のチーム単位で課題に取り組むことが各回の授業の中心になるため、チームメンバーが互いにコミュニケーションを密にして、チームビルディングを行い、運営することが求められます。

For this subject the class will collaborate with Japan Airlines, which leads the airline industry, to consider various issues that will be required by society going forward. The students will be divided into teams to study and discuss the presented issue (theme) to be solved and to use PowerPoint to give a presentation on their study results. To ensure that the issues are addressed by small teams each class, team members will keep in close communication with each other and operate the team while engaging in team building.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業のガイダンス、ジェネリックスキル自己チェック、ディスカッションスキル実践
2. Study skills(ブレインストーミング、KJ 法、プレゼンテーション法)、チームビルディング)
3. 協力企業　業界・企業概要説明、第 1 課題提示
4. 第 1 課題の発表・振り返り、論拠ある主張をするためのディベート実践、第 2 課題提示
5. 各チームでのワーク
6. 中間発表、課題解決に必要な本質(原因)追究の重要性理解
7. フィールドワーク　※協力企業にて実施予定
8. フィールドワーク振り返り、各チームでのワーク
9. プレ・プレゼンテーション(3 分間動画へのフィードバック)、各チームでのワーク
10. 第 2 課題最終プレゼンテーション、フィードバック、振り返り、第 3 課題提示
11. 各チームでのワーク
12. 各チームでのワーク、協力企業からの指摘・アドバイスを受け、発表最終準備
13. 第 3 課題最終プレゼンテーション
14. プレゼンテーション振り返り、ジェネリックスキル他己評価、目標と宣言

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

提示課題解決のための提案作成・ワークシート／発表資料作成などについては、以下を必須事項とします。
・個人／チームとして必要な事前準備(情報収集・整理、議論)と事後学習(不足情報収集・整理、議論、資料修正など)を行うこと
・チームメンバー全員が役割を担うこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への参加・貢献度(50%)/チームによる最終発表の内容(30%)/最終レポート(Final Report)(20%)
原則全回出席を義務付けます。遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なします。3 回欠席で D 評価。

テキスト（Textbooks）

授業内で必要に応じて指示します。

参考文献（Readings）

授業内で必要に応じて指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・履修定員：20 名（他学部履修を可としますが、定員を超える場合は基本的に経済学部の学生が優先されます。）
・2・3 年生を主な履修対象者としますが、4 年生でも希望者は受け入れます。
・今年度の協力企業は日本航空株式会社で、日本で最も長い国内線と国際線の歴史を持つ企業です。イギリス SKYTRAX 社による航空会社の格付けで、実質最高評価の「The World's 5-Star Airlines」の認定を 2018 年に得ています。コーポレートスローガンは「明日の空へ、日本の翼」。授業開始前に必ずコーポレートサイト（https://www.jal.com/ja/outline/brand/）にて企業概要・理念、IR 情報について確認し、理解を深めておいてください。
・経済学部キャリア教育サイト「STORY」（https://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/）の情報発信に目を配るようにして下さい。
・通常の授業に加え、学外でのフィールドワークの実施を予定しています。この回への参加は必須である。フィールドワークの日程詳細は 3 月末までに経済学部掲示板にて告知する予定であるため、履修希望者は必ず確認してください。
※本科目は提出されたレポートに基づき履修者を決定します。履修希望者は、4 月 4 日(木)17 時までにレポートを教務事務センターに提出して下さい。レポートのテーマは、「この授業の履修を希望する志望理由と、授業を通じてどのような知識や能力を身につけたいと考えているかについて、1000 字程度で論述すること」(A4 サイズ 1 枚にまとめ、教務事務センター窓口にあるレポートの表紙をつけ、ホチキス止めをして提出すること)です。選考結果については、4 月６日(土)に経済学部掲示板で行います。なお、履修を許可された学生の登録は大学が行いますので、履修登録状況画面（Web）にて確認して下さい。また、上記の内容について変更等がある場合は、経済学部掲示板で掲示しますので、履修希望者は確認するようにして下さい。

※本科目は 2015 年度までの「企画講座Ⅰ」に該当します。すでに「企画講座Ⅰ」を履修済みの者は履修できないので注意して下さい。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX556／行政学1 (Public Administration 1)		
担当者名 (Instructor)	原田　久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では，受講生が興味深い行政現象を記述し分析する能力を身につけることを目標とする。

The objective of this class is to have the students develop the ability to describe and analyze interesting administrative phenomena.

授業の内容(Course Contents)

行政学は，「有権者」としての視点（制度論），「納税者」としての視点（管理論），及び「消費者」としての視点（政策論）という 3 つの視点から行政現象に複眼的にアプローチする学問である。このうち行政学 1 では，上記アプローチに対応した 3 つのパートのうち，制度論及び管理論の一部を取り上げる。各パートでは，行政現象についての興味深いパズルを設定した後（1 週目），これを分析する（2 週目）。

なお，行政学 2 をあわせて受講してほしい。 また，受講にあたっては，過去の授業評価アンケート結果を参考にすること（http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/）。

Public Administration is an academic discipline which uses a multifaceted approach to administrative phenomena from the perspectives of the "voter" (system theory), "taxpayer" (management theory), and "consumers" (policy theory). Of the three perspectives in the approach described above, Public Administration 1 will cover system theory and part of management theory. In each part, an interesting puzzle concerning an administrative phenomena will be configured (week one) and then analyzed (week two).

Furthermore, please note that students are asked to take Public Administration 2 in combination with this course. In addition, students are asked to refer to past class evaluation surveys when taking this course (http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/).

授業計画(Course Schedule)

1. 行政学入門 1：何を学ぶのか？（行政学の体系）
2. 行政学入門 2：どうやって学ぶのか？（行政学の方法）
3. 制度論 1：官民関係論―規制改革はなぜ進まないのか？　前編
4. 制度論 1：官民関係論―規制改革はなぜ進まないのか？　後編
5. 制度論 2：政官関係論――政治家は幹部職員人事権をなぜ抑制的に行使するのか？　前編
6. 制度論 2：政官関係論――政治家は幹部職員人事権をなぜ抑制的に行使するのか？　後編
7. 制度論 3：行政組織論――内閣官房・内閣府はなぜ肥大化したのか？　前編
8. 制度論 3：行政組織論――内閣官房・内閣府はなぜ肥大化したのか？　後編
9. 制度論 4：公務員制度論――人事院はなぜ廃止されなかったのか？　前編
10. 制度論 4：公務員制度論――人事院はなぜ廃止されなかったのか？　後編
11. 管理論 1：財源管理論――日本の財政赤字は先進国でなぜ最悪なのか？　前編
12. 管理論 1：財源管理論――日本の財政赤字は先進国でなぜ最悪なのか？　後編
13. 管理論 2：人事管理論――国家公務員の総量抑制方式はなぜ機能したのか？　前編
14. 管理論 2：人事管理論――国家公務員の総量抑制方式はなぜ機能したのか？　後編

授業時間外（予習・復習等）の学習(Study Required Outside of Class)

初回の講義のみ資料を配布する。事前にダウンロードあるいはプリントして講義に臨むこと。受講後，教科書で示している文献やサイト等にあたり講義内容の理解を深めること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 原田久、2016、『行政学』、法律文化社 (ISBN:9784589037909)

参考文献(Readings)

1. 西尾勝、2001、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641049777)

2. 真渕勝、2009、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641049831)
3. 曽我謙悟、2013、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641124833)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX557／行政学2 (Public Administration 2)		
担当者名 (Instructor)	原田　久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では，受講生が興味深い行政現象を記述し分析する能力を身につけることを目標とする。

The objective of this class is to have the students develop the ability to describe and analyze interesting administrative phenomena.

授業の内容(Course Contents)

行政学は，「有権者」としての視点(制度論)，「納税者」としての視点(管理論)，及び「消費者」としての視点(政策論)という 3 つの視点から行政現象に複眼的にアプローチする学問である。このうち行政学 2 では，上記アプローチに対応した 3 つのパートのうち，管理論の一部及び政策論を取り上げる。各パートでは，行政現象についての興味深いパズルを設定した後(1 週目)，これを分析する(2 週目)。

なお，あわせて行政学 1 を修得してほしい。また，受講にあたっては，過去の授業評価アンケート結果を参考にすること(http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/)。

Public Administration is an academic discipline which uses a multifaceted approach to administrative phenomena from the perspectives of the "voter" (system theory), "taxpayer" (management theory), and "consumers" (policy theory). Public Administration 2 will cover part of management theory and policy theory from the three perspectives in the approach described above. In each part, an interesting puzzle concerning an administrative phenomena will be configured (week one) and then analyzed (week two).

Furthermore, please note that students are asked to take Public Administration 1 in combination with this course. In addition, students are asked to refer to past class evaluation surveys when taking this course (http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/).

授業計画(Course Schedule)

1. 行政学入門:行政学の方法と体系
2. 管理論 3:所掌事務管理論―共管競合事務はなぜ増大したのか？　前編
3. 管理論 3:所掌事務管理論―共管競合事務はなぜ増大したのか？　後編
4. 管理論 4:情報資源管理論―統計機構の信頼性はなぜ維持されたのか？　前編
5. 管理論 4:情報資源管理論―統計機構の信頼性はなぜ維持されたのか？　後編
6. 政策論 1:政策課題設定過程論―こんにゃく入りゼリーはなぜ規制されたのか？　前編
7. 政策論 1:政策課題設定過程論―こんにゃく入りゼリーはなぜ規制されたのか？　後編
8. 政策論 2:政策決定過程論―パブリック・コメント手続はなぜ機能しないのか？　前編
9. 政策論 2:政策決定過程論―パブリック・コメント手続はなぜ機能しないのか？　後編
10. 政策論 3:政策実施過程論―生活保護世帯はなぜ急増したのか？　前編
11. 政策論 3:政策実施過程論―生活保護世帯はなぜ急増したのか？　後編
12. 政策論 4:政策評価過程論―政策評価は政策の見直しになぜつながらないのか？　前編
13. 政策論 4:政策評価過程論―政策評価は政策の見直しになぜつながらないのか？　後編
14. 行政学の発展学習に向けて

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講後，教科書で示している文献やサイト等にあたり講義内容の理解を深めること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 原田　久、2016、『行政学』、法律文化社 (ISBN:4589037904)

参考文献(Readings)

1. 西尾勝、2001、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641049777)
2. 真渕勝、2009、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641049831)

3. 曽我謙悟、2013、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641124833)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／統計調査論1 (Statistical Research 1)		
担当者名 (Instructor)	五十嵐　彰(IGARASHI AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX560		

授業の目標(Course Objectives)

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について学習する。調査や統計を批判的に読み解くスキルを養うことを目指す。

Students will understand the basic issues about the significance and types of social research and will learn the basic matters concerning the process from the collection to the analysis of materials and data. The objective is to nurture the skill to critically read and interpret surveys and statistics.

授業の内容(Course Contents)

社会調査史や社会調査の目的、調査方法論、調査の種類(量的調査と質的調査など)と実例について学ぶ。加えて、データの収集から分析までの実施過程に関する基礎的な事項についても概説する。

Actual examples will be used for students to learn the history and purpose of social research, survey methodology, and survey types (quantitative survey, qualitative surveys, etc.). In addition, an overview will be given of the fundamental matters regarding the implementation process from the collection of data to its analysis.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:社会調査の目的
2. 社会調査のいろいろな方法
3. 社会調査の歴史1
4. 社会調査の歴史2
5. 日本における官公庁統計
6. 標本計画と抽出方法
7. 問題の関心と仮説の設定
8. 量的調査の種類と特徴
9. 量的調査の実施プロセス
10. 質的調査とはなにか
11. 質的調査の種類と特徴
12. 質的調査の実施プロセス
13. 調査倫理と社会調査の諸問題1
14. 調査倫理と社会調査の諸問題2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

調査や統計についてのニュースや記事に日常的に触れることが望ましい。その際には、用語の定義、調査対象、収集方法、データの提示方法に特に注意すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/授業内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 森岡清志(編)、2007、『ガイドブック社会調査』、日本評論社 (ISBN:978-4535582460)
2. 大谷信介ほか(編)、2005、『社会調査へのアプローチ—論理と方法』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623041046)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この授業は社会調査士科目 A に対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ(https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx)を参照すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／統計調査論2 (Statistical Research2)		
担当者名 (Instructor)	五十嵐　彰(IGARASHI AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX561		

授業の目標(Course Objectives)

社会調査によって資料やデータを収集し、分析可能な形にまで整理していく方法を習得する。加えて、社会調査にかかわるパソコンスキルも習得する。

To learn the social research methods for collecting materials and data and organizing it into a form that can be analyzed. In addition, the personal computer skills related to social research will also be learned.

授業の内容(Course Contents)

簡単な社会調査を実際に経験することで、社会調査の流れや目的、実施に伴う注意点について学習する。
授業で扱う項目としては、社会調査の概要、社会調査の企画(調査企画と設計、仮説構成)、サンプリング法(全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差など)、質問紙の設計(質問文・調査票の作り方、ワーディング)、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など)、簡単な分析(単純集計、に変数間の関連の分析)などがあげられる。
授業内ではパソコンを利用した実習を行うことがある。

By actually experiencing simple social research, students will learn the flow, purpose, implementation, and precautions of social research.
The topics that will be covered in the course are an overview of social research, planning social research (survey planning and design, hypothesis formation), sampling methods (complete surveys and sample surveys, random sampling, number of samples and errors, etc.), questionnaire design (how to create question text and survey forms, wording), survey implementation methods (questionnaire distribution and collection methods, how to interview, etc.), simple analysis (simple tabulation, analysis of the relationship among variables), and other topics.
There will be exercises using personal computers during the class.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:社会調査とはなにか
2. 社会調査の分類:量的／質的調査
3. 社会調査の企画・設計1:調査テーマの設定
4. 社会調査の企画・設計2:仮説の設定
5. 調査票の作成1:調査票の構成
6. 調査票の作成2:質問文のワーディング
7. サンプリングの方法1:標本抽出の理論
8. サンプリングの方法2:標本抽出の実際
9. 量的調査の方法
10. 調査の実施
11. 調査データの整理・作成
12. 調査データの分析1:単純集計
13. 調査データの分析2:変数間の関連
14. 調査報告書の作成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

調査や統計についてのニュースや記事に日常的に触れることが望ましい。その際には、用語の定義、調査対象、収集方法、データの提示方法に特に注意すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/授業内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 森岡清志（編）、2007、『ガイドブック社会調査』、日本評論社 (ISBN:978-4535582460)
2. 大谷信介ほか（編）、2005、『社会調査へのアプローチ―論理と方法』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623041046)
社会調査全体の設計とその問題点に関心がある学生は『社会調査における非標本誤差』を参考にすること。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

この授業は社会調査士科目 B に対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ
（https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx）を参照すること。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／調査実習 (Survey Methods)		
担当者名 (Instructor)	五十嵐　彰(IGARASHI AKIRA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3340	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	BX562		

授業の目標(Course Objectives)

社会調査の理論を概観するとともに、仮説の構築や質問紙の設計など、社会調査の技法を理解する。調査の企画・設計からデータの収集・分析に関する具体的な方法などを身につけ、量的調査をはじめとした科学的な社会調査の理論と方法について理解することで、独力で適切な調査のデザインができるようになることを目標とする。各自の研究活動の基礎となる事実認識のためのデータ収集の技術を身につけ、調査リテラシーを身につけることをねらいとする。

To give an outline of the theory of social research and for students to understand the social research techniques such as the construction of hypotheses and design of questionnaires. The objective of this course is for students to acquire practical methods of data collection and analysis from the planning and design of the survey, and to understand the theory and methods of the scientific social research, including of quantitative surveys, so that students can independently design surveys. The goal is to acquire investigation literacy by acquiring the technique of data collection for fact recognition which is the basis of each research activity.

授業の内容(Course Contents)

受講生が授業を通じて得た知識をもとに社会調査の一連の流れを経験する。各自の研究テーマについて、実際に調査の企画・実施をし、集めたデータを元に簡単な分析を行う。基本的には技法に関する解説が中心となるものの，受講人数の多寡に応じて適宜質疑応答やディスカッションなども交える。

In this class students will experience the flow of social research based on the knowledge they have acquired. Each student will actually plan and implement their research theme and conduct a simple analysis based on the collected data. Explanation of the technique is the main part, questions and answers and discussions, etc. are also included depending on the size of the number of participants.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会調査とは何か：概説，目的，歴史
2. 社会調査の類型と一般的手順
3. 研究と調査課題：仮説の作り方
4. 受講生による調査プラン発表(中間報告)
5. 標本調査の理論と実際：設計と抽出方法
6. 質問紙調査の方法：質問紙の構成とフロー
7. 質問紙調査の方法：質問のワーディング
8. 質問紙調査の方法：選択肢の設け方
9. 調査の実施方法
10. データの作成・集計・分析：基礎的集計，統計的な分析の基礎，結果のまとめ方
11. 質的な調査：意義と方法，種類と事例，記述と説明
12. インタビュー法：類型，実施方法，結果の整理
13. さまざまなフィールドワーク：類型と事例，記述・説明・解釈
14. 受講生による調査プラン発表
15. コーディングガイドの作成
16. エディティング
17. データ入力
18. 統計ソフトの利用／データハンドリング
19. 統計分析の確認と実践(1)　記述統計
20. 統計分析の確認と実践(2)　クロス集計表とカイ二乗分析
21. 統計分析の確認と実践(3)　平均値の差の検定
22. 統計分析の確認と実践(4)　相関分析と多変量解析
23. 統計分析の確認と実践(5)　重回帰分析
24. 報告書の作成(1)　統計データのまとめ方
25. 報告書の作成(2)　プレゼン資料の作成
26. 報告書の作成(3)　プレゼンテーションの実施1
27. 報告書の作成(4)　プレゼンテーションの実施2

28. 報告書の作成(5) 調査報告書の作成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

調査や統計についてのニュースや記事に日常的に触れることが望ましい。その際には、用語の定義、調査対象、収集方法、データの提示方法に特に注意すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

小提出課題(30%)/プレゼンテーション／ディスカッション(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 轟 亮 (編集), 杉野 勇 (編集)、2017、『入門・社会調査法〔第 3 版〕: 2 ステップで基礎から学ぶ』、法律文化社 (ISBN:978-4589038173)
2. 大谷信介ほか編、2005、『社会調査へのアプローチ [第 2 版]』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623066544)
3. 鈴木淳子、2016、『質問紙デザインの技法[第 2 版]』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4779510755)

社会調査全体の設計とその過程で生じる問題点に関心がある学生は『社会調査における非標本誤差』を参考にすること。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この授業は社会調査士科目 G に対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ(https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx)を参照すること。
2019 年 3 月 27 日更新(記入漏れのため)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語2 (English for Current Topics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	お金と経済2　ーMoney and the Economy2ー		
担当者名 (Instructor)	宮越　浩子(MIYAKOSHI HIROKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX566		

授業の目標(Course Objectives)

比較的平易な英文で経済について書かれた文章に触れることで読解力を高めると同時に、英語での基礎的な経済概念修得を目標とする。また合わせて、日本語、英語で集めた情報をまとめるグループワークを行い、英語でアウトプットができるようになることを目指す。

The objective of this course is for students to improve their reading comprehension through exposure to texts about economics written in relatively simple English.　At the same time, the students will learn fundamental economics concepts in English. In addition, the students will be asked to gather information in English and in Japanese, and through groupwork, summarize and present their outputs.

授業の内容(Course Contents)

英語力初級者対象。

授業ではテキストを使い、テキストで扱ったトピックを応用し,その場で情報を集めたり、ディスカッションをしたり、日本語で要約したり、グループワークを行う。プレゼンテーションの機会もある。授業内に単語、読解力確認のために小テストを行う。社会人になってから役立つスキル習得を意識した授業。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。(このテストの結果は成績には影響しない)

This course is for students with beginner level English.
Topics related to the text of the day will be addressed, and during the class students will gather information, hold discussions, create summaries, and engage in groupwork. There will also be opportunities to give presentations. Small quizzes to check vocabulary and reading comprehension will be given during class. This class aims to teach skills that will be useful after graduating.
An English ability assessment test will be given on the first and last days of class. Please bring a laptop with WiFi connection and headphones to class. (This test will not affect your grades.)

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに　−授業の進め方について−　英語力テスト
2. 数字に強くなろう　-Numbers in English-
3. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
4. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
5. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
6. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
7. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
8. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
9. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
10. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
11. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
12. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
13. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
14. まとめ　英語力テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの指定された範囲の文章を読み(1ページ)、設問に回答する、ディスカッションの準備、プレゼンテーションの準備などを授業の事前準備として課す。
予習箇所については、授業の最後に指示する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

リフレクションペーパー／出席(20%)/積極的な受講態度／グループワークへの貢献／プレゼンテーション(20%)/授業内に行う小テスト(30%)/授業の事前準備(30%)
70%以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト（Textbooks）

1. 池上彰／ロバート・A・ミンツァー、2012、『All About Money and the Economy（やさしく読めるお金と経済の話）』、朝日出版社

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

資料配布、事前課題の提出、小テスト、リアクションペーパーの記入／提出、授業についての告知／変更事項については Blackboard 上で告知／実施するので、常にチェックすること。
授業中に調べ学習やプレゼンテーションの準備を行うので、必ず毎回 WiFi に接続可能なパソコンを持参のこと。

和英英和、英英辞書は毎回持参すること。PC やタブレットの辞書機能を使っても可。

グループワーク、プレゼンテーションを適宜行う。積極的な受講態度が期待される。

この授業ではゲストスピーカーを予定している。先方の都合によってどの回で行うかはこの時点では未定であるため、後日アナウンスする。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。（このテストの結果は成績には影響しない）
この授業は積極的に学びたい学生を対象とする。授業中の私語、SNS などの私的通信、遅刻などについては厳しく管理する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語3 (English for Current Topics 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	お金と経済1　ーMoney and the Economyー		
担当者名 (Instructor)	宮越　浩子(MIYAKOSHI HIROKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX567		

授業の目標(Course Objectives)

比較的平易な英文で経済について書かれた文章に触れることで読解力を高めると同時に、英語での基礎的な経済概念修得を目標とする。また合わせて、日本語、英語で集めた情報をまとめるグループワークを行い、英語でアウトプットができるようになることを目指す。

The objective of this course is for students to improve their reading comprehension through exposure to texts about economics written in relatively simple English.　At the same time, the students will learn fundamental economics concepts in English. In addition, the students will be asked to gather information in English and in Japanese, and through groupwork, summarize and present their outputs.

授業の内容(Course Contents)

英語力初級者対象。

授業ではテキストを使い、テキストで扱ったトピックを応用し,その場で情報を集めたり、ディスカッションをしたり、日本語で要約したり、グループワークを行う。プレゼンテーションの機会もある。授業内に単語、読解力確認のために小テストを行う。社会人になってから役立つスキル習得を意識した授業。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。(このテストの結果は成績には影響しない)

This course is for students with beginner level English.
Topics related to the text of the day will be addressed, and during the class students will gather information, hold discussions, create summaries, and engage in groupwork. There will also be opportunities to give presentations. Small quizzes to check vocabulary and reading comprehension will be given during class. This class aims to teach skills that will be useful after graduating.
An English ability assessment test will be given on the first and last days of class. Please bring a laptop with WiFi connection and headphones to class. (This test will not affect your grades.)

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに　−授業の進め方について−　英語力テスト
2. 数字に強くなろう　-Numbers in English-
3. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
4. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
5. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
6. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
7. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
8. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
9. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
10. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
11. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
12. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
13. テキスト読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
14. まとめ　英語力テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの指定された範囲の文章を読み(1ページ)、設問に回答する、ディスカッションの準備、プレゼンテーションの準備などを授業の事前準備として課す。
予習箇所については、授業の最後に指示する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

リフレクションペーパー／出席(20%)/積極的な受講態度／グループワークへの貢献／プレゼンテーション(20%)/授業内に行う小テスト(30%)/授業の事前準備(30%)
70%以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト（Textbooks）

1. 池上彰／ロバート・A・ミンツァー、2012、『All About Money and the Economy（やさしく読めるお金と経済の話）』、朝日出版社

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

資料配布、事前課題の提出、小テスト、リアクションペーパーの記入／提出、授業についての告知／変更事項については Blackboard 上で告知／実施するので、常にチェックすること。
授業中に調べ学習やプレゼンテーションの準備を行うので、必ず毎回 WiFi に接続可能なパソコンを持参のこと。

和英英和、英英辞書は毎回持参すること。PC やタブレットの辞書機能を使っても可。

グループワーク、プレゼンテーションを適宜行う。積極的な受講態度が期待される。

この授業ではゲストスピーカーを予定している。先方の都合によってどの回で行うかはこの時点では未定であるため、後日アナウンスする。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。（このテストの結果は成績には影響しない）
この授業は積極的に学びたい学生を対象とする。授業中の私語、SNS などの私的通信、遅刻などについては厳しく管理する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語4 (English for Current Topics 4)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会課題を経済的な観点から分析／議論 −Analysis of Real Social Issues from an Economic Perspective−		
担当者名 (Instructor)	宮越 浩子(MIYAKOSHI HIROKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX569		

授業の目標(Course Objectives)

実際の社会の動き、社会課題を取り上げて、それを経済的な観点から議論する。社会人になってから役に立たすスキル「英語と日本語を行き来する編集力」を身につけて、言語による情報ギャップを埋められるようになることを目指す。

In this course, real world topics and real social issues will be covered and discussed from an economic perspective. The objective of this course is to acquire the ability to “edit English and Japanese” (to go back and forth from English to Japanese and vice versa, filling in the information gap) which will become useful skills after graduating from university.

授業の内容(Course Contents)

英語力中級者対象。

授業では英語の経済誌を読解し、そのテーマに沿ってその場で日本語と英語で情報を集めてディスカッションをしたり、日本語で要約したり、グループワークを行う。プレゼンテーションの機会もある。授業内に単語、読解力確認のために小テストを行う。社会人になってから役立つスキル習得を意識した授業。授業内容については、直近の社会の動きや社会課題に言及する。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。(このテストの結果は成績には影響しない)

This course is for students with intermediate level English.
The class contents will touch upon real world topics and real social issues, using articles from economic magazines as reference materials. Students will gather related information during class, hold discussions, create summaries in Japanese, and engage in groupwork in accordance with the topic. There will also be opportunities to give presentations. Small quizzes to check vocabulary and reading comprehension will be given during class. This class aims to teach skills that will be useful after graduating from university.
An English ability assessment test will be given on the first and last days of class. Please bring a laptop with WiFi connection and headphones to class. (This test will not affect your grades.)

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに −授業の進め方について− 英語力テスト
2. 情報のリソース、メディア・リテラシーについて
3. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
4. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
5. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
6. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
7. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
8. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
9. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
10. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
11. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
12. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
13. 記事読解＋グループワーク／要約／ディスカッション／プレゼンテーション
14. まとめ 英語テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定された記事を読み、単語の意味などを調べ、議論などができるように準備、プレゼンテーション資料の準備などがある。
授業の最後に次の授業の準備に必要な課題について指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

リフレクションペーパー／出席(20%)/積極的な受講態度／グループワークへの貢献／プレゼンテーション(20%)/授業内に行う小テ

スト(30%)/授業の事前準備(30%)
70%以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

特定の教科書は使用しない。使用する英語の記事は Blackboard などで提供、もしくは前週の授業で配布する予定。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

資料配布、事前課題の提出、小テスト、リアクションペーパーの記入／提出、授業についての告知／変更事項については Blackboard 上で告知／実施するので、常にチェックすること。
授業中に調べ学習やプレゼンテーションの準備を行うので、必ず毎回 WiFi に接続可能なパソコンを持参のこと。

和英英和、英英辞書は毎回持参すること。PC やタブレットの辞書機能を使っても可。

グループワーク、プレゼンテーションを適宜行う。積極的な受講態度が期待される。

この授業ではゲストスピーカーを予定している。先方の都合によってどの回で行うかはこの時点では未定であるため、後日アナウンスする。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず Wifi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。(このテストの結果は成績には影響しない)
この授業は積極的に学びたい学生を対象とする。授業中の私語、SNS などの私的通信、遅刻などについては厳しく管理する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語5 (English for Current Topics 5)		
担当者名 (Instructor)	阪本　真一(SAKAMOTO SHINICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX571		

授業の目標(Course Objectives)

政治経済，経営の知的枠組みを理解し，コンテンポラリーな話題について論理的に思考し，英語で議論できる力を養う。
ビジネスの常識を学ぶ。例えば，時間厳守，準備，積極的貢献，　熟考の上に自分の言葉で詳細なフィードバック。

To understand the intellectual frameworks of political economy and management and nurture the ability to think logically about contemporary topics and to discuss things in English.
To learn business common sense. For example, keeping time, preparation, proactively contributing, and giving detailed feedback in your own words after careful consideration.

授業の内容(Course Contents)

世界の一流人と四つに組んで仕事をするために重要なのは，ペラペラしゃべる事ではなく，まず知的な文章を正確に読み，内容を自分の頭で考える，次に適切な大人の語彙を使って書ける，最後に論理的に話せるという事です。
そのために授業では，まず優れた英文を朗読し，翻訳します。その際，論理，文体，語彙，用法も含めてしっかり読み，多読します。その後，シチュエーションや背景となる知的枠組みを理解するための問いに対し，自分の頭で考えリアクションペーパーに書く(日本語)事を要求します。
巷で言われるような，楽をして学べる英語なんてものは存在しません。ドラッカーの文章には経営のみならず人生を生きる上での知恵が沢山詰まっており，学生の皆さんには挑戦しがい十分，かつ 今後の人生の糧になること間違いなしです。外国の知識人たちと対等で相互に尊敬される人間関係を作れるような国際人を目指し一緒に努力しましょう。

What is important for collaborating with eminent people in the world and undertaking work is not talking a lot, but rather being able to correctly read intellectual texts, think about their contents, then use appropriate adult vocabulary to write, and finally be able to talk logically.
To do this, first students will read and translate excellent English texts. This includes carefully reading and extensive including the logic, literary style, vocabulary, and usage. After that you will be required to write a reaction paper (in Japanese) for which you have thought on your own about questions to have you understand the intellectual framework that forms the situation or background.
Unlike what is said in popular culture, there is no easy way to learn English. The writings of Drucker contain much wisdom for life as well as for management and will doubtless be sufficient for your challenges as a student and food for your future life.
Let's work together as you aim to become international people that can build mutually respectful human relations on an equal basis with intellectuals in foreign countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 輪読
2. 輪読
3. 輪読
4. 輪読
5. 輪読
6. 輪読
7. 輪読
8. 輪読
9. 輪読
10. 輪読
11. 輪読
12. 輪読
13. 輪読
14. 輪読

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業対象部分の読解，翻訳，朗読。

成績評価方法・基準(Evaluation)

予習(翻訳, 朗読), 授業中の積極参加, リアクションペーパーの提出(100%)
毎回の授業参加は原則, 単位取得のための最低限の"Must"です。語学は毎日の努力が重要, 十分な準備をして授業に参加することが求められます。他方, 試験はありません。

テキスト(Textbooks)

1. Peter F. Drucker. The Essential Drucker. Collins Business (ISBN:9780061345012)
Peter F. Drucker *The Essential Drucker*(Collins Business 2005)は各自購入(must!!)。
新聞, 雑誌記事のコピーは適宜配布。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

第一週目から授業を開始します。出席は必須です。
授業で使用するコピーは当日配布します。辞書必携。
毎週授業は, 主に Peter Drucker の著作を翻訳, 輪読して, 内容を考えます。それに加えて補足的に Economist, Harvard Business Review, WSJ, NY Times 等の新聞, 雑誌の抜粋記事を読みます。適宜, その他の良い文章を配布します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語6 (English for Current Topics 6)		
担当者名 (Instructor)	阪本　真一(SAKAMOTO SHINICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3033	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX572		

授業の目標(Course Objectives)

政治経済，経営の知的枠組みを理解し，コンテンポラリーな話題について論理的に思考し，英語で議論できる力を養う。
ビジネスの常識を学ぶ。例えば，時間厳守，準備，積極的貢献，　熟考の上に自分の言葉で詳細なフィードバック。

To understand the intellectual frameworks of political economy and management and nurture the ability to think logically about contemporary topics and to discuss things in English.
To learn business common sense. For example, keeping time, preparation, proactively contributing, and giving detailed feedback in your own words after careful consideration.

授業の内容(Course Contents)

世界の一流人と四つに組んで仕事をするために重要なのは，ペラペラしゃべる事ではなく，まず知的な文章を正確に読み，内容を自分の頭で考える，次に適切な大人の語彙を使って書ける，最後に論理的に話せるという事です。
そのために授業では，まず優れた英文を朗読し，翻訳します。その際，論理，文体，語彙，用法も含めてしっかり読み，多読します。その後，シチュエーションや背景となる知的枠組みを理解するための問いに対し，自分の頭で考えリアクションペーパーに書く(日本語)事を要求します。
巷で言われるような，楽をして学べる英語なんてものは存在しません。ドラッカーの文章には経営のみならず人生を生きる上での知恵が沢山詰まっており，学生の皆さんには挑戦しがい十分，かつ 今後の人生の糧になること間違いなしです。外国の知識人たちと対等で相互に尊敬される人間関係を作れるような国際人を目指し一緒に努力しましょう。

What is important for collaborating with eminent people in the world and undertaking work is not talking a lot, but rather being able to correctly read intellectual texts, think about their contents, then use appropriate adult vocabulary to write, and finally be able to talk logically.
To do this, first students will read and translate excellent English texts. This includes carefully reading and extensive including the logic, literary style, vocabulary, and usage. After that you will be required to write a reaction paper (in Japanese) for which you have thought on your own about questions to have you understand the intellectual framework that forms the situation or background.
Unlike what is said in popular culture, there is no easy way to learn English. The writings of Drucker contain much wisdom for life as well as for management and will doubtless be sufficient for your challenges as a student and food for your future life.
Let's work together as you aim to become international people that can build mutually respectful human relations on an equal basis with intellectuals in foreign countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 輪読
2. 輪読
3. 輪読
4. 輪読
5. 輪読
6. 輪読
7. 輪読
8. 輪読
9. 輪読
10. 輪読
11. 輪読
12. 輪読
13. 輪読
14. 輪読

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業対象部分の読解，翻訳，朗読。

成績評価方法・基準(Evaluation)

予習(翻訳, 朗読), 授業中の積極参加, リアクションペーパーの提出(100%)
毎回の授業参加は原則, 単位取得のための最低限の"Must"です。語学は毎日の努力が重要, 十分な準備をして授業に参加することが求められます。他方, 試験はありません。

テキスト(Textbooks)

1. Peter F. Drucker. The Essential Drucker. Collins Business (ISBN:9780061345012)
Peter F. Drucker *The Essential Drucker*(Collins Business 2005)は各自購入(must!!)。
新聞, 雑誌記事のコピーは適宜配布。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

第一週目から授業を開始します。出席は必須です。
授業で使用するコピーは当日配布します。辞書必携。
毎週授業は, 主に Peter Drucker の著作を翻訳, 輪読して, 内容を考えます。それに加えて補足的に Economist, Harvard Business Review, WSJ, NY Times 等の新聞, 雑誌の抜粋記事を読みます。適宜, その他の良い文章を配布します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語7 (English for Current Topics 7)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会企業分析 1 −Analysis of Social Enterprises 1−		
担当者名 (Instructor)	宮越　浩子(MIYAKOSHI HIROKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX577		

授業の目標(Course Objectives)

社会課題の解決を目的として収益事業に取り組む社会企業の事例を分析し、理解を深めることを目標とする。日本語、英語で情報を集め、分析し、日本語、英語の両方でアウトプットができる力をつけることを目指す。

The objective of this course is to deepen understanding of social issues through analyzing social enterprise cases. Social enterprises are commercial companies with an aim to solve social issues through a business approach.　Students will learn how to gather and analyze information both in Japanese and English and will present their outputs in both Japanese and in English.

授業の内容(Course Contents)

英語力中級者対象。授業は主に英語で行う。

社会的課題に着目し、社会企業の事例収集、分析、分類などをグループワークで行う。授業後半では学生一人ひとりが社会企業を考案し発表する。社会人になってから役立つスキルの習得を意識した授業。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。(このテストの結果は成績には影響しない)
秋学期の「経済英語8」では社会企業をビジネス面から分析し、更に学びを深めていくので、継続した受講が望ましい。

This course is for students with intermediate level English. Classes will be mainly taught in English.
The main focus of this course will be on learning about different social issues.　Social enterprise cases will be gathered, analyzed, classified through groupwork.　Towards the end of the course, each student will ideate their own social business plan and present it in front of the class. This class aims to teach skills that will be useful after graduating from university.
An English ability assessment test will be given on the first and last days of class. Please bring a laptop with WiFi connection and headphones to class. (This test will not affect your grades.)

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに −授業の進め方について− 英語力テスト
2. 社会企業とは？
3. 社会的課題とその要因について考える
4. 社会企業分析 ①
5. 社会企業分析 ②
6. 社会企業分析 ③
7. 事例のカテゴリー化 ①
8. ゲストスピーカーによる授業
9. 事例のカテゴリー化 ②
10. 社会企業のアイディアを発想する
11. プレゼンテーションの準備
12. プレゼンテーション ①
13. プレゼンテーション ②
14. まとめ 英語力テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

主に授業内で行う事例分析、要約の完成、次の授業の準備。適宜授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

リフレクションペーパー／出席(30%)/積極的な受講態度／グループワークへの貢献／プレゼンテーション(40%)/事前課題(30%)
70%以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

特に指定の教科書はない。収集／分析した事例などが教材となる。必要に応じてプリントや PDF を配布する。

参考文献（Readings）

参考文献は授業中に適宜伝える。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

資料配布、課題の提出、リアクションペーパーの記入／提出、授業についての告知／変更事項については Blackboard 上で告知／実施するので、常にチェックすること。
授業中に調べ学習やプレゼンテーションの準備を行うので、必ず毎回 WiFi に接続可能なパソコンを持参のこと。

和英英和、英英辞書は毎回持参すること。PC やタブレットの辞書機能を使っても可。

グループワーク、プレゼンテーションを適宜行う。積極的な受講態度が期待される。

この授業ではゲストスピーカーを予定しているが、先方の都合によって実施回が変更になる場合がある。

授業の内容は進捗状況によって変更される場合がある。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。（このテストの結果は成績には影響しない）
この授業は積極的に学びたい学生を対象とする。授業中の私語、SNS などの私的通信、遅刻などについては厳しく管理する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／経済英語8 (English for Current Topics 8)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会企業分析 2 −Analysis of Social Enterprises 2−		
担当者名 (Instructor)	宮越　浩子(MIYAKOSHI HIROKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX3023	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX578		

授業の目標(Course Objectives)

社会課題の解決を目的として収益事業に取り組む社会企業の主にビジネス面について理解することを目標とする。日本語、英語で情報を集め、分析し、日本語、英語の両方でアウトプットができる力をつけることを目指す。

The objective of this course is to deepen understanding of different business approaches to solve social issues through analyzing social enterprise cases . Social enterprises are commercial companies with an aim to solve social issues through a business approach.　Students will learn how to gather and analyze information both in Japanese and English and will present their outputs in both Japanese and in English.

授業の内容(Course Contents)

授業は主に英語で行う。英語力中級者対象。社会企業のビジネス面について理解するために、社会企業のケースを分析し、分類などをグループワークで行う。授業後半では社会企業を考案し、グループ／個人が発表する。社会人になってから役立つスキルの習得を意識した授業。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。(このテストの結果は成績には影響しない)

This course is for students with intermediate level English. Classes will be mainly taught in English.
The main focus of this course will be on learning about different business approaches to solve social issues.　Social enterprise cases will be gathered, analyzed, classified through groupwork.　Towards the end of the course, each student will ideate their own social business plan and present it in front of the class. This class aims to teach skills that will be useful after graduating from university.
An English ability assessment test will be given on the first and last days of class. Please bring a laptop with WiFi connection and headphones to class. (This test will not affect your grades.)

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに −授業の進め方について− 英語力テスト
2. 社会企業、社会的課題について
3. 事例のカテゴリー化 ①、持続可能なビジネス的な視点について
4. ビジネス事例分析 ①
5. ビジネス事例分析 ②
6. ビジネス事例分析 ③
7. 社会企業のビジネスモデル抽出
8. ゲストスピーカーによる授業
9. 事例のカテゴリー化 ②
10. 社会企業のアイディアを発想する
11. プレゼンテーション準備
12. プレゼンテーション ①
13. プレゼンテーション ②
14. まとめ 英語力テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

主に授業内で行う事例分析、要約の完成、次の授業の準備。適宜授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

積極的な受講態度／グループワークへの貢献／プレゼンテーション(40%)/リフレクションペーパー(30%)/提出物(30%)
70%以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

特に指定の教科書はない。収集／分析した事例などが教材となる。必要に応じてプリントや PDF を配布する。

参考文献（Readings）

参考文献は授業中に適宜伝える。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

資料配布、課題の提出、リアクションペーパーの記入／提出、授業についての告知／変更事項については Blackboard 上で告知／実施するので、常にチェックすること。
授業中に調べ学習やプレゼンテーションの準備を行うので、必ず毎回 WiFi に接続可能なパソコンを持参のこと。

和英英和、英英辞書は毎回持参すること。PC やタブレットの辞書機能を使っても可。

グループワーク、プレゼンテーションを適宜行う。積極的な受講態度が期待される。

この授業ではゲストスピーカーを予定しているが、先方の都合によって実施回が変更になる場合がある。

授業の内容は進捗状況によって変更される場合がある。
初回と最終回の授業で英語力把握のテストを行う。必ず WiFi 接続が可能な PC とヘッドフォンを持参のこと。（このテストの結果は成績には影響しない）
この授業は積極的に学びたい学生を対象とする。授業中の私語、SNS などの私的通信、遅刻などについては厳しく管理する。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／データサイエンス概論		
担当者名 (Instructor)	安藤　道人(ANDO MICHIHITO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

統計分析用および機械学習用のプログラム言語であるＲを用いて、統計学・計量経済学・機械学習の基本的な分析を行えるように演習を行い、データサイエンスの基礎を習得する。

To practice basic analysis of statistics, econometrics, and machine learning using R, a programing language for statistical analysis and machine learning, to learn the fundamentals of data science.

授業の内容(Course Contents)

統計学・計量経済学・機械学習の基礎的な知識を学んだ上で、実際に現実のデータセットを用いて、Ｒでコードを書いて分析をする。講義は全体で 3 部に分かれている。第一部（R 入門）ではＲを使ったデータ分析の基本的な方法を学び、第二部（計量経済学）ではＲを用いた計量経済学分析の実習を行い、第三部（機械学習）では、Ｒを用いた機械学習の実習を行う。すべての回において、まずその回の実習内容について簡単な解説を行った後で、各自に実際にコードを書き、分析し、分析結果をまとめる作業を行う。理論的な解説はごく基本的・直感的なものにとどめ、実際に自分でコードを書いて分析することを重視する。

Students will acquire statistics, econometrics, and machine learning fundamental knowledge and then write code using R to analyze actual data sets. This lecture will be divided into three parts. In Part 1 (Introduction to R) students will learn the basic methods for analyzing data using R, in Part 2 (Econometrics) they will practice econometric analysis using R, and in Part 3 (Machine Learning) they will practice machine learning using R. For each class, first a simple explanation of the practice contents will be given and then each student will write code, conduct an analysis, and compile the analysis results. The theoretical explanation will be limited to basic and intuitive things to allow students to focus on actually writing their own code and using it to conduct analysis.

授業計画(Course Schedule)

1. R 入門1：ガイダンス/R の基礎
2. R 入門2：データ整理
3. R 入門3：データの可視化
4. R 入門4：回帰分析
5. 計量経済学1：差の検定/回帰分析/マッチング分析
6. 計量経済学2：パネルデータ分析/差の差法
7. 計量経済学3：合成コントロール法
8. 計量経済学4：操作変数法
9. 計量経済学5：回帰不連続デザイン
10. 機械学習1：線形回帰・ロジスティック回帰による予測
11. 機械学習2：リッジ回帰/Lasso
12. 機械学習3：決定木/アンサンブル学習
13. 機械学習4：ニューラルネットワーク/ディープラーニング
14. 総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間だけではなかなか習得できない内容が多いので、予習・復習をしっかり行ってください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/課題(60%)

テキスト(Textbooks)

授業中に適宜紹介します。

参考文献(Readings)

授業中に適宜紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業の詳細については、ウェブサイト　https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures　にも公開予定です。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／Short-term Study Abroad Program in Economics (USA)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学を英語で学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山縣　宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	8単位(8 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX9053	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX591		

授業の目標(Course Objectives)

経済学を生かした国際人材を育成するために、①経済学を英語で学ぶ。②短期プログラムでも十分な英語力を身に着けることができるようアクティブラーニングで学習姿勢を向上させる。③海外での異文化体験(例えば、インターンシップなど)を経験することで、国際的に通用する能力を身に着ける。

To foster international human resources that can utilize economics effectively by: ① Learning economics in English, ② Active learning to improve learning attitude to acquire sufficient English ability even during a short-term program, and ③ Have an intercultural experience overseas (for example, an internship).

授業の内容(Course Contents)

短期海外プログラムを最大限に効果を発揮させるために反転授業を取り入れる。①アクティブラーニングを通して、経済学を英語で習得する事前学習を行う。②授業では事前学習を前提に議論を通した経済学の知識を深める。③海外で異文化社会を経験する。

A flipped classroom style will be used to maximize the effect of the short-term overseas program. ① Pre-study to learn economics in English is conducted through active learning. ② In the classroom the students deepen their economics knowledge through discussion on the premise that they have done the preparatory study. ③ The students experience a foreign culture overseas.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
3. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
4. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
5. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
6. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
7. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
8. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
9. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
10. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
11. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
12. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
13. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

アクティブラーニングによる事前・事後学習

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前学習(40%)/海外研修(60%)

テキスト(Textbooks)

授業中に指示をするが、http://www.rikkyo.ac.jp/eco/real/ を参照し、事前学習、復習ともに十分行うことが必要。

参考文献(Readings)

授業中に指示をする。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は他学部履修が可能である。他学部生でもマクロ経済学、ミクロ経済学は十分に役に立つ分野であり、初学者でもわかるような授業を行う予定である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／Short-term Study Abroad Program in Economics (UK)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学を英語で学ぶ		
担当者名 (Instructor)	山縣　宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	8単位(8 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX9053	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX592		

授業の目標(Course Objectives)

経済学を生かした国際人材を育成するために、①経済学を英語で学ぶ。②短期プログラムでも十分な英語力を身に着けることができるようアクティブラーニングで学習姿勢を向上させる。③海外での異文化体験(例えば、インターンシップなど)を経験することで、国際的に通用する能力を身に着ける。

To foster international human resources that can utilize economics effectively by: ① Learning economics in English, ② Active learning to improve learning attitude to acquire sufficient English ability even during a short-term program, and ③ Have an intercultural experience overseas (for example, an internship).

授業の内容(Course Contents)

短期海外プログラムを最大限に効果を発揮させるために反転授業を取り入れる。
①アクティブラーニングを通して、経済学を英語で習得する事前学習を行う。②授業では事前学習を前提に議論を通した経済学の知識を深める。③海外で異文化社会を経験する。

A flipped classroom style will be used to maximize the effect of the short-term overseas program. ① Pre-study to learn economics in English is conducted through active learning. ② In the classroom the students deepen their economics knowledge through discussion on the premise that they have done the preparatory study. ③ The students experience a foreign culture overseas.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
3. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
4. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
5. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
6. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
7. マクロ経済学の事前学習と授業での討論
8. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
9. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
10. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
11. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
12. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
13. ミクロ経済学の事前学習と授業での討論
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

アクティブラーニングによる事前・事後学習

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前学習(40%)/海外研修(60%)

テキスト(Textbooks)

授業中に指示をするが、http://www.rikkyo.ac.jp/eco/real/ を参照し、事前学習、復習ともに十分行うことが必要。

参考文献(Readings)

授業中に指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

この科目は他学部履修が可能である。他学部生でもマクロ経済学、ミクロ経済学は十分に役に立つ分野であり、初学者でもわかるような授業を行う予定である。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／Short-term Study Abroad Program in Economics (AUS)		
担当者名 (Instructor)	小澤　康裕(OZAWA MICHIHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	6単位(6 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX9053	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX593		

授業の目標(Course Objectives)

南半球の異文化の中で、語学研修、企業訪問、リサーチワーク、ホームステイ等を通じて、視野を広げるとともに、行動力を身につけることを目標とする。

The objective is for students to widen their perspective and acquire the ability to take action while studying language, visiting companies, conducting research work, experiencing homestay, etc., in a different culture in the Southern Hemisphere.

授業の内容(Course Contents)

秋学期の授業時間中は、映像資料を用いた反転授業や日本について英語で紹介する練習等を行い、シドニーでの研修の準備を行う。また、リサーチ・プロジェクトの準備作業も進める。シドニーでの研修中は、午前中はシドニー大学においてレベル別の語学研修を行い、午後はシドニー立教会の紹介等による企業訪問等を実施する予定である。また、最終週にリサーチ・プロジェクトのプレゼンテーションを行う。「英語を使える」ことを目指す。

In the fall semester class, some flipped classrooms using video materials and practice introducing Japan in English will be done to prepare students for studying in Sydney. Preparation work for a research project should be accomplished. During the study in Sydney, in the morning students will receive language training for their levels at the University of Sydney, and then in the afternoon they will visit businesses through introductions by the Sydney Alumni Chapter of Rikkyo Alumni Association and others. In addition, the students will give a presentation on their research projects during the final week. The aim is “to be able to use English.”

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション・自己紹介
2. 自分について英語で語る
3. 英語表現を考えるグループワーク(1)
4. 経済学を英語で学ぶ＜反転授業＞(1)
5. シドニーについて知る/ゲストスピーカー(1)
6. シドニー大学での研修に関するガイダンス(1)
7. 英語表現を考えるグループワーク(2)
8. 経済学を英語で学ぶ＜反転授業＞(2)
9. シドニー大学での研修のための事前テスト
10. 経済学を英語で学ぶ＜反転授業＞(3)
11. 英語表現を考えるグループワーク(3)
12. シドニー大学での全般に関するガイダンス(2)
13. リサーチ・プロジェクト準備学習
14. 出発直前ガイダンス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキスト『日本入門』は日本語と英語で日本の文化と歴史を知る内容となっている。反転授業のために映像資料(英語による経済学入門)で事前に予習する必要がある。リサーチ・プロジェクトについては、事前準備として「リサーチシート」の提出を求める。また、別途、基礎的な英語力を高めるための補助教材(REO 等)についても利用を薦める。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼンテーションの準備及び研修時の評価(30%)/事前講義への積極的参加と貢献(30%)/研修先での評価(30%)/企業訪問への積極的参加と貢献(10%)
(本学及びシドニーにおける)全ての授業に出席することが前提である。4回以上の遅刻や欠席は D 評価となる可能性がある。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 高橋瞳、2014、『日本入門』、小学館

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／Short-term Study Abroad Program in Economics (PHL)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	真の国際人を育成		
担当者名 (Instructor)	林　采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX9053	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX594		

授業の目標(Course Objectives)

①学生が国際社会で活躍できるグローバル人材に育つきっかけを作る。②海外での異文化経験を積みたい学生が広くチャレンジできる場を作る。③学生がグローバル社会で必要となる「自ら考え、乗り切る力」を身につける。

① For students to develop into global human resources that can be active in global society. ② To create a place where students that want to accumulate experience with different cultures overseas can do so. ③ For students to acquire the "ability to think and make decisions on their own" that is required in global society.

授業の内容(Course Contents)

フィリピン共和国・ターラック市(現フィリピン大統領の出身地)において、英語研修(2週間)を踏まえて、残りの2週間はホームステイ、インターンシップを行い、さらに日本企業から与えられる課題について現地調査を踏まえ解決策を見出し、ボランティア活動も行う。

In Tarlac City, the Republic of the Philippines (the home town of the current Philippines President), students will study English (2 weeks) and spend their remaining two weeks doing home stay and an internship while also conducting local studies of issues provided by Japanese companies, looking for solutions for them, and engaging in volunteer activities.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. フィリピンに関する事前学習と渡航準備
3. フィリピンに関する事前学習と渡航準備
4. フィリピンに関する事前学習と渡航準備
5. フィリピンに関する事前学習と渡航準備
6. フィリピンに関する事前学習と渡航準備
7. フィリピンに関する事前学習と渡航準備
8. 日本企業からの課題ついての事前準備
9. 日本企業からの課題ついての事前準備
10. 日本企業からの課題ついての事前準備
11. 日本企業からの課題ついての事前準備
12. 日本企業からの課題ついての事前準備
13. 日本企業からの課題ついての事前準備
14. 日本企業からの課題ついての事前準備

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

帰国後は企業での報告会と学内報告会を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前学習(40%)/海外研修(60%)

テキスト(Textbooks)

授業時に指示する。

参考文献(Readings)

授業時に指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

参加希望学生は、春学期中に開催する説明会並びに履修ガイダンスに参加すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／Short-term Study Abroad Program in Economics (CHN)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国語をマスターし、中国における日系企業の経営について学ぶ		
担当者名 (Instructor)	厳　成男(YAN CHENGNAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	6単位(6 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX9053	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	BX596		

授業の目標(Course Objectives)

中国の大学において、ビジネス中国語研修、中国語による中国経済事情の講義、および中国進出の日系企業の訪問調査を通じて、中国語の語学力を向上させるともに、急成長する中国経済の実態と日系企業の海外経営について把握することを目標とする。

The objective is to improve Chinese language ability by studying business Chinese at a Chinese university, discussing the Chinese economic situation in Chinese, and conducting visit surveys of Japanese companies that have operations in China and to also understand the circumstances of the rapidly growing Chinese economy and the overseas operations of Japanese companies.

授業の内容(Course Contents)

事前学習として、中国に関する映像資料の鑑賞、中国経済と企業経営に関する資料の輪読などを通じて中国と中国語に関する理解を深めるとともに、中国経済・経営に関する知識を習得する。中国での研修中(3 週間)は、前半では天津理工大学において、ビジネス中国語と中国文化・経済講義を受ける。後半では、中国進出の日系企業の訪問調査を実施し、中国語能力と中国経済・経営に関して習得した知識をさらに強固なものにする。

As preparatory learning, students will view video materials about China, read materials about the Chinese economy and company management, and engage in other activities to deepen their understanding of China and the Chinese language while gaining knowledge about the Chinese economy and management. While studying in China (3 weeks) students will spend the first half of the time taking courses in business Chinese and Chinese culture and economy at Tianjin University of Technology. During the second half the students will conduct visit surveys of Japanese companies with operations in China to further strengthen their Chinese language ability and knowledge of the Chinese economy and management.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(事前学習、海外研修)
2. 中国と中国人を知る(映像資料の鑑賞、ディスカッション)(1)
3. 中国と中国人を知る(映像資料の鑑賞、ディスカッション)(2)
4. 中国と中国人を知る(映像資料の鑑賞、ディスカッション)(3)
5. 中国語を使ってみる(自己、大学、日本の紹介)(1)
6. 中国語を使ってみる(自己、大学、日本の紹介)(2)
7. 中国語を使ってみる(自己、大学、日本の紹介)(3)
8. 中国の経済・経営について学ぶ一資料輪読、ディスカッション(1)
9. 中国の経済・経営について学ぶ一資料輪読、ディスカッション(2)
10. 中国の経済・経営について学ぶ一資料輪読、ディスカッション(3)
11. 中国の経済・経営について学ぶ一資料輪読、ディスカッション(4)
12. 中国の経済・経営について学ぶ一資料輪読、ディスカッション(5)
13. 中国での企業訪問調査における「調査課題」の設定
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日常的に日本経済新聞を読み、中国経済に関するニュースに関心をもち、問題意識をもって授業に参加することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前学習における発表とディスカッションへの参加度合(30%)/研修先における授業出席度合と企業調査への取り組み(50%)/調査課題のレポート報告(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 渡辺幸男・植田浩史・駒形哲哉編著、2014、『中国産業論の帰納法的展開』、同友館

参考文献（Readings）

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・海外研修（中国・天津、3週間）の内容：ビジネス中国語講義、中国経済講義、中国文化講義・体験、企業訪問調査、アクティビティ

・「中国に進出した日系企業の経営実態」と題する中国語のレポートを作成し、提出する。

注意事項（Notice）

募集人員は 20 名。応募者が多い場合は、言語 B で中国語を選択した学生を優先する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済に必要なデータを駆使して、多様な実証分析を行う。		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

主として経済統計を利用した分析手法を学び、優れた論文・レポート作成を行う

Mainly to learn the analytical methods used for economic statistics and to write excellent academic papers and reports.

授業の内容(Course Contents)

体系的な経済統計の成り立ちと知識を身に付けて専門的な文書の作成を行う。授業は 5 つの機会(①実証分析を演習を通じて学ぶ時間、②学外の論文大会への挑戦コンテスト、懸賞論文他)、③資料の作成とプレゼンの実践、④論文作成や分析を試行錯誤する時間(論文・書評作成)、⑤資格の取得)を組み合わせる。

The students will gain knowledge about and the ability to use systematic economic statistics to write professional papers. This class consists of 5 opportunities (① Time to learn through practice of empirical analysis, ② Challenge to contribute student papers to academic paper contests outside the school, essay contests, etc.), ③ Practice making materials and giving presentations, ④ Time for trial and error for academic paper writing and analysis (write academic papers and book reviews), and ⑤ Acquire certification).

授業計画(Course Schedule)

1. 授業概要ガイダンス、輪読本の選定
2. 専門書輪読①、実証分析演習①
3. 専門書輪読②、実証分析演習②
4. 専門書輪読③、書評の報告
5. 専門書輪読④、実証分析演習③
6. 専門書輪読⑤、実証分析演習④
7. 優れた専門論文の作成法
8. 論文テーマ報告、専門書輪読⑥
9. 専門書輪読⑦、実証分析演習⑤
10. 専門書輪読⑧、実証分析演習⑥
11. 専門書輪読⑨、実証分析演習⑦
12. 論文テーマ・概要報告、討論
13. 専門書輪読⑩、実証分析演習⑧
14. 学外施設の見学①
15. 専門書輪読⑪、実証分析演習⑨
16. 学外大会への方針と戦略の検討
17. プレゼン・論文報告①、集中討論
18. アンケート調査票の設計、分析法検討
19. アンケート集計法
20. プレゼン・論文報告②、実証分析演習⑩
21. 統計検定・統計調査士検定資格取得向け対策
22. プレゼン・論文報告③、集中討論
23. 経済波及効果分析演習
24. 将来人口推計、GIS
25. アンケート集計・作表①
26. アンケート集計・作表②
27. 卒業論文報告会
28. 学外施設の見学②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

輪読準備、書評(年 4 回)、プレゼン資料、レポート・論文の作成(学外大会向け及び 2 年生向け年 1 回)、キャリアセンターや社会

情報教育研究センターセミナー・ガイダンスへの参加、学外施設の見学、ゼミ旅行等がある。統計検定2級の資格実績がない場合、統計検定への受験を求める。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(30%)/報告とレジュメ(20%)/学外大会・セミナーへの参加・ゼミへの貢献、その他(30%)/統計検定の受験(10%)/書評(10%)
原則として欠席 6 回以上は単位修得できない。出席した上で課題への積極性を求める。

テキスト（Textbooks）

目的に応じてテキストや文献を使い分けるので、ゼミ時間に相談して決める。

参考文献（Readings）

社会情報教育研究センターコンテンツ(特に『統計調査士対策コンテンツ』)、統計検定各種テキスト、経済統計・計量経済学各種テキスト

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

統計関連科目、情報処理科目はできるだけ履修すること。この授業は社会調査士資格 G 科目認定講座で、統計検定 2 級、3 級、統計調査士の関連科目である。資格取得を推奨する。この授業のほかいくつかの科目の単位を修得後申請すると、社会調査士資格が得られる。その他、授業統計検定と統計調査士に受かるよう対策を案内する。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済に必要なデータを駆使して、多様な実証分析を行う。		
担当者名 (Instructor)	櫻本 健(SAKURAMOTO TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

主として経済統計を利用した分析手法を学び、優れた論文・レポート作成を行う

Mainly to learn the analytical methods used for economic statistics and to write excellent academic papers and reports.

授業の内容(Course Contents)

体系的な経済統計の成り立ちと知識を身に付けて専門的な文書の作成を行う。授業は 5 つの機会(①実証分析を演習を通じて学ぶ時間、②学外の論文大会への挑戦コンテスト、懸賞論文他)、③資料の作成とプレゼンの実践、④論文作成や分析を試行錯誤する時間(論文・書評作成)、⑤資格の取得)を組み合わせる。

The students will gain knowledge about and the ability to use systematic economic statistics to write professional papers. This class consists of 5 opportunities (① Time to learn through practice of empirical analysis, ② Challenge to contribute student papers to academic paper contests outside the school, essay contests, etc.), ③ Practice making materials and giving presentations, ④ Time for trial and error for academic paper writing and analysis (write academic papers and book reviews), and ⑤ Acquire certification).

授業計画(Course Schedule)

1. 授業概要ガイダンス、輪読本の選定
2. 専門書輪読①、実証分析演習①
3. 専門書輪読②、実証分析演習②
4. 専門書輪読③、書評の報告
5. 専門書輪読④、実証分析演習③
6. 専門書輪読⑤、実証分析演習④
7. 優れた専門論文の作成法
8. 論文テーマ報告、専門書輪読⑥
9. 専門書輪読⑦、実証分析演習⑤
10. 専門書輪読⑧、実証分析演習⑥
11. 専門書輪読⑨、実証分析演習⑦
12. 論文テーマ・概要報告、討論
13. 専門書輪読⑩、実証分析演習⑧
14. 学外施設の見学①
15. 専門書輪読⑪、実証分析演習⑨
16. 学外大会への方針と戦略の検討
17. プレゼン・論文報告①、集中討論
18. アンケート調査票の設計、分析法検討
19. アンケート集計法
20. プレゼン・論文報告②、実証分析演習⑩
21. 統計検定・統計調査士検定資格取得向け対策
22. プレゼン・論文報告③、集中討論
23. 経済波及効果分析演習
24. 将来人口推計、GIS
25. アンケート集計・作表①
26. アンケート集計・作表②
27. 卒業論文報告会
28. 学外施設の見学②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

輪読準備、書評(年 4 回)、プレゼン資料、レポート・論文の作成(学外大会向け及び 2 年生向け年 1 回)、キャリアセンターや社会

情報教育研究センターセミナー・ガイダンスへの参加、学外施設の見学、ゼミ旅行等がある。統計検定2級の資格実績がない場合、統計検定への受験を求める。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(30%)/報告とレジュメ(20%)/学外大会・セミナーへの参加・ゼミへの貢献、その他(30%)/統計検定の受験(10%)/書評(10%)
原則として欠席 6 回以上は単位修得できない。出席した上で課題への積極性を求める。

テキスト（Textbooks）

目的に応じてテキストや文献を使い分けるので、ゼミ時間に相談して決める。

参考文献（Readings）

社会情報教育研究センターコンテンツ(特に『統計調査士対策コンテンツ』)、統計検定各種テキスト、経済統計・計量経済学各種テキスト

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

統計関連科目、情報処理科目はできるだけ履修すること。この授業は社会調査士資格 G 科目認定講座で、統計検定 2 級、3 級、統計調査士の関連科目である。資格取得を推奨する。この授業のほかいくつかの科目の単位を修得後申請すると、社会調査士資格が得られる。その他、授業統計検定と統計調査士に受かるよう対策を案内する。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	農・食をめぐる経済・政策研究		
担当者名 (Instructor)	大山 利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

農と食をめぐる社会経済事象について，自ら問題意識をもって研究し，発表，議論できる能力を身につけることを目標とします。

The objective of this course is for students to acquire the ability to have problem awareness regarding the socioeconomic phenomena surrounding agriculture and food and to research, present, and discuss those problems.

授業の内容(Course Contents)

農業は，人びとの生命維持に不可欠な食料生産を担う重要な産業であり，また地域社会において経済的，社会的，文化的，環境的な観点から重要な役割を果たしています。本ゼミナールでは，そのような農業の果たす役割とその価値について考えます。
春学期は，当該年の共通テーマにそって基本的文献の輪読と議論を重ねます。またグループ研究の準備として文献サーベイをすすめます。秋学期は，現地調査をふまえた研究報告，論文作成に向けた最終報告をします。またディベートによって，農業・食料問題に関する理解を深め，発表態度，論理展開，機敏な対応力など高いレベルの能力を養います。

Agriculture is an important industry that produces the food that is indispensable for sustaining the lives of people and plays an important role in the community from the economic, social, cultural, and environmental perspectives. In this seminar students think about the roles played by agriculture and their value.
During the spring semester students will read and discuss basic literature following the theme for the year. A literature survey will also be conducted in preparation for the group research. During the fall semester the students will write research reports on their field work and give their final reports in preparation for writing their academic paper. Debates will also be held to deepen understanding of agricultural and food problems and to foster a high level of ability, such as for presentation manner, reasoning, and the ability to respond promptly.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 輪読
3. 輪読
4. 輪読
5. ディベート
6. ディベート
7. ディベート
8. 輪読
9. 輪読
10. 輪読
11. ゲスト講演
12. グループ研究(事前・予備報告)
13. グループ研究(事前・予備報告)
14. グループ研究(事前・予備報告)
15. グループ研究(調査報告)
16. グループ研究(調査報告)
17. グループ研究(調査報告)
18. ディベート
19. ディベート
20. ディベート
21. ディベート
22. ゲスト講演
23. 個人研究(中間報告)
24. 個人研究(中間報告)
25. 個人研究(中間報告)
26. 個人研究(最終報告)

27. 個人研究（最終報告）
28. 個人研究（最終報告）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

ゼミでの学習効果を高めるため，事前学習や準備内容について随時指示する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(40%)/授業期間内のレポート(30%)/最終レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

未定

参考文献（Readings）

未定

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

農林水産省『食料・農業・農村白書』
（http://www.maff.go.jp/j/wpaper/index.html）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	農・食をめぐる経済・政策研究		
担当者名 (Instructor)	大山 利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

農と食をめぐる社会経済事象について，自ら問題意識をもって研究し，発表，議論できる能力を身につけることを目標とします。

The objective of this course is for students to acquire the ability to have problem awareness regarding the socioeconomic phenomena surrounding agriculture and food and to research, present, and discuss those problems.

授業の内容(Course Contents)

農業は，人びとの生命維持に不可欠な食料生産を担う重要な産業であり，また地域社会において経済的，社会的，文化的，環境的な観点から重要な役割を果たしています。本ゼミナールでは，そのような農業の果たす役割とその価値について考えます。
春学期は，当該年の共通テーマにそって基本的文献の輪読と議論を重ねます。またグループ研究の準備として文献サーベイをすすめます。秋学期は，現地調査をふまえた研究報告，論文作成に向けた最終報告をします。またディベートによって，農業・食料問題に関する理解を深め，発表態度，論理展開，機敏な対応力など高いレベルの能力を養います。

Agriculture is an important industry that produces the food that is indispensable for sustaining the lives of people and plays an important role in the community from the economic, social, cultural, and environmental perspectives. In this seminar students think about the roles played by agriculture and their value.
During the spring semester students will read and discuss basic literature following the theme for the year. A literature survey will also be conducted in preparation for the group research. During the fall semester the students will write research reports on their field work and give their final reports in preparation for writing their academic paper. Debates will also be held to deepen understanding of agricultural and food problems and to foster a high level of ability, such as for presentation manner, reasoning, and the ability to respond promptly.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 輪読
3. 輪読
4. 輪読
5. ディベート
6. ディベート
7. ディベート
8. 輪読
9. 輪読
10. 輪読
11. ゲスト講演
12. グループ研究(事前・予備報告)
13. グループ研究(事前・予備報告)
14. グループ研究(事前・予備報告)
15. グループ研究(調査報告)
16. グループ研究(調査報告)
17. グループ研究(調査報告)
18. ディベート
19. ディベート
20. ディベート
21. ディベート
22. ゲスト講演
23. 個人研究(中間報告)
24. 個人研究(中間報告)
25. 個人研究(中間報告)
26. 個人研究(最終報告)

27. 個人研究（最終報告）
28. 個人研究（最終報告）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

ゼミでの学習効果を高めるため，事前学習や準備内容について随時指示する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(40%)/授業期間内のレポート(30%)/最終レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

未定

参考文献（Readings）

未定

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

農林水産省『食料・農業・農村白書』
（http://www.maff.go.jp/j/wpaper/index.html）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	租税制度と地方経済の研究		
担当者名 (Instructor)	相良 貴裕(SAGARA TAKAHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現在の租税制度及び地方経済・財政について研究し、多角的に日本経済の現状を把握し、将来に活かせる知識の習得とそれを論じる力を身につけることを目標とします

In this course, we will research the current tax system along with the financial situations and economies of rural areas, grasping the present state of the Japanese economy from multiple angles. The objective of this course is for students to acquire knowledge that will benefit them in the future, as well as the ability to utilize this knowledge to discuss the topic at hand.

授業の内容(Course Contents)

現在の日本においては、大都市圏と地方とでの経済格差(財政・人口・インフラ等)が大きくなりつつあるという見方があります。しかしながら一方で、ビジネスチャンスを地方に求める大企業も少なくありません。
そのような日本経済の現状について"租税"と"地方経済"の二つを切り口に議論し、問題発見能力を養い、課題の解決に向けた意見の創出をしていくことを主眼としています。
そのためにまず、前半では参考となる文献の輪読及び租税に関するテキストを使用し、ベースとなる知識の習得を図ります。
後半では、学生自身が主体的にテーマ(課題)を決めた上で、大都市圏と各地方でのテーマ別比較考察、過去統計データの分析活用などを行いながら、多角的に日本経済の現状理解を深めていきます。
担当者(相良)は、過去に行われた税制改正が地方財政に与えた影響など、これまでの実務経験を踏まえながら必要な専門的アドバイスを提供し、学生自身の問題発見能力の向上を促します。
講義内ではグループディスカッションや討論会を積極的に実施し、アウトプット型の講義を行っていくつもりです。

There is a common viewpoint that the economic disparity (public finances, population, infrastructure, etc.) between large cities and rural areas is currently widening in present day Japan. However, on the other hand, the number of large corporations looking for business opportunities in rural areas is not small.
We will discuss this current state of the Japanese economy from the perspectives of “taxes” and “rural economies.” Students will foster their abilities to identify issues. Generating viewpoints geared towards solving these issues will be the main point of this course.
To that end, during the first half of the course students will read reference literature in turns and utilize various texts related to the subject of taxes. In doing this, we plan to lay the foundational knowledge upon which the rest of the course will be built.
In the latter half, students will independently decide upon a topic. They will conduct a comparative analysis of large cities and each rural area through the lens of their topic, performing a practical analysis using past statistical data. In doing so, they will deepen their understandings of the present state of the Japanese economy from multiple angles.
The instructor (Sagara) will discuss revisions to the tax system and their effects of rural economies, providing advice based on all of his practical experience while urging the students to sharpen their own ability to identify issues.
This course is focused on output; thus group discussions and debates will be actively held during the lectures.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス 総論
2. 所得税法の解説・議論
3. 法人税法の解説・議論
4. 消費税法の解説・議論
5. 相続税法の解説・議論
6. 地方税法の解説・議論
7. 租税制度のまとめ ディスカッション
8. 参考となる文献の輪読(1)
9. 参考となる文献の輪読(2)
10. 参考となる文献の輪読(3)
11. 参考となる文献の輪読(4)
12. 参考となる文献の輪読(5)
13. 統計データの活用・分析演習

14. 統計データの活用・分析演習
15. 参考となる文献の輪読（6）
16. 参考となる文献の輪読（7）
17. 参考となる文献の輪読（8）
18. 参考となる文献の輪読（9）
19. 参考となる文献の輪読（10）
20. 研究報告と議論（プレゼン・改善指導）
21. 研究報告と議論（プレゼン・質疑）
22. 研究報告と議論（プレゼン・改善指導）
23. 研究報告と議論（プレゼン・質疑）
24. 研究報告と議論（プレゼン・改善指導）
25. 研究報告と議論（プレゼン・質疑）
26. 最終報告（1）
27. 最終報告（2）
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時に提示します

成績評価方法・基準（Evaluation）

レジュメ作成(20%)/プレゼンテーション(20%)/討論会への参加(40%)/論文(20%)

テキスト（Textbooks）

担当者が提示したものの中からゼミ生が選択・決定します

参考文献（Readings）

1. 関口智編、2016、『地方財政・公会計制度の国際比較』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818824188)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	租税制度と地方経済の研究		
担当者名 (Instructor)	相良 貴裕(SAGARA TAKAHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現在の租税制度及び地方経済・財政について研究し、多角的に日本経済の現状を把握し、将来に活かせる知識の習得とそれを論じる力を身につけることを目標とします

In this course, we will research the current tax system along with the financial situations and economies of rural areas, grasping the present state of the Japanese economy from multiple angles. The objective of this course is for students to acquire knowledge that will benefit them in the future, as well as the ability to utilize this knowledge to discuss the topic at hand.

授業の内容(Course Contents)

現在の日本においては、大都市圏と地方とでの経済格差(財政・人口・インフラ等)が大きくなりつつあるという見方があります。しかしながら一方で、ビジネスチャンスを地方に求める大企業も少なくありません。
そのような日本経済の現状について"租税"と"地方経済"の二つを切り口に議論し、問題発見能力を養い、課題の解決に向けた意見の創出をしていくことを主眼としています。
そのためにまず、前半では参考となる文献の輪読及び租税に関するテキストを使用し、ベースとなる知識の習得を図ります。
後半では、学生自身が主体的にテーマ(課題)を決めた上で、大都市圏と各地方でのテーマ別比較考察、過去統計データの分析活用などを行いながら、多角的に日本経済の現状理解を深めていきます。
担当者(相良)は、過去に行われた税制改正が地方財政に与えた影響など、これまでの実務経験を踏まえながら必要な専門的アドバイスを提供し、学生自身の問題発見能力の向上を促します。
講義内ではグループディスカッションや討論会を積極的に実施し、アウトプット型の講義を行っていくつもりです。

There is a common viewpoint that the economic disparity (public finances, population, infrastructure, etc.) between large cities and rural areas is currently widening in present day Japan. However, on the other hand, the number of large corporations looking for business opportunities in rural areas is not small.
We will discuss this current state of the Japanese economy from the perspectives of “taxes” and “rural economies.” Students will foster their abilities to identify issues. Generating viewpoints geared towards solving these issues will be the main point of this course.
To that end, during the first half of the course students will read reference literature in turns and utilize various texts related to the subject of taxes. In doing this, we plan to lay the foundational knowledge upon which the rest of the course will be built.
In the latter half, students will independently decide upon a topic. They will conduct a comparative analysis of large cities and each rural area through the lens of their topic, performing a practical analysis using past statistical data. In doing so, they will deepen their understandings of the present state of the Japanese economy from multiple angles.
The instructor (Sagara) will discuss revisions to the tax system and their effects of rural economies, providing advice based on all of his practical experience while urging the students to sharpen their own ability to identify issues.
This course is focused on output; thus group discussions and debates will be actively held during the lectures.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス 総論
2. 所得税法の解説・議論
3. 法人税法の解説・議論
4. 消費税法の解説・議論
5. 相続税法の解説・議論
6. 地方税法の解説・議論
7. 租税制度のまとめ ディスカッション
8. 参考となる文献の輪読(1)
9. 参考となる文献の輪読(2)
10. 参考となる文献の輪読(3)
11. 参考となる文献の輪読(4)
12. 参考となる文献の輪読(5)
13. 統計データの活用・分析演習

14. 統計データの活用・分析演習
15. 参考となる文献の輪読（6）
16. 参考となる文献の輪読（7）
17. 参考となる文献の輪読（8）
18. 参考となる文献の輪読（9）
19. 参考となる文献の輪読（10）
20. 研究報告と議論（プレゼン・改善指導）
21. 研究報告と議論（プレゼン・質疑）
22. 研究報告と議論（プレゼン・改善指導）
23. 研究報告と議論（プレゼン・質疑）
24. 研究報告と議論（プレゼン・改善指導）
25. 研究報告と議論（プレゼン・質疑）
26. 最終報告（1）
27. 最終報告（2）
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時に提示します

成績評価方法・基準（Evaluation）

レジュメ作成(20%)/プレゼンテーション(20%)/討論会への参加(40%)/論文(20%)

テキスト（Textbooks）

担当者が提示したものの中からゼミ生が選択・決定します

参考文献（Readings）

1. 関口智編、2016、『地方財政・公会計制度の国際比較』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818824188)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の産業発展と企業経営 (Industrial Development and Corporate Management in China)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENGNAN)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

中国経済の成長と発展を支える産業と企業のダイナミズムを理解し、その実態を把握する。中国現地企業の訪問調査を企画・実施することを通じて、グローバル展開を行っている企業が、新卒者に求める即戦力(思考力、企画力、推進力、コミュニケーション力など)を養うことを目標とする。

To understand the dynamism of the industries and companies that support the growth and development of the Chinese economy and to grasp their situations. The objective of this course is to plan and conduct visit interviews of local Chinese companies to foster the skills needed by new graduates to contribute immediately in companies that are expanding globally (thinking ability, planning ability, ability to drive the work forward, communication ability, etc.).

授業の内容(Course Contents)

このゼミでは、中国経済のミクロ的な側面、とりわけ産業と企業の発展を理論的、実証的に把握するため、文献資料の学習と企業調査の実践を組み合わせる。具体的に、第一段階では、中国の産業発展と企業成長について分析した文献(テキスト)を精読することを通じて、基本的な知識を習得する。第二段階では、中国現地での企業訪問調査に関する企画(テーマと内容の設定、産業と企業の選定、グループ分け等)を立て、夏休み期間中に実施する。第三段階では、中国現地での企業訪問調査の成果をまとめた報告書を作成し、プレゼンテーションを行う(グループ別の共同作業)。第四段階(3、4 年生)では、現地企業の訪問調査と報告書の作成過程で明らかになった学習・研究課題を念頭に、中国の産業発展と企業経営に関連するテーマを設定し、研究分析し、最終レポートをまとめる。

This seminar combines the study of literature and practice of company studies to understand the Chinese economy from the micro perspective and especially to theoretically and empirically grasp the development of industries and companies. Specifically, during the first stage students will carefully read literature (textbook) analyzing Chinese industry development and company growth to gain basic knowledge. During the second stage students will prepare plans for company visit studies in China (set the theme and contents, select the industries and companies, divide into groups, etc.) and conduct these during the summer vacation period. During the third stage students will write their reports of the results of the company visit studies conducted in China and give related presentations (joint work by groups). During the fourth stage (3rd and 4th year students) the students will set their themes regarding Chinese industry development and company management keeping in mind the study and research issues they identified during the process of conducting the local company visit studies and creating their reports and then conduct the research and analysis and compile their final reports.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献輪読①
3. 文献輪読②
4. 文献輪読③
5. 文献輪読④
6. 文献輪読⑤
7. 文献輪読⑥
8. 文献輪読⑦
9. 文献輪読⑧
10. 中国現地企業調査の課題(産業、テーマ)の選定①
11. 中国現地企業調査の課題(産業、テーマ)の選定②
12. 中国現地での企業調査計画の作成①
13. 中国現地での企業調査計画の作成②
14. 中国現地での企業訪問・調査スケジュールの最終確定(春学期の最終回)
15. 企業訪問・調査①(夏休み期間中に実施)
16. 企業訪問・調査②(夏休み期間中に実施)
17. 企業訪問・調査③(夏休み期間中に実施)
18. 中国現地での企業調査報告の準備(プレゼンテーション資料の作成)①

19. 中国現地での企業調査報告の準備(プレゼンテーション資料の作成)②
20. 中国現地での企業調査報告の準備(プレゼンテーション資料の作成)③
21. 報告書の発表(プレゼンテーション)
22. 報告書の発表(プレゼンテーション)
23. 報告書の発表(プレゼンテーション)
24. 報告書の発表(プレゼンテーション)
25. 中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成
26. 中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成
27. 中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成
28. 総括(秋学期最終回)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日本経済新聞における本授業のテーマに関連する記事を日常的にチェックすることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レジュメ発表/プレゼンテーション(50%)/海外調査への取り組み/全体議論への参加度合(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 渡邊真理子編著、2013、『中国の産業はどのように発展してきたか』、勁草書房
2. 服部健治・湯浅健司・日本経済研究センター編著、2018、『中国　創造大国への道』、文眞堂

参考文献(Readings)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

夏休み期間中に、中国に赴き、現地企業の訪問調査を行う。期間は約 1 週間、費用は 10 万円程度を予定している。現地企業調査には、原則すべてのゼミ生の参加を求める。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国の産業発展と企業経営 (Industrial Development and Corporate Management in China)		
担当者名 (Instructor)	厳 成男(YAN CHENGNAN)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

中国経済の成長と発展を支える産業と企業のダイナミズムを理解し、その実態を把握する。中国現地企業の訪問調査を企画・実施することを通じて、グローバル展開を行っている企業が、新卒者に求める即戦力(思考力、企画力、推進力、コミュニケーション力など)を養うことを目標とする。

To understand the dynamism of the industries and companies that support the growth and development of the Chinese economy and to grasp their situations. The objective of this course is to plan and conduct visit interviews of local Chinese companies to foster the skills needed by new graduates to contribute immediately in companies that are expanding globally (thinking ability, planning ability, ability to drive the work forward, communication ability, etc.).

授業の内容(Course Contents)

このゼミでは、中国経済のミクロ的な側面、とりわけ産業と企業の発展を理論的、実証的に把握するため、文献資料の学習と企業調査の実践を組み合わせる。具体的に、第一段階では、中国の産業発展と企業成長について分析した文献(テキスト)を精読することを通じて、基本的な知識を習得する。第二段階では、中国現地での企業訪問調査に関する企画(テーマと内容の設定、産業と企業の選定、グループ分け等)を立て、夏休み期間中に実施する。第三段階では、中国現地での企業訪問調査の成果をまとめた報告書を作成し、プレゼンテーションを行う(グループ別の共同作業)。第四段階(3、4 年生)では、現地企業の訪問調査と報告書の作成過程で明らかになった学習・研究課題を念頭に、中国の産業発展と企業経営に関連するテーマを設定し、研究分析し、最終レポートをまとめる。

This seminar combines the study of literature and practice of company studies to understand the Chinese economy from the micro perspective and especially to theoretically and empirically grasp the development of industries and companies. Specifically, during the first stage students will carefully read literature (textbook) analyzing Chinese industry development and company growth to gain basic knowledge. During the second stage students will prepare plans for company visit studies in China (set the theme and contents, select the industries and companies, divide into groups, etc.) and conduct these during the summer vacation period. During the third stage students will write their reports of the results of the company visit studies conducted in China and give related presentations (joint work by groups). During the fourth stage (3rd and 4th year students) the students will set their themes regarding Chinese industry development and company management keeping in mind the study and research issues they identified during the process of conducting the local company visit studies and creating their reports and then conduct the research and analysis and compile their final reports.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献輪読①
3. 文献輪読②
4. 文献輪読③
5. 文献輪読④
6. 文献輪読⑤
7. 文献輪読⑥
8. 文献輪読⑦
9. 文献輪読⑧
10. 中国現地企業調査の課題(産業、テーマ)の選定①
11. 中国現地企業調査の課題(産業、テーマ)の選定②
12. 中国現地での企業調査計画の作成①
13. 中国現地での企業調査計画の作成②
14. 中国現地での企業訪問・調査スケジュールの最終確定(春学期の最終回)
15. 企業訪問・調査①(夏休み期間中に実施)
16. 企業訪問・調査②(夏休み期間中に実施)
17. 企業訪問・調査③(夏休み期間中に実施)
18. 中国現地での企業調査報告の準備(プレゼンテーション資料の作成)①

19. 中国現地での企業調査報告の準備(プレゼンテーション資料の作成)②
20. 中国現地での企業調査報告の準備(プレゼンテーション資料の作成)③
21. 報告書の発表(プレゼンテーション)
22. 報告書の発表(プレゼンテーション)
23. 報告書の発表(プレゼンテーション)
24. 報告書の発表(プレゼンテーション)
25. 中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成
26. 中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成
27. 中国企業、産業発展に関する調査報告レポートの作成
28. 総括(秋学期最終回)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日本経済新聞における本授業のテーマに関連する記事を日常的にチェックすることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レジュメ発表/プレゼンテーション(50%)/海外調査への取り組み/全体議論への参加度合(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 渡邊真理子編著、2013、『中国の産業はどのように発展してきたか』、勁草書房
2. 服部健治・湯浅健司・日本経済研究センター編著、2018、『中国　創造大国への道』、文眞堂

参考文献(Readings)

1. 厳成男、2011、『中国の経済発展と制度変化』、京都大学学術出版会
2. 加藤弘之・梶谷懐、2016、『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

夏休み期間中に、中国に赴き、現地企業の訪問調査を行う。期間は約 1 週間、費用は 10 万円程度を予定している。現地企業調査には、原則すべてのゼミ生の参加を求める。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の労働問題		
担当者名 (Instructor)	首藤 若菜(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

日本の雇用状況を実証的，構造的に把握し，労働を手掛かりにして現代社会の変容を考察します。

To imperially and structurally assess the state of Japanese employment and consider the changes to contemporary society using labor as a hint.

授業の内容(Course Contents)

現代日本の社会変動を理解するうえで，労働問題は避けて通ることのできない重要なテーマです。たとえば少子化は，男女労働者の仕事と生活の両立こそが解決のカギだと言われます。格差や貧困の拡大は，非正規労働者の増加や賃金制度の変化が影響を及ぼしています。このゼミでは，広く労働にかかわる問題を取り上げ，議論し，労働を手掛かりに，現代社会の変容を考察していきます。

ゼミでは，関連する文献を輪読し，討議することに加え，ディベートも頻繁におこないます。それらにより，知識の獲得だけでなく，論理的な思考力，分析能力や伝達能力を鍛えていきます。また人間の営みである「労働」を知るためには，本を読むだけでなく，現場を歩き，当事者や関係者の話を聞くことも大切です。そのため，ゲストスピーカーの招聘や実態調査も実施します。

さらに年2回(春・秋学期)，他大学との合同ゼミに参加し，研究発表をおこないます。研究発表では， 学年を超えたグループを作り，グループごとに実態調査や統計分析などをおこないます。最後にはゼミ全体で一本の論文を作り上げていきます。

このゼミでは，こうした活動すべてをゼミ生主体で進めています。研究テーマの設定，企業への調査依頼と企業訪問，ゲストスピーカーの選定などは，学生自らが担います。ゼミの仲間と協力し合い，苦労を重ねながらも，共同で何かを作り上げていくことは，大きな達成感と自信につながるはずです。意欲的な学生の参加を期待しています。

The labor problem is an unavoidable theme in understanding the societal changes in contemporary Japan. For example, the key to solving the low birthrate problem is said to be having a good work/life balance for both male and female workers. The increase in non-regular workers and changes to the wage system are affecting the expansion of the income disparity and poverty. This seminar broadly addresses and discusses the problems related to labor and uses labor as a hint for considering the changes in contemporary society.

During the seminar students will read and discuss related literature and engage is frequent debates. In this way the students not only acquire knowledge, but strengthen their ability to think logically, conduct analysis, and communicate. In addition, to learn about “labor,” which is a human activity, it is important to not just read books but to also go onsite and talk to the people and other related parties. For this reason, guest speakers will be invited to class and actual conditions will be surveyed.

Further, twice a year (spring and fall semesters) students will participate in joint seminars with other universities and give research presentations. For the research presentations, groups will be formed of students from different class years and each group will conduct actual conditions surveys and statistical analysis. In conclusion, a single paper for the entire seminar will be prepared.

In this seminar, the students will be leading all of these activities. The students themselves will be in charge of set the research themes, making study and visit requests to companies, selecting guest speakers, etc. Cooperating with seminar companions and work hard together to jointly create something leads to a great sense of achievement and confidence. The lecturer looks forward to ambitious students participating in this seminar.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告＆討論
3. 輪読書報告＆討論
4. ディベート
5. 輪読書報告＆討論
6. 輪読書報告＆討論
7. ディベート
8. 輪読書報告＆討論
9. グループ研究の調査分析
10. グループ研究の調査分析

11. グループ研究の中間報告＆討論
12. グループ研究の調査分析
13. グループ研究の最終報告＆討論
14. 春学期総括
15. 秋学期イントロダクション
16. 輪読書報告＆討論
17. 輪読書報告＆討論
18. ゲストスピーカーによる講演＆討論
19. 輪読書報告＆討論
20. ディベート
21. ディベート
22. グループ研究の調査分析
23. グループ研究の調査分析
24. ゲストスピーカーによる講演＆討論
25. グループ研究の調査分析
26. グループ研究の最終報告＆討論
27. 卒業論文発表会
28. 卒業論文発表会＆年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業のなかで，適宜指示します。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(20%)/討論(30%)/グループ研究およびグループ論文への主体的参加(4 年生は卒業論文)(50%)

テキスト（Textbooks）

未定。授業時に指示します。

参考文献（Readings）

課題に応じ，適宜紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の労働問題		
担当者名 (Instructor)	首藤 若菜(SHUTO WAKANA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

日本の雇用状況を実証的，構造的に把握し，労働を手掛かりにして現代社会の変容を考察します。

To imperially and structurally assess the state of Japanese employment and consider the changes to contemporary society using labor as a hint.

授業の内容(Course Contents)

現代日本の社会変動を理解するうえで，労働問題は避けて通ることのできない重要なテーマです。たとえば少子化は，男女労働者の仕事と生活の両立こそが解決のカギだと言われます。格差や貧困の拡大は，非正規労働者の増加や賃金制度の変化が影響を及ぼしています。このゼミでは，広く労働にかかわる問題を取り上げ，議論し，労働を手掛かりに，現代社会の変容を考察していきます。

ゼミでは，関連する文献を輪読し，討議することに加え，ディベートも頻繁におこないます。それらにより，知識の獲得だけでなく，論理的な思考力，分析能力や伝達能力を鍛えていきます。また人間の営みである「労働」を知るためには，本を読むだけでなく，現場を歩き，当事者や関係者の話を聞くことも大切です。そのため，ゲストスピーカーの招聘や実態調査も実施します。

さらに年2回(春・秋学期)，他大学との合同ゼミに参加し，研究発表をおこないます。研究発表では， 学年を超えたグループを作り，グループごとに実態調査や統計分析などをおこないます。最後にはゼミ全体で一本の論文を作り上げていきます。

このゼミでは，こうした活動すべてをゼミ生主体で進めています。研究テーマの設定，企業への調査依頼と企業訪問，ゲストスピーカーの選定などは，学生自らが担います。ゼミの仲間と協力し合い，苦労を重ねながらも，共同で何かを作り上げていくことは，大きな達成感と自信につながるはずです。意欲的な学生の参加を期待しています。

The labor problem is an unavoidable theme in understanding the societal changes in contemporary Japan. For example, the key to solving the low birthrate problem is said to be having a good work/life balance for both male and female workers. The increase in non-regular workers and changes to the wage system are affecting the expansion of the income disparity and poverty. This seminar broadly addresses and discusses the problems related to labor and uses labor as a hint for considering the changes in contemporary society.

During the seminar students will read and discuss related literature and engage is frequent debates. In this way the students not only acquire knowledge, but strengthen their ability to think logically, conduct analysis, and communicate. In addition, to learn about “labor,” which is a human activity, it is important to not just read books but to also go onsite and talk to the people and other related parties. For this reason, guest speakers will be invited to class and actual conditions will be surveyed.

Further, twice a year (spring and fall semesters) students will participate in joint seminars with other universities and give research presentations. For the research presentations, groups will be formed of students from different class years and each group will conduct actual conditions surveys and statistical analysis. In conclusion, a single paper for the entire seminar will be prepared.

In this seminar, the students will be leading all of these activities. The students themselves will be in charge of set the research themes, making study and visit requests to companies, selecting guest speakers, etc. Cooperating with seminar companions and work hard together to jointly create something leads to a great sense of achievement and confidence. The lecturer looks forward to ambitious students participating in this seminar.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告＆討論
3. 輪読書報告＆討論
4. ディベート
5. 輪読書報告＆討論
6. 輪読書報告＆討論
7. ディベート
8. 輪読書報告＆討論
9. グループ研究の調査分析
10. グループ研究の調査分析

11. グループ研究の中間報告＆討論
12. グループ研究の調査分析
13. グループ研究の最終報告＆討論
14. 春学期総括
15. 秋学期イントロダクション
16. 輪読書報告＆討論
17. 輪読書報告＆討論
18. ゲストスピーカーによる講演＆討論
19. 輪読書報告＆討論
20. ディベート
21. ディベート
22. グループ研究の調査分析
23. グループ研究の調査分析
24. ゲストスピーカーによる講演＆討論
25. グループ研究の調査分析
26. グループ研究の最終報告＆討論
27. 卒業論文発表会
28. 卒業論文発表会＆年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業のなかで，適宜指示します。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(20%)/討論(30%)/グループ研究およびグループ論文への主体的参加(4 年生は卒業論文)(50%)

テキスト（Textbooks）

未定。授業時に指示します。

参考文献（Readings）

課題に応じ，適宜紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	税実務から考える租税法		
担当者名 (Instructor)	鈴木 佑介(SUZUKI YUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

・企業経営を取り巻く税を理解する。
・人生のライフサイクルにおいて関わる税を理解する。
・税を理解することは当然のこととし、社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を磨く。

・Students will come to understand the taxes surrounding business management.
・Students will come to understand the taxes relating to the human life cycle.
・Students will come to see understanding taxes as something to be expected, while sharpening their practical communication skills that will be necessary for them as part of society.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミの第一の目的は、会社や個人に関わる税金の構造を理解することで、税金アレルギーをなくしておくことで、社会に出た後の実務効率を向上させることにあります。
税と聞いただけでアレルギー反応がでてしまう人は世の中では少なくありません。税理士という業界に身を置き世の中を見渡すと、大半の人が「税が苦手・嫌い」と思っていることが良くわかります。ただビジネスの世界では、経営者や、経理担当者、また商品開発担当から営業まで、税金の知識は絶対的に必要です。税金は企業経営にとって大きなコストとなる為、ビジネス上必要不可欠な知識です。それは一個人として生活するうえでも全く同じことが言えます。
　その一方で、今後社会に出ていくゼミ生に向け、自分で考え自発的に行動する能力、自分の意見を他人に伝える能力の重要性も、本ゼミの中で伝えたいと思っています。より実践的なコミュニケーションスキルとして①行動力②回答力③説得力を向上させる場を作っていきます。

The primary goal of this seminar is for students to comprehend the structure of taxes relating to businesses and individuals. In doing so, they can get rid of their “tax allergy,” enabling them to have a higher work efficiency after entering society.
The number of people in the world who suffer an allergic reaction from simply hearing the word “taxes” is not small. When entering the business of tax accounting and surveying the world, one quickly realizes that the majority of people think “I’m not good with taxes” or “I hate taxes.” However, in the business world, from managers to accountants and from product developers to salesmen, knowledge of taxes is an absolute necessity. Taxes represent a large cost when managing a company, so knowledge of taxes is indispensable in order to conduct business. One could say the exact same thing regarding life as an individual.
　At the same time, this seminar is aimed at attendees who will soon go out into society. We plan to convey the importance of the ability to think for oneself and act of one’s on volition as well as the ability to communicate one’s opinions to others. This course aims to be a place for students to sharpen their practical communication skills, specifically 1) the ability to act, 2) the ability to answer, and 3) the ability to persuade.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 所得税の基本を理解する①(プレゼン・解説・質疑)
3. 所得税の基本を理解する②(プレゼン・解説・質疑)
4. 所得税の基本を理解する③(プレゼン・解説・質疑)
5. 所得税の基本を理解する④(プレゼン・解説・質疑)
6. 個人事業主と税問題 ex.プロスポーツ選手、芸能人、等
7. 実務上での所得税問題 ex.ふるさと納税の実態、等
8. 所得税討論会(プレゼン・解説・討論)
9. 法人税の基本を理解する①(プレゼン・解説・質疑)
10. 法人税の基本を理解する②(プレゼン・解説・質疑)
11. 法人税の基本を理解する③(プレゼン・解説・質疑)
12. 法人税の基本を理解する④(プレゼン・解説・質疑)
13. スタートアップ企業と会計税務の実態
14. 中小企業／上場企業と会計税務の実態

15. 法人と税問題　ex.国外関連会社を使った租税回避問題、等
16. 法人税討論会（プレゼン・解説・討論）
17. 消費税の基本を理解する（解説・質疑）
18. これから始まる消費税軽減税率とは
19. 実務上での消費税問題　ex.益税問題、等
20. 消費税討論会（プレゼン・解説・討論）
21. 相続税・贈与税の基本を理解する①（プレゼン・解説・質疑）
22. 相続税・贈与税の基本を理解する②（プレゼン・解説・質疑）
23. 相続税・贈与税の基本を理解する②（プレゼン・解説・質疑）
24. 資産税討論会（プレゼン・解説・討論）
25. 討論会（プレゼン・改善指導・全体調整作業）
26. 討論会（プレゼン・改善指導・全体調整作業）
27. 討論会（プレゼン・改善指導・全体調整作業）
28. 全体総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回、復習と予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席及び複数回のプレゼンテーション(70%)/レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

授業内で指示する。

参考文献（Readings）

授業内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	税実務から考える租税法		
担当者名 (Instructor)	鈴木 佑介(SUZUKI YUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

・企業経営を取り巻く税を理解する。
・人生のライフサイクルにおいて関わる税を理解する。
・税を理解することは当然のこととし、社会で通用する実践的なコミュニケーション能力を磨く。

・Students will come to understand the taxes surrounding business management.
・Students will come to understand the taxes relating to the human life cycle.
・Students will come to see understanding taxes as something to be expected, while sharpening their practical communication skills that will be necessary for them as part of society.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミの第一の目的は、会社や個人に関わる税金の構造を理解することで、税金アレルギーをなくしておくことで、社会に出た後の実務効率を向上させることにあります。
税と聞いただけでアレルギー反応がでてしまう人は世の中では少なくありません。税理士という業界に身を置き世の中を見渡すと、大半の人が「税が苦手・嫌い」と思っていることが良くわかります。ただビジネスの世界では、経営者や、経理担当者、また商品開発担当から営業まで、税金の知識は絶対的に必要です。税金は企業経営にとって大きなコストとなる為、ビジネス上必要不可欠な知識です。それは一個人として生活するうえでも全く同じことが言えます。
　その一方で、今後社会に出ていくゼミ生に向け、自分で考え自発的に行動する能力、自分の意見を他人に伝える能力の重要性も、本ゼミの中で伝えたいと思っています。より実践的なコミュニケーションスキルとして①行動力②回答力③説得力を向上させる場を作っていきます。

The primary goal of this seminar is for students to comprehend the structure of taxes relating to businesses and individuals. In doing so, they can get rid of their “tax allergy,” enabling them to have a higher work efficiency after entering society.
The number of people in the world who suffer an allergic reaction from simply hearing the word “taxes” is not small. When entering the business of tax accounting and surveying the world, one quickly realizes that the majority of people think “I’m not good with taxes” or “I hate taxes.” However, in the business world, from managers to accountants and from product developers to salesmen, knowledge of taxes is an absolute necessity. Taxes represent a large cost when managing a company, so knowledge of taxes is indispensable in order to conduct business. One could say the exact same thing regarding life as an individual.
　At the same time, this seminar is aimed at attendees who will soon go out into society. We plan to convey the importance of the ability to think for oneself and act of one’s on volition as well as the ability to communicate one’s opinions to others. This course aims to be a place for students to sharpen their practical communication skills, specifically 1) the ability to act, 2) the ability to answer, and 3) the ability to persuade.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 所得税の基本を理解する①(プレゼン・解説・質疑)
3. 所得税の基本を理解する②(プレゼン・解説・質疑)
4. 所得税の基本を理解する③(プレゼン・解説・質疑)
5. 所得税の基本を理解する④(プレゼン・解説・質疑)
6. 個人事業主と税問題 ex.プロスポーツ選手、芸能人、等
7. 実務上での所得税問題 ex.ふるさと納税の実態、等
8. 所得税討論会(プレゼン・解説・討論)
9. 法人税の基本を理解する①(プレゼン・解説・質疑)
10. 法人税の基本を理解する②(プレゼン・解説・質疑)
11. 法人税の基本を理解する③(プレゼン・解説・質疑)
12. 法人税の基本を理解する④(プレゼン・解説・質疑)
13. スタートアップ企業と会計税務の実態
14. 中小企業／上場企業と会計税務の実態

15. 法人と税問題　ex.国外関連会社を使った租税回避問題、等
16. 法人税討論会（プレゼン・解説・討論）
17. 消費税の基本を理解する（解説・質疑）
18. これから始まる消費税軽減税率とは
19. 実務上での消費税問題　ex.益税問題、等
20. 消費税討論会（プレゼン・解説・討論）
21. 相続税・贈与税の基本を理解する①（プレゼン・解説・質疑）
22. 相続税・贈与税の基本を理解する②（プレゼン・解説・質疑）
23. 相続税・贈与税の基本を理解する②（プレゼン・解説・質疑）
24. 資産税討論会（プレゼン・解説・討論）
25. 討論会（プレゼン・改善指導・全体調整作業）
26. 討論会（プレゼン・改善指導・全体調整作業）
27. 討論会（プレゼン・改善指導・全体調整作業）
28. 全体総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回、復習と予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席及び複数回のプレゼンテーション(70%)/レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

授業内で指示する。

参考文献（Readings）

授業内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代企業の研究		
担当者名 (Instructor)	関 智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

本ゼミナールの目標は，経済学および経営学の企業理論をベースに，現実の企業課題について分析を行い，学生一人ひとりがその解決策について独自の見解を持つこと，である。

The objective of this seminar is to analyze actual company issues based on economics and business management company theory and for each student to form his or her own opinions about solutions to these problems.

授業の内容(Course Contents)

なぜ，企業は最適な技術変化から最大利潤を実現し得ないのか。経済学的には，それは内部組織の非効率性に目を向けることであり，経営学的には，それは戦略や組織構造の有効性に目を向けることでもある。ゼミナールの議論では，こうした二つの視点を常に意識することで，現代企業が直面する多様な課題解決に向けた，客観的な分析視角の醸成を目指している。

Why do not companies realize the maximum profit from the optimum technological changes? To answer that question, economics looks at the inefficiencies within the organization, and business management looks at the effectiveness of the strategy and organizational structure. The seminar discussion continuously recognizes these two perspectives with the aim of fostering an objective analytical perspective in preparation for solving the diverse issues that face contemporary companies.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書，2 年報告＆討論 1，3 年報告＆討論 1
3. 輪読書，2 年報告＆討論 2，3 年報告＆討論 2
4. 輪読書，2 年報告＆討論 3，3 年報告＆討論 3
5. 輪読書，2 年報告＆討論 4，3 年報告＆討論 4
6. 輪読書，2 年報告＆討論 5，3 年報告＆討論 5
7. 輪読書，2 年報告＆討論 6，3 年報告＆討論 6
8. 輪読書，2 年報告＆討論 7，3 年報告＆討論 7
9. 輪読書，2 年報告＆討論 8，3 年報告＆討論 8
10. 輪読書，2 年報告＆討論 9，3 年報告＆討論 9
11. 輪読書，2 年報告＆討論 10，3 年報告＆討論 10
12. 輪読書，2 年報告＆討論 11，3 年報告＆討論 11
13. 輪読書，2 年報告＆討論 12，3 年報告＆討論 12
14. 卒業論文，4 年中間報告＆討論
15. 秋学期イントロダクション
16. 輪読書，2 年報告＆討論 1，3 年報告＆討論 1
17. 輪読書，2 年報告＆討論 2，3 年報告＆討論 2
18. 輪読書，2 年報告＆討論 3，3 年報告＆討論 3
19. 輪読書，2 年報告＆討論 4，3 年報告＆討論 4
20. 輪読書，2 年報告＆討論 5，3 年報告＆討論 5
21. 輪読書，2 年報告＆討論 6，3 年報告＆討論 6
22. 輪読書，2 年報告＆討論 7，3 年報告＆討論 7
23. 輪読書，2 年報告＆討論 8，3 年報告＆討論 8
24. 輪読書，2 年報告＆討論 9，3 年報告＆討論 9
25. 輪読書，2 年報告＆討論 10，3 年報告＆討論 10
26. 輪読書，2 年報告＆討論 11，3 年報告＆討論 11
27. 輪読書，2 年報告＆討論 12，3 年報告＆討論 12
28. 卒業論文，4 年最終報告＆討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(50%)/報告と議論(50%)
課外活動の内訳は，2 年生:学外プレゼン大会，学内討論会，3 年生:海外研修(要相談)，学外討論会，4 年生: 卒業論文，全学年:夏合宿，春合宿，工場見学，等である。

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤秀史、2012 年、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣 (ISBN:ISBN4641163979)
2. 清田耕造、2015 年、『拡大する直接投資と日本企業』、エヌティティ出版 (ISBN:ISBN4757123191)
3. 琴坂将広、2014 年、『領域を超える経営学』、ダイヤモンド社 (ISBN:ISBN447802720X)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

http://www.facebook.com/zemi.seki

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代企業の研究		
担当者名 (Instructor)	関 智一(SEKI TOMOKAZU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

本ゼミナールの目標は，経済学および経営学の企業理論をベースに，現実の企業課題について分析を行い，学生一人ひとりがその解決策について独自の見解を持つこと，である。

The objective of this seminar is to analyze actual company issues based on economics and business management company theory and for each student to form his or her own opinions about solutions to these problems.

授業の内容(Course Contents)

なぜ，企業は最適な技術変化から最大利潤を実現し得ないのか。経済学的には，それは内部組織の非効率性に目を向けることであり，経営学的には，それは戦略や組織構造の有効性に目を向けることでもある。ゼミナールの議論では，こうした二つの視点を常に意識することで，現代企業が直面する多様な課題解決に向けた，客観的な分析視角の醸成を目指している。

Why do not companies realize the maximum profit from the optimum technological changes? To answer that question, economics looks at the inefficiencies within the organization, and business management looks at the effectiveness of the strategy and organizational structure. The seminar discussion continuously recognizes these two perspectives with the aim of fostering an objective analytical perspective in preparation for solving the diverse issues that face contemporary companies.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書，2 年報告＆討論 1，3 年報告＆討論 1
3. 輪読書，2 年報告＆討論 2，3 年報告＆討論 2
4. 輪読書，2 年報告＆討論 3，3 年報告＆討論 3
5. 輪読書，2 年報告＆討論 4，3 年報告＆討論 4
6. 輪読書，2 年報告＆討論 5，3 年報告＆討論 5
7. 輪読書，2 年報告＆討論 6，3 年報告＆討論 6
8. 輪読書，2 年報告＆討論 7，3 年報告＆討論 7
9. 輪読書，2 年報告＆討論 8，3 年報告＆討論 8
10. 輪読書，2 年報告＆討論 9，3 年報告＆討論 9
11. 輪読書，2 年報告＆討論 10，3 年報告＆討論 10
12. 輪読書，2 年報告＆討論 11，3 年報告＆討論 11
13. 輪読書，2 年報告＆討論 12，3 年報告＆討論 12
14. 卒業論文，4 年中間報告＆討論
15. 秋学期イントロダクション
16. 輪読書，2 年報告＆討論 1，3 年報告＆討論 1
17. 輪読書，2 年報告＆討論 2，3 年報告＆討論 2
18. 輪読書，2 年報告＆討論 3，3 年報告＆討論 3
19. 輪読書，2 年報告＆討論 4，3 年報告＆討論 4
20. 輪読書，2 年報告＆討論 5，3 年報告＆討論 5
21. 輪読書，2 年報告＆討論 6，3 年報告＆討論 6
22. 輪読書，2 年報告＆討論 7，3 年報告＆討論 7
23. 輪読書，2 年報告＆討論 8，3 年報告＆討論 8
24. 輪読書，2 年報告＆討論 9，3 年報告＆討論 9
25. 輪読書，2 年報告＆討論 10，3 年報告＆討論 10
26. 輪読書，2 年報告＆討論 11，3 年報告＆討論 11
27. 輪読書，2 年報告＆討論 12，3 年報告＆討論 12
28. 卒業論文，4 年最終報告＆討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(50%)/報告と議論(50%)
課外活動の内訳は，2 年生:学外プレゼン大会，学内討論会，3 年生:海外研修(要相談)，学外討論会，4 年生: 卒業論文，全学年:夏合宿，春合宿，工場見学，等である。

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤秀史、2012 年、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣 (ISBN:ISBN4641163979)
2. 清田耕造、2015 年、『拡大する直接投資と日本企業』、エヌティティ出版 (ISBN:ISBN4757123191)
3. 琴坂将広、2014 年、『領域を超える経営学』、ダイヤモンド社 (ISBN:ISBN447802720X)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

http://www.facebook.com/zemi.seki

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会問題と社会保障の計量分析		
担当者名 (Instructor)	安藤 道人(ANDO MICHIHITO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

(1) 「社会問題」や「社会保障」について、経済学的・社会科学的な観点から問いを立て、考察できる力を身に着ける。
(2) (1)で考察したことを、公開されている各種の統計を用いて分析・検証できる力を身に着ける。
(3) (1)や(2)で考察・分析した事柄を、説得的なレポート・論文としてまとめる力やわかりやすくプレゼンする力を身に着ける。

(1) To acquire the ability to form questions and think about social problems and social insurance from an economics and social science perspective.
(2) To acquire the ability to analyze and verify what was considered in (1) using various public statistics.
(3) To acquire the ability to write convincing reports and papers and to give easy-to-understand presentations about what was thought about and analyzed in (1) and (2).

授業の内容(Course Contents)

経済学をはじめとする社会科学の基本は、新しい知識を蓄えることではなく、人・経済・社会を観察・考察する「方法」を学ぶことです。従って、まずは輪読を通じて、経済学や他の社会科学の「方法」を用いて人や社会や経済を観察・考察するとはどういうことかを学びます。具体的に、何を題材として社会科学の方法を学ぶのかは、ゼミ生と相談して決定しますが、原則として社会問題や社会保障を題材とします。

その上で、人や社会や経済を「観察・考察する方法」だけでなく、「統計データを用いて分析する方法」についても学びます。具体的には、統計学・計量経済学関連の学部授業を別途履修することを前提に、エクセルソフトと R という計量分析ソフトを用いたデータ整理および統計・計量分析を行えるように演習を行います。

レポート執筆については、(1)社会問題や社会保障について経済学的・社会科学的な問いや仮説を組み立てて、(2)その問い・仮説について公開されている統計データを用いて分析・検証し、(3)問い・仮説・分析結果を説得的なレポート・論文としてまとめ、わかりやすくプレゼンする力を養うことに重点を置きます。

The foundation of economics and other social sciences is to learn the methodology for observing and considering people, the economy, and society rather than accumulating new knowledge. Therefore, first students will learn what it means to observe and consider people, society, and the economy using the methodology of economics and other social sciences. Specifically, the lecturer will consult with the students to determine what subject matter to use to study social science methodologies, but in principle the subject matter will be social problems and social security.
After that, students will learn not only the methodologies for observing and considering people, society, and the economy, but also how to conduct analysis using statistical data. Specifically, it is presumed that participating students have taken separate classes in statistics and econometrics from the college, so in this course they will practice organizing data and conducting statistical and quantitative analysis using Excel and the R programming language.
In writing their reports, it is important for students to foster the ability to (1) formulate economic and social science questions and hypotheses about social problems and social security, (2) analyze and verity those questions and hypotheses using public statistical data, and (3) write a convincing report or paper on those questions, hypotheses, and analytical results and to give an easy-to-understand presentation on them.

授業計画(Course Schedule)

1. 輪読と計量分析演習
2. 輪読と計量分析演習
3. 輪読と計量分析演習
4. 輪読と計量分析演習
5. レポートの「型」と「作法」について
6. 映画・ドキュメンタリー鑑賞
7. 輪読と計量分析演習
8. 輪読と計量分析演習
9. 輪読と計量分析演習

10. 輪読と計量分析演習
11. 輪読と計量分析演習
12. 輪読と計量分析演習
13. 輪読と計量分析演習
14. レポートのアイデアについての議論
15. レポートのアイデアについての議論
16. 輪読と計量分析演習
17. 輪読と計量分析演習
18. レポート中間報告
19. 輪読と計量分析演習
20. 輪読と計量分析演習
21. 輪読と計量分析演習
22. 輪読と計量分析演習
23. 映画・ドキュメンタリー鑑賞
24. 輪読と計量分析演習
25. 輪読と計量分析演習
26. レポート報告と議論
27. レポート報告と議論
28. レポート報告と議論

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

〇輪読対象となる本や論文や資料をきちんと読み、日々考察することが必要です。
〇輪読においては予習と報告/発言準備、計量分析演習においては復習が必要となります。
〇プレゼン資料やレポート資料の作成準備時間が必要となります。年1本、ショートレポート（A4で 10 枚程度以上）を執筆して報告して頂きます。
〇学部レベルの情報処理・統計学・計量経済学の講義を履修済み，あるいは同時に履修することがゼミ参加の前提となります。
◯事務連絡や進捗管理は、Slack などのプロジェクト管理ツールを利用します。また Zoom などのオンライン会議ツールを活用することもあります。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/ゼミ参加(60%)

テキスト（Textbooks）

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar を参照してください。

参考文献（Readings）

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar を参照してください。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

教員ウェブサイト https://sites.google.com/site/michihito7ando/
教員ウェブサイトのゼミのページ https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会問題と社会保障の計量分析		
担当者名 (Instructor)	安藤 道人(ANDO MICHIHITO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

(1) 「社会問題」や「社会保障」について、経済学的・社会科学的な観点から問いを立て、考察できる力を身に着ける。
(2) (1)で考察したことを、公開されている各種の統計を用いて分析・検証できる力を身に着ける。
(3) (1)や(2)で考察・分析した事柄を、説得的なレポート・論文としてまとめる力やわかりやすくプレゼンする力を身に着ける。

(1) To acquire the ability to form questions and think about social problems and social insurance from an economics and social science perspective.
(2) To acquire the ability to analyze and verify what was considered in (1) using various public statistics.
(3) To acquire the ability to write convincing reports and papers and to give easy-to-understand presentations about what was thought about and analyzed in (1) and (2).

授業の内容(Course Contents)

経済学をはじめとする社会科学の基本は、新しい知識を蓄えることではなく、人・経済・社会を観察・考察する「方法」を学ぶことです。従って、まずは輪読を通じて、経済学や他の社会科学の「方法」を用いて人や社会や経済を観察・考察するとはどういうことかを学びます。具体的に、何を題材として社会科学の方法を学ぶのかは、ゼミ生と相談して決定しますが、原則として社会問題や社会保障を題材とします。

その上で、人や社会や経済を「観察・考察する方法」だけでなく、「統計データを用いて分析する方法」についても学びます。具体的には、統計学・計量経済学関連の学部授業を別途履修することを前提に、エクセルソフトと R という計量分析ソフトを用いたデータ整理および統計・計量分析を行えるように演習を行います。

レポート執筆については、(1)社会問題や社会保障について経済学的・社会科学的な問いや仮説を組み立てて、(2)その問い・仮説について公開されている統計データを用いて分析・検証し、(3)問い・仮説・分析結果を説得的なレポート・論文としてまとめ、わかりやすくプレゼンする力を養うことに重点を置きます。

The foundation of economics and other social sciences is to learn the methodology for observing and considering people, the economy, and society rather than accumulating new knowledge. Therefore, first students will learn what it means to observe and consider people, society, and the economy using the methodology of economics and other social sciences. Specifically, the lecturer will consult with the students to determine what subject matter to use to study social science methodologies, but in principle the subject matter will be social problems and social security.
After that, students will learn not only the methodologies for observing and considering people, society, and the economy, but also how to conduct analysis using statistical data. Specifically, it is presumed that participating students have taken separate classes in statistics and econometrics from the college, so in this course they will practice organizing data and conducting statistical and quantitative analysis using Excel and the R programming language.
In writing their reports, it is important for students to foster the ability to (1) formulate economic and social science questions and hypotheses about social problems and social security, (2) analyze and verity those questions and hypotheses using public statistical data, and (3) write a convincing report or paper on those questions, hypotheses, and analytical results and to give an easy-to-understand presentation on them.

授業計画(Course Schedule)

1. 輪読と計量分析演習
2. 輪読と計量分析演習
3. 輪読と計量分析演習
4. 輪読と計量分析演習
5. レポートの「型」と「作法」について
6. 映画・ドキュメンタリー鑑賞
7. 輪読と計量分析演習
8. 輪読と計量分析演習
9. 輪読と計量分析演習

10. 輪読と計量分析演習
11. 輪読と計量分析演習
12. 輪読と計量分析演習
13. 輪読と計量分析演習
14. レポートのアイデアについての議論
15. レポートのアイデアについての議論
16. 輪読と計量分析演習
17. 輪読と計量分析演習
18. レポート中間報告
19. 輪読と計量分析演習
20. 輪読と計量分析演習
21. 輪読と計量分析演習
22. 輪読と計量分析演習
23. 映画・ドキュメンタリー鑑賞
24. 輪読と計量分析演習
25. 輪読と計量分析演習
26. レポート報告と議論
27. レポート報告と議論
28. レポート報告と議論

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

〇輪読対象となる本や論文や資料をきちんと読み、日々考察することが必要です。
〇輪読においては予習と報告/発言準備、計量分析演習においては復習が必要となります。
〇プレゼン資料やレポート資料の作成準備時間が必要となります。年1本、ショートレポート（A4で 10 枚程度以上）を執筆して報告して頂きます。
〇学部レベルの情報処理・統計学・計量経済学の講義を履修済み，あるいは同時に履修することがゼミ参加の前提となります。
◯事務連絡や進捗管理は、Slack などのプロジェクト管理ツールを利用します。また Zoom などのオンライン会議ツールを活用することもあります。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/ゼミ参加(60%)

テキスト（Textbooks）

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar を参照してください。

参考文献（Readings）

前もってテキストや参考文献の指定はしません。これまでのテキストや参考文献については、教員ウェブサイトのゼミのページ https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar を参照してください。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

教員ウェブサイト https://sites.google.com/site/michihito7ando/
教員ウェブサイトのゼミのページ https://sites.google.com/site/michihito7ando/lectures/ando_seminar

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務諸表から企業をみる目を養う。		
担当者名 (Instructor)	山田 康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

本演習は，財務諸表分析の様々な手法を学び，その知識を駆使していかに現代の会計問題を議論できるかという技術の習得を目指している。

The aim of this seminar is to learn the various methods for analyzing financial statements and then to practice them to utilize that knowledge as far as possible to be able to discuss contemporary accounting problems.

授業の内容(Course Contents)

2年生および3年生：まず，財務会計の基本的なテキストを学ぶ。伝統的な会計理論（損益会計，資産・負債・資本会計）か新会計基準のいずれか（または両方）を中心に扱うかは参加者と相談のうえ決定する。次に，財務諸表分析の基本的なテキストを学ぶ。収益性，効率性，安全性，成長性などの伝統的な分析手法について学ぶ。
4年生：卒業論文の執筆をおこなう。財務会計の範囲内で，自由にテーマを決定する。最初に論文の書き方や文献検索の仕方を説明する。後は毎回書き進んだ所までを報告してもらい，それに対して教員がコメントし，それに基づき修正していくということを毎週繰り返す。
2・3年生については，基本的には，テキストの輪読形式でおこない，担当者の報告に対して，皆で疑問点を訊いたり，ディスカッションをおこなったりする。
4年生については，各自でテーマを設定し，論文の執筆を進める。

2nd and 3rd year students: First a basic textbook on financial accounting will be studied. The lecturer will decide whether to cover traditional accounting theory (profit and loss accounting; assets, liabilities, capital accounting) or the new accounting standards (or both) in consultation with participating students. Next, students will study a basic textbook on analyzing financial statements. Students will learn traditional analytical methods, such as profitability, efficiency, safeness, and growth potential.
4th year students: Students will write their graduation thesis. Students can freely set their theme within the scope of financial accounting. At first the way to write a thesis and how to search the literature will be explained. After that, during each class students will report on the progress they have made to date, the lecturer will comment on that, and then based on those comments the students will revise their work, and this process will be repeated each week.
2nd and 3rd year students will basically read their textbook and everyone will ask questions about and discuss the reports that are given.
4th year students will each set their own theme and write their papers.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
   投資とバリュエーション入門
2. 財務諸表入門
3. 財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるか
4. 現金主義会計，発生主義会計，割引キャッシュフロー評価
5. 発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング
6. 発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング
7. バリュエーションとアクティブ投資
8. 株主持分計算書の分析
9. 貸借対照表と損益計算書の分析
10. キャッシュフロー計算書の分析
11. 収益性の分析
12. 成長性と持続可能利益の分析
13. 事業活動の価値と事業 PBR・事業 PER の評価
14. 財務諸表に基づく単純な予測と単純なバリュエーション
15. 最大限の情報を用いた予測，バリュエーション，事業戦略分析
16. 財務諸表の質の分析
17. インゼミに向けた準備

18. インゼミに向けた準備
19. インゼミに向けた準備
20. インゼミに向けた準備
21. インゼミに向けた準備
22. インゼミに向けた準備
23. インゼミに向けた準備
24. インゼミに向けた準備
25. インゼミに向けた準備
26. インゼミに向けた準備
27. インゼミに向けた準備
28. インゼミに向けた準備

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回，テキストの該当箇所を読んでおく。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(50%)/プレゼンテーション(10%)/討論(40%)
課外授業（合宿など）への参加も必須である。

テキスト（Textbooks）

1. 荒田映子他、2018、『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション　原書第 5 版』、有斐閣 (ISBN:9784641165236)

参考文献（Readings）

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門 増補版』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

登録はそれぞれの学年のコマで行ってもらうが，受講は A，B 連続で行うことを前提とする。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務諸表から企業をみる目を養う。		
担当者名 (Instructor)	山田 康裕(YAMADA YASUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

本演習は，財務諸表分析の様々な手法を学び，その知識を駆使していかに現代の会計問題を議論できるかという技術の習得を目指している。

The aim of this seminar is to learn the various methods for analyzing financial statements and then to practice them to utilize that knowledge as far as possible to be able to discuss contemporary accounting problems.

授業の内容(Course Contents)

2年生および3年生：まず，財務会計の基本的なテキストを学ぶ。伝統的な会計理論（損益会計，資産・負債・資本会計）か新会計基準のいずれか（または両方）を中心に扱うかは参加者と相談のうえ決定する。次に，財務諸表分析の基本的なテキストを学ぶ。収益性，効率性，安全性，成長性などの伝統的な分析手法について学ぶ。
4年生：卒業論文の執筆をおこなう。財務会計の範囲内で，自由にテーマを決定する。最初に論文の書き方や文献検索の仕方を説明する。後は毎回書き進んだ所までを報告してもらい，それに対して教員がコメントし，それに基づき修正していくということを毎週繰り返す。
2・3年生については，基本的には，テキストの輪読形式でおこない，担当者の報告に対して，皆で疑問点を訊いたり，ディスカッションをおこなったりする。
4年生については，各自でテーマを設定し，論文の執筆を進める。

2nd and 3rd year students: First a basic textbook on financial accounting will be studied. The lecturer will decide whether to cover traditional accounting theory (profit and loss accounting; assets, liabilities, capital accounting) or the new accounting standards (or both) in consultation with participating students. Next, students will study a basic textbook on analyzing financial statements. Students will learn traditional analytical methods, such as profitability, efficiency, safeness, and growth potential.
4th year students: Students will write their graduation thesis. Students can freely set their theme within the scope of financial accounting. At first the way to write a thesis and how to search the literature will be explained. After that, during each class students will report on the progress they have made to date, the lecturer will comment on that, and then based on those comments the students will revise their work, and this process will be repeated each week.
2nd and 3rd year students will basically read their textbook and everyone will ask questions about and discuss the reports that are given.
4th year students will each set their own theme and write their papers.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
   投資とバリュエーション入門
2. 財務諸表入門
3. 財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるか
4. 現金主義会計，発生主義会計，割引キャッシュフロー評価
5. 発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング
6. 発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング
7. バリュエーションとアクティブ投資
8. 株主持分計算書の分析
9. 貸借対照表と損益計算書の分析
10. キャッシュフロー計算書の分析
11. 収益性の分析
12. 成長性と持続可能利益の分析
13. 事業活動の価値と事業 PBR・事業 PER の評価
14. 財務諸表に基づく単純な予測と単純なバリュエーション
15. 最大限の情報を用いた予測，バリュエーション，事業戦略分析
16. 財務諸表の質の分析
17. インゼミに向けた準備

18. インゼミに向けた準備
19. インゼミに向けた準備
20. インゼミに向けた準備
21. インゼミに向けた準備
22. インゼミに向けた準備
23. インゼミに向けた準備
24. インゼミに向けた準備
25. インゼミに向けた準備
26. インゼミに向けた準備
27. インゼミに向けた準備
28. インゼミに向けた準備

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回，テキストの該当箇所を読んでおく。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(50%)/プレゼンテーション(10%)/討論(40%)
課外授業（合宿など）への参加も必須である。

テキスト（Textbooks）

1. 荒田映子他、2018、『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション　原書第 5 版』、有斐閣 (ISBN:9784641165236)

参考文献（Readings）

1. 斎藤静樹、2016、『企業会計入門 増補版』、有斐閣 (ISBN:9784641164772)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

登録はそれぞれの学年のコマで行ってもらうが，受講は A，B 連続で行うことを前提とする。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行動経済学の基礎とそのさまざまな経済・社会問題への応用を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

人間は伝統的な経済学が考えてきたような合理的な存在ではなく、間違いも起こせば感情にも流される非合理な存在です。人間をこのような非合理な存在と考える行動経済学という経済学の新しい分野を学び、それを用いるとさまざまな経済問題や社会問題がどのように分析され、どのような政策提言が可能なのかを考えます。

People are not rational entities that think about traditional economics, but rather irrational entities that make mistakes and get carried away by emotion. Students will learn about the new field of economics called behavioral economics that considers people as irrational entities and then consider how that can be utilized to analyze a variety of economic problems and social problems and what kind of policy proposals they make possible.

授業の内容(Course Contents)

行動経済学は、心理学の成果を取り入れた経済学の新しい分野であり、人間がどのように消費や投資をするのかといった伝統的な経済学が扱ってきた問題だけでなく、健康や教育、貧困者や途上国支援の有効な方法など、さまざまな問題に応用することができます。このゼミナールでは、この行動経済学の基礎と応用の勉強を、ディベートやディスカッションをほぼ毎回取り入れながら行っていきます。また3月には新歓合宿、9月には夏合宿、11月に他大学とのジョイントゼミを予定しています。

Behavioral economics is a new field of economics that incorporate the results of psychology and rather than looking at problems addressed by traditional economics, such as how people consume and invest, it can be applied to a variety of problems, such as methods that are effective for supporting health, education, the poverty stricken, and developing countries. In this seminar students will study the basics and applications of behavioral economics and debate and discuss them in nearly every class. In addition, also planned are a welcome training camp in March, summer training camp in September, and a joint seminar with other universities in November.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 行動経済学の基礎1
3. 行動経済学の基礎2
4. 行動経済学の基礎3
5. 行動経済学の基礎4
6. 行動経済学の基礎5
7. 行動経済学の基礎6
8. 行動経済学の基礎7
9. 行動経済学の基礎8
10. 行動経済学の基礎9
11. 行動経済学の応用1
12. 行動経済学の応用2
13. 行動経済学の応用3
14. 行動経済学の応用4
15. 行動経済学の応用5
16. 行動経済学の応用6
17. 行動経済学の応用7
18. 行動経済学の応用8
19. 行動経済学の応用9
20. グループワーク報告1
21. グループワーク報告2
22. グループワーク報告3
23. グループワーク報告4
24. グループワーク報告5
25. グループワーク報告6

26. グループワーク報告7
27. グループワーク報告8
28. グループワーク報告9

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時に指示する

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席とプレゼンテーション(80%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト（Textbooks）

授業時に指示する

参考文献（Readings）

授業時に指示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

ツイッターアカウント @arakawa_rikkyo

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行動経済学の基礎とそのさまざまな経済・社会問題への応用を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	荒川 章義(ARAKAWA AKIYOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

人間は伝統的な経済学が考えてきたような合理的な存在ではなく、間違いも起こせば感情にも流される非合理な存在です。人間をこのような非合理な存在と考える行動経済学という経済学の新しい分野を学び、それを用いるとさまざまな経済問題や社会問題がどのように分析され、どのような政策提言が可能なのかを考えます。

People are not rational entities that think about traditional economics, but rather irrational entities that make mistakes and get carried away by emotion. Students will learn about the new field of economics called behavioral economics that considers people as irrational entities and then consider how that can be utilized to analyze a variety of economic problems and social problems and what kind of policy proposals they make possible.

授業の内容(Course Contents)

行動経済学は、心理学の成果を取り入れた経済学の新しい分野であり、人間がどのように消費や投資をするのかといった伝統的な経済学が扱ってきた問題だけでなく、健康や教育、貧困者や途上国支援の有効な方法など、さまざまな問題に応用することができます。このゼミナールでは、この行動経済学の基礎と応用の勉強を、ディベートやディスカッションをほぼ毎回取り入れながら行っていきます。また3月には新歓合宿、9月には夏合宿、11月に他大学とのジョイントゼミを予定しています。

Behavioral economics is a new field of economics that incorporate the results of psychology and rather than looking at problems addressed by traditional economics, such as how people consume and invest, it can be applied to a variety of problems, such as methods that are effective for supporting health, education, the poverty stricken, and developing countries. In this seminar students will study the basics and applications of behavioral economics and debate and discuss them in nearly every class. In addition, also planned are a welcome training camp in March, summer training camp in September, and a joint seminar with other universities in November.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 行動経済学の基礎1
3. 行動経済学の基礎2
4. 行動経済学の基礎3
5. 行動経済学の基礎4
6. 行動経済学の基礎5
7. 行動経済学の基礎6
8. 行動経済学の基礎7
9. 行動経済学の基礎8
10. 行動経済学の基礎9
11. 行動経済学の応用1
12. 行動経済学の応用2
13. 行動経済学の応用3
14. 行動経済学の応用4
15. 行動経済学の応用5
16. 行動経済学の応用6
17. 行動経済学の応用7
18. 行動経済学の応用8
19. 行動経済学の応用9
20. グループワーク報告1
21. グループワーク報告2
22. グループワーク報告3
23. グループワーク報告4
24. グループワーク報告5
25. グループワーク報告6

26. グループワーク報告7
27. グループワーク報告8
28. グループワーク報告9

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時に指示する

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席とプレゼンテーション(80%)/最終レポート(Final Report)(20%)

テキスト（Textbooks）

授業時に指示する

参考文献（Readings）

授業時に指示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

ツイッターアカウント @arakawa_rikkyo

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際金融問題の理解を通じて世界経済の変化を掴む		
担当者名 (Instructor)	清水 良樹(SHIMIZU YOSHIKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

金融および国際金融に関する理解の深化を通じて，経済事象に対する意識を形成し，理論的に考える力を養う。また，報告および他者との議論を通じてコミュニケーション能力を養う。

To develop awareness of economic phenomena and develop the ability to logically think about them by deepening understanding of finance and international finance. In addition, to foster communication ability by giving reports and having discussions with others.

授業の内容(Course Contents)

国際金融活動はグローバル化に牽引されながら次々に新しい局面を迎えている。本ゼミは，現代の国際金融という舞台で展開されるさまざまな経済事象を分析・解明することを目的に，そのツールとしての理論体系の習得に加え，歴史，制度，実証分析などをバランスよく理解し，ゼミ生間での議論を通じて個々人の見識を磨く。継続的に基本文献の輪読と議論を行いながら，現実問題への意識を醸成し，それに基づいて共同論文の作成(4 年生は個別の卒業論文)および他大学との研究発表大会の準備を行っていく。

International financing activities are continuously welcoming a variety of new aspects led by globalization. The purpose of this seminar is to analyze and clarity a variety of economic phenomena developed on the stage of contemporary international finance and for students to learn a theoretical system as a tool for doing this in addition to polishing their insights by understanding well the balance between history, systems, and empirical analysis and by holding discussions among themselves. Students will continuously read and discuss basic literature while nurturing an awareness of real problems, write joint papers regarding these (4th year students will write an individual graduation thesis), and prepare for research presentation conferences with other universities.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 輪読・議論①
3. 輪読・議論②
4. 輪読・議論③
5. 輪読・議論④
6. グループ報告①
7. グループ報告②
8. 討論①
9. 討論②
10. 討論③
11. 討論④
12. グループ報告③
13. グループ報告④
14. 論文中間報告
15. 論文中間報告
16. 論文中間報告
17. 論文検討会
18. 公開ゼミナール(予定)
19. 論文検討会
20. 公開ゼミナール(予定)
21. 中間論文報告
22. 中間論文報告
23. 中間論文報告
24. 中間論文報告
25. 中間論文報告

26. 卒論報告会
27. 完成論文報告
28. 総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

報告者はもちろん，討論者も事前に指示される内容について納得するまで考え，調べておく。

成績評価方法・基準（Evaluation）

報告内容(35%)/議論内容(35%)/論文作成への貢献(30%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 飯島・五百旗頭・佐藤・菅原、2017、『身近に感じる国際金融』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15044-7)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際金融問題の理解を通じて世界経済の変化を掴む		
担当者名 (Instructor)	清水 良樹(SHIMIZU YOSHIKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

金融および国際金融に関する理解の深化を通じて，経済事象に対する意識を形成し，理論的に考える力を養う。また，報告および他者との議論を通じてコミュニケーション能力を養う。

To develop awareness of economic phenomena and develop the ability to logically think about them by deepening understanding of finance and international finance. In addition, to foster communication ability by giving reports and having discussions with others.

授業の内容(Course Contents)

国際金融活動はグローバル化に牽引されながら次々に新しい局面を迎えている。本ゼミは，現代の国際金融という舞台で展開されるさまざまな経済事象を分析・解明することを目的に，そのツールとしての理論体系の習得に加え，歴史，制度，実証分析などをバランスよく理解し，ゼミ生間での議論を通じて個々人の見識を磨く。継続的に基本文献の輪読と議論を行いながら，現実問題への意識を醸成し，それに基づいて共同論文の作成(4 年生は個別の卒業論文)および他大学との研究発表大会の準備を行っていく。

International financing activities are continuously welcoming a variety of new aspects led by globalization. The purpose of this seminar is to analyze and clarity a variety of economic phenomena developed on the stage of contemporary international finance and for students to learn a theoretical system as a tool for doing this in addition to polishing their insights by understanding well the balance between history, systems, and empirical analysis and by holding discussions among themselves. Students will continuously read and discuss basic literature while nurturing an awareness of real problems, write joint papers regarding these (4th year students will write an individual graduation thesis), and prepare for research presentation conferences with other universities.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 輪読・議論①
3. 輪読・議論②
4. 輪読・議論③
5. 輪読・議論④
6. グループ報告①
7. グループ報告②
8. 討論①
9. 討論②
10. 討論③
11. 討論④
12. グループ報告③
13. グループ報告④
14. 論文中間報告
15. 論文中間報告
16. 論文中間報告
17. 論文検討会
18. 公開ゼミナール(予定)
19. 論文検討会
20. 公開ゼミナール(予定)
21. 中間論文報告
22. 中間論文報告
23. 中間論文報告
24. 中間論文報告
25. 中間論文報告

26. 卒論報告会
27. 完成論文報告
28. 総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

報告者はもちろん，討論者も事前に指示される内容について納得するまで考え，調べておく。

成績評価方法・基準（Evaluation）

報告内容(35%)/議論内容(35%)/論文作成への貢献(30%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 飯島・五百旗頭・佐藤・菅原、2017、『身近に感じる国際金融』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15044-7)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キャリア形成と税		
担当者名 (Instructor)	田村 麻美(TAMURA MAMI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

将来のキャリアにつながる実務的な税の知識の習得と、税を切り口に個々学生が自身のキャリアビジョンの土台を形成することを目標とします。

The objective of this seminar is for students to acquire practical knowledge about taxes related to their future careers. From the perspective of taxes, each individual student will lay the foundation for their own career vision.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミは、講師のこれまでの実務経験を活かして、将来のキャリアにつながる実務的な税知識の習得と、個々学生が自身のキャリアビジョンの土台を構築できることに主眼を置きます。
ゼミの活動は、ゼミ生の主体的な要望を尊重しつつ、柔軟に企画・運営したいと思っています。はじめに、テキストを用いて、社会人として知っておくべき税の知識の習得、どんな業界で働いても通用する会計思考のトレーニング等、具体例を用いて検討する予定です。さらに、キャリアビジョンの土台の形成につながることを目的に、講師のネットワークを活かして多彩な実務家のゲストスピーカーや企業訪問なども企画することを想定しています。
資格試験を志す学生、企業に就職を希望する学生、あるいは起業を目指す学生等、自らのキャリアビジョンを主体的に形成することに少しでも関心のある学生を求めます。

In this seminar, students will make the best of the instructor's practical experience, acquiring practical tax knowledge that will relate to their future careers. The main point of this seminar will be for each individual student to construct the foundation for their own career vision.
We plan to respect the independent desires of the attendees, flexibly designing and managing the contents of the seminar to better suit them. In the beginning of the seminar, we will utilize various texts to teach students tax knowledge that every member of society should possess. Additionally, students will receive financial thinking training that will prove useful no matter what industry they work in. We plan to investigate using concrete examples. Furthermore, with the goal of students laying the foundation for their career visions, we plan to make use of the instructor's business network by inviting a diverse array of experienced businesspeople as guest speakers and going on various business visits.
Whether you have your sights set on a certification exam, finding work at a company, or even plan to start your own business, this seminar seeks for any students who have even the slightest interest in independently forming their career visions.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 独身時代の税①
3. 独身時代の税②
4. ゲストスピーカー
5. 結婚後の税①
6. 結婚後の税②
7. 企業訪問
8. 働き盛りの税①
9. 働き盛りの税②
10. ゲストスピーカー
11. 老年期の税①②
12. 春学期総括①
13. 春学期総括②
14. 秋学期イントロダクション
15. カルビーの財務諸表分析
16. ソフトバンクグループの財務諸表分析
17. 任天堂の財務諸表分析
18. ゲストスピーカー
19. ヤオコーの財務諸表分析

20. ニトリホールディングスの財務諸表分析
21. 企業訪問
22. ファーストリテイリングの財務諸表分析
23. 日立製作所の財務諸表分析
24. ゲストスピーカー
25. セブンアンドアイホールディングスの財務諸表分析
26. トヨタ自動車の財務諸表分析
27. 全体総括①
28. 全体総括②

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回、復習と予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(50%)/複数回のプレゼンテーション(50%)

テキスト（Textbooks）

1. 芥川靖彦、篠﨑雄二、2018、『図解わかる税金 2018-201』、新星出版社
2. 西山茂、2018、『ビジネススクールで教えている会計思考 77 の常識』、日経 BP 社
3. リンダ・グラットン、池村千秋訳. 2012. WORK SHIFT. プレジデント社

参考文献（Readings）

1. 泉美智子、坂本綾子、2018、『お金の超基本』、朝日新聞出版
2. 田村麻美、2018、『ブスのマーケティング戦略』、文響社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キャリア形成と税		
担当者名 (Instructor)	田村 麻美(TAMURA MAMI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

将来のキャリアにつながる実務的な税の知識の習得と、税を切り口に個々学生が自身のキャリアビジョンの土台を形成することを目標とします。

The objective of this seminar is for students to acquire practical knowledge about taxes related to their future careers. From the perspective of taxes, each individual student will lay the foundation for their own career vision.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミは、講師のこれまでの実務経験を活かして、将来のキャリアにつながる実務的な税知識の習得と、個々学生が自身のキャリアビジョンの土台を構築できることに主眼を置きます。
ゼミの活動は、ゼミ生の主体的な要望を尊重しつつ、柔軟に企画・運営したいと思っています。はじめに、テキストを用いて、社会人として知っておくべき税の知識の習得、どんな業界で働いても通用する会計思考のトレーニング等、具体例を用いて検討する予定です。さらに、キャリアビジョンの土台の形成につながることを目的に、講師のネットワークを活かして多彩な実務家のゲストスピーカーや企業訪問なども企画することを想定しています。
資格試験を志す学生、企業に就職を希望する学生、あるいは起業を目指す学生等、自らのキャリアビジョンを主体的に形成することに少しでも関心のある学生を求めます。

In this seminar, students will make the best of the instructor's practical experience, acquiring practical tax knowledge that will relate to their future careers. The main point of this seminar will be for each individual student to construct the foundation for their own career vision.
We plan to respect the independent desires of the attendees, flexibly designing and managing the contents of the seminar to better suit them. In the beginning of the seminar, we will utilize various texts to teach students tax knowledge that every member of society should possess. Additionally, students will receive financial thinking training that will prove useful no matter what industry they work in. We plan to investigate using concrete examples. Furthermore, with the goal of students laying the foundation for their career visions, we plan to make use of the instructor's business network by inviting a diverse array of experienced businesspeople as guest speakers and going on various business visits.
Whether you have your sights set on a certification exam, finding work at a company, or even plan to start your own business, this seminar seeks for any students who have even the slightest interest in independently forming their career visions.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 独身時代の税①
3. 独身時代の税②
4. ゲストスピーカー
5. 結婚後の税①
6. 結婚後の税②
7. 企業訪問
8. 働き盛りの税①
9. 働き盛りの税②
10. ゲストスピーカー
11. 老年期の税①②
12. 春学期総括①
13. 春学期総括②
14. 秋学期イントロダクション
15. カルビーの財務諸表分析
16. ソフトバンクグループの財務諸表分析
17. 任天堂の財務諸表分析
18. ゲストスピーカー
19. ヤオコーの財務諸表分析

20. ニトリホールディングスの財務諸表分析
21. 企業訪問
22. ファーストリテイリングの財務諸表分析
23. 日立製作所の財務諸表分析
24. ゲストスピーカー
25. セブンアンドアイホールディングスの財務諸表分析
26. トヨタ自動車の財務諸表分析
27. 全体総括①
28. 全体総括②

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回、復習と予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(50%)/複数回のプレゼンテーション(50%)

テキスト（Textbooks）

1. 芥川靖彦、篠﨑雄二、2018、『図解わかる税金 2018-201』、新星出版社
2. 西山茂、2018、『ビジネススクールで教えている会計思考 77 の常識』、日経 BP 社
3. リンダ・グラットン、池村千秋訳. 2012. WORK SHIFT. プレジデント社

参考文献（Readings）

1. 泉美智子、坂本綾子、2018、『お金の超基本』、朝日新聞出版
2. 田村麻美、2018、『ブスのマーケティング戦略』、文響社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中小企業と地域経済		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

中小企業(ベンチャービジネス)と地域経済の問題や可能性について自ら考え，仮説を立て，現場情報と理論を組み合わせて独自の論理で現実経済を考察し，成果を公表できる能力を身につける。

For students to acquire the ability to think for themselves about the problems and possibilities of small and medium size enterprises (venture businesses) and regional economic problems, form hypotheses about them, consider the real economy using their own logic by combining onsite information and theory, and to present those results.

授業の内容(Course Contents)

多様性と多数性を特徴とする中小企業を分析するには，ある一定の切り口，分析視角で対象を絞り込むことが重要である。たとえば，業界・業種(自動車産業など)，業態(開発型ベンチャー，ファミリービジネスなど)，地域(東京都大田区，福井県鯖江市など)といった枠組み設定が必要となる。一方，これらのすべてに経済・経営理論とその分野の歴史， 実態と政策についての既存研究が存在する。ゼミナールでは，これらをバランス良く学び，新規・独自の切り口で知を体系化する手法を習得し，実践する。

チームでテーマを決め，文献サーベイと輪読，ディスカッション，ワークショップ，プレゼンテーションを行うとともに，必ず現場情報をみずから入手するためのフィールドワーク(企業・官公庁インタビュー)を実施して，成果をまとめあげることがゼミナールの到達点である。

毎年，(財)商工総合研究所主催の「中小企業懸賞論文」に応募する。これを原則とするが，他の論文への応募，各種プロジェクト・コンテストへの参加など，いくつか考えられるので，相談に応じて調整したい。

このほか，ゲストスピーカーの講話や他大学との討論会(慶應義塾大学など)，合宿等を行う。

4年生は交代でゼミ指導，および，卒業論文の作成にあたる。卒論指導は原則，個別対応とする。

To analyze small and medium size businesses, which have diverse and numerous characteristics, it is important to narrow down the targeted angles and analytical perspectives. For example, a framework needs to be set, such as the industry (automobile industry, etc.), business type (developmental venture, family business, etc.), and the area (Ota Ward in Tokyo, Sabae City in Fukui Prefecture, etc.). At the same time, for all of these there is existing research regarding the economic and business theory, the history of those fields, and their actual conditions and the government policies regarding them. During the seminar students will study these in good balance and learn and apply methods for systematizing knowledge from new and unique angles.

Students will be divided into teams that will set their theme, survey and read literature, hold discussions and workshops, and give presentations while also conducting fieldwork to obtain the onsite information they need (interviews with people from companies and government agencies), and then compile the results, which is the final objective of this seminar.

Each year, students will enter the Awards for Studies on Small Business that is held by the Shoko Research Institute. This is in principle, but several other options can also be considered, such as entering other paper contests and participating in various projects or contents, so the lecturer will discuss this with the students before any final decisions are made.

In addition to this, talks by guest speakers, debates with other universities (Keio University, etc.), training camps, and other activities are also planned.

4th year students will take turns leading the seminar and will write their graduation thesis. As a rule, guidance for the graduation theses will be given individually to students.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 基礎文献の輪読と討論(1)，論文作成グループワーク(1)
3. 基礎文献の輪読と討論(2)，論文作成グループワーク(2)
4. 基礎文献の輪読と討論(3)，論文作成グループワーク(3)
5. 基礎文献の輪読と討論(4)，論文作成グループワーク(4)
6. 基礎文献の輪読と討論(5)，論文作成グループワーク(5)
7. 基礎文献の輪読と討論(6)，論文作成グループワーク(6)
8. 基礎文献の輪読と討論(7)，論文作成グループワーク(7)
9. 論文作成グループワーク(8)，構想発表
10. 論文作成グループワーク(9)，リサーチデザインの技法

11. 論文作成グループワーク(10), フィールドワークの技法
12. 論文作成グループワーク(11)
13. 論文作成グループワーク(12), 中間発表
14. 論文作成グループワーク(13)
15. 論文作成グループワーク(14), フィールドワークの成果報告と討論(1)
16. 論文作成グループワーク(15), フィールドワークの成果報告と討論(2)
17. 成果の取りまとめ(1)
18. 成果の取りまとめ(2)
19. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(1)
20. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(2)
21. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(3)
22. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(4)
23. プレゼンテーションとピアレビュー(1)
24. プレゼンテーションとピアレビュー(2)
25. 応用文献の輪読と討論(1)
26. 応用文献の輪読と討論(2)
27. 応用文献の輪読と討論(3)
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

輪読テキスト(植田ほか著)と併せて, その他4冊も春学期中に読了を要する(「アウトプットは、インプットの質と量に依存する」)。
別途, ゼミ初回に提示された課題図書は, 年度内に半分以上を読了することを目標とする。
春学期・夏季休業時にフィールドワークを計画し, 実行する(「調査なくして発言権なし」)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼンテーション(20%)/出席・参加意欲および貢献度(30%)/フィールドワーク(20%)/最終レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治、2014、『新版　中小企業・ベンチャー企業論』、有斐閣 (ISBN:9784641164314)
2. 中沢孝夫、2014、『中小企業の底力』、ちくま新書 (ISBN:9784480067760)
3. 黒崎　誠、2015、『世界に冠たる中小企業』、講談社現代新書 (ISBN:9784062883009)
4. 藤本隆宏、2017、『現場から見上げる企業戦略論』、角川新書 (ISBN:978-4040821528)
5. 細谷　祐二、2017、『地域の力を引き出す企業: グローバル・ニッチトップ企業が示す未来』、ちくま新書 (ISBN:978-4480069726)

参考文献(Readings)

1. 刈谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』、講談社プラスα文庫 (ISBN:9784062566100)
2. 堀公俊、2008、『ワークショップ入門』、日経文庫 (ISBN:9784532111922)
3. 堀公俊、2004、『ファシリテーション入門』、日経文庫 (ISBN:9784532110260)
4. 松本茂、1996、『頭を鍛えるディベート入門－発想と表現の技法』、講談社ブルーバックス (ISBN:9784062571128)
5. 内田和成、2006、『仮説思考』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492555552)

新入ゼミ生は文献1を, 新3年生は文献2・3を, 春季休業までに読了のうえ, 2019 年度ゼミナールに参加すること。4, 5は適宜読了のこと。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミの基本方針(ガイダンス、Bb 等で提示)を理解し、実践することが課されると認識すること。
諸連絡・指導・課題の提示等は、Blackboard(Bb)を活用する。
原則、週のはじめに必ずアクセスし, 「お知らせ」「教材」「掲示板」等を閲覧すること。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中小企業と地域経済		
担当者名 (Instructor)	遠山 恭司(TOYAMA KYOJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

中小企業(ベンチャービジネス)と地域経済の問題や可能性について自ら考え，仮説を立て，現場情報と理論を組み合わせて独自の論理で現実経済を考察し，成果を公表できる能力を身につける。

For students to acquire the ability to think for themselves about the problems and possibilities of small and medium size enterprises (venture businesses) and regional economic problems, form hypotheses about them, consider the real economy using their own logic by combining onsite information and theory, and to present those results.

授業の内容(Course Contents)

多様性と多数性を特徴とする中小企業を分析するには，ある一定の切り口，分析視角で対象を絞り込むことが重要である。たとえば，業界・業種(自動車産業など)，業態(開発型ベンチャー，ファミリービジネスなど)，地域(東京都大田区，福井県鯖江市など)といった枠組み設定が必要となる。一方，これらのすべてに経済・経営理論とその分野の歴史， 実態と政策についての既存研究が存在する。ゼミナールでは，これらをバランス良く学び，新規・独自の切り口で知を体系化する手法を習得し，実践する。

チームでテーマを決め，文献サーベイと輪読，ディスカッション，ワークショップ，プレゼンテーションを行うとともに，必ず現場情報をみずから入手するためのフィールドワーク(企業・官公庁インタビュー)を実施して，成果をまとめあげることがゼミナールの到達点である。

毎年，(財)商工総合研究所主催の「中小企業懸賞論文」に応募する。これを原則とするが，他の論文への応募，各種プロジェクト・コンテストへの参加など，いくつか考えられるので，相談に応じて調整したい。

このほか，ゲストスピーカーの講話や他大学との討論会(慶應義塾大学など)，合宿等を行う。

4年生は交代でゼミ指導，および，卒業論文の作成にあたる。卒論指導は原則，個別対応とする。

To analyze small and medium size businesses, which have diverse and numerous characteristics, it is important to narrow down the targeted angles and analytical perspectives. For example, a framework needs to be set, such as the industry (automobile industry, etc.), business type (developmental venture, family business, etc.), and the area (Ota Ward in Tokyo, Sabae City in Fukui Prefecture, etc.). At the same time, for all of these there is existing research regarding the economic and business theory, the history of those fields, and their actual conditions and the government policies regarding them. During the seminar students will study these in good balance and learn and apply methods for systematizing knowledge from new and unique angles.

Students will be divided into teams that will set their theme, survey and read literature, hold discussions and workshops, and give presentations while also conducting fieldwork to obtain the onsite information they need (interviews with people from companies and government agencies), and then compile the results, which is the final objective of this seminar.

Each year, students will enter the Awards for Studies on Small Business that is held by the Shoko Research Institute. This is in principle, but several other options can also be considered, such as entering other paper contests and participating in various projects or contents, so the lecturer will discuss this with the students before any final decisions are made.

In addition to this, talks by guest speakers, debates with other universities (Keio University, etc.), training camps, and other activities are also planned.

4th year students will take turns leading the seminar and will write their graduation thesis. As a rule, guidance for the graduation theses will be given individually to students.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 基礎文献の輪読と討論(1)，論文作成グループワーク(1)
3. 基礎文献の輪読と討論(2)，論文作成グループワーク(2)
4. 基礎文献の輪読と討論(3)，論文作成グループワーク(3)
5. 基礎文献の輪読と討論(4)，論文作成グループワーク(4)
6. 基礎文献の輪読と討論(5)，論文作成グループワーク(5)
7. 基礎文献の輪読と討論(6)，論文作成グループワーク(6)
8. 基礎文献の輪読と討論(7)，論文作成グループワーク(7)
9. 論文作成グループワーク(8)，構想発表
10. 論文作成グループワーク(9)，リサーチデザインの技法

11. 論文作成グループワーク(10), フィールドワークの技法
12. 論文作成グループワーク(11)
13. 論文作成グループワーク(12), 中間発表
14. 論文作成グループワーク(13)
15. 論文作成グループワーク(14), フィールドワークの成果報告と討論(1)
16. 論文作成グループワーク(15), フィールドワークの成果報告と討論(2)
17. 成果の取りまとめ(1)
18. 成果の取りまとめ(2)
19. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(1)
20. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(2)
21. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(3)
22. 発展的学習(学内討論会、専門論文サーベイ)(4)
23. プレゼンテーションとピアレビュー(1)
24. プレゼンテーションとピアレビュー(2)
25. 応用文献の輪読と討論(1)
26. 応用文献の輪読と討論(2)
27. 応用文献の輪読と討論(3)
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

輪読テキスト(植田ほか著)と併せて, その他4冊も春学期中に読了を要する(「アウトプットは、インプットの質と量に依存する」)。
別途, ゼミ初回に提示された課題図書は, 年度内に半分以上を読了することを目標とする。
春学期・夏季休業時にフィールドワークを計画し, 実行する(「調査なくして発言権なし」)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼンテーション(20%)/出席・参加意欲および貢献度(30%)/フィールドワーク(20%)/最終レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治、2014、『新版　中小企業・ベンチャー企業論』、有斐閣 (ISBN:9784641164314)
2. 中沢孝夫、2014、『中小企業の底力』、ちくま新書 (ISBN:9784480067760)
3. 黒崎　誠、2015、『世界に冠たる中小企業』、講談社現代新書 (ISBN:9784062883009)
4. 藤本隆宏、2017、『現場から見上げる企業戦略論』、角川新書 (ISBN:978-4040821528)
5. 細谷　祐二、2017、『地域の力を引き出す企業: グローバル・ニッチトップ企業が示す未来』、ちくま新書 (ISBN:978-4480069726)

参考文献(Readings)

1. 刈谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』、講談社プラスα文庫 (ISBN:9784062566100)
2. 堀公俊、2008、『ワークショップ入門』、日経文庫 (ISBN:9784532111922)
3. 堀公俊、2004、『ファシリテーション入門』、日経文庫 (ISBN:9784532110260)
4. 松本茂、1996、『頭を鍛えるディベート入門－発想と表現の技法』、講談社ブルーバックス (ISBN:9784062571128)
5. 内田和成、2006、『仮説思考』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492555552)

新入ゼミ生は文献1を, 新3年生は文献2・3を, 春季休業までに読了のうえ, 2019 年度ゼミナールに参加すること。4, 5は適宜読了のこと。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミの基本方針(ガイダンス、Bb 等で提示)を理解し、実践することが課されると認識すること。
諸連絡・指導・課題の提示等は、Blackboard(Bb)を活用する。
原則、週のはじめに必ずアクセスし, 「お知らせ」「教材」「掲示板」等を閲覧すること。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務会計理論の研究		
担当者名 (Instructor)	倉田 幸路(KURATA KOJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現在大きく変わりつつある財務会計制度について，その基礎理論から理解できるようになり，財務会計のテーマについて議論できるようになることを目標にする。

The objective of this course is for students to be able to understand the financial accounting system, which is currently undergoing major changes, based on the corresponding fundamental theory and to be able to discuss financial accounting themes.

授業の内容(Course Contents)

現在の財務会計問題について，テキストに従ってゼミ生による報告を行い，そのテーマに関してディスカッションを行う。授業へ積極的参加することが必須である。また，4年次には各自決めたテーマについて研究報告を行う。

Students will give reports on current financial accounting problems following the textbook and hold discussions regarding those themes. Proactive participation in the class is mandatory. In addition, during the 4th year students will give a research report on their selected theme.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 財務会計の基礎1
3. 財務会計の基礎2
4. 財務会計の基礎3
5. 財務会計の基礎4
6. 資産会計論1
7. 資産会計論2
8. 資産会計論3
9. 資産会計論4
10. 資産会計論5
11. 負債会計論1
12. 負債会計論2
13. 負債会計論3
14. 負債会計論4
15. 資本会計論1
16. 資本会計論2
17. 資本会計論3
18. 資本会計論4
19. 損益会計論1
20. 損益会計論2
21. 損益会計論3
22. 損益会計論4
23. 連結会計論1
24. 連結会計論2
25. 連結会計論3
26. 連結会計論4
27. 連結会計論5
28. 全体の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

次週のテーマは確定しているので，各自通読しておくとともに疑問点はできる限り調べ議論に積極的に参加できるようにするこ

と。

成績評価方法・基準(Evaluation)

プレゼンテーション(40%)/授業期間内の複数レポート(30%)/ディスカッション(30%)

テキスト(Textbooks)

3 月の春合宿の時までに指示する。

参考文献(Readings)

1. 広瀬義州著、2015 年、『財務会計』、中央経済社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本企業の経営史的研究		
担当者名 (Instructor)	須永 徳武(SUNAGA NORITAKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

マクロ経済の歴史的変化のなかに企業を位置付け，日本の企業経営システムの特質を歴史的視角から研究する。

To research the characteristics of the Japanese business management system from an historical perspective by positioning companies within the historical changes in the macro economy.

授業の内容(Course Contents)

ゼミにおける共同研究の前提として経営戦略，マーケティング，企業財務分析等に関する基礎的学習は行うが，ゼミ活動の中心はグループワークを通じた業界や企業に対するデータ調査と分析となります。こうしたデータの収集と分析，さらにそれに基づいた論理的思考と立論を通じて，リサーチ能力やデータ分析能力の修得と論理的思考力の向上を図ります。
ゼミ活動はゼミ生の主体的かつ能動的な取り組みによって進められます。研究方針やスケジュール管理を含めて主体的にゼミ活動を運営し，グループワークを中心とする共同研究を通じて研究テーマにアプローチすることで，組織運営と調整のノウハウや自立的な思考能力を獲得するためのトレーニングを行います。授業は各グループの作業内容と進捗状況をゼミ全体で確認する場であり，実際の研究活動は授業時間以外に各グループが自主的に集まり調査・分析・議論を行うグループワークにより進められる。

Students will learn the basics of business strategy, marketing, and corporate finance analysis on the premise that joint research will be conducted during the seminar, and seminar activities will focus on data research and analysis of industries and companies through group work. This collection and analysis of data and then the logical thinking and argumentation based on it will allow students to acquire research and data analysis ability and to improve their logical thinking skills.
The seminar activities will be conducted through the proactive involvement of the seminar students. The students will proactively manage the seminar activities, including the research policy and schedule management, and tackling the research theme through joint research conducted mainly by group work will provide student with training to acquire the know-how for operating and adjusting organizations and independent thinking ability. During class the work contents and progress of each group may be checked by all seminar members, and the actual research activities will be done by each group autonomously coming together outside of class to conduct the surveys, analysis, and discussions as group work.

授業計画(Course Schedule)

1. グループワークの結果の検討と経営戦略論研究
2. グループワークの結果の検討と経営戦略論研究
3. グループワークの結果の検討と財務分析研究
4. グループワークの結果の検討と財務分析研究
5. グループワークの結果の検討と商品企画
6. グループワークの結果の検討と商品企画
7. グループワークの結果の検討とディベート
8. グループワークの結果の検討とディベート
9. グループワークの結果の検討とディベート
10. グループワークの結果の検討と論文作成
11. グループワークの結果の検討と論文作成
12. グループワークの結果の検討と論文作成
13. グループワークの結果の検討と論文作成
14. グループワークの結果の検討と論文作成
15. グループワークの結果の検討と論文作成
16. グループワークの結果の検討と論文作成
17. グループワークの結果の検討と論文作成
18. グループワークの結果の検討と論文作成
19. グループワークの結果の検討と論文作成
20. グループワークの結果の検討と論文作成
21. グループワークの結果の検討と論文作成

22. グループワークの結果の検討と論文作成
23. グループワークの結果の検討と論文作成
24. グループワークの結果の検討と論文作成
25. グループワークの結果の検討と論文作成
26. グループワークの結果の検討と論文作成
27. グループワークの結果の検討と論文作成
28. グループワークの結果の検討と論文作成

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

グループ単位でそれぞれに与えられたテーマに関し研究を進めておく。

成績評価方法・基準（Evaluation）

グループワークへの貢献(50%)/ゼミ全体活動への貢献(50%)

テキスト（Textbooks）

なし。テーマに応じて多数の文献・論文・統計等を利用する。

参考文献（Readings）

なし。テーマに応じて多数の文献・論文・統計等を利用する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.geocities.jp/sunagaseminarhp/

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本企業の経営史的研究		
担当者名 (Instructor)	須永 徳武(SUNAGA NORITAKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

マクロ経済の歴史的変化のなかに企業を位置付け，日本の企業経営システムの特質を歴史的視角から研究する。

To research the characteristics of the Japanese business management system from an historical perspective by positioning companies within the historical changes in the macro economy.

授業の内容(Course Contents)

ゼミにおける共同研究の前提として経営戦略，マーケティング，企業財務分析等に関する基礎的学習は行うが，ゼミ活動の中心はグループワークを通じた業界や企業に対するデータ調査と分析となります。こうしたデータの収集と分析，さらにそれに基づいた論理的思考と立論を通じて，リサーチ能力やデータ分析能力の修得と論理的思考力の向上を図ります。
ゼミ活動はゼミ生の主体的かつ能動的な取り組みによって進められます。研究方針やスケジュール管理を含めて主体的にゼミ活動を運営し，グループワークを中心とする共同研究を通じて研究テーマにアプローチすることで，組織運営と調整のノウハウや自立的な思考能力を獲得するためのトレーニングを行います。授業は各グループの作業内容と進捗状況をゼミ全体で確認する場であり，実際の研究活動は授業時間以外に各グループが自主的に集まり調査・分析・議論を行うグループワークにより進められる。

Students will learn the basics of business strategy, marketing, and corporate finance analysis on the premise that joint research will be conducted during the seminar, and seminar activities will focus on data research and analysis of industries and companies through group work. This collection and analysis of data and then the logical thinking and argumentation based on it will allow students to acquire research and data analysis ability and to improve their logical thinking skills.
The seminar activities will be conducted through the proactive involvement of the seminar students. The students will proactively manage the seminar activities, including the research policy and schedule management, and tackling the research theme through joint research conducted mainly by group work will provide student with training to acquire the know-how for operating and adjusting organizations and independent thinking ability. During class the work contents and progress of each group may be checked by all seminar members, and the actual research activities will be done by each group autonomously coming together outside of class to conduct the surveys, analysis, and discussions as group work.

授業計画(Course Schedule)

1. グループワークの結果の検討と経営戦略論研究
2. グループワークの結果の検討と経営戦略論研究
3. グループワークの結果の検討と財務分析研究
4. グループワークの結果の検討と財務分析研究
5. グループワークの結果の検討と商品企画
6. グループワークの結果の検討と商品企画
7. グループワークの結果の検討とディベート
8. グループワークの結果の検討とディベート
9. グループワークの結果の検討とディベート
10. グループワークの結果の検討と論文作成
11. グループワークの結果の検討と論文作成
12. グループワークの結果の検討と論文作成
13. グループワークの結果の検討と論文作成
14. グループワークの結果の検討と論文作成
15. グループワークの結果の検討と論文作成
16. グループワークの結果の検討と論文作成
17. グループワークの結果の検討と論文作成
18. グループワークの結果の検討と論文作成
19. グループワークの結果の検討と論文作成
20. グループワークの結果の検討と論文作成
21. グループワークの結果の検討と論文作成

22. グループワークの結果の検討と論文作成
23. グループワークの結果の検討と論文作成
24. グループワークの結果の検討と論文作成
25. グループワークの結果の検討と論文作成
26. グループワークの結果の検討と論文作成
27. グループワークの結果の検討と論文作成
28. グループワークの結果の検討と論文作成

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

グループ単位でそれぞれに与えられたテーマに関し研究を進めておく。

成績評価方法・基準（Evaluation）

グループワークへの貢献(50%)/ゼミ全体活動への貢献(50%)

テキスト（Textbooks）

なし。テーマに応じて多数の文献・論文・統計等を利用する。

参考文献（Readings）

なし。テーマに応じて多数の文献・論文・統計等を利用する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.geocities.jp/sunagaseminarhp/

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界経済と地域統合について考える―経済統合のツールボックスとしての EU(欧州連合)		
担当者名 (Instructor)	蓮見 雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

EU(欧州連合)は、ユーロ危機、Brexit、移民・難民危機、ポピュリズムなど複合的な危機に直面しているとはいえ、依然として経済活動のグローバル化に適応するための様々な政策を生み出している「経済統合のツールボックス」ともいえる機構であり、アジアにおける経済協力を考える上でも示唆に富む。そこで、本授業では、(1)EU と国家の役割分担に基づいて行われているヨーロッパ経済に関する基礎知識を学び、 (2)他大学の学生とともに EU セミナーに参加して、プレゼンテーションや討論の能力を身につけ、(3)EU の政治・経済ガバナンスのしくみに関する基礎知識に基づいて、世界の地域統合について考える力を養う。

Although the European Union (EU) is facing complex crises, such as the Euro crisis, Brexit, the immigration and refugee crisis, and populism, it has been creating a mechanism called an “economic integration toolbox” for producing various policies to adapt to the globalization of economic activities, and this is also rich in suggestions for considering economic cooperation in Asia. In view of this, the objective of this class is to (1) to learn basic knowledge regarding the European economy based on the division of roles between the EU and its individual nations, (2) acquire the ability to give presentations and engage in debates by participating in EU seminars with the students of other universities, and (3) foster the ability to think about the regional integration of the world based on the basic knowledge of the EU politics and economic governance frameworks.

授業の内容(Course Contents)

大学セミナーハウス(八王子)で行われる第 8 回 EU セミナーに参加することを前提としてゼミを行う。EU セミナー開催時期は、例年 9 月中旬から下旬の 2 泊 3 日。EU セミナーは、代表的な EU 研究者の指導の下で約 100 人の学生が大学の垣根を越えて共に学ぶ場である。これまでのセミナーの記録は以下を参照(https://iush.jp/seminar/2017/03/166/)。

ゼミの内容は 3 つの部分に分かれる。第 1 に、EU に関する基礎知識を短期間に身につける。第 2 に、EU セミナー分科会の内容を確認した上で、各自参加する分科会のテーマに関する課題及び追加情報の収集を行う。想定されるテーマは、ユーロ危機、イギリスの EU 離脱、ポピュリズム、エネルギー・環境問題、EU のガバナンス問題、EU の対ロシア経済制裁など。第 3 に、EU セミナー後、各自の関心に応じて個人あるいはグループで論文を執筆する(テーマの一例:ユーロ危機、銀行同盟、EU・ロシア関係、移民・難民問題、EU とアジアの比較、TPP や TTIP などのメガリージョンと EU の比較、EU 労働政策、日 EU－EPA、EU 労働問題、EU と ASEAN の比較など)。

なお、特に EU とロシアの経済関係、EU と中国の経済関係、ロシアと中国の経済関係、ロシアと日本の経済関係、一帯一路構想、日 EU のエネルギー政策の比較などについて関心のある学生がいれば、別途、指導することがある。

This seminar is conducted on the premise that the students will participate in the 8th EU Seminar to be held at the university’s Seminar House (Hachioji). The EU Seminar is held each year for 3 days and 2 nights sometime between the middle and end of September. The EU Seminar is attended by approximately 100 students from different universities under the direction of representative EU researchers. The seminar record to date can be viewed at this link (https://iush.jp/seminar/2017/03/166/).
The seminar contents are divided into three sections. In the first section, students will acquire basic knowledge regarding the EU in a short time. In the second section, students will check the contents of the EU Seminar working group and gather the issues and additional information for working group they are participating in. Possible themes are the Euro crisis, Brexit, populism, energy and environmental problems, EU governance problems, and the EU’s economic sanctions on Russia. In the third section, after the EU Seminar, individuals or groups will write a paper on theme of their interest (Example themes: Euro crisis, banking alliances, relationship between the EU and Russia, immigration and refugee problem, comparison between the EU and Asia, comparison of the EU and mega regions like TPP and TTIP, EU labor policies, Agreement between the European Union and Japan for an Economic Partnership, EU labor problems, comparison of EU and ASEAN, etc.)
Separate guidance may be given to students interested in particular in the economic relationship between the EU and Russia, the economic relationship between the EU and China, the economic relationship between Russia and China, the economic relationship between Russia and Japan, the Belt and Road Initiative, or a comparison of Japanese and EU energy policies.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 輪読1:ヨーロッパ経済を支える機構＝EU のしくみ
3. 輪読2:関税同盟の効果と限界、欧州動脈硬化症
4. 輪読3:単一市場下における寡占体間の競争促進と競争法

5. 輪読4：金融危機と初期のユーロを支える制度の限界（ユーロ 1.0）
6. 輪読5：金融危機とユーロを支える制度の進化（ユーロ 2.0）
7. 輪読6：EU と国家（加盟国間、米国、中国、ロシア、トルコなど）との関係
8. EU セミナー分科会のテーマ・課題の確認と情報収集
9. 各分科会参加者ごとに EU セミナー参加準備1
10. 各分科会参加者ごとに EU セミナー参加準備2
11. 各分科会の報告と討論1
12. 各分科会の報告と討論2
13. 各分科会の報告と討論3
14. EU セミナー直前対策
15. EU セミナー反省会と各自・各グループの論文テーマの検討
16. 各自・各グループの論文構想に関する報告と討論1
17. 各自・各グループの論文構想に関する報告と討論2
18. 各自・各グループの論文構想に関する報告と討論 3
19. 論文に必要な資料収集、及び準備状況の報告1
20. 論文に必要な資料収集、及び準備状況の報告2
21. 論文に必要な資料収集、及び準備状況の報告3
22. 論文概要の報告と討論1
23. 論文概要の報告と討論2
24. 論文概要の報告と討論3
25. 論文概要の報告と討論4
26. 論文報告会1
27. 論文報告会2
28. 総括とゼミナール論集作成の準備

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

短時間で EU の基礎を学び、EU セミナーの準備を行うため、予習・復習は不可欠であり、授業時間と同等の授業時間外学習が必要である。

なお、例年、夏季期間中に 2～3 日（1 限～5 限）の EU セミナー対策の勉強会を実施している。

参加の前提として、Master of writing、Master of presentation を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/授業参加度(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中素香他、2018、『現代ヨーロッパ経済第 5 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641221086)

参考文献（Readings）

1. 長部重康、2017、『日・EU 経済連携協定が意味するものは何か:新たなメガ FTA への挑戦と課題』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077595)
2. 小島 健、2016、『知識ゼロからのユーロ入門』、幻冬舎 (ISBN:978-4344903166)
3. 庄司克宏、2018、『欧州ポピュリズム』、筑摩書房 (ISBN:978-4480071422)
4. 蓮見雄、2009、『拡大する EU とバルト経済圏の胎動』、昭和堂 (ISBN:978-4812208687)
5. 嶋田 巧,高屋 定美,棚池 康信編、2018、『危機の中の EU 経済統合』、文眞堂 (ISBN:978-4830949845)
6. 井上 典之, 吉井 昌彦編、2018、『EU の揺らぎ』、勁草書房 (ISBN:978-4326302659)
7. 小久保 康之、2016、『EU 統合を読む: 現代ヨーロッパを理解するための基礎』、春風社 (ISBN:978-4861104831)

月刊誌『ロシア・ユーラシアの経済と社会』
ISSN 2185-8748

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

欧州連合駐日代表部 http://www.euinjapan.jp/
EU MAG http://eumag.jp/
日本 EU 学会 http://www.eusa-japan.org/index.html
第6回 EU セミナー https://iush.jp/seminar/2017/03/166/

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	世界経済と地域統合について考える―経済統合のツールボックスとしての EU(欧州連合)		
担当者名 (Instructor)	蓮見 雄(HASUMI YU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

EU(欧州連合)は、ユーロ危機、Brexit、移民・難民危機、ポピュリズムなど複合的な危機に直面しているとはいえ、依然として経済活動のグローバル化に適応するための様々な政策を生み出している「経済統合のツールボックス」ともいえる機構であり、アジアにおける経済協力を考える上でも示唆に富む。そこで、本授業では、(1)EU と国家の役割分担に基づいて行われているヨーロッパ経済に関する基礎知識を学び、 (2)他大学の学生とともに EU セミナーに参加して、プレゼンテーションや討論の能力を身につけ、(3)EU の政治・経済ガバナンスのしくみに関する基礎知識に基づいて、世界の地域統合について考える力を養う。

Although the European Union (EU) is facing complex crises, such as the Euro crisis, Brexit, the immigration and refugee crisis, and populism, it has been creating a mechanism called an “economic integration toolbox” for producing various policies to adapt to the globalization of economic activities, and this is also rich in suggestions for considering economic cooperation in Asia. In view of this, the objective of this class is to (1) to learn basic knowledge regarding the European economy based on the division of roles between the EU and its individual nations, (2) acquire the ability to give presentations and engage in debates by participating in EU seminars with the students of other universities, and (3) foster the ability to think about the regional integration of the world based on the basic knowledge of the EU politics and economic governance frameworks.

授業の内容(Course Contents)

大学セミナーハウス(八王子)で行われる第 8 回 EU セミナーに参加することを前提としてゼミを行う。EU セミナー開催時期は、例年 9 月中旬から下旬の 2 泊 3 日。EU セミナーは、代表的な EU 研究者の指導の下で約 100 人の学生が大学の垣根を越えて共に学ぶ場である。これまでのセミナーの記録は以下を参照(https://iush.jp/seminar/2017/03/166/)。

ゼミの内容は 3 つの部分に分かれる。第 1 に、EU に関する基礎知識を短期間に身につける。第 2 に、EU セミナー分科会の内容を確認した上で、各自参加する分科会のテーマに関する課題及び追加情報の収集を行う。想定されるテーマは、ユーロ危機、イギリスの EU 離脱、ポピュリズム、エネルギー・環境問題、EU のガバナンス問題、EU の対ロシア経済制裁など。第 3 に、EU セミナー後、各自の関心に応じて個人あるいはグループで論文を執筆する(テーマの一例:ユーロ危機、銀行同盟、EU・ロシア関係、移民・難民問題、EU とアジアの比較、TPP や TTIP などのメガリージョンと EU の比較、EU 労働政策、日 EU－EPA、EU 労働問題、EU と ASEAN の比較など)。

なお、特に EU とロシアの経済関係、EU と中国の経済関係、ロシアと中国の経済関係、ロシアと日本の経済関係、一帯一路構想、日 EU のエネルギー政策の比較などについて関心のある学生がいれば、別途、指導することがある。

This seminar is conducted on the premise that the students will participate in the 8th EU Seminar to be held at the university’s Seminar House (Hachioji). The EU Seminar is held each year for 3 days and 2 nights sometime between the middle and end of September. The EU Seminar is attended by approximately 100 students from different universities under the direction of representative EU researchers. The seminar record to date can be viewed at this link (https://iush.jp/seminar/2017/03/166/).
The seminar contents are divided into three sections. In the first section, students will acquire basic knowledge regarding the EU in a short time. In the second section, students will check the contents of the EU Seminar working group and gather the issues and additional information for working group they are participating in. Possible themes are the Euro crisis, Brexit, populism, energy and environmental problems, EU governance problems, and the EU’s economic sanctions on Russia. In the third section, after the EU Seminar, individuals or groups will write a paper on theme of their interest (Example themes: Euro crisis, banking alliances, relationship between the EU and Russia, immigration and refugee problem, comparison between the EU and Asia, comparison of the EU and mega regions like TPP and TTIP, EU labor policies, Agreement between the European Union and Japan for an Economic Partnership, EU labor problems, comparison of EU and ASEAN, etc.)
Separate guidance may be given to students interested in particular in the economic relationship between the EU and Russia, the economic relationship between the EU and China, the economic relationship between Russia and China, the economic relationship between Russia and Japan, the Belt and Road Initiative, or a comparison of Japanese and EU energy policies.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 輪読1:ヨーロッパ経済を支える機構＝EU のしくみ
3. 輪読2:関税同盟の効果と限界、欧州動脈硬化症
4. 輪読3:単一市場下における寡占体間の競争促進と競争法

5. 輪読4：金融危機と初期のユーロを支える制度の限界（ユーロ 1.0）
6. 輪読5：金融危機とユーロを支える制度の進化（ユーロ 2.0）
7. 輪読6：EU と国家（加盟国間、米国、中国、ロシア、トルコなど）との関係
8. EU セミナー分科会のテーマ・課題の確認と情報収集
9. 各分科会参加者ごとに EU セミナー参加準備1
10. 各分科会参加者ごとに EU セミナー参加準備2
11. 各分科会の報告と討論1
12. 各分科会の報告と討論2
13. 各分科会の報告と討論3
14. EU セミナー直前対策
15. EU セミナー反省会と各自・各グループの論文テーマの検討
16. 各自・各グループの論文構想に関する報告と討論1
17. 各自・各グループの論文構想に関する報告と討論2
18. 各自・各グループの論文構想に関する報告と討論 3
19. 論文に必要な資料収集、及び準備状況の報告1
20. 論文に必要な資料収集、及び準備状況の報告2
21. 論文に必要な資料収集、及び準備状況の報告3
22. 論文概要の報告と討論1
23. 論文概要の報告と討論2
24. 論文概要の報告と討論3
25. 論文概要の報告と討論4
26. 論文報告会1
27. 論文報告会2
28. 総括とゼミナール論集作成の準備

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

短時間で EU の基礎を学び、EU セミナーの準備を行うため、予習・復習は不可欠であり、授業時間と同等の授業時間外学習が必要である。

なお、例年、夏季期間中に 2～3 日（1 限～5 限）の EU セミナー対策の勉強会を実施している。

参加の前提として、Master of writing、Master of presentation を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/授業参加度(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中素香他、2018、『現代ヨーロッパ経済第 5 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641221086)

参考文献（Readings）

1. 長部重康、2017、『日・EU 経済連携協定が意味するものは何か:新たなメガ FTA への挑戦と課題』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077595)
2. 小島 健、2016、『知識ゼロからのユーロ入門』、幻冬舎 (ISBN:978-4344903166)
3. 庄司克宏、2018、『欧州ポピュリズム』、筑摩書房 (ISBN:978-4480071422)
4. 蓮見雄、2009、『拡大する EU とバルト経済圏の胎動』、昭和堂 (ISBN:978-4812208687)
5. 嶋田 巧,高屋 定美,棚池 康信編、2018、『危機の中の EU 経済統合』、文眞堂 (ISBN:978-4830949845)
6. 井上 典之, 吉井 昌彦編、2018、『EU の揺らぎ』、勁草書房 (ISBN:978-4326302659)
7. 小久保 康之、2016、『EU 統合を読む: 現代ヨーロッパを理解するための基礎』、春風社 (ISBN:978-4861104831)

月刊誌『ロシア・ユーラシアの経済と社会』
ISSN 2185-8748

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

欧州連合駐日代表部 http://www.euinjapan.jp/
EU MAG http://eumag.jp/
日本 EU 学会 http://www.eusa-japan.org/index.html
第6回 EU セミナー https://iush.jp/seminar/2017/03/166/

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	環境保全と経済発展の両立を考える		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学の理論や統計学の手法を使い，環境問題をはじめとする社会問題を論理的かつ客観的に分析し，それに対する解決策を提示することができるようになることを目指します。また、様々な考え方を受け入れる力や、自分の主張や考えをうまく人に伝える力も養っていきます。

The object of this course is for students to use economic theory and statistical methods to logically and objectively analyze the environmental problem and other social problems and be able to propose solutions for them. An additional objective is for students to be able to accept different ways of thinking and to nurture the ability to skillfully communicate their assertions and ideas to other people.

授業の内容(Course Contents)

環境を無視して経済成長を目指すことは問題ですが，経済成長を全く無視して環境保全のみを考えることにもまた問題があります。このゼミナールでは，どうしたら環境と経済を両立することができるのかということを具体的な環境問題の検証や環境経済学の理論の学習を通して考えていきます。また，履修者の要望に応じ，統計学的な手法を用いた社会問題の分析方法についても扱う予定です。
ゼミナールでは受講者によるテキストの輪読，新聞記事発表，グループや個人による論文の作成などを行っていきます。また，プレゼンテーション能力を高めるための発表やディベートの練習，他大学との論文報告会(インゼミ)も行います。扱うテーマは環境問題が中心ですが、新聞記事発表やディベートでは環境問題以外にも履修者が興味をもった問題を広く扱っていきます。

Aiming for economic growth while ignoring the environment is a problem, but thinking about just protecting the environment and completely ignoring economic growth is also a problem. In this seminar students will verify specific environmental problems and learn the theory of environmental economics to consider how to both preserve the environment and have a strong economy. In addition, in response to requests from students, analytical methods for social problems using statistical techniques will also be covered.
During the seminar, students will read the text, present newspaper articles, and write papers either as a group or individually. Further, to improve their presentation ability, students will practice presentations and debates and hold paper reporting sessions (inter-seminars) with other universities. The addressed themes will focus on environmental issues, but for the newspaper article presentations and debates students can address a wide variety of problems that interest them in addition to environmental problems.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 環境問題の概要 1/発表練習 1
3. 環境問題の概要 2/発表練習 2
4. 環境問題の概要 3/発表練習 3
5. 環境問題の概要 4/発表練習 4
6. 学外演習(予定)
7. 環境経済学の学習 1/ディベート練習 1
8. 環境経済学の学習 2/ディベート練習 2
9. 環境経済学の学習 3/ディベート練習 3
10. 環境経済学の学習 4/ディベート練習 4
11. 環境経済学の学習 5/ディベート練習 5
12. 環境経済学の学習 6/ディベート練習 6
13. 環境経済学の学習 7/ディベート練習 7
14. 環境経済学の学習 8/ディベート練習 8
15. ガイダンス
16. グループ論文作成 1/環境経済学の分析手法 1
17. グループ論文作成 2/環境経済学の分析手法 2
18. グループ論文作成 3/環境経済学の分析手法 3

19. グループ論文作成 4/環境経済学の分析手法 4
20. グループ論文作成 5/環境経済学の分析手法 5
21. 他大学との論文報告会（予定）
22. 環境経済学の分析手法 6/発表練習 1
23. 環境経済学の分析手法 7/発表練習 2
24. 環境経済学の分析手法 8/発表練習 3
25. 環境経済学の分析手法 9/発表練習 4
26. 環境経済学の分析手法 10/発表練習 5
27. 環境経済学の分析手法 11/発表練習 6
28. 環境経済学の分析手法 12/発表練習 7

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回，復習と予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(30%)/報告内容(30%)/議論への貢献(40%)

テキスト（Textbooks）

授業中に適宜指示する。

参考文献（Readings）

1. 日引 聡，有村 俊秀、2002、『入門 環境経済学―環境問題解決へのアプローチ』、中公新書 (ISBN:4121016483)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業計画に関しては，進度などによって若干変更する場合があります。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	環境保全と経済発展の両立を考える		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 大輔(ICHINOSE DAISUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学の理論や統計学の手法を使い，環境問題をはじめとする社会問題を論理的かつ客観的に分析し，それに対する解決策を提示することができるようになることを目指します。また、様々な考え方を受け入れる力や、自分の主張や考えをうまく人に伝える力も養っていきます。

The object of this course is for students to use economic theory and statistical methods to logically and objectively analyze the environmental problem and other social problems and be able to propose solutions for them. An additional objective is for students to be able to accept different ways of thinking and to nurture the ability to skillfully communicate their assertions and ideas to other people.

授業の内容(Course Contents)

環境を無視して経済成長を目指すことは問題ですが，経済成長を全く無視して環境保全のみを考えることにもまた問題があります。このゼミナールでは，どうしたら環境と経済を両立することができるのかということを具体的な環境問題の検証や環境経済学の理論の学習を通して考えていきます。また，履修者の要望に応じ，統計学的な手法を用いた社会問題の分析方法についても扱う予定です。
ゼミナールでは受講者によるテキストの輪読，新聞記事発表，グループや個人による論文の作成などを行っていきます。また，プレゼンテーション能力を高めるための発表やディベートの練習，他大学との論文報告会(インゼミ)も行います。扱うテーマは環境問題が中心ですが、新聞記事発表やディベートでは環境問題以外にも履修者が興味をもった問題を広く扱っていきます。

Aiming for economic growth while ignoring the environment is a problem, but thinking about just protecting the environment and completely ignoring economic growth is also a problem. In this seminar students will verify specific environmental problems and learn the theory of environmental economics to consider how to both preserve the environment and have a strong economy. In addition, in response to requests from students, analytical methods for social problems using statistical techniques will also be covered.
During the seminar, students will read the text, present newspaper articles, and write papers either as a group or individually. Further, to improve their presentation ability, students will practice presentations and debates and hold paper reporting sessions (inter-seminars) with other universities. The addressed themes will focus on environmental issues, but for the newspaper article presentations and debates students can address a wide variety of problems that interest them in addition to environmental problems.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 環境問題の概要 1/発表練習 1
3. 環境問題の概要 2/発表練習 2
4. 環境問題の概要 3/発表練習 3
5. 環境問題の概要 4/発表練習 4
6. 学外演習(予定)
7. 環境経済学の学習 1/ディベート練習 1
8. 環境経済学の学習 2/ディベート練習 2
9. 環境経済学の学習 3/ディベート練習 3
10. 環境経済学の学習 4/ディベート練習 4
11. 環境経済学の学習 5/ディベート練習 5
12. 環境経済学の学習 6/ディベート練習 6
13. 環境経済学の学習 7/ディベート練習 7
14. 環境経済学の学習 8/ディベート練習 8
15. ガイダンス
16. グループ論文作成 1/環境経済学の分析手法 1
17. グループ論文作成 2/環境経済学の分析手法 2
18. グループ論文作成 3/環境経済学の分析手法 3

19. グループ論文作成 4/環境経済学の分析手法 4
20. グループ論文作成 5/環境経済学の分析手法 5
21. 他大学との論文報告会（予定）
22. 環境経済学の分析手法 6/発表練習 1
23. 環境経済学の分析手法 7/発表練習 2
24. 環境経済学の分析手法 8/発表練習 3
25. 環境経済学の分析手法 9/発表練習 4
26. 環境経済学の分析手法 10/発表練習 5
27. 環境経済学の分析手法 11/発表練習 6
28. 環境経済学の分析手法 12/発表練習 7

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回，復習と予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(30%)/報告内容(30%)/議論への貢献(40%)

テキスト（Textbooks）

授業中に適宜指示する。

参考文献（Readings）

1. 日引 聡，有村 俊秀、2002、『入門 環境経済学―環境問題解決へのアプローチ』、中公新書 (ISBN:4121016483)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業計画に関しては，進度などによって若干変更する場合があります。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の経済史・経営史		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学部の学位授与方針に掲げる「幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材」となるべく、明治から現代までの日本経済・企業(産業)の歩みについて、文献や統計資料、フィールドワークから考察し、歴史的な視点から現代社会を相対化する能力を身につける。

As far as possible to "Be people with independent thinking ability who can respond to the changes in economic society with a broad perspective and flexible mind" as stated in the College of Economics degree granting policy, in this course students will acquire the ability to consider the history of the Japanese economy and companies (industries) from the Meiji Era to the present from literature, statistical materials, and fieldwork, to be able to relativize contemporary society from a historical perspective.

授業の内容(Course Contents)

現在の経済社会を理解するために、歴史的な考察は不可欠です。複雑な現代社会の動向を理解するには、歴史研究によって現代社会を相対化する視点を身につけなければなりません。歴史が「現在と過去の対話」といわれる所以です。
本ゼミナールは、「帝国データバンク史料館」と連携して、同館所蔵の一次資料・データを活用した共同研究を実施します。2019年度のテーマは未定です。2017・18 年度は「産地(歴史的にみた地域の産業集積・集積効果)」をテーマに研究しました。また、共同研究の成果については、他大学との合同ゼミナール(12 月)で発表します。
「歴史が好き」な学生は大歓迎ですが、特段関心がない人も問題ありません。また、前向きで協調性がある方がゼミナールの進行上は望ましいですが、後ろ向きで協調性が無いと自覚している人もいるでしょう。後者であっても全く気にしません。多様な学生が集まることを期待しています。

Historical considerations are indispensable for understanding the current economic society. Students must acquire a relativized perspective of contemporary society through historical research to understand the movements in today's complex society. What this means is that history is "the dialog between the present and the past."
This seminar will conduct joint research with the Teikoku Databank Museum using the museum's primary materials and data. The theme for fiscal 2019 has not been set yet. For fiscal 2017–2018 students researched the theme was "Production centers (An historical look at the areas where industry concentrated and the effects of that concentration)." In addition, the joint research results will be presented at a joint seminar with other universities (December).
Students that "love history" are very welcome, but participation by students without a particular interest in history is also fine. In addition, due to the way the seminar is conducted, positive and cooperative students are desirable, but there are also some students that realize they are negative and uncooperative. The later types are also very welcome. I look forward to participation by a variety of students.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期ゼミナール・ガイダンス
2. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (1)
3. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (2)
4. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (3)
5. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (4)
6. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (5)
7. 学外フィールドワーク (1) 企業アーカイブ 1
8. 第 1 回グループ・プレゼンテーション (1)
9. 第 1 回グループ・プレゼンテーション (2)
10. 学外フィールドワーク (2) 企業アーカイブ 2
11. 第2回グループ・プレゼンテーション (1)
12. 第2回グループ・プレゼンテーション (2)
13. 第2回グループ・プレゼンテーション (3)
14. 第2回グループ・プレゼンテーション (4)
15. 秋学期ゼミナール・ガイダンス

16. 共同研究・プレゼンテーション (1)
17. 共同研究・プレゼンテーション (2)
18. 共同研究・プレゼンテーション (3)
19. 共同研究・プレゼンテーション (4)
20. 共同研究・プレゼンテーション (5)
21. 共同研究・プレゼンテーション (6)
22. 共同研究・プレゼンテーション (7)
23. 共同研究・プレゼンテーション (8)
24. 共同研究・プレゼンテーション (9)
25. 合同ゼミナール発表準備 (1)
26. 合同ゼミナール発表準備 (2)
27. 合同ゼミナール発表準備 (3)
28. 1年間のまとめ（全体総括）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

各回のテキストやテーマについて、事前に専門用語や疑問点を調べる。

成績評価方法・基準（Evaluation）

個別プレゼンテーション(20%)/グループ学習(30%)/授業期間内レポート(20%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト（Textbooks）

ゼミナール・ガイダンスで適宜指示する。

参考文献（Readings）

授業中に適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので，積極的な受講態度が期待される。
【課題に対するフィードバック】最終授業時に，全体に対するフィードバックを行う。
【その他】
・ゼミナール採用者に対しては、12 月もしくは 1 月に説明会を実施します。
・2019 年 3 月にプレ・ゼミナール合宿を実施します（原則、全員参加）。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近現代日本の経済史・経営史		
担当者名 (Instructor)	岡部 桂史(OKABE KEISHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学部の学位授与方針に掲げる「幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材」となるべく、明治から現代までの日本経済・企業(産業)の歩みについて、文献や統計資料、フィールドワークから考察し、歴史的な視点から現代社会を相対化する能力を身につける。

As far as possible to "Be people with independent thinking ability who can respond to the changes in economic society with a broad perspective and flexible mind" as stated in the College of Economics degree granting policy, in this course students will acquire the ability to consider the history of the Japanese economy and companies (industries) from the Meiji Era to the present from literature, statistical materials, and fieldwork, to be able to relativize contemporary society from a historical perspective.

授業の内容(Course Contents)

現在の経済社会を理解するために、歴史的な考察は不可欠です。複雑な現代社会の動向を理解するには、歴史研究によって現代社会を相対化する視点を身につけなければなりません。歴史が「現在と過去の対話」といわれる所以です。
本ゼミナールは、「帝国データバンク史料館」と連携して、同館所蔵の一次資料・データを活用した共同研究を実施します。2019年度のテーマは未定です。2017・18 年度は「産地(歴史的にみた地域の産業集積・集積効果)」をテーマに研究しました。また、共同研究の成果については、他大学との合同ゼミナール(12 月)で発表します。
「歴史が好き」な学生は大歓迎ですが、特段関心がない人も問題ありません。また、前向きで協調性がある方がゼミナールの進行上は望ましいですが、後ろ向きで協調性が無いと自覚している人もいるでしょう。後者であっても全く気にしません。多様な学生が集まることを期待しています。

Historical considerations are indispensable for understanding the current economic society. Students must acquire a relativized perspective of contemporary society through historical research to understand the movements in today's complex society. What this means is that history is "the dialog between the present and the past."
This seminar will conduct joint research with the Teikoku Databank Museum using the museum's primary materials and data. The theme for fiscal 2019 has not been set yet. For fiscal 2017–2018 students researched the theme was "Production centers (An historical look at the areas where industry concentrated and the effects of that concentration)." In addition, the joint research results will be presented at a joint seminar with other universities (December).
Students that "love history" are very welcome, but participation by students without a particular interest in history is also fine. In addition, due to the way the seminar is conducted, positive and cooperative students are desirable, but there are also some students that realize they are negative and uncooperative. The later types are also very welcome. I look forward to participation by a variety of students.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期ゼミナール・ガイダンス
2. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (1)
3. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (2)
4. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (3)
5. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (4)
6. 日本経済史・経営史の基礎を学ぶ (5)
7. 学外フィールドワーク (1) 企業アーカイブ 1
8. 第 1 回グループ・プレゼンテーション (1)
9. 第 1 回グループ・プレゼンテーション (2)
10. 学外フィールドワーク (2) 企業アーカイブ 2
11. 第2回グループ・プレゼンテーション (1)
12. 第2回グループ・プレゼンテーション (2)
13. 第2回グループ・プレゼンテーション (3)
14. 第2回グループ・プレゼンテーション (4)
15. 秋学期ゼミナール・ガイダンス

16. 共同研究・プレゼンテーション (1)
17. 共同研究・プレゼンテーション (2)
18. 共同研究・プレゼンテーション (3)
19. 共同研究・プレゼンテーション (4)
20. 共同研究・プレゼンテーション (5)
21. 共同研究・プレゼンテーション (6)
22. 共同研究・プレゼンテーション (7)
23. 共同研究・プレゼンテーション (8)
24. 共同研究・プレゼンテーション (9)
25. 合同ゼミナール発表準備 (1)
26. 合同ゼミナール発表準備 (2)
27. 合同ゼミナール発表準備 (3)
28. 1年間のまとめ（全体総括）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

各回のテキストやテーマについて、事前に専門用語や疑問点を調べる。

成績評価方法・基準（Evaluation）

個別プレゼンテーション(20%)/グループ学習(30%)/授業期間内レポート(20%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト（Textbooks）

ゼミナール・ガイダンスで適宜指示する。

参考文献（Readings）

授業中に適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【授業形態】授業では学生への質問も活発に行う予定なので，積極的な受講態度が期待される。
【課題に対するフィードバック】最終授業時に，全体に対するフィードバックを行う。
【その他】
・ゼミナール採用者に対しては、12 月もしくは 1 月に説明会を実施します。
・2019 年 3 月にプレ・ゼミナール合宿を実施します（原則、全員参加）。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済分析－国際分業との関連		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

日本経済の現状と史的展開を理解し、実態としての経済作動についてのパースペクティヴを持たせる。

To understand the current state of the Japanese economy and its historical development and have a perspective of how the economy actually operates.

授業の内容(Course Contents)

戦時経済から戦後再編、高成長期を経て低成長の現在に至るまでの日本経済の発展経路について理解する。とはいえ日本だけに限定せず、日本と東アジアとの相互交流をも視野に入れて、個別産業の発展、インフラの形成、企業投資、経済政策の推進などといった多様な部門に関して遠慮なく議論してもらう。それを通じて学生諸君が実態としての経済作動が我々に及ぼす影響をより大きな視野から認識することを期待する。
このゼミでは以上の問題意識に基づいて日本経済に関する多様なテキストを読み、担当者の報告の上、参加者同士で討論を行う。

Students will gain an understanding of the development path taken by the Japanese economy from the wartime economy through the postwar reconstruction, period of high growth, and up to today's low growth period. Having said that, the coverage will not be limited to Japan but will also include the mutual exchange between Japan and East Asia as well as diverse areas such as the development of individual industries, infrastructure formation, business investment, and the promotion of economic policies. This is expected that as a result of this students will become able to recognize from a broad perspective how economic operations affect us.
Based on the above problem awareness, students will read a variety of texts related to the Japanese economy and discuss among themselves the reports that are given.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告及び討論1
3. 輪読書報告及び討論2
4. 輪読書報告及び討論3
5. 輪読書報告及び討論4
6. グループ論文作成作業1
7. グループ論文作成作業2
8. グループ論文作成作業3
9. グループ論文作成作業4
10. グループ論文中間報告及び討論1
11. グループ論文中間報告及び討論2
12. グループ論文中間報告及び討論3
13. グループ論文最終報告及び討論
14. 春学期総括
15. 秋学期イントロダクション
16. 輪読書報告及び討論5
17. 輪読書報告及び討論6
18. 輪読書報告及び討論7
19. 輪読書報告及び討論8
20. 個人論文作成作業1
21. 個人論文作成作業2
22. 個人論文作成作業3
23. 個人論文中間報告及び討論1
24. 個人論文中間報告及び討論2
25. 個人論文中間報告及び討論3

26. 個人論文最終報告及び討論1
27. 個人論文最終報告及び討論2
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストなどは各自、精読して授業に参加すること。
グループ論文のプレゼンテーションは各グループ別に先行研究及び資料調査の上で行い、ディスカッションを通じて指摘・議論される事項ないしコメントを踏まえてグループ論文の改善を図ること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業参加度(30%)/討論(30%)

テキスト（Textbooks）

授業時に提示する。

参考文献（Readings）

授業時に提示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本経済分析－国際分業との関連		
担当者名 (Instructor)	林 采成(LIM CHAISUNG)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

日本経済の現状と史的展開を理解し、実態としての経済作動についてのパースペクティヴを持たせる。

To understand the current state of the Japanese economy and its historical development and have a perspective of how the economy actually operates.

授業の内容(Course Contents)

戦時経済から戦後再編、高成長期を経て低成長の現在に至るまでの日本経済の発展経路について理解する。とはいえ日本だけに限定せず、日本と東アジアとの相互交流をも視野に入れて、個別産業の発展、インフラの形成、企業投資、経済政策の推進などといった多様な部門に関して遠慮なく議論してもらう。それを通じて学生諸君が実態としての経済作動が我々に及ぼす影響をより大きな視野から認識することを期待する。
このゼミでは以上の問題意識に基づいて日本経済に関する多様なテキストを読み、担当者の報告の上、参加者同士で討論を行う。

Students will gain an understanding of the development path taken by the Japanese economy from the wartime economy through the postwar reconstruction, period of high growth, and up to today's low growth period. Having said that, the coverage will not be limited to Japan but will also include the mutual exchange between Japan and East Asia as well as diverse areas such as the development of individual industries, infrastructure formation, business investment, and the promotion of economic policies. This is expected that as a result of this students will become able to recognize from a broad perspective how economic operations affect us.
Based on the above problem awareness, students will read a variety of texts related to the Japanese economy and discuss among themselves the reports that are given.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告及び討論1
3. 輪読書報告及び討論2
4. 輪読書報告及び討論3
5. 輪読書報告及び討論4
6. グループ論文作成作業1
7. グループ論文作成作業2
8. グループ論文作成作業3
9. グループ論文作成作業4
10. グループ論文中間報告及び討論1
11. グループ論文中間報告及び討論2
12. グループ論文中間報告及び討論3
13. グループ論文最終報告及び討論
14. 春学期総括
15. 秋学期イントロダクション
16. 輪読書報告及び討論5
17. 輪読書報告及び討論6
18. 輪読書報告及び討論7
19. 輪読書報告及び討論8
20. 個人論文作成作業1
21. 個人論文作成作業2
22. 個人論文作成作業3
23. 個人論文中間報告及び討論1
24. 個人論文中間報告及び討論2
25. 個人論文中間報告及び討論3

26. 個人論文最終報告及び討論1
27. 個人論文最終報告及び討論2
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストなどは各自、精読して授業に参加すること。
グループ論文のプレゼンテーションは各グループ別に先行研究及び資料調査の上で行い、ディスカッションを通じて指摘・議論される事項ないしコメントを踏まえてグループ論文の改善を図ること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業参加度(30%)/討論(30%)

テキスト（Textbooks）

授業時に提示する。

参考文献（Readings）

授業時に提示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代財政・租税論の国際比較研究		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

各国の財政制度，とりわけ消費税・所得税といった租税制度，年金・医療・介護保険・生活保護といった社会保障制度等について国際比較を行うことで，日本社会の現状を把握することを目標とします。

The objective of this course is to grasp the current state of Japanese society by making an international comparison with the financials systems of each country and in particular the tax systems focusing on consumption tax and income tax as well as the social security systems looking at pensions, medical treatment, long-term care insurance, and welfare among others.

授業の内容(Course Contents)

財政は，政府の行政活動を裏付ける，公的な資金調達及び資金支出の活動です。しかし，単なる政府部門の歳入・歳出活動のみを対象にするものではないことに注意が必要です。というのは，政府部門の活動の対象は，企業や家族を対象としているからです。このことは，企業の活動や家族の活動の理解にも，政府部門の活動の理解が不可欠であることを示しています。

これまでゼミでは，財政学の視点から公共領域と民間領域の範囲を意識した議論を行ってきました。例えば，年金(公的年金保険と民間年金保険)，医療(公的医療保険と民間医療保険)，教育(公教育と私教育)等に関して，政府部門の歳入・歳出構造や企業形態・家族形態を踏まえた国際比較を行い，日本社会の現状理解を深めてきました。本年度のゼミでも，財政学の視点から議論することを考えています。

ゼミの活動は参加者(ゼミ生)の主体性を尊重しているため，テーマ設定，立案，実行を学生主体で行うこととし，担当者(関口)はそのための資料や視点を提供し，必要な解説を行います。確定したテーマについて，各国の状況も意識しながら積極的に学び，毎回の参加により理解を共有し，自分の意見を積極的に発言し，日本財政の抱える課題や解決策について考えてゆこうとする学生の参加を望みます。

Public finance supports the administrative activities of government and is public funds procurement and funds expenditure activities. However, caution is required because this does not address only revenue and expenditure activities of the government sector. This is because addressing the activities of the government sector also addresses businesses and households. For this reason, understanding the activities of businesses and households is indispensable for understanding the activities of the government sector.

In the seminar so far the scopes of the public sector and private sector have been discussed from the perspective of public finance. For example, understanding of the current state of Japanese society was deepened by making international comparisons of the government sectors revenue and expenditure mechanisms and the forms of businesses and families in regards to pensions (public pension insurance and private pension insurance), medical care (public medical insurance and private medical insurance), and education (public education and private education), etc. The topics of the seminar for the current academic year will be discussed from the perspective of public finance.

In regards to seminar activities, the initiative of the participants (seminar students) will be respected, so the setting, planning, and execution of themes will be led by the students while the person in charge (Sekiguchi) will provide materials and perspectives to support this as well as necessary explanations. Regarding the set themes, it is desirable that the students who participate in the seminar will study proactively keeping the situations in the various countries in mind, share their understanding by participating in each class, actively express their opinions, and think about solutions to the problems faced by Japanese public finance.

授業計画(Course Schedule)

1. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
2. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
3. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
4. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
5. 卒業論文1(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
6. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
7. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
8. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
9. 卒業論文2(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)

10. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
11. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
12. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
13. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
14. 卒業論文3(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
15. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
16. 討論会準備(グループ作業)
17. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
18. 討論会準備(グループ作業・調整)
19. 卒業論文4(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
20. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
21. 討論会準備(グループ作業・調整)
22. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
23. 卒業論文5(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
24. 討論会準備(プレゼン・改善指導・全体調整作業)
25. 討論会準備(プレゼン・改善指導・全体調整作業)
26. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
27. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
28. 卒業論文6(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レジュメ作成(20%)/プレゼンテーション(20%)/討論への参加(40%)/ゼミ共同論文(20%)

テキスト(Textbooks)

ゼミ生全員でテーマ設定し，複数のテキストを担当者（関口）が提示し，ゼミ生が選択・決定します。

参考文献(Readings)

1. 関口智、2015 年、『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130461146)
2. 関口智編、2016 年、『地方財政・公会計制度の国際比較』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818824188)

随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミ HP(http://www.geocities.jp/sekiguchi_seminar/)

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代財政・租税論の国際比較研究		
担当者名 (Instructor)	関口 智(SEKIGUCHI SATOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

各国の財政制度，とりわけ消費税・所得税といった租税制度，年金・医療・介護保険・生活保護といった社会保障制度等について国際比較を行うことで，日本社会の現状を把握することを目標とします。

The objective of this course is to grasp the current state of Japanese society by making an international comparison with the financials systems of each country and in particular the tax systems focusing on consumption tax and income tax as well as the social security systems looking at pensions, medical treatment, long-term care insurance, and welfare among others.

授業の内容(Course Contents)

財政は，政府の行政活動を裏付ける，公的な資金調達及び資金支出の活動です。しかし，単なる政府部門の歳入・歳出活動のみを対象にするものではないことに注意が必要です。というのは，政府部門の活動の対象は，企業や家族を対象としているからです。このことは，企業の活動や家族の活動の理解にも，政府部門の活動の理解が不可欠であることを示しています。

これまでゼミでは，財政学の視点から公共領域と民間領域の範囲を意識した議論を行ってきました。例えば，年金(公的年金保険と民間年金保険)，医療(公的医療保険と民間医療保険)，教育(公教育と私教育)等に関して，政府部門の歳入・歳出構造や企業形態・家族形態を踏まえた国際比較を行い，日本社会の現状理解を深めてきました。本年度のゼミでも，財政学の視点から議論することを考えています。

ゼミの活動は参加者(ゼミ生)の主体性を尊重しているため，テーマ設定，立案，実行を学生主体で行うこととし，担当者(関口)はそのための資料や視点を提供し，必要な解説を行います。確定したテーマについて，各国の状況も意識しながら積極的に学び，毎回の参加により理解を共有し，自分の意見を積極的に発言し，日本財政の抱える課題や解決策について考えてゆこうとする学生の参加を望みます。

Public finance supports the administrative activities of government and is public funds procurement and funds expenditure activities. However, caution is required because this does not address only revenue and expenditure activities of the government sector. This is because addressing the activities of the government sector also addresses businesses and households. For this reason, understanding the activities of businesses and households is indispensable for understanding the activities of the government sector.

In the seminar so far the scopes of the public sector and private sector have been discussed from the perspective of public finance. For example, understanding of the current state of Japanese society was deepened by making international comparisons of the government sectors revenue and expenditure mechanisms and the forms of businesses and families in regards to pensions (public pension insurance and private pension insurance), medical care (public medical insurance and private medical insurance), and education (public education and private education), etc. The topics of the seminar for the current academic year will be discussed from the perspective of public finance.

In regards to seminar activities, the initiative of the participants (seminar students) will be respected, so the setting, planning, and execution of themes will be led by the students while the person in charge (Sekiguchi) will provide materials and perspectives to support this as well as necessary explanations. Regarding the set themes, it is desirable that the students who participate in the seminar will study proactively keeping the situations in the various countries in mind, share their understanding by participating in each class, actively express their opinions, and think about solutions to the problems faced by Japanese public finance.

授業計画(Course Schedule)

1. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
2. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
3. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
4. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
5. 卒業論文1(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
6. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
7. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
8. 財政学基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
9. 卒業論文2(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)

10. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
11. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
12. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
13. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
14. 卒業論文3(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
15. 討論会向け基本文献の輪読(プレゼン・解説・討論)
16. 討論会準備(グループ作業)
17. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
18. 討論会準備(グループ作業・調整)
19. 卒業論文4(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
20. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
21. 討論会準備(グループ作業・調整)
22. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
23. 卒業論文5(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)
24. 討論会準備(プレゼン・改善指導・全体調整作業)
25. 討論会準備(プレゼン・改善指導・全体調整作業)
26. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
27. 討論会準備(プレゼン・改善指導)
28. 卒業論文6(プレゼン・ゼミ生の質疑・改善指導)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レジュメ作成(20%)/プレゼンテーション(20%)/討論への参加(40%)/ゼミ共同論文(20%)

テキスト(Textbooks)

ゼミ生全員でテーマ設定し，複数のテキストを担当者（関口）が提示し，ゼミ生が選択・決定します。

参考文献(Readings)

1. 関口智、2015 年、『現代アメリカ連邦税制-付加価値税なき国家の租税構造』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130461146)
2. 関口智編、2016 年、『地方財政・公会計制度の国際比較』、日本経済評論社 (ISBN:978-4818824188)

随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミ HP(http://www.geocities.jp/sekiguchi_seminar/)

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業内部の管理者が用いる会計情報システムである管理会計と、その主たる構成要素となる原価計算について学ぶ。		
担当者名 (Instructor)	諸藤　裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

組織の提供する製品やサービスの価格の決定、設備投資を行うためにどのような会計計算を行うのか、組織の目的のために管理者や従業員に頑張って行動してもらうにはどのような業績情報を与えるべきかといった組織の経営管理者のための会計を学ぶ。

To learn what accounting calculations are used to set the prices of products and services provided by organizations and for making capital investments and the accounting for the organization's business managers regarding what kind of performance information should be provided so that managers and employees strive hard to reach the organization's goals.

授業の内容(Course Contents)

組織の提供する製品・サービスの価格決定、設備投資などの意思決定のためにどのような会計計算をすべきか、組織の目的のために管理者・従業員を動機づけるためにどのような業績評価をすべきか、といったことをテキストの輪読で学ぶ。他大学との研究報告会では、組織の財務諸表や戦略の分析、管理会計手法について深く学んだ成果を発表する。

Students will read texts to learn about the accounting calculations that should be used to decide how to set the prices for products and services provided by organizations, what accounting calculation should be made to make decisions about capital investment, etc., and how to evaluate performance to motivate managers and employees to accomplish the organization's objectives. At the research presentation held with other universities students will present the results of what they deeply learned about analyzing the financial statements and strategy of organizations and about management accounting methods.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
3. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミのテーマ決め
4. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
5. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、習熟度チェック
6. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
7. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
8. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
9. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、習熟度チェック
10. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、
11. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
12. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミ中間報告
13. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
14. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
15. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
16. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
17. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
18. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
19. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミ中間報告
20. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
21. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
22. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
23. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
24. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
25. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミ中間報告
26. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
27. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
28. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

インゼミ報告に向けて、4 名程度のチームを編成する。チームによるテーマ決め、資料収集・読解、各チーム・メンバーで学んだことを 1 つの報告としてまとめる作業は、授業時間以外に行う。また、輪読テキストの内容については、ゼミ内での質疑応答を行うので、報告者以外も予復習をしっかり行うこと。ゼミやインゼミの前提知識を身につけるために、管理会計論 1・2 の受講を必須とする。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(30%)/報告・質疑応答の質、議論への参加(50%)/理解度チェック(20%)
半期のうち、2 回を超える欠席は、正当な理由がない限り不可とする。

テキスト（Textbooks）

1. 清水孝・長谷川恵一・奥村雅史、2004、『入門原価計算第 2 版』、中央経済社
上記は 2 年次春学期に用いるテキストです。2 年次秋学期以降の管理会計のテキストは追ってお伝えします。

参考文献（Readings）

1. 岡本清・廣本敏郎編、2016、『検定簿記講義 2 級工業簿記』、中央経済社
2. 清水孝、2014、『現場で使える原価計算』、中央経済社
3. 谷武幸、2013、『エッセンシャル管理会計第 3 版』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

主に土日に開催する年 3 回程度のインゼミ、その他の行事の出席も必須である。チームでのインゼミ準備も責任を持って取り組むこと。自身が一人で考えたり実行できることには限りがあるので、是非各自の分担をしっかり調べ上げたうえでお互い意見を出し合う楽しさ、良い研究成果に結びつける醍醐味を味わって下さい。それを経た暁には、自然と実力や自信がついていることを実感できるでしょう。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業内部の管理者が用いる会計情報システムである管理会計と、その主たる構成要素となる原価計算について学ぶ。		
担当者名 (Instructor)	諸藤　裕美(MOROFUJI YUMI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

組織の提供する製品やサービスの価格の決定、設備投資を行うためにどのような会計計算を行うのか、組織の目的のために管理者や従業員に頑張って行動してもらうにはどのような業績情報を与えるべきかといった組織の経営管理者のための会計を学ぶ。

To learn what accounting calculations are used to set the prices of products and services provided by organizations and for making capital investments and the accounting for the organization's business managers regarding what kind of performance information should be provided so that managers and employees strive hard to reach the organization's goals.

授業の内容(Course Contents)

組織の提供する製品・サービスの価格決定、設備投資などの意思決定のためにどのような会計計算をすべきか、組織の目的のために管理者・従業員を動機づけるためにどのような業績評価をすべきか、といったことをテキストの輪読で学ぶ。他大学との研究報告会では、組織の財務諸表や戦略の分析、管理会計手法について深く学んだ成果を発表する。

Students will read texts to learn about the accounting calculations that should be used to decide how to set the prices for products and services provided by organizations, what accounting calculation should be made to make decisions about capital investment, etc., and how to evaluate performance to motivate managers and employees to accomplish the organization's objectives. At the research presentation held with other universities students will present the results of what they deeply learned about analyzing the financial statements and strategy of organizations and about management accounting methods.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
3. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミのテーマ決め
4. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
5. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、習熟度チェック
6. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
7. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
8. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
9. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、習熟度チェック
10. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、
11. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
12. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミ中間報告
13. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
14. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
15. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
16. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
17. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
18. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
19. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミ中間報告
20. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
21. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
22. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
23. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
24. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
25. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読、インゼミ中間報告
26. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
27. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読
28. 原価計算・管理会計に関するテキストの輪読

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

インゼミ報告に向けて、4 名程度のチームを編成する。チームによるテーマ決め、資料収集・読解、各チーム・メンバーで学んだことを 1 つの報告としてまとめる作業は、授業時間以外に行う。また、輪読テキストの内容については、ゼミ内での質疑応答を行うので、報告者以外も予復習をしっかり行うこと。ゼミやインゼミの前提知識を身につけるために、管理会計論 1・2 の受講を必須とする。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(30%)/報告・質疑応答の質、議論への参加(50%)/理解度チェック(20%)
半期のうち、2 回を超える欠席は、正当な理由がない限り不可とする。

テキスト（Textbooks）

1. 清水孝・長谷川惠一・奥村雅史、2004、『入門原価計算第 2 版』、中央経済社
上記は 2 年次春学期に用いるテキストです。2 年次秋学期以降の管理会計のテキストは追ってお伝えします。

参考文献（Readings）

1. 岡本清・廣本敏郎編、2016、『検定簿記講義 2 級工業簿記』、中央経済社
2. 清水孝、2014、『現場で使える原価計算』、中央経済社
3. 谷武幸、2013、『エッセンシャル管理会計第 3 版』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

主に土日に開催する年 3 回程度のインゼミ、その他の行事の出席も必須である。チームでのインゼミ準備も責任を持って取り組むこと。自身が一人で考えたり実行できることには限りがあるので、是非各自の分担をしっかり調べ上げたうえでお互い意見を出し合う楽しさ、良い研究成果に結びつける醍醐味を味わって下さい。それを経た暁には、自然と実力や自信がついていることを実感できるでしょう。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	最新アメリカ経済と世界への影響-ポピュリズムの時代を展望する-		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

「ポピュリズム」の象徴とされるトランプ大統領のもと，アメリカは保護主義的通商政策に傾斜しつつある。不透明な「トランプ時代」のアメリカ経済の光と影，世界経済への影響を総合的に理解する。

Under the populism phenomenon of President Trump, America is leaning toward protective trade policy. The objective of this course is to comprehensively understand the light and the shadows of the American economy under the opaque “Trump Age” and its impact on the world economy.

授業の内容(Course Contents)

他大学とのジョイントゼミ，企業訪問，ゼミキャリア教育，夏期研修（ゼミで相談して決定）。アメリカ経済，国際経済の学習の他に，アメリカ産業・企業を中心に，比較研究を行うこともあります。研究と実体験を通じて，時代に適合した，主体的に生きるための多面的能力の獲得を目指します。

There will be a joint seminar with other universities, company visits, seminar career training, and summer training (decided after consultation with seminar participants). In addition to learning about the American economy and the international economy, students will also conduct comparative research focusing on American industry and business. The aim of this course is for students to acquire through the research and experiences the multifaceted abilities necessary for living proactively in a way that matches the times.

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 世界経済の基礎1
3. 世界経済の基礎2
4. 世界経済の基礎3
5. 世界経済の基礎4
6. アメリカ経済の動向1
7. アメリカ経済の動向2
8. アメリカ経済の動向3
9. アメリカ経済の動向4
10. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
11. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
12. ジョイントゼミ
13. 企業訪問等
14. ゼミキャリア教育
15. 開講ガイダンス
16. グローバル経済の新段階1
17. グローバル経済の新段階2
18. グローバル経済の新段階3
19. グローバル経済の新段階4
20. アメリカ経済の構造変化1
21. アメリカ経済の構造変化2
22. アメリカ経済の構造変化3
23. アメリカ経済の構造変化4
24. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
25. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
26. ジョイントゼミ
27. 企業訪問等
28. ゼミキャリア教育

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

各回にむけて必要な準備作業を，チーム毎に行っておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ジョイントゼミ，企業訪問におけるプレゼンテーション内容などゼミ活動全般(100%)

テキスト（Textbooks）

1. 藤木剛康、2012 年、『アメリカ政治経済論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:ISBN978-4623062102)
2. 櫻井公人，板木雅彦，中本悟，石田修(編)、2010 年、『現代世界経済をとらえる Ver.5』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492443668)
3. 河音琢郎，藤木剛康、2016 年、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)

毎回真剣勝負でゼミに臨んでください。

参考文献（Readings）

毎回教員が指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	最新アメリカ経済と世界への影響-ポピュリズムの時代を展望する-		
担当者名 (Instructor)	山縣 宏之(YAMAGATA HIROYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

「ポピュリズム」の象徴とされるトランプ大統領のもと，アメリカは保護主義的通商政策に傾斜しつつある。不透明な「トランプ時代」のアメリカ経済の光と影，世界経済への影響を総合的に理解する。

Under the populism phenomenon of President Trump, America is leaning toward protective trade policy. The objective of this course is to comprehensively understand the light and the shadows of the American economy under the opaque “Trump Age” and its impact on the world economy.

授業の内容(Course Contents)

他大学とのジョイントゼミ，企業訪問，ゼミキャリア教育，夏期研修（ゼミで相談して決定）。アメリカ経済，国際経済の学習の他に，アメリカ産業・企業を中心に，比較研究を行うこともあります。研究と実体験を通じて，時代に適合した，主体的に生きるための多面的能力の獲得を目指します。

There will be a joint seminar with other universities, company visits, seminar career training, and summer training (decided after consultation with seminar participants). In addition to learning about the American economy and the international economy, students will also conduct comparative research focusing on American industry and business. The aim of this course is for students to acquire through the research and experiences the multifaceted abilities necessary for living proactively in a way that matches the times.

授業計画(Course Schedule)

1. 開講ガイダンス
2. 世界経済の基礎1
3. 世界経済の基礎2
4. 世界経済の基礎3
5. 世界経済の基礎4
6. アメリカ経済の動向1
7. アメリカ経済の動向2
8. アメリカ経済の動向3
9. アメリカ経済の動向4
10. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
11. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
12. ジョイントゼミ
13. 企業訪問等
14. ゼミキャリア教育
15. 開講ガイダンス
16. グローバル経済の新段階1
17. グローバル経済の新段階2
18. グローバル経済の新段階3
19. グローバル経済の新段階4
20. アメリカ経済の構造変化1
21. アメリカ経済の構造変化2
22. アメリカ経済の構造変化3
23. アメリカ経済の構造変化4
24. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
25. ディベート指導（ジョイントゼミ準備）
26. ジョイントゼミ
27. 企業訪問等
28. ゼミキャリア教育

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

各回にむけて必要な準備作業を，チーム毎に行っておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ジョイントゼミ，企業訪問におけるプレゼンテーション内容などゼミ活動全般(100%)

テキスト（Textbooks）

1. 藤木剛康、2012 年、『アメリカ政治経済論』、ミネルヴァ書房 (ISBN:ISBN978-4623062102)
2. 櫻井公人，板木雅彦，中本悟，石田修(編)、2010 年、『現代世界経済をとらえる Ver.5』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492443668)
3. 河音琢郎，藤木剛康、2016 年、『オバマ政権の経済政策』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623077939)

毎回真剣勝負でゼミに臨んでください。

参考文献（Readings）

毎回教員が指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	信用理論の研究		
担当者名 (Instructor)	大友 敏明(OTOMO TOSHIAKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

学生が日本を含む世界経済を貨幣・信用制度の観点から分析し,他者に説明できる能力を身に付けることができる。

The objective of this course is for students to acquire the ability to analyze the Japanese and global economy, from the perspective of the monetary and credit systems as well as to be able to explain this analysis to others.

授業の内容(Course Contents)

現代の資本主義経済を金融の側面から理解します。貨幣や信用制度を理論的および歴史的に,そして制度論的にも考察します。ゼミの活動は 3 つに分かれます。第 1 は,金融の基礎的な文献を輪読します。基礎的な学習はもっとも大事にしています。第 2 は,課題研究です。毎年,年間テーマを設け,そのテーマのもとに 3 年次生は自分でテーマを設定し,調べ,報告します。繰り返し報告することで,自分の問題関心が浮かび上がってきます。また議論を通じて自分が鍛えられてくるのがわかります。第 3 は,卒業論文の作成です。4 年次生は自分の考えをまとめることが大事です。ゼミは大学のなかの居場所です。この場所を拠点にして自分を磨き,高めてください。

Students will understand the contemporary capitalistic economy from the perspective of finance. The monetary and credit systems will be considered from the theoretical, historical, and institutional perspectives. The seminar activities are divided into 3 sections. During the first section students read basic literature on finance. This study of the fundamentals is very important. During the second section issues will be researched. Every year an annual theme is set and based on this theme third year students set their own themes, investigate them, and give reports about them. Repeatedly given reports will reveal to students the problems they are interested in. In addition, students will also realize they are being strengthened through the discussions. During the third section students will write their graduation theses. It is important for 4th year students to summarize their thoughts. The seminar is a place of belonging within the university. This is a place for students to polish and improve themselves.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告と討論 1
3. 輪読書報告と討論 2
4. 輪読書報告と討論 3
5. 輪読書報告と討論 4
6. 輪読書報告と討論 5
7. 輪読書報告と討論 6
8. 課題研究報告と討論 1
9. 課題研究報告と討論 2
10. 課題研究報告と討論 3
11. 課題研究報告と討論 4
12. 課題研究報告と討論 5
13. 課題研究報告と討論 6
14. 課題研究報告と討論 7
15. 秋学期イントロダクション
16. 課題研究報告と討論 1
17. 課題研究報告と討論 2
18. 課題研究報告と討論 3
19. 課題研究報告と討論 4
20. 課題研究報告と討論 5
21. 課題研究報告と討論 6
22. 課題研究報告と討論 7
23. 課題研究報告と討論 8
24. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 1

25. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 2
26. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 3
27. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 4
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

輪読および課題研究の報告者は必ずレジュメを作成しなければならない。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ディスカッション(40%)/プレゼンテーション(30%)/ゼミ論文(30%)

テキスト（Textbooks）

未定

参考文献（Readings）

未定

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

特になし

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	信用理論の研究		
担当者名 (Instructor)	大友 敏明(OTOMO TOSHIAKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

学生が日本を含む世界経済を貨幣・信用制度の観点から分析し,他者に説明できる能力を身に付けることができる。

The objective of this course is for students to acquire the ability to analyze the Japanese and global economy, from the perspective of the monetary and credit systems as well as to be able to explain this analysis to others.

授業の内容(Course Contents)

現代の資本主義経済を金融の側面から理解します。貨幣や信用制度を理論的および歴史的に,そして制度論的にも考察します。ゼミの活動は 3 つに分かれます。第 1 は,金融の基礎的な文献を輪読します。基礎的な学習はもっとも大事にしています。第 2 は,課題研究です。毎年,年間テーマを設け,そのテーマのもとに 3 年次生は自分でテーマを設定し,調べ,報告します。繰り返し報告することで,自分の問題関心が浮かび上がってきます。また議論を通じて自分が鍛えられてくるのがわかります。第 3 は,卒業論文の作成です。4 年次生は自分の考えをまとめることが大事です。ゼミは大学のなかの居場所です。この場所を拠点にして自分を磨き,高めてください。

Students will understand the contemporary capitalistic economy from the perspective of finance. The monetary and credit systems will be considered from the theoretical, historical, and institutional perspectives. The seminar activities are divided into 3 sections. During the first section students read basic literature on finance. This study of the fundamentals is very important. During the second section issues will be researched. Every year an annual theme is set and based on this theme third year students set their own themes, investigate them, and give reports about them. Repeatedly given reports will reveal to students the problems they are interested in. In addition, students will also realize they are being strengthened through the discussions. During the third section students will write their graduation theses. It is important for 4th year students to summarize their thoughts. The seminar is a place of belonging within the university. This is a place for students to polish and improve themselves.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告と討論 1
3. 輪読書報告と討論 2
4. 輪読書報告と討論 3
5. 輪読書報告と討論 4
6. 輪読書報告と討論 5
7. 輪読書報告と討論 6
8. 課題研究報告と討論 1
9. 課題研究報告と討論 2
10. 課題研究報告と討論 3
11. 課題研究報告と討論 4
12. 課題研究報告と討論 5
13. 課題研究報告と討論 6
14. 課題研究報告と討論 7
15. 秋学期イントロダクション
16. 課題研究報告と討論 1
17. 課題研究報告と討論 2
18. 課題研究報告と討論 3
19. 課題研究報告と討論 4
20. 課題研究報告と討論 5
21. 課題研究報告と討論 6
22. 課題研究報告と討論 7
23. 課題研究報告と討論 8
24. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 1

25. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 2
26. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 3
27. 課題研究報告・卒業論文報告と討論 4
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

輪読および課題研究の報告者は必ずレジュメを作成しなければならない。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ディスカッション(40%)/プレゼンテーション(30%)/ゼミ論文(30%)

テキスト（Textbooks）

未定

参考文献（Readings）

未定

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

特になし

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代経済研究		
担当者名 (Instructor)	池田 毅(IKEDA TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学の理論的思考・考え方を訓練し，その現実への応用を学ぶ。

The objective of this seminar is for students to practice economics logical thinking and applying it to the real world.

授業の内容(Course Contents)

経済学の理論は学生諸君にとって不人気な分野の一つである。とはいえ，理論とは平たく言えば，ものの見方・考え方の体系化の一つに過ぎない。現実の経済に関する知識を断片的に積み重ねてみても，その情報量は膨大でおよそ学生諸君個人では処理できないようなものであろう。そうした複雑な現実に対して，ある程度の一貫した見通しを与え，体系化された考え方を提供するのが理論の役割の一つである。学生諸君が経済理論を学ぶべき理由は，まさにこうした体系的な思考を身につけることそのものにある。
このゼミでは以上の問題意識を持ちつつ，経済理論やその応用を論じたテキストを輪読し，担当者による報告と全員での討論をおこなう。
なお上記に加えて，ここ数年は証券ゼミナール大会への参加など，ゼミ生同士のグループ活動も大部を占めるようになっている。これらのグループ作業にも積極的に関わる姿勢・意欲のある学生を求めます。

The object of this seminar is to study economic theory, which is unpopular with some students. However, theory is nothing more than a systematic way to view and think about things. If we gather together the knowledge regarding the real economy in a piecemeal manner, the amount of information is enormous and cannot be processed by individual students. One of the roles of theory is to systematize this complex reality into a somewhat consistent view. The reason students study economic theory is to acquire this systematic way of thinking.
During this seminar the students will keep the above problem awareness in mind while reading texts on economic theory and its application and then all members will discuss the reports given by assigned students.
In addition to the above, during the last several years group activities by seminar students, such as participating in the students meeting about he securities market, have accounted for a large portion of the seminar. The seminar seeks students who also want to proactively participate in these group activities.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告＆討論 1
3. 輪読書報告＆討論 2
4. 輪読書報告＆討論 3
5. 輪読書報告＆討論 4
6. グループ論文作成作業 1
7. グループ論文作成作業 2
8. グループ論文作成作業 3
9. グループ論文作成作業 4
10. グループ論文中間報告＆討論 1
11. グループ論文中間報告＆討論 2
12. グループ論文中間報告＆討論 3
13. グループ論文中間報告＆討論 4
14. 春学期総括
15. 秋学期イントロダクション
16. グループ論文最終稿完成作業 1
17. グループ論文最終稿完成作業 2
18. グループ論文最終稿完成作業 3
19. グループ論文最終稿完成作業 4
20. グループ・ディスカッション 1
21. グループ・ディスカッション 2

22. グループ・ディスカッション 3
23. グループ・ディスカッション 4
24. グループ論文最終報告＆質疑応答 1
25. グループ論文最終報告＆質疑応答 2
26. グループ論文最終報告＆質疑応答 3
27. グループ論文最終報告＆質疑応答 4
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

前半の輪読書については各自，あらかじめ精読して授業に臨むこと。
グループ論文の作成に入った後は，各自，十分な事前準備・事後改善のもと作業に臨むこと。
なお例年，夏季休業中にグループ論文作成のためのゼミ合宿を行っている。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(20%)/討論(30%)/ゼミ論文(2～3 年生はグループ論文，4 年生は卒業論文)に対する評価(50%)

テキスト（Textbooks）

授業時に指示する。これまでの輪読書等については下のゼミ HP を参照のこと。

参考文献（Readings）

授業時に指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ikedazemi/

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代経済研究		
担当者名 (Instructor)	池田 毅(IKEDA TAKESHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学の理論的思考・考え方を訓練し，その現実への応用を学ぶ。

The objective of this seminar is for students to practice economics logical thinking and applying it to the real world.

授業の内容(Course Contents)

経済学の理論は学生諸君にとって不人気な分野の一つである。とはいえ，理論とは平たく言えば，ものの見方・考え方の体系化の一つに過ぎない。現実の経済に関する知識を断片的に積み重ねてみても，その情報量は膨大でおよそ学生諸君個人では処理できないようなものであろう。そうした複雑な現実に対して，ある程度の一貫した見通しを与え，体系化された考え方を提供するのが理論の役割の一つである。学生諸君が経済理論を学ぶべき理由は，まさにこうした体系的な思考を身につけることそのものにある。
このゼミでは以上の問題意識を持ちつつ，経済理論やその応用を論じたテキストを輪読し，担当者による報告と全員での討論をおこなう。
なお上記に加えて，ここ数年は証券ゼミナール大会への参加など，ゼミ生同士のグループ活動も大部を占めるようになっている。これらのグループ作業にも積極的に関わる姿勢・意欲のある学生を求めます。

The object of this seminar is to study economic theory, which is unpopular with some students. However, theory is nothing more than a systematic way to view and think about things. If we gather together the knowledge regarding the real economy in a piecemeal manner, the amount of information is enormous and cannot be processed by individual students. One of the roles of theory is to systematize this complex reality into a somewhat consistent view. The reason students study economic theory is to acquire this systematic way of thinking.
During this seminar the students will keep the above problem awareness in mind while reading texts on economic theory and its application and then all members will discuss the reports given by assigned students.
In addition to the above, during the last several years group activities by seminar students, such as participating in the students meeting about he securities market, have accounted for a large portion of the seminar. The seminar seeks students who also want to proactively participate in these group activities.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. 輪読書報告＆討論 1
3. 輪読書報告＆討論 2
4. 輪読書報告＆討論 3
5. 輪読書報告＆討論 4
6. グループ論文作成作業 1
7. グループ論文作成作業 2
8. グループ論文作成作業 3
9. グループ論文作成作業 4
10. グループ論文中間報告＆討論 1
11. グループ論文中間報告＆討論 2
12. グループ論文中間報告＆討論 3
13. グループ論文中間報告＆討論 4
14. 春学期総括
15. 秋学期イントロダクション
16. グループ論文最終稿完成作業 1
17. グループ論文最終稿完成作業 2
18. グループ論文最終稿完成作業 3
19. グループ論文最終稿完成作業 4
20. グループ・ディスカッション 1
21. グループ・ディスカッション 2

22. グループ・ディスカッション 3
23. グループ・ディスカッション 4
24. グループ論文最終報告＆質疑応答 1
25. グループ論文最終報告＆質疑応答 2
26. グループ論文最終報告＆質疑応答 3
27. グループ論文最終報告＆質疑応答 4
28. 年度総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

前半の輪読書については各自，あらかじめ精読して授業に臨むこと。
グループ論文の作成に入った後は，各自，十分な事前準備・事後改善のもと作業に臨むこと。
なお例年，夏季休業中にグループ論文作成のためのゼミ合宿を行っている。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(20%)/討論(30%)/ゼミ論文(2～3 年生はグループ論文，4 年生は卒業論文)に対する評価(50%)

テキスト（Textbooks）

授業時に指示する。これまでの輪読書等については下のゼミ HP を参照のこと。

参考文献（Readings）

授業時に指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ikedazemi/

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学の歴史ならびにその現代的課題		
担当者名 (Instructor)	佐藤 有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学をつくり上げてきた基本的文献に親しみながら，経済学の歴史とともに，経済学が抱える現代的課題について考え，研究するゼミナールです。単に経済学の教科書を学ぶのではなく，自分の頭で経済について考え，自分の力で経済が抱える問題を見出し，解決に向けて考える力を涵養することが，このゼミナールの目標です。

This is a research seminar in which students will become familiar with the basic literature on which economics was built while also looking at the history of economics and thinking about the contemporary issues faced by economics. The objective of this seminar is for students to not only learn about the economy from textbooks, but to think about the economy on their own, to identify problems facing the economy on their own, and to develop the ability to think about solutions for these.

授業の内容(Course Contents)

このゼミナールでは，これまで，経済学をつくり上げてきた様々な基本的文献(アダム・スミス著『国富論』，トマス・ロバート・マルサス著『人口論』，ウォルター・バジョット著『ロンバード街』，ジョン・ステュアート・ミル著『自由論』などなど)を読みながら，経済学のそもそもの成り立ちと目的を考え，そのうえで，現代が抱えるいろいろな経済問題を読み解くためのさらなる文献や主張を取り上げてきました(ジェイコブ・ソール著『帳簿の世界史』や J.ガルブレイス著『大暴落 1929』やマーヴィン・キング著『錬金術の終わり―貨幣，銀行，世界経済の未来―』などを取り上げながら)。今年度も，春学期では経済学の基本文献，秋学期では経済学が抱える現代的課題について学びます。さらに秋学期には，対抗ゼミナールでの発表のための研究報告を行ないます。

This seminar students will read various fundamental literature on which economics was built (Adam Smith's "The Wealth of Nations," Thomas Robert Malthus' "An Essay on the Principle of Population," Walter Bagalot's "Lombard Street," John Stewart Mill's "Theory of Liberty," etc.) while thinking about the formation and purpose of economics and, in addition, the seminar will cover additional literature and assertions addressing how to solve the economic problems we face today (Jacob Soll's "The Reckoning: Financial Accountability and the Rise and Fall of Nations," John Kenneth Galbraith's "The Great Crash, 1929," and Mervyn King's "The End of Alchemy: Money, Banking and the Future of the Global Economy," etc.). During the current academic year as well, students will read fundamental literature on economics during the spring semester and learn about contemporary issues facing economics during the fall semester. Further, during the fall semester students will give research reports for presentations at the counter seminar.

授業計画(Course Schedule)

1. 今年度のゼミナールの課題と目標について
2. 基本文献の研究と討論
3. 基本文献の研究と討論
4. 基本文献の研究と討論
5. 基本文献の研究と討論
6. 基本文献の研究と討論
7. 基本文献の研究と討論
8. 基本文献の研究と討論
9. 基本文献の研究と討論
10. 基本文献の研究と討論
11. 基本文献の研究と討論
12. 基本文献の研究と討論
13. 基本文献の研究と討論
14. 夏の課題ならびにゼミナール合宿の計画案について
15. 秋学期の課題と目標，対抗ゼミナールの計画案について
16. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
17. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
18. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
19. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
20. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告

21. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
22. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
23. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
24. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
25. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
26. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
27. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
28. 今年度のゼミナール活動の総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

1．ゼミナールで取り上げる経済学の基本文献については，全員が事前に必ず当該範囲を読了し，そして報告者との討論の材料を各自作成しておくこと。
2．基本文献の中に出てくる著作や，授業内に示される参考文献について，事前的・もしくは事後的に調査し，必要があれば次の討論に生かすこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(35%)/討論参加(35%)/指示された作業の履行(30%)

テキスト（Textbooks）

最初の授業で購入すべき文献を指示しますので，立教プラザ 2 階の売店で購入のこと。

参考文献（Readings）

授業内で指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

夏合宿（国内）を行ないます。また秋学期に関西の大学と対抗ゼミナールを行ないます（2016 年度，2017 年度はともに本学で関西学院大学と，2018 年度は京都の同志社大学で同志社大学と行ないました）。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学の歴史ならびにその現代的課題		
担当者名 (Instructor)	佐藤 有史(SATO YUJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学をつくり上げてきた基本的文献に親しみながら，経済学の歴史とともに，経済学が抱える現代的課題について考え，研究するゼミナールです。単に経済学の教科書を学ぶのではなく，自分の頭で経済について考え，自分の力で経済が抱える問題を見出し，解決に向けて考える力を涵養することが，このゼミナールの目標です。

This is a research seminar in which students will become familiar with the basic literature on which economics was built while also looking at the history of economics and thinking about the contemporary issues faced by economics. The objective of this seminar is for students to not only learn about the economy from textbooks, but to think about the economy on their own, to identify problems facing the economy on their own, and to develop the ability to think about solutions for these.

授業の内容(Course Contents)

このゼミナールでは，これまで，経済学をつくり上げてきた様々な基本的文献(アダム・スミス著『国富論』，トマス・ロバート・マルサス著『人口論』，ウォルター・バジョット著『ロンバード街』，ジョン・ステュアート・ミル著『自由論』などなど)を読みながら，経済学のそもそもの成り立ちと目的を考え，そのうえで，現代が抱えるいろいろな経済問題を読み解くためのさらなる文献や主張を取り上げてきました(ジェイコブ・ソール著『帳簿の世界史』や J.ガルブレイス著『大暴落 1929』やマーヴィン・キング著『錬金術の終わり―貨幣，銀行，世界経済の未来―』などを取り上げながら)。今年度も，春学期では経済学の基本文献，秋学期では経済学が抱える現代的課題について学びます。さらに秋学期には，対抗ゼミナールでの発表のための研究報告を行ないます。

This seminar students will read various fundamental literature on which economics was built (Adam Smith's "The Wealth of Nations," Thomas Robert Malthus' "An Essay on the Principle of Population," Walter Bagalot's "Lombard Street," John Stewart Mill's "Theory of Liberty," etc.) while thinking about the formation and purpose of economics and, in addition, the seminar will cover additional literature and assertions addressing how to solve the economic problems we face today (Jacob Soll's "The Reckoning: Financial Accountability and the Rise and Fall of Nations," John Kenneth Galbraith's "The Great Crash, 1929," and Mervyn King's "The End of Alchemy: Money, Banking and the Future of the Global Economy," etc.). During the current academic year as well, students will read fundamental literature on economics during the spring semester and learn about contemporary issues facing economics during the fall semester. Further, during the fall semester students will give research reports for presentations at the counter seminar.

授業計画(Course Schedule)

1. 今年度のゼミナールの課題と目標について
2. 基本文献の研究と討論
3. 基本文献の研究と討論
4. 基本文献の研究と討論
5. 基本文献の研究と討論
6. 基本文献の研究と討論
7. 基本文献の研究と討論
8. 基本文献の研究と討論
9. 基本文献の研究と討論
10. 基本文献の研究と討論
11. 基本文献の研究と討論
12. 基本文献の研究と討論
13. 基本文献の研究と討論
14. 夏の課題ならびにゼミナール合宿の計画案について
15. 秋学期の課題と目標，対抗ゼミナールの計画案について
16. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
17. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
18. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
19. 経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論
20. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告

21. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
22. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
23. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
24. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
25. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
26. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
27. ①経済学の現代的課題について，またそれをめぐる討論，②研究報告
28. 今年度のゼミナール活動の総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

1．ゼミナールで取り上げる経済学の基本文献については，全員が事前に必ず当該範囲を読了し，そして報告者との討論の材料を各自作成しておくこと。
2．基本文献の中に出てくる著作や，授業内に示される参考文献について，事前的・もしくは事後的に調査し，必要があれば次の討論に生かすこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(35%)/討論参加(35%)/指示された作業の履行(30%)

テキスト（Textbooks）

最初の授業で購入すべき文献を指示しますので，立教プラザ 2 階の売店で購入のこと。

参考文献（Readings）

授業内で指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

夏合宿（国内）を行ないます。また秋学期に関西の大学と対抗ゼミナールを行ないます（2016 年度，2017 年度はともに本学で関西学院大学と，2018 年度は京都の同志社大学で同志社大学と行ないました）。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代資本主義経済の構造分析		
担当者名 (Instructor)	森本 壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

格好が良い人の中身が必ずしも外面通りでないのと同様に、経済も見えている姿と内実とは異なります。また、テレビや新聞で偉そうな人がしている「解説」も、実は怪しいものが非常に多いです。本ゼミナールでは、資本主義経済の内的メカニズムを理論的・歴史的に学ぶことを通じて、少しでも視野を広げ、各々が世の風潮に流されない自分なりの知識と理論を持てるようになることを目標とします。

Just as a good looking person is not necessarily good on the inside, the appearance and insides of an economy are different. In the same way, the “explanations” of elite people on TV or in the newspapers are actually often suspect. The objective of this seminar is for students to acquire theoretical and historical learning about the mechanisms within a capitalist economy to enlarge their perspective and to have their own knowledge and logic so as not to be carried away by the current of the times.

授業の内容(Course Contents)

中国(台湾)企業に吸収されたシャープ、経営危機に陥り首の皮一枚でつながった東芝、iPhone に駆逐される日本の携帯電話(スマホ)メーカー。かつては栄華を極めた日本の製造業が、いま音を立てて崩れ始めています。国民の生活に目を向ければ、この 20 年間で平均年収は約 50 万円下がるとともに、労働者の約 4 割が非正規雇用という状態になっています。国の借金である国債も恐ろしい勢いで増え続けており、返済の見通しは全く立ちません。

これに対して、政府はアベノミクスによって「大胆な金融政策」を行っていますが、物価はほとんど上がらない上に、銀行は逆に存亡の危機に瀕しています。そして中央銀行である日銀も、国債を押しつけられて政府と共倒れの道に突き進んでいます。

いま、目に見えないところで日本経済に何が起こっているのでしょうか？ なぜこのようなことになってしまったのでしょうか？ そして我々はどうしたらいいのでしょうか？

本ゼミナールでは、このような日本経済(＋世界経済)が抱える問題に興味を持ち、教員と一緒に激動する日本と世界を見てみたいという人を募集します。

具体的なゼミナールの進行としては、まず日本経済の歴史に関する本をテキストとして輪読していくことで、日本経済の何がどのように壊れていっているのかを考えていきます。その後、日本の経済社会の実態を分析するいくつかの本を読んでいくことで、各々が自分なりの知識と理論を持つための下地をつくり、4 年次の卒業論文に繋げていく予定です。

なお、輪読する本については、はじめはこちらで選定しますが、その後はゼミ参加者の希望も聞いて選定していく予定です。また輪読と並行して、毎回の授業では、直近の新聞記事を題材とした経済ニュースの発表もしてもらう予定です。その他、夏休みや春休み等の休暇中に、視野を広げるために首都圏からは少し離れた所へフィールドワーク等も行きたいと考えています。

Sharp was absorbed by a Chinese (Taiwan) company, Toshiba fell into a management crisis and is hanging by a thread, and Japanese mobile phone (smartphone) manufacturers were destroyed by the iPhone. The much vaunted Japanese manufacturing industry is showing signs of starting to collapse. Looking at the lives of the people, over the last 20 years the average annual income has fallen by approximately 500,000 yen and approximately 40% of laborers are in non-regular employment. Government bonds, which are the nation’s debt, continue to increase at a fearful pace and there are no prospects for repaying them.
In response to this, the government is implementing a “bold monetary policy” under Abenomics, but there has been almost no increase in prices and, conversely, this has put the banks into a crisis. Further, the Bank of Japan, which is a central bank, is heading for collapse along with the government, which have been pushing government bonds.
What is happening with the Japanese economy in places we cannot see? Why did these things happen? And what should we do? This seminar is recruiting students who are interested in the problems faced by the Japanese economy (+ world economy) and want to look at the rapidly changing Japan and world together with the instructor.
The specific way the seminar will proceed is that students will read books on Japanese economics history as the text to think about what is wrong with the Japanese economy and why. Students will then read several books analyzing the state of the Japanese economic society to create the foundation that will give students the knowledge and theory they need to think on their own and which will be linked to writing their graduation theses during the fourth year.
Also, the instructor will initially select the books to be read, but later the desires of seminar participants will be taken into consideration when making selections. Further, in parallel with the readings, during each class students will give presentations on economic news using recent newspaper articles as the subject matter. In addition, during breaks, such as the summer vacation and spring vacation, I want the students to conduct fieldwork somewhat away from the Tokyo Metropolitan area to

expand their perspective.

授業計画(Course Schedule)

1. 自己紹介およびガイダンス
2. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(1)
3. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(2)
4. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(3)
5. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(4)
6. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(5)
7. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(6)
8. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(7)
9. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(8)
10. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(9)
11. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(10)
12. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(11)
13. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(12)
14. テキスト(中村隆英『日本経済　その成長と構造』)輪読(13)
15. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(1)
16. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(2)
17. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(3)
18. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(4)
19. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(5)
20. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(6)
21. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(7)
22. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(8)
23. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(9)
24. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(10)
25. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(11)
26. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(12)
27. まとめ・個人研究発表(1)
28. まとめ・個人研究発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・4 月のゼミ開始までに、参考文献に挙げている吉川洋『高度成長　日本を変えた 6000 日』(中公文庫、2012 年)を読んできてください。

・毎回のゼミには、該当箇所を事前に読んで臨むようにしてください。また、自分の担当箇所については、レジュメ等を作成してください。

・休暇中に、ゼミで調査や他大学との合同ゼミを行う可能性があります。

・その他、具体的には授業時に適宜説明します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の討議への参加(30%)/担当箇所の発表(40%)/研究論文の作成(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 中村隆英、1993 年、『日本経済　その成長と構造(第 3 版)』、東京大学出版会 (ISBN:9784130420426)
2. 橋本健二、2018 年、『新・日本の階級社会』、講談社現代新書 (ISBN:9784062884617)

参考文献(Readings)

1. 吉川洋、2012 年、『高度成長　日本を変えた 6000 日』、中公文庫 (ISBN:9784122056336)
2. 基礎経済科学研究所(編)、2008 年、『時代はまるで資本論　貧困と発達を問う全 10 講』、昭和堂 (ISBN:9784812208533)
3. K.マルクス、1982～89 年、『資本論』、新日本出版社
4. 岡田知弘・岩佐和幸(編)、2016 年、『入門　現代日本の経済政策』、法律文化社 (ISBN:9784589037534)
5. A.グリン、2007 年、『狂奔する資本主義　格差社会から新たな福祉社会へ』、ダイヤモンド社 (ISBN:9784478000625)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代資本主義経済の構造分析		
担当者名 (Instructor)	森本 壮亮(MORIMOTO SOUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

格好が良い人の中身が必ずしも外面通りでないのと同様に、経済も見えている姿と内実とは異なります。また、テレビや新聞で偉そうな人がしている「解説」も、実は怪しいものが非常に多いです。本ゼミナールでは、資本主義経済の内的メカニズムを理論的・歴史的に学ぶことを通じて、少しでも視野を広げ、各々が世の風潮に流されない自分なりの知識と理論を持てるようになることを目標とします。

Just as a good looking person is not necessarily good on the inside, the appearance and insides of an economy are different. In the same way, the “explanations” of elite people on TV or in the newspapers are actually often suspect. The objective of this seminar is for students to acquire theoretical and historical learning about the mechanisms within a capitalist economy to enlarge their perspective and to have their own knowledge and logic so as not to be carried away by the current of the times.

授業の内容(Course Contents)

中国(台湾)企業に吸収されたシャープ、経営危機に陥り首の皮一枚でつながった東芝、iPhone に駆逐される日本の携帯電話(スマホ)メーカー。かつては栄華を極めた日本の製造業が、いま音を立てて崩れ始めています。国民の生活に目を向ければ、この 20 年間で平均年収は約 50 万円下がるとともに、労働者の約 4 割が非正規雇用という状態になっています。国の借金である国債も恐ろしい勢いで増え続けており、返済の見通しは全く立ちません。

これに対して、政府はアベノミクスによって「大胆な金融政策」を行っていますが、物価はほとんど上がらない上に、銀行は逆に存亡の危機に瀕しています。そして中央銀行である日銀も、国債を押しつけられて政府と共倒れの道に突き進んでいます。

いま、目に見えないところで日本経済に何が起こっているのでしょうか？ なぜこのようなことになってしまったのでしょうか？ そして我々はどうしたらいいのでしょうか？

本ゼミナールでは、このような日本経済(＋世界経済)が抱える問題に興味を持ち、教員と一緒に激動する日本と世界を見てみたいという人を募集します。

具体的なゼミナールの進行としては、まず日本経済の歴史に関する本をテキストとして輪読していくことで、日本経済の何がどのように壊れていっているのかを考えていきます。その後、日本の経済社会の実態を分析するいくつかの本を読んでいくことで、各々が自分なりの知識と理論を持つための下地をつくり、4 年次の卒業論文に繋げていく予定です。

なお、輪読する本については、はじめはこちらで選定しますが、その後はゼミ参加者の希望も聞いて選定していく予定です。また輪読と並行して、毎回の授業では、直近の新聞記事を題材とした経済ニュースの発表もしてもらう予定です。その他、夏休みや春休み等の休暇中に、視野を広げるために首都圏からは少し離れた所へフィールドワーク等も行きたいと考えています。

Sharp was absorbed by a Chinese (Taiwan) company, Toshiba fell into a management crisis and is hanging by a thread, and Japanese mobile phone (smartphone) manufacturers were destroyed by the iPhone. The much vaunted Japanese manufacturing industry is showing signs of starting to collapse. Looking at the lives of the people, over the last 20 years the average annual income has fallen by approximately 500,000 yen and approximately 40% of laborers are in non-regular employment. Government bonds, which are the nation’s debt, continue to increase at a fearful pace and there are no prospects for repaying them.
In response to this, the government is implementing a “bold monetary policy” under Abenomics, but there has been almost no increase in prices and, conversely, this has put the banks into a crisis. Further, the Bank of Japan, which is a central bank, is heading for collapse along with the government, which have been pushing government bonds.
What is happening with the Japanese economy in places we cannot see? Why did these things happen? And what should we do? This seminar is recruiting students who are interested in the problems faced by the Japanese economy (+ world economy) and want to look at the rapidly changing Japan and world together with the instructor.
The specific way the seminar will proceed is that students will read books on Japanese economics history as the text to think about what is wrong with the Japanese economy and why. Students will then read several books analyzing the state of the Japanese economic society to create the foundation that will give students the knowledge and theory they need to think on their own and which will be linked to writing their graduation theses during the fourth year.
Also, the instructor will initially select the books to be read, but later the desires of seminar participants will be taken into consideration when making selections. Further, in parallel with the readings, during each class students will give presentations on economic news using recent newspaper articles as the subject matter. In addition, during breaks, such as the summer vacation and spring vacation, I want the students to conduct fieldwork somewhat away from the Tokyo Metropolitan area to

expand their perspective.

授業計画（Course Schedule）

1. 自己紹介およびガイダンス
2. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(1)
3. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(2)
4. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(3)
5. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(4)
6. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(5)
7. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(6)
8. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(7)
9. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(8)
10. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(9)
11. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(10)
12. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(11)
13. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(12)
14. テキスト（中村隆英『日本経済　その成長と構造』）輪読(13)
15. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(1)
16. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(2)
17. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(3)
18. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(4)
19. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(5)
20. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(6)
21. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(7)
22. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(8)
23. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(9)
24. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(10)
25. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(11)
26. 日本の経済社会の実態を分析する書物の輪読(12)
27. まとめ・個人研究発表(1)
28. まとめ・個人研究発表(2)

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

・4 月のゼミ開始までに、参考文献に挙げている吉川洋『高度成長　日本を変えた 6000 日』（中公文庫、2012 年）を読んできてください。

・毎回のゼミには、該当箇所を事前に読んで臨むようにしてください。また、自分の担当箇所については、レジュメ等を作成してください。

・休暇中に、ゼミで調査や他大学との合同ゼミを行う可能性があります。

・その他、具体的には授業時に適宜説明します。

成績評価方法・基準（Evaluation）

毎回の討議への参加(30%)/担当箇所の発表(40%)/研究論文の作成(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 中村隆英、1993 年、『日本経済　その成長と構造（第 3 版）』、東京大学出版会 (ISBN:9784130420426)
2. 橋本健二、2018 年、『新・日本の階級社会』、講談社現代新書 (ISBN:9784062884617)

参考文献（Readings）

1. 吉川洋、2012 年、『高度成長　日本を変えた 6000 日』、中公文庫 (ISBN:9784122056336)
2. 基礎経済科学研究所（編）、2008 年、『時代はまるで資本論　貧困と発達を問う全 10 講』、昭和堂 (ISBN:9784812208533)
3. K.マルクス、1982～89 年、『資本論』、新日本出版社
4. 岡田知弘・岩佐和幸（編）、2016 年、『入門　現代日本の経済政策』、法律文化社 (ISBN:9784589037534)
5. A.グリン、2007 年、『狂奔する資本主義　格差社会から新たな福祉社会へ』、ダイヤモンド社 (ISBN:9784478000625)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マクロ経済と金融・証券		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

他大学との対抗ゼミ等を通じて、マクロ経済、金融、証券に関する知識を修得するとともに、スライドの作成、プレゼンテーション、討論等の基本的な研究技法を身につけることを目標とします。

The objective of this seminar is for student to acquire knowledge regarding the macro economy, finance, and securities through counter seminars with other universities and other activities and to acquire the basic research techniques, such as creating slides, giving presentations, and participating in discussions.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済の視点から、金融、証券に関することを学習します。他大学との対抗ゼミ等を通じて、我が国や世界が直面している経済、金融問題を考察します。
＊卒業論文は、金融、証券に関することか、それ以外のテーマの場合には金融、証券に関することを含むことが求められます。

Students will learn about finance and securities from the macroeconomic perspective. They will also consider the economic and financial problems facing Japan and the world through counter seminars with other universities and other activities.
*The graduation thesis must be on finance and securities or must include finance and securities if another theme is selected.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス1(自己紹介等)
2. ガイダンス2(活動内容の説明)
3. ガイダンス3(論文の書き方等の説明)
4. テーマに関する報告1(個人報告)
5. テーマに関する報告2(個人報告)
6. テーマに関するグループワーク1
7. テーマに関するグループワーク2
8. スライドの構成の議論1(グループワーク)
9. スライドの構成の議論2(グループワーク)
10. スライドの作成1(グループワーク)
11. スライドの作成2(グループワーク)
12. スライドの作成3(グループワーク)
13. スライドの中間報告(プレゼン)
14. スライドの修正1(グループワーク)
15. プレゼンの練習1(対抗ゼミ1)
16. 討論会に向けた議論1
17. 討論会に向けた議論2
18. スライドの修正2(グループワーク)
19. スライドの修正3(グループワーク)
20. プレゼンの練習2(対抗ゼミ2)
21. 対抗ゼミ反省会
22. 個人研究のテーマの報告1
23. 個人研究のテーマの報告2
24. 学術論文の書き方の説明
25. 論文の構成の作成1
26. 論部の構成の作成2
27. 論部の構成の作成3
28. 今年度の総括と次年度に向けたガイダンス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・他大学（大分大学、同志社大学）との対抗ゼミを行う予定です（現在調整中です。実施できない可能性もあります。）。大分または京都へ遠征をしますので、必ず参加してください。
・東証アローズ等の見学を実施する可能性があります（授業時間内の場合もあります。）。
・授業時間内でスライドを完成させることは非常に難しいと思われます。

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席態度（原則として全回出席）(50%)/取り組みの姿勢、貢献(30%)/スライドの完成度など(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店 (ISBN:978-4-272-1112-3-7)
2. 中谷武・中村保編著、『1からの経済学』、碩学舎
3. 『資本主義が分かる経済学（仮題）』、大月書店

参考文献（Readings）

授業中に紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/sensei/k-nino.index.html
・HP に、ゼミナール受講希望者へのメッセージを掲載しています。また、HP には、ゼミ活動の様子、卒論の題目等を掲載していますので、受講者希望者は必ず目を通してください。
・卒業論文は、金融、証券に関することか、それ以外のテーマの場合には金融、証券に関することを含むことが求められます。HP（ゼミの各年度 OB のページ）に卒論の題目が掲載されていますので、参考にしてください。
・HP、Facebook 等でゼミ活動の写真を掲載します。
・個人のメールアドレスを OB 会の案内、在学生からの連絡等に使用します。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	マクロ経済と金融・証券		
担当者名 (Instructor)	二宮 健史郎(NINOMIYA KENSHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

他大学との対抗ゼミ等を通じて、マクロ経済、金融、証券に関する知識を修得するとともに、スライドの作成、プレゼンテーション、討論等の基本的な研究技法を身につけることを目標とします。

The objective of this seminar is for student to acquire knowledge regarding the macro economy, finance, and securities through counter seminars with other universities and other activities and to acquire the basic research techniques, such as creating slides, giving presentations, and participating in discussions.

授業の内容(Course Contents)

マクロ経済の視点から、金融、証券に関することを学習します。他大学との対抗ゼミ等を通じて、我が国や世界が直面している経済、金融問題を考察します。
＊卒業論文は、金融、証券に関することか、それ以外のテーマの場合には金融、証券に関することを含むことが求められます。

Students will learn about finance and securities from the macroeconomic perspective. They will also consider the economic and financial problems facing Japan and the world through counter seminars with other universities and other activities.
*The graduation thesis must be on finance and securities or must include finance and securities if another theme is selected.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス1(自己紹介等)
2. ガイダンス2(活動内容の説明)
3. ガイダンス3(論文の書き方等の説明)
4. テーマに関する報告1(個人報告)
5. テーマに関する報告2(個人報告)
6. テーマに関するグループワーク1
7. テーマに関するグループワーク2
8. スライドの構成の議論1(グループワーク)
9. スライドの構成の議論2(グループワーク)
10. スライドの作成1(グループワーク)
11. スライドの作成2(グループワーク)
12. スライドの作成3(グループワーク)
13. スライドの中間報告(プレゼン)
14. スライドの修正1(グループワーク)
15. プレゼンの練習1(対抗ゼミ1)
16. 討論会に向けた議論1
17. 討論会に向けた議論2
18. スライドの修正2(グループワーク)
19. スライドの修正3(グループワーク)
20. プレゼンの練習2(対抗ゼミ2)
21. 対抗ゼミ反省会
22. 個人研究のテーマの報告1
23. 個人研究のテーマの報告2
24. 学術論文の書き方の説明
25. 論文の構成の作成1
26. 論部の構成の作成2
27. 論部の構成の作成3
28. 今年度の総括と次年度に向けたガイダンス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・他大学（大分大学、同志社大学）との対抗ゼミを行う予定です（現在調整中です。実施できない可能性もあります。）。大分または京都へ遠征をしますので、必ず参加してください。
・東証アローズ等の見学を実施する可能性があります（授業時間内の場合もあります。）。
・授業時間内でスライドを完成させることは非常に難しいと思われます。

成績評価方法・基準（Evaluation）

出席態度（原則として全回出席）（50%）/取り組みの姿勢、貢献(30%)/スライドの完成度など(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 二宮健史郎、2018、『金融不安定性のマクロ動学』、大月書店 (ISBN:978-4-272-1112-3-7)
2. 中谷武・中村保編著、『1からの経済学』、碩学舎
3. 『資本主義が分かる経済学（仮題）』、大月書店

参考文献（Readings）

授業中に紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/sensei/k-nino.index.html
・HP に、ゼミナール受講希望者へのメッセージを掲載しています。また、HP には、ゼミ活動の様子、卒論の題目等を掲載していますので、受講者希望者は必ず目を通してください。
・卒業論文は、金融、証券に関することか、それ以外のテーマの場合には金融、証券に関することを含むことが求められます。HP（ゼミの各年度 OB のページ）に卒論の題目が掲載されていますので、参考にしてください。
・HP、Facebook 等でゼミ活動の写真を掲載します。
・個人のメールアドレスを OB 会の案内、在学生からの連絡等に使用します。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済理論の歴史		
担当者名 (Instructor)	黒木 龍三(KUROKI RYUUZOU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学の基本的な考え方を習得し、歴史的背景や理論構造について学ぶ。

The objective of this seminar is for students to acquire basic economics thinking and to learn the historical background and theoretical structure of economics.

授業の内容(Course Contents)

経済学の歴史的発展に気を配り、経済学の理論構造を、古典をつうじて学習。各自で興味のあるテーマについて、ゼミ論を準備する。

Attention will be paid to the historical development of economics and the theoretical structure of economics will be learned through the classics. Each student will prepare a seminar paper on a theme of their interest.

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の紹介。経済学の考え方について
2. 経済学の歴史的な発展過程について。ギリシャからローマ、中世まで。
3. 経済学の誕生1. 重商主義
4. 経済学の誕生 2. フランスの経済学
5. 経済学の誕生 3. カンティロン
6. 経済科学の生成1. ケネー, 再生産の理論、A
7. 経済科学の生成2. ケネーと重農学派
8. 近代の経済学1. チユルゴ、経済発展と資本の理論、A
9. 近代の経済学2. チユルゴ、土地の理論、B
10. 古典派経済学 1. アダム・スミス、A『道徳感情論』
11. 古典派経済学 2. アダム・スミス、B『国富論』
12. 古典派経済学 3. リカードウの経済学、価値と分配の理論、A
13. 古典派経済学 4. リカードウの経済学、貿易理論、B
14. 古典派の理論構造
15. 限界革命について
16. ワルラスの経済学1
17. ワルラスの経済学2
18. ミクロ経済学の学習。家計の理論1
19. 家計の理論 2
20. 企業の理論1
21. 企業の理論2
22. 市場の理論、均衡化メカニズム
23. パレート最適と交換の利益、ボックスダイアグラムによる証明
24. 市場の不完全性について
25. ケインズと『一般理論』
26. マクロ経済学の基礎、乗数理論と貨幣市場
27. IS-LM 図式とマンデルフレミングモデル
28. 動学理論に向けて

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

サブゼミナールで、授業の補完をしてもらう。他大学とのインターゼミを目指す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

5月のレポート(10%)/6月のレポート(10%)/7 月のレポート(10%)/10 月のレポート、夏休み宿題(10%)/11 月のレポート(10%)/12 月

のレポート(10%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. チユルゴ、1962、『チユルゴ著作集』、岩波書店
2. カンティロン、1992、『商業試論』、名古屋大学出版会
3. アダムスミス、2014、『国富論』、日経新聞
4. 金子邦彦、2016、『エレメンタル現代経済学』、晃洋書房

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済理論の歴史		
担当者名 (Instructor)	黒木 龍三(KUROKI RYUUZOU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

経済学の基本的な考え方を習得し、歴史的背景や理論構造について学ぶ。

The objective of this seminar is for students to acquire basic economics thinking and to learn the historical background and theoretical structure of economics.

授業の内容(Course Contents)

経済学の歴史的発展に気を配り、経済学の理論構造を、古典をつうじて学習。各自で興味のあるテーマについて、ゼミ論を準備する。

Attention will be paid to the historical development of economics and the theoretical structure of economics will be learned through the classics. Each student will prepare a seminar paper on a theme of their interest.

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の紹介。経済学の考え方について
2. 経済学の歴史的な発展過程について。ギリシャからローマ、中世まで。
3. 経済学の誕生1. 重商主義
4. 経済学の誕生 2. フランスの経済学
5. 経済学の誕生 3. カンティロン
6. 経済科学の生成1. ケネー, 再生産の理論、A
7. 経済科学の生成2. ケネーと重農学派
8. 近代の経済学1. チユルゴ、経済発展と資本の理論、A
9. 近代の経済学2. チユルゴ、土地の理論、B
10. 古典派経済学 1. アダム・スミス、A『道徳感情論』
11. 古典派経済学 2. アダム・スミス、B『国富論』
12. 古典派経済学 3. リカードウの経済学、価値と分配の理論、A
13. 古典派経済学 4. リカードウの経済学、貿易理論、B
14. 古典派の理論構造
15. 限界革命について
16. ワルラスの経済学1
17. ワルラスの経済学2
18. ミクロ経済学の学習。家計の理論1
19. 家計の理論 2
20. 企業の理論1
21. 企業の理論2
22. 市場の理論、均衡化メカニズム
23. パレート最適と交換の利益、ボックスダイアグラムによる証明
24. 市場の不完全性について
25. ケインズと『一般理論』
26. マクロ経済学の基礎、乗数理論と貨幣市場
27. IS-LM 図式とマンデルフレミングモデル
28. 動学理論に向けて

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

サブゼミナールで、授業の補完をしてもらう。他大学とのインターゼミを目指す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

5月のレポート(10%)/6月のレポート(10%)/7 月のレポート(10%)/10 月のレポート、夏休み宿題(10%)/11 月のレポート(10%)/12 月

のレポート(10%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. チユルゴ、1962、『チユルゴ著作集』、岩波書店
2. カンティロン、1992、『商業試論』、名古屋大学出版会
3. アダムスミス、2014、『国富論』、日経新聞
4. 金子邦彦、2016、『エレメンタル現代経済学』、晃洋書房

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアをめぐる諸問題の理論的・実践的研究		
担当者名 (Instructor)	深澤　光樹(FUKASAWA MITSUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

アジアをめぐる諸問題(政治，経済，社会，文化など)に対する理論的研究と社会貢献できる共同研究を通して，創造力， 行動力，企画力， 批判力，協調性などを身につけることを目標とします。

The objective of this seminar is for students to acquire creative ability, the ability to take action, planning ability, the ability to make critical assessments, and the ability to collaborate through theoretical research on problems faced by Asia (political, economic, social, cultural, etc.) and joint research that can contribute to society.

授業の内容(Course Contents)

深澤(郭)ゼミではアジアの経済開発を中心に研究しながら，それと関連した環境問題，軍事問題，人権問題，企業のグローバル化問題，さらには日本の対アジア政策，アメリカの世界(アジア)経済における影響などの研究などに取り組んでいます。秋学期にはその具体的取り組みとして共同研究を行います。

また各種団体と共同で様々な取り組みを行うことがあります(毎年3月の第1土曜日には「としまモノづくりメッセ」で東京信用金庫と共同で「子供体験教室」を実施。2017年度は熊本の企業と共同で「職人オリンピック」を開催しました(小学生 120 人参加)。

アジアは世界で最もダイナミックな経済パフォーマンスを見せています。それには，いい面(経済成長等)もあれば，悪い面(環境破壊，人権抑圧、軍事大国化等)もあります。それら多面的な顔を持つアジアを正しく理解することが，日本はもちろん， 世界を正しく理解することにつながります。

深澤(郭)ゼミでは,「学生による新たな挑戦」をモットーにいろいろな共同研究を手掛けています。特に,日本とアジアの架け橋の実践を意識した共同研究を通して,実社会に対して目に見える貢献をすることを目指します。

また，本ゼミでは在ゼミ中に，創造力，行動力，協調性，企画力，批判力等が身につきます。それらの能力を持って，社会で大いに羽ばたいて下さい。

学生生活の 3 年間(または 2 年間)、学問・共同研究に没頭できるのが本ゼミの特徴です。そこには自らの潜在能力を開花させるツールが至る所にあります。学生諸君の積極的な参加を待っています。そして一生の友を作って下さい。

In the K. Fukazawa seminar, students will research the economic development of Asia while also researching the related environmental problems, military problems, human rights problems, company globalization problem, and the impact from Japan's policies toward Asia and the American world (Asia) economy. Joint research will be the specific activity during the fall semester. Various activities will also be jointly undertaken with a variety of organizations (A "children's experience school" will be jointly conducted with the Tokyo Shinkin Bank at Toshima Monozukuri Messe on the first Saturday in March of each year.) During the 2017 academic year we held the "Craftsperson Olympics" jointly with a Kumamoto company (120 elementary school students participated).

Asia is showing the most dynamic economic performance in the world. There are some good aspects to this (economic growth, etc.) and some bad aspects to this (destruction of the environment, oppression of human rights, military enlargement, etc.). Correctly understanding the multifaceted aspects of Asia leads to correctly understanding Japan and the world.

In the K. Fukazawa seminar, participants will engage in a variety of joint research under the motto "New Challenges by Students." In particular, the objective is to contribute in a visible way to the real society through joint research aimed at creating a bridge between Japan and Asia.

An additional objective is for students to acquire creative ability, the ability to take action, the ability to collaborate, planning ability, and the ability to make critical assessments during the seminar. With these abilities please contribute greatly to society.

A characteristic of this seminar is being able to immerse oneself in studies and joint research during the 3 years (or 2 years) of campus life. This seminar has the tools for you to develop your potential. I await your proactive participation. Please also make friends for life.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献輪読1
3. 文献輪読2
4. 文献輪読3
5. 文献輪読4

6. 文献輪読5
7. 文献輪読6
8. 文献輪読7
9. 文献輪読8
10. 文献輪読9
11. 文献輪読10
12. 文献輪読11
13. 文献輪読12
14. 春学期纏め
15. 共同研究テーマ設定
16. 共同研究1
17. 共同研究2
18. 共同研究3
19. 共同研究4
20. 共同研究5
21. 共同研究6
22. 共同研究7
23. 共同研究8
24. 共同研究9
25. 共同研究10
26. 共同研究11
27. 共同研究成果発表
28. 秋学期纏め

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストは予め予習してくること。サブゼミあり。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(40%)/ゼミ中の発言(30%)/レポート(4 年生は卒論)(30%)
その他ゼミ合宿、OB・OG 会、卒業論文発表会など各種行事も公式行事なので、無断欠席は認めません。

テキスト（Textbooks）

2019 年 3 月中に提示する

参考文献（Readings）

1. 郭洋春、2016 年、『国家戦略特区の正体』、集英社
2. 郭洋春、2013 年、『TPP　すぐそこに迫る亡国の罠』、三交社
3. 郭洋春、2011 年、『現代アジア経済論』、法律文化社
4. 郭洋春、2010 年、『開発経済学』、法律文化社
5. 郭洋春編著、2013 年、『開発リスクの政治経済学』、文眞堂
6. 郭洋春・角田収編著、2014 年、『中国市場と日中台ビジネスアライアンス』、文眞堂

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

ゼミは他の科目のように、単位だけで考えるのではなく、自らの人間形成、将来にわたる人間関係づくりなどの観点から選んで下さい。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアをめぐる諸問題の理論的・実践的研究		
担当者名 (Instructor)	深澤　光樹(FUKASAWA MITSUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

アジアをめぐる諸問題(政治，経済，社会，文化など)に対する理論的研究と社会貢献できる共同研究を通して，創造力， 行動力，企画力， 批判力，協調性などを身につけることを目標とします。

The objective of this seminar is for students to acquire creative ability, the ability to take action, planning ability, the ability to make critical assessments, and the ability to collaborate through theoretical research on problems faced by Asia (political, economic, social, cultural, etc.) and joint research that can contribute to society.

授業の内容(Course Contents)

深澤(郭)ゼミではアジアの経済開発を中心に研究しながら，それと関連した環境問題，軍事問題，人権問題，企業のグローバル化問題，さらには日本の対アジア政策，アメリカの世界(アジア)経済における影響などの研究などに取り組んでいます。秋学期にはその具体的取り組みとして共同研究を行います。

また各種団体と共同で様々な取り組みを行うことがあります(毎年3月の第1土曜日には「としまモノづくりメッセ」で東京信用金庫と共同で「子供体験教室」を実施。2017年度は熊本の企業と共同で「職人オリンピック」を開催しました(小学生 120 人参加)。

アジアは世界で最もダイナミックな経済パフォーマンスを見せています。それには，いい面(経済成長等)もあれば，悪い面(環境破壊，人権抑圧、軍事大国化等)もあります。それら多面的な顔を持つアジアを正しく理解することが，日本はもちろん， 世界を正しく理解することにつながります。

深澤(郭)ゼミでは,「学生による新たな挑戦」をモットーにいろいろな共同研究を手掛けています。特に,日本とアジアの架け橋の実践を意識した共同研究を通して,実社会に対して目に見える貢献をすることを目指します。

また，本ゼミでは在ゼミ中に，創造力，行動力，協調性，企画力，批判力等が身につきます。それらの能力を持って，社会で大いに羽ばたいて下さい。

学生生活の 3 年間(または 2 年間)、学問・共同研究に没頭できるのが本ゼミの特徴です。そこには自らの潜在能力を開花させるツールが至る所にあります。学生諸君の積極的な参加を待っています。そして一生の友を作って下さい。

In the K. Fukazawa seminar, students will research the economic development of Asia while also researching the related environmental problems, military problems, human rights problems, company globalization problem, and the impact from Japan's policies toward Asia and the American world (Asia) economy. Joint research will be the specific activity during the fall semester. Various activities will also be jointly undertaken with a variety of organizations (A "children's experience school" will be jointly conducted with the Tokyo Shinkin Bank at Toshima Monozukuri Messe on the first Saturday in March of each year.) During the 2017 academic year we held the "Craftsperson Olympics" jointly with a Kumamoto company (120 elementary school students participated).

Asia is showing the most dynamic economic performance in the world. There are some good aspects to this (economic growth, etc.) and some bad aspects to this (destruction of the environment, oppression of human rights, military enlargement, etc.). Correctly understanding the multifaceted aspects of Asia leads to correctly understanding Japan and the world.

In the K. Fukazawa seminar, participants will engage in a variety of joint research under the motto "New Challenges by Students." In particular, the objective is to contribute in a visible way to the real society through joint research aimed at creating a bridge between Japan and Asia.

An additional objective is for students to acquire creative ability, the ability to take action, the ability to collaborate, planning ability, and the ability to make critical assessments during the seminar. With these abilities please contribute greatly to society.

A characteristic of this seminar is being able to immerse oneself in studies and joint research during the 3 years (or 2 years) of campus life. This seminar has the tools for you to develop your potential. I await your proactive participation. Please also make friends for life.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献輪読1
3. 文献輪読2
4. 文献輪読3
5. 文献輪読4

6. 文献輪読5
7. 文献輪読6
8. 文献輪読7
9. 文献輪読8
10. 文献輪読9
11. 文献輪読10
12. 文献輪読11
13. 文献輪読12
14. 春学期纏め
15. 共同研究テーマ設定
16. 共同研究1
17. 共同研究2
18. 共同研究3
19. 共同研究4
20. 共同研究5
21. 共同研究6
22. 共同研究7
23. 共同研究8
24. 共同研究9
25. 共同研究10
26. 共同研究11
27. 共同研究成果発表
28. 秋学期纏め

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストは予め予習してくること。サブゼミあり。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(40%)/ゼミ中の発言(30%)/レポート(4 年生は卒論)(30%)
その他ゼミ合宿、OB・OG 会、卒業論文発表会など各種行事も公式行事なので、無断欠席は認めません。

テキスト（Textbooks）

2019 年 3 月中に提示する

参考文献（Readings）

1. 郭洋春、2016 年、『国家戦略特区の正体』、集英社
2. 郭洋春、2013 年、『TPP　すぐそこに迫る亡国の罠』、三交社
3. 郭洋春、2011 年、『現代アジア経済論』、法律文化社
4. 郭洋春、2010 年、『開発経済学』、法律文化社
5. 郭洋春編著、2013 年、『開発リスクの政治経済学』、文眞堂
6. 郭洋春・角田収編著、2014 年、『中国市場と日中台ビジネスアライアンス』、文眞堂

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

ゼミは他の科目のように、単位だけで考えるのではなく、自らの人間形成、将来にわたる人間関係づくりなどの観点から選んで下さい。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会経済学からみる現代の社会問題		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

社会経済学の理論的基礎を身につけ，現代の社会問題について批判的に思考する力を養う。

The objective of this seminar is for students to acquire a theoretical foundation of political economics and to foster the ability to think critically about contemporary social problems.

授業の内容(Course Contents)

ゼミの柱は，社会経済学の理論的著作の輪読と，社会経済学の理論的基礎をふまえたうえでの現代の社会問題の検討になります。

社会経済学(political economy)とは，エコノミクス(いわゆる「近代経済学」)とは方法論を異にし，経済システムを歴史的かつ総体的に把握することを特徴とする経済学の潮流のことです。代表的なのは，カール・マルクスの『資本論』であり，それを継承して形成されたマルクス経済学です。

ゼミのもう一つの柱である現代の社会問題の検討の方は，格差・貧困問題，労働問題，環境問題などの具体的な社会問題，あるいは新自由主義論などの社会問題の理論的分析について扱います。

The pillar of the seminar is reading political economics theoretical works to gain a theoretical foundation of political economics and then to use this to consider contemporary social problems.
Political economy is different from the methodology of economics (so-called “modern economics”) and is a current of economics with the feature of looking historically and holistically at economic systems. Representative of this is Karl Marx’s “Das Kapital,” and the Marxist economics that formed from this thought.
Another pillar of the seminar is thinking about contemporary social problems and conducting theoretical analysis of specific social problems, such as the income gap, poverty, labor problems, and environmental problems, or social problems like neoliberalism.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 社会問題についての輪読
3. 社会問題についての輪読
4. 社会問題についての輪読
5. 社会問題についての輪読
6. まとめ
7. 社会経済学の基礎文献の輪読
8. 社会経済学の基礎文献の輪読
9. 社会経済学の基礎文献の輪読
10. まとめ
11. 輪読と報告
12. 輪読と報告
13. 輪読と報告
14. まとめ
15. 輪読と報告
16. 輪読と報告
17. 輪読と報告
18. 輪読と報告
19. 輪読と報告
20. 輪読と報告
21. 輪読と報告
22. 輪読と報告
23. 輪読と報告
24. 輪読と報告

25. 輪読と報告
26. 輪読と報告
27. 輪読と報告
28. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

輪読テキストの予習。発表の準備。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(40%)/報告(30%)/発言(30%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 佐々木隆治、『カール・マルクス』、ちくま新書

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会経済学からみる現代の社会問題		
担当者名 (Instructor)	佐々木 隆治(SASAKI RYUJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

社会経済学の理論的基礎を身につけ，現代の社会問題について批判的に思考する力を養う。

The objective of this seminar is for students to acquire a theoretical foundation of political economics and to foster the ability to think critically about contemporary social problems.

授業の内容(Course Contents)

ゼミの柱は，社会経済学の理論的著作の輪読と，社会経済学の理論的基礎をふまえたうえでの現代の社会問題の検討になります。

社会経済学(political economy)とは，エコノミクス(いわゆる「近代経済学」)とは方法論を異にし，経済システムを歴史的かつ総体的に把握することを特徴とする経済学の潮流のことです。代表的なのは，カール・マルクスの『資本論』であり，それを継承して形成されたマルクス経済学です。

ゼミのもう一つの柱である現代の社会問題の検討の方は，格差・貧困問題，労働問題，環境問題などの具体的な社会問題，あるいは新自由主義論などの社会問題の理論的分析について扱います。

The pillar of the seminar is reading political economics theoretical works to gain a theoretical foundation of political economics and then to use this to consider contemporary social problems.
Political economy is different from the methodology of economics (so-called “modern economics”) and is a current of economics with the feature of looking historically and holistically at economic systems. Representative of this is Karl Marx’s “Das Kapital,” and the Marxist economics that formed from this thought.
Another pillar of the seminar is thinking about contemporary social problems and conducting theoretical analysis of specific social problems, such as the income gap, poverty, labor problems, and environmental problems, or social problems like neoliberalism.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 社会問題についての輪読
3. 社会問題についての輪読
4. 社会問題についての輪読
5. 社会問題についての輪読
6. まとめ
7. 社会経済学の基礎文献の輪読
8. 社会経済学の基礎文献の輪読
9. 社会経済学の基礎文献の輪読
10. まとめ
11. 輪読と報告
12. 輪読と報告
13. 輪読と報告
14. まとめ
15. 輪読と報告
16. 輪読と報告
17. 輪読と報告
18. 輪読と報告
19. 輪読と報告
20. 輪読と報告
21. 輪読と報告
22. 輪読と報告
23. 輪読と報告
24. 輪読と報告

25. 輪読と報告
26. 輪読と報告
27. 輪読と報告
28. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

輪読テキストの予習。発表の準備。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業参加度(40%)/報告(30%)/発言(30%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 佐々木隆治、『カール・マルクス』、ちくま新書

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務報告に関する研究		
担当者名 (Instructor)	米谷 健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

この授業の目標は、財務報告に関する研究を行うために必要な基礎的な能力を習得することである。具体的には、次のような能力の獲得を目指す。(1)現在の会計基準や会計制度の背後にある考え方を理解できるようになる。(2)財務情報等のデータベースを活用して企業の実態を分析できるようになる。(3)財務報告に関する学術論文や専門書等を参考にして、特定のテーマに関する分析結果を適切な文章表現でまとめることができるようになる。

The objective of this class is to acquire the basic abilities necessary to conduct research on financial reports. The specific objective is for students to acquire the following abilities. (1) Be able to understand the concepts behind the present accounting standards and accounting system. (2) Be able to use databases of financial and other information to analyze the states of companies. (3) Be able to refer to academic papers and specialized publications, etc., regarding financial reports and then be able to compile the results of analysis on a specific theme using suitable wording.

授業の内容(Course Contents)

財務報告に関連するテーマにはさまざまなものがあるため、まずは財務諸表分析を主たるテーマとし、企業経営の実態を財務諸表から定性的・定量的に分析する能力を習得する。財務諸表分析を行うためには、財務諸表の構造を適切に理解する必要があるため、テキストに基づいて会計基準や制度を学習する。具体的には、テキストの内容の中で関心を抱いたトピックをチームごとにさらに深く調査し、授業ではその調査内容を報告・議論する。各授業回の調査では、基本的な財務指標等を財務データベースから抽出・加工することを推奨するため、この学習を通じて財務情報等のデータベースを使いこなせるようにする。その後、テーマ別の研究を行う。例えば、スチュワードシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードなどを取り上げ、それらに関連する論文や書籍等をもとに議論を行う。なお、日経ストックリーグやプロネクサス懸賞論文などに参加する場合もある。

There are a variety of themes regarding financial reports, so first for the main theme of financial statement analysis, students will acquire the ability to qualitatively and quantitatively analyze the state of company management from the financial statements. Performing financial statement analysis requires proper understanding of the structure of the financial statements, so students will learn the accounting standards and system based on the textbook. In particular, each team will deeply research a topic of interest from the textbook and then during class report and discuss their study results. For the study conducted during each class it is recommended that the students extract and process information from financial databases, such as the basic financial indicators, so that they will learn how to use databases of financial and other information. After that students will conduct research on themes. For example, the stewardship code or corporate governance code can be addressed and discussions held of related papers and books, etc. Students can also participate in the Nikkei Stock League or Pronexus Essay Contest, etc.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 資料収集の方法(文献の探索方法、EOL の利用方法等)
3. 資料収集の方法(NEEDS-Financial QUEST の利用方法等)
4. テキストの内容に基づく報告・議論
5. テキストの内容に基づく報告・議論
6. テキストの内容に基づく報告・議論
7. テキストの内容に基づく報告・議論
8. テキストの内容に基づく報告・議論
9. テキストの内容に基づく報告・議論
10. テキストの内容に基づく報告・議論
11. テキストの内容に基づく報告・議論
12. テキストの内容に基づく報告・議論
13. テキストの内容に基づく報告・議論
14. テキストの内容に基づく報告・議論
15. テキストの内容に基づく報告・議論
16. テーマ別研究の報告・議論

17. テーマ別研究の報告・議論
18. テーマ別研究の報告・議論
19. テーマ別研究の報告・議論
20. テーマ別研究の報告・議論
21. テーマ別研究の報告・議論
22. テーマ別研究の報告・議論
23. テーマ別研究の報告・議論
24. テーマ別研究の報告・議論
25. テーマ別研究の報告・議論
26. テーマ別研究の報告・議論
27. テーマ別研究の報告・議論
28. テーマ別研究の報告・議論

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

・授業で取り扱うテキストや文献等を予習・復習する必要がある。
・履修者の状況にもよるが、3～4 名のチーム単位での調査・報告を予定している。報告担当の授業に向けて事前に共同で調査を行い、調査結果をレジュメにまとめる必要がある。
・必要に応じてエクセルなどのソフトウェアを使えるようにする必要がある。
・日商簿記検定 2 級程度の知識を前提とするため、2 年次からゼミと並行して自主的に同資格の取得に向けた学習を行うことを推奨する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業における報告内容（レジュメ等を含む）(60%)/授業への貢献度（質疑応答等を含む）(10%)/最終レポート(Final Report)(30%)
無断欠席が半期で 3 回以上となる場合は原則として成績評価の対象としない。

テキスト（Textbooks）

1. 伊藤邦雄、2018、『新・現代会計入門（第 3 版）』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13480-8)
No.1 のテキストにつき、改訂された場合は最新版を用いる。

参考文献（Readings）

1. 伊藤邦雄、2014、『新・企業価値評価』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13450-1)
2. バルーク・レブ、フェン・グー、2018、『会計の再生』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-24051-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務報告に関する研究		
担当者名 (Instructor)	米谷 健司(KOMETANI KENJI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

この授業の目標は、財務報告に関する研究を行うために必要な基礎的な能力を習得することである。具体的には、次のような能力の獲得を目指す。(1)現在の会計基準や会計制度の背後にある考え方を理解できるようになる。(2)財務情報等のデータベースを活用して企業の実態を分析できるようになる。(3)財務報告に関する学術論文や専門書等を参考にして、特定のテーマに関する分析結果を適切な文章表現でまとめることができるようになる。

The objective of this class is to acquire the basic abilities necessary to conduct research on financial reports. The specific objective is for students to acquire the following abilities. (1) Be able to understand the concepts behind the present accounting standards and accounting system. (2) Be able to use databases of financial and other information to analyze the states of companies. (3) Be able to refer to academic papers and specialized publications, etc., regarding financial reports and then be able to compile the results of analysis on a specific theme using suitable wording.

授業の内容(Course Contents)

財務報告に関連するテーマにはさまざまなものがあるため、まずは財務諸表分析を主たるテーマとし、企業経営の実態を財務諸表から定性的・定量的に分析する能力を習得する。財務諸表分析を行うためには、財務諸表の構造を適切に理解する必要があるため、テキストに基づいて会計基準や制度を学習する。具体的には、テキストの内容の中で関心を抱いたトピックをチームごとにさらに深く調査し、授業ではその調査内容を報告・議論する。各授業回の調査では、基本的な財務指標等を財務データベースから抽出・加工することを推奨するため、この学習を通じて財務情報等のデータベースを使いこなせるようにする。その後、テーマ別の研究を行う。例えば、スチュワードシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードなどを取り上げ、それらに関連する論文や書籍等をもとに議論を行う。なお、日経ストックリーグやプロネクサス懸賞論文などに参加する場合もある。

There are a variety of themes regarding financial reports, so first for the main theme of financial statement analysis, students will acquire the ability to qualitatively and quantitatively analyze the state of company management from the financial statements. Performing financial statement analysis requires proper understanding of the structure of the financial statements, so students will learn the accounting standards and system based on the textbook. In particular, each team will deeply research a topic of interest from the textbook and then during class report and discuss their study results. For the study conducted during each class it is recommended that the students extract and process information from financial databases, such as the basic financial indicators, so that they will learn how to use databases of financial and other information. After that students will conduct research on themes. For example, the stewardship code or corporate governance code can be addressed and discussions held of related papers and books, etc. Students can also participate in the Nikkei Stock League or Pronexus Essay Contest, etc.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 資料収集の方法(文献の探索方法、EOL の利用方法等)
3. 資料収集の方法(NEEDS-Financial QUEST の利用方法等)
4. テキストの内容に基づく報告・議論
5. テキストの内容に基づく報告・議論
6. テキストの内容に基づく報告・議論
7. テキストの内容に基づく報告・議論
8. テキストの内容に基づく報告・議論
9. テキストの内容に基づく報告・議論
10. テキストの内容に基づく報告・議論
11. テキストの内容に基づく報告・議論
12. テキストの内容に基づく報告・議論
13. テキストの内容に基づく報告・議論
14. テキストの内容に基づく報告・議論
15. テキストの内容に基づく報告・議論
16. テーマ別研究の報告・議論

17. テーマ別研究の報告・議論
18. テーマ別研究の報告・議論
19. テーマ別研究の報告・議論
20. テーマ別研究の報告・議論
21. テーマ別研究の報告・議論
22. テーマ別研究の報告・議論
23. テーマ別研究の報告・議論
24. テーマ別研究の報告・議論
25. テーマ別研究の報告・議論
26. テーマ別研究の報告・議論
27. テーマ別研究の報告・議論
28. テーマ別研究の報告・議論

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

・授業で取り扱うテキストや文献等を予習・復習する必要がある。
・履修者の状況にもよるが、3～4 名のチーム単位での調査・報告を予定している。報告担当の授業に向けて事前に共同で調査を行い、調査結果をレジュメにまとめる必要がある。
・必要に応じてエクセルなどのソフトウェアを使えるようにする必要がある。
・日商簿記検定 2 級程度の知識を前提とするため、2 年次からゼミと並行して自主的に同資格の取得に向けた学習を行うことを推奨する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業における報告内容（レジュメ等を含む）(60%)/授業への貢献度（質疑応答等を含む）(10%)/最終レポート(Final Report)(30%)
無断欠席が半期で 3 回以上となる場合は原則として成績評価の対象としない。

テキスト（Textbooks）

1. 伊藤邦雄、2018、『新・現代会計入門（第 3 版）』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13480-8)
No.1 のテキストにつき、改訂された場合は最新版を用いる。

参考文献（Readings）

1. 伊藤邦雄、2014、『新・企業価値評価』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13450-1)
2. バルーク・レブ、フェン・グー、2018、『会計の再生』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-24051-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代アジアの経済史		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

近代アジア経済の歴史的展開について学び、因果関係を把握する力を伸ばすとともに、多様性を認識する力を伸ばすことを目標とする。

The objective of this seminar is for students to learn about the historical development of the modern Asian economy and to increase their ability to identify cause and effect relationships while also increasing their ability to recognize diversity.

授業の内容(Course Contents)

考察対象地域は日本・韓国・中国・台湾といった東アジアを中心とし、戦前・戦時については「欧米諸国による開港」、「帝国主義と植民地」など、戦後については「冷戦体制と経済援助」、「開発主義と経済成長」などといったテーマについて学ぶ。以上に関連する資料・文献を読んで正確に理解し、ゼミ生が自ら考え、自分の言葉で話し、文章を書けるようになることを目標とする。

The region to be covered will be East Asia to include Japan, South Korea, China, and Taiwan, and for the prewar and war period the “Forced opening of ports by America and European countries,” “Imperialism and colonies,” etc., and for the post-war period the “Cold War structure and economic assistance,” “Developmentalism and economic growth,” etc., will be covered. Students will read materials and literature about the above to gain a correct understanding with the objective of being able to think, talk and write in their own words.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期ガイダンス
2. アジア経済史の基本文献を読む(1)
3. アジア経済史の基本文献を読む(2)
4. アジア経済史の基本文献を読む(3)
5. アジア経済史の基本文献を読む(4)
6. アジア経済史の基本文献を読む(5)
7. 地域別グループ・プレゼンテーション(1)
8. 地域別グループ・プレゼンテーション(2)
9. 地域別グループ・プレゼンテーション(3)
10. アジア経済史の主要文献を読む(1)
11. アジア経済史の主要文献を読む(2)
12. アジア経済史の主要文献を読む(3)
13. アジア経済史の主要文献を読む(4)
14. 春学期の総括的議論
15. 秋学期ガイダンス
16. アジア経済史の主要論点(1)
17. アジア経済史の主要論点(2)
18. アジア経済史の主要論点(3)
19. アジア経済史の主要論点(4)
20. アジア経済史の主要論点(5)
21. テーマ別グループ・プレゼンテーション(1)
22. テーマ別グループ・プレゼンテーション(2)
23. テーマ別グループ・プレゼンテーション(3)
24. 個人研究報告(1)
25. 個人研究報告(2)
26. 個人研究報告(3)
27. 個人研究報告(4)
28. 秋学期の総括的議論

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回テキストやテーマについて、各自・グループで学習したうえで参加し、議論に貢献できるようにすること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業参加度(30%)/プレゼンテーション(30%)

テキスト（Textbooks）

ゼミナールで適宜指示する。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代アジアの経済史		
担当者名 (Instructor)	湊 照宏(MINATO TERUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

近代アジア経済の歴史的展開について学び、因果関係を把握する力を伸ばすとともに、多様性を認識する力を伸ばすことを目標とする。

The objective of this seminar is for students to learn about the historical development of the modern Asian economy and to increase their ability to identify cause and effect relationships while also increasing their ability to recognize diversity.

授業の内容(Course Contents)

考察対象地域は日本・韓国・中国・台湾といった東アジアを中心とし、戦前・戦時については「欧米諸国による開港」、「帝国主義と植民地」など、戦後については「冷戦体制と経済援助」、「開発主義と経済成長」などといったテーマについて学ぶ。以上に関連する資料・文献を読んで正確に理解し、ゼミ生が自ら考え、自分の言葉で話し、文章を書けるようになることを目標とする。

The region to be covered will be East Asia to include Japan, South Korea, China, and Taiwan, and for the prewar and war period the “Forced opening of ports by America and European countries,” “Imperialism and colonies,” etc., and for the post-war period the “Cold War structure and economic assistance,” “Developmentalism and economic growth,” etc., will be covered. Students will read materials and literature about the above to gain a correct understanding with the objective of being able to think, talk and write in their own words.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期ガイダンス
2. アジア経済史の基本文献を読む(1)
3. アジア経済史の基本文献を読む(2)
4. アジア経済史の基本文献を読む(3)
5. アジア経済史の基本文献を読む(4)
6. アジア経済史の基本文献を読む(5)
7. 地域別グループ・プレゼンテーション(1)
8. 地域別グループ・プレゼンテーション(2)
9. 地域別グループ・プレゼンテーション(3)
10. アジア経済史の主要文献を読む(1)
11. アジア経済史の主要文献を読む(2)
12. アジア経済史の主要文献を読む(3)
13. アジア経済史の主要文献を読む(4)
14. 春学期の総括的議論
15. 秋学期ガイダンス
16. アジア経済史の主要論点(1)
17. アジア経済史の主要論点(2)
18. アジア経済史の主要論点(3)
19. アジア経済史の主要論点(4)
20. アジア経済史の主要論点(5)
21. テーマ別グループ・プレゼンテーション(1)
22. テーマ別グループ・プレゼンテーション(2)
23. テーマ別グループ・プレゼンテーション(3)
24. 個人研究報告(1)
25. 個人研究報告(2)
26. 個人研究報告(3)
27. 個人研究報告(4)
28. 秋学期の総括的議論

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回テキストやテーマについて、各自・グループで学習したうえで参加し、議論に貢献できるようにすること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業参加度(30%)/プレゼンテーション(30%)

テキスト（Textbooks）

ゼミナールで適宜指示する。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	原価計算論の研究 Study on Cost Accounting		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

みんなで原価計算(Cost Accounting)の理論と計算構造を学ぶことを通して，会計についての知識はもとより，集団活動のマナーやコミュニケーション能力を身につける。

To acquire not only knowledge about accounting but also the manners for group activities and communication ability through studying the cost accounting theory and calculation structure together.

授業の内容(Course Contents)

価値の多様化に伴って，商品(製品)を売ることが難しくなっています。その一方で，行列のできるお店や予約待ちの商品があることも事実です。この違いはいったいどこから来るのでしょうか。本ゼミでは，商品の価値の源である原価(元価)を研究の対象としています。原価を収集・処理・伝達する行為が原価計算であり，きわめて人間的な行為であるということができます。

3 年間のゼミ活動の柱は，グループ作業と卒業論文の作成です。2・3 年次には，グループ作業の中で，商品を企画し販売し，決算書(併せてグループ論文)を作ります。その準備として，工業簿記・原価計算についての基本文献を輪読して，発表を行ないます。4 年次には，各自の研究課題を卒業論文に纏めます。また，ゼミの時間内に教室の外に出て，知識を強固なものにする機会(企業施設・工場の見学等)を設けています。

ゼミ活動の企画・運営にあたっては，ゼミ生の自主性を尊重しています。ゼミは，教師の与えるものを受動的に学ぶ場ではないからです。ゼミは，みんなで考え，自由闊達に意見を交わすことのできる場であることが望ましいと思います。そのためにも，人間的には和やかな雰囲気をまず何よりも大切にしています。

Accompanying the diversification in value, it has become difficult to sell goods (products). On the other hand, it is true there are restaurants where people line up to get in and products with a waiting list of buyers. Where does this difference come from? The subject of this seminar is research on cost, which is the source of the value of goods. The act of gathering, processing, and communicating costs is cost accounting and can be said to be a very human activity.

Group work and the writing of the graduation thesis are supported by the seminar activities conducted over three years. The second and third years will center on group work during which products will be planned, sold, and financial statements created (a group paper will also be written). In preparation for this, students will read basic literature on industrial bookkeeping and cost accounting and give reports. During the fourth year students will compile their research results in a graduation thesis. In addition, there will be opportunities during the seminar class time for students to go outside the classroom to strengthen their knowledge (visits to company premises and factories, etc.).

The autonomy of the seminar students will be respected regarding the planning and operation of seminar activities. This is because a seminar is not the place for students to passively learn that is given to them by the instructor. It is desirable that the seminar be the place for everyone to think together and freely and easily exchange their opinions. For this reason as well, having a peaceful atmosphere is the most important for human relations.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. PC 実習(Power Point による資料作成)
3. 輪読＆プレゼンテーション 1
4. 輪読＆プレゼンテーション 2
5. 輪読＆プレゼンテーション 3
6. 輪読＆ディスカッション 1
7. 輪読＆ディスカッション 2
8. 輪読＆ディスカッション 3
9. グループ作業 1(仕入先・テーマの選定)
10. グループ作業 2(商品の企画)
11. グループ作業 3(店舗の準備)
12. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)作成準備 1
13. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)作成準備 2
14. 春学期総括(論文テーマ報告)

15. 秋学期イントロダクション
16. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)進捗報告 1
17. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)進捗報告 2
18. グループ作業 1
19. グループ作業 2
20. グループ作業 3
21. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)中間報告 1
22. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)中間報告 2
23. グループ作業 1
24. グループ作業 2
25. グループ作業 3
26. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)最終報告 1
27. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)最終報告 2
28. 年度総括(次年度準備)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回，前回までの演習内容を確認し，復習しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への積極的な参加(出席およびコメント)(40%)/レジュメ作成・プレゼンテーション(30%)/最終報告(2・3 年生はグループ論文,4 年生は卒業論文)(30%)

テキスト(Textbooks)

未定。(ゼミ選考後に指示します。)

参考文献(Readings)

1. 熊谷重勝・内野一樹、2011 年、『社会化の会計』、創成社 (ISBN:ISBN978-4-7944-1428-1)
2. 企業分析研究会、2018 年、『現代日本の企業分析』、新日本出版社 (ISBN:ISBN978-4-406-06239-8)
3. 大西勝明・小坂隆秀・田村八十一編、2018 年、『現代の産業・企業と地域経済』、晃洋書房 (ISBN:ISBN978-4-7710-2975-0)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

履修登録完了時にメーリングリストを作成し，指示します。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	原価計算論の研究 Study on Cost Accounting		
担当者名 (Instructor)	内野 一樹(UCHINO KAZUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

みんなで原価計算(Cost Accounting)の理論と計算構造を学ぶことを通して，会計についての知識はもとより，集団活動のマナーやコミュニケーション能力を身につける。

To acquire not only knowledge about accounting but also the manners for group activities and communication ability through studying the cost accounting theory and calculation structure together.

授業の内容(Course Contents)

価値の多様化に伴って，商品(製品)を売ることが難しくなっています。その一方で，行列のできるお店や予約待ちの商品があることも事実です。この違いはいったいどこから来るのでしょうか。本ゼミでは，商品の価値の源である原価(元価)を研究の対象としています。原価を収集・処理・伝達する行為が原価計算であり，きわめて人間的な行為であるということができます。

3 年間のゼミ活動の柱は，グループ作業と卒業論文の作成です。2・3 年次には，グループ作業の中で，商品を企画し販売し，決算書(併せてグループ論文)を作ります。その準備として，工業簿記・原価計算についての基本文献を輪読して，発表を行ないます。4 年次には，各自の研究課題を卒業論文に纏めます。また，ゼミの時間内に教室の外に出て，知識を強固なものにする機会(企業施設・工場の見学等)を設けています。

ゼミ活動の企画・運営にあたっては，ゼミ生の自主性を尊重しています。ゼミは，教師の与えるものを受動的に学ぶ場ではないからです。ゼミは，みんなで考え，自由闊達に意見を交わすことのできる場であることが望ましいと思います。そのためにも，人間的には和やかな雰囲気をまず何よりも大切にしています。

Accompanying the diversification in value, it has become difficult to sell goods (products). On the other hand, it is true there are restaurants where people line up to get in and products with a waiting list of buyers. Where does this difference come from?
The subject of this seminar is research on cost, which is the source of the value of goods. The act of gathering, processing, and communicating costs is cost accounting and can be said to be a very human activity.
Group work and the writing of the graduation thesis are supported by the seminar activities conducted over three years. The second and third years will center on group work during which products will be planned, sold, and financial statements created (a group paper will also be written). In preparation for this, students will read basic literature on industrial bookkeeping and cost accounting and give reports. During the fourth year students will compile their research results in a graduation thesis. In addition, there will be opportunities during the seminar class time for students to go outside the classroom to strengthen their knowledge (visits to company premises and factories, etc.).
The autonomy of the seminar students will be respected regarding the planning and operation of seminar activities. This is because a seminar is not the place for students to passively learn that is given to them by the instructor. It is desirable that the seminar be the place for everyone to think together and freely and easily exchange their opinions. For this reason as well, having a peaceful atmosphere is the most important for human relations.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期イントロダクション
2. PC 実習(Power Point による資料作成)
3. 輪読＆プレゼンテーション 1
4. 輪読＆プレゼンテーション 2
5. 輪読＆プレゼンテーション 3
6. 輪読＆ディスカッション 1
7. 輪読＆ディスカッション 2
8. 輪読＆ディスカッション 3
9. グループ作業 1(仕入先・テーマの選定)
10. グループ作業 2(商品の企画)
11. グループ作業 3(店舗の準備)
12. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)作成準備 1
13. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)作成準備 2
14. 春学期総括(論文テーマ報告)

15. 秋学期イントロダクション
16. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)進捗報告 1
17. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)進捗報告 2
18. グループ作業 1
19. グループ作業 2
20. グループ作業 3
21. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)中間報告 1
22. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)中間報告 2
23. グループ作業 1
24. グループ作業 2
25. グループ作業 3
26. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)最終報告 1
27. グループ論文(2・3 年)/卒論(4 年)最終報告 2
28. 年度総括(次年度準備)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回，前回までの演習内容を確認し，復習しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への積極的な参加(出席およびコメント)(40%)/レジュメ作成・プレゼンテーション(30%)/最終報告(2・3 年生はグループ論文,4 年生は卒業論文)(30%)

テキスト(Textbooks)

未定。(ゼミ選考後に指示します。)

参考文献(Readings)

1. 熊谷重勝・内野一樹、2011 年、『社会化の会計』、創成社 (ISBN:ISBN978-4-7944-1428-1)
2. 企業分析研究会、2018 年、『現代日本の企業分析』、新日本出版社 (ISBN:ISBN978-4-406-06239-8)
3. 大西勝明・小坂隆秀・田村八十一編、2018 年、『現代の産業・企業と地域経済』、晃洋書房 (ISBN:ISBN978-4-7710-2975-0)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

履修登録完了時にメーリングリストを作成し，指示します。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学で現代経済を分析する		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代経済学の基礎を理解し，現代経済学を分析する力を得る。また，筋道の通った思考に基づく議論，プレゼンテーションや論文作成を通じて，論理的に考え，また自分の考えを他者に伝える能力を磨く。こうした能力は，学生時代のみならず一生にわたって必要なものである。

To acquire a basic understanding of modern economics and the ability to analyze it. In addition, for students to polish their ability to think logically and to be able to communicate their ideas to others through discussions, presentations, and paper writing based on rational thinking. These abilities are required not just when a student but throughout life.

授業の内容(Course Contents)

ケインズ経済学および行動経済学の基礎を学ぶ。一方で，白書や各種統計，報告書などを通じて，経済の現所を知る作業を行う。
人間の行動の合理性に全面的に依拠し，自由競争によって最適な均衡が得られると主張する正統派の経済学に対して疑問を投げかけ，その限界を超えようとする試みを取り上げる。現代の経済政策の基礎にある経済学の考え方を知り，その妥当性を問い直すというのがテーマである。
具体的なテーマについては，受講生との相談のうえ修正，調整を行うことがある。
輪読，グループワーク，ディスカッション，ゼミ論文の作成が活動の中心である。
ゼミ共通のテーマの研究に加え，2～3 年生は幅広い読書を通じて，自らの研究テーマを設定し，研究を進める。4 年生はその研究を発展させて，卒業論文を執筆する。

Students will learn the fundamentals of Keynesian economics and behavioral economics. Students will also make an effort to know the economy first-hand through white papers, statistics, reports, etc.
Questions will be posed regarding orthodox economics that asserts that total reliance on the rational behavior of human beings and obtaining an optimum equilibrium through free competition in an attempt to exceed its limitations. Students will learn the economic concepts that are the foundation of contemporary economic policy under the theme of reevaluating their adequacy.
The specific theme will be adjusted and finalized in consultation with the students.
The activities will center on reading, group work, discussion, and writing the seminar thesis.
In addition to researching a common theme for the seminar, second and third year students will read a wide range of books and set and research their own research theme. Fourth year students will expand that research and write their graduation thesis.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 現代経済学の基礎 1
3. 現代経済学の基礎 2
4. 現代経済学の基礎 3
5. 現代経済学の基礎 4
6. 現代経済学の基礎 5
7. 現代経済学の基礎 6
8. 現代経済学の基礎 7
9. 現代経済学の基礎 8
10. 現代経済学の基礎 9
11. 現代経済学の基礎 10
12. 現代経済学の応用 1
13. 現代経済学の応用 2
14. 現代経済学の応用 3
15. 現代経済学の応用 4
16. 現代経済学の応用 5
17. 現代経済学の応用 6
18. 現代経済学の応用 7

19. 現代経済学の応用 8
20. 現代経済学の応用 9
21. 現代経済学の応用 10
22. 現代経済学と現代社会 1
23. 現代経済学と現代社会 2
24. 現代経済学と現代社会 3
25. 現代経済学と現代社会 4
26. 現代経済学と現代社会 5
27. 現代経済学と現代社会 6
28. 総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストは事前に何度も熟読し，内容を十分に理解しておくこと。不明点や問題点については，あらかじめ Blackboard などを用いて十分に議論しておく。
ゼミナール以外に学生主導のサブゼミナールを行う場合がある。

成績評価方法・基準（Evaluation）

2～3年次は発表，発言などのゼミナールでの貢献(90%)/提出物(10%)
4年生はゼミナールでの活動(50%)/卒業論文（50%）

テキスト（Textbooks）

テキストについては別途指示する。

参考文献（Readings）

1. J.M.Keynes、1995 年、『貨幣，利子および雇用の一般理論』、東洋経済新報社
2. 筒井他、2017 年、『行動経済学入門』、東洋経済新報社
これ以外の参考書については適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

https://twitter.com/fujiwara_rikkyo
https://www.facebook.com/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E3%82%BC%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%AB-1591419617802303/
Blackboard も利用する。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済学で現代経済を分析する		
担当者名 (Instructor)	藤原 新(FUJIWARA ARATA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代経済学の基礎を理解し，現代経済学を分析する力を得る。また，筋道の通った思考に基づく議論，プレゼンテーションや論文作成を通じて，論理的に考え，また自分の考えを他者に伝える能力を磨く。こうした能力は，学生時代のみならず一生にわたって必要なものである。

To acquire a basic understanding of modern economics and the ability to analyze it. In addition, for students to polish their ability to think logically and to be able to communicate their ideas to others through discussions, presentations, and paper writing based on rational thinking. These abilities are required not just when a student but throughout life.

授業の内容(Course Contents)

ケインズ経済学および行動経済学の基礎を学ぶ。一方で，白書や各種統計，報告書などを通じて，経済の現所を知る作業を行う。
人間の行動の合理性に全面的に依拠し，自由競争によって最適な均衡が得られると主張する正統派の経済学に対して疑問を投げかけ，その限界を超えようとする試みを取り上げる。現代の経済政策の基礎にある経済学の考え方を知り，その妥当性を問い直すというのがテーマである。
具体的なテーマについては，受講生との相談のうえ修正，調整を行うことがある。
輪読，グループワーク，ディスカッション，ゼミ論文の作成が活動の中心である。
ゼミ共通のテーマの研究に加え，2～3 年生は幅広い読書を通じて，自らの研究テーマを設定し，研究を進める。4 年生はその研究を発展させて，卒業論文を執筆する。

Students will learn the fundamentals of Keynesian economics and behavioral economics. Students will also make an effort to know the economy first-hand through white papers, statistics, reports, etc.
Questions will be posed regarding orthodox economics that asserts that total reliance on the rational behavior of human beings and obtaining an optimum equilibrium through free competition in an attempt to exceed its limitations. Students will learn the economic concepts that are the foundation of contemporary economic policy under the theme of reevaluating their adequacy.
The specific theme will be adjusted and finalized in consultation with the students.
The activities will center on reading, group work, discussion, and writing the seminar thesis.
In addition to researching a common theme for the seminar, second and third year students will read a wide range of books and set and research their own research theme. Fourth year students will expand that research and write their graduation thesis.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 現代経済学の基礎 1
3. 現代経済学の基礎 2
4. 現代経済学の基礎 3
5. 現代経済学の基礎 4
6. 現代経済学の基礎 5
7. 現代経済学の基礎 6
8. 現代経済学の基礎 7
9. 現代経済学の基礎 8
10. 現代経済学の基礎 9
11. 現代経済学の基礎 10
12. 現代経済学の応用 1
13. 現代経済学の応用 2
14. 現代経済学の応用 3
15. 現代経済学の応用 4
16. 現代経済学の応用 5
17. 現代経済学の応用 6
18. 現代経済学の応用 7

19. 現代経済学の応用 8
20. 現代経済学の応用 9
21. 現代経済学の応用 10
22. 現代経済学と現代社会 1
23. 現代経済学と現代社会 2
24. 現代経済学と現代社会 3
25. 現代経済学と現代社会 4
26. 現代経済学と現代社会 5
27. 現代経済学と現代社会 6
28. 総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストは事前に何度も熟読し，内容を十分に理解しておくこと。不明点や問題点については，あらかじめ Blackboard などを用いて十分に議論しておく。
ゼミナール以外に学生主導のサブゼミナールを行う場合がある。

成績評価方法・基準（Evaluation）

2～3年次は発表，発言などのゼミナールでの貢献(90%)/提出物(10%)
4年生はゼミナールでの活動(50%)/卒業論文（50%）

テキスト（Textbooks）

テキストについては別途指示する。

参考文献（Readings）

1. J.M.Keynes、1995 年、『貨幣，利子および雇用の一般理論』、東洋経済新報社
2. 筒井他、2017 年、『行動経済学入門』、東洋経済新報社
これ以外の参考書については適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

https://twitter.com/fujiwara_rikkyo
https://www.facebook.com/%E8%97%A4%E5%8E%9F%E3%82%BC%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%AB-1591419617802303/
Blackboard も利用する。

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際社会保障―グローバル化時代の社会保障の役割と持続可能性		
担当者名 (Instructor)	倉地 真太郎(KURACHI SHINTARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

グローバル化、少子高齢化、財政問題を視野にいれて、社会保障制度改革・雇用制度改革をめぐる論点について深く考察する。ディベートを通じて調査能力・思考力・対話力・協調性を身につける。

To deeply think about reforming the social security system and employment system taking into consideration globalization, the declining birth rate and aging of society, and government finance problems. To acquire the ability to do research, think, talk with others, and cooperate with others through participating in debates.

授業の内容(Course Contents)

このゼミは多くの回でディベートを行う。社会保障と雇用問題は政策論的・政治的な論争が行われており，その問題点と論点を理解する方法としてディベートは効果的である。また，ディベートというグループ学習によりコミュニケーション能力を高めることができる。

医療保障(健康保険)，所得保障(年金，雇用保険，生活保護など)，介護保障(介護保険，家族援助) 、雇用問題・雇用制度改革などの社会政策の論争点を取り上げる。人口構成の高齢化と出生率の低下，経済社会の変化，グローバル競争に対応して日本の社会保障制度は改革を迫られている。社会保障制度と密接な関係にあった雇用慣行(日本的労使関係)も行き詰まりを呈し、雇用制度改革が大きな争点になっている。これらの問題を考察する際に、成熟した福祉国家であるヨーロッパ諸国と高齢化の最先端を進む日本の比較は様々な知見を得ることができる。特に，担当教員が専門とするデンマーク・スウェーデンなど北欧諸国との比較を重視する。また、中国・韓国・台湾などの東アジア諸国も社会保障制度が整備されつつあり、日本と比較可能になっている。社会保障をグローバルな視点で捉え、持続可能で効果的な社会保障制度を展望する。

春と夏に合宿を行う。1年次末の春から合宿に参加する。卒業論文の作成は義務とする。

なお、2019 年度は担当教員が研究休暇をとるため、兼任講師が代講する予定である。

Many debates will be held during this seminar. There are policy theory and political theory disputes regarding the social security and employment problems, and debates are an effective means for understanding those problems and points of dispute. In addition, the group study called debate can improve communication ability.

Points of dispute regarding employment problems, employment system reformation, and other social policies will be brought up, such as medial security (health insurance), income security (pension, employment insurance, welfare, etc.), and long-term care security (long-term care insurance, family assistance). The aging of the population composition, decline in the birth rate, changes in economic society, and global disputes are putting the Japanese social security system under pressure to reform. Employment practices (Japanese labor-management relations), which are closely related to the social security system, have become an issue with many disputes about how to reform the employment system. When considering these problems, much can be learned by comparing European countries, which are mature welfare states, with Japan, which is one of the countries with the greatest aging of the population. In particular, the comparison will be focused on Demark and Sweden, on which the instructor is a specialist. In addition, East Asian countries, such as China, South Korea, and Taiwan, are building social security systems and these can be compared with Japan. Looking at social security from a global perspective allows us to see sustainable and effective social security systems.

Spring and summer training camps will be held. Students can participate in the spring training camp from the end of their first year. Students are required to write a graduation thesis.

The instructor in charge of the seminar will be taking a research sabbatical during the 2019 academic year, so a part-time lecturer will oversee the seminar during that time.

授業計画(Course Schedule)

1. 医療保障基礎1
2. 医療保障基礎2
3. 医療保障基礎3
4. 医療保障基礎4
5. 所得保障基礎1
6. 所得保障基礎2
7. 所得保障基礎3

8. 所得保障基礎4
9. 介護保障基礎1
10. 介護保障基礎2
11. 介護保障基礎3
12. 介護保障基礎4
13. 雇用政策基礎1
14. 雇用政策基礎2
15. 医療保障応用1
16. 医療保障応用2
17. 医療保障応用3
18. 医療保障応用4
19. 所得保障応用1
20. 所得保障応用2
21. 所得保障応用3
22. 所得保障応用4
23. 介護保障応用1
24. 介護保障応用2
25. 介護保障応用3
26. 介護保障応用4
27. 雇用政策応用1
28. 雇用政策応用2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予め提示した課題について，グループで事前に調べ，主張を明確にしておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業中の発言(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田中耕太郎・椋野美智子著、最新版、『はじめての社会保障』(最新版)、有斐閣
2. 土田武史編、2015、『社会保障論』、成文堂

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミの応募課題はゼミ連のゼミナール説明会の後，菅沼研究室(12 号館 4 階)ドアポストにて配布する。また，オープンゼミでも配布する。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際社会保障―グローバル化時代の社会保障の役割と持続可能性		
担当者名 (Instructor)	倉地 真太郎(KURACHI SHINTARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

グローバル化、少子高齢化、財政問題を視野にいれて、社会保障制度改革・雇用制度改革をめぐる論点について深く考察する。ディベートを通じて調査能力・思考力・対話力・協調性を身につける。

To deeply think about reforming the social security system and employment system taking into consideration globalization, the declining birth rate and aging of society, and government finance problems. To acquire the ability to do research, think, talk with others, and cooperate with others through participating in debates.

授業の内容(Course Contents)

このゼミは多くの回でディベートを行う。社会保障と雇用問題は政策論的・政治的な論争が行われており，その問題点と論点を理解する方法としてディベートは効果的である。また，ディベートというグループ学習によりコミュニケーション能力を高めることができる。

医療保障(健康保険)，所得保障(年金，雇用保険，生活保護など)，介護保障(介護保険，家族援助) 、雇用問題・雇用制度改革などの社会政策の論争点を取り上げる。人口構成の高齢化と出生率の低下，経済社会の変化，グローバル競争に対応して日本の社会保障制度は改革を迫られている。社会保障制度と密接な関係にあった雇用慣行(日本的労使関係)も行き詰まりを呈し、雇用制度改革が大きな争点になっている。これらの問題を考察する際に、成熟した福祉国家であるヨーロッパ諸国と高齢化の最先端を進む日本の比較は様々な知見を得ることができる。特に，担当教員が専門とするデンマーク・スウェーデンなど北欧諸国との比較を重視する。また、中国・韓国・台湾などの東アジア諸国も社会保障制度が整備されつつあり、日本と比較可能になっている。社会保障をグローバルな視点で捉え、持続可能で効果的な社会保障制度を展望する。

春と夏に合宿を行う。1年次末の春から合宿に参加する。卒業論文の作成は義務とする。

なお、2019 年度は担当教員が研究休暇をとるため、兼任講師が代講する予定である。

Many debates will be held during this seminar. There are policy theory and political theory disputes regarding the social security and employment problems, and debates are an effective means for understanding those problems and points of dispute. In addition, the group study called debate can improve communication ability.

Points of dispute regarding employment problems, employment system reformation, and other social policies will be brought up, such as medial security (health insurance), income security (pension, employment insurance, welfare, etc.), and long-term care security (long-term care insurance, family assistance). The aging of the population composition, decline in the birth rate, changes in economic society, and global disputes are putting the Japanese social security system under pressure to reform. Employment practices (Japanese labor-management relations), which are closely related to the social security system, have become an issue with many disputes about how to reform the employment system. When considering these problems, much can be learned by comparing European countries, which are mature welfare states, with Japan, which is one of the countries with the greatest aging of the population. In particular, the comparison will be focused on Demark and Sweden, on which the instructor is a specialist. In addition, East Asian countries, such as China, South Korea, and Taiwan, are building social security systems and these can be compared with Japan. Looking at social security from a global perspective allows us to see sustainable and effective social security systems.

Spring and summer training camps will be held. Students can participate in the spring training camp from the end of their first year. Students are required to write a graduation thesis.

The instructor in charge of the seminar will be taking a research sabbatical during the 2019 academic year, so a part-time lecturer will oversee the seminar during that time.

授業計画(Course Schedule)

1. 医療保障基礎1
2. 医療保障基礎2
3. 医療保障基礎3
4. 医療保障基礎4
5. 所得保障基礎1
6. 所得保障基礎2
7. 所得保障基礎3

8. 所得保障基礎4
9. 介護保障基礎1
10. 介護保障基礎2
11. 介護保障基礎3
12. 介護保障基礎4
13. 雇用政策基礎1
14. 雇用政策基礎2
15. 医療保障応用1
16. 医療保障応用2
17. 医療保障応用3
18. 医療保障応用4
19. 所得保障応用1
20. 所得保障応用2
21. 所得保障応用3
22. 所得保障応用4
23. 介護保障応用1
24. 介護保障応用2
25. 介護保障応用3
26. 介護保障応用4
27. 雇用政策応用1
28. 雇用政策応用2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予め提示した課題について，グループで事前に調べ，主張を明確にしておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業中の発言(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田中耕太郎・椋野美智子著、最新版、『はじめての社会保障』(最新版)、有斐閣
2. 土田武史編、2015、『社会保障論』、成文堂

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ゼミの応募課題はゼミ連のゼミナール説明会の後，菅沼研究室(12 号館 4 階)ドアポストにて配布する。また，オープンゼミでも配布する。

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代財政の諸問題		
担当者名 (Instructor)	池上 岳彦(IKEGAMI TAKEHIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代財政に関する理解を深めるとともに，財政を素材として経済政策の課題を発見・研究して，その成果を発表・議論し，論文を作成する能力を養う。

The objectives of this seminar are deepening understanding of contemporary government finance, discovering and researching issues of economic policy using subject matters in government finance, making presentation and discussion on those results, and developing the ability to write academic papers.

授業の内容(Course Contents)

現代経済において財政（政府が租税を課して，その財源を用いて公共サービスを行う制度）が果たす役割は大きい。日本は先進国の中では比較的「小さな政府」を持つが，少子高齢社会における経費増大は不可避である。また，日本では租税負担が軽いうえに，公共投資と所得減税を繰り返した結果，巨額の公債が累積している。これに対して増税を語る場合，「信頼される政府」をつくることが前提となる。

本ゼミナールでは，まず現代財政に関する基本的文献を講読する。そのうえで，税制，社会保障，公共投資， 公債，予算制度，地方分権，財政投融資，公企業，対外政策，外国財政等の分野について，参加者が選択したテーマに関する発表と検討を重ねて，論文をまとめる。

自分で問題を発見して資料収集や調査・分析を行い，積極的に発表・議論することが求められる。

Public finance (the system whereby governments collect taxes and uses them to fund public services) plays a large role in contemporary economy. Among the advanced nations, Japan has a relatively “small government system,” but it cannot avoid the increase in expenditures due to the declining birth rate and the aging of society. In addition, although the tax burden in Japan is low, repeated public investments and income tax reductions have left the country with a massive public debt. The precondition for discussing tax increases to deal with this is building a “trustworthy government system.”

In this seminar, students will first read basic literature on contemporary public finance. They will then make presentation and discussion and write papers on themes they select from such fields as the tax system, social security, public investment, pubic debt, budget system, government decentralization, the Financial Investment and Loan Program, public enterprises, foreign policy, and foreign government public finance.

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analysis, and proactively present and discuss their findings.

授業計画(Course Schedule)

1. 序論
2. 公共投資に関する議論
3. 社会保障財政に関する議論（1）－総論
4. 社会保障財政に関する議論（2）－年金・医療・介護等
5. 環境と財政に関する議論
6. 行財政改革に関する議論
7. 租税理論に関する議論
8. 所得税に関する議論
9. 法人税に関する議論
10. 消費税と資産課税に関する議論
11. 税制改革に関する議論
12. 公債に関する議論
13. 財政投融資に関する議論
14. 国と地方の財政関係に関する議論
15. 中間レポート報告と議論（1）
16. 中間レポート報告と議論（2）
17. 研究報告と議論（1）
18. 研究報告と議論（2）

19. 研究報告と議論(3)
20. 研究報告と議論(4)
21. 研究報告と議論(5)
22. 研究報告と議論(6)
23. 研究報告と議論(7)
24. 研究報告と議論(8)
25. 研究報告と議論(9)
26. 研究報告と議論(10)
27. 研究報告と議論(11)
28. 議論の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までの授業内容復習，各回のテキスト等に関する予習。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業(合宿を含む)における報告・議論(50%)/中間レポート(10%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 植田和弘・諸富徹編、2016 年、『テキストブック現代財政学』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641184329)

参考文献(Readings)

1. 池上岳彦編、2015 年、『現代財政を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641184244)
2. 沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸、2017 年、『地方財政を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641184350)
3. 金澤史男編、2005 年、『財政学』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641183209)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代財政の諸問題		
担当者名 (Instructor)	池上 岳彦(IKEGAMI TAKEHIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代財政に関する理解を深めるとともに，財政を素材として経済政策の課題を発見・研究して，その成果を発表・議論し，論文を作成する能力を養う。

The objectives of this seminar are deepening understanding of contemporary government finance, discovering and researching issues of economic policy using subject matters in government finance, making presentation and discussion on those results, and developing the ability to write academic papers.

授業の内容(Course Contents)

現代経済において財政(政府が租税を課して，その財源を用いて公共サービスを行う制度)が果たす役割は大きい。日本は先進国の中では比較的「小さな政府」を持つが，少子高齢社会における経費増大は不可避である。また，日本では租税負担が軽いうえに，公共投資と所得減税を繰り返した結果，巨額の公債が累積している。これに対して増税を語る場合，「信頼される政府」をつくることが前提となる。

本ゼミナールでは，まず現代財政に関する基本的文献を講読する。そのうえで，税制，社会保障，公共投資， 公債，予算制度，地方分権，財政投融資，公企業，対外政策，外国財政等の分野について，参加者が選択したテーマに関する発表と検討を重ねて，論文をまとめる。

自分で問題を発見して資料収集や調査・分析を行い，積極的に発表・議論することが求められる。

Public finance (the system whereby governments collect taxes and uses them to fund public services) plays a large role in contemporary economy. Among the advanced nations, Japan has a relatively “small government system,” but it cannot avoid the increase in expenditures due to the declining birth rate and the aging of society. In addition, although the tax burden in Japan is low, repeated public investments and income tax reductions have left the country with a massive public debt. The precondition for discussing tax increases to deal with this is building a “trustworthy government system.”

In this seminar, students will first read basic literature on contemporary public finance. They will then make presentation and discussion and write papers on themes they select from such fields as the tax system, social security, public investment, pubic debt, budget system, government decentralization, the Financial Investment and Loan Program, public enterprises, foreign policy, and foreign government public finance.

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analysis, and proactively present and discuss their findings.

授業計画(Course Schedule)

1. 序論
2. 公共投資に関する議論
3. 社会保障財政に関する議論(1)－総論
4. 社会保障財政に関する議論(2)－年金・医療・介護等
5. 環境と財政に関する議論
6. 行財政改革に関する議論
7. 租税理論に関する議論
8. 所得税に関する議論
9. 法人税に関する議論
10. 消費税と資産課税に関する議論
11. 税制改革に関する議論
12. 公債に関する議論
13. 財政投融資に関する議論
14. 国と地方の財政関係に関する議論
15. 中間レポート報告と議論(1)
16. 中間レポート報告と議論(2)
17. 研究報告と議論(1)
18. 研究報告と議論(2)

19. 研究報告と議論(3)
20. 研究報告と議論(4)
21. 研究報告と議論(5)
22. 研究報告と議論(6)
23. 研究報告と議論(7)
24. 研究報告と議論(8)
25. 研究報告と議論(9)
26. 研究報告と議論(10)
27. 研究報告と議論(11)
28. 議論の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

前回までの授業内容復習，各回のテキスト等に関する予習。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業(合宿を含む)における報告・議論(50%)/中間レポート(10%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 植田和弘・諸富徹編、2016 年、『テキストブック現代財政学』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641184329)

参考文献(Readings)

1. 池上岳彦編、2015 年、『現代財政を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641184244)
2. 沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸、2017 年、『地方財政を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641184350)
3. 金澤史男編、2005 年、『財政学』、有斐閣 (ISBN:ISBN978-4641183209)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の産業研究		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

日本の産業が直面している課題や問題点を発見し、解決策を提案することに挑戦します。そのため、経済学や経営学を学ぶとともに、フィールドワークなどを実施します。研究成果は、インカレでの発表や論文投稿をおこないます。社会に貢献できるテーマを発見し、高く評価される研究成果を得ることを目指します。

To identify the issues and problems facing Japanese industry and take on the challenge to propose solutions. To do this, students will study economics and business management and conduct fieldwork, etc. Intercollegiate presentation and paper submission will be done for the research results. The objective is to discover themes that can contribute to society and then produce research results that will be highly evaluated.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミでは、いくつかのチームに分かれ、特定の産業に関する分析をおこなう。どの産業を研究するかは、受講者と相談して決定する。関連する情報を収集すること、情報を整理すること、課題を発見すること、解決策を提案することといった各段階で必要な知識は、担当者が指定する様々な文献を通じて学習する。文献を正確に理解することで、論理的思考力を育成する。

本ゼミでは、グループワークを通じた学習を重視している。インカレでのプレゼンテーションやフィールドワークといった活動を通じて、コミュニケーション能力や組織運営のノウハウを獲得してもらいたい。こうした能力は、社会で活躍するために必要な能力のひとつだと考えている。

4年生は、ゼミ活動の集大成として、卒業論文を作成する。

In this seminar, students will first read basic literature on contemporary public finance. They will then make presentation and discussion and write papers on themes they select from such fields as the tax system, social security, public investment, pubic debt, budget system, government decentralization, the Financial Investment and Loan Program, public enterprises, foreign policy, and foreign government public finance.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、アイスブレイク
2. 基本文献の輪読(1)
3. 基本文献の輪読(2)
4. 基本文献の輪読(3)
5. 基本文献の輪読(4)
6. 基本文献の輪読(5)
7. 調査方法に関するレクチャー(1):データベースの利用
   研究テーマに関するディスカッション(1)
8. 調査方法に関するレクチャー(2):インタビュー調査
   研究テーマに関するディスカッション(2)
9. 調査方法に関するレクチャー(3):アンケート調査
   研究テーマに関するディスカッション(3)
10. 調査方法に関するレクチャー(4):財務諸表分析
    研究テーマに関するディスカッション(4)
11. 研究テーマの仮設定
12. グループ研究の推進
13. グループ研究の推進
14. グループ研究の中間報告
    夏季休業期間中の調査スケジュールの確認
15. 秋学期方針の確認
    グループ研究の成果発表に向けた準備(1)
16. グループ研究の成果発表に向けた準備(2)
17. グループ研究の成果発表に向けた最終確認
18. 討論会テーマの研究(1)

19. 討論会テーマの研究（2）
20. 討論会テーマの研究（3）
21. 討論会テーマの研究成果発表に向けた準備
22. 討論会テーマの研究成果発表に向けた最終確認
23. 応用文献の輪読（1）
24. 応用文献の輪読（2）
25. 応用文献の輪読（3）
26. 応用文献の輪読（4）
27. 応用文献の輪読（5）
28. 総括、次年度に向けた準備

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

研究成果を発表するため、企業や自治体へのヒアリング調査、データの入力や分析、パワーポイントの作成、論文の執筆、プレゼンテーションの練習など、様々な学習が必要となる。

成績評価方法・基準（Evaluation）

研究成果(50%)/議論への参加(30%)/ゼミ活動への貢献(20%)

テキスト（Textbooks）

受講者と相談して決定する。

参考文献（Readings）

1. アレックス・オスターワルダーら、2012、『ビジネスモデル・ジェネレーション―ビジネスモデル設計書―』、翔泳社 (ISBN:4798122971)
2. 田尾雅夫・若林直樹、2002、『組織調査ガイドブック―調査党宣言』、有斐閣 (ISBN:4641161208)
3. 佐藤郁哉、2002、『フィールドワークの技法―問いを育てる，仮説をきたえる―』、新曜社 (ISBN:4788507889)
4. 伊丹敬之、2001、『創造的論文の書き方』、有斐閣 (ISBN:4641076499)
5. 沼上幹、2016、『ゼロからの経営戦略（シリーズ・ケースで読み解く経営学）』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623078329)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://kikuchikou.wixsite.com/kikuchi-wataru

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の産業研究		
担当者名 (Instructor)	菊池 航(KIKUCHI WATARU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

日本の産業が直面している課題や問題点を発見し、解決策を提案することに挑戦します。そのため、経済学や経営学を学ぶとともに、フィールドワークなどを実施します。研究成果は、インカレでの発表や論文投稿をおこないます。社会に貢献できるテーマを発見し、高く評価される研究成果を得ることを目指します。

To identify the issues and problems facing Japanese industry and take on the challenge to propose solutions. To do this, students will study economics and business management and conduct fieldwork, etc. Intercollegiate presentation and paper submission will be done for the research results. The objective is to discover themes that can contribute to society and then produce research results that will be highly evaluated.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミでは、いくつかのチームに分かれ、特定の産業に関する分析をおこなう。どの産業を研究するかは、受講者と相談して決定する。関連する情報を収集すること、情報を整理すること、課題を発見すること、解決策を提案することといった各段階で必要な知識は、担当者が指定する様々な文献を通じて学習する。文献を正確に理解することで、論理的思考力を育成する。

本ゼミでは、グループワークを通じた学習を重視している。インカレでのプレゼンテーションやフィールドワークといった活動を通じて、コミュニケーション能力や組織運営のノウハウを獲得してもらいたい。こうした能力は、社会で活躍するために必要な能力のひとつだと考えている。

4年生は、ゼミ活動の集大成として、卒業論文を作成する。

In this seminar, students will first read basic literature on contemporary public finance. They will then make presentation and discussion and write papers on themes they select from such fields as the tax system, social security, public investment, pubic debt, budget system, government decentralization, the Financial Investment and Loan Program, public enterprises, foreign policy, and foreign government public finance.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、アイスブレイク
2. 基本文献の輪読(1)
3. 基本文献の輪読(2)
4. 基本文献の輪読(3)
5. 基本文献の輪読(4)
6. 基本文献の輪読(5)
7. 調査方法に関するレクチャー(1):データベースの利用
   研究テーマに関するディスカッション(1)
8. 調査方法に関するレクチャー(2):インタビュー調査
   研究テーマに関するディスカッション(2)
9. 調査方法に関するレクチャー(3):アンケート調査
   研究テーマに関するディスカッション(3)
10. 調査方法に関するレクチャー(4):財務諸表分析
    研究テーマに関するディスカッション(4)
11. 研究テーマの仮設定
12. グループ研究の推進
13. グループ研究の推進
14. グループ研究の中間報告
    夏季休業期間中の調査スケジュールの確認
15. 秋学期方針の確認
    グループ研究の成果発表に向けた準備(1)
16. グループ研究の成果発表に向けた準備(2)
17. グループ研究の成果発表に向けた最終確認
18. 討論会テーマの研究(1)

19. 討論会テーマの研究（2）
20. 討論会テーマの研究（3）
21. 討論会テーマの研究成果発表に向けた準備
22. 討論会テーマの研究成果発表に向けた最終確認
23. 応用文献の輪読（1）
24. 応用文献の輪読（2）
25. 応用文献の輪読（3）
26. 応用文献の輪読（4）
27. 応用文献の輪読（5）
28. 総括、次年度に向けた準備

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

研究成果を発表するため、企業や自治体へのヒアリング調査、データの入力や分析、パワーポイントの作成、論文の執筆、プレゼンテーションの練習など、様々な学習が必要となる。

成績評価方法・基準（Evaluation）

研究成果(50%)/議論への参加(30%)/ゼミ活動への貢献(20%)

テキスト（Textbooks）

受講者と相談して決定する。

参考文献（Readings）

1. アレックス・オスターワルダーら、2012、『ビジネスモデル・ジェネレーション―ビジネスモデル設計書―』、翔泳社 (ISBN:4798122971)
2. 田尾雅夫・若林直樹、2002、『組織調査ガイドブック―調査党宣言』、有斐閣 (ISBN:4641161208)
3. 佐藤郁哉、2002、『フィールドワークの技法―問いを育てる，仮説をきたえる―』、新曜社 (ISBN:4788507889)
4. 伊丹敬之、2001、『創造的論文の書き方』、有斐閣 (ISBN:4641076499)
5. 沼上幹、2016、『ゼロからの経営戦略（シリーズ・ケースで読み解く経営学）』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623078329)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://kikuchikou.wixsite.com/kikuchi-wataru

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市・環境と地域経済の実証分析		
担当者名 (Instructor)	田島 夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

都市における経済活動や地域政策について学ぶ。地域分析と政策の立案ができるようになることを目標に， 統計データ分析及びフィールド調査を通じて研究及びプレゼンテーション・論文執筆能力を身につける。(社会調査士資格実習科目に指定)

To study the economic activities in cities and regional policy. For students to acquire the ability to conduct research, give presentations, and write papers through statistical data analysis and field studies for the purpose of being able to conduct regional analysis and propose policies. (Specified as a practical training subject for the Certificate of Social Researcher)

授業の内容(Course Contents)

都市では人口や産業・文化が集積することでさまざまな魅力が生まれている反面，集中による交通混雑，居住環境の悪化，自然災害リスクの集中，地域間の格差等の問題が生じている。本ゼミナールではゼミ全体での具体的な研究課題を設定し，地域の抱える特徴や問題を明らかにし，都市・地域の持続可能な発展を実現するための方法と課題を検討する。過年度は，下記の活動を中心に行った。

1)都市経済学・都市政策の基礎や地域統計・計量経済分析，地理情報システム(GIS)を用いた地域経済に関わる実証研究の技法を学ぶ。

2)各個人が新聞記事等からトピックを選択し，背景や課題をまとめてゼミで報告し議論する。

3)2・3 年生のグループ毎に主題や地域を分担してデータ分析及びフィールド調査を行い論文の作成とプレゼンテーションを行う。

4)夏休みに合宿を行い，地方都市における災害復興や都市計画、緑地計画等の取り組みを学ぶ。

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analysis, and proactively present and discuss their findings.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション，各種分担の決定
2. トピックス，文献輪読(都市)1
3. トピックス，文献輪読(都市)2
4. トピックス，文献輪読(都市)3
5. トピックス，文献輪読(都市)4
6. トピックス，文献輪読(都市)5
7. トピックス，グループ研究の検討・分担
8. トピックス，文献講読(分析手法)1
9. トピックス，文献講読(分析手法)2
10. トピックス，文献講読(分析手法)3
11. トピックス，文献講読(分析手法)4
12. トピックス，文献講読(分析手法)5
13. トピックス，文献講読(分析手法)6
14. グループ研究中間報告 1
15. グループ研究中間報告 2，卒論中間報告 1
16. トピックス，卒論中間報告 2
17. トピックス，文献ディスカッション 1
18. トピックス，文献ディスカッション 2
19. トピックス，文献ディスカッション 3
20. トピックス，文献ディスカッション 4
21. グループ研究中間報告 3，卒論中間報告 3
22. グループ研究中間報告 4，卒論中間報告 4
23. トピックス，最終論文検討 1
24. トピックス，最終論文検討 2
25. トピックス，最終論文検討 3

26. グループ研究最終報告 1，卒論最終報告 1
27. グループ研究最終報告 2，卒論最終報告 2
28. グループ研究最終報告 2，卒論最終報告 3

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

分担して行う輪読や研究報告，議論に向けては個人またはグループによる周到な準備を要する。
統計情報分析に取り組むため情報処理関連各科目及び統計学・計量経済学を履修済み，あるいは同時に履修することが望ましい。
初級ミクロ経済学、都市政策論 1・2 を並行して履修することにより、ミクロ経済学の理論を応用して都市・地域の問題を研究する準備を行うこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業への出席と議論への貢献(30%)/プレゼンテーション・報告(40%)/論文(30%)

テキスト（Textbooks）

受講者と相談して決定。過年度は 日本地誌研究所（編）『日本地誌 第 7 巻 東京都』 二宮書店 1967 年 ISBN：978-4-8176-0007-3 エンリコ・モレッティ著『『年収は「住むところ」で決まる 雇用とイノベーションの都市経済学』ダイヤモンド社 2014 年 ISBN978-4833420822、 等

参考文献（Readings）

1. ウリ・ニーズィー、ジョン・リスト、2014 年、『その問題、経済学で解決できます。』、東洋経済新報社 (ISBN:ISBN978-4-492-31449-4)
2. エドワード・グレイザー、2012 年、『都市は人類最高の発明である』、NTT 出版 (ISBN:ISBN978-4-7571-4279-4)
3. 中室牧子、津川友介、2017 年、『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』、ダイヤモンド社 (ISBN:ISBN978-4-478-03947-2)
4. 伊藤公一朗、2017 年、『データ分析のカ－因果関係に迫る思考法』、光文社新書 (ISBN:ISBN 978-4-334-03986-8)
5. 山本勲、2015 年、『実証分析のための計量経済学－正しい手法と結果の読み方』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-168116)
6. 田島夏与ら編、2014 年、『再生する都市空間と市民参画』、クオン出版 (ISBN:ISBN978-4-904-855225)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市・環境と地域経済の実証分析		
担当者名 (Instructor)	田島 夏与(TAJIMA KAYO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

都市における経済活動や地域政策について学ぶ。地域分析と政策の立案ができるようになることを目標に， 統計データ分析及びフィールド調査を通じて研究及びプレゼンテーション・論文執筆能力を身につける。(社会調査士資格実習科目に指定)

To study the economic activities in cities and regional policy. For students to acquire the ability to conduct research, give presentations, and write papers through statistical data analysis and field studies for the purpose of being able to conduct regional analysis and propose policies. (Specified as a practical training subject for the Certificate of Social Researcher)

授業の内容(Course Contents)

都市では人口や産業・文化が集積することでさまざまな魅力が生まれている反面，集中による交通混雑，居住環境の悪化，自然災害リスクの集中，地域間の格差等の問題が生じている。本ゼミナールではゼミ全体での具体的な研究課題を設定し，地域の抱える特徴や問題を明らかにし，都市・地域の持続可能な発展を実現するための方法と課題を検討する。過年度は，下記の活動を中心に行った。

1)都市経済学・都市政策の基礎や地域統計・計量経済分析，地理情報システム(GIS)を用いた地域経済に関わる実証研究の技法を学ぶ。

2)各個人が新聞記事等からトピックを選択し，背景や課題をまとめてゼミで報告し議論する。

3)2・3 年生のグループ毎に主題や地域を分担してデータ分析及びフィールド調査を行い論文の作成とプレゼンテーションを行う。

4)夏休みに合宿を行い，地方都市における災害復興や都市計画、緑地計画等の取り組みを学ぶ。

Students are required to identify problems, gather materials, conduct studies and analysis, and proactively present and discuss their findings.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション，各種分担の決定
2. トピックス，文献輪読(都市)1
3. トピックス，文献輪読(都市)2
4. トピックス，文献輪読(都市)3
5. トピックス，文献輪読(都市)4
6. トピックス，文献輪読(都市)5
7. トピックス，グループ研究の検討・分担
8. トピックス，文献講読(分析手法)1
9. トピックス，文献講読(分析手法)2
10. トピックス，文献講読(分析手法)3
11. トピックス，文献講読(分析手法)4
12. トピックス，文献講読(分析手法)5
13. トピックス，文献講読(分析手法)6
14. グループ研究中間報告 1
15. グループ研究中間報告 2，卒論中間報告 1
16. トピックス，卒論中間報告 2
17. トピックス，文献ディスカッション 1
18. トピックス，文献ディスカッション 2
19. トピックス，文献ディスカッション 3
20. トピックス，文献ディスカッション 4
21. グループ研究中間報告 3，卒論中間報告 3
22. グループ研究中間報告 4，卒論中間報告 4
23. トピックス，最終論文検討 1
24. トピックス，最終論文検討 2
25. トピックス，最終論文検討 3

26. グループ研究最終報告 1，卒論最終報告 1
27. グループ研究最終報告 2，卒論最終報告 2
28. グループ研究最終報告 2，卒論最終報告 3

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

分担して行う輪読や研究報告，議論に向けては個人またはグループによる周到な準備を要する。
統計情報分析に取り組むため情報処理関連各科目及び統計学・計量経済学を履修済み，あるいは同時に履修することが望ましい。
初級ミクロ経済学、都市政策論 1・2 を並行して履修することにより、ミクロ経済学の理論を応用して都市・地域の問題を研究する準備を行うこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業への出席と議論への貢献(30%)/プレゼンテーション・報告(40%)/論文(30%)

テキスト（Textbooks）

受講者と相談して決定。過年度は 日本地誌研究所（編）『日本地誌 第 7 巻 東京都』 二宮書店 1967 年 ISBN：978-4-8176-0007-3 エンリコ・モレッティ著『『年収は「住むところ」で決まる 雇用とイノベーションの都市経済学』ダイヤモンド社 2014 年 ISBN978-4833420822、 等

参考文献（Readings）

1. ウリ・ニーズィー、ジョン・リスト、2014 年、『その問題、経済学で解決できます。』、東洋経済新報社 (ISBN:ISBN978-4-492-31449-4)
2. エドワード・グレイザー、2012 年、『都市は人類最高の発明である』、NTT 出版 (ISBN:ISBN978-4-7571-4279-4)
3. 中室牧子、津川友介、2017 年、『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』、ダイヤモンド社 (ISBN:ISBN978-4-478-03947-2)
4. 伊藤公一朗、2017 年、『データ分析のカ－因果関係に迫る思考法』、光文社新書 (ISBN:ISBN 978-4-334-03986-8)
5. 山本勲、2015 年、『実証分析のための計量経済学－正しい手法と結果の読み方』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-168116)
6. 田島夏与ら編、2014 年、『再生する都市空間と市民参画』、クオン出版 (ISBN:ISBN978-4-904-855225)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	レジリエントなまちづくりの比較政治経済学		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

比較政治経済学の基礎概念を学びながら, 地球温暖化などの課題に対する強いまちづくりのあり方を比較する。

To learn the fundamental concepts of comparative political economics while comparing strong urban development with such issues as global warming.

授業の内容(Course Contents)

このゼミにおいて環境・エネルギー政策の比較政治経済学について学習する。地球温暖化等の課題に対しては、世界各地にスマートでレジリエントなまちづくりへのパラダイムシフトが加速している。このパラダイムシフトの特徴のうち、政策、ステーキホルダーや社会資本の連携により地方創生という目的もある。国際的観点からみた日本における街のスマート化を学習する。

In this seminar students will learn about the comparative political economics of environmental and energy problems. To respond to such issues as global warming, areas throughout the world are accelerating the paradigm shift to smart and resilient urban development. The characteristics of this paradigm shift include the objective of regional revitalization through cooperation among public policy, stakeholders, and social capital. Students will study the creation of smart cities in Japan as seen from an international perspective.

授業計画(Course Schedule)

1. 課題と機会：持続可能な開発目標
2. 気候変動に対する『緩和策』と『適応策』
3. 「レジリエンス」とステークホルダー
4. IoT 活用による防災・減災
5. 東京都スマートシティ
6. 東松島市スマート防災エコタウン
7. 下川町の森林未来都市
8. 川崎スマートシティ
9. 豊田市の「ミライのフツー」
10. 浜松市スマートシティ
11. 南相馬市の循環型都市
12. 宇部市スマートコミュニティ
13. 京都市環境モデル都市
14. みやま市スマートコミュニティ
15. 新潟市田園型環境都市
16. 弘前市スマートシティ
17. 柏市次世代環境都市の取り組み
18. 釜石市スマートコミュニティ
19. 富山市のコンパクトシティ
20. 宇都宮市ネットワーク型コンパクトシティ
21. 堺市の低炭素都市の取り組み
22. 鳥取市スマート・グリッド・タウン
23. 飯田市の低炭素街づくり
24. 赤磐市スマートコミュニティ
25. 横浜市のスマートシティ
26. 足利市スマートシティ
27. 宮古島市の「エコアイランド」
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回，前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。関連の記事や書籍を確認すること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(30%)/プレゼンテーション(40%)/ディスカッション参加(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 柏木孝夫監修、2015年、『スマートコミュニティ vol.5 コンパクトシティ＋ネットワークと地方創生』、時評者 (ISBN:978-4-88339-219-3)
2. 経済産業省、2017 年6月 23 日、『スマートコミュニティ 事例集』、資源エネルギー庁
3. 東京都、2016年3月、『スマートコミュニティ構築に向けたガイドライン改訂版（平成28年3月）』、東京都
4. 国土交通省、2018、『スマートシティの実現に向けて』、国土交通省
5. 先端教育機構、2018、『SDGs の基礎』、宣伝会議 (ISBN:4883354415)

地方創生 SDGs
http://future-city.jp
環境モデル都市・環境未来都市・SDGs未来都市
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/
国土強靭化
http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/
自治体 SDGs と地方創生
https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/sl_info/working_papers/pdf/report20180112.pdf

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	レジリエントなまちづくりの比較政治経済学		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

比較政治経済学の基礎概念を学びながら, 地球温暖化などの課題に対する強いまちづくりのあり方を比較する。

To learn the fundamental concepts of comparative political economics while comparing strong urban development with such issues as global warming.

授業の内容(Course Contents)

このゼミにおいて環境・エネルギー政策の比較政治経済学について学習する。地球温暖化等の課題に対しては、世界各地にスマートでレジリエントなまちづくりへのパラダイムシフトが加速している。このパラダイムシフトの特徴のうち、政策、ステーキホルダーや社会資本の連携により地方創生という目的もある。国際的観点からみた日本における街のスマート化を学習する。

In this seminar students will learn about the comparative political economics of environmental and energy problems. To respond to such issues as global warming, areas throughout the world are accelerating the paradigm shift to smart and resilient urban development. The characteristics of this paradigm shift include the objective of regional revitalization through cooperation among public policy, stakeholders, and social capital. Students will study the creation of smart cities in Japan as seen from an international perspective.

授業計画(Course Schedule)

1. 課題と機会：持続可能な開発目標
2. 気候変動に対する『緩和策』と『適応策』
3. 「レジリエンス」とステークホルダー
4. IoT 活用による防災・減災
5. 東京都スマートシティ
6. 東松島市スマート防災エコタウン
7. 下川町の森林未来都市
8. 川崎スマートシティ
9. 豊田市の「ミライのフツー」
10. 浜松市スマートシティ
11. 南相馬市の循環型都市
12. 宇部市スマートコミュニティ
13. 京都市環境モデル都市
14. みやま市スマートコミュニティ
15. 新潟市田園型環境都市
16. 弘前市スマートシティ
17. 柏市次世代環境都市の取り組み
18. 釜石市スマートコミュニティ
19. 富山市のコンパクトシティ
20. 宇都宮市ネットワーク型コンパクトシティ
21. 堺市の低炭素都市の取り組み
22. 鳥取市スマート・グリッド・タウン
23. 飯田市の低炭素街づくり
24. 赤磐市スマートコミュニティ
25. 横浜市のスマートシティ
26. 足利市スマートシティ
27. 宮古島市の「エコアイランド」
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回，前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。関連の記事や書籍を確認すること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(30%)/プレゼンテーション(40%)/ディスカッション参加(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 柏木孝夫監修、2015年、『スマートコミュニティ vol.5 コンパクトシティ＋ネットワークと地方創生』、時評者 (ISBN:978-4-88339-219-3)
2. 経済産業省、2017 年6月 23 日、『スマートコミュニティ 事例集』、資源エネルギー庁
3. 東京都、2016年3月、『スマートコミュニティ構築に向けたガイドライン改訂版（平成28年3月）』、東京都
4. 国土交通省、2018、『スマートシティの実現に向けて』、国土交通省
5. 先端教育機構、2018、『SDGs の基礎』、宣伝会議 (ISBN:4883354415)

地方創生 SDGs
http://future-city.jp
環境モデル都市・環境未来都市・SDGs未来都市
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/
国土強靭化
http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/
自治体 SDGs と地方創生
https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/sl_info/working_papers/pdf/report20180112.pdf

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ポスト資本主義と政策対応 ／変貌を遂げつつある 21 世紀経済を多次元的に把握し，政策対応を考える。		
担当者名 (Instructor)	櫻井　公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

情報感度を高め，収集した情報を取捨して組み立てなおす編集力，伝達のためのプレゼン能力を身につけること。事前に全体の筋道を想定して準備し，現場では適宜軌道修正しながら対応できること，すなわち実践的な構想力を身につけることが目標である。

To acquire the editing ability to increase information sensitivity and select and assemble gathered information and the ability to communicate the results through presentations. The objective of the course is for students to acquire practical conceptual ability that will allow them to suppose and prepare the overall reasoning in advance and then in practice to make appropriate corrections as needed.

授業の内容(Course Contents)

21 世紀経済について，グローバル金融危機，反 EU，自国第一主義，テロと難民など，グローバリゼーションとそれへの反動についての考察が欠かせない。また，自動運転とライドシェア・EV シフトによって変貌する自動車産業。キャッシュレス化とリアル店舗の削減に進む銀行業の変貌と新しい金融。いずれにもかかわって変貌を遂げる IT。製造業・金融・IT が安定してすみ分けていた局面は終わり，それらの融合に対する政策対応が必須となる。ポスト資本主義に対応する構想力が求められている。

For the 21st century economy, it is indispensable to consider globalization, including such issues as the global financial crisis, Anti-EU sentiment, self-nationalism, terrorism, and refugees, and the reaction to it. In addition, the automobile industry is being transformed by autonomous driving, ride sharing, and the shift to electric vehicles. And there is the transformation of the banking industry and the emergence of new finance as cashless transactions spread and real stores decline. Both of these transformation are being achieved through information technology. The stable separation of the manufacturing industry, finance, and IT has come to an end and the fusion of these industries requires a government policy response. The conceptual ability to response to post-capitalism is required.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 個人研究報告1
3. 輪読1
4. 輪読2
5. 輪読3
6. 輪読4
7. 輪読5
8. 輪読6
9. 夏のジョイントゼミ準備1
10. 夏のジョイントゼミ準備2
11. 夏のジョイントゼミ準備3
12. 夏のジョイントゼミ準備4
13. 夏のジョイントゼミ準備5
14. キャリアガイダンス
15. 秋学期オリエンテーション
16. 個人研究報告2
17. 輪読1
18. 輪読2
19. 輪読3
20. 輪読4
21. 冬のジョイントゼミ準備1
22. 冬のジョイントゼミ準備2
23. 冬のジョイントゼミ準備3
24. 冬のジョイントゼミ準備4

25. 冬のジョイントゼミ準備5
26. キャリアガイダンス
27. 個人研究報告3
28. 個人研究報告4

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回，前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
輪読，個人研究，共同研究とが並行して進むので， それぞれの準備を怠らず，ジョイント・ゼミや卒論にまでつなげること。能動的な学習が成果を生む。

成績評価方法・基準(Evaluation)

輪読等での発表(30%)/個人研究レポートまたは卒業研究(30%)/ジョイントゼミ等に向けた共同研究報告(30%)/出席(10%)

テキスト(Textbooks)

1. マンフレッド・B・スティーガー、2010、『1 冊でわかる 新版グローバリゼーション』、岩波書店 (ISBN:978-4-00-026904-9)

参考文献(Readings)

1. スーザン・ストレンジ、2011、『国家の退場』、岩波書店 (ISBN:978-4-00-028515-5)
2. 櫻井・小野塚編、1998、『グローバル化の政治経済学』、晃洋書房 (ISBN:978-4771010246)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

立教大学経済学部櫻井ゼミで検索

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ポスト資本主義と政策対応 ／変貌を遂げつつある 21 世紀経済を多次元的に把握し，政策対応を考える。		
担当者名 (Instructor)	櫻井　公人(SAKURAI KIMIHITO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

情報感度を高め，収集した情報を取捨して組み立てなおす編集力，伝達のためのプレゼン能力を身につけること。事前に全体の筋道を想定して準備し，現場では適宜軌道修正しながら対応できること，すなわち実践的な構想力を身につけることが目標である。

To acquire the editing ability to increase information sensitivity and select and assemble gathered information and the ability to communicate the results through presentations. The objective of the course is for students to acquire practical conceptual ability that will allow them to suppose and prepare the overall reasoning in advance and then in practice to make appropriate corrections as needed.

授業の内容(Course Contents)

21 世紀経済について，グローバル金融危機，反 EU，自国第一主義，テロと難民など，グローバリゼーションとそれへの反動についての考察が欠かせない。また，自動運転とライドシェア・EV シフトによって変貌する自動車産業。キャッシュレス化とリアル店舗の削減に進む銀行業の変貌と新しい金融。いずれにもかかわって変貌を遂げる IT。製造業・金融・IT が安定してすみ分けていた局面は終わり，それらの融合に対する政策対応が必須となる。ポスト資本主義に対応する構想力が求められている。

For the 21st century economy, it is indispensable to consider globalization, including such issues as the global financial crisis, Anti-EU sentiment, self-nationalism, terrorism, and refugees, and the reaction to it. In addition, the automobile industry is being transformed by autonomous driving, ride sharing, and the shift to electric vehicles. And there is the transformation of the banking industry and the emergence of new finance as cashless transactions spread and real stores decline. Both of these transformation are being achieved through information technology. The stable separation of the manufacturing industry, finance, and IT has come to an end and the fusion of these industries requires a government policy response. The conceptual ability to response to post-capitalism is required.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 個人研究報告1
3. 輪読1
4. 輪読2
5. 輪読3
6. 輪読4
7. 輪読5
8. 輪読6
9. 夏のジョイントゼミ準備1
10. 夏のジョイントゼミ準備2
11. 夏のジョイントゼミ準備3
12. 夏のジョイントゼミ準備4
13. 夏のジョイントゼミ準備5
14. キャリアガイダンス
15. 秋学期オリエンテーション
16. 個人研究報告2
17. 輪読1
18. 輪読2
19. 輪読3
20. 輪読4
21. 冬のジョイントゼミ準備1
22. 冬のジョイントゼミ準備2
23. 冬のジョイントゼミ準備3
24. 冬のジョイントゼミ準備4

25. 冬のジョイントゼミ準備5
26. キャリアガイダンス
27. 個人研究報告3
28. 個人研究報告4

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回，前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
輪読，個人研究，共同研究とが並行して進むので， それぞれの準備を怠らず，ジョイント・ゼミや卒論にまでつなげること。能動的な学習が成果を生む。

成績評価方法・基準(Evaluation)

輪読等での発表(30%)/個人研究レポートまたは卒業研究(30%)/ジョイントゼミ等に向けた共同研究報告(30%)/出席(10%)

テキスト(Textbooks)

1. マンフレッド・B・スティーガー、2010、『1 冊でわかる 新版グローバリゼーション』、岩波書店 (ISBN:978-4-00-026904-9)

参考文献(Readings)

1. スーザン・ストレンジ、2011、『国家の退場』、岩波書店 (ISBN:978-4-00-028515-5)
2. 櫻井・小野塚編、1998、『グローバル化の政治経済学』、晃洋書房 (ISBN:978-4771010246)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

立教大学経済学部櫻井ゼミで検索

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務会計と AI		
担当者名 (Instructor)	小澤　康裕(OZAWA MICHIHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

会計や監査に関する知識を得ることはもちろん，近年の人工知能(Artificial Intelligence: AI)の進展が会計や監査に与える影響も考慮して，会計や AI が社会や企業において果たす役割等を議論することで，自ら考える力を養うことを目標とします。

The objective of this seminar is, of course, to acquire knowledge regarding accounting and auditing, but considering the impact on accounting and auditing of the recent developments in artificial intelligence (AI), discussing the roles to be played by accounting and AI in society and companies will foster the ability of students to think on their own.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミナールでは，会計や AI の応用という視点から企業や社会について考える場を提供します。具体的には， 2年生は簿記演習及び会計学の初級テキストによって基礎知識を習得し，3年生は，春学期に Python を使った演習を行い、REAL(Rikkyo Economics through Active Learning)を使った反転授業も実施します。秋学期には，卒業論文の作成に向けて，関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行います。4年生は，各自の研究テーマに関する発表・論文の作成を行い，最終的に卒業論文を執筆することになります。

この他に書評や英字新聞の記事等の発表，他大学との合同ゼミ・ディベート，懸賞論文への挑戦も行っています。卒業論文のテーマは，「減損会計」，「キャッシュ・フロー会計」，「時価会計」，「内部統制」，「監査人の責任」などでももちろん結構ですが，特に会計学や監査論に直接関係するものでなくとも構いませんし，Python による簡単なアプリ開発でも全く問題ありません。既存の枠組みにとらわれず，個々人の興味や関心に基づいたテーマ設定を重視します。なお，ゼミでは，自らの意見や疑問について積極的に発言することを求めます。

This seminar will provide a place for thinking about companies and society from the perspective of accounting and AI application. Specifically, second year students will practice bookkeeping and gain basic knowledge from beginner textbooks on accounting, and third year students will practice using Python during the spring semester and a flipped classroom using REAL (Rikkyo Economics through Active Learning) will be implemented. During the fall semester they will give presentations on themes of interest to them to prepare for writing their graduate thesis. Forth year students write presentations and papers on their research theme and in conclusion write their graduation thesis.
In addition to this they will give presentations on book reviews, English newspaper articles, etc., and participate in joint seminars and debates with other university and enter essay contests. The graduate thesis theme can be on impairment accounting, cash flow accounting, current value accounting, internal control, the responsibility of auditors, etc., but it does not have to be directly related to accounting or auditing theory, and there is no problem with something like developing a simple app using Python. It is important to set a theme based on your interests without being restricted by an existing framework. In this seminar students are required to proactively express their own opinions and questions.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(以下は主に2年生の場合)
2. 英文記事・簿記演習
3. 英文記事・プレゼンテーション
4. 英文記事・書評・プレゼンテーション
5. 英文記事・書評・簿記演習
6. 英文記事・書評・プレゼンテーション
7. 英文記事・書評・プレゼンテーション
8. 英文記事・書評・簿記演習
9. 英文記事・書評・プレゼンテーション
10. 企業等の見学
11. 英文記事・書評・プレゼンテーション
12. 英文記事・書評・プレゼンテーション
13. 英文記事・書評・プレゼンテーション
14. 英文記事・書評・春学期総括
15. 英文記事・簿記演習

16. 英文記事・書評・プレゼンテーション
17. 英文記事・書評・プレゼンテーション
18. 英文記事・書評・簿記演習
19. 英文記事・書評・プレゼンテーション
20. 英文記事・書評・簿記演習
21. 英文記事・書評・プレゼンテーション
22. 英文記事・書評・プレゼンテーション
23. 英文記事・書評・ディベート
24. 英文記事・書評・ディベート
25. 英文記事・書評・ディベート
26. 他大学との合同ゼミ
27. 英文記事・書評・プレゼンテーション
28. 英文記事・書評・振り返り

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回，前回までの内容を復習し，質問ができるように予習しておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(40%)/授業期間内の提出物(30%)/質疑応答への貢献(30%)

テキスト（Textbooks）

未定

参考文献（Readings）

1. 山浦久司、『会計監査論』、中央経済社
2. 鳥羽至英他、『財務諸表監査』、国元書房
3. 伊藤邦雄、『新・現代会計入門』、日本経済新聞出版社
4. 斎藤静樹、『企業会計入門』、有斐閣
5. 松尾　豊、『人工知能は人間を超えるか』、KADOKAWA

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	財務会計と AI		
担当者名 (Instructor)	小澤　康裕(OZAWA MICHIHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

会計や監査に関する知識を得ることはもちろん，近年の人工知能(Artificial Intelligence: AI)の進展が会計や監査に与える影響も考慮して，会計や AI が社会や企業において果たす役割等を議論することで，自ら考える力を養うことを目標とします。

The objective of this seminar is, of course, to acquire knowledge regarding accounting and auditing, but considering the impact on accounting and auditing of the recent developments in artificial intelligence (AI), discussing the roles to be played by accounting and AI in society and companies will foster the ability of students to think on their own.

授業の内容(Course Contents)

本ゼミナールでは，会計や AI の応用という視点から企業や社会について考える場を提供します。具体的には，２年生は簿記演習及び会計学の初級テキストによって基礎知識を習得し，３年生は，春学期に Python を使った演習を行い、REAL(Rikkyo Economics through Active Learning)を使った反転授業も実施します。秋学期には，卒業論文の作成に向けて，関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行います。４年生は，各自の研究テーマに関する発表・論文の作成を行い，最終的に卒業論文を執筆することになります。

この他に書評や英字新聞の記事等の発表，他大学との合同ゼミ・ディベート，懸賞論文への挑戦も行っています。卒業論文のテーマは，「減損会計」，「キャッシュ・フロー会計」，「時価会計」，「内部統制」，「監査人の責任」などでももちろん結構ですが，特に会計学や監査論に直接関係するものでなくとも構いませんし，Python による簡単なアプリ開発でも全く問題ありません。既存の枠組みにとらわれず，個々人の興味や関心に基づいたテーマ設定を重視します。なお，ゼミでは，自らの意見や疑問について積極的に発言することを求めます。

This seminar will provide a place for thinking about companies and society from the perspective of accounting and AI application. Specifically, second year students will practice bookkeeping and gain basic knowledge from beginner textbooks on accounting, and third year students will practice using Python during the spring semester and a flipped classroom using REAL (Rikkyo Economics through Active Learning) will be implemented. During the fall semester they will give presentations on themes of interest to them to prepare for writing their graduate thesis. Forth year students write presentations and papers on their research theme and in conclusion write their graduation thesis.
In addition to this they will give presentations on book reviews, English newspaper articles, etc., and participate in joint seminars and debates with other university and enter essay contests. The graduate thesis theme can be on impairment accounting, cash flow accounting, current value accounting, internal control, the responsibility of auditors, etc., but it does not have to be directly related to accounting or auditing theory, and there is no problem with something like developing a simple app using Python. It is important to set a theme based on your interests without being restricted by an existing framework. In this seminar students are required to proactively express their own opinions and questions.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(以下は主に2年生の場合)
2. 英文記事・簿記演習
3. 英文記事・プレゼンテーション
4. 英文記事・書評・プレゼンテーション
5. 英文記事・書評・簿記演習
6. 英文記事・書評・プレゼンテーション
7. 英文記事・書評・プレゼンテーション
8. 英文記事・書評・簿記演習
9. 英文記事・書評・プレゼンテーション
10. 企業等の見学
11. 英文記事・書評・プレゼンテーション
12. 英文記事・書評・プレゼンテーション
13. 英文記事・書評・プレゼンテーション
14. 英文記事・書評・春学期総括
15. 英文記事・簿記演習

16. 英文記事・書評・プレゼンテーション
17. 英文記事・書評・プレゼンテーション
18. 英文記事・書評・簿記演習
19. 英文記事・書評・プレゼンテーション
20. 英文記事・書評・簿記演習
21. 英文記事・書評・プレゼンテーション
22. 英文記事・書評・プレゼンテーション
23. 英文記事・書評・ディベート
24. 英文記事・書評・ディベート
25. 英文記事・書評・ディベート
26. 他大学との合同ゼミ
27. 英文記事・書評・プレゼンテーション
28. 英文記事・書評・振り返り

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎回，前回までの内容を復習し，質問ができるように予習しておくこと。

成績評価方法・基準（Evaluation）

プレゼンテーション(40%)/授業期間内の提出物(30%)/質疑応答への貢献(30%)

テキスト（Textbooks）

未定

参考文献（Readings）

1. 山浦久司、『会計監査論』、中央経済社
2. 鳥羽至英他、『財務諸表監査』、国元書房
3. 伊藤邦雄、『新・現代会計入門』、日本経済新聞出版社
4. 斎藤静樹、『企業会計入門』、有斐閣
5. 松尾　豊、『人工知能は人間を超えるか』、KADOKAWA

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経営と金融証券市場の研究		
担当者名 (Instructor)	渡辺 茂(WATANABE SHIGERU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

テーマについて調べる，考える，まとめる，人にわかるように発表する力をつける。

To acquire the ability to investigate a theme, consider the gathered information, compile the results, and give presentations that are easy for people to understand.

授業の内容(Course Contents)

企業経営，株式市場，金融機関，財政などの幅広い分野からテーマを選んで研究するゼミです。イメージがわくように例を挙げてみると，トヨタ自動車など個別企業研究，コンビニなど業界研究，M＆A，社会保障と財政赤字，サブプライムローン，金融危機，新興国の台頭と企業経営，デジタルイノベーションと企業， 地球温暖化問題などいずれもゼミの研究テーマになります。
チームでまとめる，説得力のあるプレゼンテーションを作成し議論するといった方法で授業を進めます。

In this seminar students can select a theme from a wide range of fields, such as business administration, stock market, financial institutions, and government finance. Some examples to give you a better idea of what could be to a research theme for the seminar are to research an individual company like Toyota, research an industry like convenience stores, or research M&As, social security and the government deficit, sub-prime loans, financial crisis, the rise of emerging countries and business administration, digital innovation and companies, and the global warming problem.
The class will use the method of teams compiling their results, creating convincing presentations, and then the students discussing the presentations.

授業計画(Course Schedule)

1. 企業研究 1
2. 企業研究 2
3. 企業研究 3
4. 企業研究 4
5. 企業研究 5
6. 企業研究 6
7. 輪読 1
8. 輪読 2
9. 輪読 3
10. 輪読 4
11. 企業研究ディスカッション 1
12. 企業研究ディスカッション 2
13. 企業研究ディスカッション 3
14. 春学期まとめ
15. ディベート 1
16. ディベート 2
17. ディベート 3
18. 輪読発表 1
19. 輪読発表 2
20. 輪読発表 3
21. 輪読発表 4
22. 論文検討会 1
23. 論文検討会 2
24. 論文検討会 3
25. 論文検討会 4
26. 研究発表 1
27. 研究発表 2
28. 年間まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

課題があるので準備してくること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業への参加，貢献(40%)/研究成果(60%)

テキスト（Textbooks）

未定　リーディングアサインメント 4 冊程度

参考文献（Readings）

必要に応じて伝える

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

なし

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	金融・証券に関する諸課題の研究		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

金融や証券の基礎的な知識の習得を通じて、現代の金融・証券の問題に関する理解度を高めていきます。

To increase the level of understanding regarding contemporary finance and securities problems by gaining fundamental knowledge of finance and securities.

授業の内容(Course Contents)

現在の私たちの生活や企業の経営のあり方は、金融市場や金融機関の影響を強く受けています。例えば、2007 年 8 月から始まったアメリカの「サブプライムローン」問題は、「証券化」の仕組みを通じて、世界各国の金融機関にリスクを分散させたことで、国際的な金融危機の状況を作り出してきました。この国際的な金融問題は、アメリカやヨーロッパ諸国の金融機関のあり方や金融規制の仕組みに変革をもたらす一方で、日本においても、為替レートや株価の変化をもたらしながら、私たちの生活や企業の経営活動にも大きな影響を与えてきています。

このゼミでは、このような現代の金融・証券に関する問題を様々な角度から分析しながら、それが日本経済や企業経営に与える影響について理解を深めていきます。また、このような現実の問題を観察しながら、それを分析するための様々な金融理論や、分析手法についても習得し、今後の金融機関はどのような経営戦略や投資行動が望ましいのかということを考えていきます。

ゼミの進め方については、基本的には、テキストを輪読しながら、金融・証券の基本的な知識を習得していきます。また、各自の研究テーマについても考えてもらい、それに関する調査・研究を進めていきます。さらに、全国の学生が集まって 12 月に開催される「証券ゼミナール大会」に参加し、そこで他大学の学生との交流を深めながら、論文作成、パワーポイントによるプレゼンテーション、ディスカッションの手法を実践的に学んでいきます。

How we live our lives and manage companies today is strongly affected by the financial markets and financial institutions. For example, the American sub-prime loan problem that started in August 2007 created the conditions for an international financial crisis by using the “securitization” framework to distribute risk to the financial institutions in countries around the world. This international finance problem brought reformations to how financial institutions in America and Europe operate and to the financial regulatory framework while in Japan it had a major impact on our lives and business administration activities due to changes in the foreign exchange rate and stock prices.

In this seminar students will analyze such problems of contemporary finance and securities from a variety of angles while deepening their understanding of how they impact the Japanese economy and business administration. In addition, while observing such actual problems, students will learn various financial theories and analytical methods for analyzing such problems and then think about what management strategies and investment behaviors are desirable for financial institutions in the future.

In regards to how the seminar will progress, basically students will read the textbooks to acquire basic knowledge regarding finance and securities. They will also think about their own research themes and conduct studies and research about them. In addition, they will participate in the “Securities Seminar Conference” held in December and attended by students from throughout the country where they can deepen their interaction with students from other universities and learn practical methods for writing papers, giving presentations using PowerPoint, and holding discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. ゼミの進め方についてのガイダンス
2. 輪読の報告と討論 (1)
3. 輪読の報告と討論 (2)
4. 輪読の報告と討論 (3)
5. 輪読の報告と討論 (4)
6. 輪読の報告と討論 (5)
7. 輪読の報告と討論 (6)
8. 輪読の報告と討論 (7)
9. 輪読の報告と討論 (8)
10. グループ論文の作成と討論(1)
11. グループ論文の作成と討論(2)
12. グループ論文の作成と討論(3)

13. グループ論文の作成と討論(4)
14. グループ論文の作成と討論(5)
15. グループ論文の作成と討論(6)
16. グループ論文の作成と討論(7)
17. グループ論文の作成と討論(8)
18. パワーポイントによるプレゼンテーション(1)
19. パワーポイントによるプレゼンテーション(2)
20. パワーポイントによるプレゼンテーション(3)
21. パワーポイントによるプレゼンテーション(4)
22. 各グループ相互のディベート(1)
23. 各グループ相互のディベート(2)
24. 各グループ相互のディベート(3)
25. 各グループ相互のディベート(4)
26. グループ論文の最終報告および質疑応答(1)
27. グループ論文の最終報告および質疑応答(2)
28. ゼミ活動の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ゼミで輪読するテキストの事前学習と、グループによる論文作成の準備を行う必要があります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告および討論内容(25%)/論文作成の貢献度(25%)/授業参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

テキストについては、最初のゼミのガイダンスの際に指示します。

参考文献(Readings)

授業の際に、適宜、指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	金融・証券に関する諸課題の研究		
担当者名 (Instructor)	三谷 進(MITANI SUSUMU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

金融や証券の基礎的な知識の習得を通じて、現代の金融・証券の問題に関する理解度を高めていきます。

To increase the level of understanding regarding contemporary finance and securities problems by gaining fundamental knowledge of finance and securities.

授業の内容(Course Contents)

現在の私たちの生活や企業の経営のあり方は、金融市場や金融機関の影響を強く受けています。例えば、2007 年 8 月から始まったアメリカの「サブプライムローン」問題は、「証券化」の仕組みを通じて、世界各国の金融機関にリスクを分散させたことで、国際的な金融危機の状況を作り出してきました。この国際的な金融問題は、アメリカやヨーロッパ諸国の金融機関のあり方や金融規制の仕組みに変革をもたらす一方で、日本においても、為替レートや株価の変化をもたらしながら、私たちの生活や企業の経営活動にも大きな影響を与えてきています。

このゼミでは、このような現代の金融・証券に関する問題を様々な角度から分析しながら、それが日本経済や企業経営に与える影響について理解を深めていきます。また、このような現実の問題を観察しながら、それを分析するための様々な金融理論や、分析手法についても習得し、今後の金融機関はどのような経営戦略や投資行動が望ましいのかということを考えていきます。

ゼミの進め方については、基本的には、テキストを輪読しながら、金融・証券の基本的な知識を習得していきます。また、各自の研究テーマについても考えてもらい、それに関する調査・研究を進めていきます。さらに、全国の学生が集まって 12 月に開催される「証券ゼミナール大会」に参加し、そこで他大学の学生との交流を深めながら、論文作成、パワーポイントによるプレゼンテーション、ディスカッションの手法を実践的に学んでいきます。

How we live our lives and manage companies today is strongly affected by the financial markets and financial institutions. For example, the American sub-prime loan problem that started in August 2007 created the conditions for an international financial crisis by using the “securitization” framework to distribute risk to the financial institutions in countries around the world. This international finance problem brought reformations to how financial institutions in America and Europe operate and to the financial regulatory framework while in Japan it had a major impact on our lives and business administration activities due to changes in the foreign exchange rate and stock prices.

In this seminar students will analyze such problems of contemporary finance and securities from a variety of angles while deepening their understanding of how they impact the Japanese economy and business administration. In addition, while observing such actual problems, students will learn various financial theories and analytical methods for analyzing such problems and then think about what management strategies and investment behaviors are desirable for financial institutions in the future.

In regards to how the seminar will progress, basically students will read the textbooks to acquire basic knowledge regarding finance and securities. They will also think about their own research themes and conduct studies and research about them. In addition, they will participate in the “Securities Seminar Conference” held in December and attended by students from throughout the country where they can deepen their interaction with students from other universities and learn practical methods for writing papers, giving presentations using PowerPoint, and holding discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. ゼミの進め方についてのガイダンス
2. 輪読の報告と討論 (1)
3. 輪読の報告と討論 (2)
4. 輪読の報告と討論 (3)
5. 輪読の報告と討論 (4)
6. 輪読の報告と討論 (5)
7. 輪読の報告と討論 (6)
8. 輪読の報告と討論 (7)
9. 輪読の報告と討論 (8)
10. グループ論文の作成と討論(1)
11. グループ論文の作成と討論(2)
12. グループ論文の作成と討論(3)

13. グループ論文の作成と討論(4)
14. グループ論文の作成と討論(5)
15. グループ論文の作成と討論(6)
16. グループ論文の作成と討論(7)
17. グループ論文の作成と討論(8)
18. パワーポイントによるプレゼンテーション(1)
19. パワーポイントによるプレゼンテーション(2)
20. パワーポイントによるプレゼンテーション(3)
21. パワーポイントによるプレゼンテーション(4)
22. 各グループ相互のディベート(1)
23. 各グループ相互のディベート(2)
24. 各グループ相互のディベート(3)
25. 各グループ相互のディベート(4)
26. グループ論文の最終報告および質疑応答(1)
27. グループ論文の最終報告および質疑応答(2)
28. ゼミ活動の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ゼミで輪読するテキストの事前学習と、グループによる論文作成の準備を行う必要があります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告および討論内容(25%)/論文作成の貢献度(25%)/授業参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

テキストについては、最初のゼミのガイダンスの際に指示します。

参考文献(Readings)

授業の際に、適宜、指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール A (Seminar A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヨーロッパ経済研究－歴史・文化・現状分析		
担当者名 (Instructor)	菊池 雄太(KIKUCHI YUTA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

ヨーロッパの経済と社会の構造を，経済史的観点を中心に考察するが，とくに「文化」という要素を踏まえ，それが現状とどのように関連しているのかを解明する。
チームで研究プロジェクトを遂行する，ゼミ活動を企画する等の運営・実施能力を身につける。

To consider the structure of the European economy and society from mainly the perspective of economics history, and in particular the “cultural” aspect, to review the relationship with the current situation.
To conduct research projects as a team and acquire the ability to plan, operate, and implement the seminar activities.

授業の内容(Course Contents)

ヨーロッパ経済について分析する際に，「歴史・文化・現状」のうち自分がどれに重心を置くのかを決めます。その上でグループをつくり，共同研究・調査および演習を行う。それと並行し，自分自身の個別テーマを調査研究します。
毎回のゼミは，基本的にグループが輪番制で進行・運営します。具体的に何をするのかを立案・企画するのもゼミ生が行うところが特徴です(教員はアドバイスをすることで連携・サポートします)。
具体的には次のことをグループが企画・準備し，実施します。
1. グループの関心テーマに関連させた演習
2. より専門的な共同研究に関する報告および演習

＊「ゼミ生主体」を徹底します。ゼミを自分たちのアイデアでつくり上げることができる一方，個々の積極的な参加・関与が必要になります。

When analyzing the European economy, students will decide whether to focus on history, culture, or the current situation. Based on this, groups will be created and joint research, studies, and exercises will be conducted. In parallel with this students will study and research their own themes.
During each seminar meeting, basically a rotation system will be used for the progression and operation of the groups. Specifically, seminar students will propose and plan what to do (the instructor will give advice to provide cooperation and support).
The groups will plan, prepare, and implement the following things in particular.
1. Exercises related to the group’s theme of interest.
2. Reporting and exercises related to more specialized joint research.
*This is thoroughly led by seminar students. Since the seminar is a place for creating your own ideas, each student must proactively participate and contribute.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーションとゼミの紹介
   ゼミ生間交流・情報交換
2. 報告形式の自己紹介および自分の学問的関心の報告①
   グループ分けとテーマ設定
3. 報告形式の自己紹介および自分の学問的関心の報告②
   グループ演習準備
4. グループによる演習
   グループ演習準備
5. グループによる演習
   グループ演習準備
6. グループによる演習
   グループ演習準備
7. グループによる演習
   グループ演習準備
8. グループによる演習

グループ演習準備
9. グループによる演習
論文作成に関するシミュレーション演習
10. 論文作成に関するシミュレーション演習
共同研究の手法
11. フィールドワークまたは合同ゼミ
12. グループ研究課題決定
グループ研究課題の調査
13. グループ研究課題の調査
14. グループ研究課題の調査
春学期のまとめ
15. 春学期（～合宿）のグループ研究フィードバック
16. グループによる演習
グループ演習準備
17. グループによる演習
グループ演習準備
18. グループによる演習
グループ演習準備
19. グループ研究をまとめる
20. グループ研究に関する中間報告
21. グループ研究に関する中間報告
22. 中間報告の反省と今後の計画
23. 成果発表に向けた作業と議論
24. 成果発表に向けた作業と議論
25. フィールドワークまたは合同ゼミ
26. 成果発表
27. 成果発表
28. 成果発表
総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

グループごとのゼミ演習の企画，教員との相談
課題（調査や発表準備）を行う

成績評価方法・基準（Evaluation）

ゼミ活動への参加（報告・議論・グループワーク）（70%）/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト（Textbooks）

授業時に指示または配布

参考文献（Readings）

授業時に指示または各自リサーチ

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業計画は共同作業・共同研究の進展度合いにより変動することもあり得ます

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	その他／ゼミナール B (Seminar B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヨーロッパ経済研究－歴史・文化・現状分析		
担当者名 (Instructor)	菊池 雄太(KIKUCHI YUTA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX4020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	継続履修者は自動登録		

授業の目標(Course Objectives)

ヨーロッパの経済と社会の構造を，経済史的観点を中心に考察するが，とくに「文化」という要素を踏まえ，それが現状とどのように関連しているのかを解明する。
チームで研究プロジェクトを遂行する，ゼミ活動を企画する等の運営・実施能力を身につける。

To consider the structure of the European economy and society from mainly the perspective of economics history, and in particular the “cultural” aspect, to review the relationship with the current situation.
To conduct research projects as a team and acquire the ability to plan, operate, and implement the seminar activities.

授業の内容(Course Contents)

ヨーロッパ経済について分析する際に，「歴史・文化・現状」のうち自分がどれに重心を置くのかを決めます。その上でグループをつくり，共同研究・調査および演習を行う。それと並行し，自分自身の個別テーマを調査研究します。
毎回のゼミは，基本的にグループが輪番制で進行・運営します。具体的に何をするのかを立案・企画するのもゼミ生が行うところが特徴です(教員はアドバイスをすることで連携・サポートします)。
具体的には次のことをグループが企画・準備し，実施します。
1. グループの関心テーマに関連させた演習
2. より専門的な共同研究に関する報告および演習

＊「ゼミ生主体」を徹底します。ゼミを自分たちのアイデアでつくり上げることができる一方，個々の積極的な参加・関与が必要になります。

When analyzing the European economy, students will decide whether to focus on history, culture, or the current situation. Based on this, groups will be created and joint research, studies, and exercises will be conducted. In parallel with this students will study and research their own themes.
During each seminar meeting, basically a rotation system will be used for the progression and operation of the groups. Specifically, seminar students will propose and plan what to do (the instructor will give advice to provide cooperation and support).
The groups will plan, prepare, and implement the following things in particular.
1. Exercises related to the group’s theme of interest.
2. Reporting and exercises related to more specialized joint research.
*This is thoroughly led by seminar students. Since the seminar is a place for creating your own ideas, each student must proactively participate and contribute.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーションとゼミの紹介
   ゼミ生間交流・情報交換
2. 報告形式の自己紹介および自分の学問的関心の報告①
   グループ分けとテーマ設定
3. 報告形式の自己紹介および自分の学問的関心の報告②
   グループ演習準備
4. グループによる演習
   グループ演習準備
5. グループによる演習
   グループ演習準備
6. グループによる演習
   グループ演習準備
7. グループによる演習
   グループ演習準備
8. グループによる演習

グループ演習準備
9. グループによる演習
論文作成に関するシミュレーション演習
10. 論文作成に関するシミュレーション演習
共同研究の手法
11. フィールドワークまたは合同ゼミ
12. グループ研究課題決定
グループ研究課題の調査
13. グループ研究課題の調査
14. グループ研究課題の調査
春学期のまとめ
15. 春学期（～合宿）のグループ研究フィードバック
16. グループによる演習
グループ演習準備
17. グループによる演習
グループ演習準備
18. グループによる演習
グループ演習準備
19. グループ研究をまとめる
20. グループ研究に関する中間報告
21. グループ研究に関する中間報告
22. 中間報告の反省と今後の計画
23. 成果発表に向けた作業と議論
24. 成果発表に向けた作業と議論
25. フィールドワークまたは合同ゼミ
26. 成果発表
27. 成果発表
28. 成果発表
総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

グループごとのゼミ演習の企画，教員との相談
課題（調査や発表準備）を行う

成績評価方法・基準（Evaluation）

ゼミ活動への参加（報告・議論・グループワーク）（70%）/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト（Textbooks）

授業時に指示または配布

参考文献（Readings）

授業時に指示または各自リサーチ

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業計画は共同作業・共同研究の進展度合いにより変動することもあり得ます

注意事項（Notice）

企業見学等を実施する場合、先方からの求めによって氏名などの個人情報を提供することがあります。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX801／日本史 (Japanese History)		
担当者名 (Instructor)	和田　華子(WADA HANAKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

幕末期以降の日本の近現代史を国際社会との関係を軸として理解することを通じて、歴史的事象を多角的かつ国際的な視点から考察するスキルと、現代日本が抱える様々な課題の解決手段を歴史的事象から探る方法を習得する。

To acquire the skills for considering historical phenomena from a multifaceted and international perspective based on an understanding of the relationship between international society and Japanese modern history since the Bakumatsu period and to learn the methods for looking to historical phenomena for solutions to the various problems facing contemporary Japan.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、幕末期から 1940 年代までの日本の歴史を国際社会の動向の中に位置づけた上で概観するとともに、当該期に日本と国際社会が相互にどのような影響を与えたのかを紹介する。

This lecture gives an overview of Japanese history from the Bakumatsu period to the 1940's amidst the trends in international society and introduces how Japan and international society mutually influenced each other during this period.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション－日本のあゆみと国際社会－
2. 交通革命と日本の開国
3. 条約改正と大日本帝国憲法の発布
4. 日清戦争と東アジア世界の変容
5. 世界史における日露戦争
6. 日露戦争後の国際社会と日本
7. 日本の近代化と女性たち－日本初の女子留学生－
8. 第一次世界大戦と新たな国際秩序の誕生
9. 国際連盟と日本
10. 世界恐慌と通商摩擦
11. 日本の国際連盟脱退と国際社会の変容
12. 第二次世界大戦の開戦と在外日本人コミュニティ
13. 終戦と占領
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習については、各回のテーマに即して下記の参考文献に事前に目を通しておく。この他の授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/中間レポート(20%)/リアクションペーパー(20%)
原則として 3 分の 2 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト(Textbooks)

適宜レジュメ及び参考資料(プリント)を配布する。

参考文献(Readings)

1. 小風秀雅 編、2016、『大学の日本史④近代』、山川出版社
2. 加藤陽子、2016、『戦争まで－歴史を決めた交渉と日本の失敗－』、朝日出版社

この他の参考文献については必要に応じて別途紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX802／世界史 (World History)		
担当者名 (Instructor)	齋藤敬之(SAITO HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本授業では、①高校までで得た世界史の知識を再確認し理解を深めること、②通史という形にとらわれず、各地域や各時代を比較しながら歴史を把握することの可能性と意義を理解することを目標とする。

The objective of this course is ① review and deepen understanding of the world history learned in high school, and ② understand the possibilities and significance of grasping history by comparing the different regions and time periods without being limited by general history.

授業の内容(Course Contents)

世界史を概観しつつも、人々の政治的、経済的、文化的活動の場である「都市」に注目する。「都市」に対して現代の我々がイメージするものはその多くがヨーロッパ世界のそれを前提としている。それゆえ本授業でも主にヨーロッパ史を扱うことになるが、比較という目標上中国や日本などの都市の状況や性質についてもできる限り言及していきたい。

An overview of world history will be given while focusing on “cities” as a place of the people’s political, economic, and cultural activities. Today what we often imagine when we think of “cities” is the European world. This course will also mainly deal with European history, but as far as possible the circumstances and nature of cities in China, Japan, and elsewhere will also be covered for the purpose of comparison.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション：本授業の方向性と概要の説明
2. 古代メソポタミア
3. 古代地中海世界：アテネとローマ
4. 中世世界の形成と発展1：都市の成立と増加
5. 中世世界の形成と発展2：12 世紀ルネサンスと大学
6. 中世世界の形成と発展3：都市間の結びつき
7. 近世のはじまり：宗教改革と大航海時代
8. 近世社会の構造と特質1：国家と都市
9. 近世社会の構造と特質2：犯罪と治安維持
10. 工業化の時代と都市の発展
11. 国民国家の成立
12. 第一次世界大戦と戦間期
13. 第二次世界大戦と戦後
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

限られた時間の中で世界史というテーマを扱うことになるので、高校での世界史の教科書などを用いて準備をしておくことが望ましい。
授業内で参考文献等について指示があった場合には適宜目を通すこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業でのリアクションペーパー(20%)/授業中の質疑応答への積極的な参加(10%)
3 分の 2 以上の出席を単位取得条件とする。

テキスト(Textbooks)

毎回プリントを配布する。

参考文献(Readings)

テーマが多岐に渡るため、授業の進行に応じて紹介する。
『世界史リブレット』シリーズ(山川出版社)のうち関心のあるテーマのものを手に取ることをおすすめする。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX803／政治学 (Politics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代政治を読む		
担当者名 (Instructor)	新谷　卓(ARAYA TAKASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

政治学の基礎となる用語や考え方を学んだ上で、現在、世界で起きている政治の問題や出来事を歴史的な視点から考察します。それらの問題を論理的に整理することによって、状況を認識する力、判断する力を養うことを目標とします。

To learn the terminology and concepts that are fundamental to politics and then to consider the political problems and incidents occurring in the world from a historical perspective. The objective is to recognize and make determinations about the current situation by logically organizing these problems.

授業の内容(Course Contents)

三つの段階から構成されています。
1. 「民主主義」「権力」「国家」といった政治学の基礎となる概念について学びます。
2. 「ファシズム」「冷戦」といった歴史上出現した現象、「歴史の終わり」「文明の衝突」「ナショナリズム」「戦争と国民国家」といった比較的最近議論されたテーマを見ていきます。
3. 上記の知識を踏まえて、現在、世界で問題となっている「テロリズム」「ポピュリズム」「難民・移民」「ブレグジット」「右翼政党の台頭」、そしてそれらと密接に関係する「グローバリゼーション」や「新しいテクノロジー」と政治の関係について考えていきます。

今日の不安定で不確実な時代に生きる私たちが歴史的にどのような位置に立っているのか、どのような方向に向かっているのか、という問いを大きな枠組みの中で考えていきます。

This course consists of three stages.
1. Learn the concepts of democracy, authority, and state that form the foundation of politics.
2. Look at historical phenomena, such as fascism and cold war, and themes that are being discussed comparatively recently, such the end of history, collision of cultures, nationalism, and war and nation states.
3. Based on the above knowledge, students will consider current problems occurring in the world, such as terrorism, populism, refugees and immigrants, Brexit, and the rise of right wing parties, and the political relationship to globalization and new technologies that are closely related to them.
Students will consider these things within the broad framework of where we who live in these unstable and uncertain times are positioned historically and in which direction we are heading.

授業計画(Course Schedule)

1. ポスト真理と政治： フェイクニュース、オルタナティヴファクト、エコーチェンバー
2. 新しいテクノロジーと民主主義： 人工知能(AI)・SNS・ビックデータと政治の関係
3. 民主主義とは何か： 古代デモクラシー、近代デモクラシー
4. 権力とは何か： 権力の源泉、エリートと権力、フーコーの黙示的権力
5. 政治思想の系譜： 保守主義、自由主義、社会主義
6. 国家とは何か： 中世多元的世界、主権国家、国民国家、ナショナリズム、帝国
7. ファシズムの経験と現代： 20 世紀前半の「イデオロギーの世界内戦」、ナチズム
8. 東西冷戦の時代： 20 世紀後半の「イデオロギーの世界内戦」
9. ポスト冷戦の時代： 歴史の終わり、文明の衝突、民族対立、ユニラテラリズム
10. グローバリゼーションと資本主義： グローバリゼーションの歴史、カール・ポラニーの理論
11. グローバリゼーションとその反動： グローバル・リスク、再国民化、グローバル・ガバナンス
12. グローバリゼーションと米国： トランプ大統領誕生、ポピュリズム、理念の国
13. グローバリゼーションと欧州： 難民・移民、テロリズム、ブレグジット、右翼政党の台頭
14. 民主主義の未来： 中国、ロシア、中東、日本など世界の政治状況を踏まえて政治の未来を考える。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業に関係する図書、雑誌・新聞などの記事を読むこと。テーマに即したドキュメンタリー番組等があれば視聴しておくこと。前もって問題に対するおおよその流れを知り、関心を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/レポート提出(2回程度)(20%)/リアクションペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しません。毎回資料を配布します。

参考文献(Readings)

1. 星野智、2016 年、『現代政治学の世界』、晃洋書房 (ISBN:978-4-7710-2726-8)
2. 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望著、2017 年、『ここから始める政治理論』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15042-3)
3. 苅部直・宇野重規・中本義彦編、2011 年、『政治学をつかむ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17715-4)
4. 宗像優編、2016 年、『環境政治の展開』、志學社 (ISBN:978-4-904180-59-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・ 授業は、パワーポイントを使用した講義形式です。
・ 毎回授業時に資料を配布します。
・ 授業で使う資料は、Blackboard でも前もって掲載します。
・ 中間レポートの課題などは、Blackboard 上で告知します。
・ レポート、リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行います。期末試験については、試験終了後に Blackboard を通じて行います。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX804／キャリアコンサルティング論 (Carrier Consulting)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	学校や職場において「人を育てる、導く」とは、一体何をすることなのか？ どのように寄り添えば、対象とする人たちが自発的に向かいたい方向に進み、社会で活躍することができるかを理論と実践ワークを通じて学ぶ科目です。		
担当者名 (Instructor)	翁　理香(OKINA AYAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目では学校や職場におけるキャリアコンサルティング＝キャリア指導(職業指導／キャリア・ガイダンス)を行うために必要な基礎知識やスキルの習得を目標としています。
到達目標は以下の通り。
・職業(進路)指導・キャリア教育の位置付けを理解する
・職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理し、提供できるようになる
・キャリアコンサルティング(キャリアカウンセリング)の諸理論について説明できる
・各種ツール(アセスメント)を適切に使用することができる
・グループワークやロールプレイングを通じて、事例に基づいた討議ができる

The objective of this course is for students to acquire the basic knowledge and skills necessary for conducting career counseling (career guidance) in schools and the workplace.
The objectives to be achieved are as follows.
・Understand the positioning of occupational (career) guidance and career education.
・Be able to organize and provide knowledge regarding occupations, such as occupational information and occupation classifications.
・Be able to explain the theories regarding career consulting (career counseling).
・Be able to properly use the tools (assessments).
・Be able to hold discussions based on cases through group work and role playing.

授業の内容(Course Contents)

・雇用の動向と諸問題についてデータを用いて概観し、職業(進路)指導・キャリア教育の位置づけについて理解を深めます。
・キャリアコンサルティングの代表的理論と個人特性の把握に必要なツール(アセスメント)の活用方法について実践ワークを通じて習得します。
・職業情報、職業分類等、職業に関わる知識を整理し、キャリアカウンセリングに関する基本理論と方法について実践ワークを通じて習得します。
・ロールプレイングを行うことで相談者心理について考え、傾聴力の重要性についても学びます。

・To use data about employment trends and problems to get an overview of the situation and to deepen understanding of the positioning of occupational (career) guidance and career education.
・To use practical work to learn the methods for using the tools (assessments) necessary for grasping career consulting representative theory and individual characteristics.
・To organize the knowledge regarding occupations, such as occupational information and occupation classifications, and to use practical work to learn the basic theory and methods of career counseling.
・To use role playing to think about the psychology of the person asking for advice and also learn the importance of listening.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業のガイダンス、ワークショップ-理想のキャリアコンサルティングとは？
2. 雇用の動向と諸問題をデータから読み取り、課題を考える①進学率・就業率・離職率・若年者を取り巻く環境
3. 雇用の動向と諸問題をデータから読み取り、課題を考える②若年求職者向け雇用政策国際比較
4. 職業(進路)指導・キャリア教育の意義について理解し、課題について考える
5. 学校(特に高等学校・大学)におけるキャリアコンサルティングとその課題
6. 職場におけるキャリアコンサルティングとその課題
7. キャリアコンサルティングの代表的理論理解とケーススタディ
8. 個人特性の把握に必要なツール(アセスメント)活用について(実践ワーク)
9. 職業の定義、職業分類、産業分類について理解する
10. 職業情報の内容とその理解、職業を題材にしたグループワーク①(グループ分け・調査)
11. 職業を題材にしたグループワーク②(発表資料作成・発表【ギャラリーウォーク】)

12. キャリアコンサルティング理論を用いた実践ワーク（傾聴力）
13. 指導・支援者（社会人）に必要な職業観について考える
14. 授業のまとめ、改めて理想のキャリアコンサルティングとは何かを考える

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業回によってはワークシート／発表資料作成などを課すことがあるため、以下は必須事項とします。
・個人／チームとして必要な事前準備（情報収集・整理、議論）と事後学習（不足情報収集・整理、議論、レポート作成など）を行うこと
・チーム単位で課題に取り組む際はメンバー全員が役割を担うこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

筆記試験(Written Exam)(50%)/出席及びリアクションペーパー(40%)/課題提出・レポート(10%)
原則全回出席を義務付けます。遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なします。3 回欠席で D 評価。

テキスト（Textbooks）

授業内で必要に応じて指示します。

参考文献（Readings）

授業内で必要に応じて指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

※本科目は教育職員養成課程科目ですが、教職を志望しない一般学生の履修する科目としても位置付けています。
・パワーポイントまたは板書を活用して講義を展開します。また視聴覚教材も活用します。ワークシート作成（個人・チーム単位）、ディスカッション、プレゼンテーションなどアクティブラーニングも実施します。尚、学生の関心に応じて授業計画の順序を入れ替えることがあります。
・経済学部キャリア教育サイト「STORY」（https://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/）の情報発信に目を配るようにして下さい。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	BX805／キャリアデザイン論 (Career Design)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会で活躍し続けるためには、すべてが自由に「デザイン」できることばかりではありません。計画された偶発的出来事に前向きに挑む、セレンディピティを引き寄せるために自ら動く、与えられた環境で最大限の力を発揮して、自らのキャリアを切り拓く方法について、一緒に考え、語り、学ぶ科目です。		
担当者名 (Instructor)	翁　理香(OKINA AYAKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ECX2010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目では、自らが思い描く「キャリア」を切り拓くために①主体的かつ持続的な就業力の育成②人間形成③社会的自立について考え、議論を繰り返しながら自分なりの解を探求することを大きな目標としています。
また就職をはじめとした目先のことに囚われすぎずに「将来の夢や目標に向かって一歩踏み出す大切さ」や「豊かな人生観を持つ面白さ」について学ぶことも目標としています。

The main objectives of this course are to repeatedly think about and discuss ① development for proactive and sustainable employability, ② character building, and ③ social independence to deepen one's own understanding of how to pioneer the career you want.
A further objective is to learn about "the importance of taking the first step toward a future dream or goal" and the "enjoyment of having a fulfilling view of life" without being constrained by your currents situation, such as employment concerns.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、以下について学生主体で理論・ケーススタディを用いて学びと気づきを深めていきます。
・キャリアデザインとは何か、社会で必要とされ続ける人材とはどういう人か(目指す姿)、自己理解形成のために必要な方法理解、課題解決思考(思考方法)など
・個人ワーク・グループワーク(ディスカッション・発表)やワークショップを行う等、アクティブラーニングを活用した授業を展開します。そのため、各人の積極的な発言やチームメンバー同士の関り合いが必要になります。

During this course students will take the lead in using theory and case studies to deepen their learning and realize new things.
・What is career design? What kind of people will society continue to need (what you should aim to be)? Understanding the methods required for self-understanding formation. And having a problem-solving mindset (thinking methods), etc.
・The class will proceed using active learning, such as individual work, group work (discussions, presentations), and workshops. For this reason, each student is required to proactively contribute to the discussion and engage with the other team members.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション、キャリアについて考える-キャリアデザインとは？
2. 私たちを取り巻く社会(Work/Life)の実態理解とすべきことについて考える
3. 国内外の事例から考える「仕事」×「キャリア(人生)」
4. 人生 100 年時代にイキイキと社会で活躍し続けるために必要な力とは？
5. ダイバーシティから考える社会(組織)と自分の在り方
6. 組織(企業)で働くこと、多様な働き方について考える(副業・兼業・起業・フリーランス)
7. キャリアに関する諸理論理解①
8. キャリアに関する諸理論理解②
9. 自己成長と経験(成功・失敗)との関係性(「成長」を自らの言葉で定義してみる)
10. 自分の行動特性・思考特性を知る
11. マネジメント、リーダーシップ、フォローワーシップ
12. 自分にとって「働く意味(意義)」について考える(「働く理由」を再考する)
13. キャリアを切り拓くために必要な要素・方法について(チーム単位で議論し、発表する)
14. 振り返り、目標設定と宣言(自らの提供価値について発表する)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業回によってはワークシート／発表資料作成などを課すことがあるため、以下は必須事項とします。
・個人／チームとして必要な事前準備(情報収集・整理、議論)と事後学習(不足情報収集・整理、議論、レポート作成など)を行うこと
・チーム単位で課題に取り組む際はメンバー全員が役割を担うこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/出席及びリアクションペーパー(40%)/課題提出・レポート(10%)
原則全回出席を義務付けます。遅刻 2 回で欠席 1 回分と見なします。3 回欠席で D 評価。

テキスト(Textbooks)

授業内で必要に応じて指示します。基本的には、必要に応じて講義内で適宜プリントを配布します。

参考文献(Readings)

授業内で必要に応じて指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・パワーポイントまたは板書を活用して講義を展開します。また視聴覚教材も活用します。ワークシート作成(個人・チーム単位)、ディスカッション、プレゼンテーションなどアクティブラーニングも実施します。尚、学生の関心に応じて授業計画の順序を入れ替えることがあります。
・経済学部キャリア教育サイト「STORY」(https://www.rikkyo.ac.jp/eco/career/story/)の情報発信に目を配るようにして下さい。

注意事項(Notice)

RIKKYO UNIVERSITY
MDCCCLXXIV
PRO DEO ET PATRIA